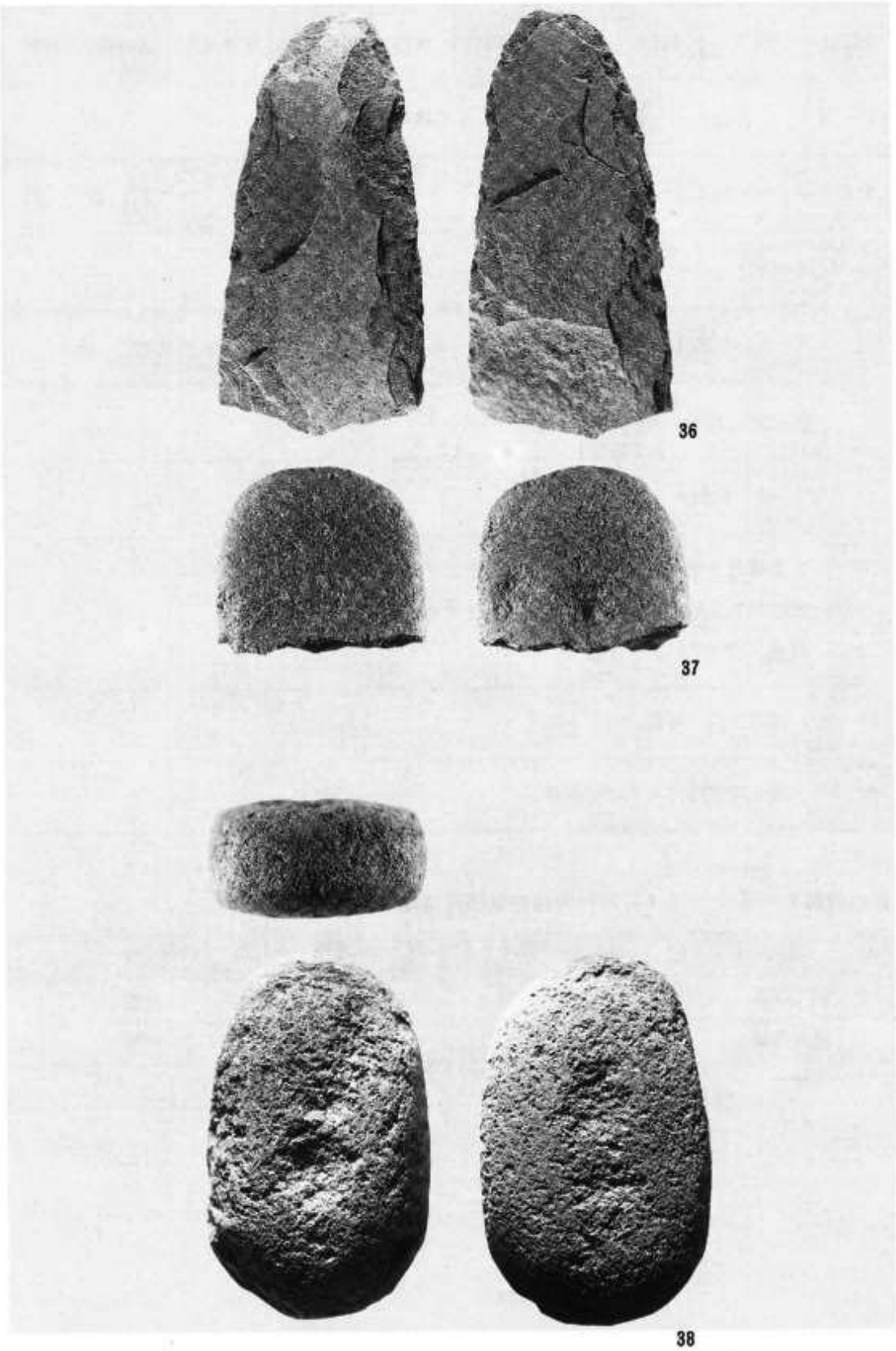
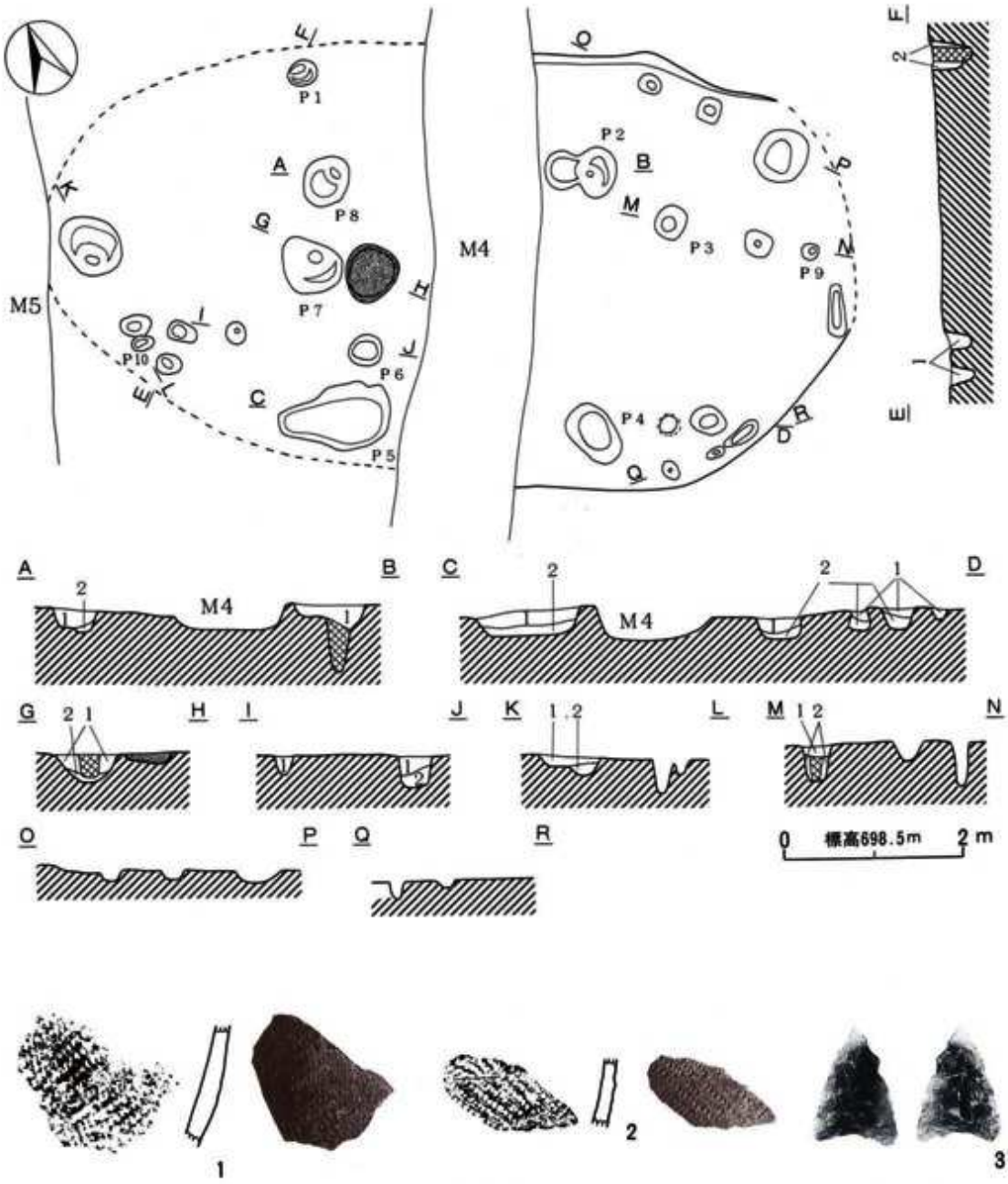


第248図　SYY 4　H74号住居址（6）

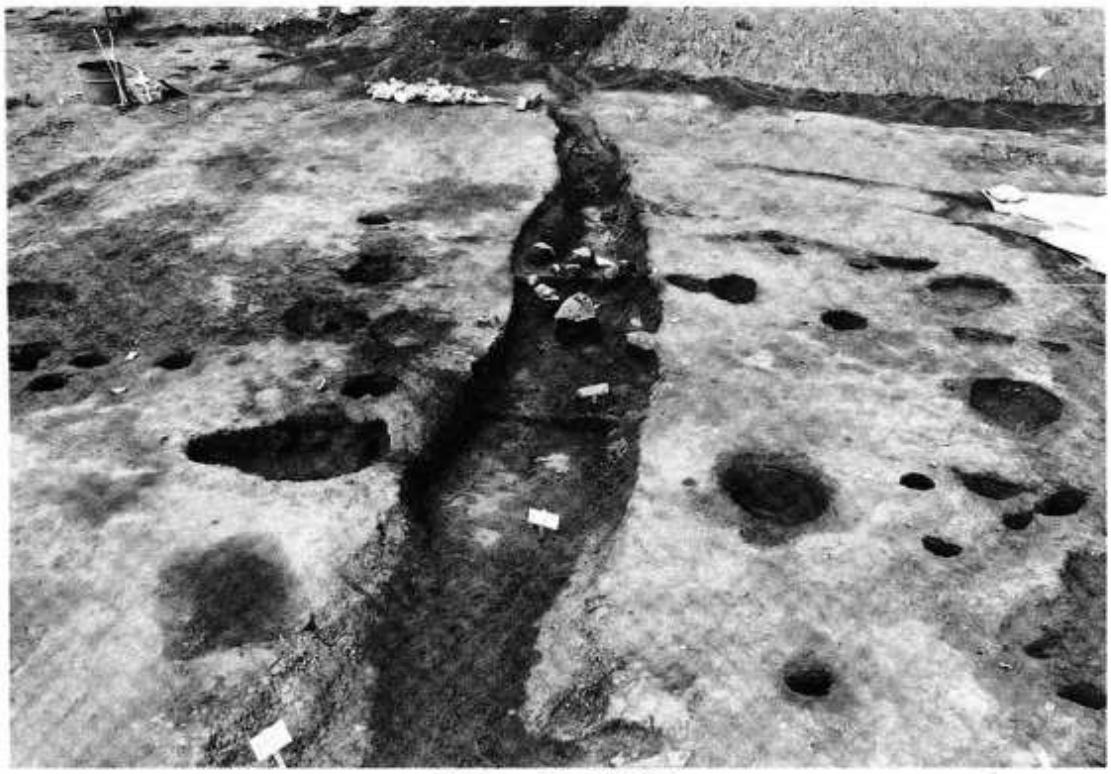
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H75	調査年度	平成４年	通番号	120
位　置	え21	重複関係	Ｍ４・５に切られる。						
平面形状	楕円形	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	８～０cm			
	炉・カマド長径	64cm	炉・カマド短径	56cm	炉・カマド深度	12cm			
	柱穴数	23基	主柱穴	不明					
	面　積	9.8m²							
覆土	1.黒褐色土層（7.5YR ２／２）。焼土粒子、炭化物を含む。 2.暗褐色土層（7.5YR ３／４）。パミスを少含。 柱痕.（7.5YR ２／３）。								
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								

寄山遺跡４地区（SYY ４）H75号住居址出土遺物一覧表

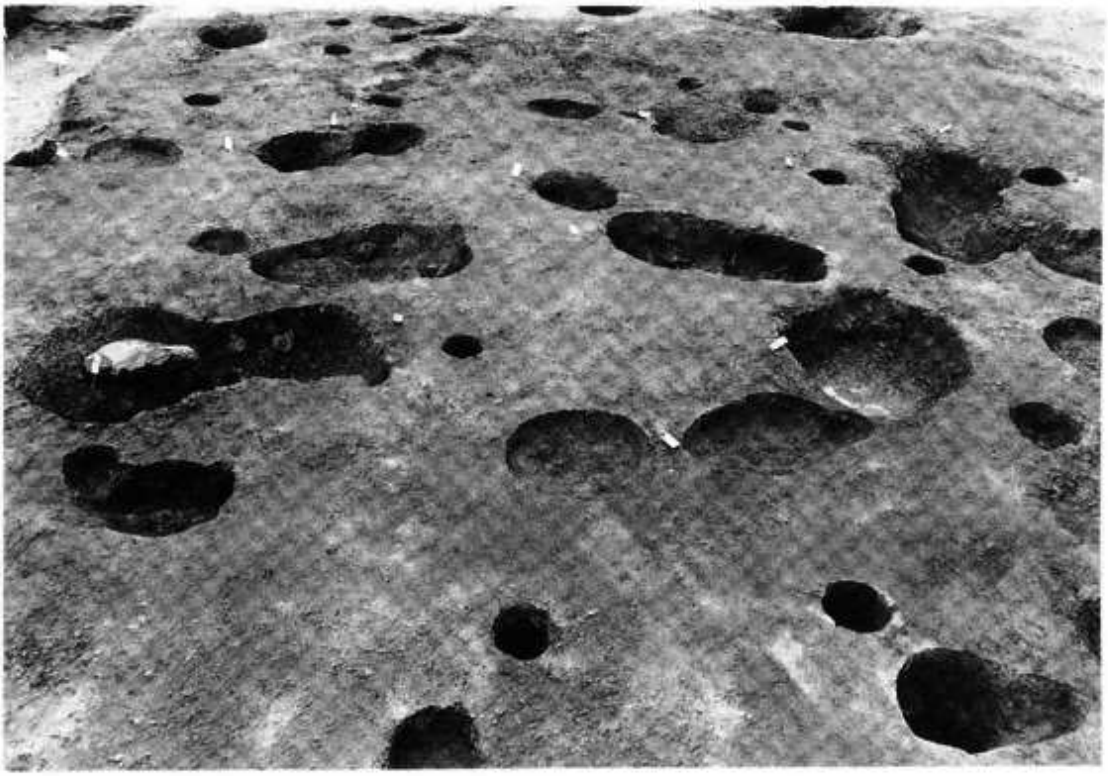
No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体	―	―	―	―	前期
2	縄文深鉢	体	―	―	―	―	前期
3	石鏃	Ｉ１	1.73	1.25	0.35	1.0	



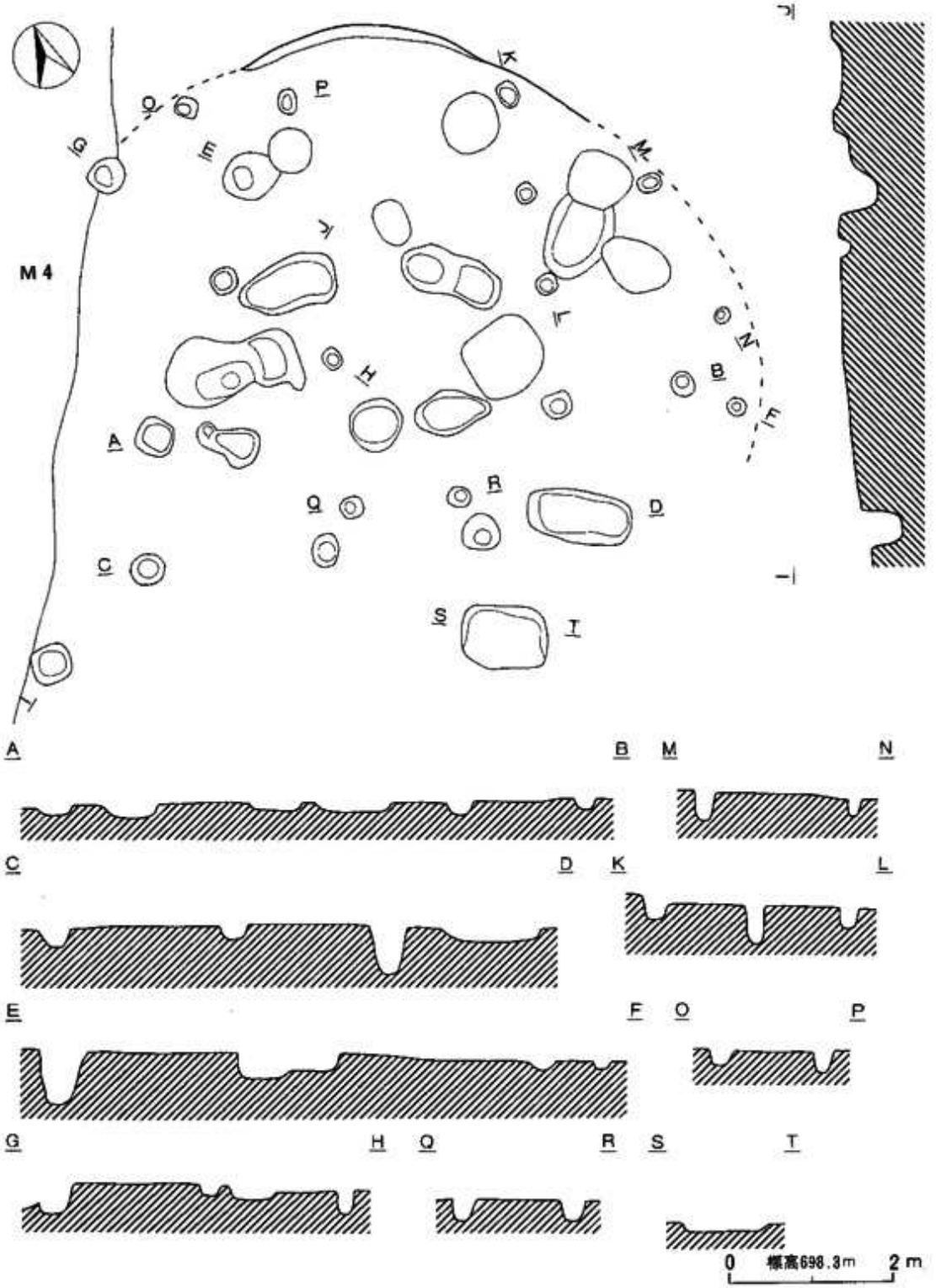
第249図　SYY 4　H75号住居址



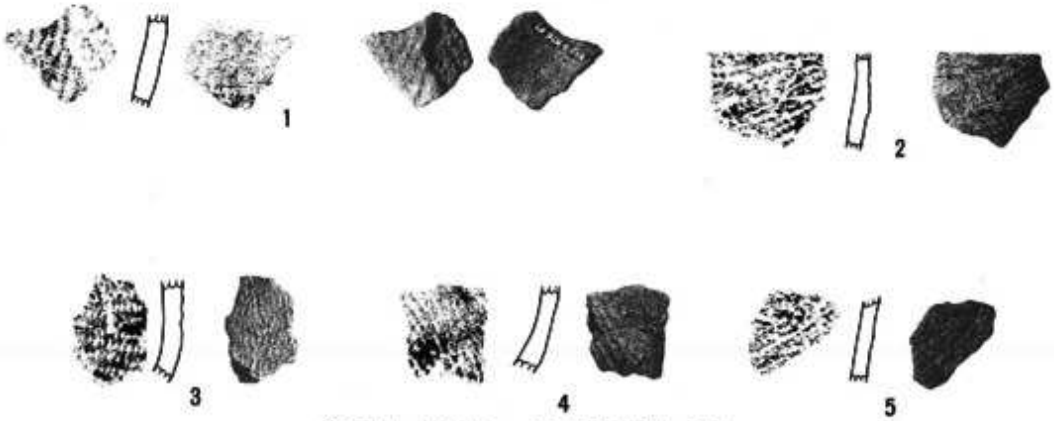
SYY 4　H75号住居址



SYY 4　H76号住居址



第250図　SYY 4　H76号住居址（1）



第251図　SYY 4　H76号住居址（2）

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H76	調査年度	平成4年	通番号	121
位　置	え23	重複関係	M4に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	—	短軸長	—	壁残高	3～0cm			
	炉・カマド長径	—	炉・カマド短径	—	炉・カマド深度	—			
	柱穴数	29基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器。								
備　考	縄文時代前期の住居址。								

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ76号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
3	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
4	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
5	縄文浅鉢	体	—	—	—	—	繊維

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H77	調査年度	平成４年	通番号	122
位　置	き22	重複関係	H65に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	—	短軸長	—	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	—	炉・カマド短径	—	炉・カマド深度	—			
	柱穴数	25基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代中期後半の住居址。								

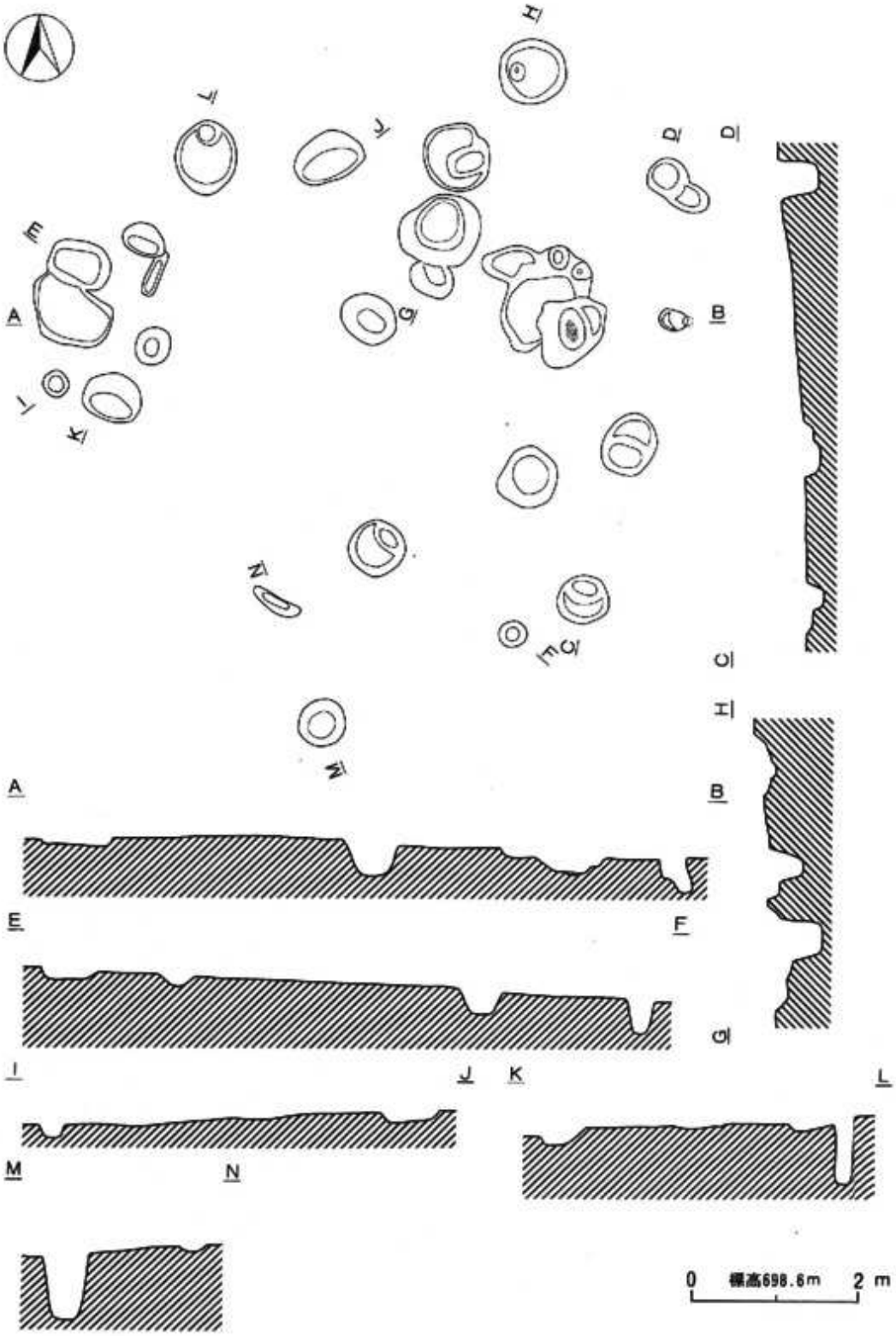
寄山遺跡4地区（SYY 4）H77号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口～体	—	34.60	—	—	唐草文
2	縄文ミニチュア	口	—	5.60	—	—	曽利
3	縄文深鉢	体	—	—	—	—	加曽利E
4	磨製石斧	I	4.81	3.52	1.3	45	
5	礫器	—	7.37	5.09	0.4	80	
6	磨石	I	9.25	6.90	3.7	220	

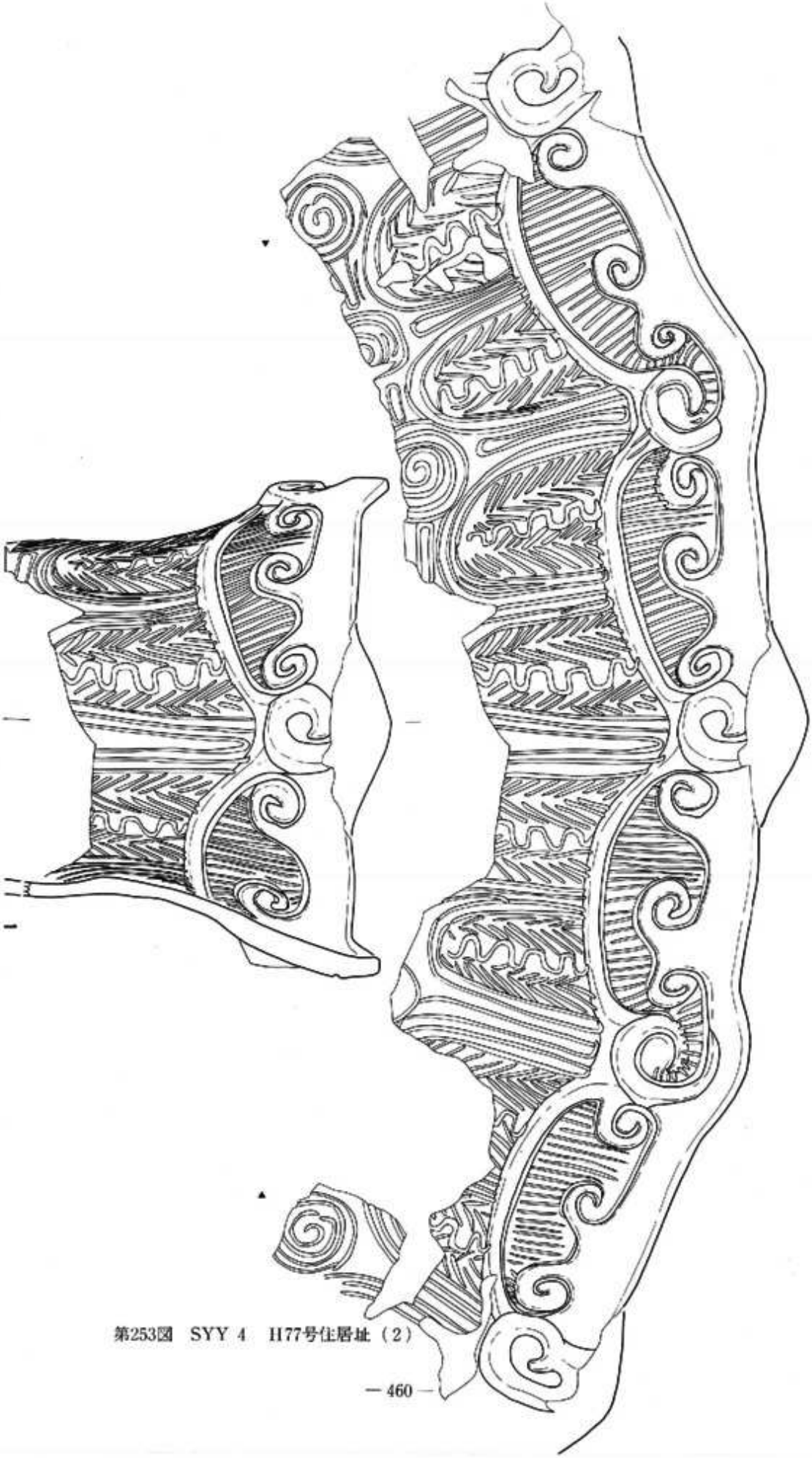
SYY 4　H77号住居址遺物出土状況

寄山遺跡4地区（SYY 4）H78号住居址出土遺物一覧表　No. 1

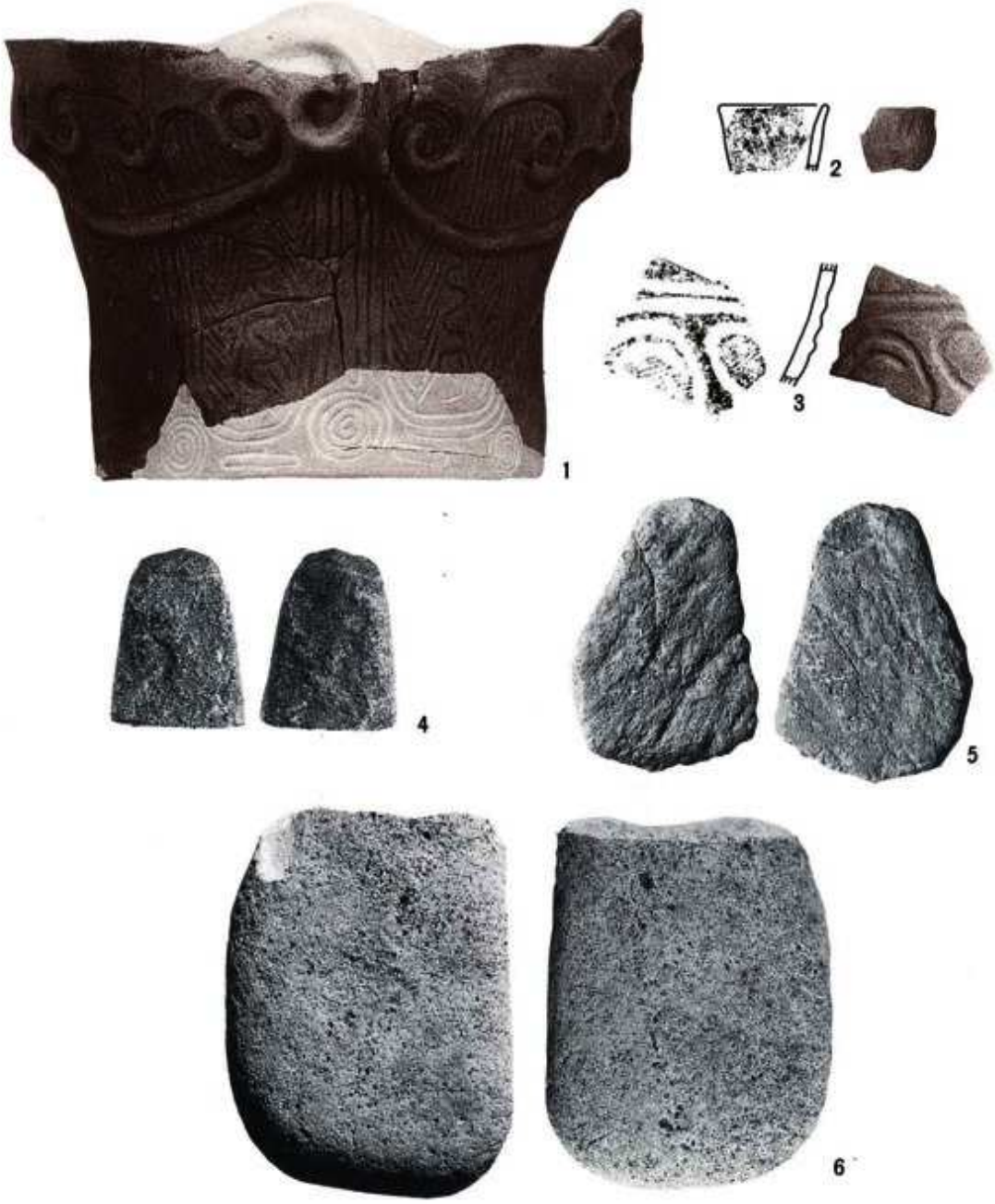
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文台坏深鉢	台	—	—	6.0		
2	縄文深鉢	体～底	—	—	8.0		唐草文



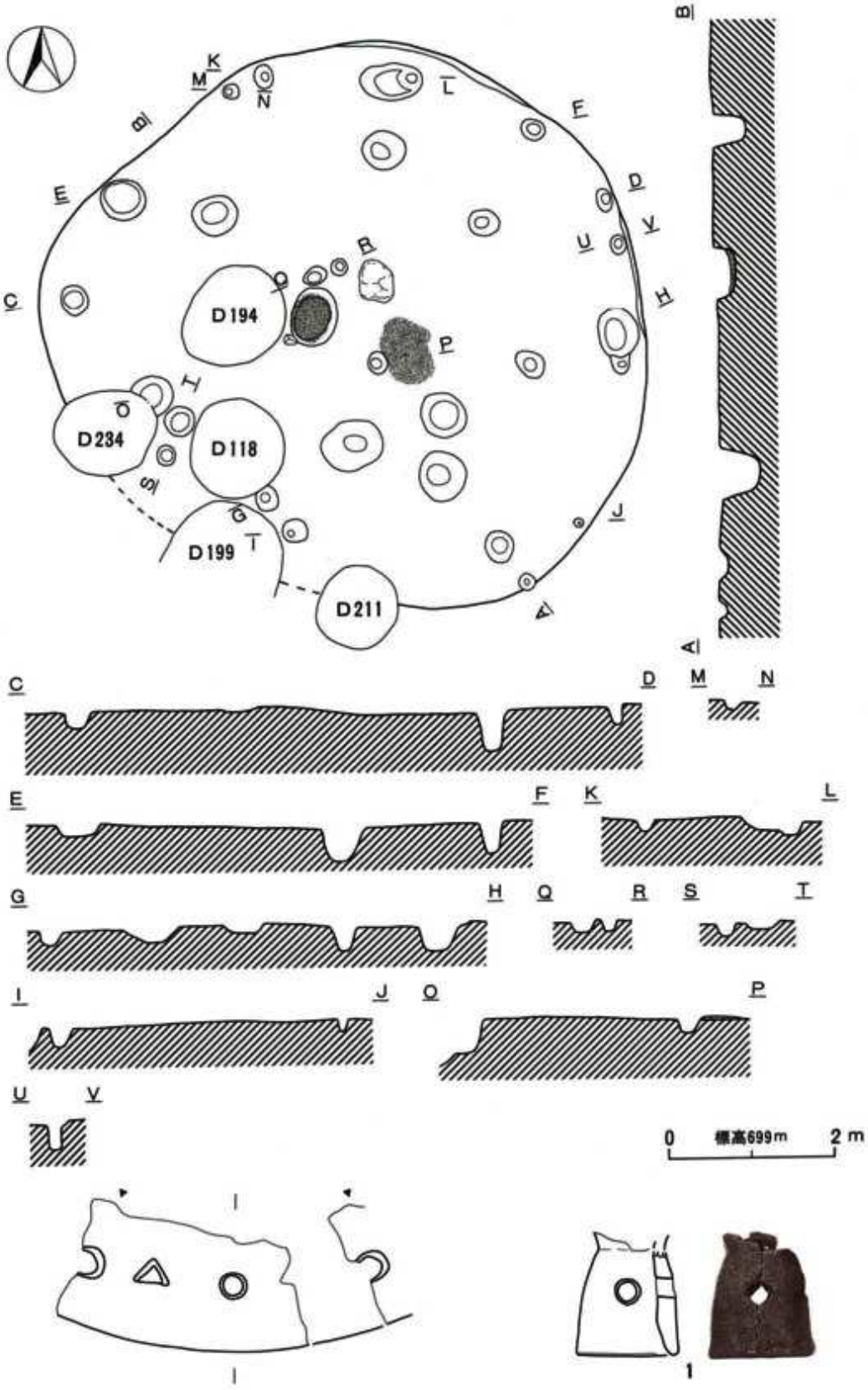
第252図　SYY 4　H77号住居址（1）



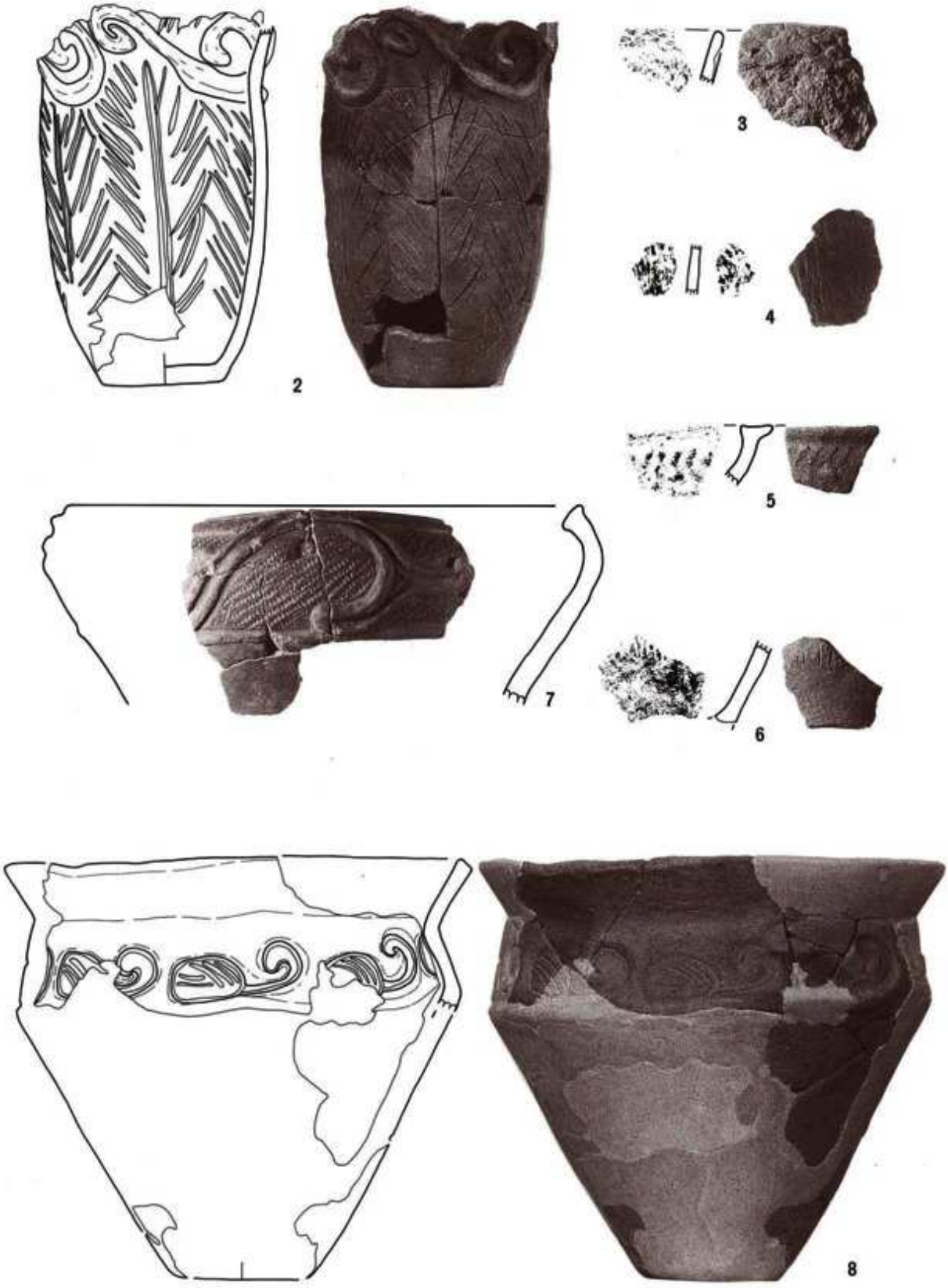
第253図　SYY 4　H77号住居址（2）



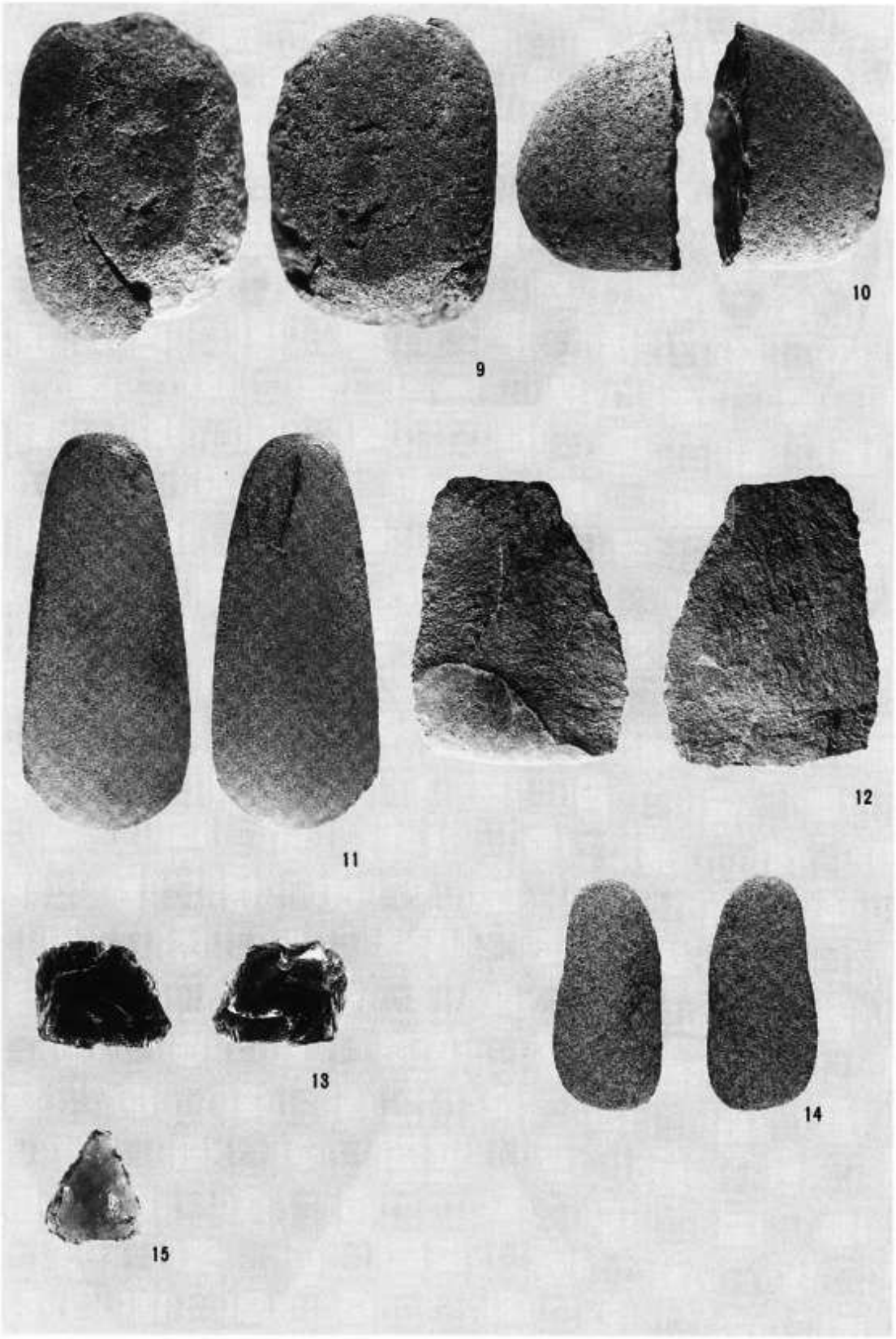
第254図　SYY 4　H77号住居址（3）



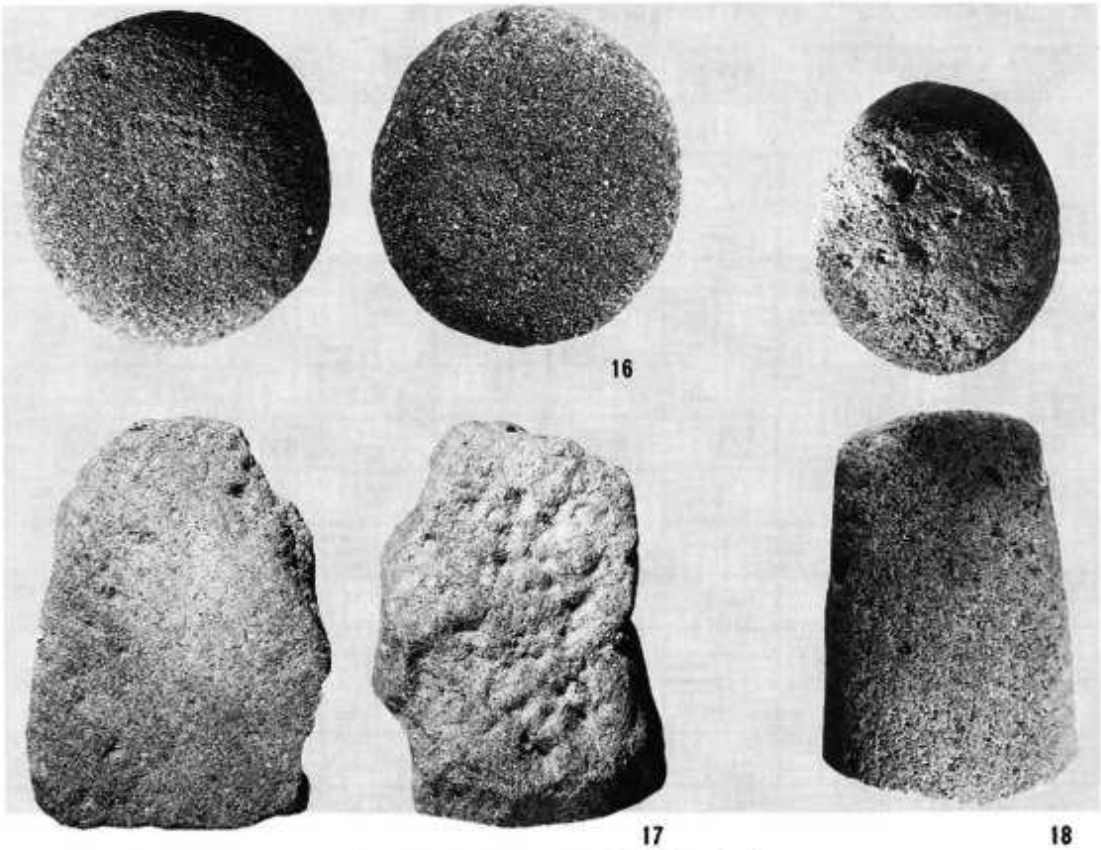
第255図　SYY 4　H78号住居址（1）



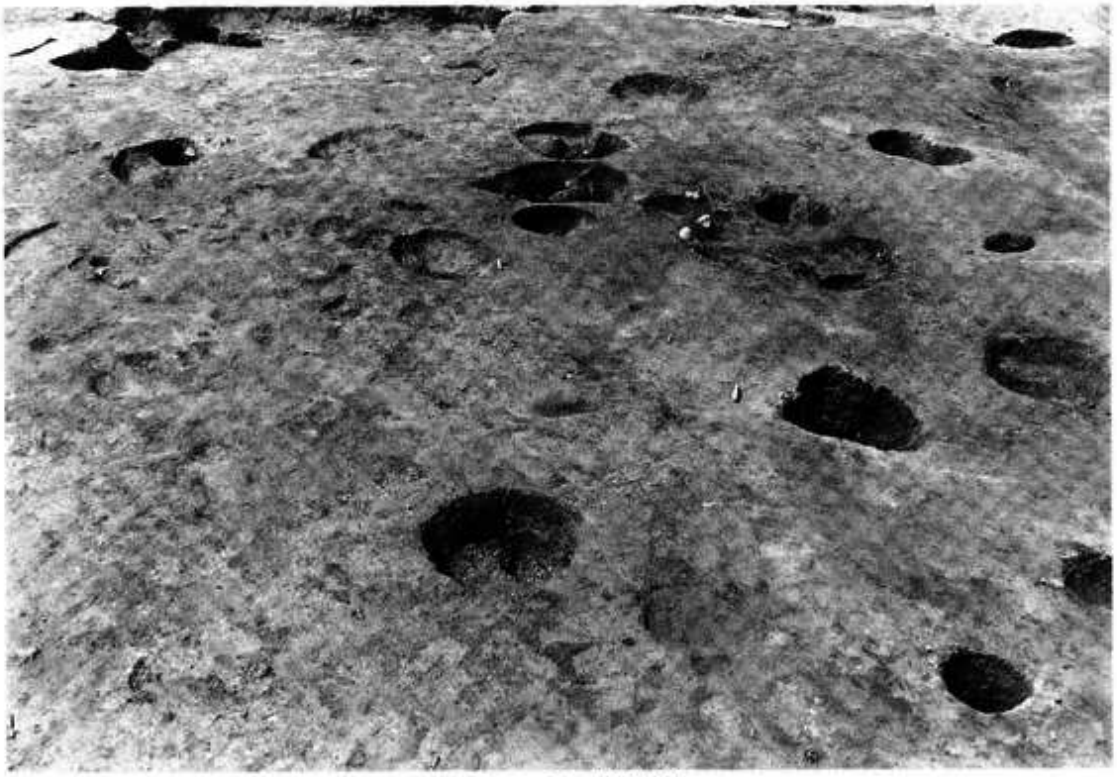
第256図　SYY 4　H78号住居址（2）



第257図　SYY 4　H78号住居址（3）



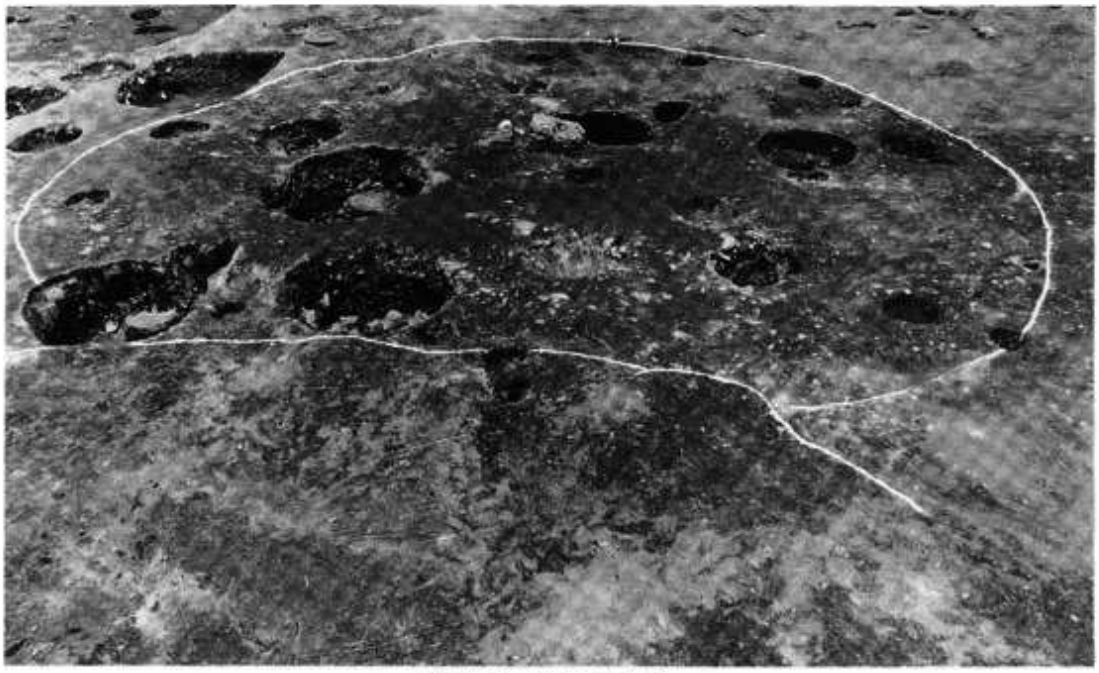
第258図　SYY 4　H78号住居址（4）



SYY 4　H77号住居址

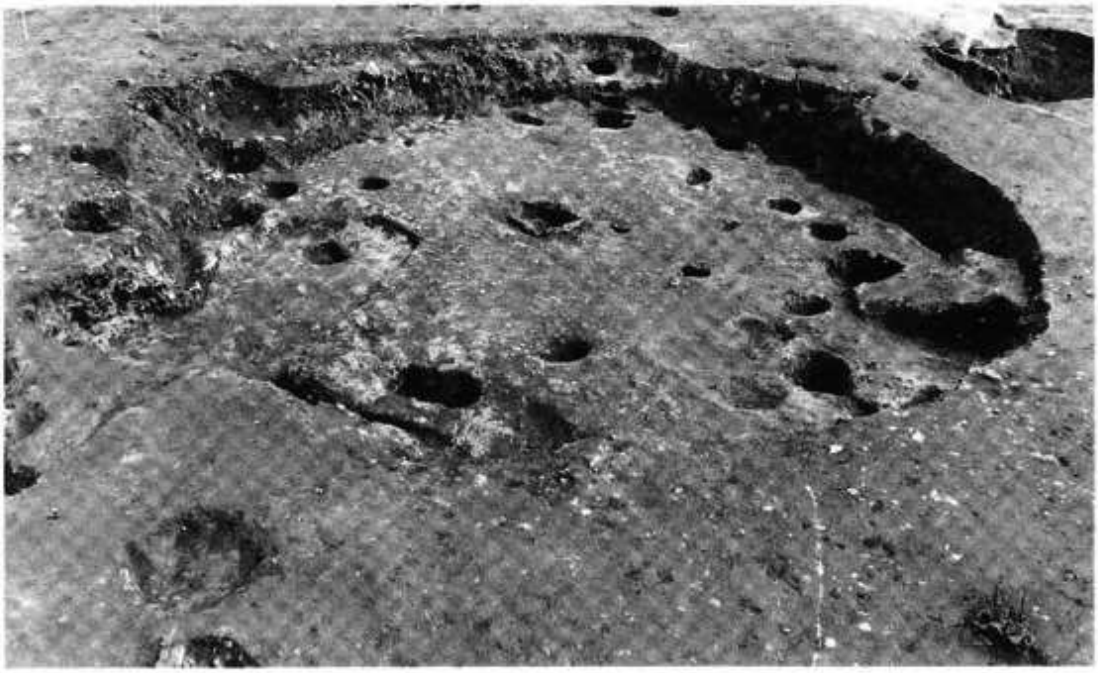
寄山遺跡4地区（SYY 4）H78号住居址出土遺物一覧表　No. 2

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
3	縄文深鉢	口	—	—	—	—	押型文土器
4	縄文深鉢	体	—	—	—	—	条痕文土器
5	縄文深鉢	口	—	—	—	—	阿玉台
6	縄文深鉢	体	—	—	—	—	曽利
7	縄文深鉢	口	—	—	—	—	加曽利E
8	縄文鉢	口～底	27.60	29.4	8.6	—	唐草文？
9	磨石	I	8.60	6.4	5.2	460.0	
10	磨石	I	6.80	4.9	4.8	240.0	
11	磨製石斧	II	12.20	5.3	2.5	286.0	
12	スクレイパー	I 1	9.20	0.9	0.8	80.0	
13	ピエスエスキーユ	—	1.77	1.2	0.7	2.0	
14	磨石	I	15.20	6.9	2.4	330.0	
15	石鏃	I 2	0.90	0.8	0.5	1.0	片脚欠
16	凹石	II 2	8.20	7.4	4.5	320.0	
17	石皿	—	58.00	20.5	16.0	9800.0	
18	石棒	—	18.00	12.5	12.4	3500.0	

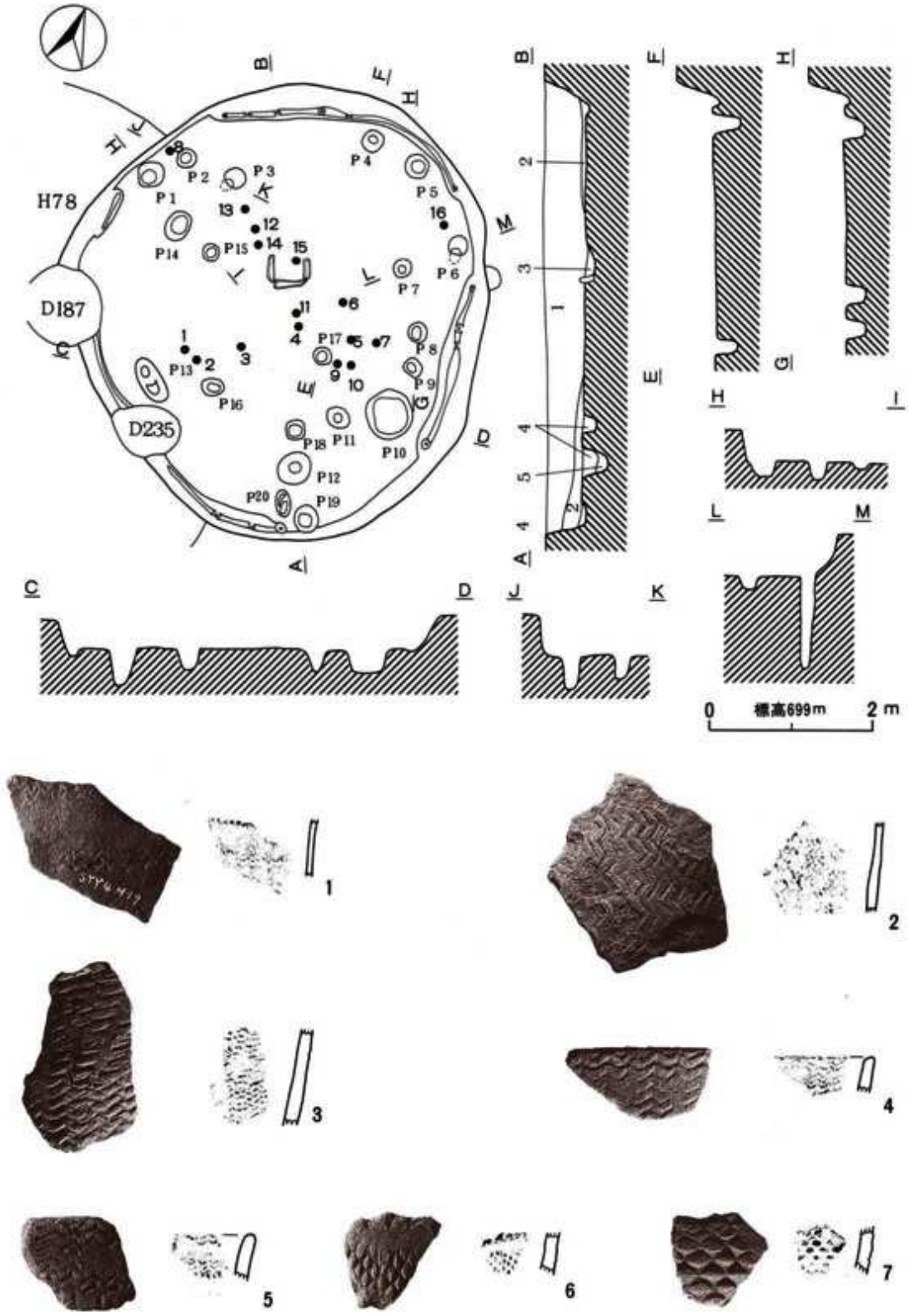


SYY 4　H78号住居址

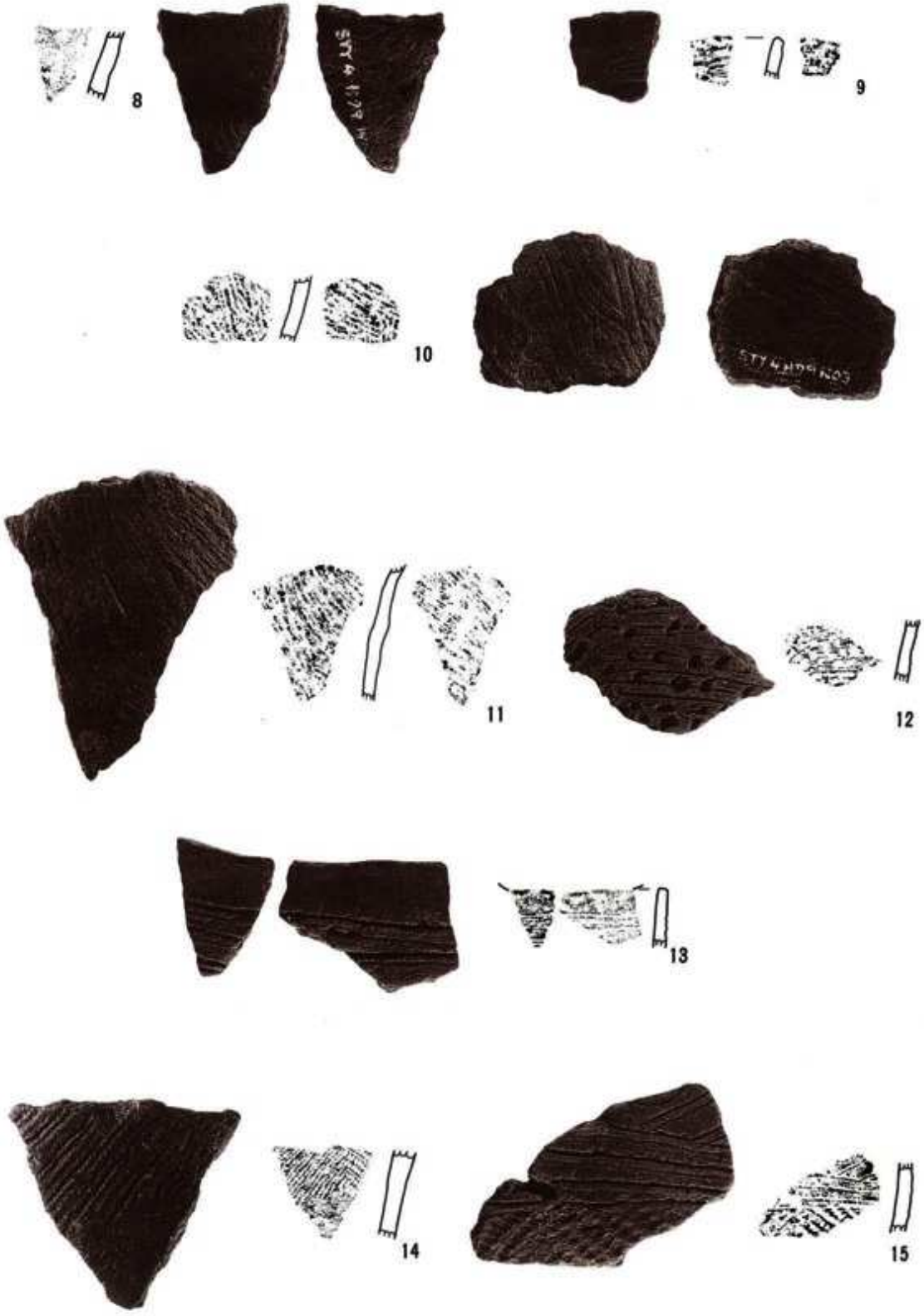
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H78	調査年度	平成4年	通番号	123
位　置	し18	重複関係	H79を切り、D199・211・234に切られる。						
平面形状	円形	長軸方位	N－90－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	7.7m	短軸長	5.6m	壁残高	2～0cm			
	炉・カマド長径	70cm	炉・カマド短径	56cm	炉・カマド深度	30cm			
	柱穴数	26基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代中期後半の住居址。								



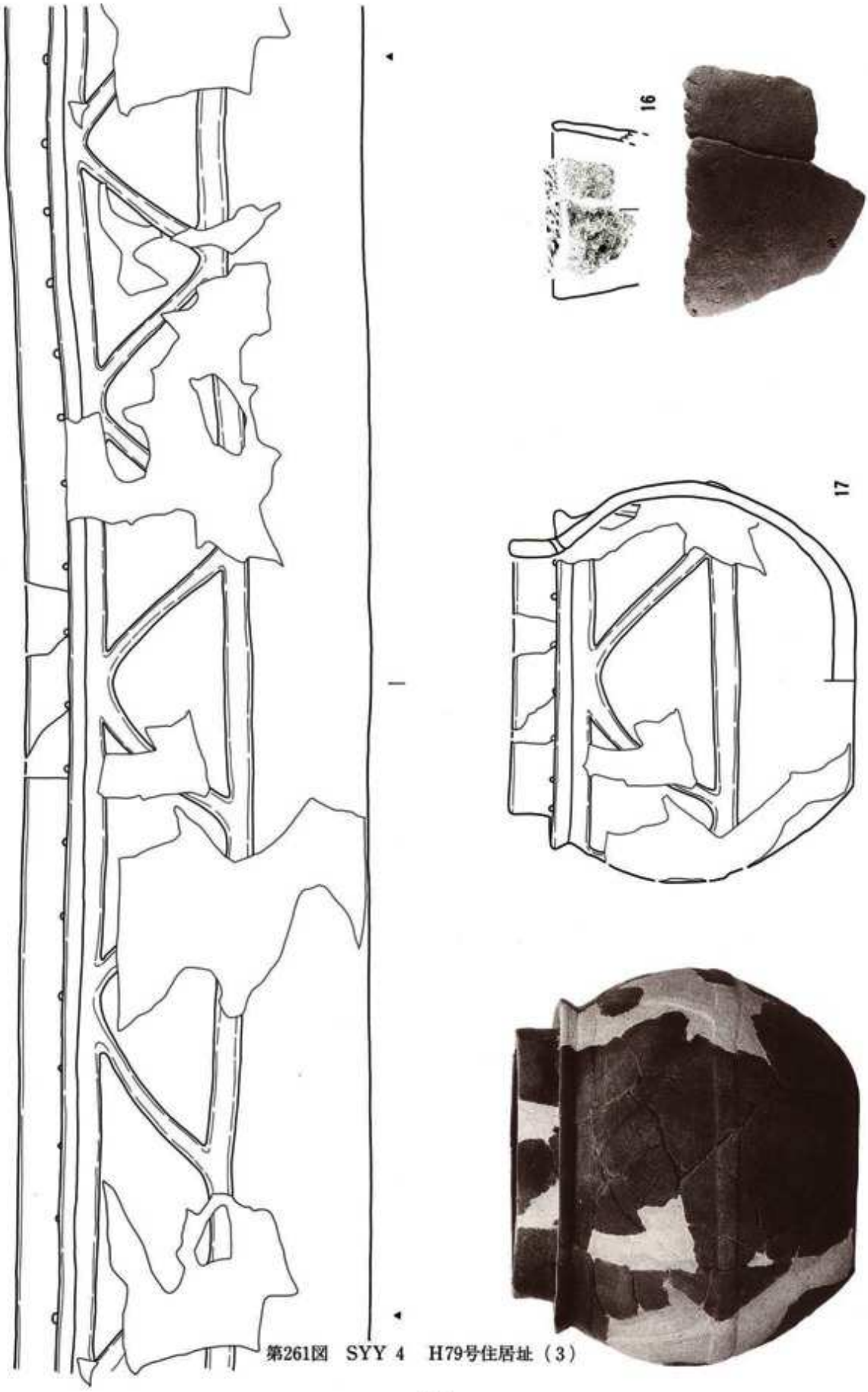
SYY 4　H79号住居址



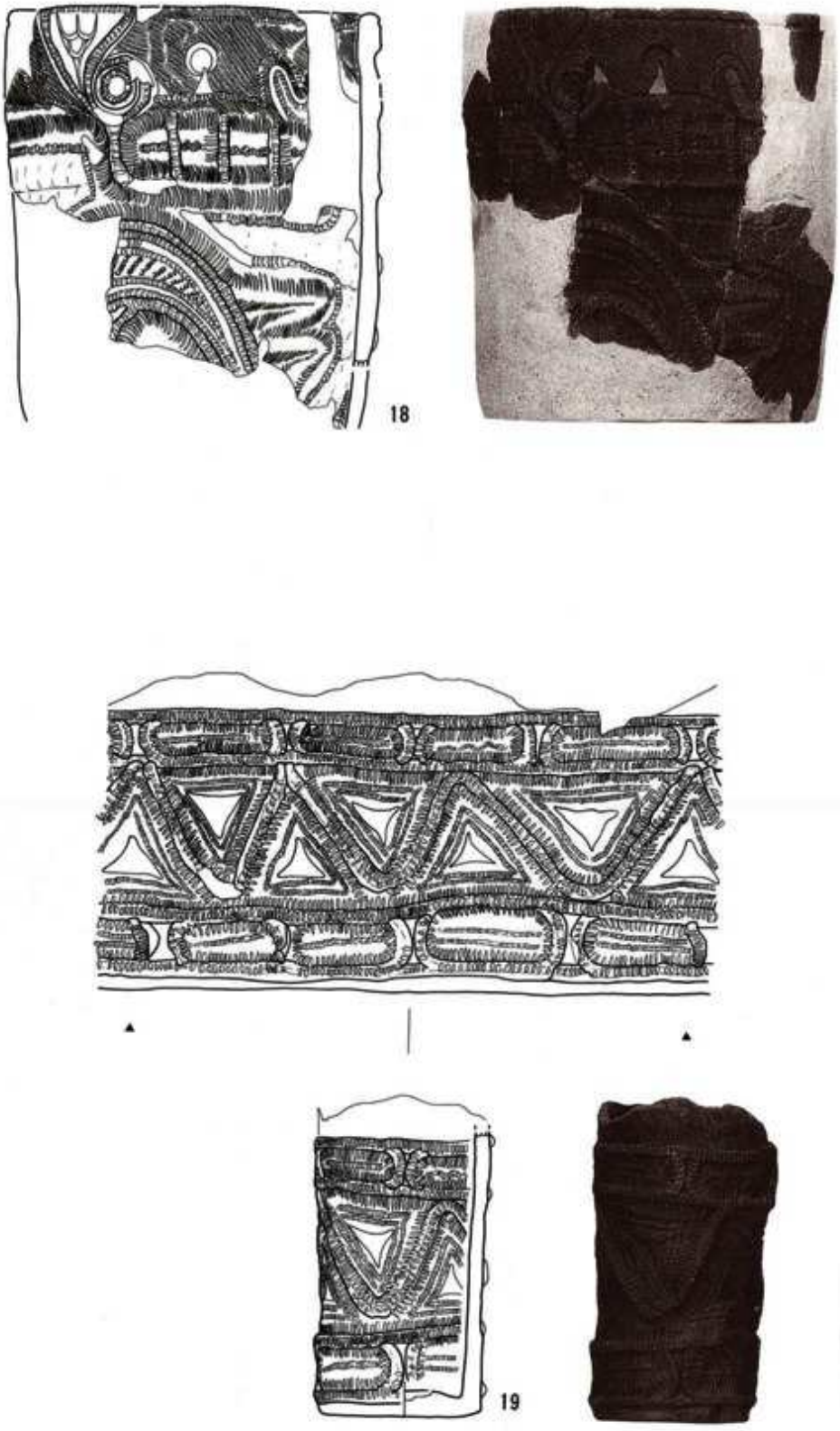
第259図　SYY 4　H79号住居址（1）



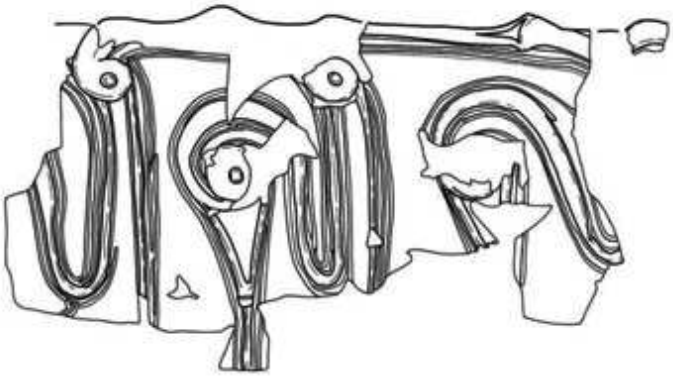
第260図　SYY 4　H79号住居址（2）

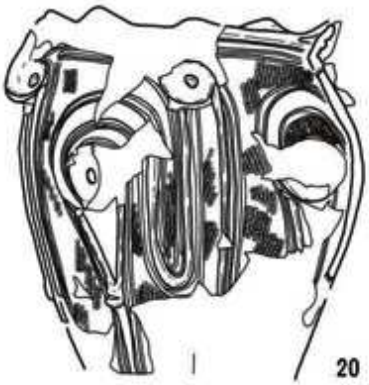


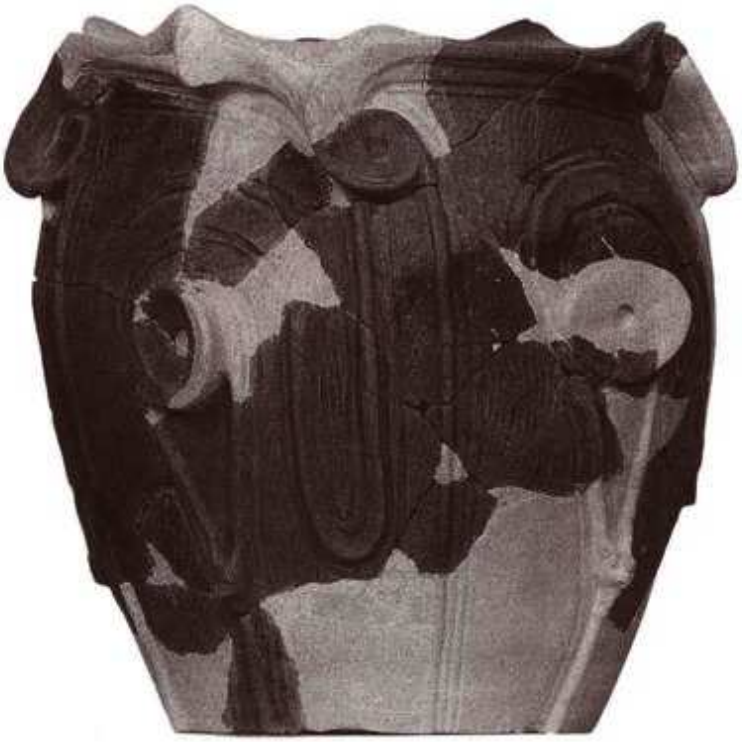
第261図　SYY 4　H79号住居址（3）



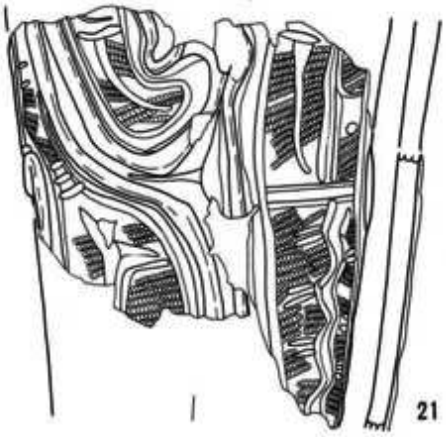
第262図　SYY 4　H79号住居址（4）

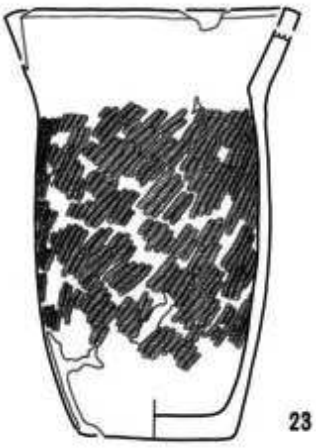




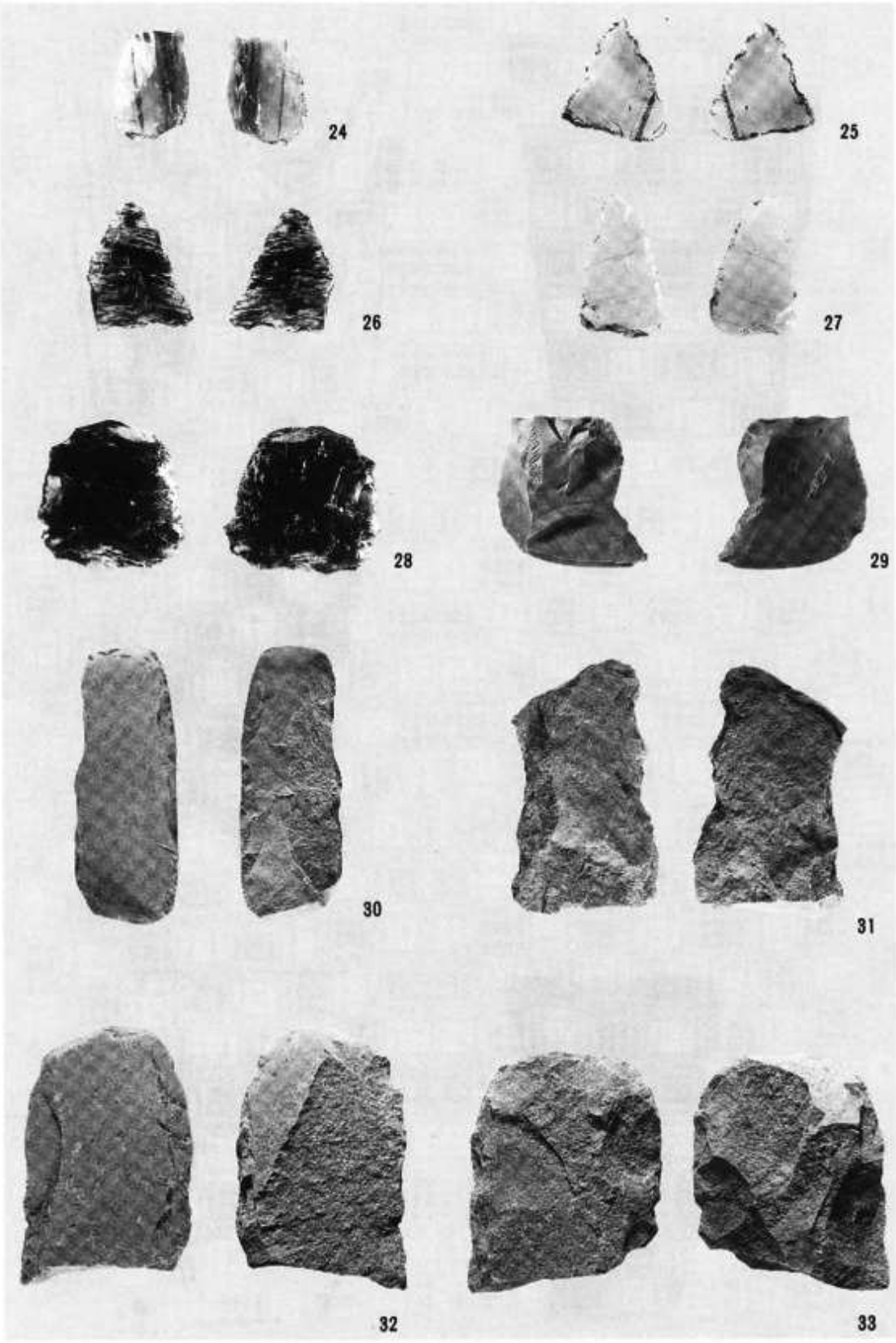


第263図　SYY 4　H79号住居址（5）

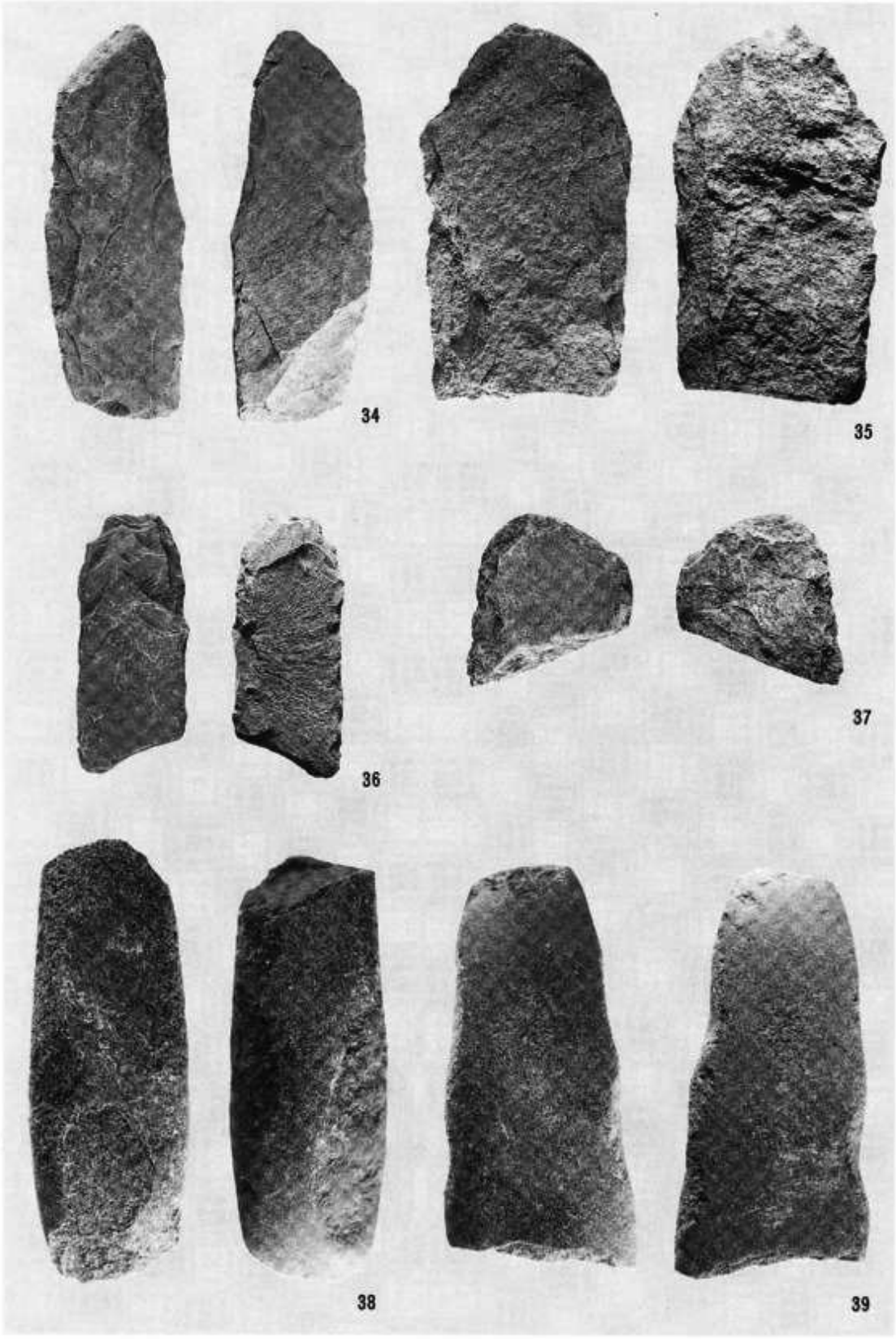




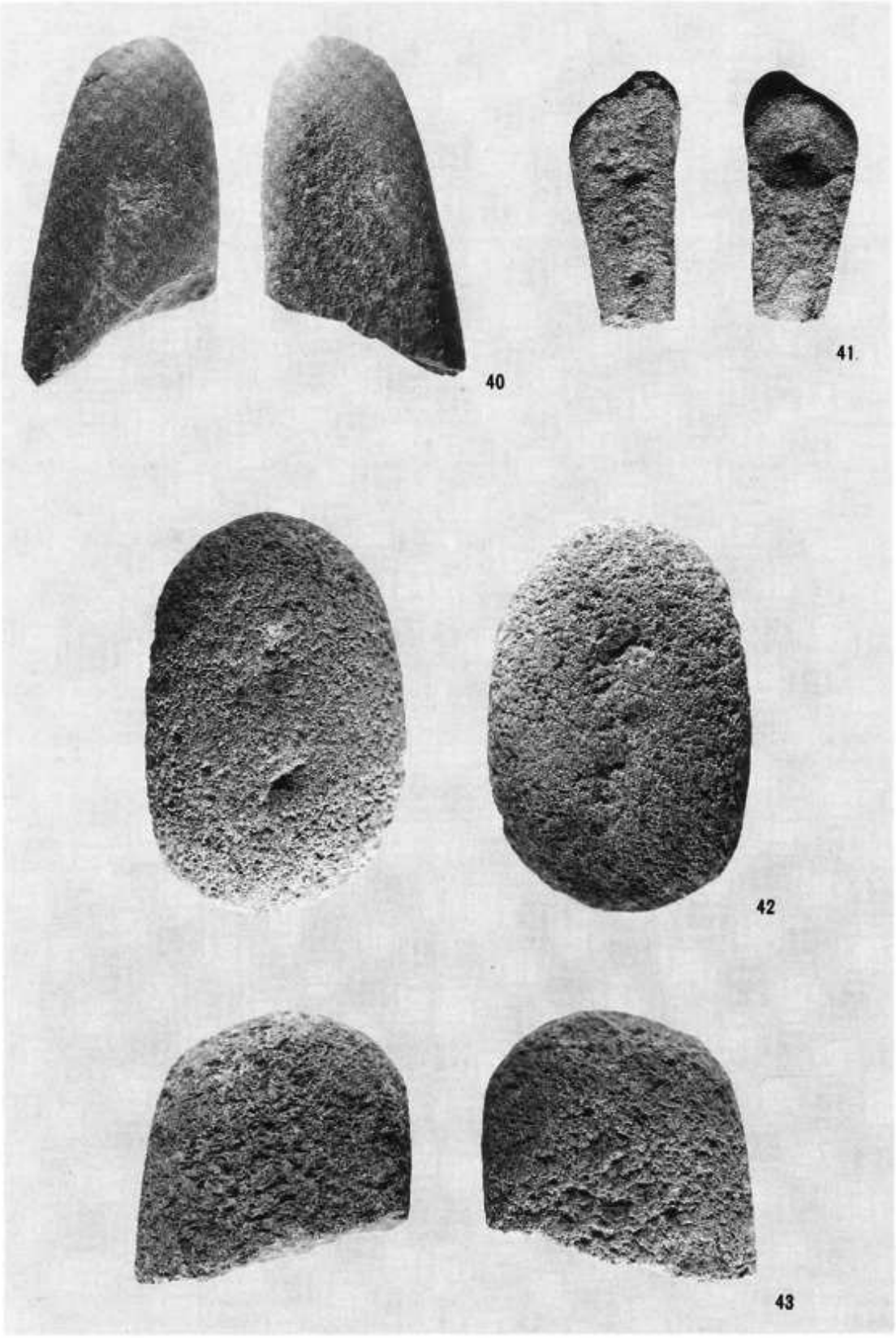
第264図　SYY 4　H79号住居址（6）



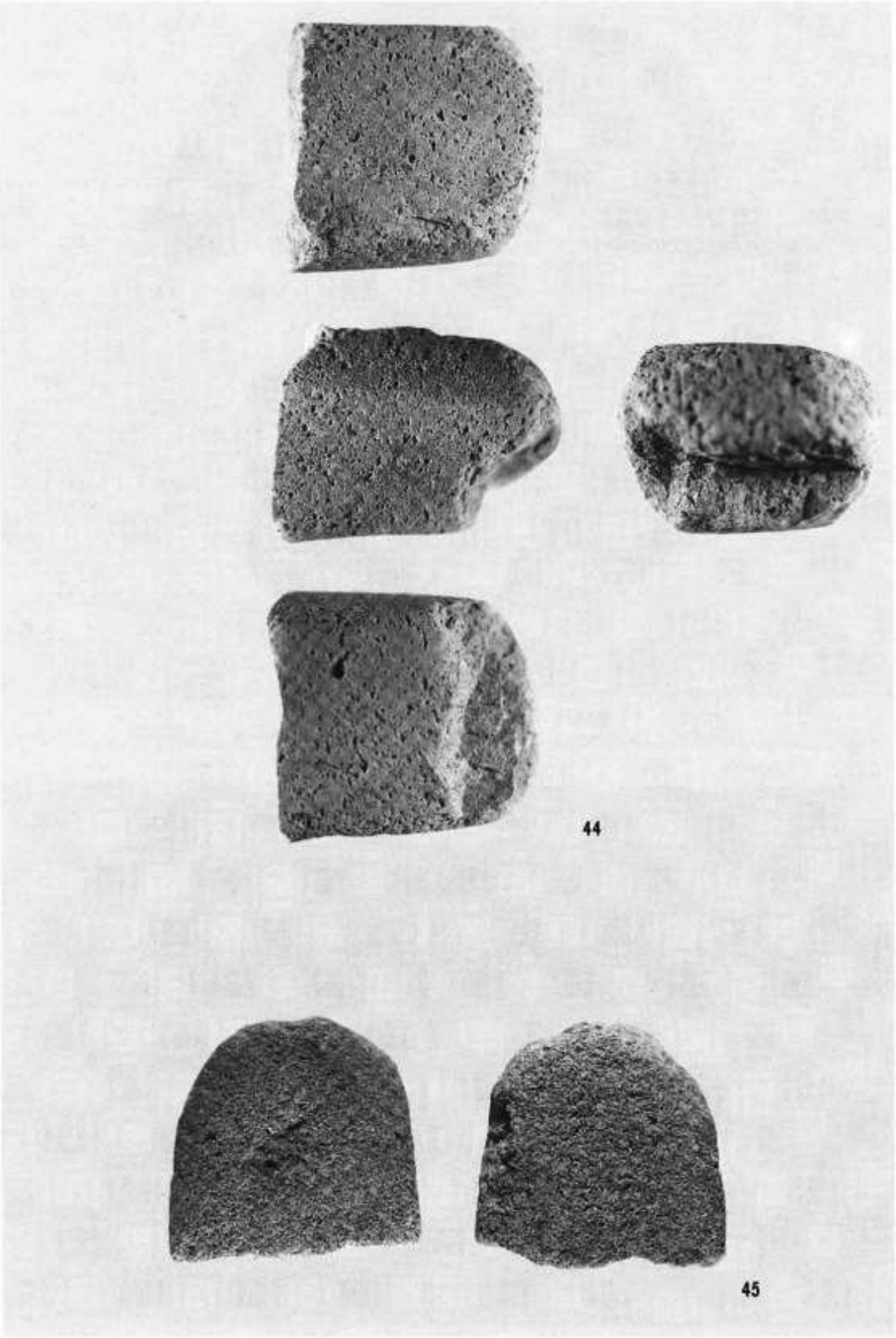
第265図　SYY 4　H79号住居址（7）



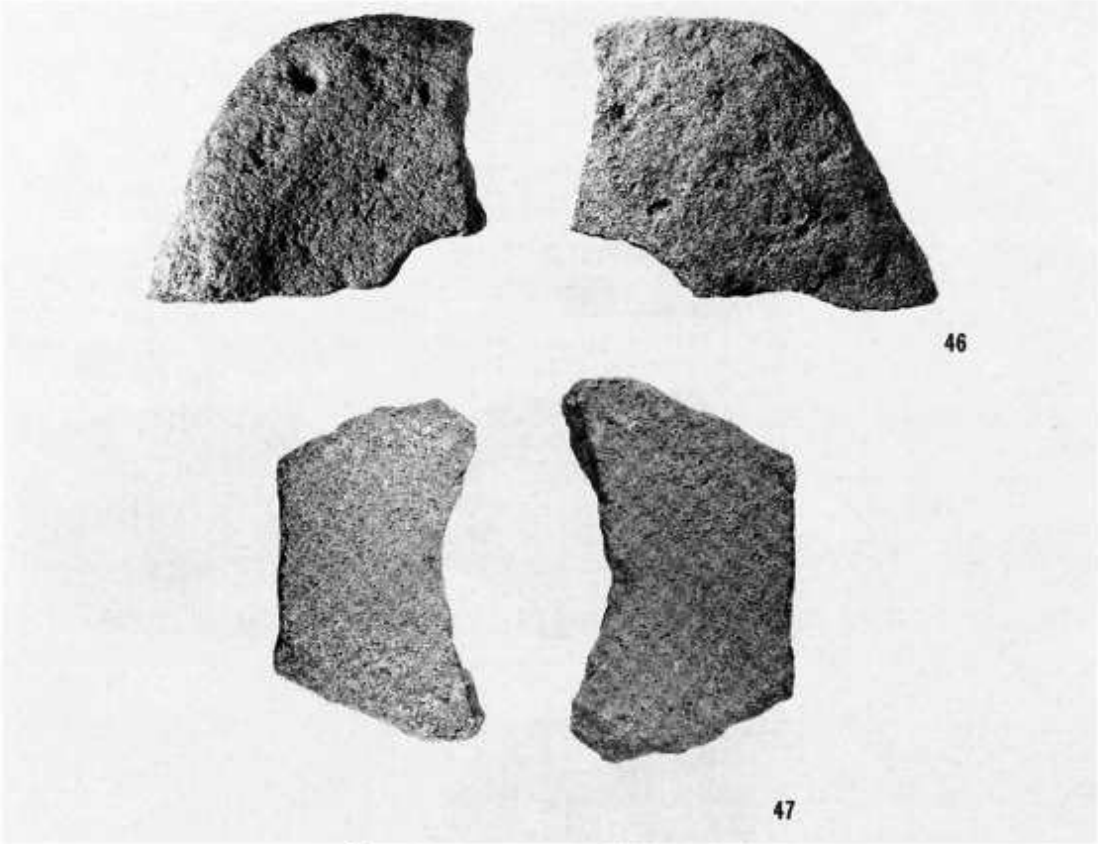
第266図　SYY 4　H79号住居址（8）



第267図　SYY 4　H79号住居址（9）



第268図　SYY 4　H79号住居址（10）



第269図　SYY 4　H79号住居址（11）

SYY 4　H79号住居址炉址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H79	調査年度	平成4年	通番号	124
位　置	さ17	重複関係	H78・D187・235に切られ、D176を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	N－24－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	5.6m	短軸長	5.2m	壁残高	48～32cm			
	炉・カマド長径	52cm	炉・カマド短径	48cm	炉・カマド深度	18cm			
	柱穴数	20基	主柱穴	不明					
	面　積	18.1m²							
覆土	1.黒褐色土（7.5YR 2／2）。φ 3～5mm大パミス多含。 2.黒色土層（7.5YR1.7／1）。焼土粒子焼含、炭化物多含。 3.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。炭化物を含む。 4.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。ローム粒子（10YR 8／4）を含む。 5.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。ローム粒子（10YR 8／4）を含む、7.5YR1.7／1粒子を多含。								
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期中葉の住居址。								

寄山遺跡4地区（SYY 4）H79号住居址出土遺物一覧表　No.1

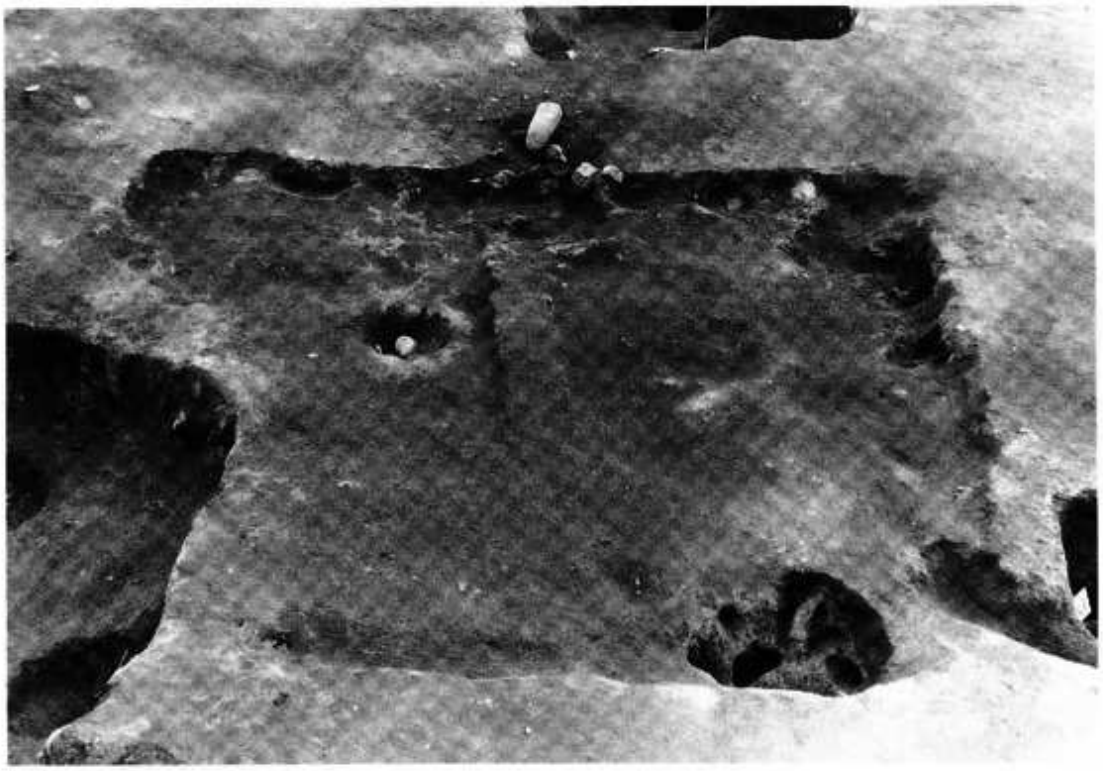
No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
4	縄文深鉢	口	－	－	－	－	押型文土器
5	縄文深鉢	口	－	－	－	－	押型文土器

寄山遺跡4地区（SYY 4）H79号住居址出土遺物一覧表　No. 2

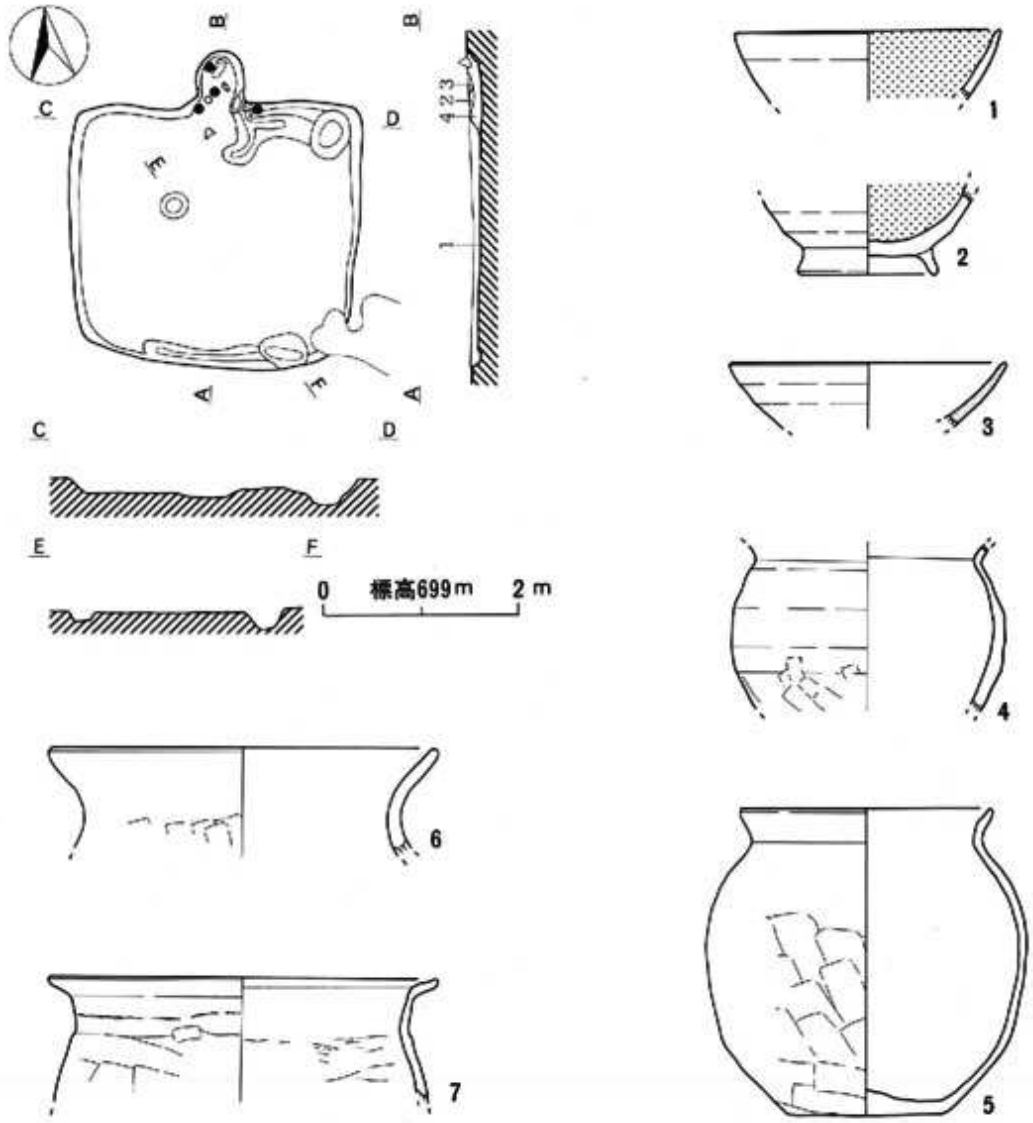
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
6	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
7	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
8	縄文深鉢	体	—	—	—	—	絡条体圧痕文
9	縄文深鉢	口	—	—	—	—	条痕文
10	縄文深鉢	体	—	—	—	—	条痕文
11	縄文深鉢	体	—	—	—	—	条痕文
12	縄文深鉢	体	—	—	—	—	有尾
13	縄文深鉢	口	—	—	—	—	有尾
14	縄文深鉢	体	—	—	—	—	前期
15	縄文深鉢	体	—	—	—	—	有尾
16	縄文深鉢	口	—	—	—	—	東海系？
17	有孔鍔付土器	完	22.8	18.4	12.0	—	赤彩
18	縄文深鉢	口～体	—	21.0	—	—	勝坂
19	縄文深鉢	体～底	—	—	9.0	—	勝坂
20	縄文深鉢	口～体	—	30.0	—	—	新巻
21	縄文深鉢	体	—	—	—	—	新巻
22	縄文深鉢	体	—	—	—	—	新巻
23	縄文深鉢	完	22.0	15.2	8.0	—	
24	石鏃	?	2.9	1.3	0.5	1.0	先端、脚欠
25	石鏃	I 1	2.0	1.7	0.4	2.0	
26	石鏃	I 1	2.1	1.4	0.3	1.0	片脚欠
27	石鏃	I 2	2.4	1.4	0.2	2.0	
28	石鏃	I 2	2.5	2.7	0.7	4.0	先端欠
29	スクレイパー	—	4.9	4.9	1.3	33.0	
30	打製石斧	I 1 o	8.9	3.4	0.9	48.0	
31	打製石斧	II ? b	8.0	4.8	1.5	72.0	
32	打製石斧	I ? a	8.5	5.5	1.1	72.0	
33	打製石斧	I ? a	7.8	6.1	1.4	80.0	
34	打製石斧	I 3 o	12.7	4.6	1.2	88.0	

寄山遺跡4地区（SYY 4）H79号住居址出土遺物一覧表　No.3

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
35	打製石斧	I ? a	12.1	6.8	2.1	210	
36	打製石斧	I ? a	8.4	3.6	1.0	40	
37	打製石斧	IV ? a	57.0	5.1	1.2	40	
38	磨製石斧	I	13.4	5.0	3.0	360	
39	磨製石斧	II	12.6	5.8	3.4	480	
40	磨製石斧	II	10.9	5.7	3.6	320	
41	凹石	II 2	16.2	7.1	4.0	600	
42	凹石	II 2	11.7	7.7	4.4	530	
43	磨石	I	8.0	7.8	4.6	400	
44	磨石	I	7.8	6.9	5.4	420	
45	磨石	I	7.6	7.4	4.1	220	
46	石皿	—	14.6	17.7	6.8	1970	
47	石皿	—	27.4	15.8	8.9	6800	



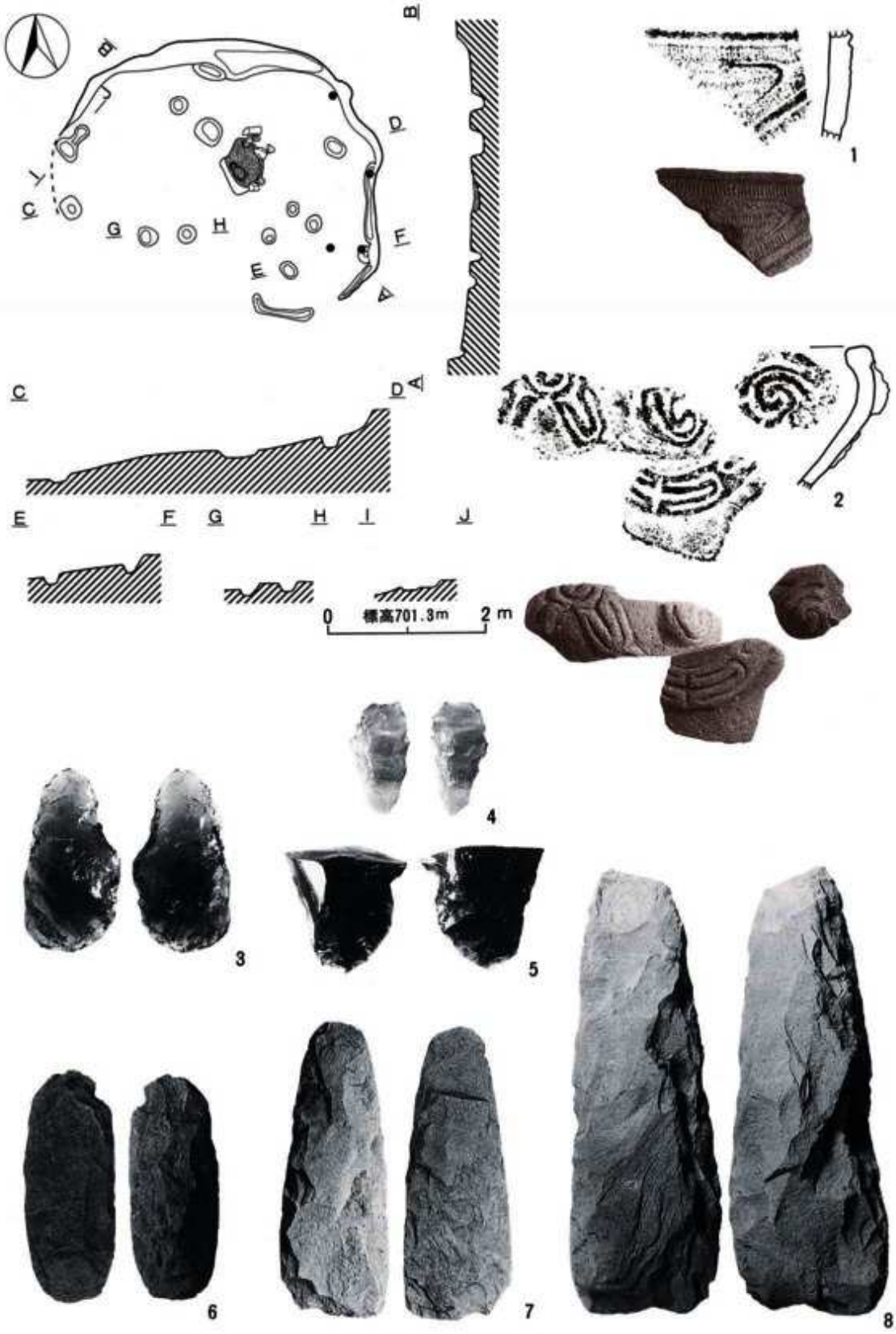
SYY 4　H80号住居址



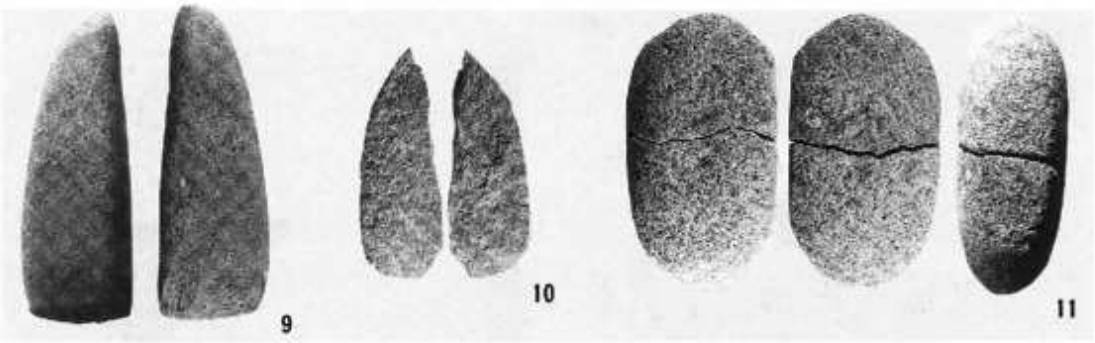
第270図　SYY 4　H80号住居址

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）H80号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	土師器坏	口	—	13.6	—	—	内面黒色処理
2	土師器高台付坏	底	—	—	7.2	—	内面黒色処理
3	須恵器坏	口	—	14.2	—	—	
4	土師器甕	体	—	—	—	—	ロクロ甕
5	土師器甕	完	15.8	13.0	8.0	—	
6	土師器甕	口	—	20.0	—	—	武蔵
7	土師器甕	口	—	20.0	—	—	武蔵



第271図　SYY 4　H81号住居址（1）



第272図　SYY 4　H81号住居址（2）

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H80	調査年度	平成4年	通番号	125
位　置	〈20	重複関係	H108・Ta 4切る。						
平面形状	方形	長軸方位	N－96－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	3.0m	短軸長	2.7m	壁残高	10～2cm			
	炉・カマド長径	30cm	炉・カマド短径	27cm	炉・カマド深度	12cm			
	柱穴数	3基	主柱穴	不明					
	面　積	5.7m²							
覆土	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。焼土粒子、パミス、炭化物を含む。 2.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。焼土、炭化物を多含。 3.極暗褐色土層（5 YR 2／3）。焼土粒子、ローム（10YR 8／4）を含む。 4.極暗褐色土層（5 YR 2／3）。								
遺　物	土師器、須恵器。								
備　考	平安時代の住居址。								

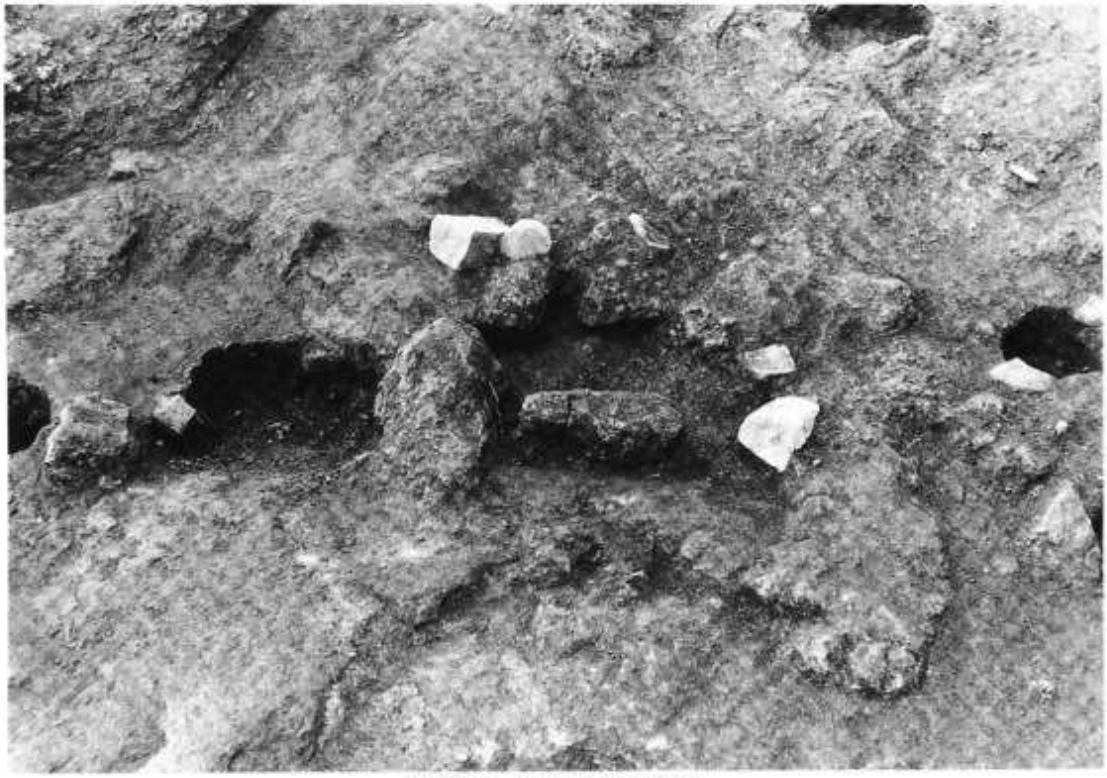
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H81	調査年度	平成4年	通番号	126
位　置	お15	重複関係	なし。						
平面形状	円形	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	24～0cm			
	炉・カマド長径	64cm	炉・カマド短径	48cm	炉・カマド深度	10cm			
	柱穴数	13基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H81号住居址出土遺物一覧表

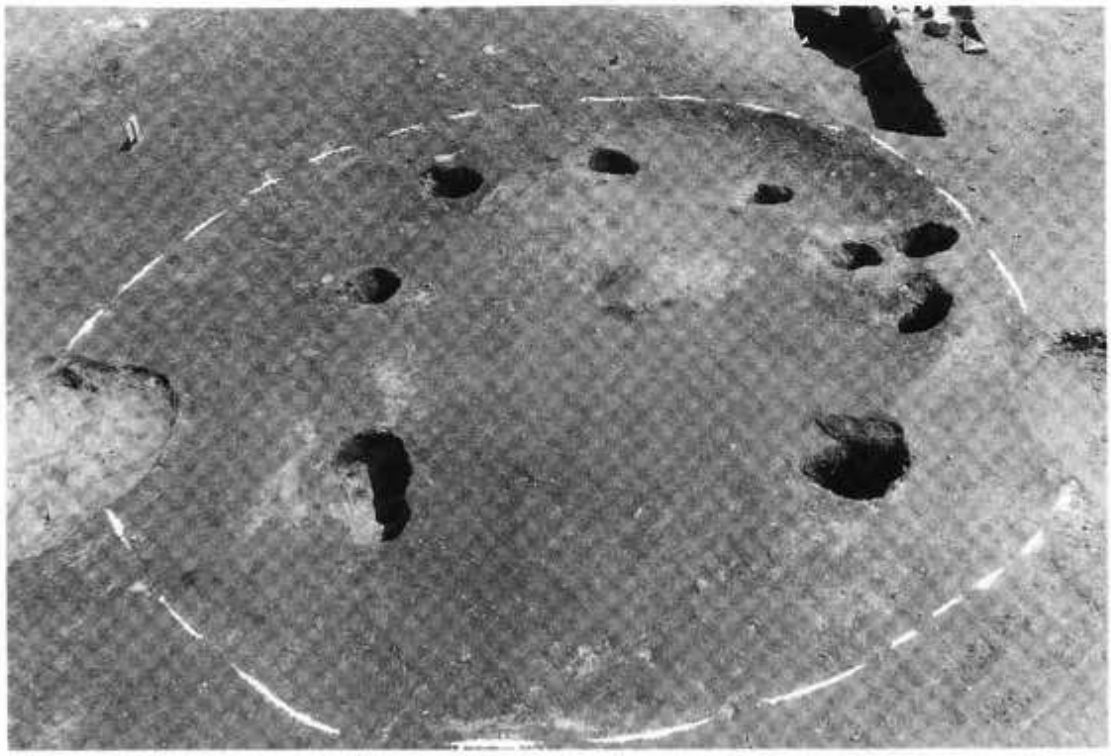
No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文浅鉢	口	―	―	―	―	勝坂
2	縄文深鉢	口	―	―	―	―	
3	スクレイパー	―	3.0	1.6	0.7	3.0	
4	石錐	Ⅲ	1.9	1.0	1.5	1.0	
5	スクレイパー	―	2.0	2.0	0.7	2.0	
6	打製石斧	Ⅰ1o	15.0	6.0	2.6	305.0	
7	打製石斧	Ⅱ1o	14.2	4.9	2.4	194.0	
8	打製石斧	Ⅱ1o	19.3	7.2	2.5	335.0	
9	磨製石斧	Ⅰ	20.6	5.8	3.1	580.0	
10	磨製石斧	Ⅰ	6.1	2.2	1.1	20.0	
11	凹石	Ⅱ2	13.9	4.7	5.4	900.0	

SYY 4　H80号住居址カマド

SYY 4　H81号住居址



SYY 4　H81号住居址炉址



SYY 4　H82号住居址

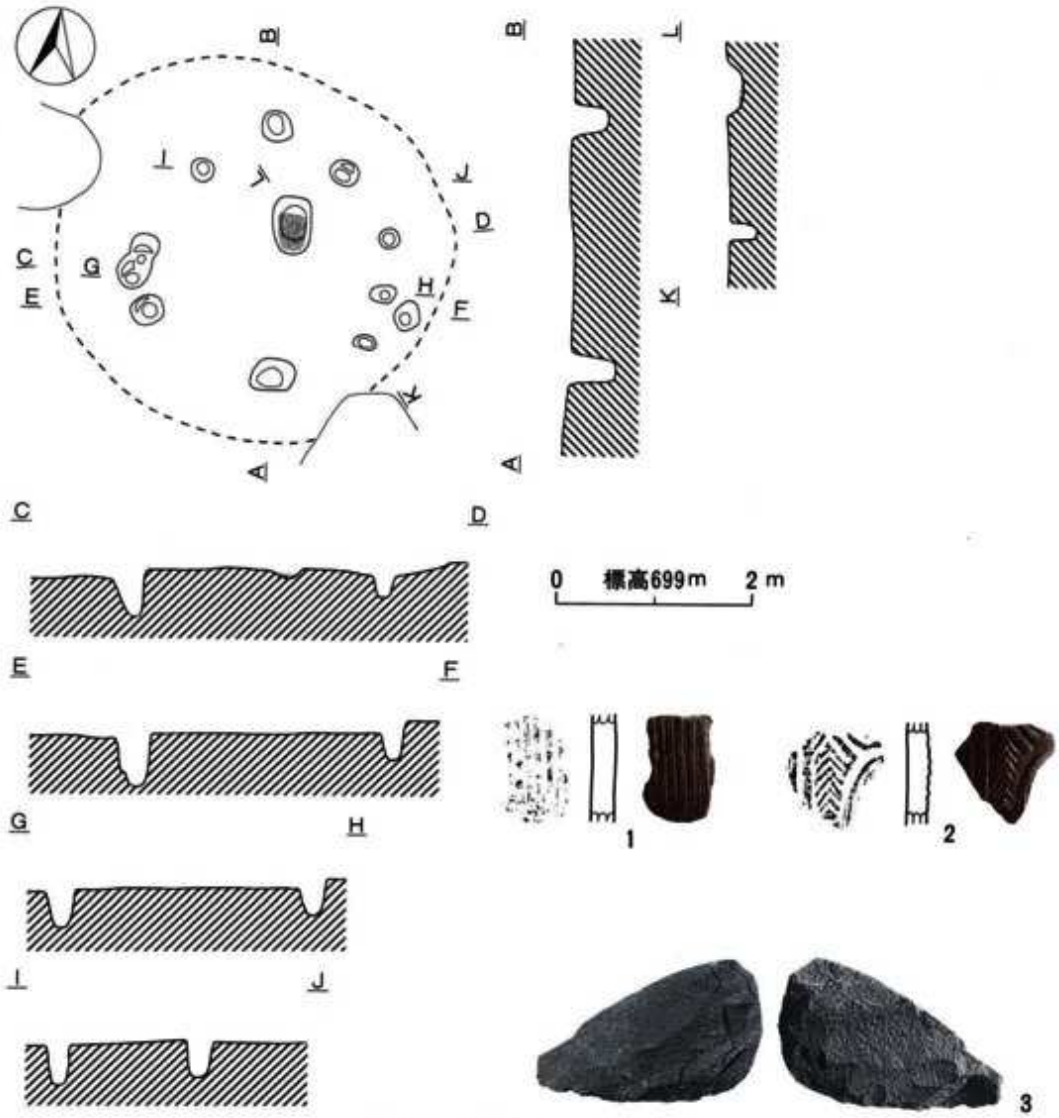
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H82	調査年度	平成4年	通番号	127
位　置	せ18	重複関係	D131・151・166・168に切られ、H83を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	60cm	炉・カマド短径	40cm	炉・カマド深度	10cm			
	柱穴数	10基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								

寄山遺跡4地区（SYY 4）H82号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文浅鉢	体	―	―	―	―	曽利
2	縄文深鉢	体	―	―	―	―	唐草文
3	スクレイパー	―	3.8	6.1	1.1	26	

寄山遺跡4地区（SYY 4）H83号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文浅鉢	底	―	―	17.0	―	
2	磨石	I	16.6	9.5	7.8	161	
3	凹石	II？	8.9	11.5	2.2	350	

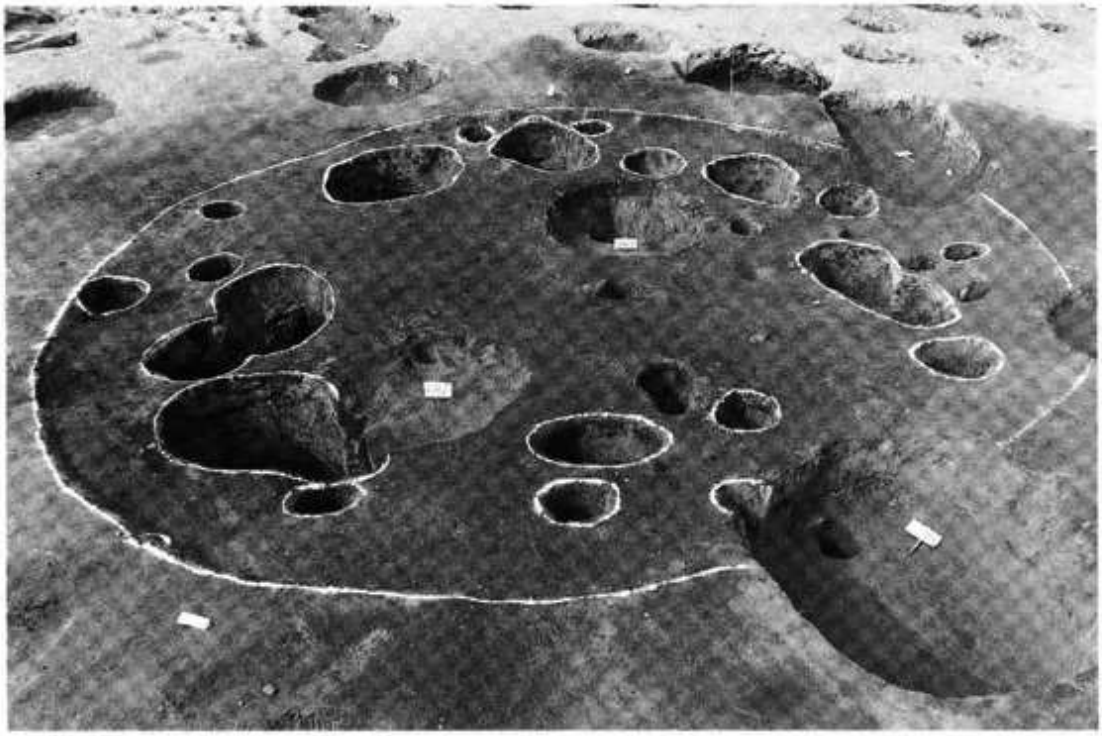


第273図　SYY 4　H82号住居址

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ84号住居址出土遺物一覧表

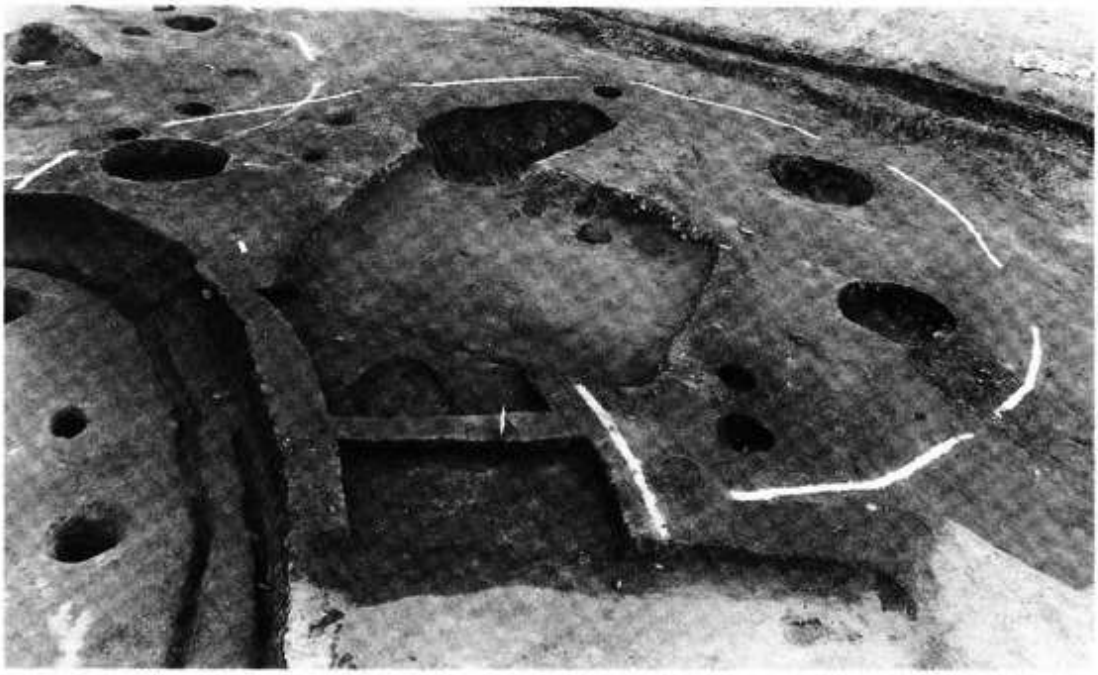
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	－	4.5	12.6	0.6	90	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H83	調査年度	平成4年	通番号	128
位　置	せ18	重複関係	H82・D131・151・166・168に切られ、D205・206を切る。						
平面形状	不整円形	長軸方位	N－117－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	6.88m	短軸長	6.16m	壁残高	12～0cm			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	18基	主柱穴	不明					
	面　積	21.9㎡							
遺　物	石器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								

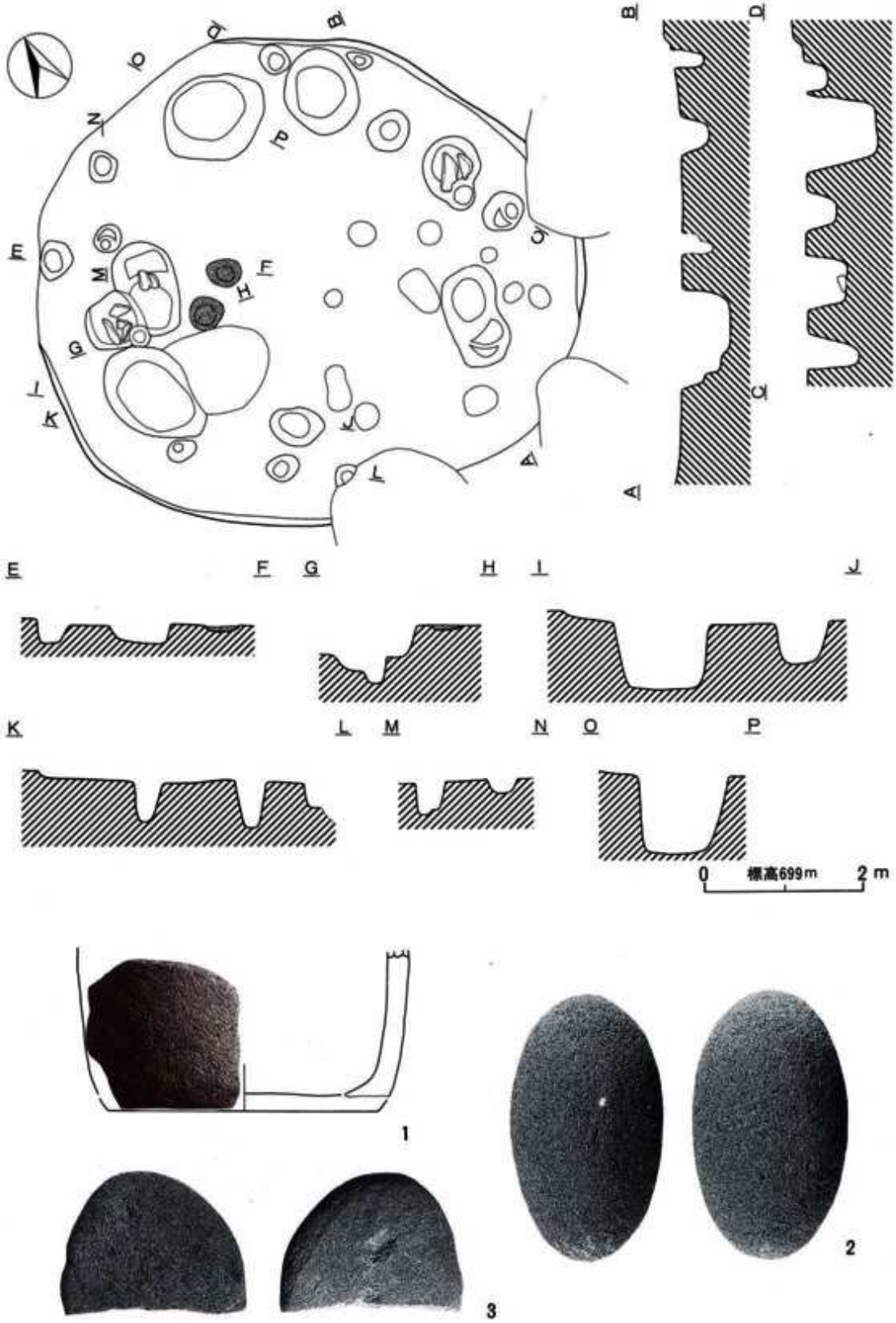


SYY 4　H83号住居址

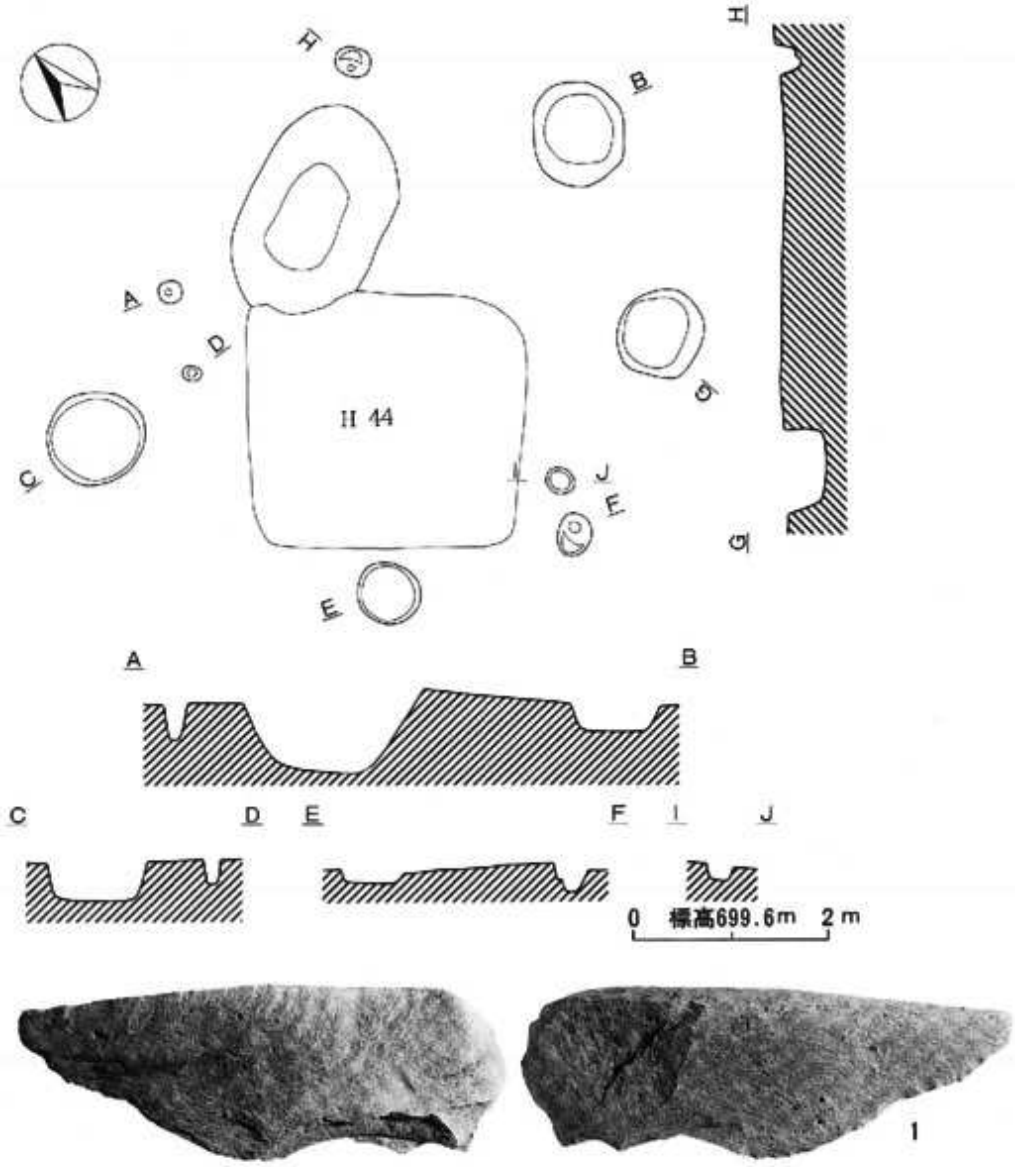
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H84	調査年度	平成4年	通番号	129
位　置	く12	重複関係	H44に切られ、H86を切る。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	―			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	10基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	石器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								



SYY 4　H84号住居址



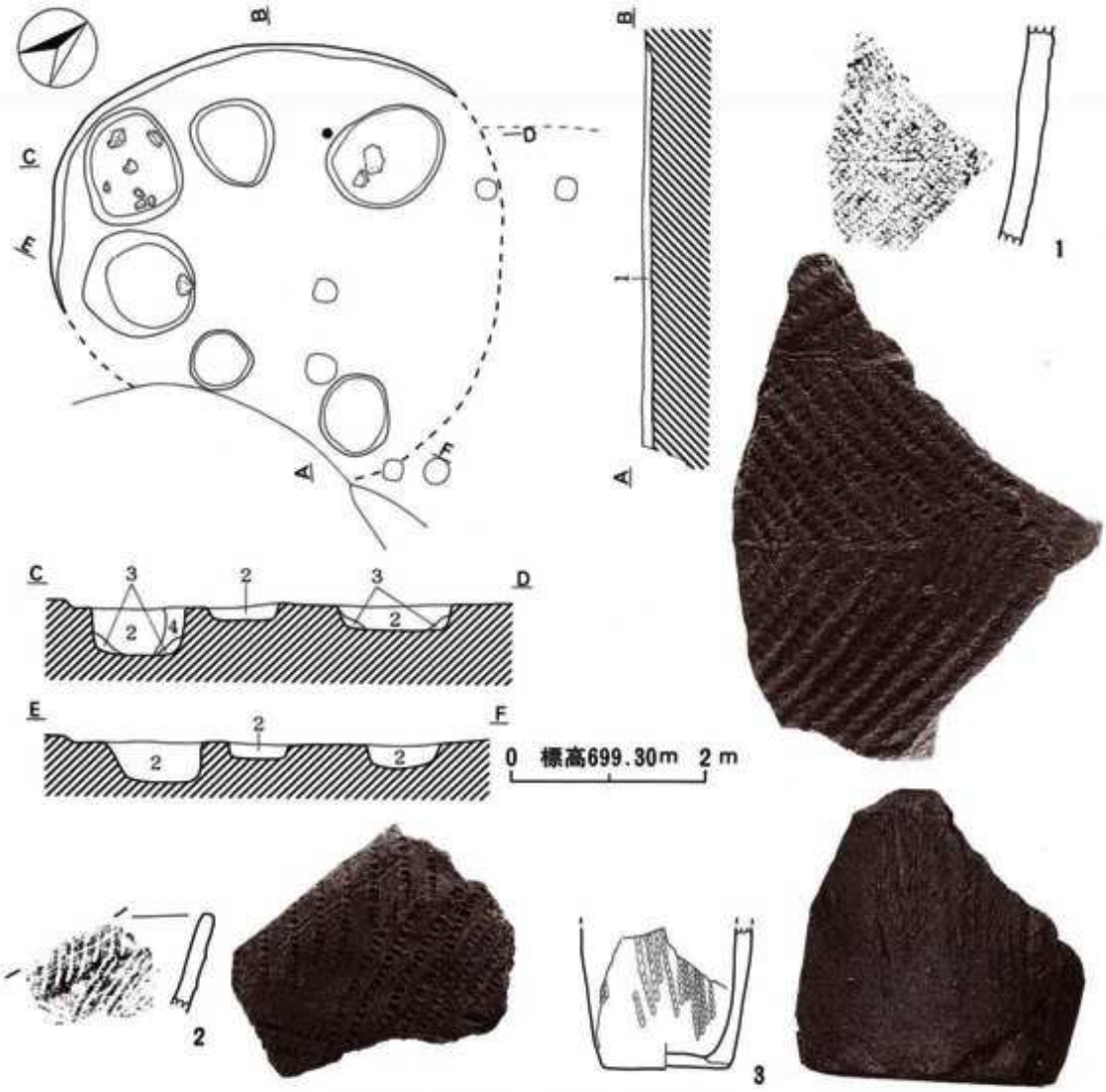
第274図　SYY 4　H83号住居址



第275図　SYY 4　H84号住居址

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ85号住居址出土遺物一覧表

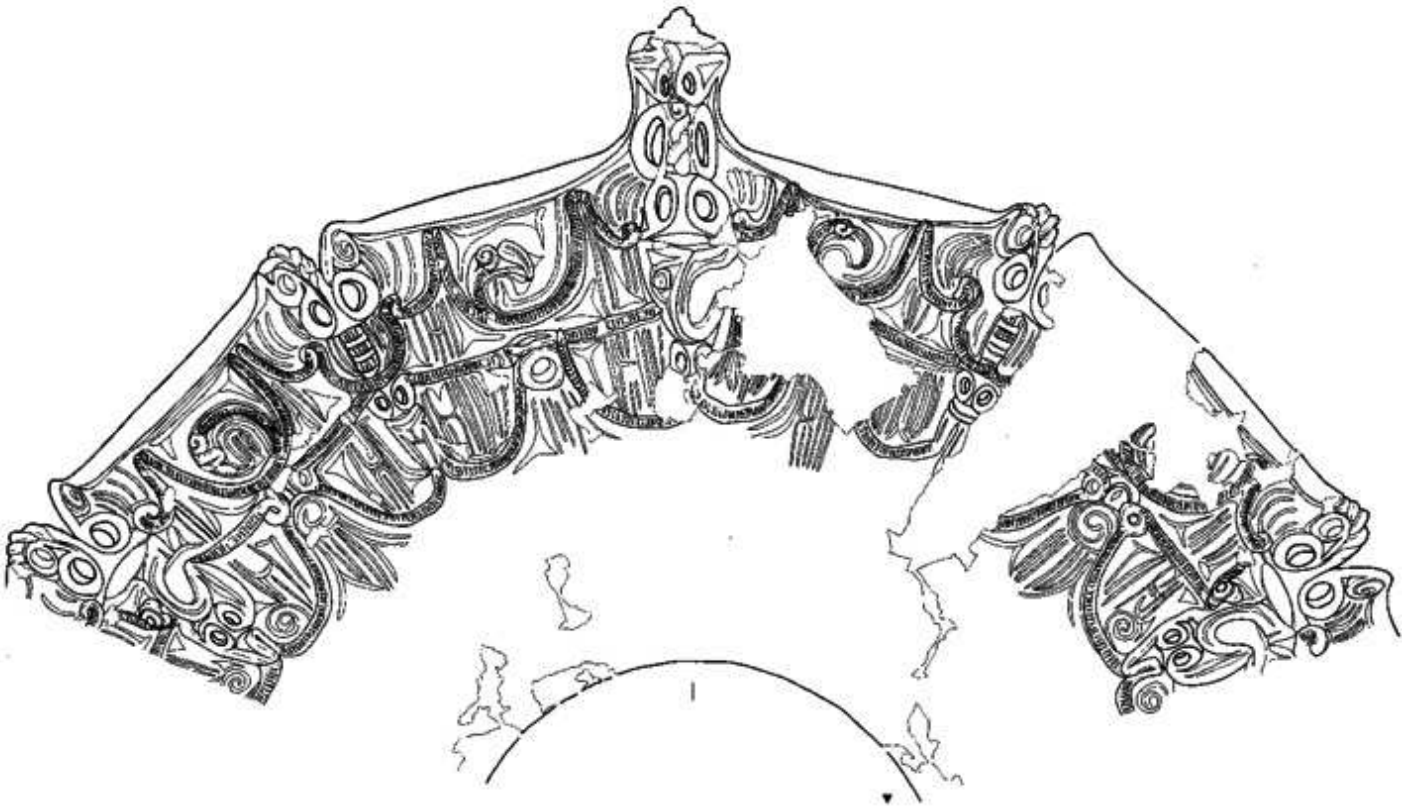
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
2	縄文深鉢	口	—	—	—	—	有尾
3	縄文深鉢	底	—	—	6.4	—	中期
4	縄文深鉢	完	66.4	50.4	16.4	—	中期

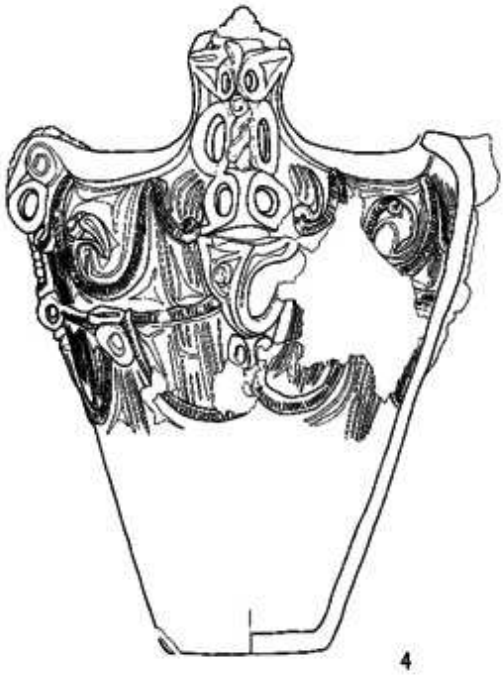


第276図　SYY 4　H85号住居址（1）

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ86号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	有尾
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	新巻
3	土師器皿	口～底	1.8	9.2	5.0	－	平安





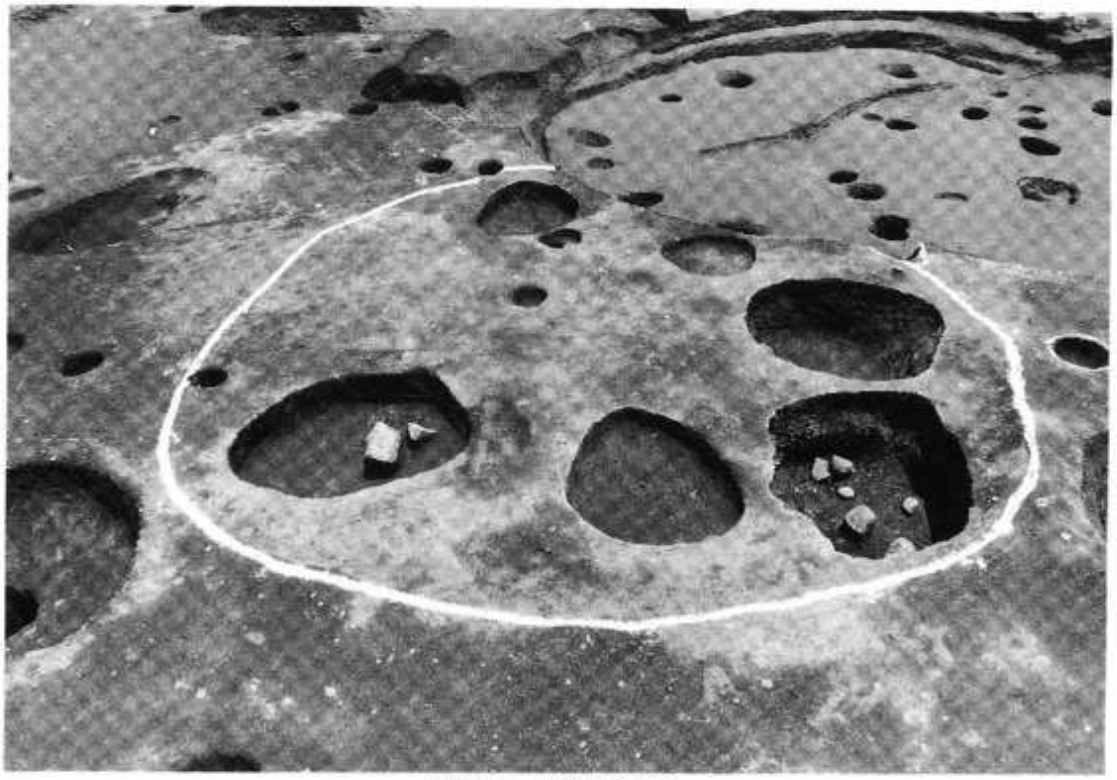
第277図　SYY 4　H85号住居址（2）

第278図　SYY 4　H85号住居址（3）

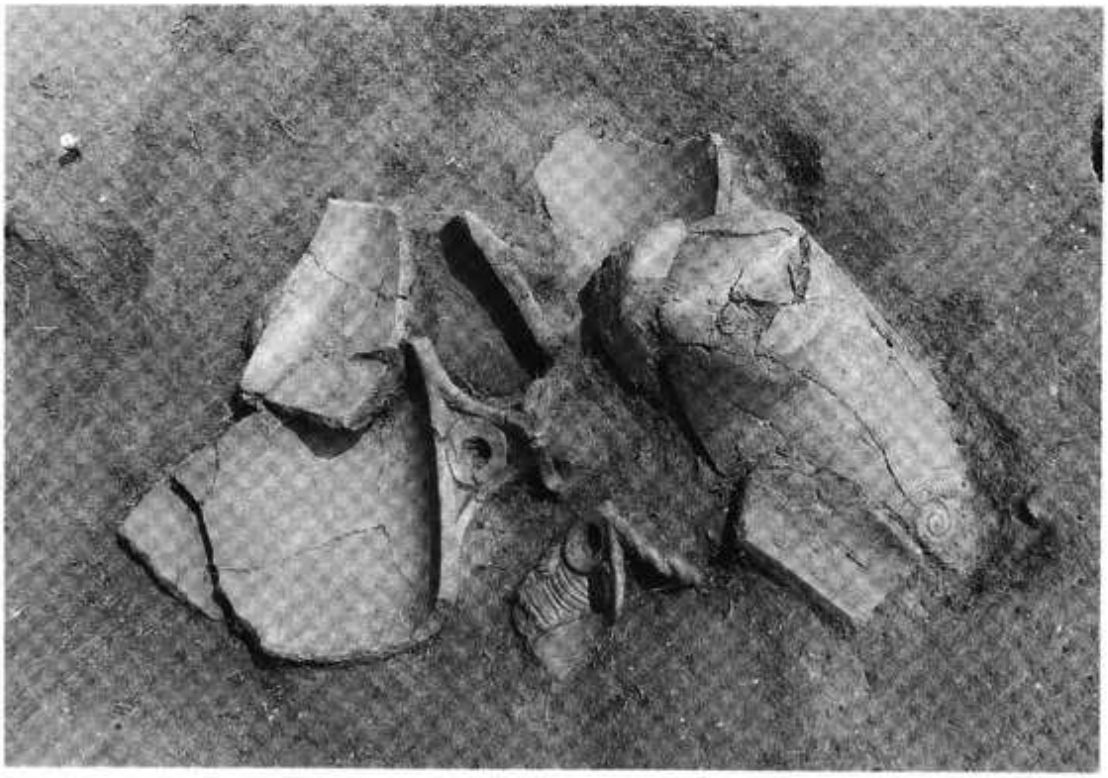
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H85	調査年度	平成4年	通番号	130
位　置	す12	重複関係	H46・73に切られ、H110・111を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	―	炉	有・(無)	カマド	(有)・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	8～0cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
覆土	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。ローム粒子（10YR 8／4）少含。 2.黒褐色土層（10YR 2／2）。ローム粒子（10YR 8／4）少含。 3.暗褐色土層（10YR 3／3）。ローム粒子（10YR 8／4）少含。 4.黒褐色土層（10YR 2／3）。ローム粒子（10YR 8／4）少含。								
遺　物	縄文土器。								
備　考	縄文時代中期中葉の住居址。								

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H93号住居址出土遺物一覧表

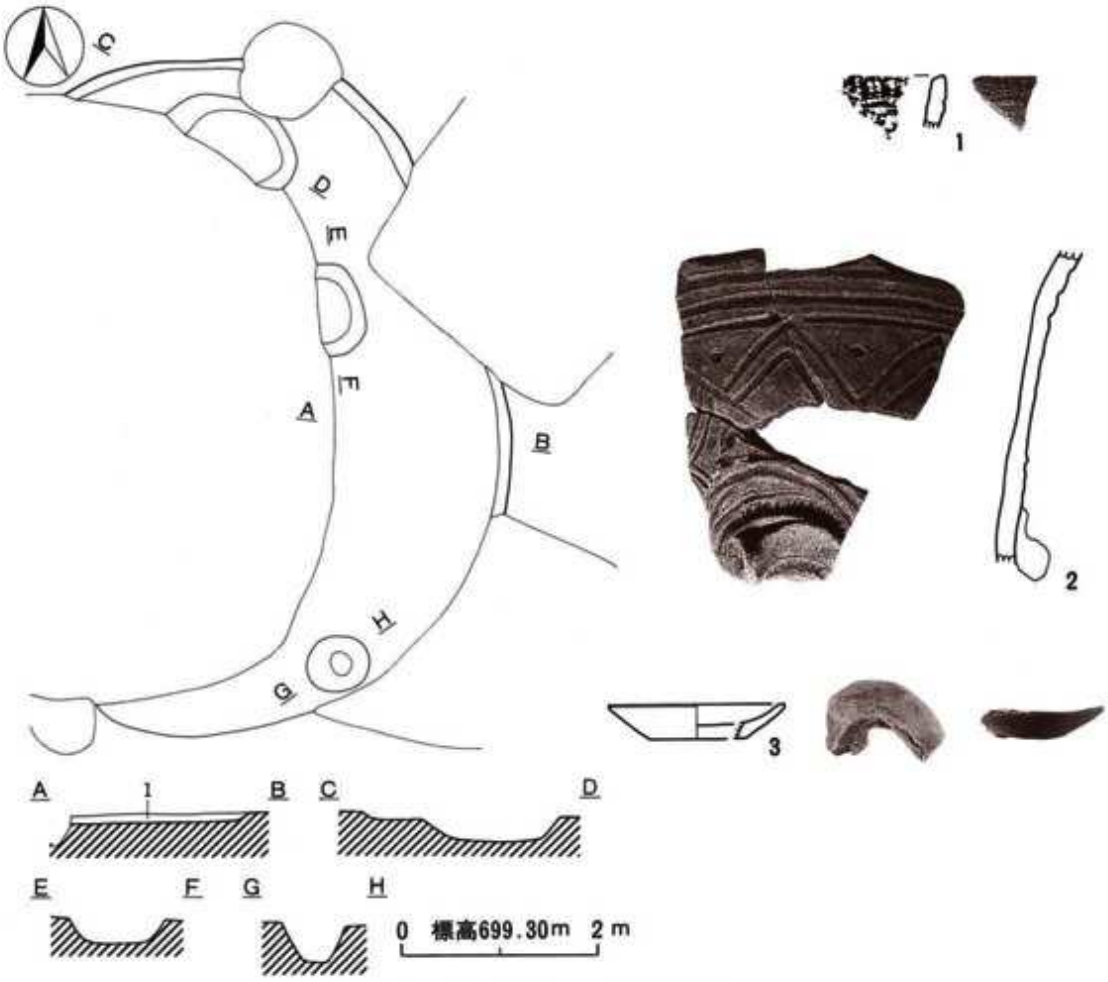
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨石	I	18.2	5.3	5.2	650	



SYY 4　H85号住居址



SYY 4　H85号住居址遺物出土状況

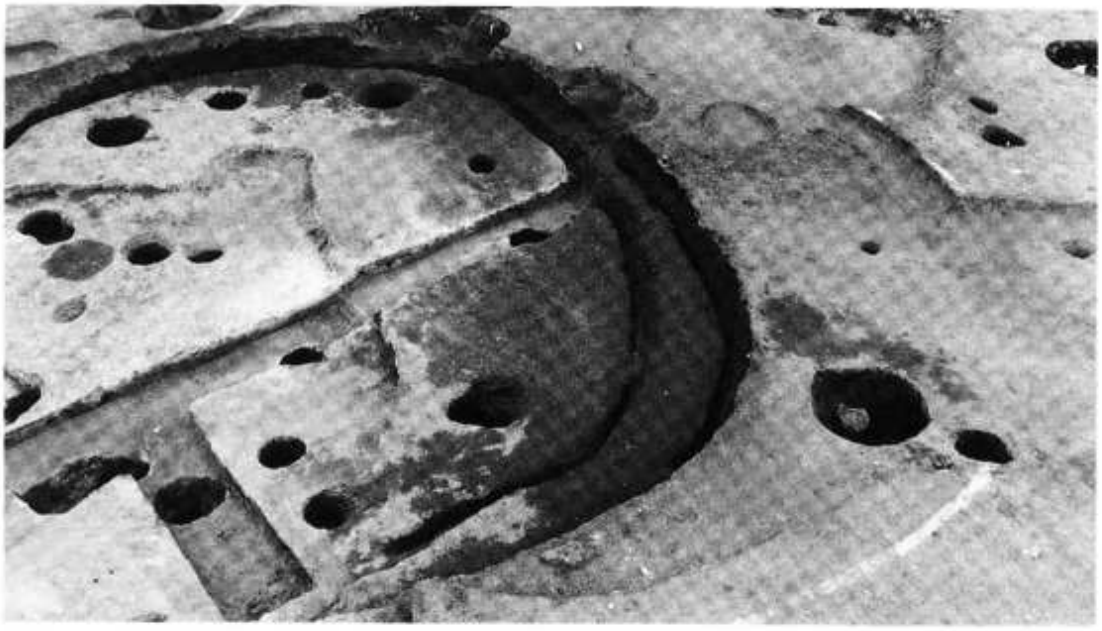


第279図　SYY 4　H86号住居址

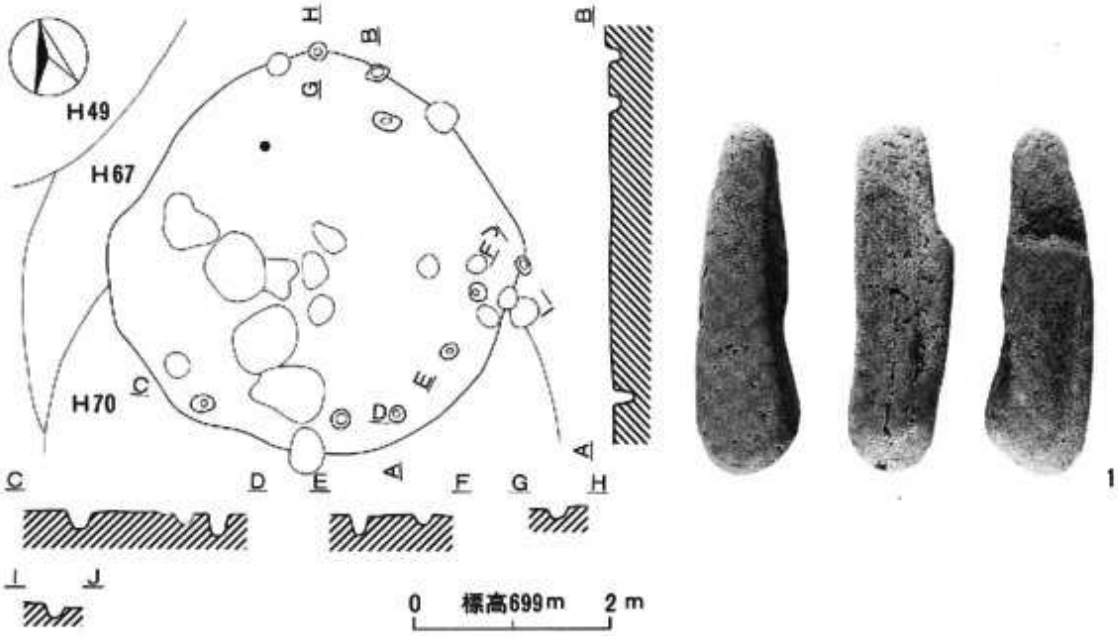
寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ94号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	加曽利E
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	曽利
3	石鏃	Ⅰ1	1.1	1.9	0.2	0.5	
4	石鏃	Ⅰ1	2.4	1.9	0.6	2.0	
5	スクレイパー	－	3.0	1.6	0.6	2.0	
6	打製石斧	Ⅳ1c	7.9	5.8	1.5	77.0	
7	凹石	Ⅱ?	9.5	5.3	3.4	180.0	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H86	調査年度	平成4年	通番号	131
位　置	さ12	重複関係	H44・45・46に切られ、H73を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	―	炉	有・[無]	カマド	[有]・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	8～0 cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	3基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
覆土	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。砂質粒子（10YR 6／6）少含。								
遺　物	縄文土器、土師器。								
備　考	縄文時代時期不明の住居址。								

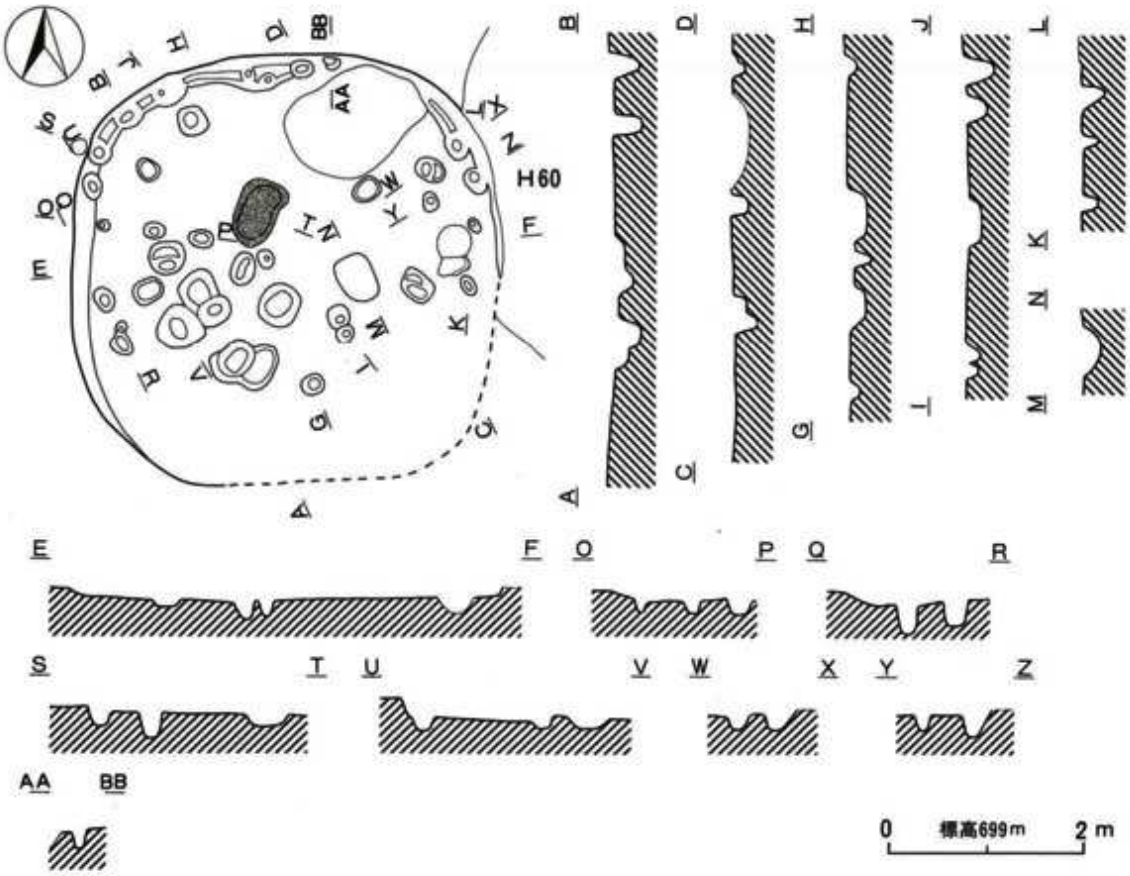


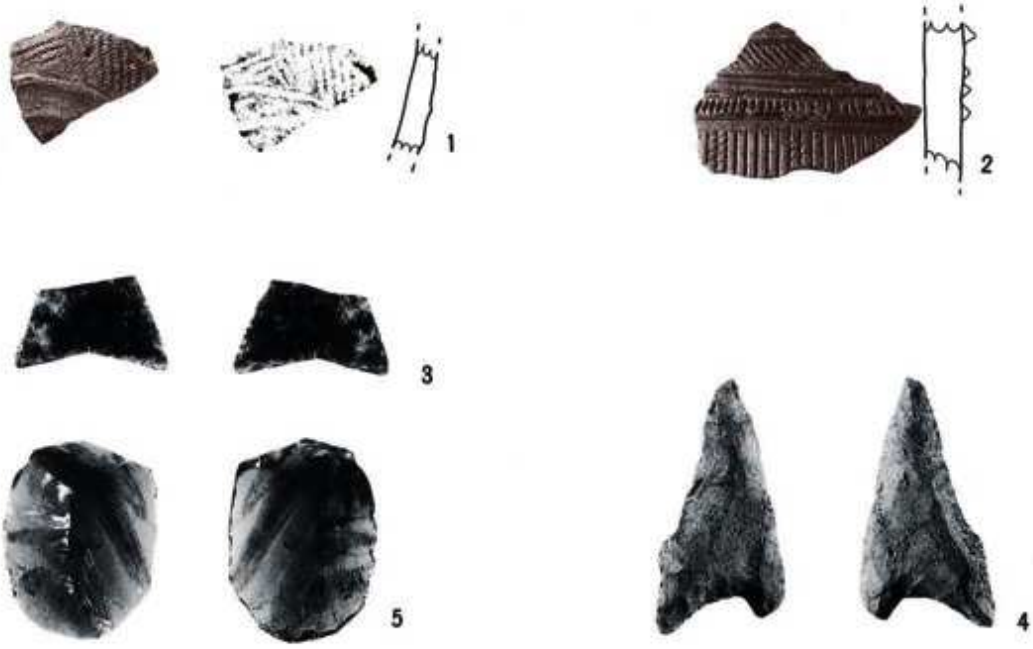
SYY 4　H86号住居址



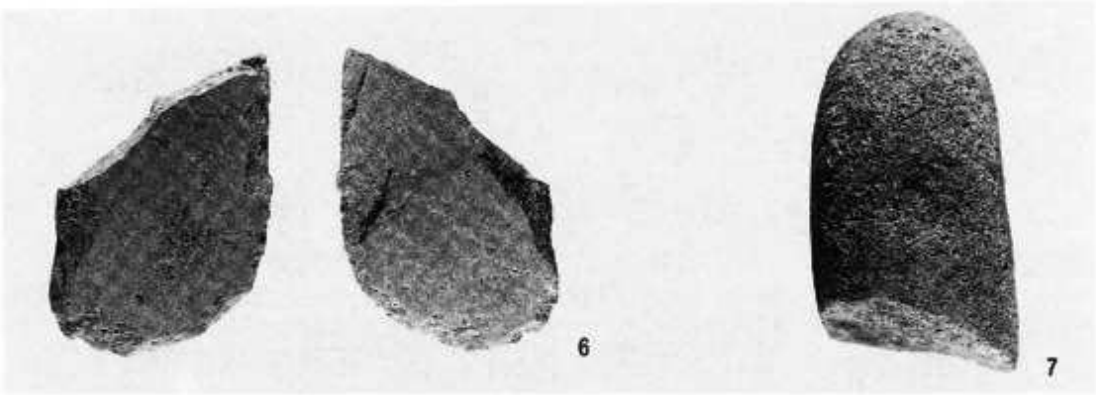
第280図　SYY 4　H93号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H93	調査年度	平成4年	通番号	132
位　置	く16	重複関係	H49・67・70に切られる。						
平面形状	円形	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	4.26m	短軸長	4.12m	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	9基	主柱穴	不明					
	面　積	10.5m²							
遺　物	石器。								
備　考	中期時期不明の住居址。								



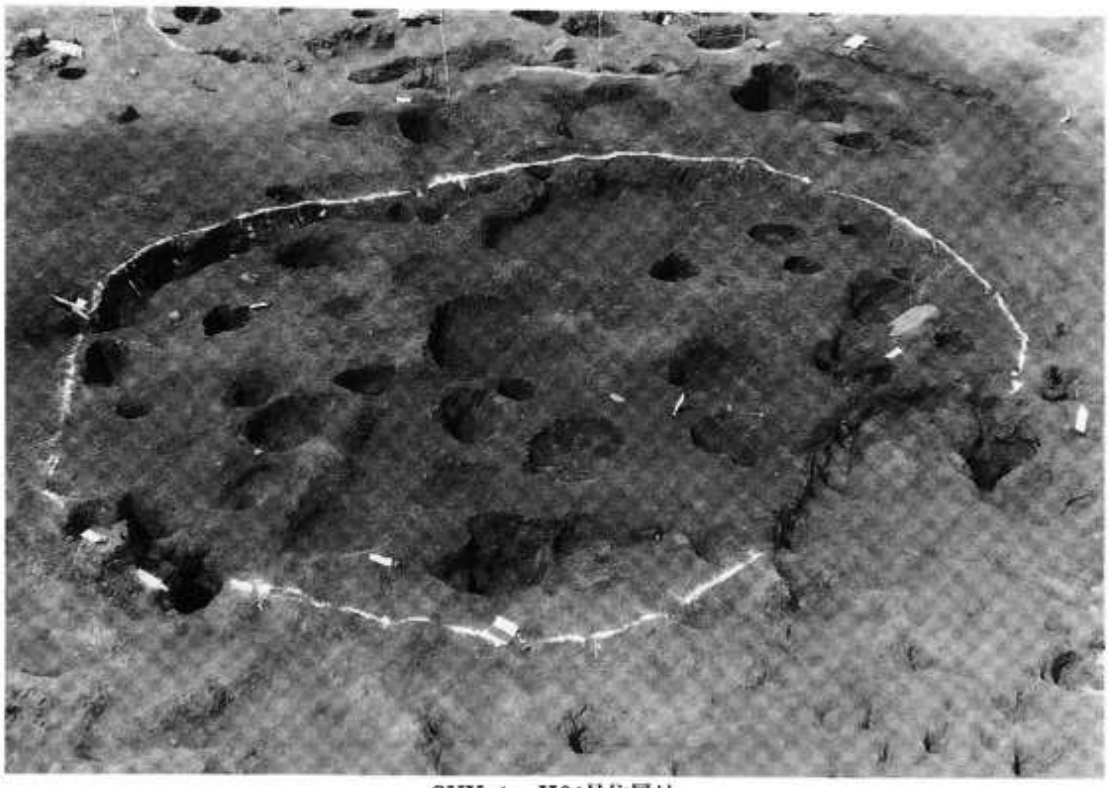


第281図　SYY 4　H94号住居址（1）

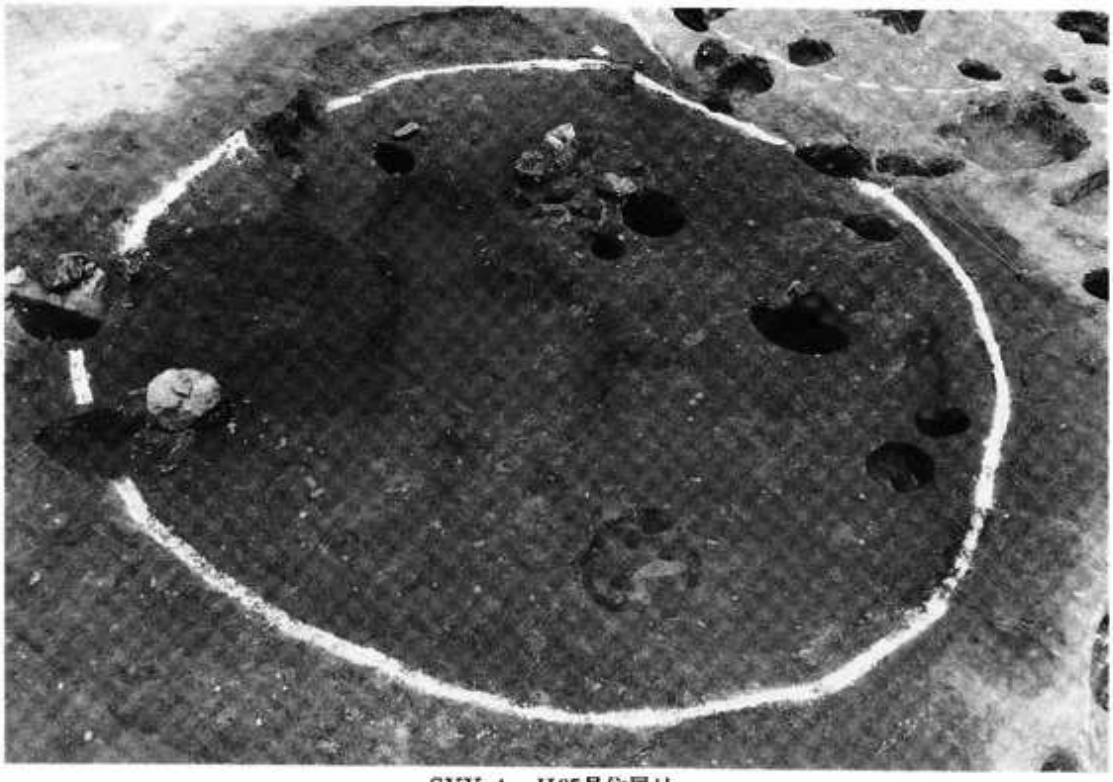


第282図　SYY 4　H94号住居址（2）

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H94	調査年度	平成4年	通番号	133
位　置	け18	重複関係	H60・62に切られ、H72を切る。						
平面形状	隅丸方形	長軸方位	N－89－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	4.4m	短軸長	4.32m	壁残高	14～0cm			
	炉・カマド長径	70cm	炉・カマド短径	48cm	炉・カマド深度	12cm			
	柱穴数	36基	主柱穴	不明					
	面　積	不明							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期時期不明の住居址。								



SYY 4　H94号住居址



SYY 4　H95号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H95	調査年度	平成4年	通番号	134
位　置	け17	重複関係	H60に切られ、H70を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	3.62m	短軸長	3.44m	壁残高	20～0cm			
	炉・カマド長径	78cm	炉・カマド短径	54cm	炉・カマド深度	20cm			
	柱穴数	16基	主柱穴	不明					
	面　積	7.8m²							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期後半の住居址。								

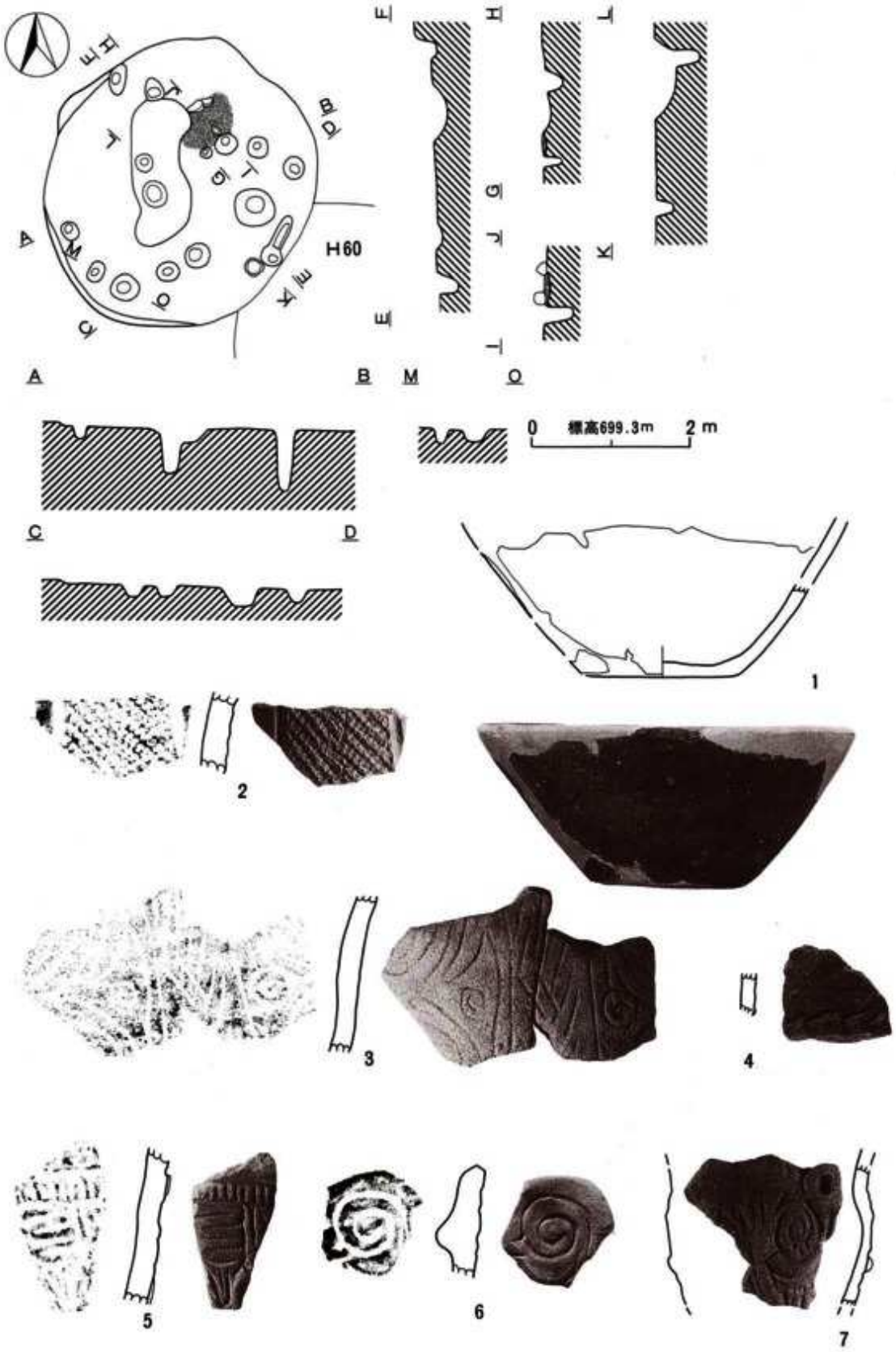
寄山遺跡4地区（SYY 4）H95号住居址出土遺物一覧表　No.1

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文浅鉢	底	―	―	10.0	―	
2	縄文深鉢	体	―	―	―	―	加曽利E
3	縄文深鉢	体	―	―	―	―	唐草文
4	縄文深鉢	体	―	―	―	―	繊維
5	縄文深鉢	体	―	―	―	―	勝坂
6	縄文深鉢	口	―	―	―	―	勝坂
7	縄文深鉢	体	―	―	―	―	勝坂
8	打製石斧	II？a	9.7	5.3	1.6	94	
9	打製石斧	I？b	9.9	5.0	1.1	64	
10	スクレイパー	―	6.5	6.2	1.2	45	
11	スクレイパー	―	5.6	6.4	0.7	26	

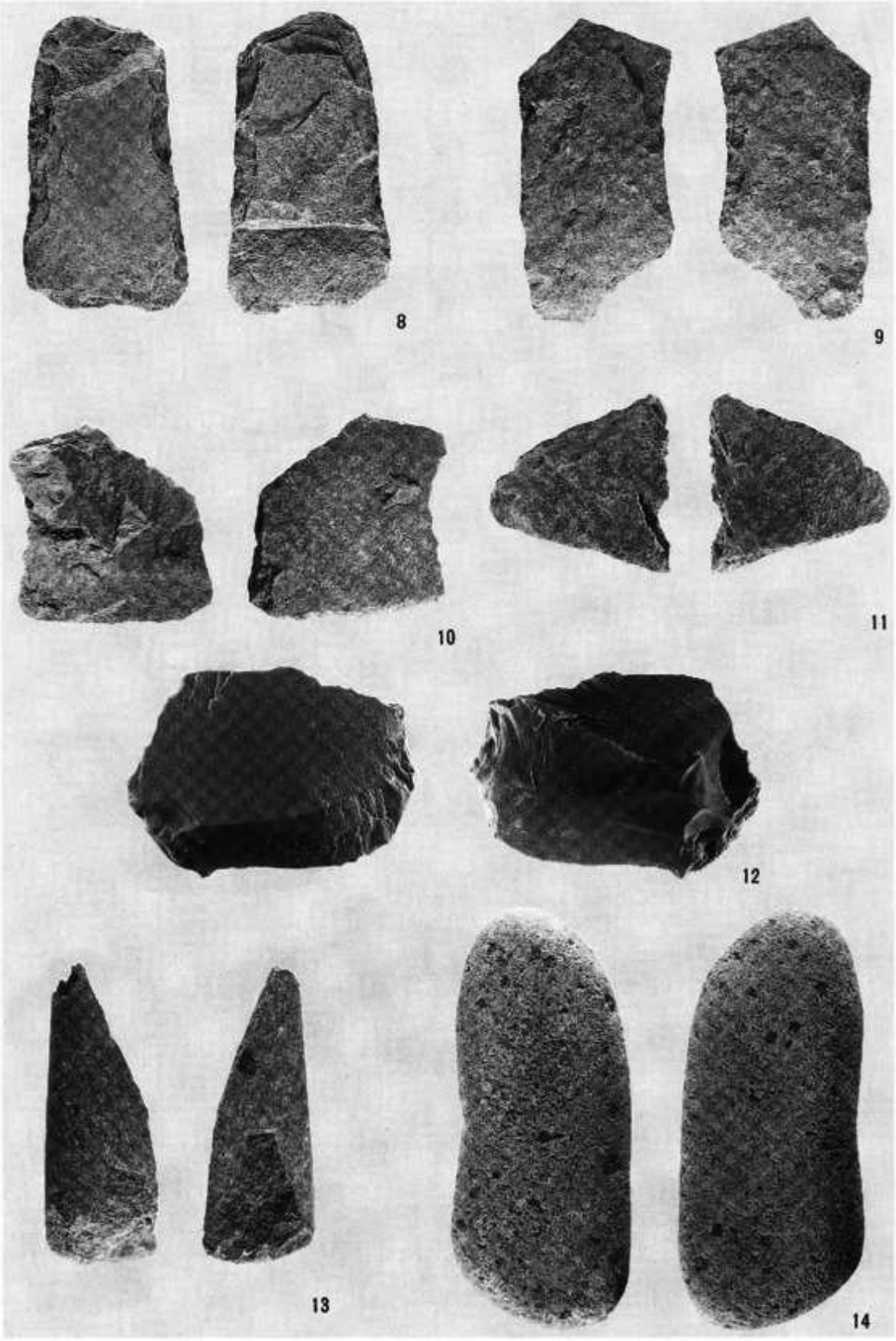
寄山遺跡4地区（SYY 4）H95号住居址出土遺物一覧表　No. 2

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
12	スクレイパー	―	2.9	4.2	0.9	11	
13	磨製石斧	II	9.2	3.4	3.2	158	
14	磨石	I	12.6	5.6	3.5	468	

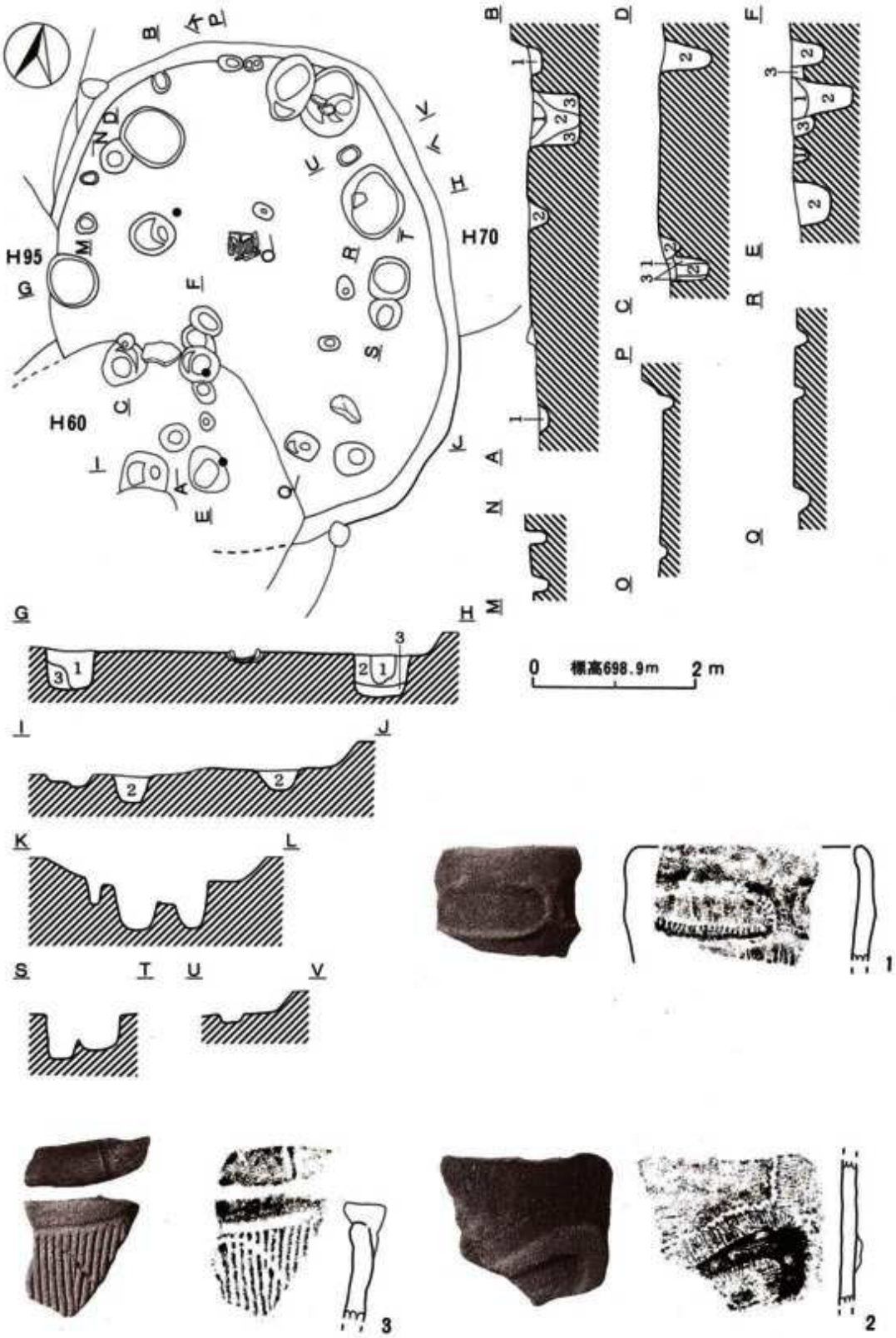
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H96	調査年度	平成4年	通番号	135
位　置	く17	重複関係	H60・70・95に切られる。						
平面形状	楕円形	長軸方位	N－79－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	6.24m	短軸長	4.5m	壁残高	30～0cm			
	炉・カマド長径	46cm	炉・カマド短径	40cm	炉・カマド深度	12cm			
	柱穴数	21基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
覆土	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。φ 1cm大パミス含む。 2.黒褐色土層（7.5YR 3／2）。ローム粒子（10YR 8／4）パミスを含む。 3.黒褐色土層（10YR 2／3）。パミス多含。								
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代中期中葉の住居址。								



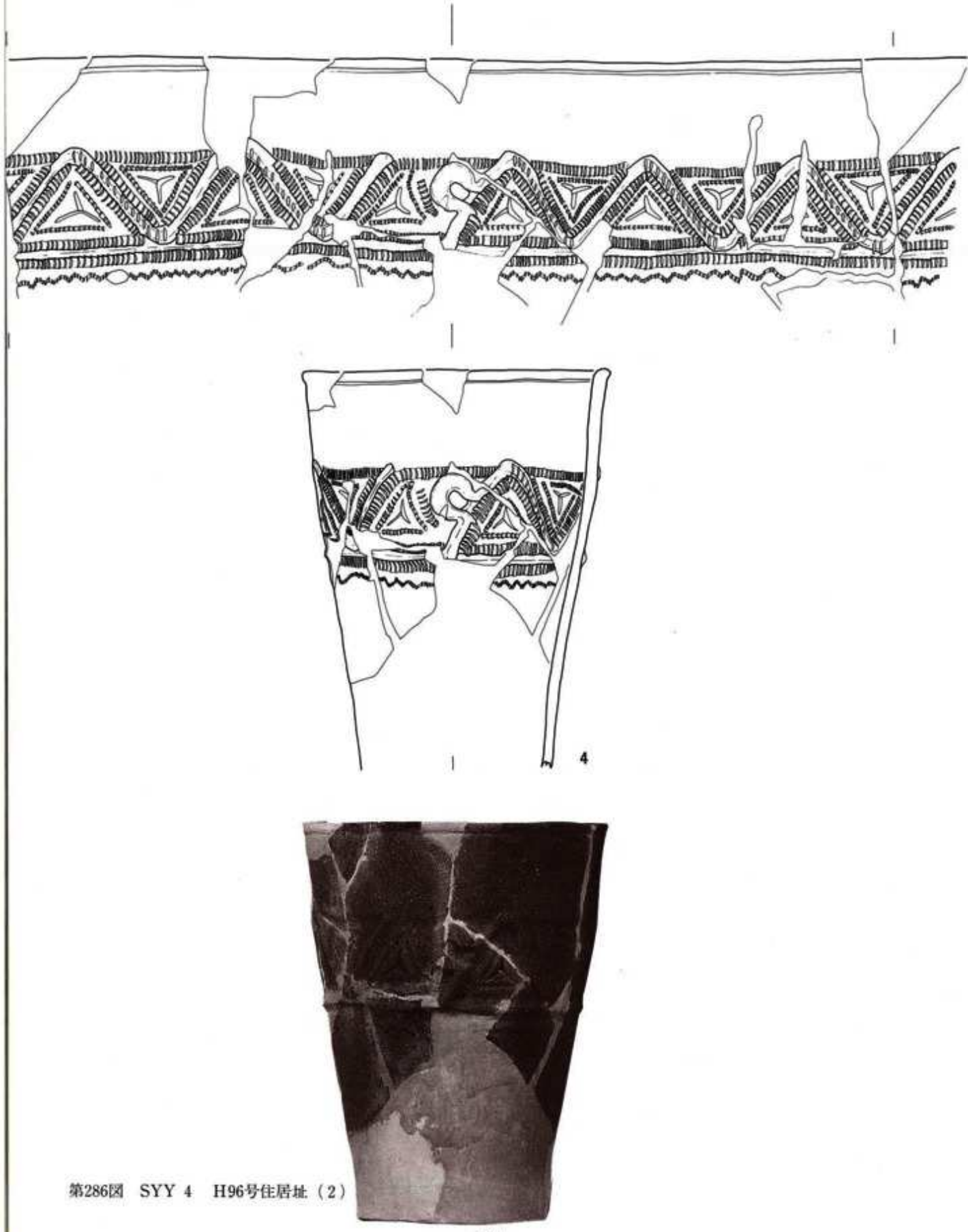
第283図　SYY 4　H95号住居址（1）



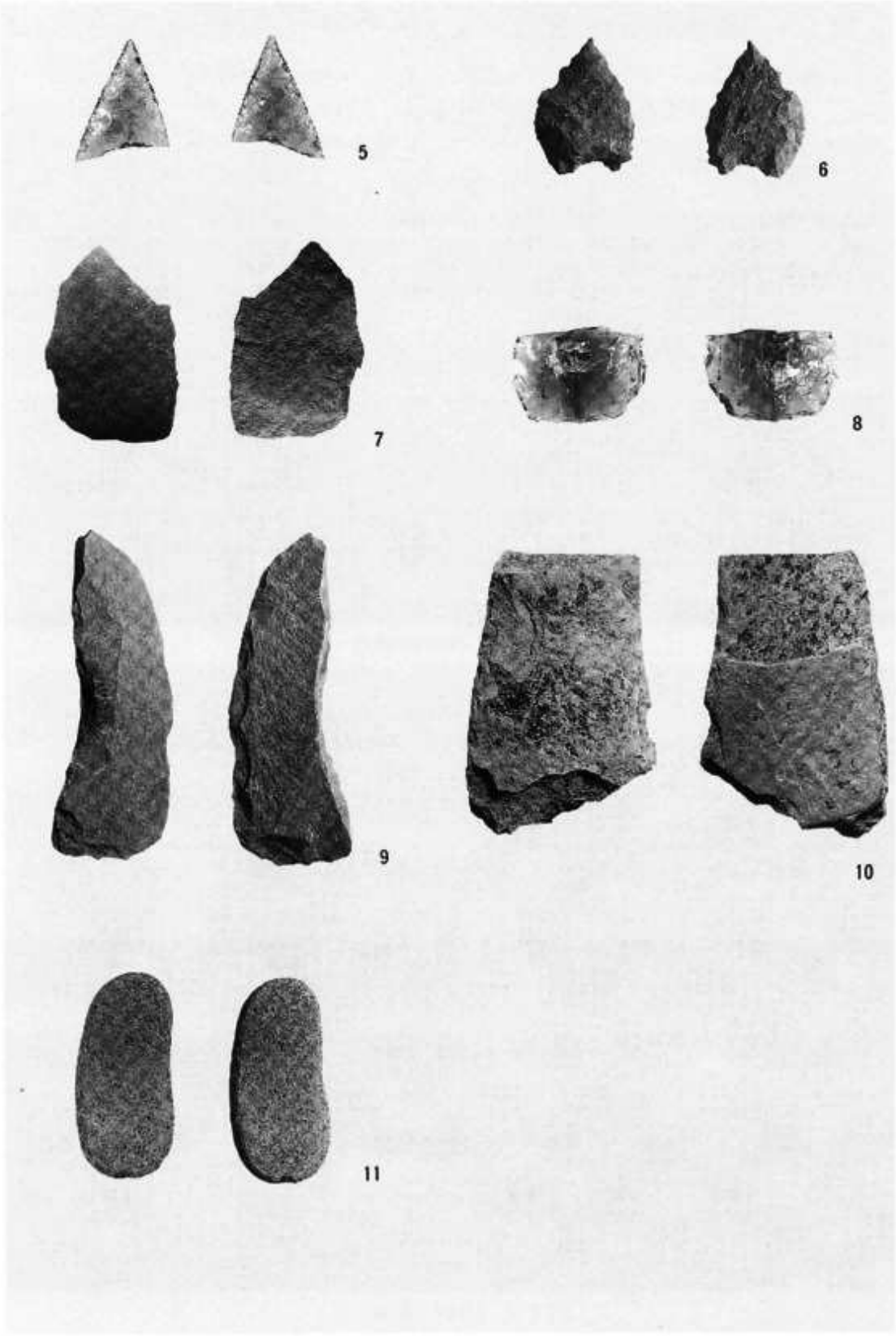
第284図　SYY 4　H95号住居址（2）



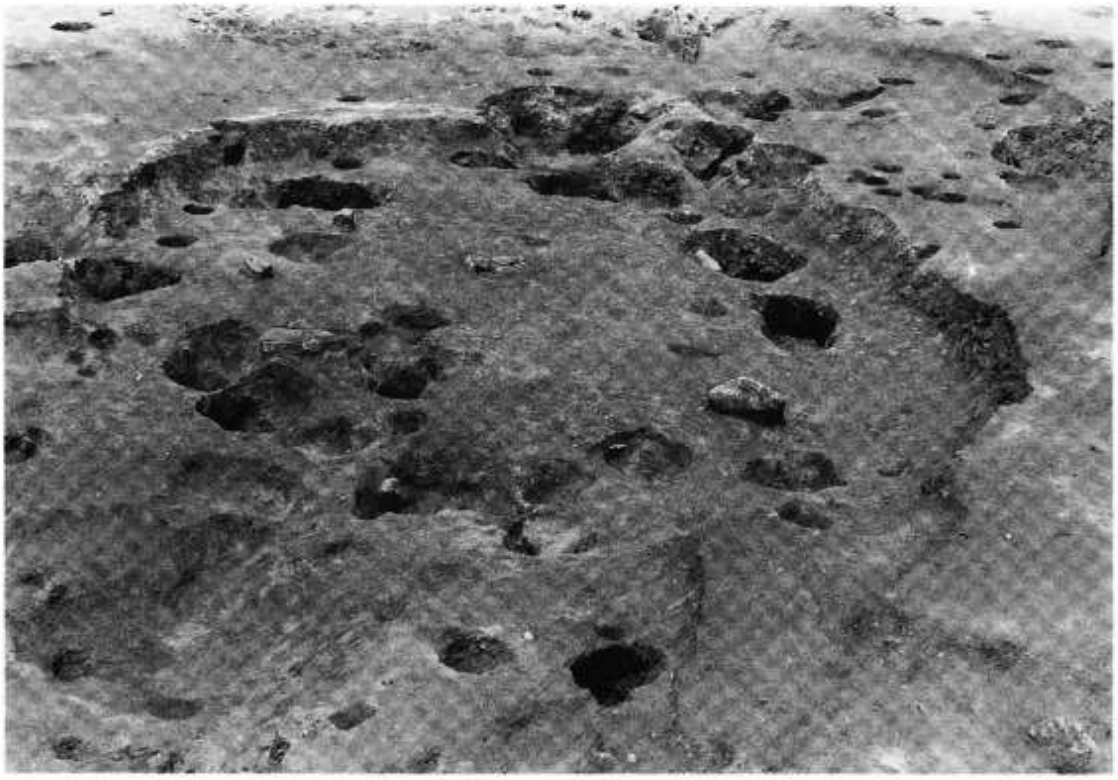
第285図　SYY 4　H96号住居址（1）



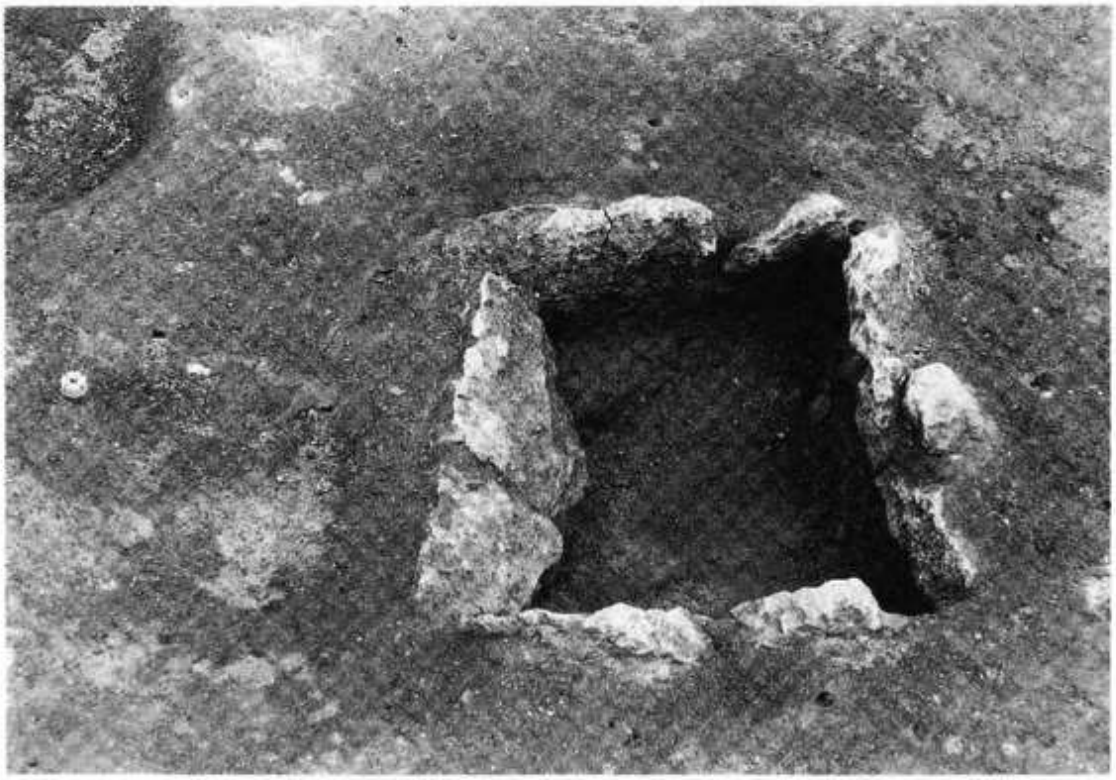
第286図　SYY 4　H96号住居址（2）



第287図　SYY 4　H96号住居址（3）



SYY 4　H96号住居址

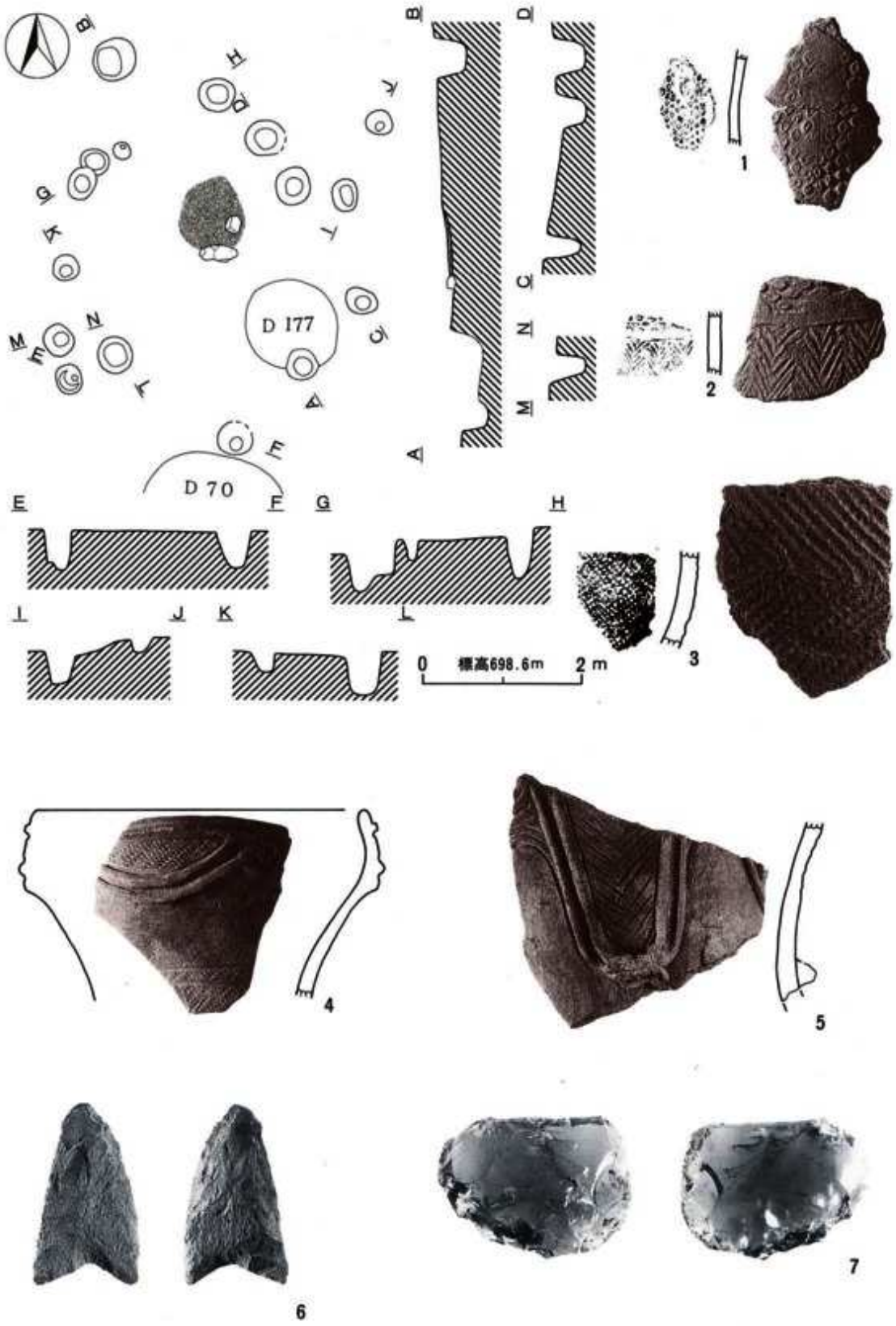


SYY 4　H96号住居址炉址

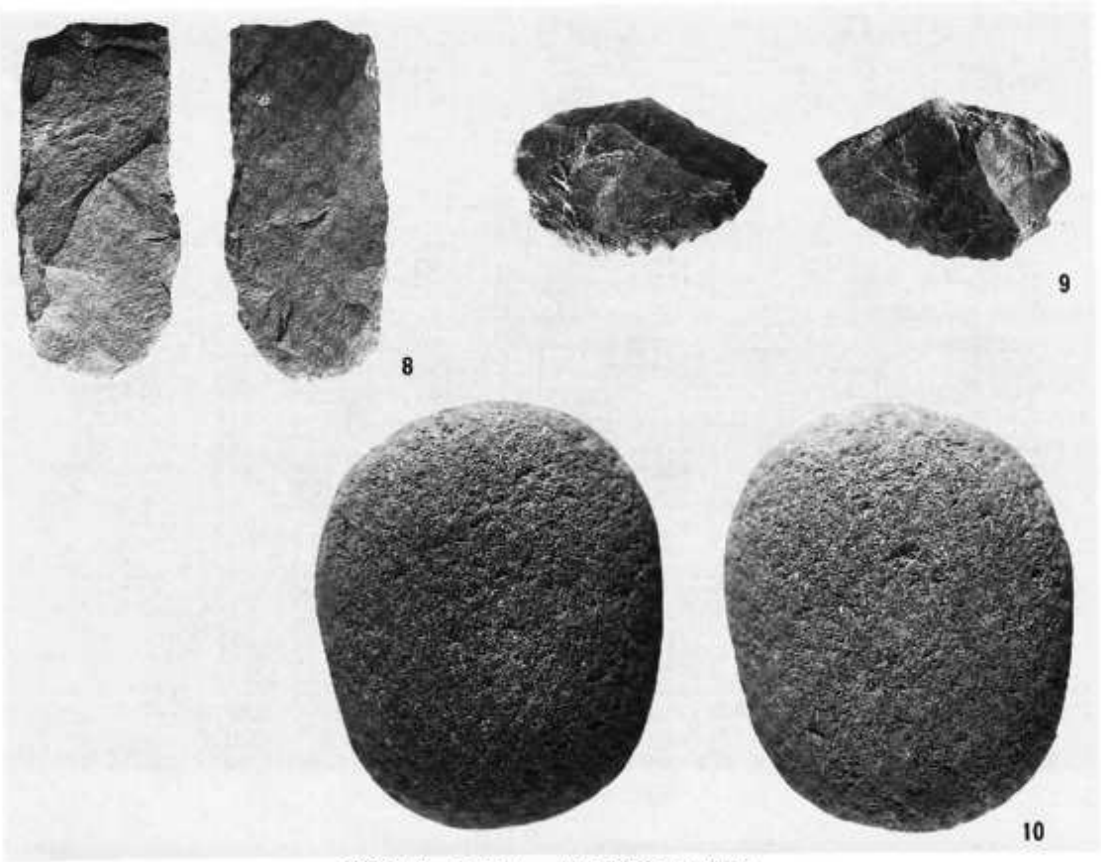
寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ96号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	勝坂
3	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
4	縄文深鉢	口～体	－	21.20	－	－	勝坂
5	石鏃	Ⅰ１	1.76	1.43	0.32	1.0	片脚
6	石鏃	Ⅰ１	1.80	1.58	0.45	2.0	
7	スクレイパー	－	12.40	8.59	1.34	180.0	
8	スクレイパー	－	1.54	2.13	0.57	2.0	
9	打製石斧	Ⅱ１ｏ	10.70	3.81	1.13	58.0	
10	打製石斧	Ⅱ？ｂ	9.20	6.02	1.56	124.0	
11	磨石	Ⅰ	6.80	3.21	0.70	28.0	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H97	調査年度	平成４年	通番号	136
位　置	ち17	重複関係	D70・77に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	－	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	－	短軸長	－	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	88センチ	炉・カマド短径	80cm	炉・カマド深度	12cm			
	柱穴数	16基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期中葉の住居址。								



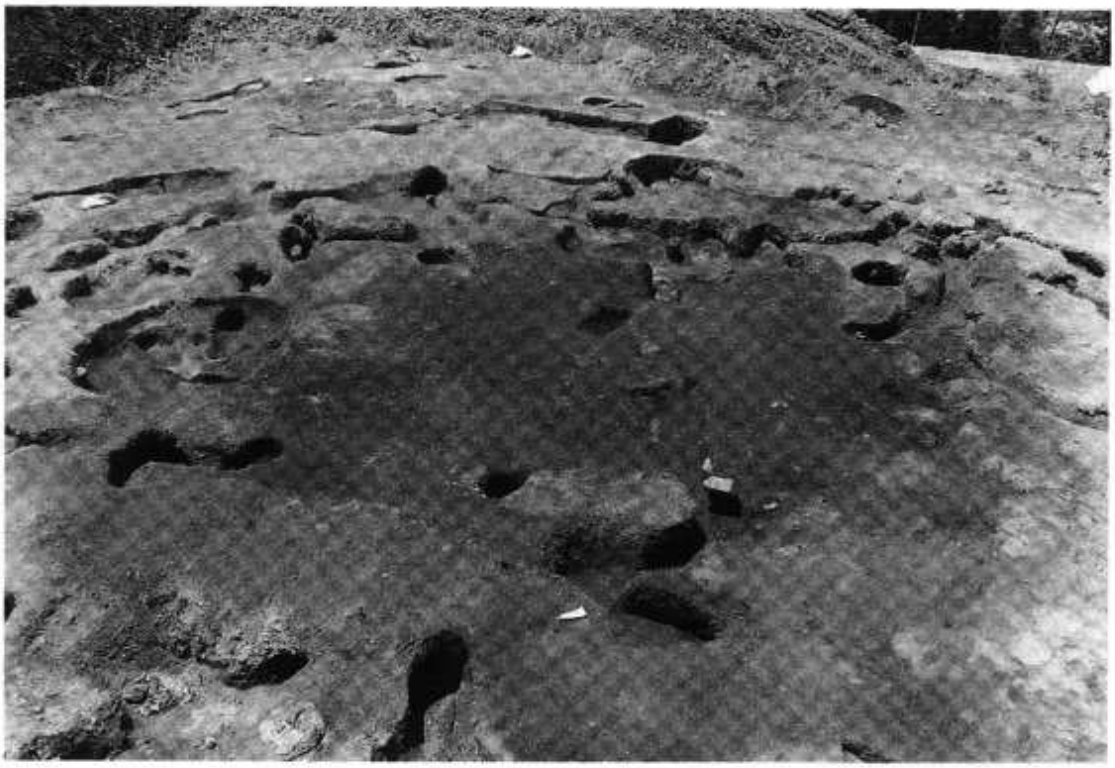
第288図　SYY 4　H97号住居址（1）



第289図　SYY 4　H97号住居址（2）

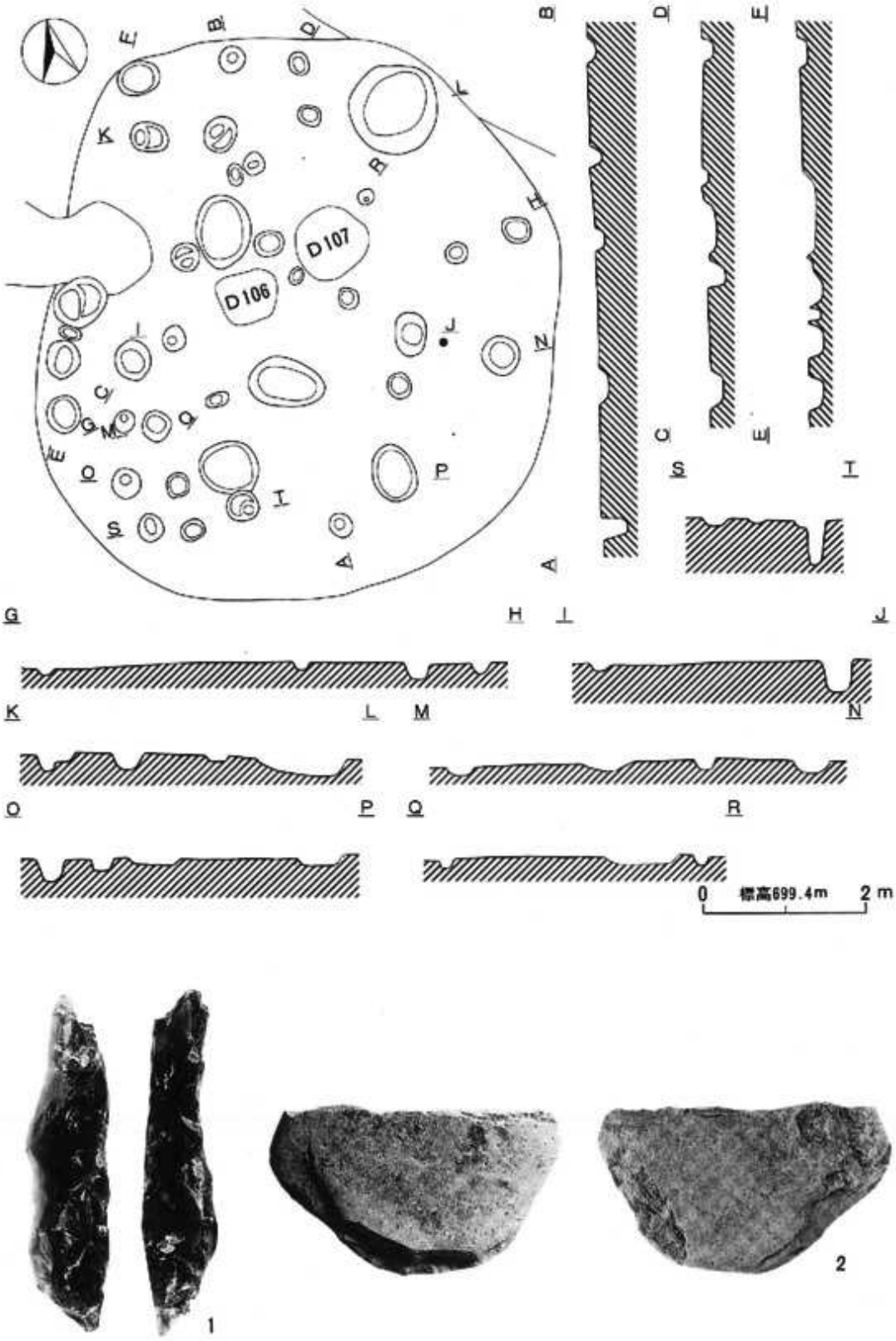
寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H97号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
3	縄文深鉢	体	—	—	—	—	繊維
4	縄文深鉢	口	—	20.60	—	—	加曽利E
5	縄文深鉢	体	—	—	—	—	唐草文
6	石鏃	I 1	2.77	1.73	0.50	0.3	
7	スクレイパー	—	2.36	3.08	1.04	0.8	
8	打製石斧	I 1 c	9.40	4.28	1.18	68.0	
9	スクレイパー	—	4.05	6.62	1.30	36.0	
10	磨石	I	10.30	8.44	4.34	540.0	

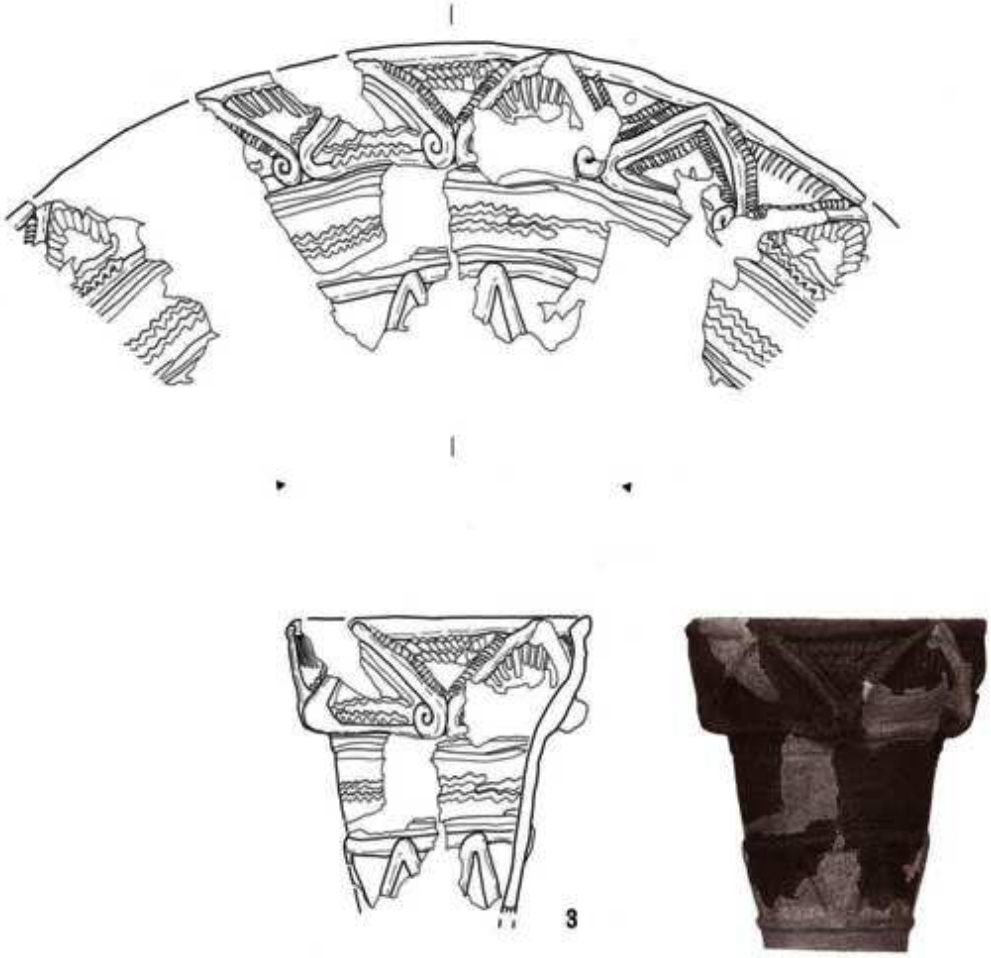


SYY 4　H97号住居址

SYY 4　H98号住居址



第291図　SYY 4　H98号住居址（1）



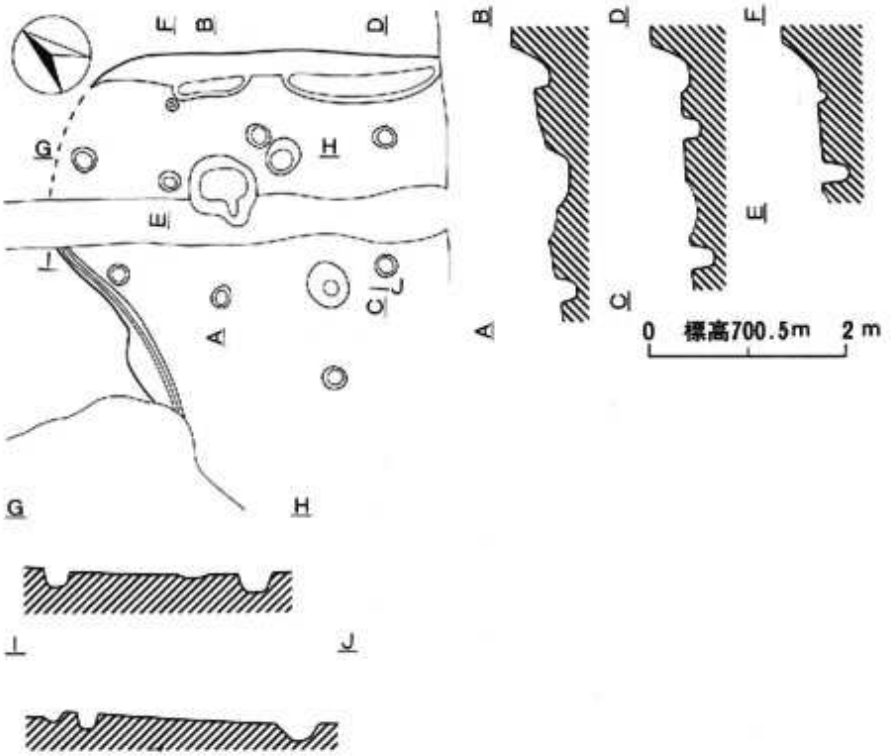
第291図　SYY 4　H98号住居址（2）

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H98号住居址出土遺物一覧表

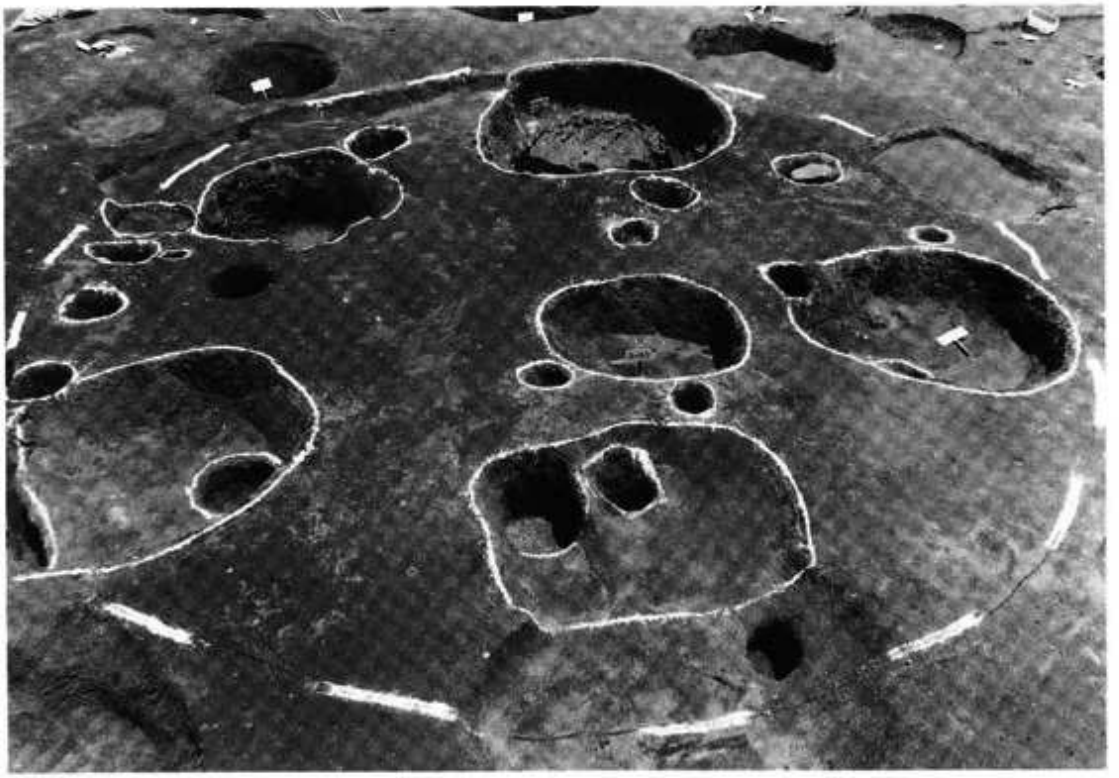
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	黒曜石	—	10.00	2.84	2.14	56	
2	礫器	—	5.21	8.91	1.64	110	
3	縄文深鉢	口～体	—	15.50	—	—	勝坂

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H98	調査年度	平成4年	通番号	137
位　置	こ16	重複関係	H49に切られる。						
平面形状	楕円形	長軸方位	N－104－E	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	6.9m	短軸長	6.4m	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	37基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期中葉の住居址。								

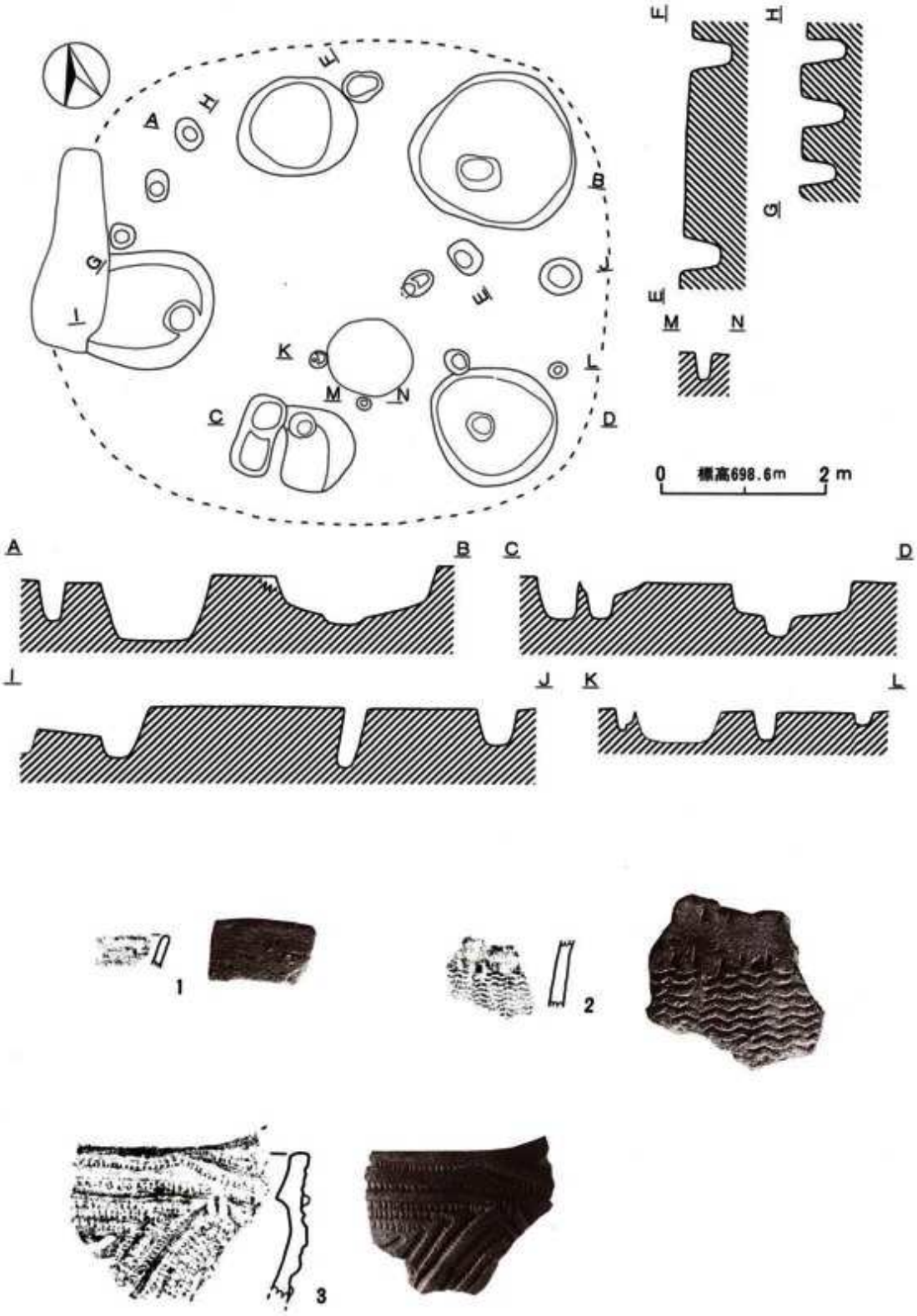
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H99	調査年度	平成4年	通番号	138
位　置	お16	重複関係	H54・M6に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	－	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	－	短軸長	－	壁残高	36～0 cm			
	柱穴数	12基	主柱穴	不明					
備　考	時代不明の住居址。								



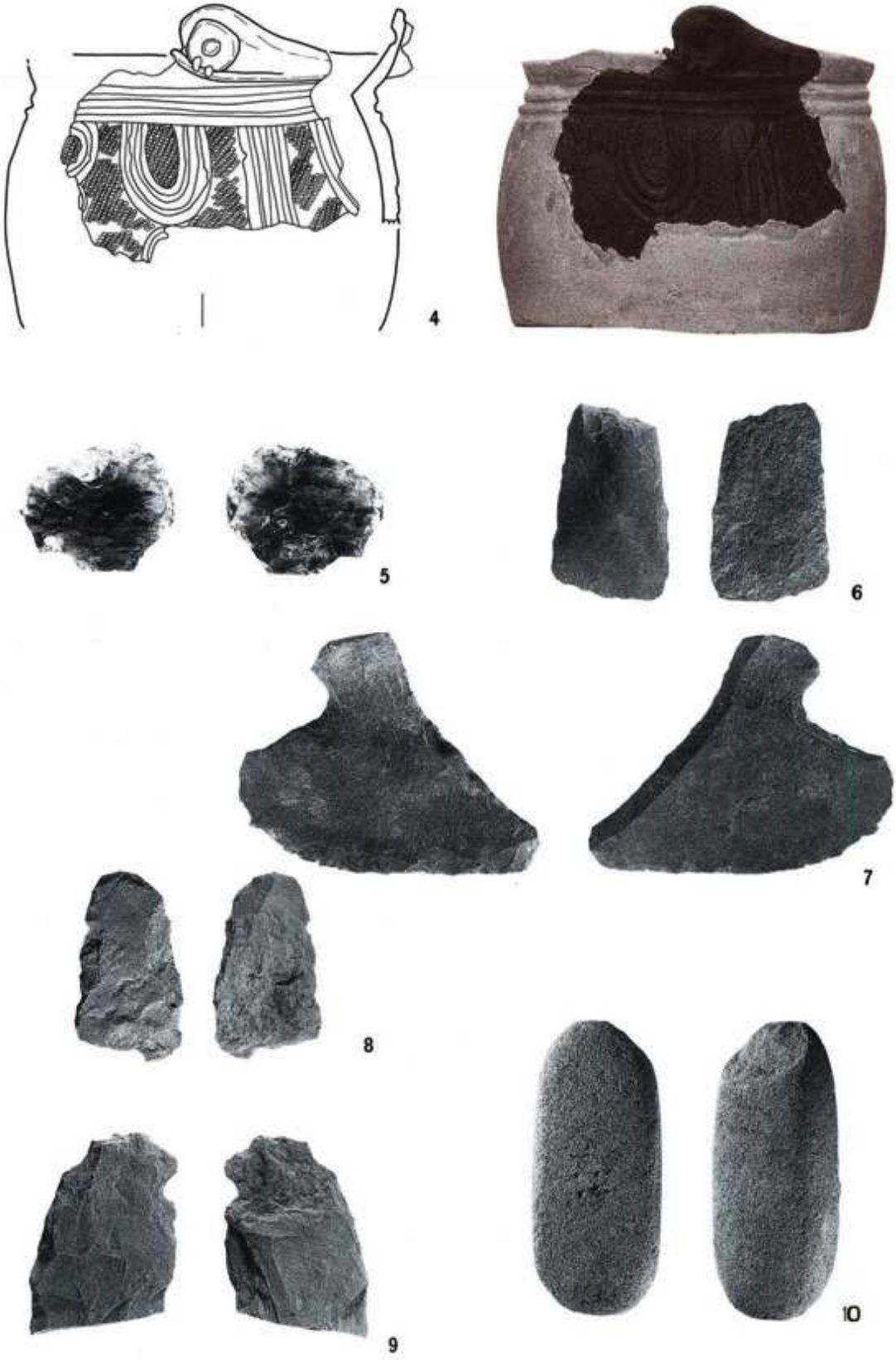
第292図　SYY 4　H99号住居址



SYY 4　H100号住居址



第293図　SYY 4　H100号住居址（1）

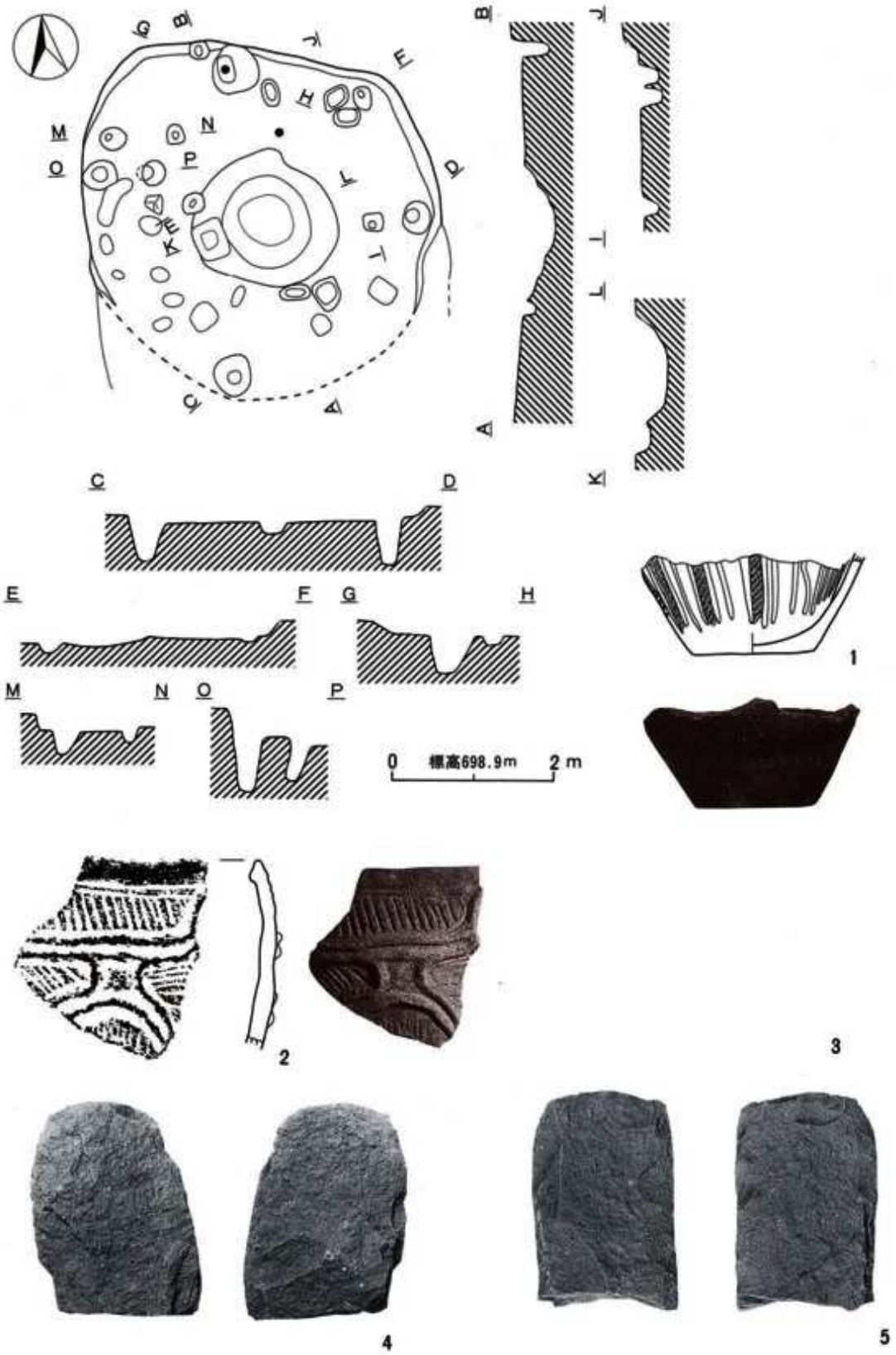


第294図　SYY 4　H100号住居址（2）

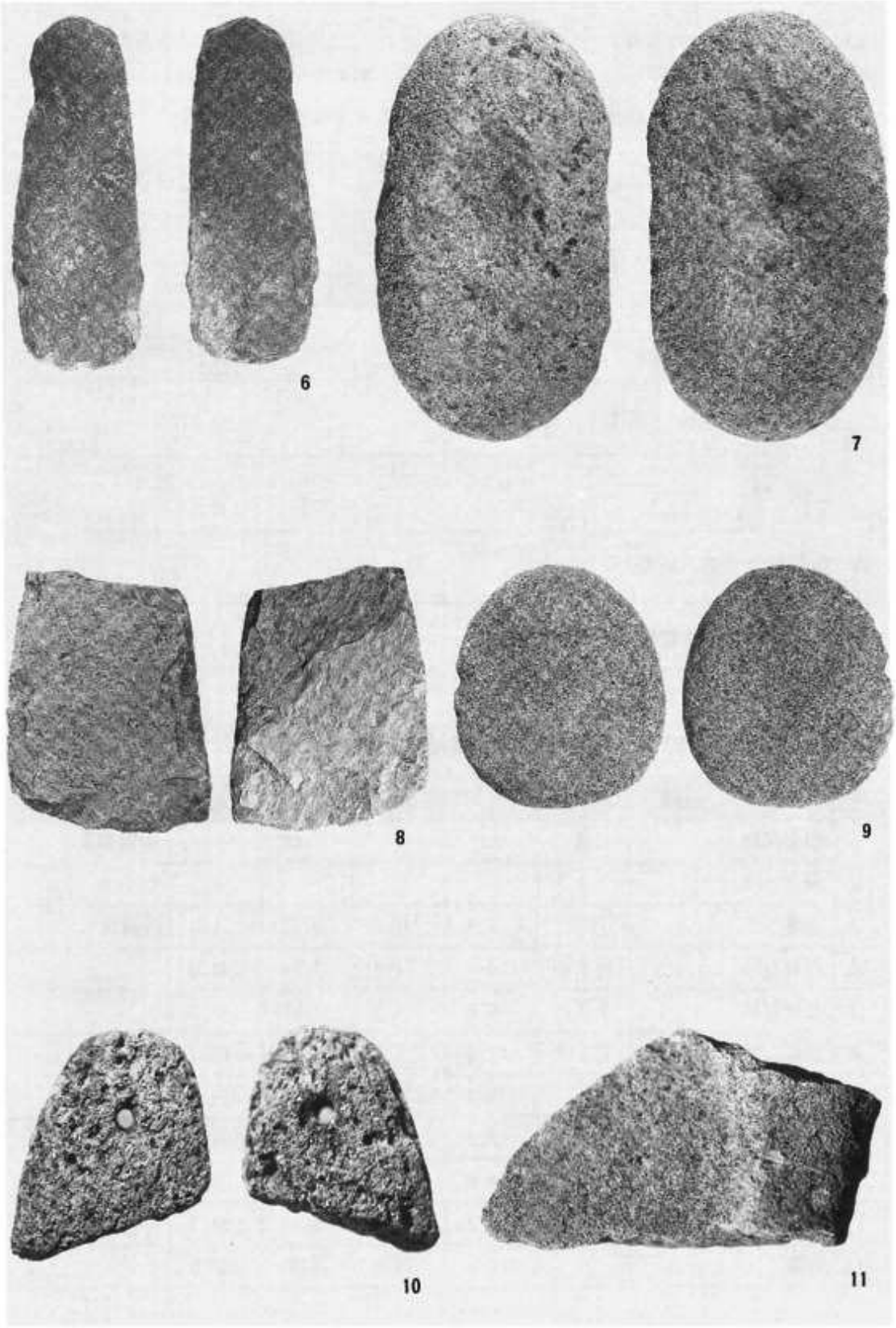
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H100	調査年度	平成4年	通番号	139
位　置	そ20	重複関係	H102・Ta 6・D169・170・186・190に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	―			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	17基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期中葉の住居址。								

寄山遺跡4地区（SYY 4）H100号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	口	―	―	―	―	押型文土器
2	縄文深鉢	体	―	―	―	―	押型文土器
3	縄文深鉢	口	―	―	―	―	勝坂
4	縄文深鉢	口～体	―	20.20	―	―	新巻
5	スクレイパー	―	2.05	2.42	0.74	4.5	
6	スクレイパー	―	6.22	3.74	1.05	28.0	
7	石匙	I	7.59	9.65	1.00	80.0	
8	打製石斧	II？a	5.75	3.28	0.57	15.0	
9	打製石斧	II？b	6.54	4.25	1.07	40.0	
10	磨石	I	18.00	7.93	6.75	1090.0	



第295図　SYY 4　H101号住居址（1）



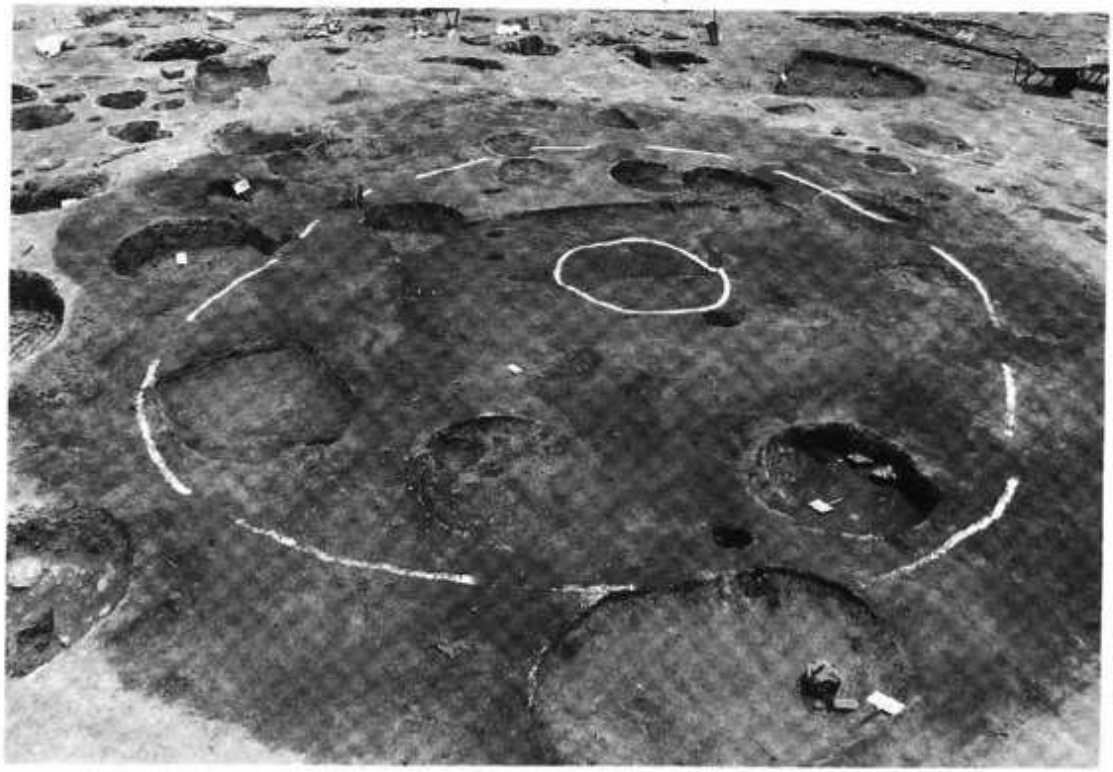
第296図　SYY 4　H101号住居址（2）

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H101	調査年度	平成4年	通番号	140
位　置	く17	重複関係	H60に切られ、H96を切る。						
平面形状	不明	長軸方位	－	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	－	短軸長	－	壁残高	－			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	16基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代中期時期不明の住居址。								

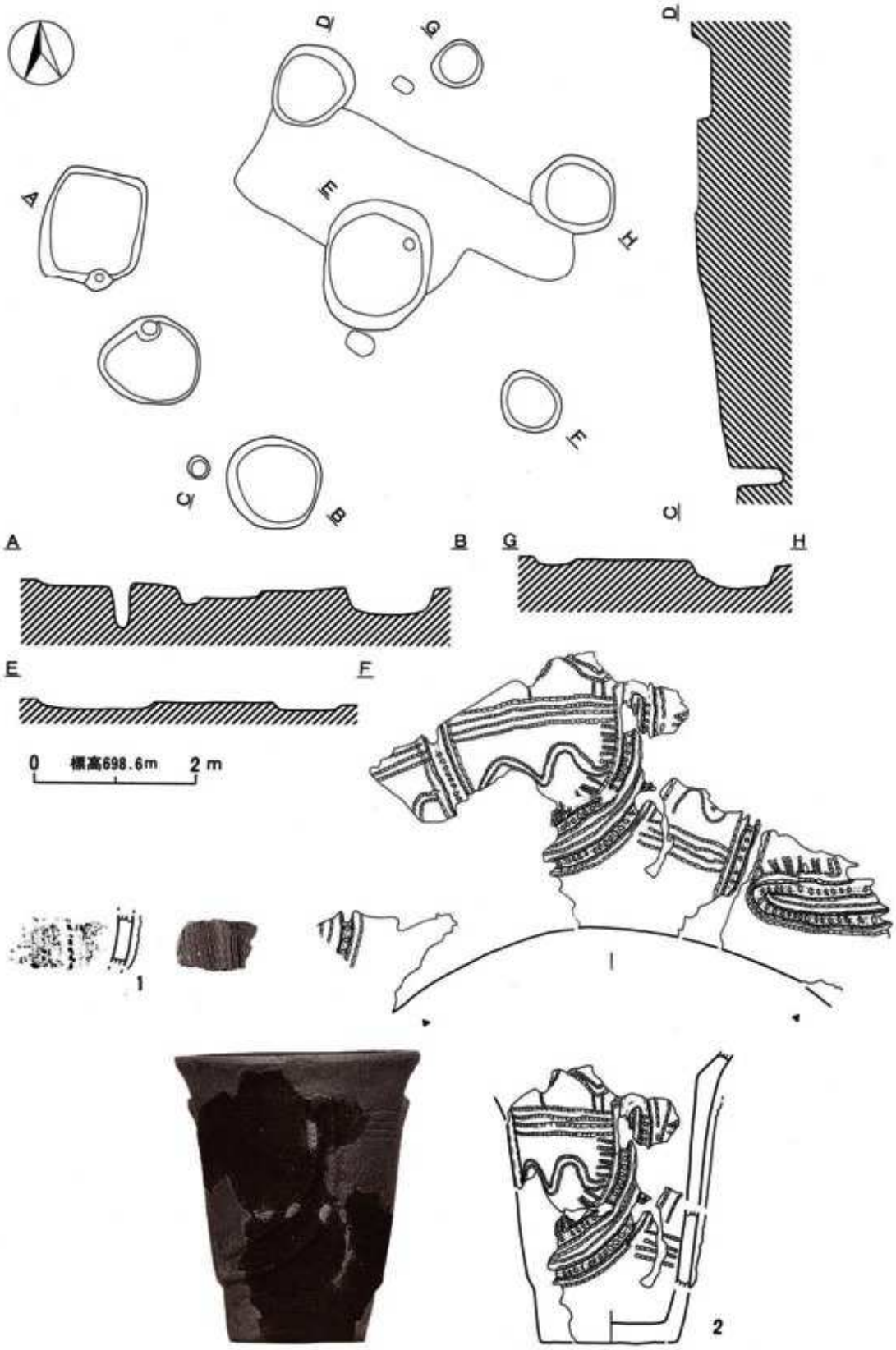
寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H101号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	底	－	－	7.40	－	加曽利E
2	縄文深鉢	口	－	－	－	－	唐草文
3	石鏃	I 1	1.8	1.4	0.57	1.0	片脚欠
4	打製石斧	IV ? a	6.7	4.9	1.54	60.0	
5	打製石斧	I ? a	6.6	4.5	1.17	57.0	
6	打製石斧	II 1 o	11.5	4.2	1.22	80.0	
7	凹石	II 2	12.5	6.9	4.97	520.0	
8	打製石斧	II 3 c	8.2	6.6	1.05	104.0	
9	磨石	I	7.9	6.8	1.45	98.0	
10	浮子？	－	6.2	6.6	2.47	34.0	軽石製
11	石皿	－	6.7	12.0	3.23	230.0	

SYY 4　H101号住居址



SYY 4　H102号住居址

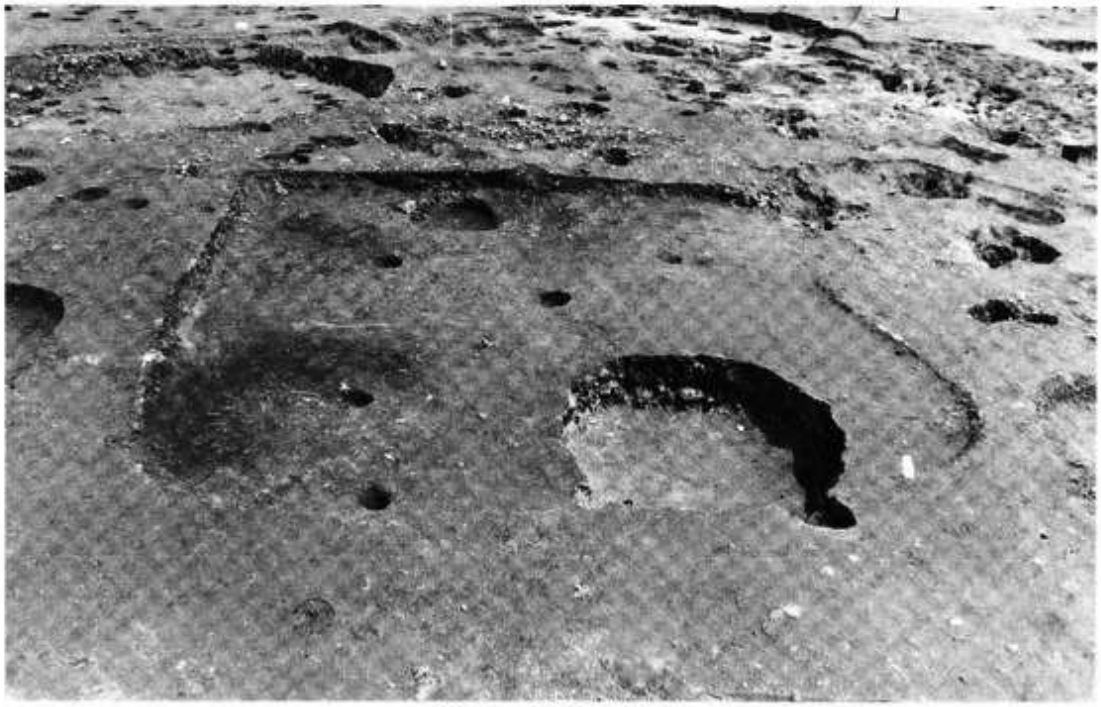


第297図　SYY 4　H102号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H102	調査年度	平成4年	通番号	141
位　置	せ20	重複関係	H100・Ta 5に切られ、D172を切る。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	―			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	9基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	縄文土器。								
備　考	縄文時代中期中葉の住居址。								

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H102号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体	―	―	―	―	阿玉台
2	縄文深鉢	体～底	―	―	8.4	―	阿玉台



SYY 4　H103号住居址

第298図　SYY 4　H103号住居址

寄山遺跡4地区（SYY 4）H103号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	灰釉陶器	底	—	—	6.80	—	
2	土師器高台付坏	完	5.80	15.00	7.20	—	内面黒色処理
3	土師器高台付坏	体～底	—	—	6.60	—	内面黒色処理
4	須恵器坏	底	—	—	5.80	—	
5	土師器甕	口	—	9.60	—	—	ロクロ
6	縄文深鉢	体	—	—	—	—	唐草文
7	縄文深鉢	体	—	—	—	—	前期
8	石鏃	I 1	1.73	1.23	0.40	0.50	
9	スクレイパー	—	1.26	1.33	0.37	0.50	

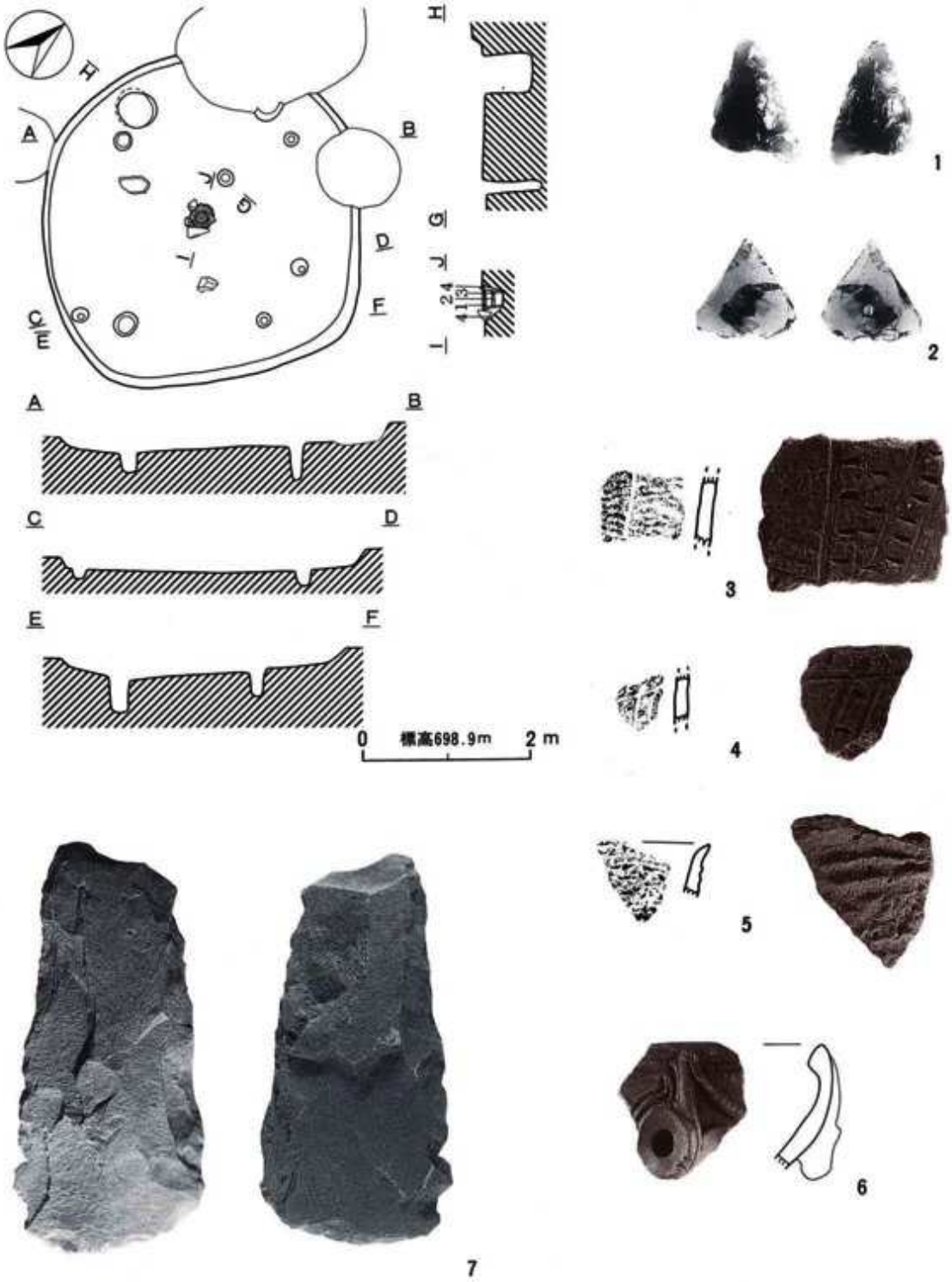
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H103	調査年度	平成4年	通番号	142
位　置	こ19	重複関係	H108を切る。						
平面形状	方形	長軸方位	N－110－E	炉	有・(無)	カマド	(有)・無		
規模	長軸長	5.0m	短軸長	4.9m	壁残高	24～0cm			
	炉・カマド長径	110cm	炉・カマド短径	60cm	炉・カマド深度	20cm			
	柱穴数	7基	主柱穴	不明					
	面　積	11.4m²							
遺　物	縄文土器、土師器、石器。								
備　考	平安時代の住居址。								

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H104号住居址出土遺物一覧表

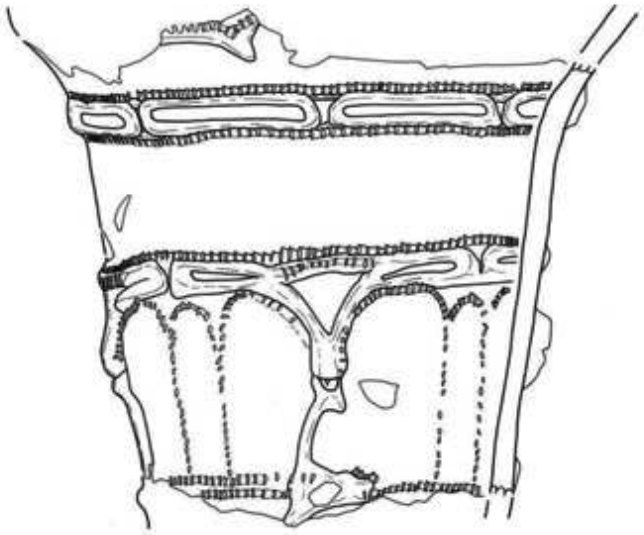
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	Ⅰ1	1.82	1.33	0.56	0.3	片脚欠
2	石鏃	Ⅰ1	1.56	1.57	0.31	0.2	脚欠
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	
4		体	－	－	－	－	
5		口	－	－	－	－	絡条体圧痕文
6		口	－	－	－	－	新巻
7	打製石斧	Ⅱ1c	－	－	－	－	
8	縄文深鉢	Ⅰ1	－	－	－	－	阿玉台

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H104	調査年度	平成4年	通番号	143
位　置	し19	重複関係	H195に切られ、H105を切る。						
平面形状	円形	長軸方位	N－39－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	3.9m	短軸長	3.8m	壁残高	24～12cm			
	炉・カマド長径	24cm	炉・カマド短径	40cm	炉・カマド深度	30cm			
	柱穴数	8基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
覆土	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。焼土粒子、ローム粒子（10YR 8／4）少含。 2.暗褐色土層（10YR 3／2）。ローム粒子（10YR 8／4）少含。 3.褐色土層（10YR 4／6）。ローム粒子（10YR 8／4）多含。 4.明黄褐色土層（10YR 8／6）。炉体土器埋土。								
遺　物	縄文土器。								
備　考	縄文時代中期中葉の住居址。								

SYY 4　H104号住居址炉址

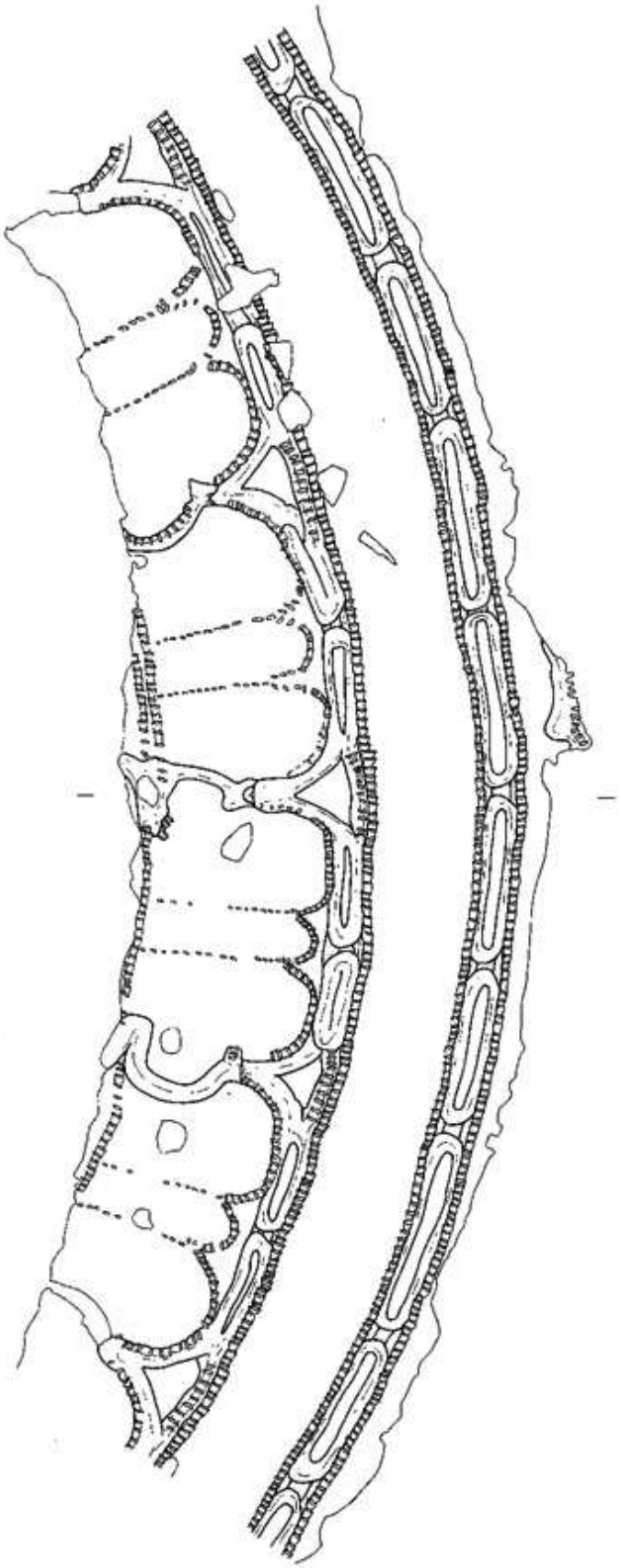


第299図　SYY 4　H104号住居址（1）

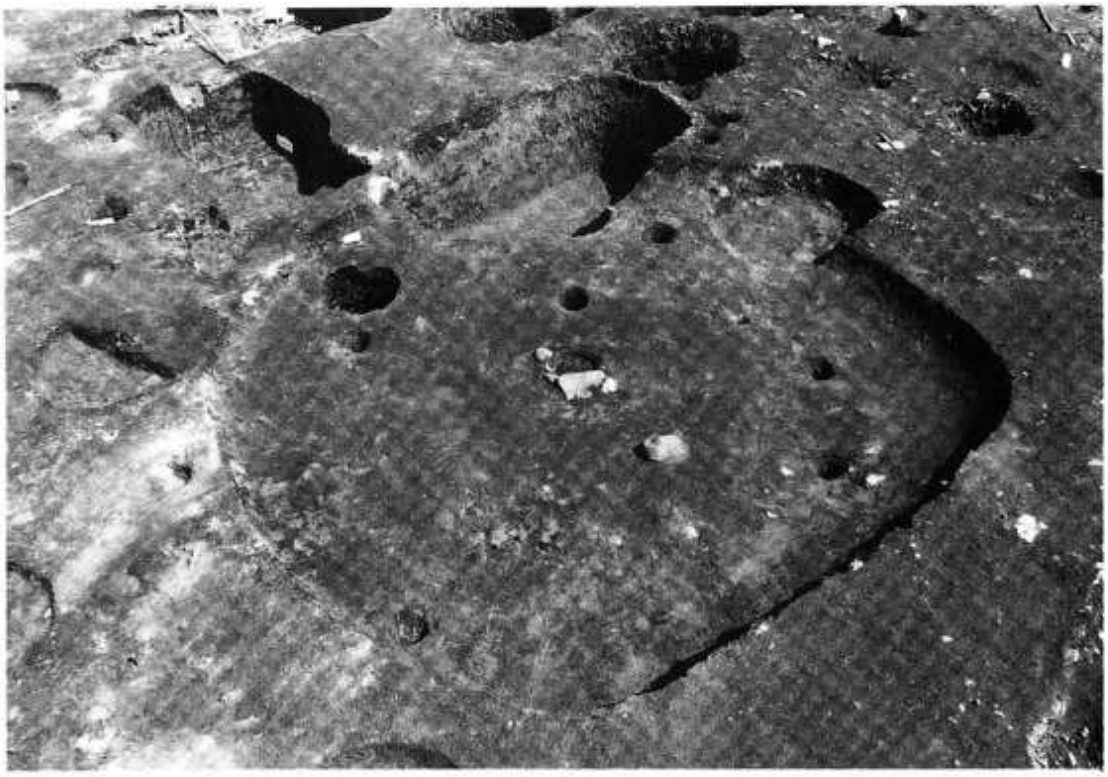


8（炉体土器）

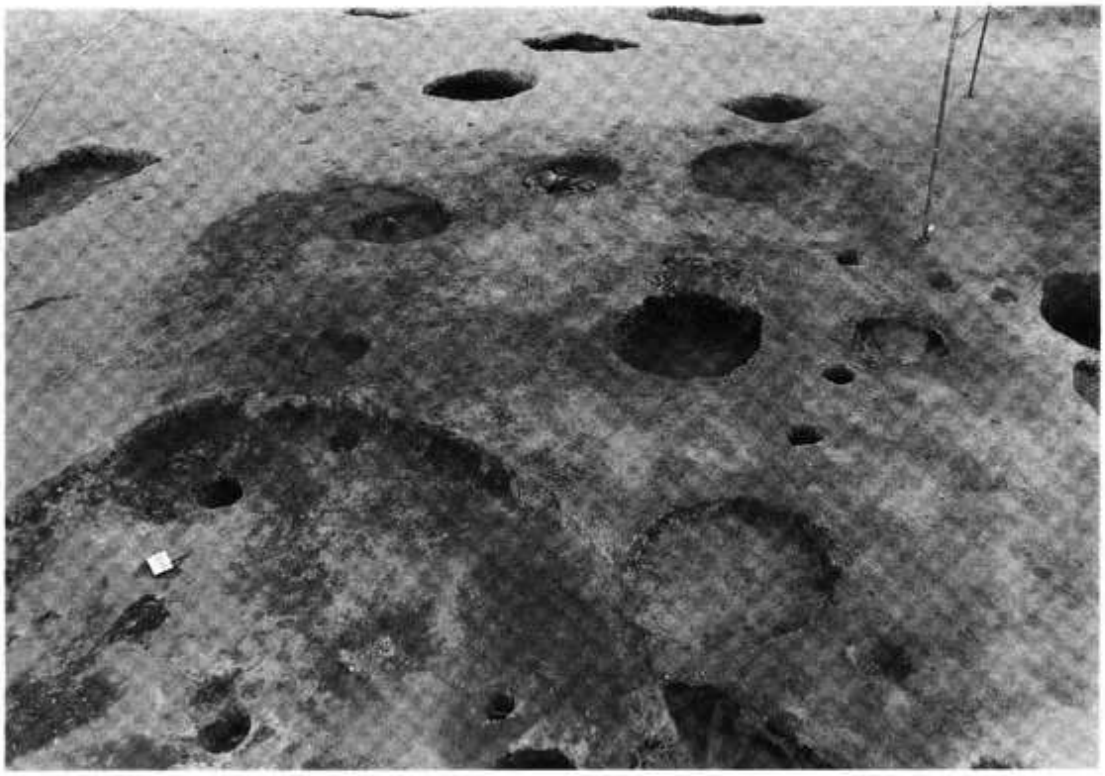
第300図　SYY 4　H104号住居址（2）



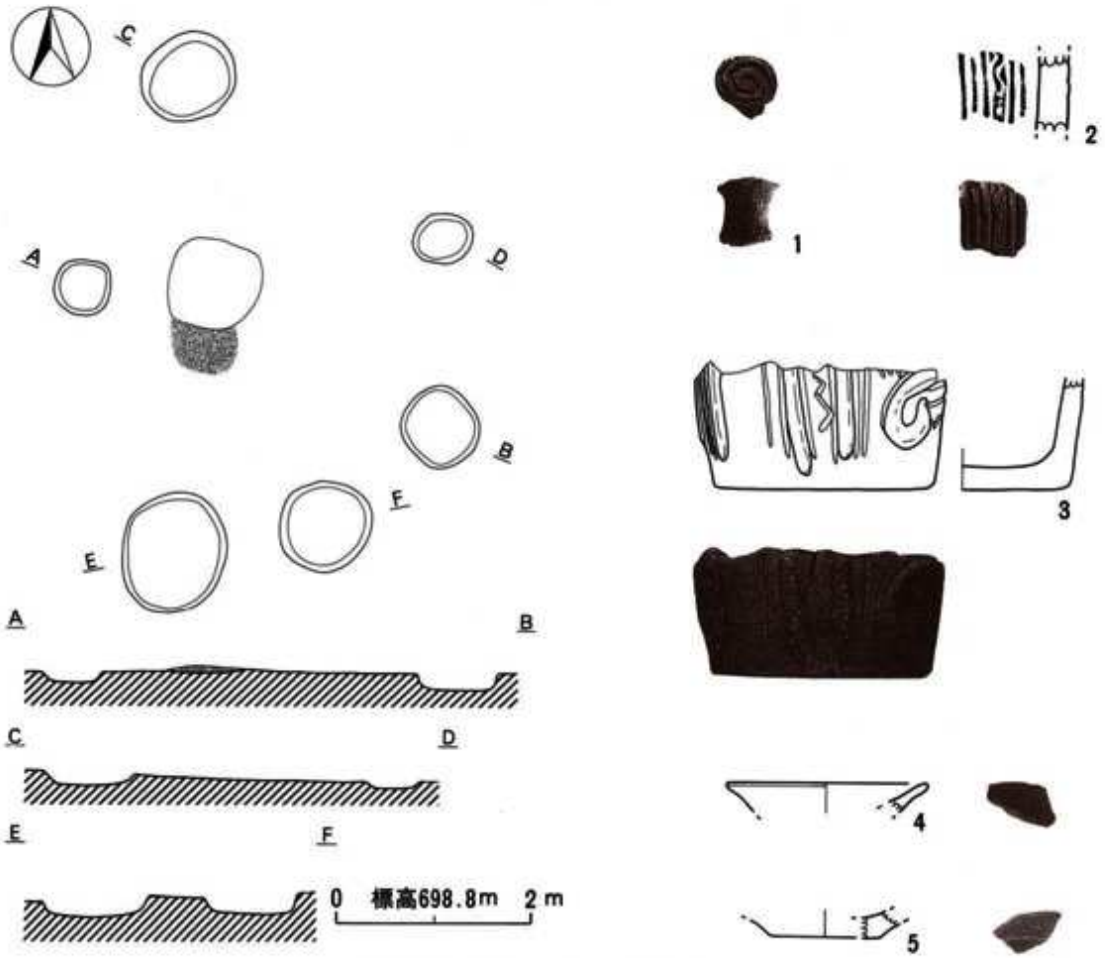
第301図　SYY 4　H104号住居址（3）



SYY 4　H104号住居址



SYY 4　H105号住居址

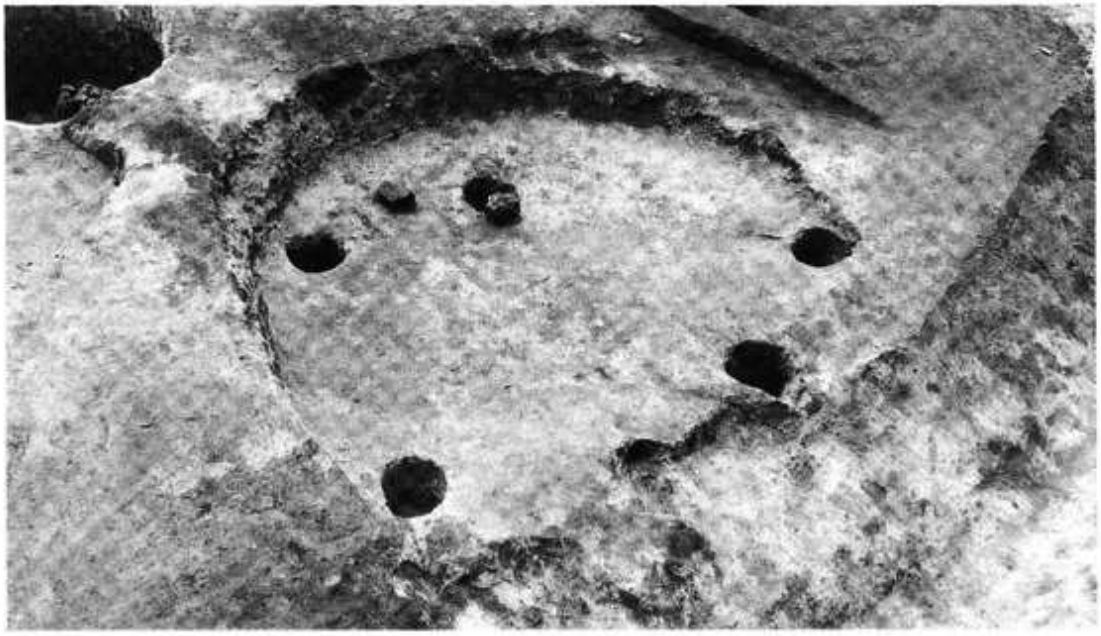


第302図　SYY 4　H105号住居址

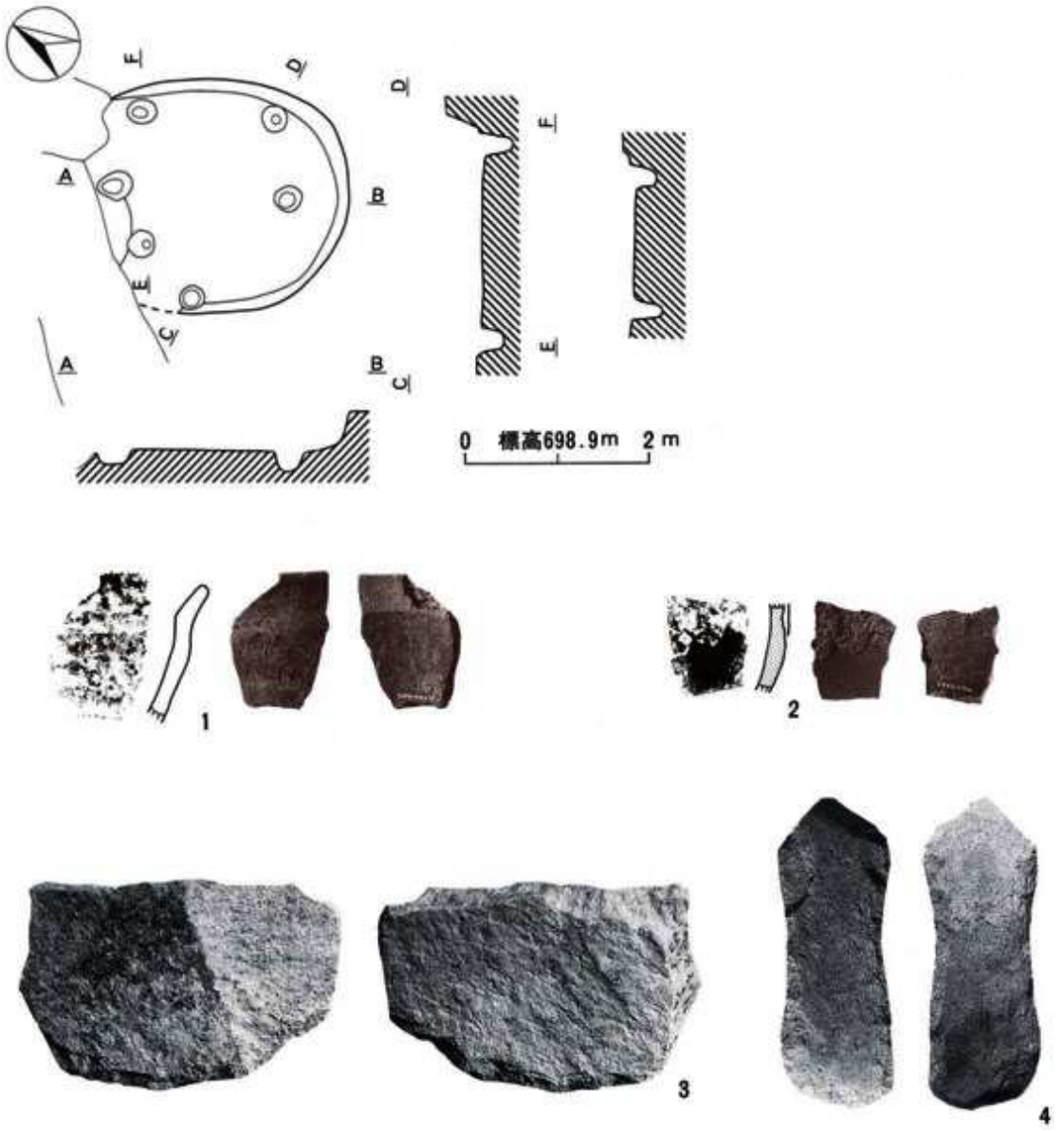
寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｈ105号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文突起	—	—	—	—	—	
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	曽利
3	縄文深鉢	底	—	—	10.0	—	新巻
4	土師器皿	口	—	10.2	—	—	
5	土師器皿	底	—	—	5.6	—	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H105	調査年度	平成4年	通番号	144
位　置	し20	重複関係	H104に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	0 cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	32cm	炉・カマド深度	4 cm			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	縄文土器、土師器。								
備　考	時期不明の住居址。								



SYY 4　H106号住居址



第303図　SYY 4　H106号住居址

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）H106号住居址出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	土師器鉢	－	－	－	－	－	
2	須恵器甕	体	－	－	－	－	曽利
3	スクレイパー	－	5.8	9.3	1.18	940	
4	打製石斧	II１o	17.5	6.4	1.25	235	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H106	調査年度	平成4年	通番号	145
位　置	た13	重複関係	d223・225を切り、M3に切られる。						
平面形状	楕円形	長軸方位	N－145－E	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	－	短軸長	2.42m	壁残高	32～0cm			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	土師器、須恵器、石器。								
備　考	平安時代の竪穴。								

寄山遺跡4地区（SYY 4）H108号住居址出土遺物一覧表　No.1

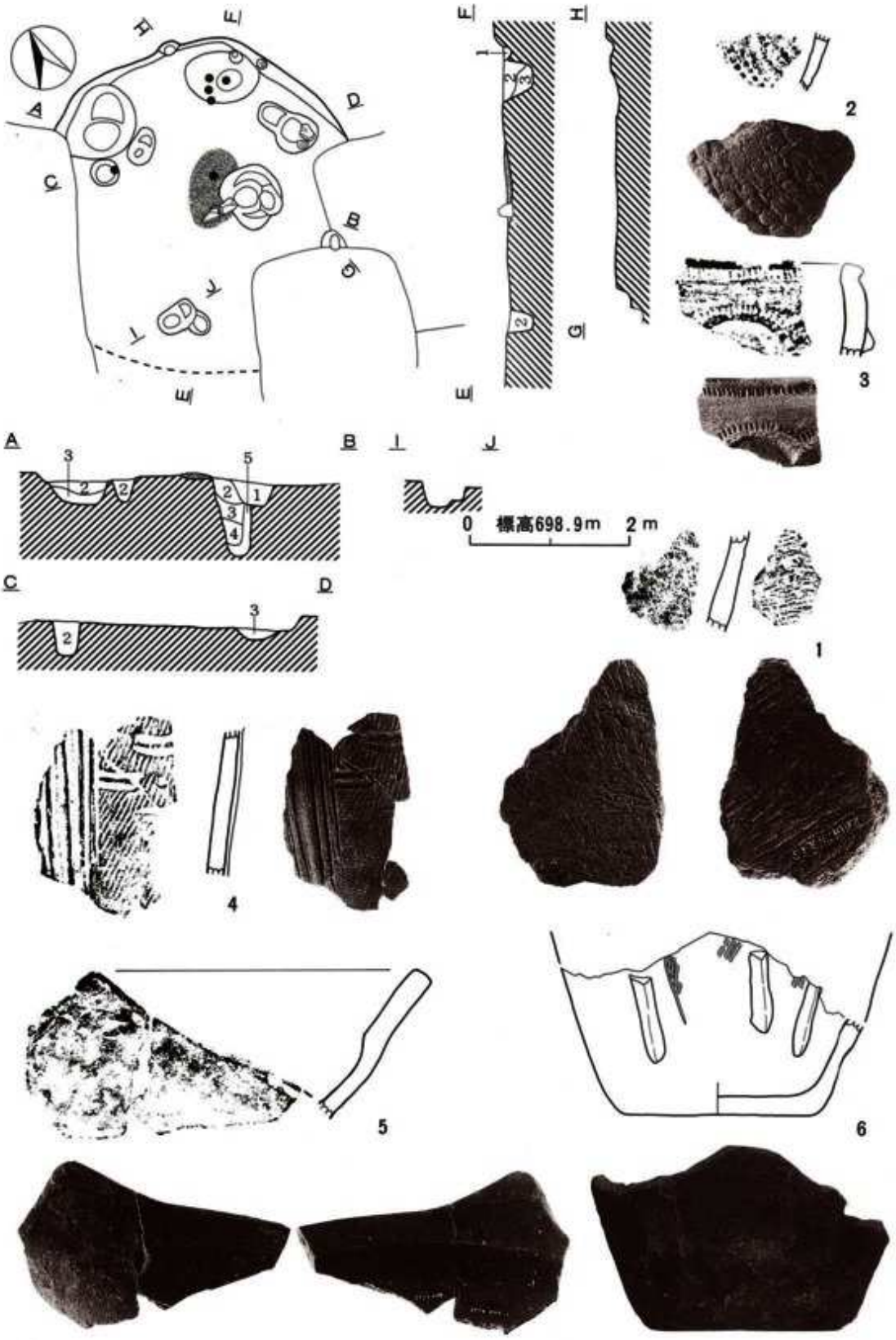
No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
3	縄文深鉢	口	－	－	－	－	阿玉台
4	縄文深鉢	体	－	－	－	－	新巻
5	縄文浅鉢	口	－	－	－	－	赤彩
6	縄文深鉢	底	－	－	12.00	－	新巻
7	縄文深鉢	口～体	－	42.80	－	－	新巻
8	石鏃	I 1	2.87	1.45	0.64	0.2	片脚欠
9	石鏃	I 1	3.50	1.30	0.40	0.5	片脚欠
10	石鏃	I 1	1.58	1.45	0.60	0.5	先端欠

寄山遺跡4地区（SYY 4）H108号住居址出土遺物一覧表　No. 2

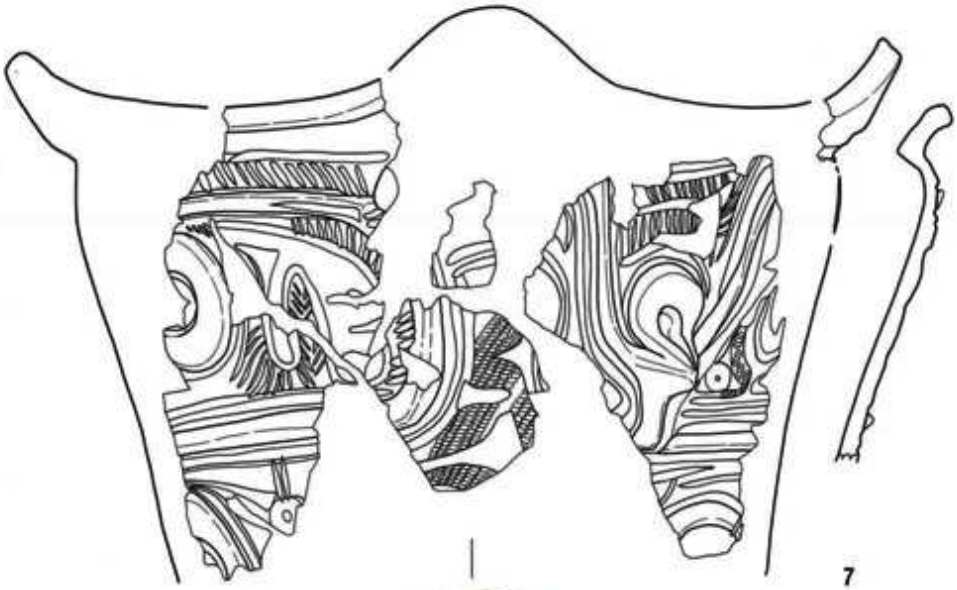
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
11	石鏃	?	1.32	0.97	0.30	0.3	先端、脚欠
12	打製石斧	II ? a	8.65	5.04	1.20	76.0	
13	打製石斧	IV ? a	10.50	7.05	1.85	160.0	
14	黒曜石		4.33	6.57	2.02	72.0	貯蔵品
15	黒曜石		5.05	4.35	2.60	100.0	貯蔵品
16	黒曜石		5.04	4.47	3.50	64.0	貯蔵品
17	黒曜石		5.92	5.50	3.10	94.0	貯蔵品
18	黒曜石		7.33	3.48	3.70	64.0	貯蔵品
19	黒曜石		8.30	4.60	3.60	98.0	貯蔵品
20	黒曜石		4.65	4.63	1.75	38.0	貯蔵品
21	黒曜石		2.74	6.08	1.88	44.0	貯蔵品
22	黒曜石		4.66	3.55	2.53	47.0	貯蔵品
23	黒曜石		4.50	3.90	1.65	42.0	貯蔵品
24	黒曜石		5.08	3.65	3.08	66.0	貯蔵品
25	黒曜石		4.00	5.92	3.28	98.0	貯蔵品
26	黒曜石		4.02	1.65	1.15	0.6	貯蔵品
27	黒曜石		2.80	1.28	0.42	0.2	貯蔵品
28	黒曜石		2.02	2.12	1.22	0.4	貯蔵品
29	黒曜石		2.18	1.67	0.35	0.2	貯蔵品

SYY 4　H108号住居址炉址

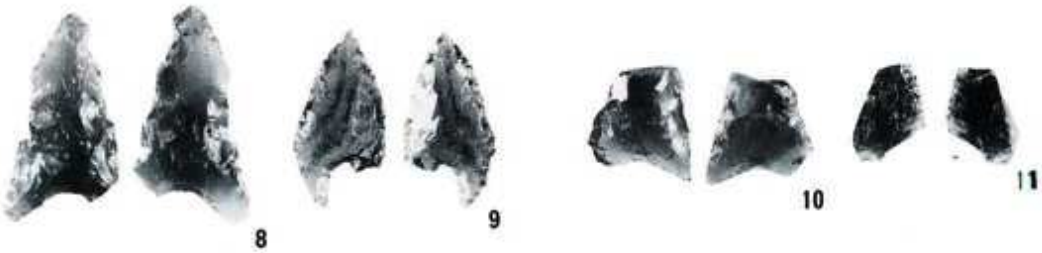
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H108	調査年度	平成4年	通番号	146
位　置	け19	重複関係	H80・103・Ta 4に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	12～0cm			
	炉・カマド長径	100cm	炉・カマド短径	40cm	炉・カマド深度	20cm			
	柱穴数	11基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
覆土	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。φ 1大パミス少含。 2.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。ローム粒子（10YR 8／4）、φ 1cm大パミス少含。 3.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。ローム粒子（10YR 8／4）、φ 1cm大パミス少含。 4.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。φ 5cm大パミス少含。 5.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。ローム粒子（10YR 8／4）、φ 3cm大パミス多含。								
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	縄文時代中期中葉の住居址。								



第304図　SYY 4　H108号住居址（1）

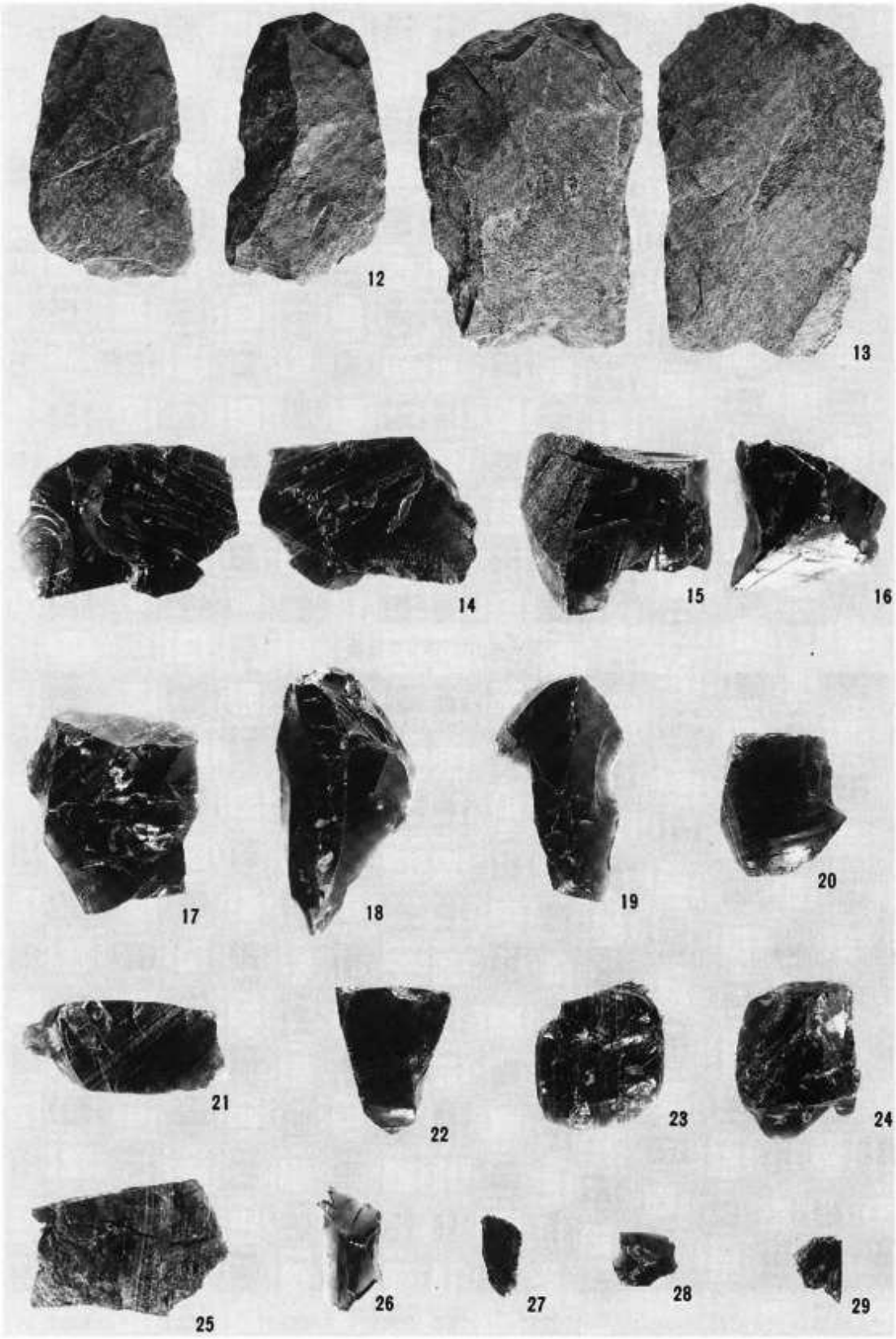


7

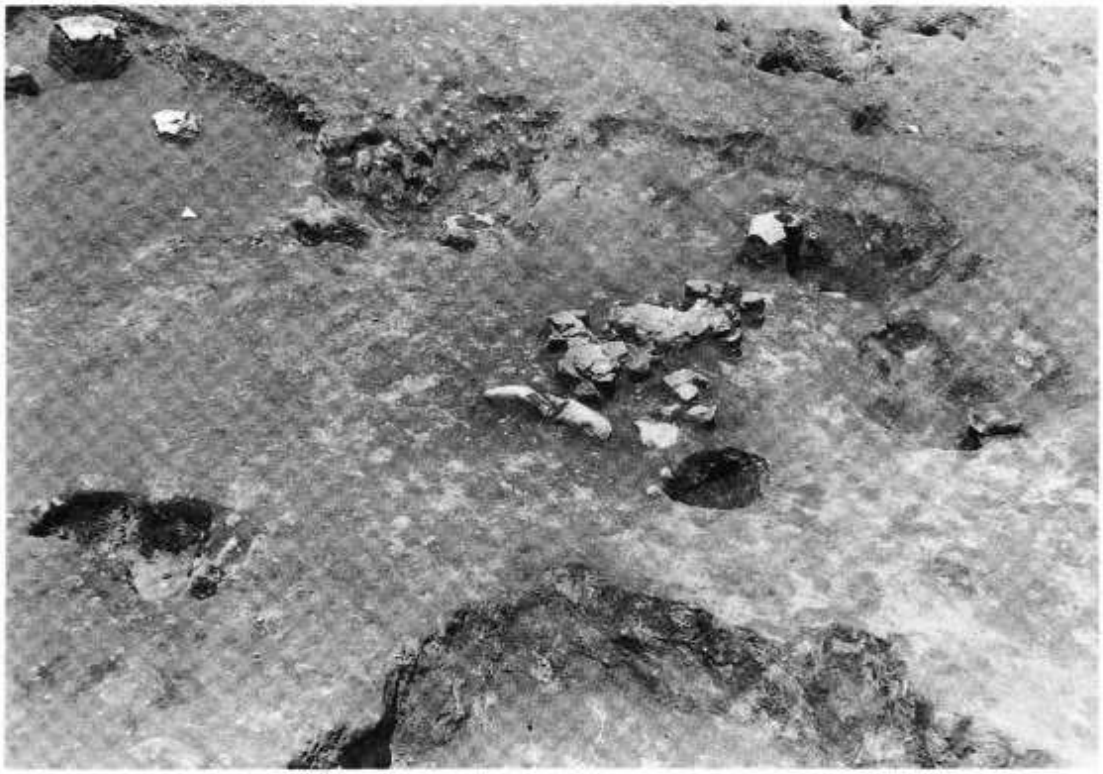


8 9 10 11

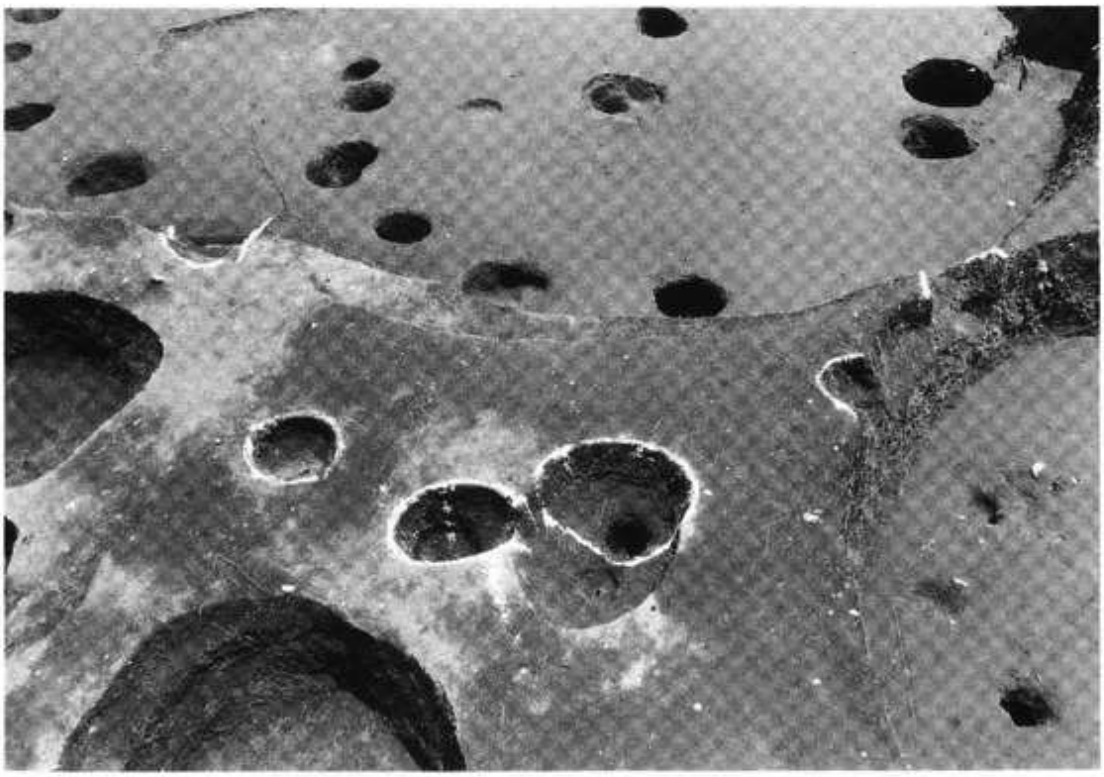
第305図　SYY 4　H108号住居址（2）



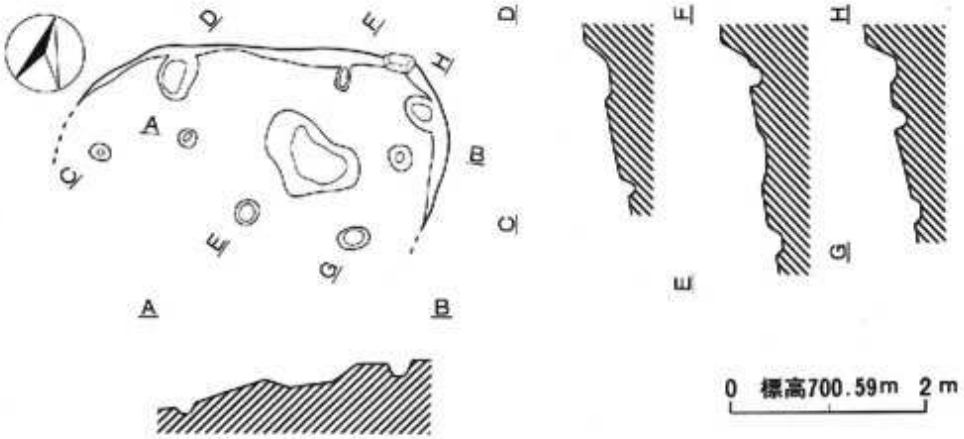
第306図　SYY 4　H108号住居址（3）



SYY 4　H108号住居址



SYY 4　H110号住居址



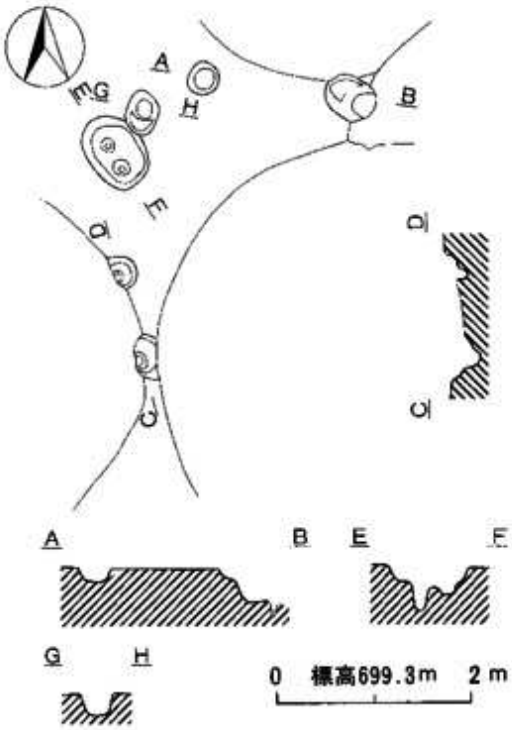
第307図　SYY 4　H109号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H109	調査年度	平成4年	通番号	147
位　置	あ18	重複関係	H115に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	不明	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	—	短軸長	—	壁残高	—			
	炉・カマド長径	—	炉・カマド短径	—	炉・カマド深度	—			
	柱穴数	9基	主柱穴	不明					
	面　積	—							
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の住居址。								

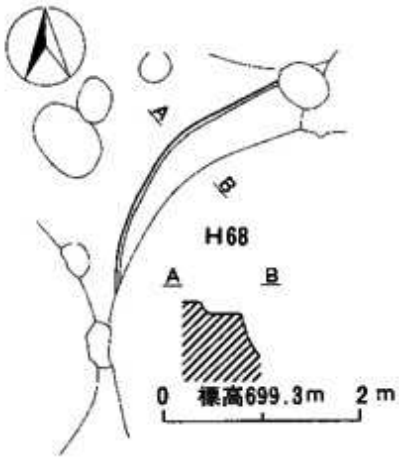
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H110	調査年度	平成4年	通番号	148
位　置	す12	重複関係	H68・74・85・111に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	不明	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	—	短軸長	—	壁残高	—			
	炉・カマド長径	—	炉・カマド短径	—	炉・カマド深度	—			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
	面　積	—							
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の住居址。								

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）H112号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	勝坂
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	勝坂
3	縄文深鉢	口	—	—	—	—	
4	縄文深鉢	底	—	—	8.00	—	新巻
5	打製石斧	II？a	11.30	6.15	0.75	88	
6	打製石斧	II？a	8.74	5.79	1.51	142	
7	スクレイパー	—	9.86	8.98	0.75	80	



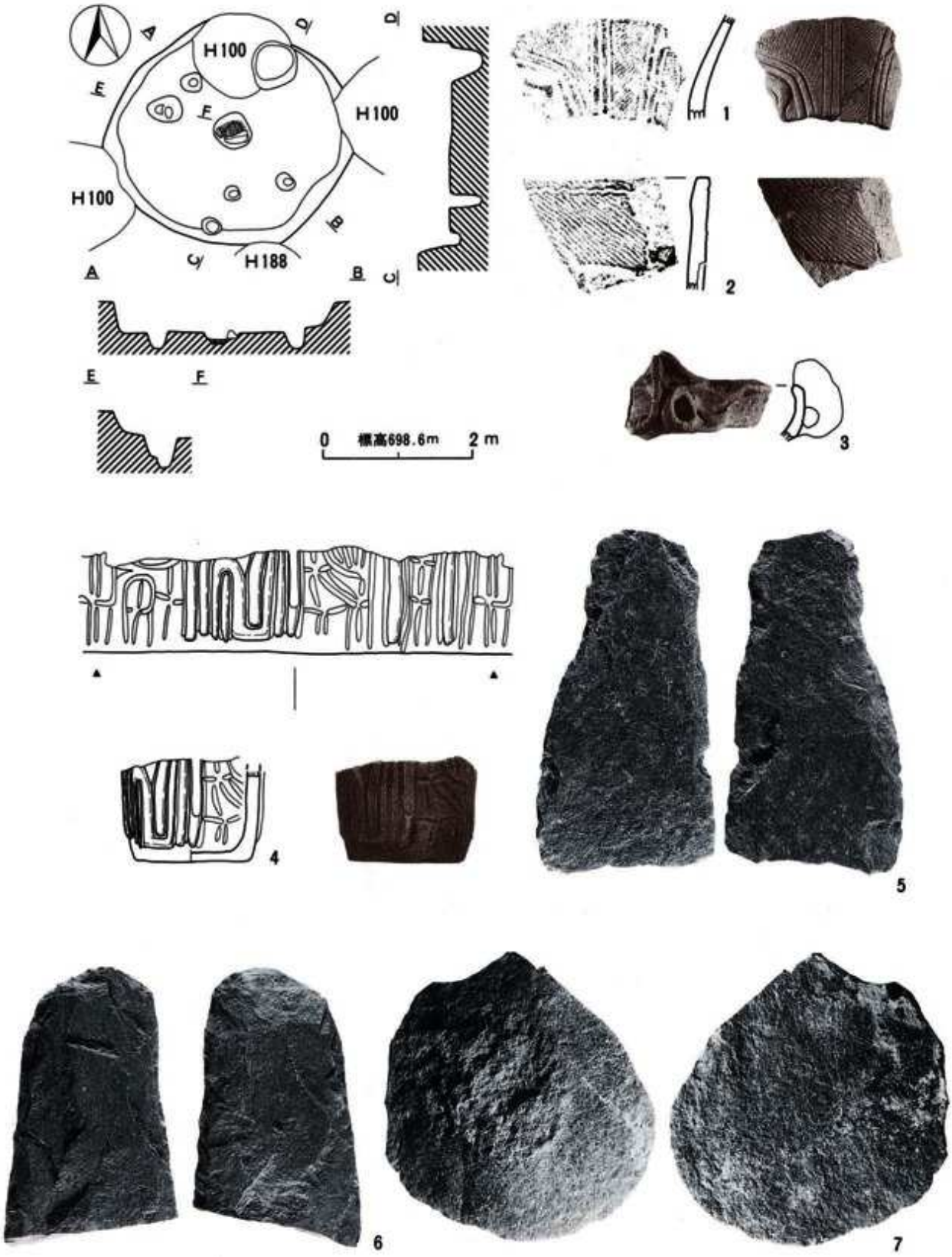
第308図　SYY 4　H110号住居址



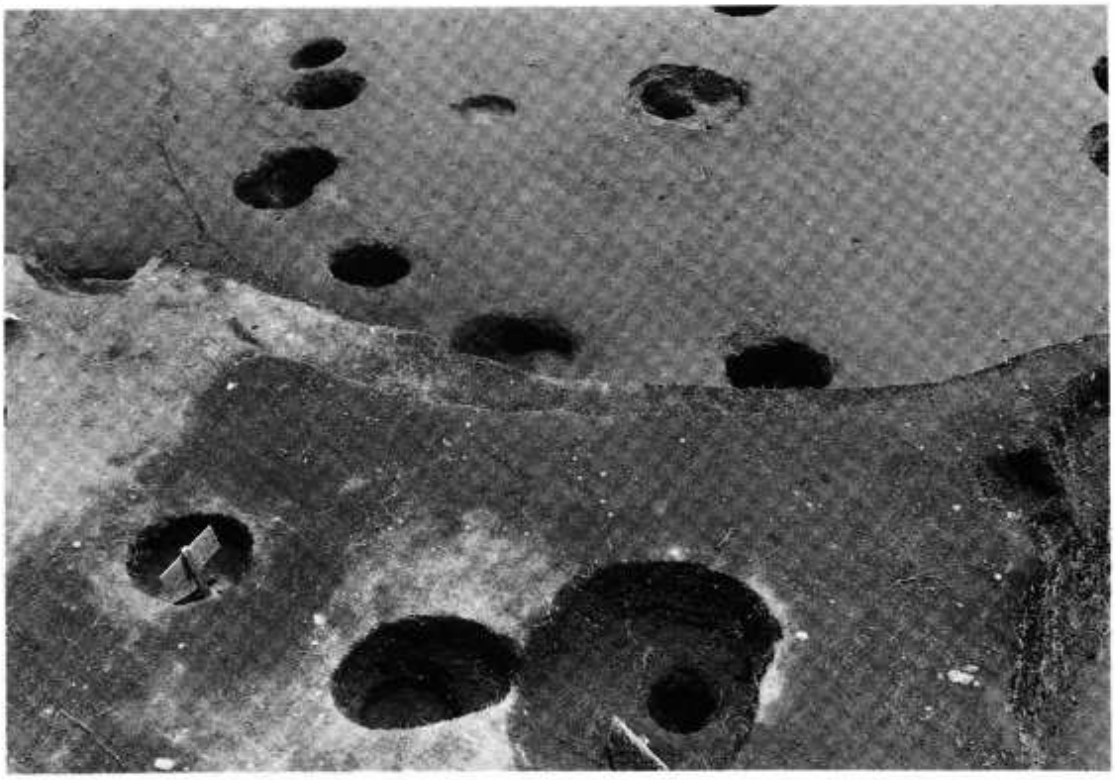
第309図　SYY 4　H111号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H111	調査年度	平成4年	通番号	149
位　置	す12	重複関係	H68に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・[無]	カマド	有・[無]		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	12～0cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	なし	主柱穴	不明					
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の住居址。								

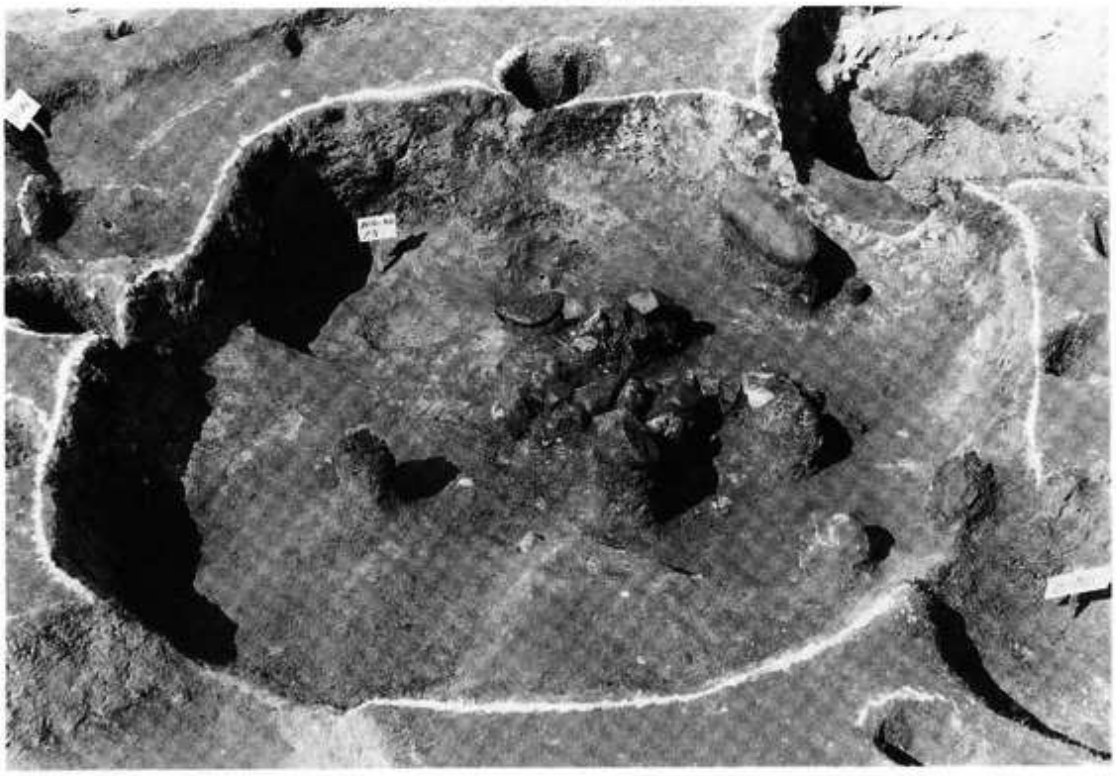
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H112	調査年度	平成4年	通番号	150
位　置	そ19	重複関係	H100・Ta 6に切られる。						
平面形状	円形	長軸方位	N－91－E	炉	[有]・無	カマド	有・[無]		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	40～32cm			
	炉・カマド長径	48cm	炉・カマド短径	48cm	炉・カマド深度	20cm			
	柱穴数	7基	主柱穴	不明					
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	中期中葉の住居址。								



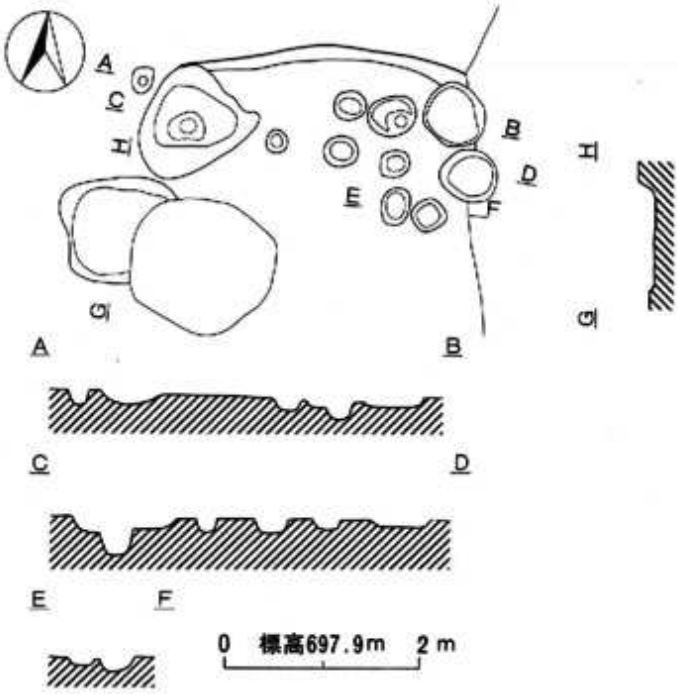
第310図　SYY 4　H112号住居址



SYY 4　H111号住居址



SYY 4　H112号住居址



第311図　SYY 4　H113号住居址

SYY 4　H113号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H113	調査年度	平成4年	通番号	151
位　置	か23	重複関係	D157に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	12～0cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	12基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の住居址。								

SYY 4　H114号住居址

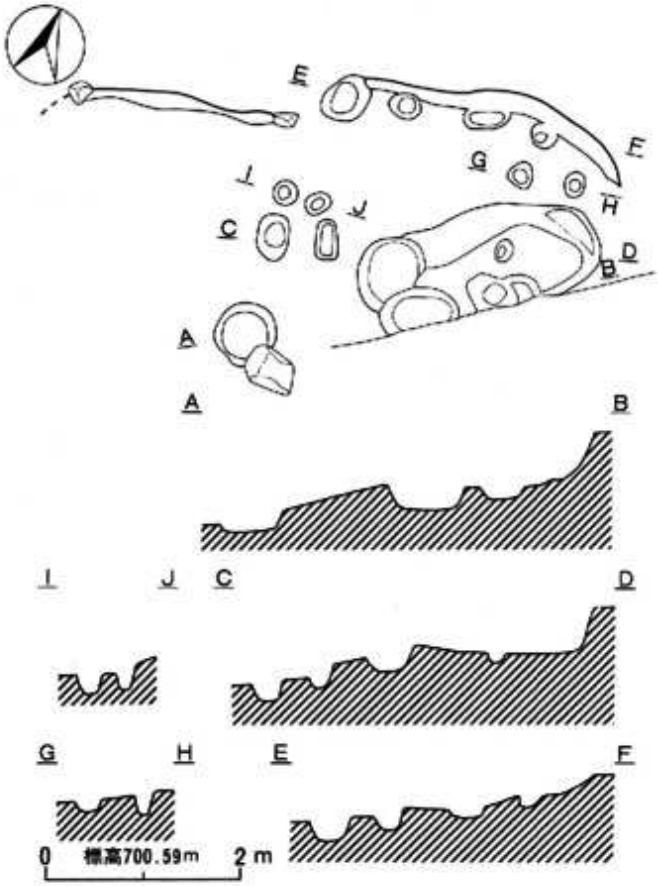
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H114	調査年度	平成4年	通番号	152
位　置	あ18東	重複関係	―						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	12～0 cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	12基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
遺　物	石器。								
備　考	時代不明の住居址。								

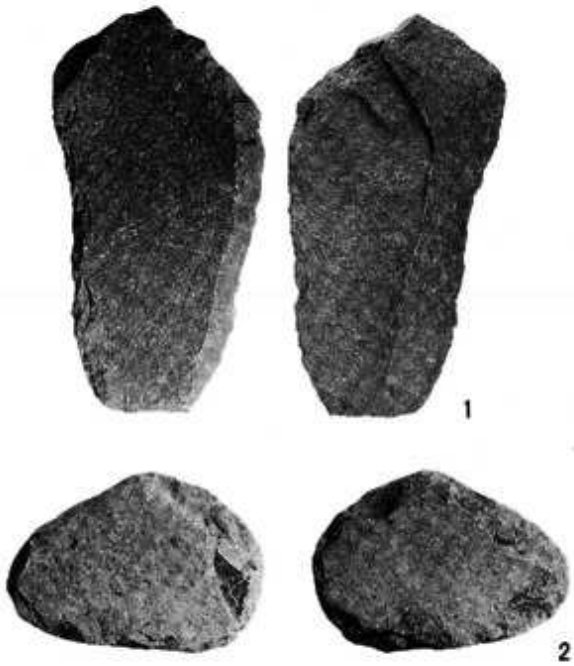
寄山遺跡4地区（SYY 4）H114号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	スクレイパー	―	10.60	5.33	1.38	90	
2	礫器	―	4.53	6.70	1.30	66	

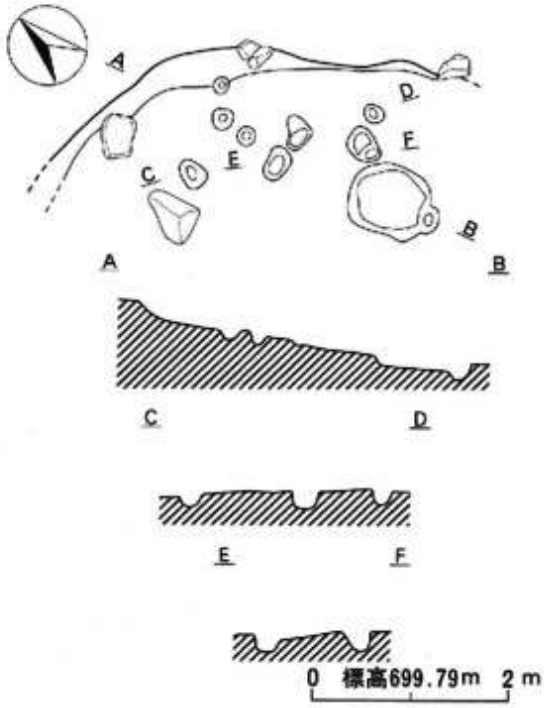
寄山遺跡4地区（SYY 4）H116号住居址出土遺物一覧表

No.	器　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　考
1	縄文深鉢	体～底	―	―	7.00	―	勝坂
2	土師器鉢	口	―	20.60	―	―	
3	磨石	I	8.88	4.25	3.17	176	



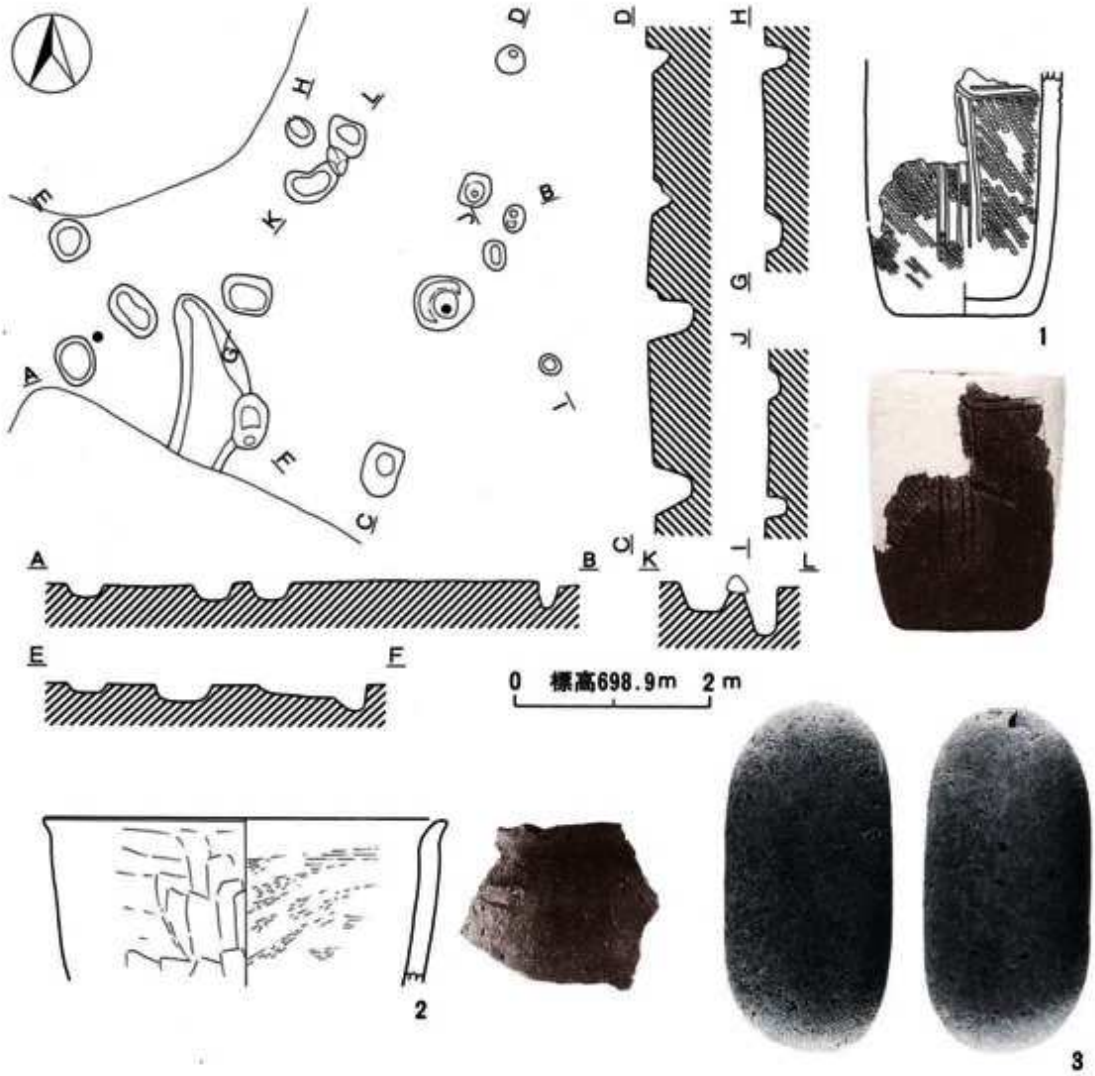


第312図　SYY 4　H114号住居址



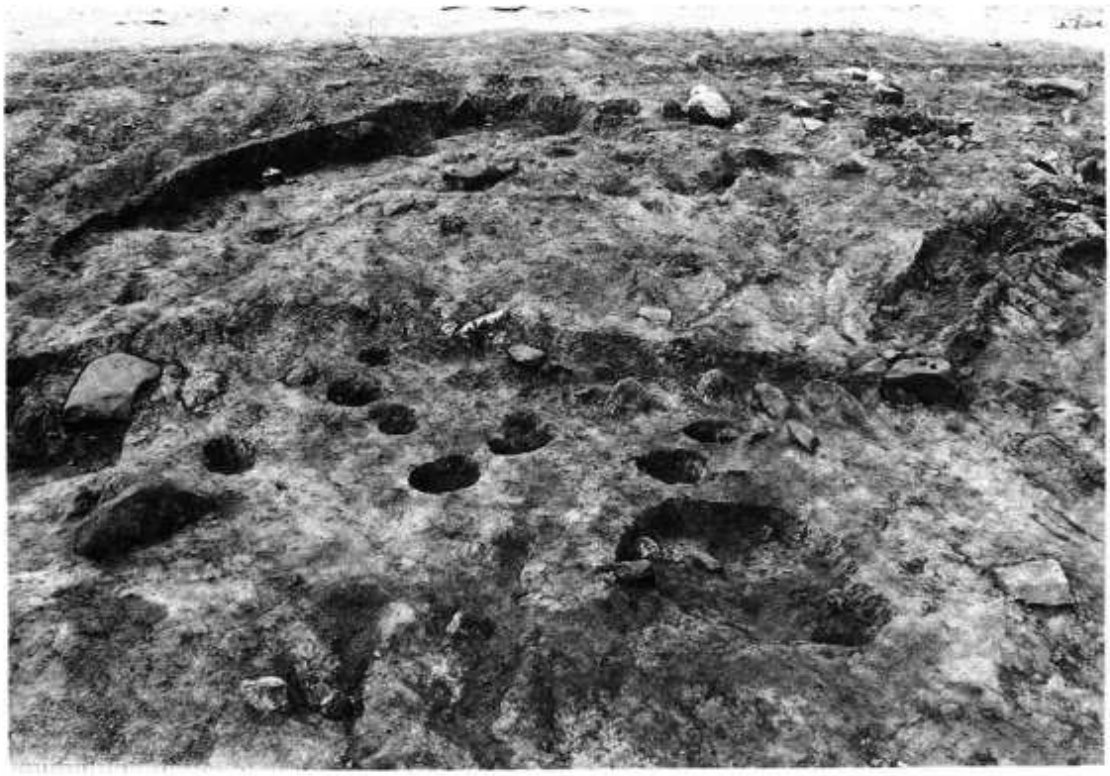
第313図　SYY 4　H115号住居址

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H115	調査年度	平成4年	通番号	153
位　置	あ18	重複関係	―						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	―	壁残高	20～0 cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	10基	主柱穴	不明					
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の住居址。								

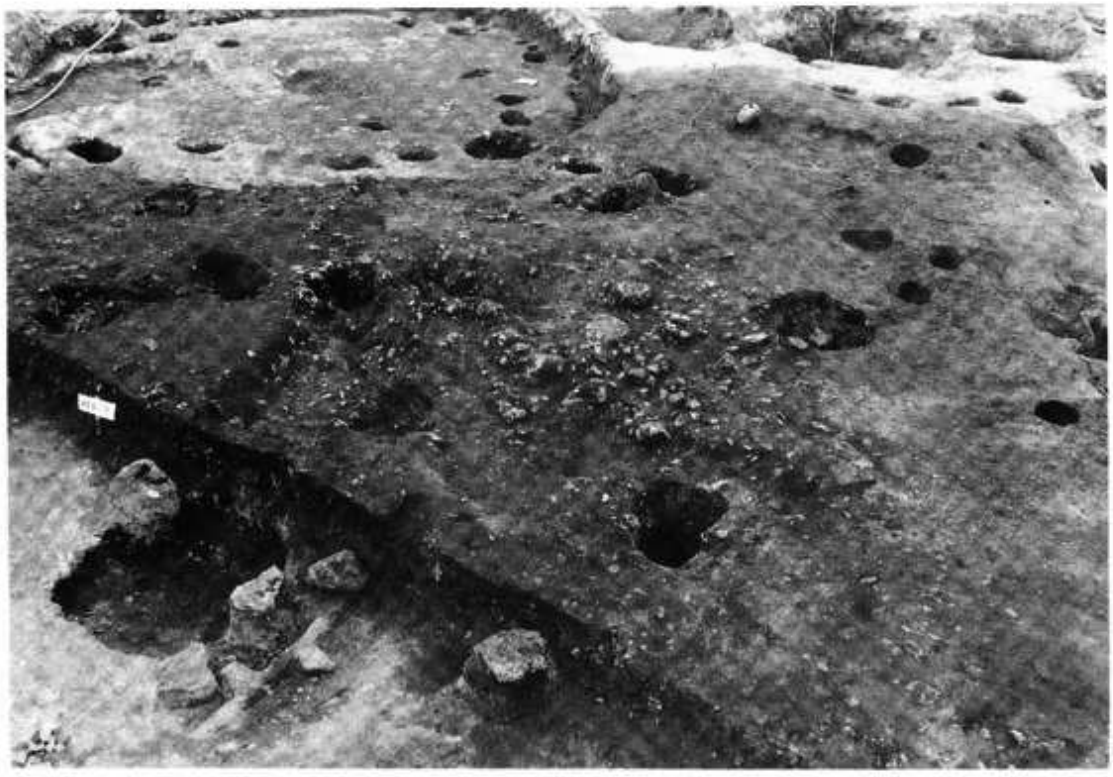


第314図　SYY 4　H116号住居址

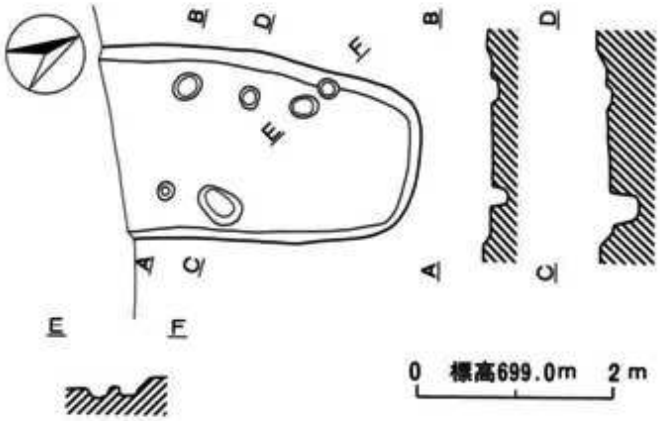
遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	H116	調査年度	平成4年	通番号	154
位　置	こ18	重複関係	H60・72・78・79・95・103に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規　模	柱穴数	16基	主柱穴	不明					
遺　物	縄文土器、土師器、石器。	備　考	時代不明の住居址。						



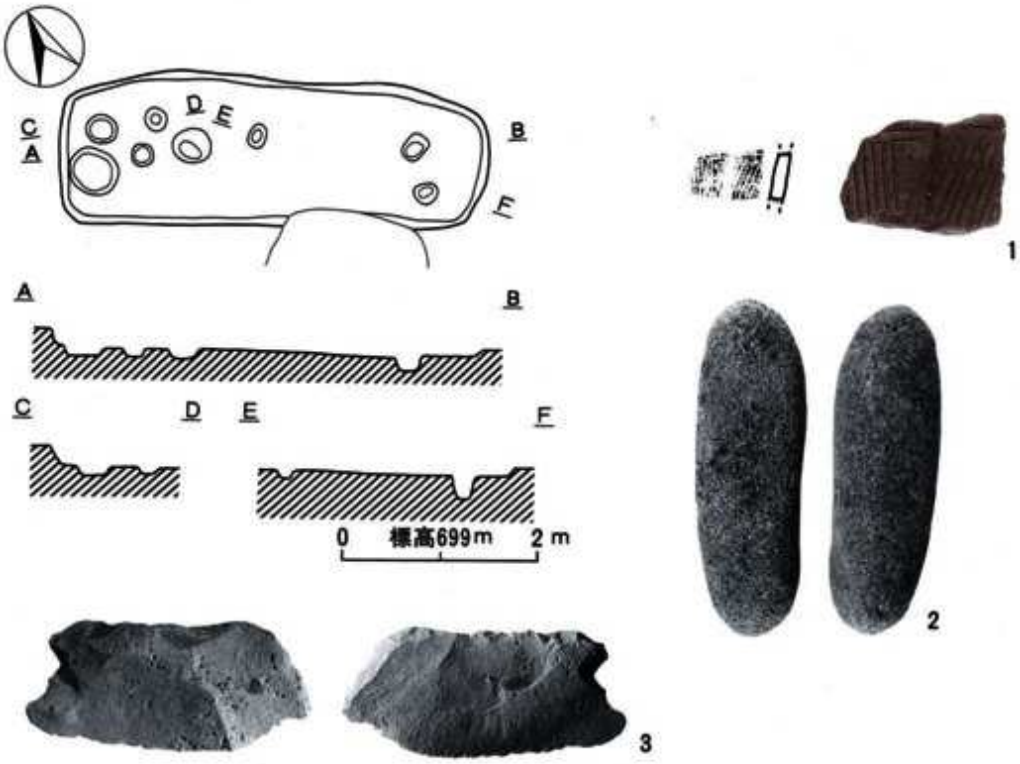
SYY 4　H109・115号住居址



SYY 4　H116号住居址



第315図　SYY 4　Ta 2号竪穴



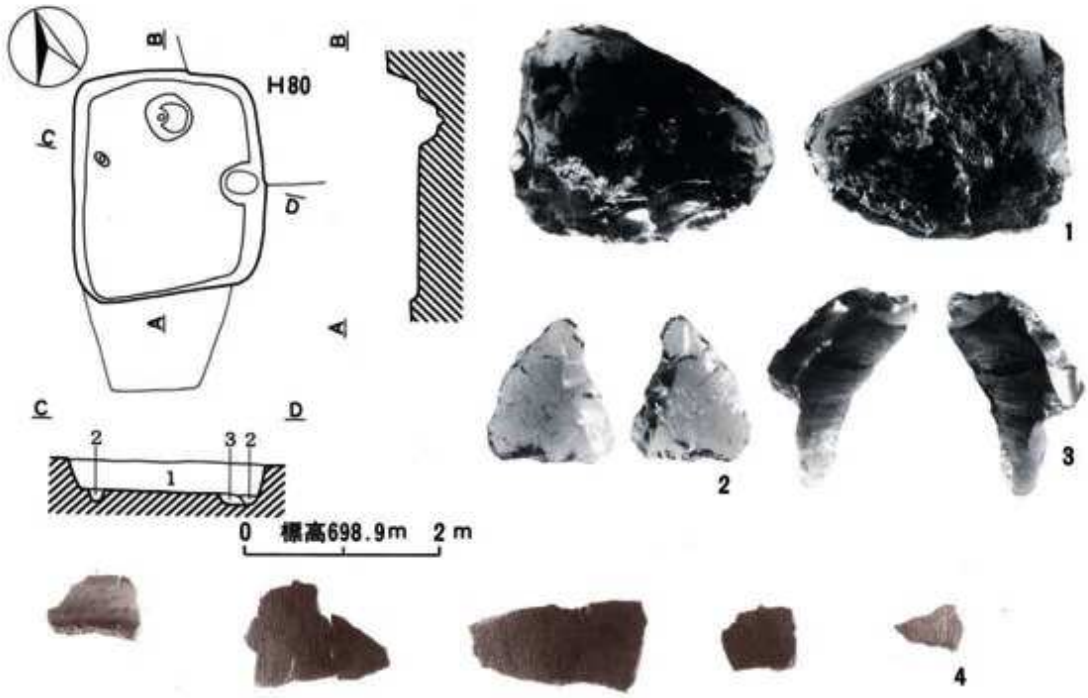
第316図　SYY 4　Ta 3

寄山遺跡4B地区（SYY 4 B）Ta 3号竪穴出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	前期末
2	磨石	I	8.48	2.79	2.09	56	
3	スクレイパー	—	3.45	7.56	0.60	20	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	Ta 2	調査年度	平成4年	通番号	1
位　置	き19	重複関係	H51に切られる。						
平面形状	不明	長軸方位	―	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	―	短軸長	2m	壁残高	12～8㎝			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の竪穴。								

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	Ta 3	調査年度	平成4年	通番号	2
位　置	き19	重複関係	Ta 2に切られる。						
平面形状	長方形	長軸方位	N－115－E	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	4.4m	短軸長	1.6m	壁残高	20～8㎝			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	8基	主柱穴	不明					
遺　物	縄文土器、石器。								
備　考	時代不明の竪穴。								



第317図 SYY 4 Ta 4

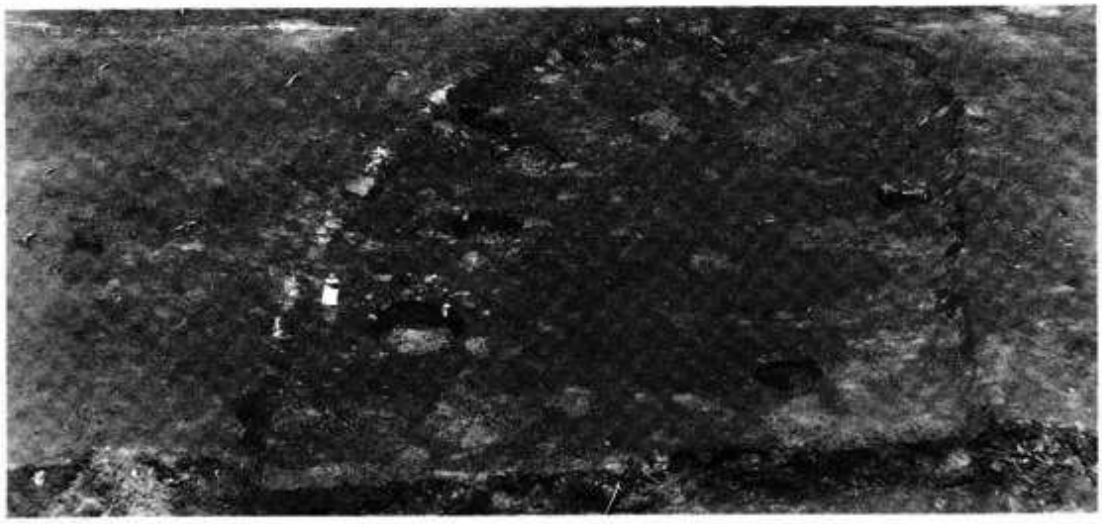
寄山遺跡4地区（SYY 4）Ta 4号竪穴出土遺物一覧表

No.	器種	部位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	スクレイパー	—	2.88	3.33	1.18	8.0	
2	石鏃	I 2	1.98	1.72	0.40	1.0	
3	石錐	I	2.75	1.24	0.41	2.0	
4	土師器甕	口～体	—	—	—	—	古墳時代

寄山遺跡4地区（SYY 4）Ta 5号竪穴出土遺物一覧表

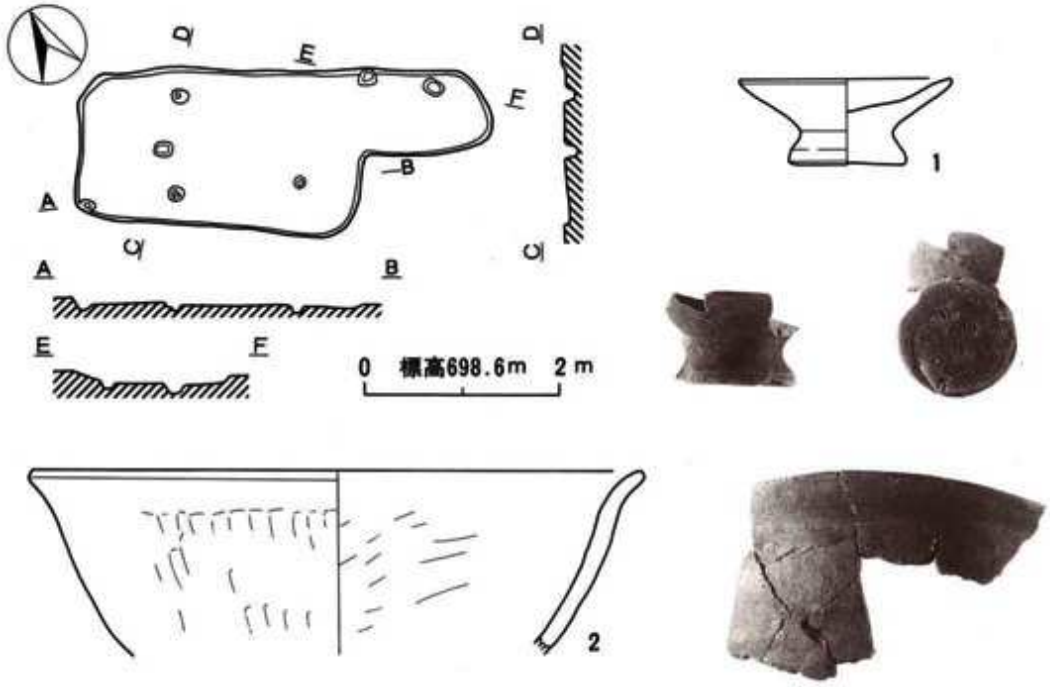
No.	器種	部位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	土師皿	口～底	4.2	10.8	6.0	—	
2	土師鍋	口	—	31.2	—	—	

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	Ta 4	調査年度	平成4年	通番号	3
位　置	け20	重複関係	D161・162、H80に切られる。H108を切る。						
平面形状	―	長軸方位	―	炉	有・無	カマド	有・無		
規模	長軸長	―	短軸長	1.96m	壁残高	30～10cm			
	炉・カマド長径	―	炉・カマド短径	―	炉・カマド深度	―			
	柱穴数	3基	主柱穴	不明					
	面　積	―							
覆土	1.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。φ 5㎜大パミス・ローム粒子多含。 2.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。 3.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。ローム粒子多含。								
遺　物	縄文土器、古墳時代の土師器、石器。								
備　考	古墳時代の竪穴。								



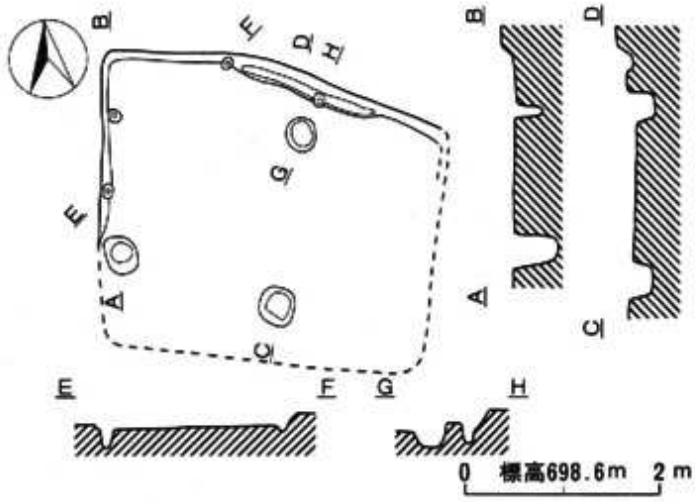
SYY 4　Ta 2

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	Ta 5	調査年度	平成4年	通番号	4
位　置	す20	重複関係	H102に切られる。						
平面形状	－	長軸方位	N－114－E	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	4.24m	短軸長	1.72m	壁残高	8～4cm			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	6基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	土師器。								
備　考	平安時代末期の竪穴。								



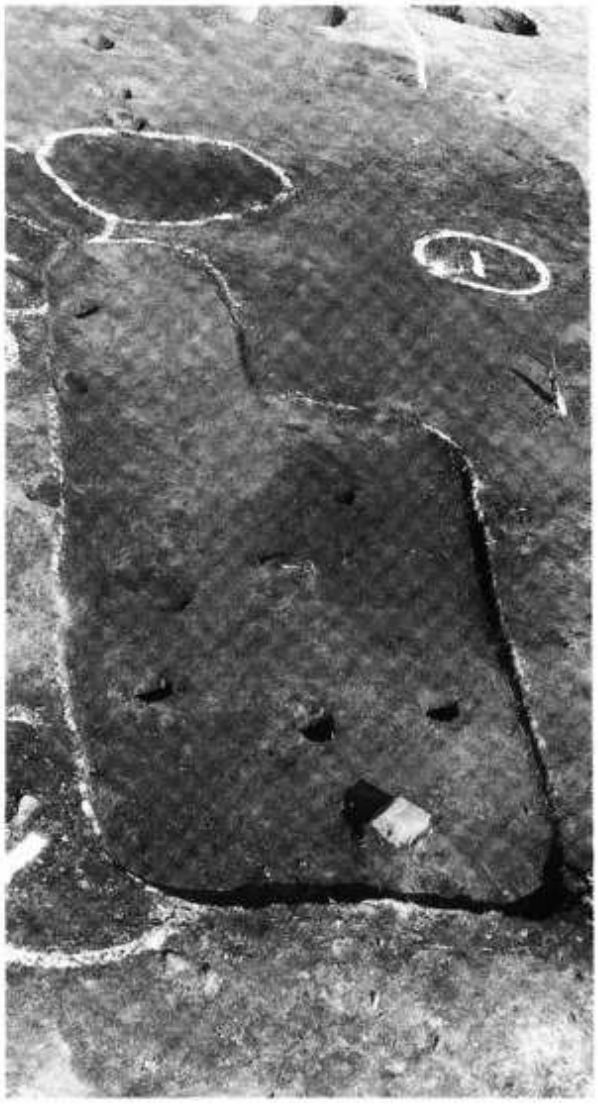
第318図　SYY 4　Ta 5

遺跡名	SYY	地区名	4	遺構名	Ta 6	調査年度	平成4年	通番号	5
位　置	そ19	重複関係	H102に切られる。						
平面形状	台形	長軸方位	N－101－E	炉	有・(無)	カマド	有・(無)		
規模	長軸長	3.48m	短軸長	3.04m	壁残高	12～0cm			
	炉・カマド長径	－	炉・カマド短径	－	炉・カマド深度	－			
	柱穴数	7基	主柱穴	不明					
	面　積	－							
遺　物	なし。								
備　考	時代不明の竪穴。								

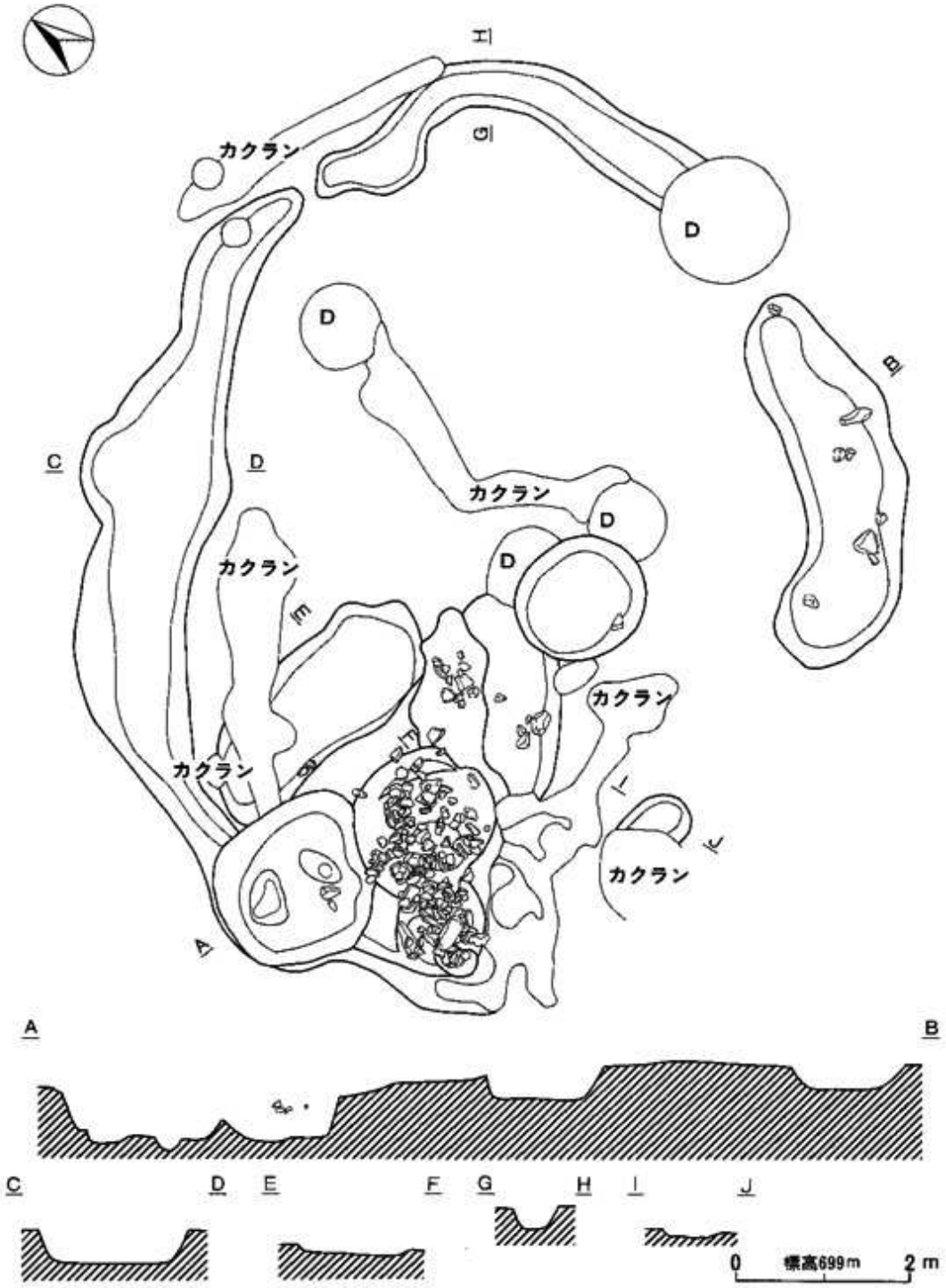


第319図　SYY 4　Ta 6

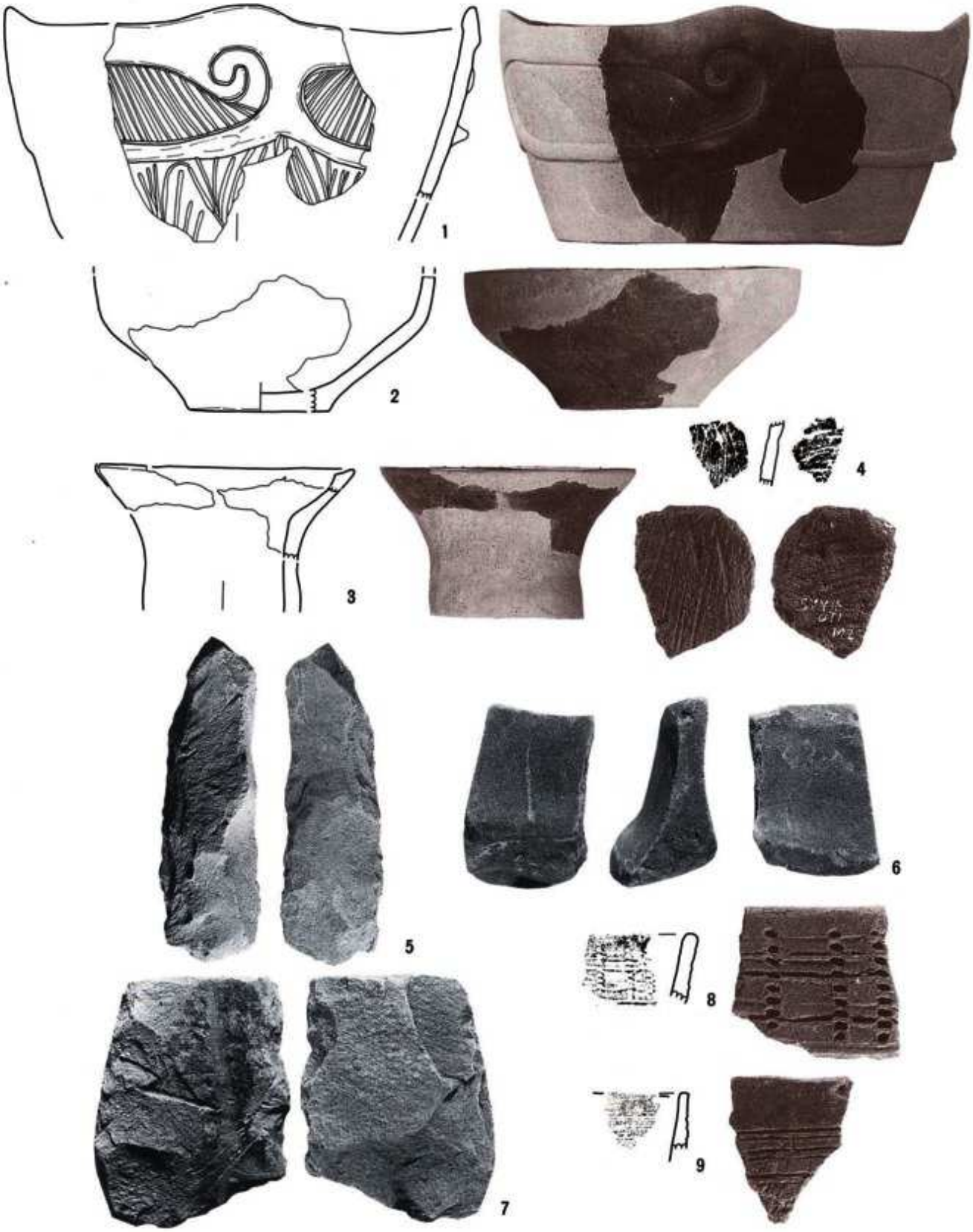
SYY 4 Ta 2



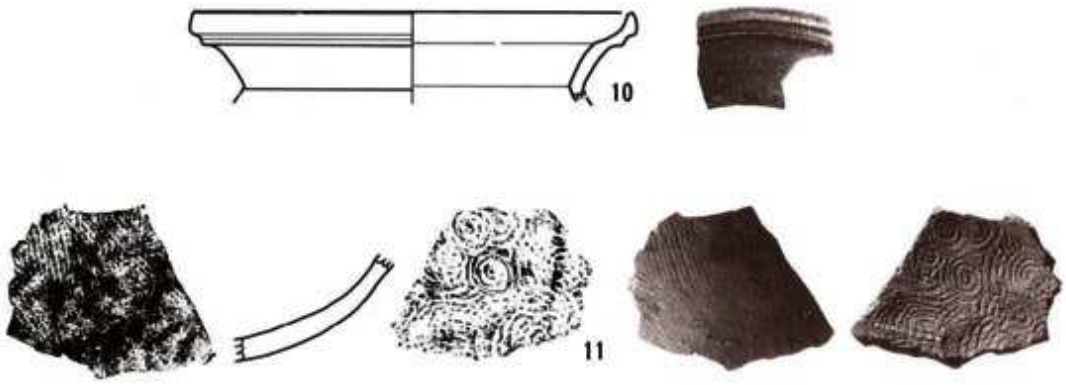
SYY 4 Ta 5



第320図　SYY 4　OT 1 (1)



第321図　SYY 4　OT 1（2）



第322図　SYY 4　OT 1（3）

寄山遺跡4地区（SYY 4）OT 1出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	—	32.00	—	—	唐草文
2	縄文深鉢	底	—	—	96.00	—	
3	縄文壷	口	—	17.60	—	—	
4	縄文深鉢	体	—	—	—	—	条痕文土器
5	打製石斧	II 1 o	11.40	3.50	1.74	76	
6	砥石	—	6.23	4.00	2.55	82	
7	打製石斧	II ? a	8.88	6.64	1.40	122	
8	縄文深鉢	口	—	—	—	—	有尾
9	縄文深鉢	口	—	—	—	—	有尾
10	須恵器甕	口	—	22.40	—	—	
11	須恵器甕	体	—	—	—	—	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M 2号溝址（4 A）出土遺物一覧表No. 1

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	I ? a	10.20	5.39	1.73	156	
2	打製石斧	II ? a	10.30	5.77	1.16	92	
3	打製石斧	I ? a	9.06	4.92	1.90	114	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M2号溝址（4A）出土遺物一覧表　No.2

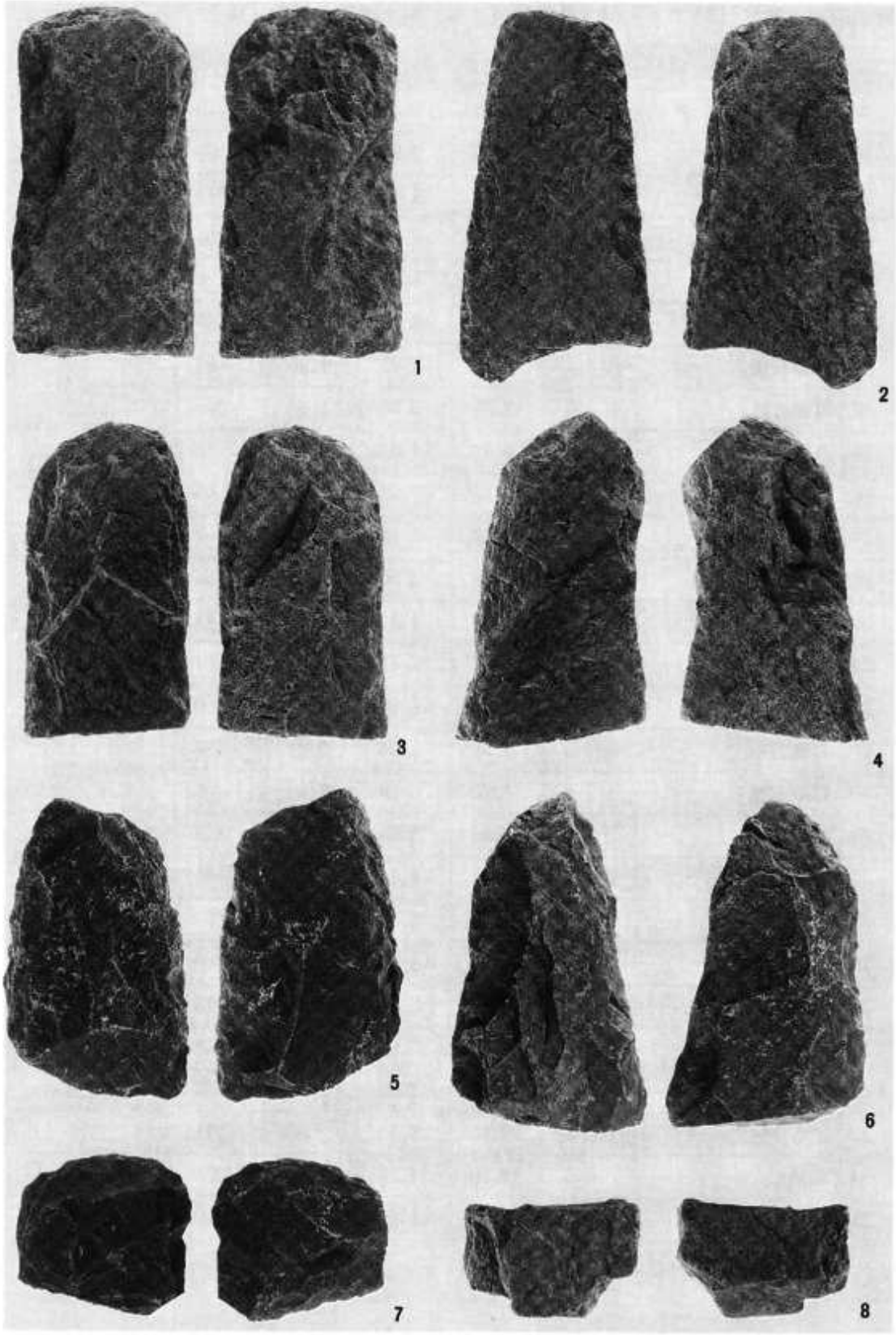
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
4	打製石斧	II ? a	9.68	5.22	1.89	148	
5	打製石斧	II ? a	8.68	5.28	1.31	79	
6	打製石斧	II ? a	9.16	5.56	1.28	138	
7	打製石斧	IV ? a	4.62	5.01	1.04	32	
8	打製石斧	IV ? b	3.35	5.17	1.60	41	
9	打製石斧	II 3 c	8.84	5.41	1.22	74	
10	打製石斧	II ? b	8.31	5.08	1.92	133	
11	打製石斧	IV ? b	4.75	4.76	1.62	64	
12	打製石斧	IV ? b	8.19	6.88	1.37	127	
13	打製石斧	IV ? b	5.00	5.04	1.16	40	
14	打製石斧	II ? b	8.28	7.25	0.82	60	
15	打製石斧	IV ? b	6.68	5.63	1.09	67	
16	打製石斧	IV ? b	6.23	5.08	1.07	50	
17	打製石斧	II 3 c	9.42	6.47	1.07	105	
18	凹石	II 2	6.15	5.28	1.58	47	
19	スクレイパー	—	3.50	6.58	0.77	24	
20	スクレイパー	—	6.27	10.70	1.63	98	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M2号溝址（4B）出土遺物一覧表　No.1

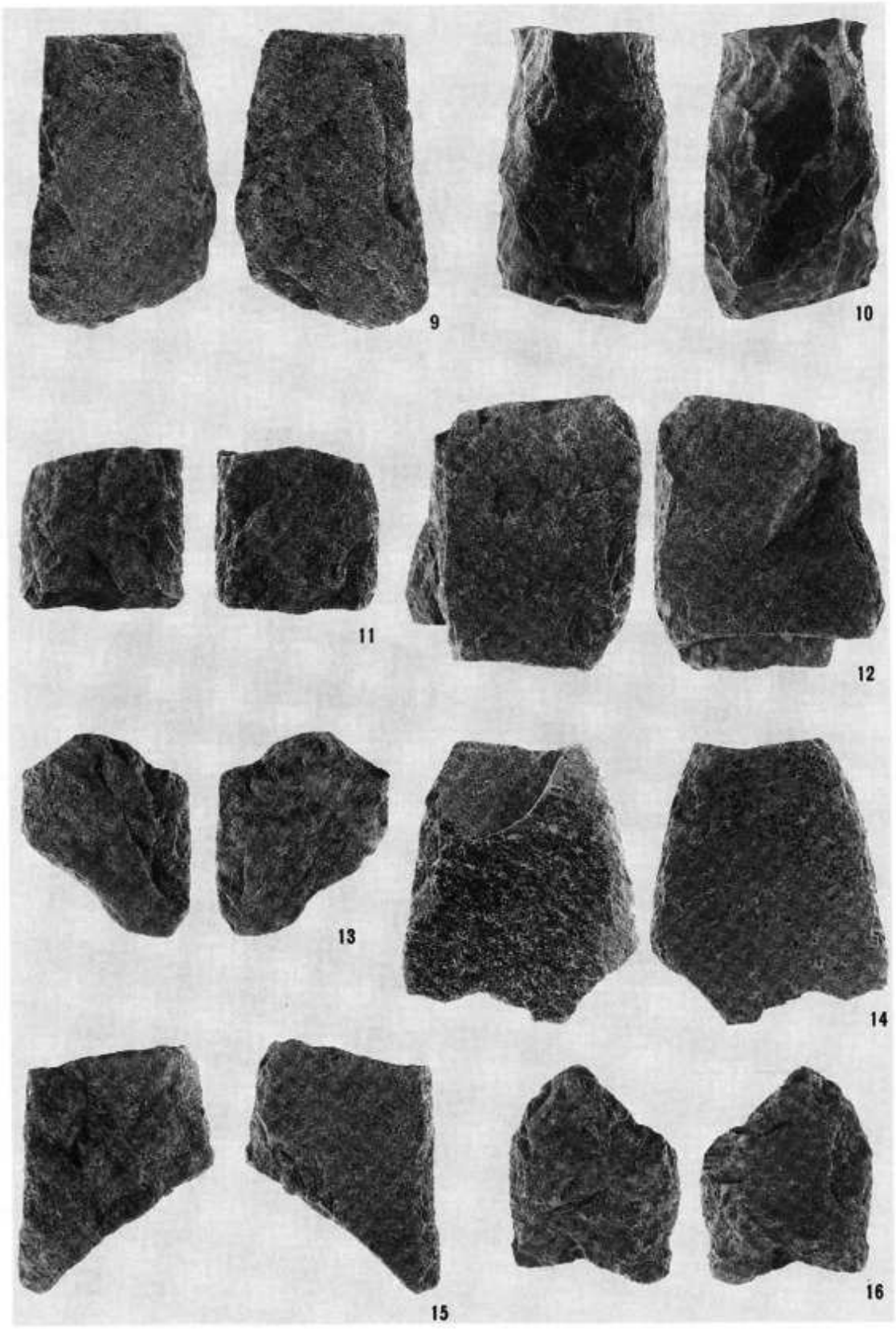
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	—	—	—	—	加曽利E
2	石鏃	I 1	1.45	1.35	0.25	0.1	片脚欠
3	石鏃	I 1	1.65	1.50	0.50	0.2	
4	石鏃	I 1	1.70	1.20	0.42	0.2	片脚欠
5	石鏃	III 2	1.90	1.60	0.52	0.2	
6	石鏃	?	2.10	0.83	0.38	0.2	
7	石錐	I	3.28	4.10	1.08	10.0	
8	石匙	III	12.20	7.66	1.20	92.0	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M 2号溝址（4 B）出土遺物一覧表　No. 2

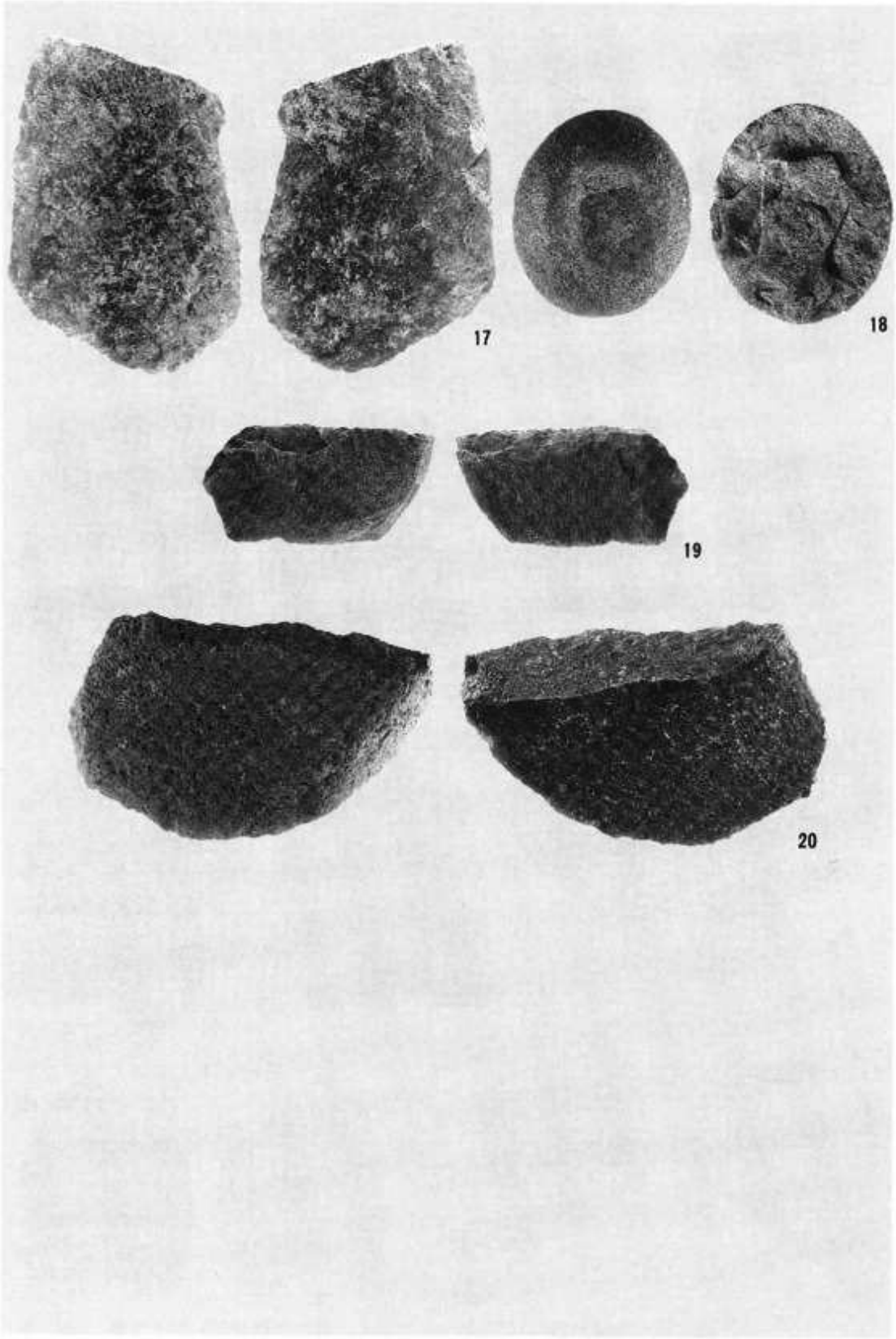
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
9	打製石斧	II ? a	14.10	5.43	1.70	143	
10	打製石斧	I ? a	8.13	5.90	2.30	150	
11	打製石斧	II ? a	14.70	5.45	1.88	212	
12	打製石斧	II 2 o	14.80	9.60	2.06	280	
13	打製石斧	II ? a	10.20	5.58	1.55	120	
14	打製石斧	IV ? a	12.40	8.30	2.60	360	
15	打製石斧	IV ? a	8.70	4.20	1.60	80	
16	打製石斧	II ? a	8.20	5.00	1.50	300	
17	打製石斧	II ? a	9.94	4.04	0.59	30	
18	打製石斧	IV ? b	6.45	5.02	0.95	45	
19	打製石斧	IV ? b	6.28	4.97	1.30	60	
20	打製石斧	IV ? a	6.18	4.20	1.43	58	
21	打製石斧	IV ? b	5.32	4.25	1.30	42	
22	打製石斧	IV ? a	3.87	5.45	0.80	24	
23	打製石斧	IV ? a	8.00	5.68	1.32	90	
24	打製石斧	II ? b	9.76	8.00	2.38	280	
25	打製石斧	I ? b	6.80	5.20	1.88	100	
26	打製石斧	II 1 c	11.80	6.64	1.50	160	
27	打製石斧	II ? b	10.50	5.10	1.25	80	
28	打製石斧	II 1 c	7.83	6.10	1.17	80	
29	打製石斧	I 1 c	6.65	4.64	1.33	60	
30	打製石斧	IV 1 c	2.84	6.30	0.86	18	
31	凹石	II 2	10.50	7.95	5.42	610	
32	凹石	II 2	10.40	7.79	5.52	600	
33	凹石	II 2	9.80	5.40	3.83	220	
34	石皿	—	14.20	11.50	4.38	1250	
35	凹石	II 1	6.00	6.20	3.70	160	



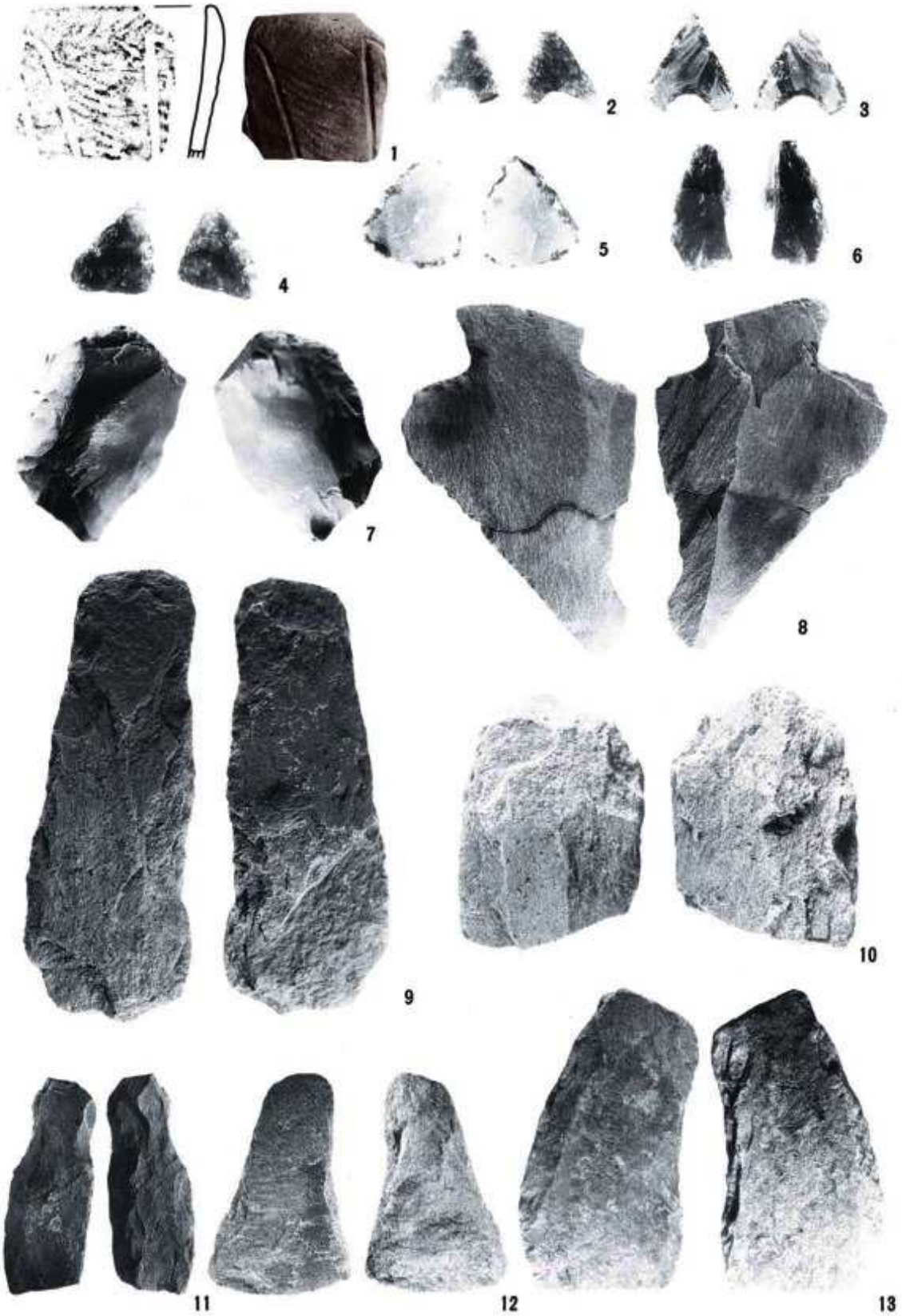
SYY 4　M2号溝址4A区出土遺物（1）



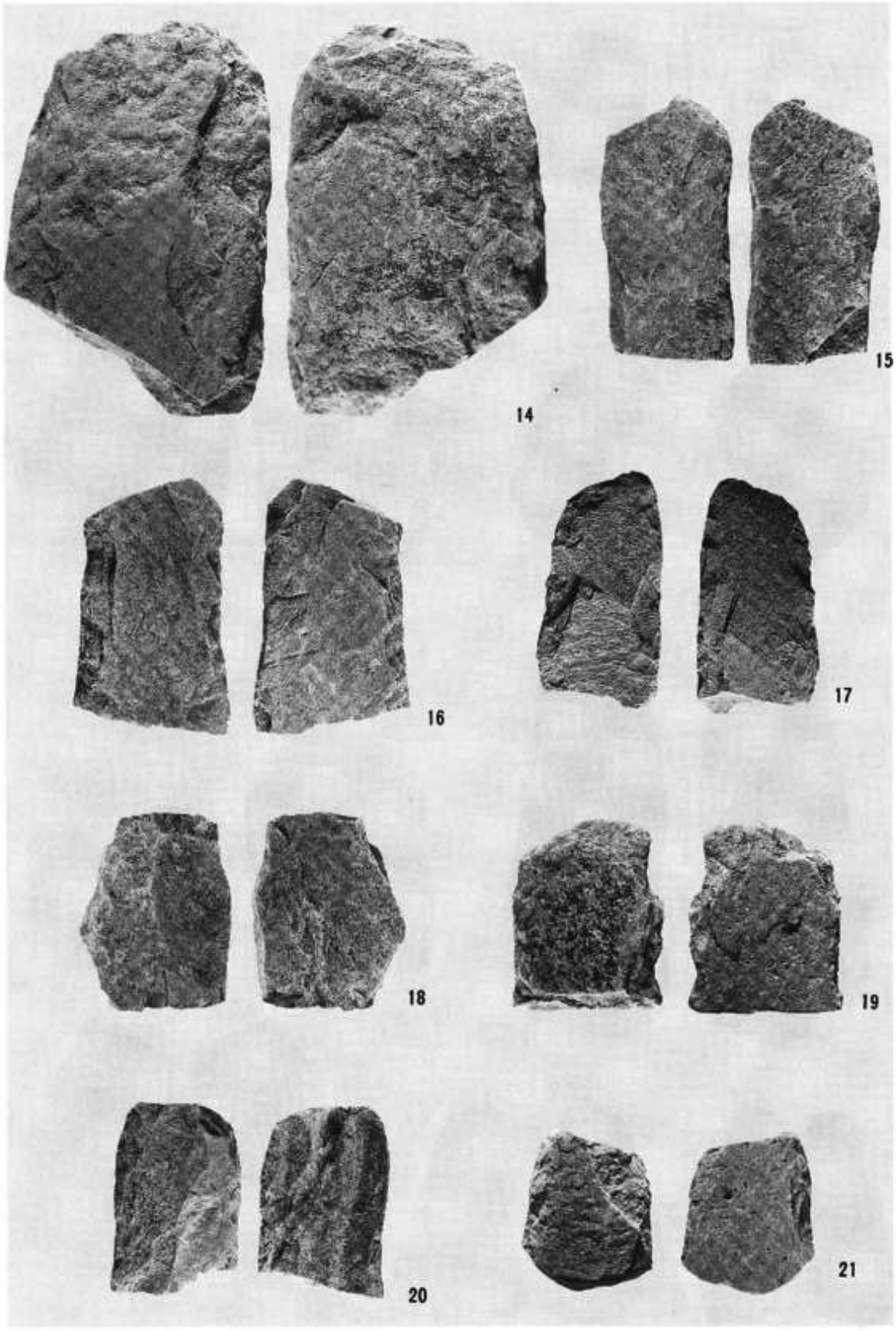
SYY 4　M 2 号溝址 4 A区出土遺物（2）



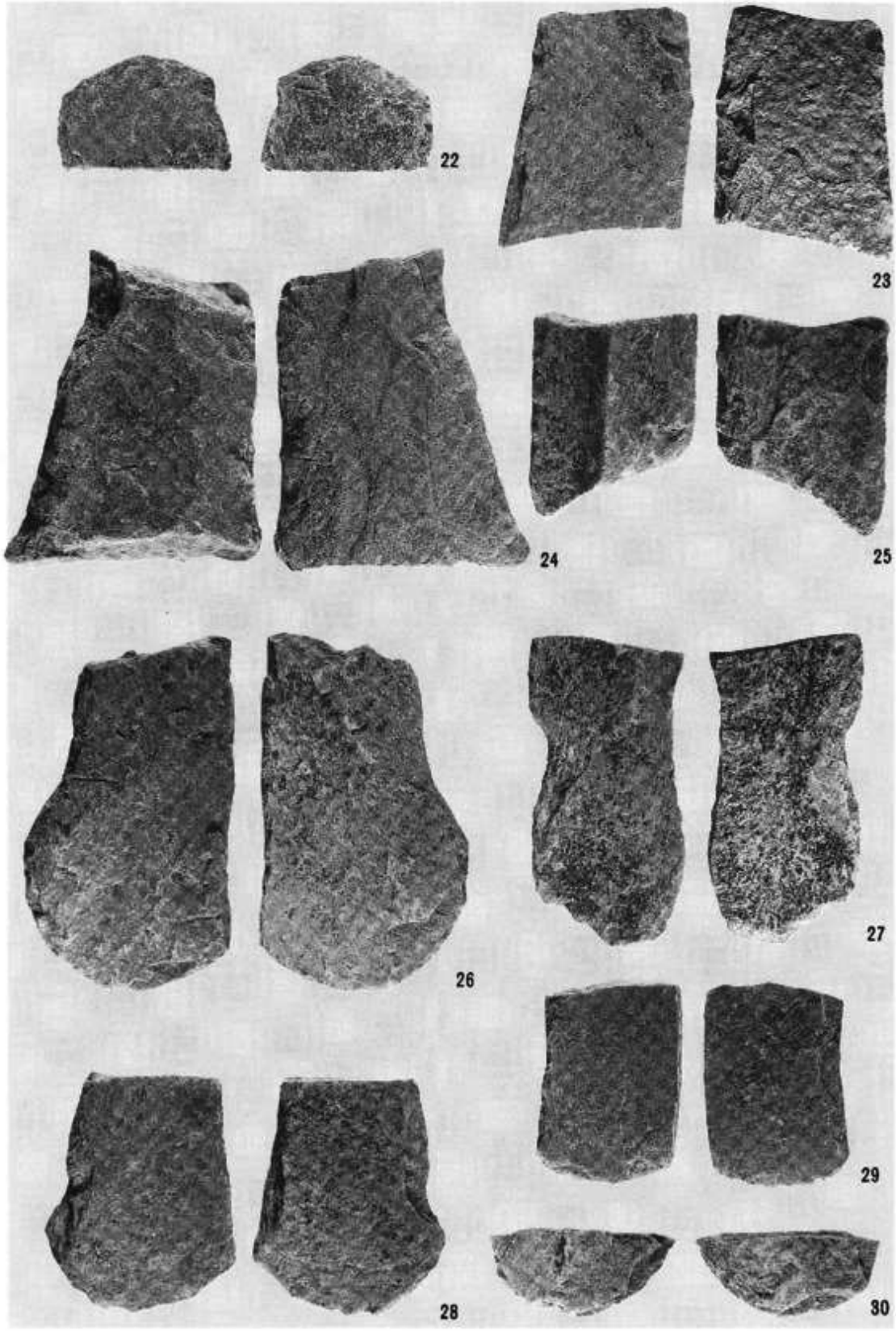
SYY 4　M 2 号溝址 4 A区出土遺物（3）



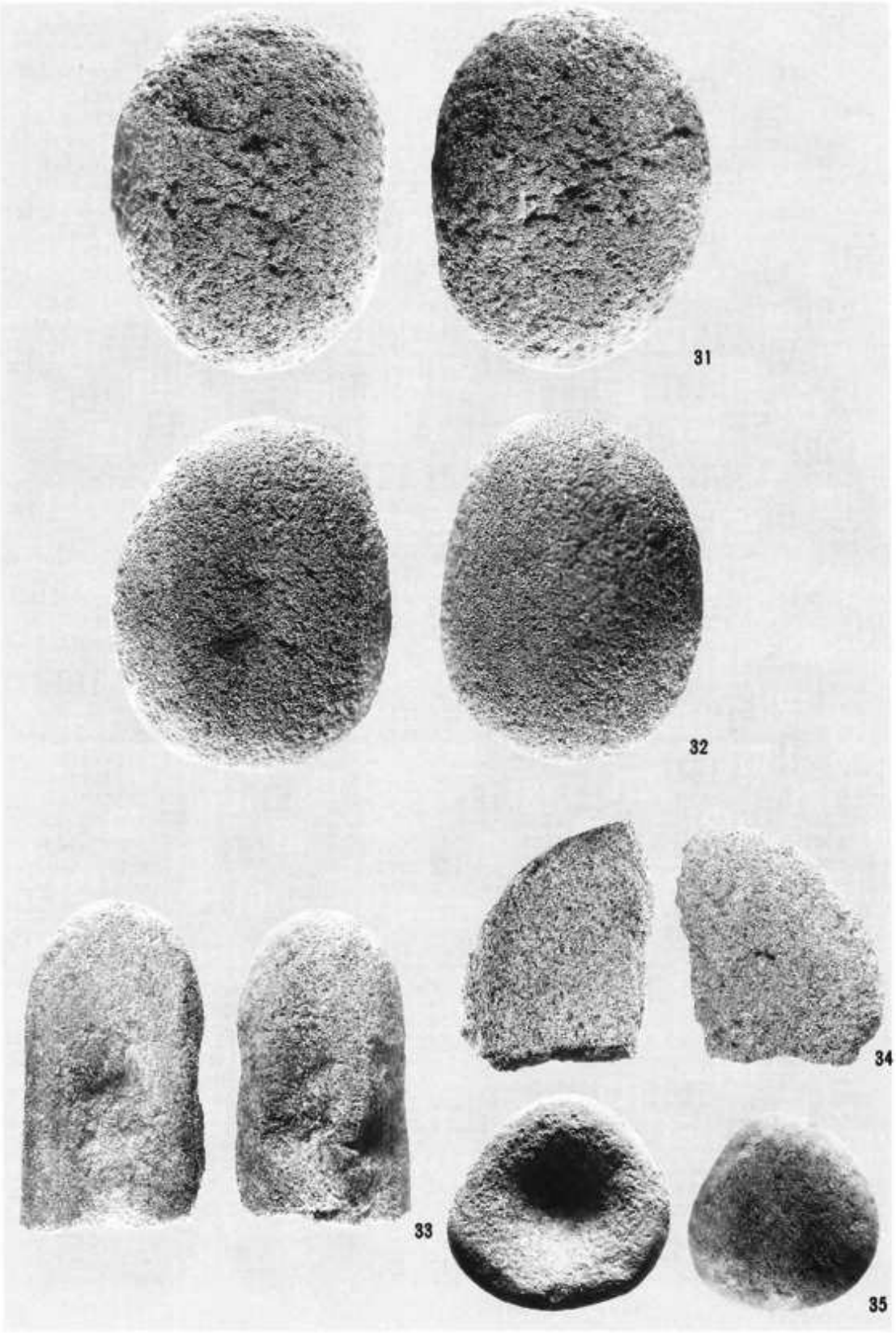
SYY 4　M 2 号溝址4B 区出土遺物（1）



SYY 4　M 2 号溝址4B 区出土遺物（2）



SYY 4　M 2 号溝址4B 区出土遺物（3）



SYY 4　M 2 号溝址4B 区出土遺物（4）

寄山遺跡4地区（SYY 4）M3号溝址出土遺物一覧表

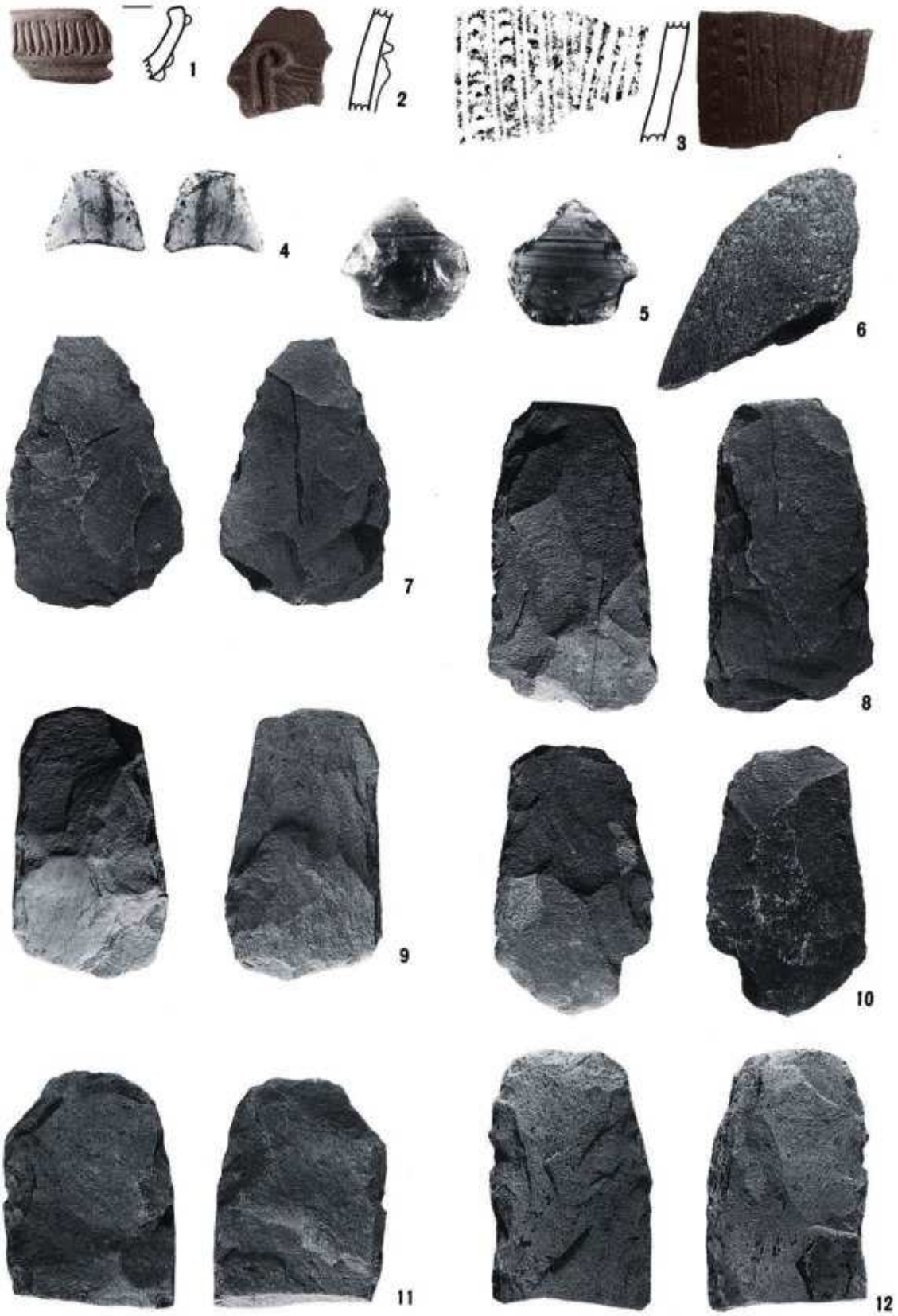
No.	器種	部位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	縄文深鉢	口	—	—	—	—	中期後半
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	唐草文
3	縄文深鉢	体	—	—	—	—	曽利
4	石鏃	I 1	1.35	1.65	0.25	0.6	先端欠
5	スクレイパー	—	1.99	1.92	0.65	3.0	
6	磨製石斧	II	8.95	4.83	2.20	80.0	
7	打製石斧	II ? a	9.00	5.66	1.40	90.0	
8	打製石斧	II ? a	10.40	5.70	1.27	120.0	
9	打製石斧	II ? a	8.95	5.13	1.59	95.0	
10	打製石斧	II ? a	9.20	5.17	0.95	60.0	
11	打製石斧	I ? a	7.65	5.55	1.80	110.0	
12	打製石斧	I ? a	8.57	9.35	1.95	120.0	
13	打製石斧	IV ? a	9.30	5.65	0.90	60.0	
14	打製石斧	IV ? a	6.70	7.50	1.77	120.0	
15	打製石斧	II ? a	9.30	5.70	1.82	140.0	
16	スクレイパー	—	10.30	7.55	1.76	160.0	
17	スクレイパー	—	6.30	6.40	1.24	60.0	
18	凹石	II 2	9.80	7.35	4.10	320.0	
19	スクレイパー	—	8.90	13.10	1.65	180.0	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M4号溝址出土遺物一覧表

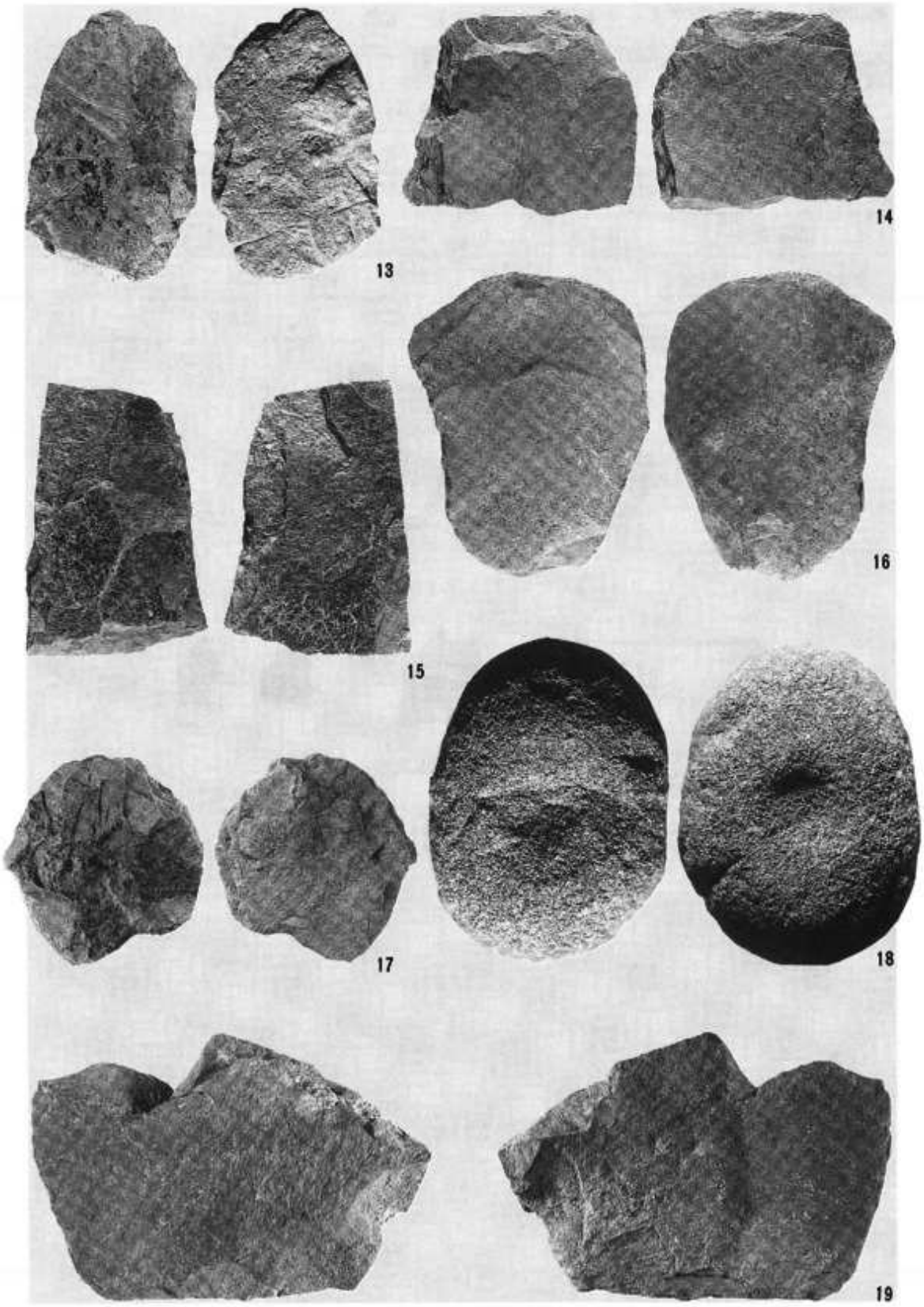
No.	器種	部位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	磨石	I	5.45	5.25	4.26	182	

寄山遺跡4地区（SYY 4）M5号溝址出土遺物一覧表

No.	器種	部位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	土師器坏	口～底	3.6	13.2	6.00	—	中期後半
2	石鏃	I 1	1.5	1.2	0.33	0.2	脚欠



SYY 4　M3号溝址出土遺物（1）



SYY 4　M 3 号溝址出土遺物（2）

寄山遺跡4地区（SYY 4）M6号溝址出土遺物一覧表

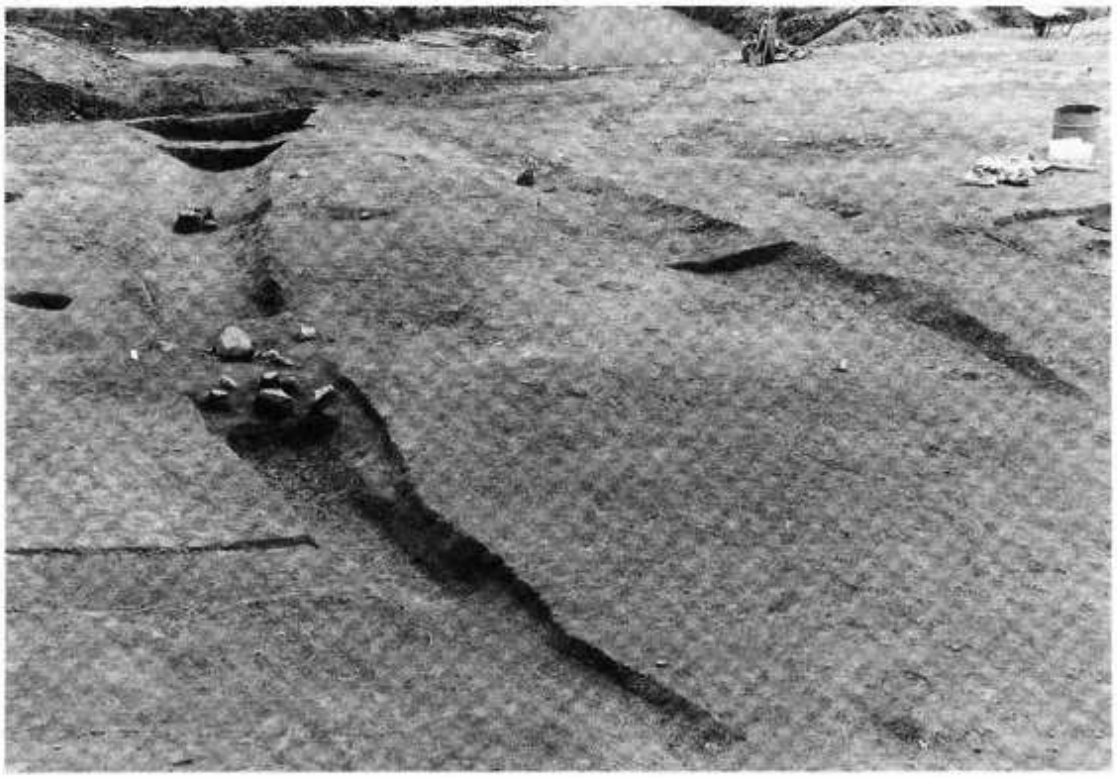
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	—	19.00	—	—	加曽利E
2	石鏃	I 1	1.50	1.48	0.24	0.2	
3	石鏃	I 1	1.83	1.51	0.32	0.5	
4	打製石斧	II ? a	11.00	4.50	1.40	100.0	
5	スクレイパー	—	4.64	3.60	1.38	220.0	
6	磨石	I	6.75	8.47	5.10	418.0	

SYY 4　M4号溝址出土遺物

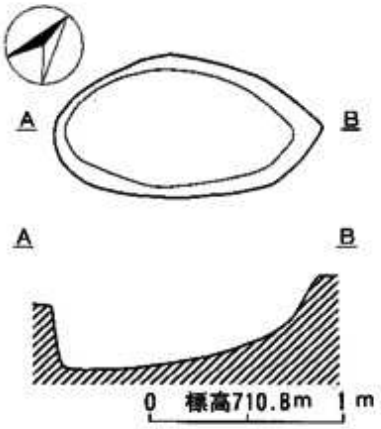
SYY 4　M5号溝址出土遺物

SYY 4　M 6 号溝址出土遺物

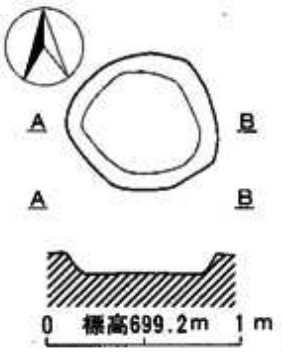
SYY 4　OT 1



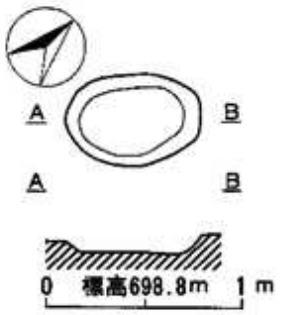
SYY 4　M4・5号溝址



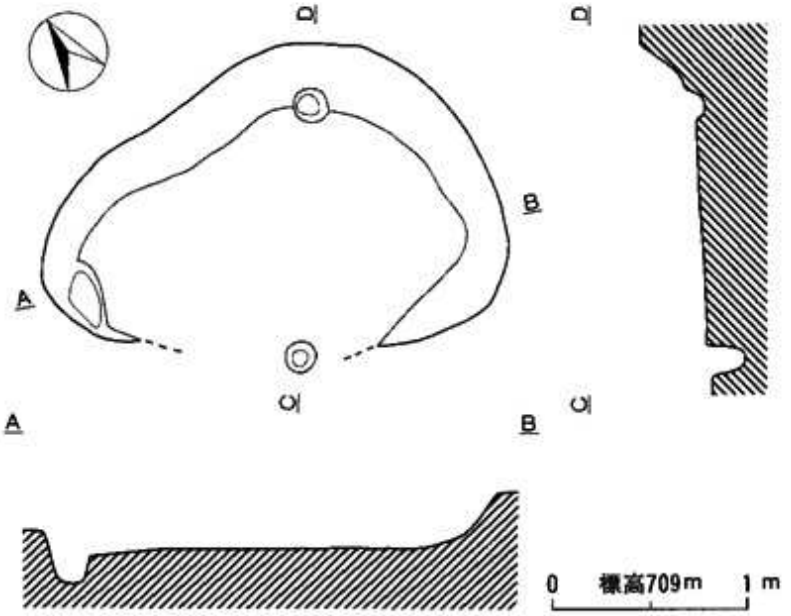
第323図　SYY 4　D41号土坑



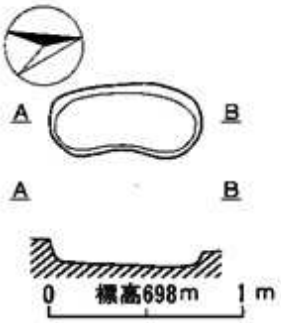
第325図　SYY 4　D48号土坑



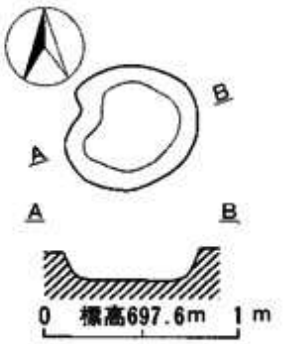
第326図　SYY 4　D49号土坑



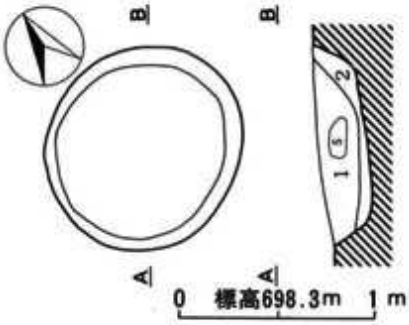
第324図　SYY 4　D42号土坑

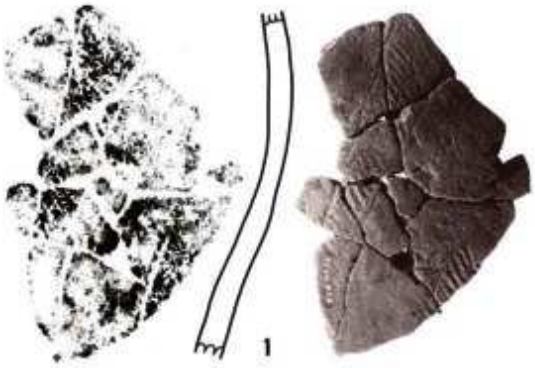


第327図　SYY 4　D50号土坑

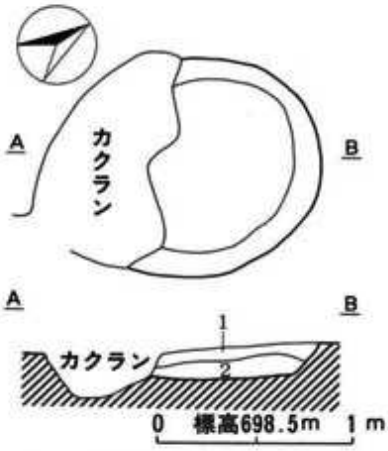


第328図　SYY 4　D51号土坑

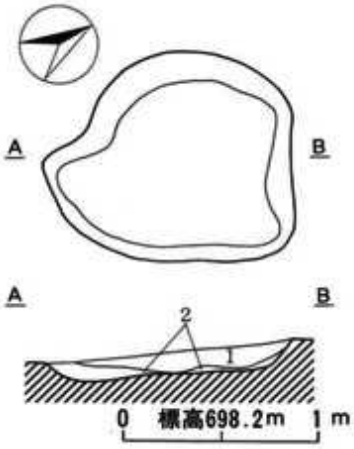




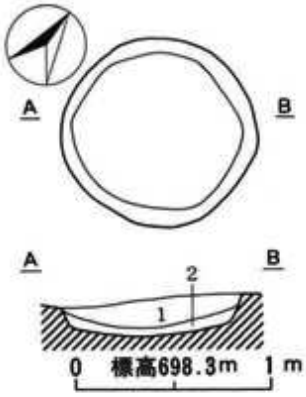
第329図　SYY 4　D53号土坑



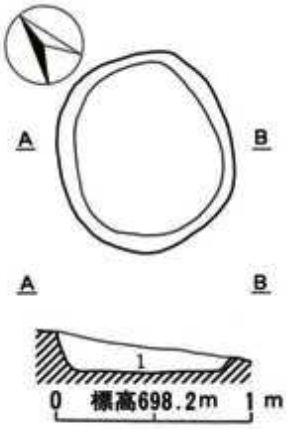
第334図　SYY 4　D58号土坑



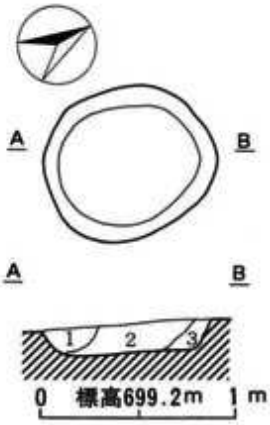
第332図　SYY 4　D56号土坑



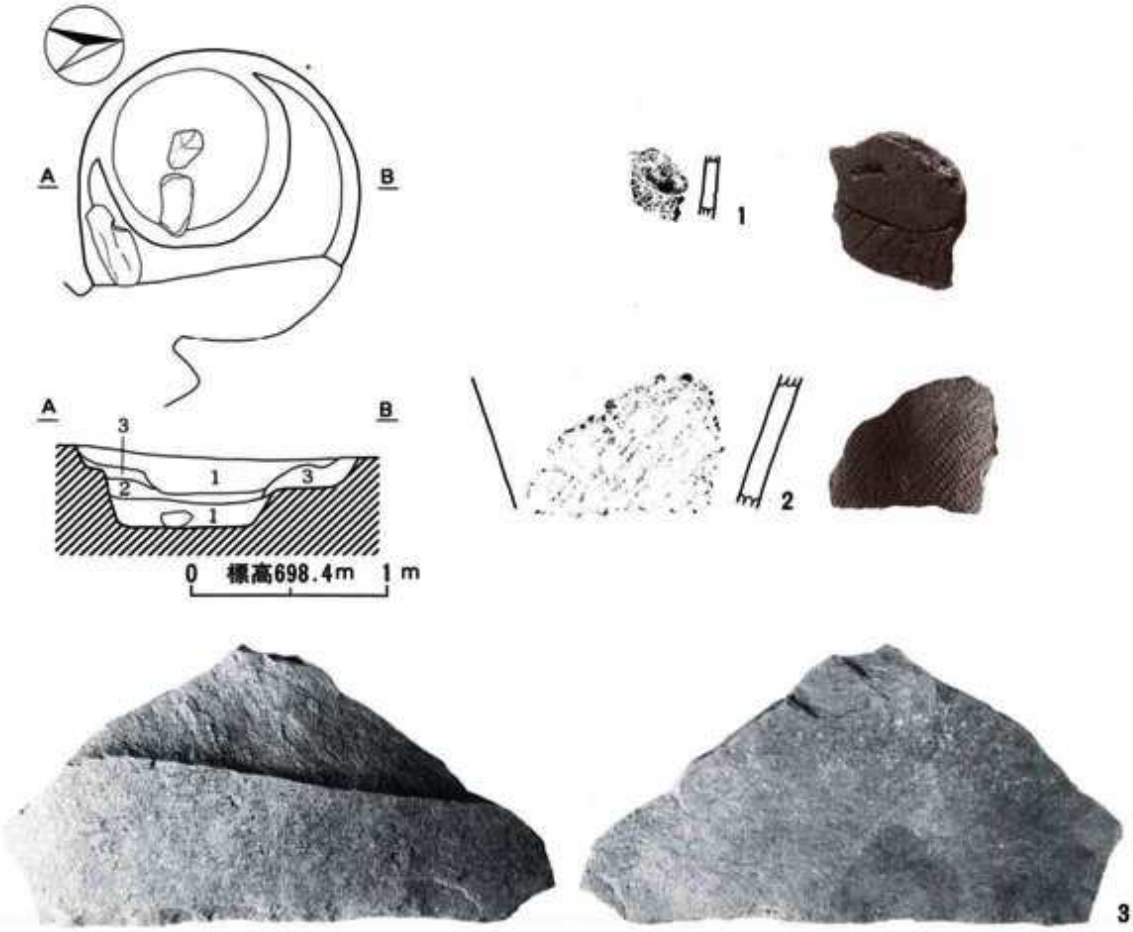
第330図　SYY 4　D54号土坑



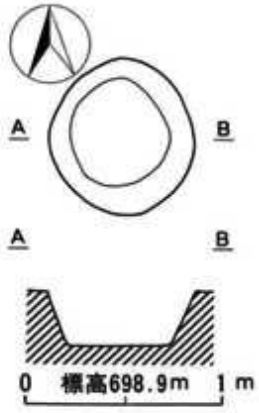
第331図　SYY 4　D55号土坑



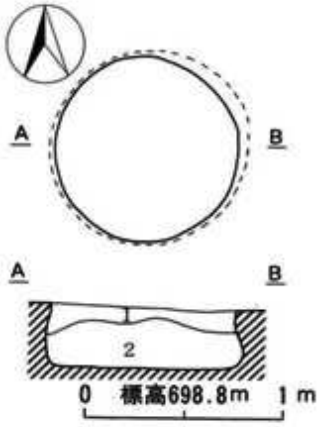
第333図　SYY 4　D57号土坑



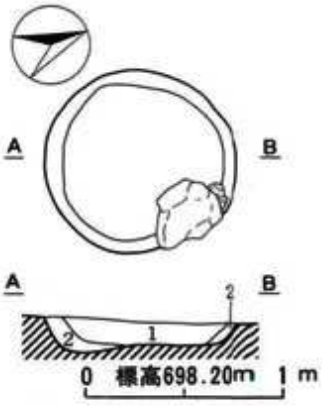
第335図　SYY 4　D59号土坑



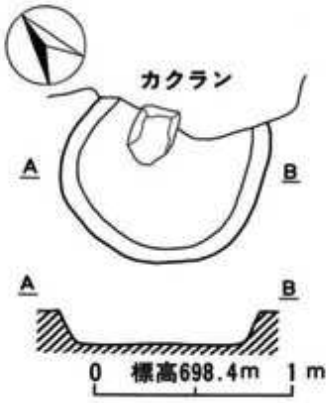
第336図　SYY 4　D60号土坑



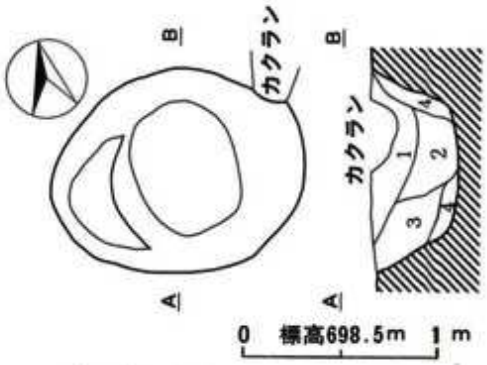
第337図　SYY 4　D61号土坑



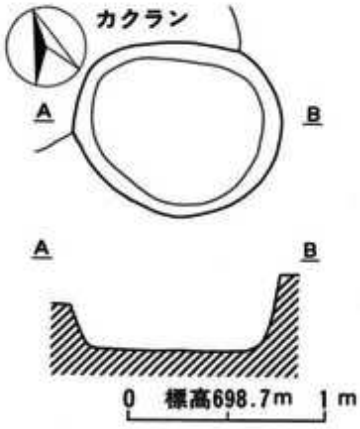
第338図　SYY 4　D62号土坑



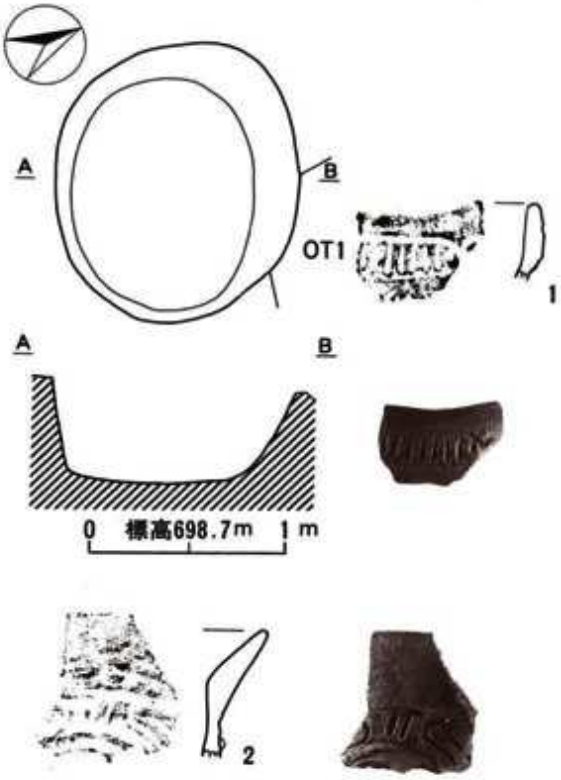
第339図　SYY 4　D63号土坑



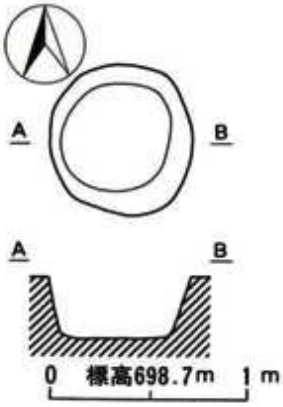
第340図　SYY 4　D64号土坑



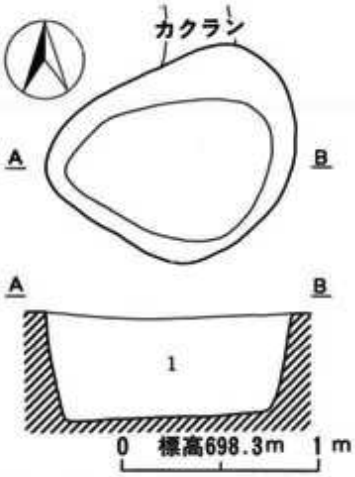
第341図　SYY 4　D65号土坑



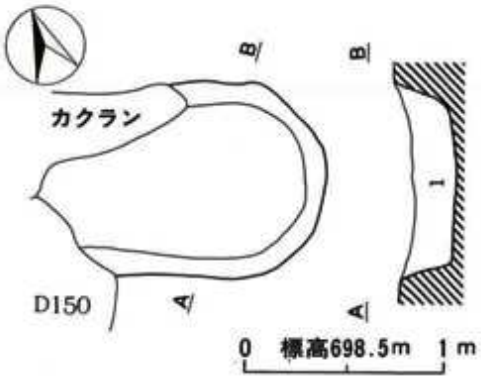
第342図　SYY 4　D66号土坑



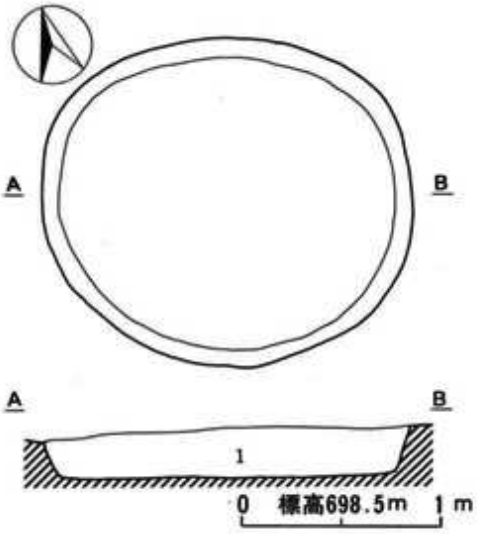
第343図　SYY 4　D67号土坑

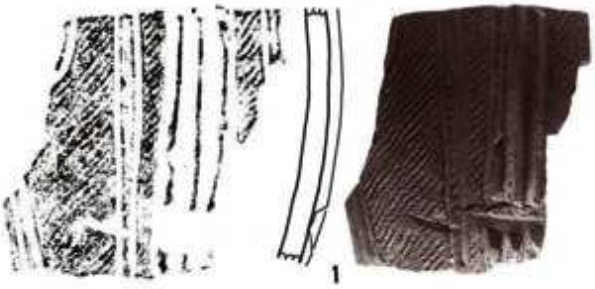


第344図　SYY 4　D68号土坑

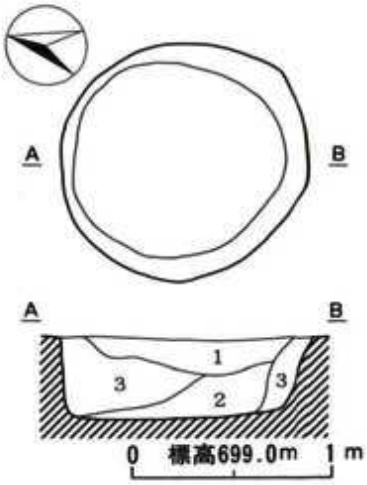


第345図　SYY 4　D69号土坑

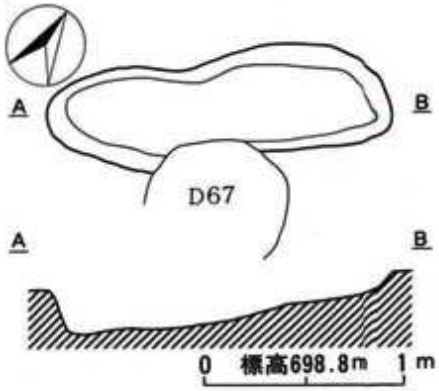




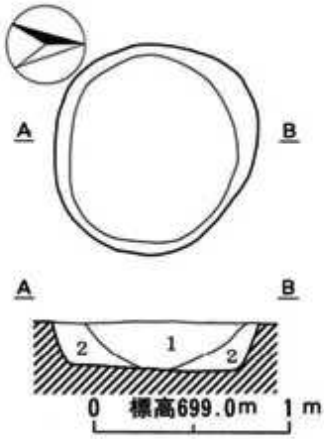
第346図　SYY 4　D70号土坑



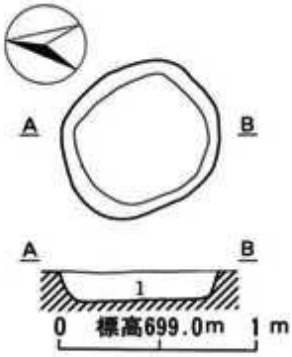
第348図　SYY 4　D72号土坑



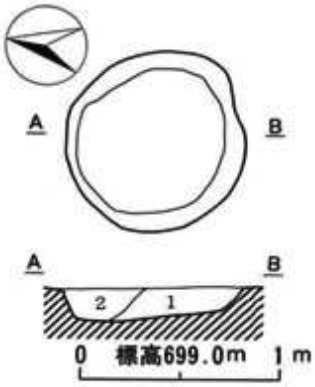
第347図　SYY 4　D71号土坑



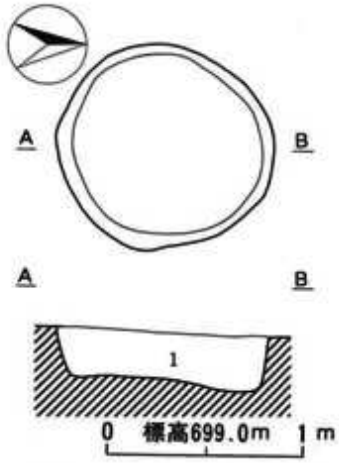
第349図　SYY 4　D73号土坑



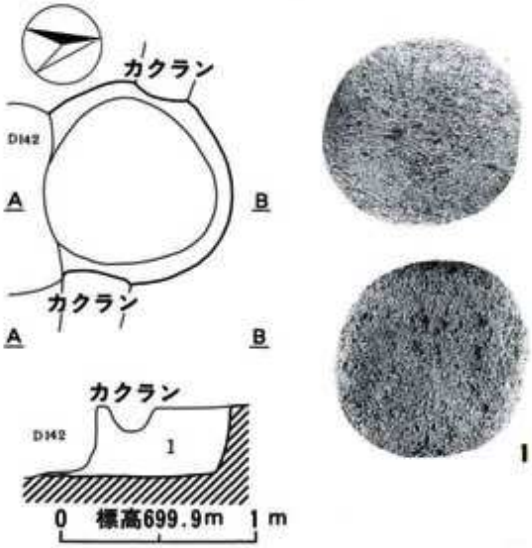
第350図　SYY 4　D74号土坑



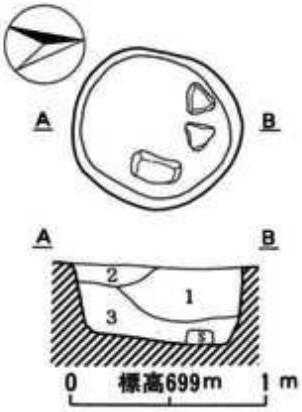
第352図　SYY 4　D76号土坑



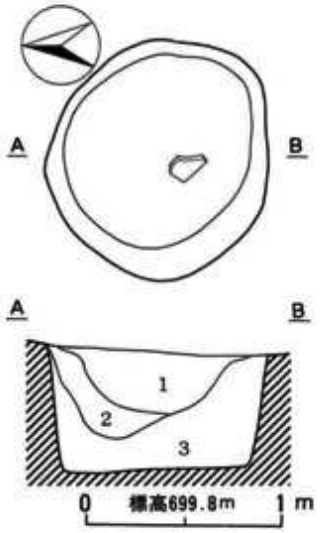
第353図　SYY 4　D77号土坑

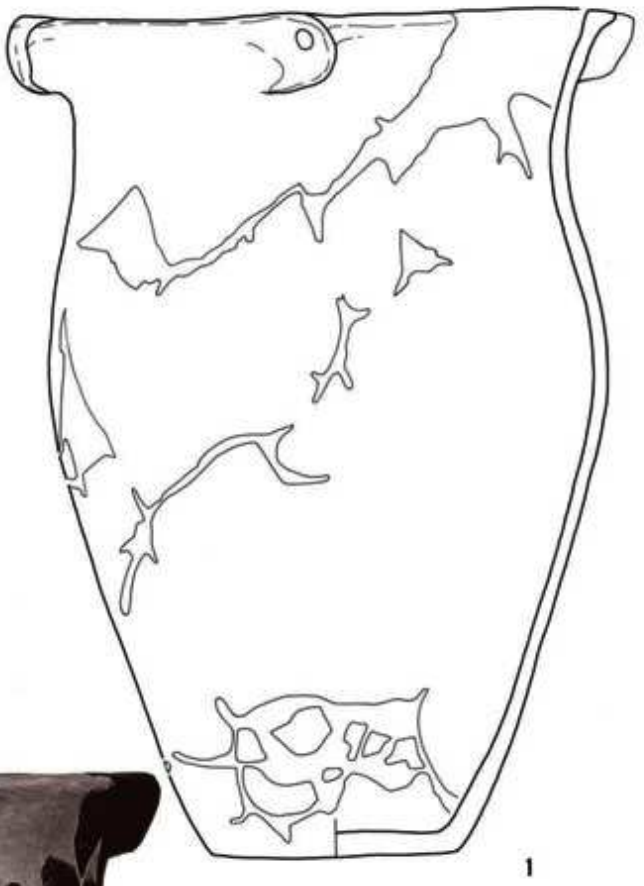


第356図　SYY 4　D80号土坑

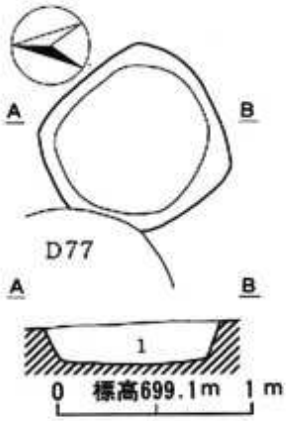


第355図　SYY 4　D79号土坑

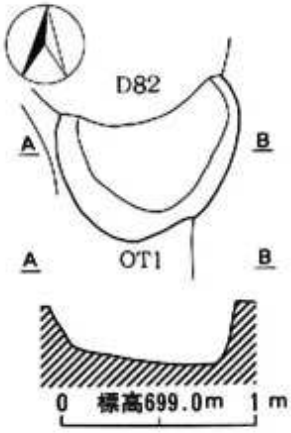




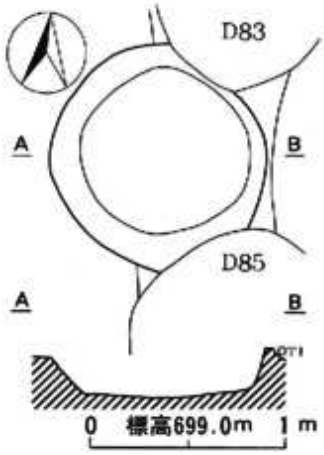
第351図　SYY 4　D75号土坑



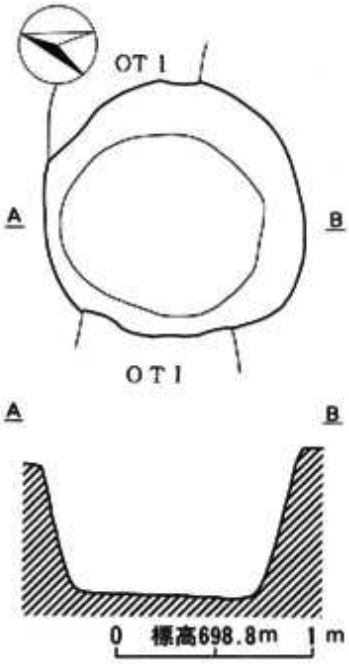
第354図　SYY 4　D78号土坑



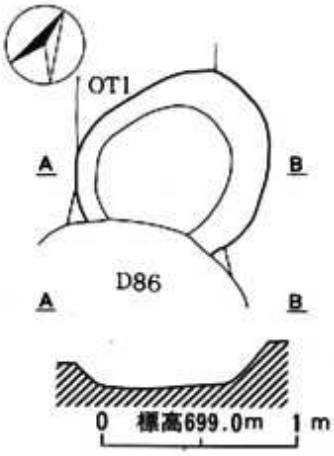
第359図　SYY 4　D83号土坑



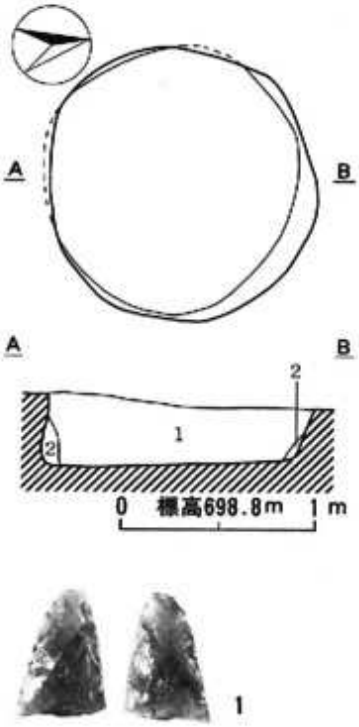
第360図　SYY 4　D84号土坑



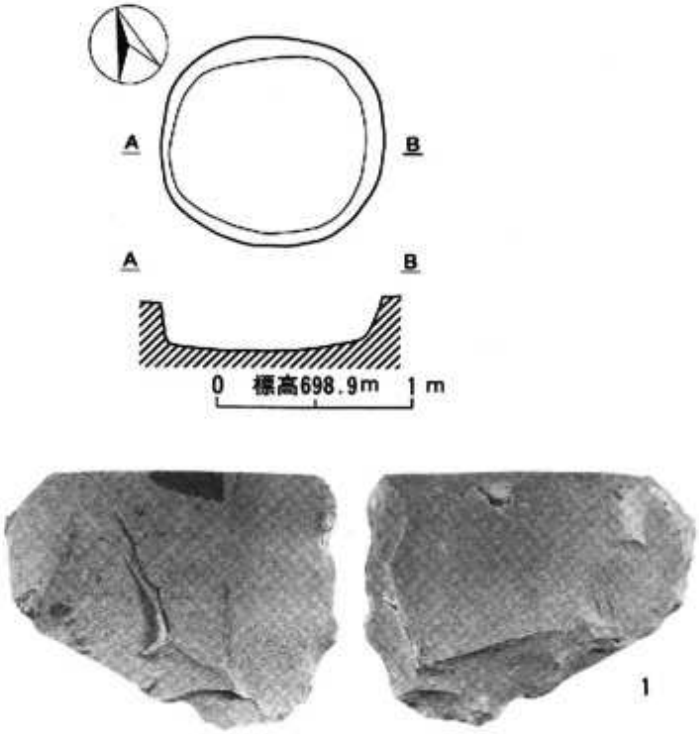
第357図　SYY 4　D81号土坑



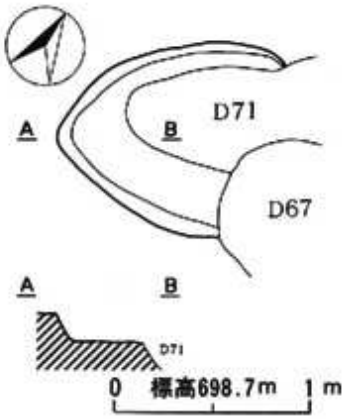
第361図　SYY 4　D85号土坑



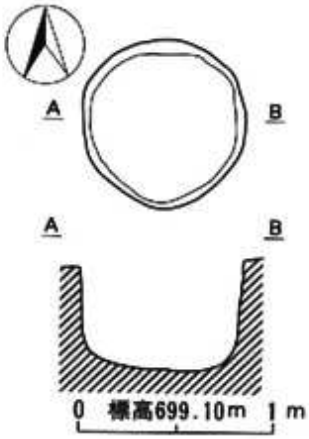
第362図　SYY 4　D86号土坑



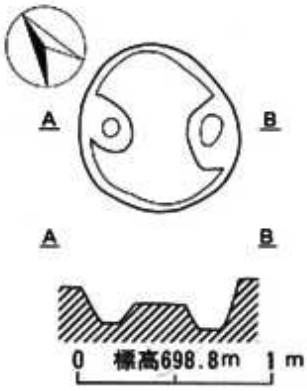
第363図　SYY 4　D87号土坑



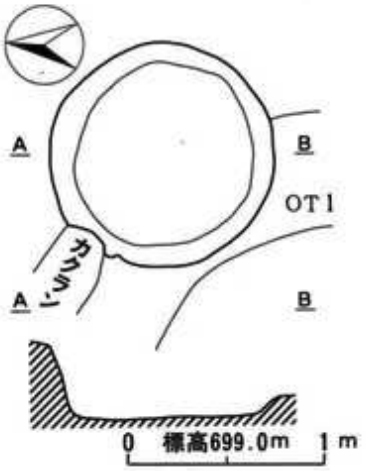
第364図　SYY 4　D88号土坑

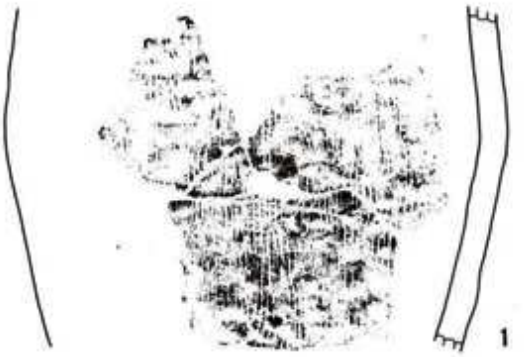


第365図　SYY 4　D89号土坑

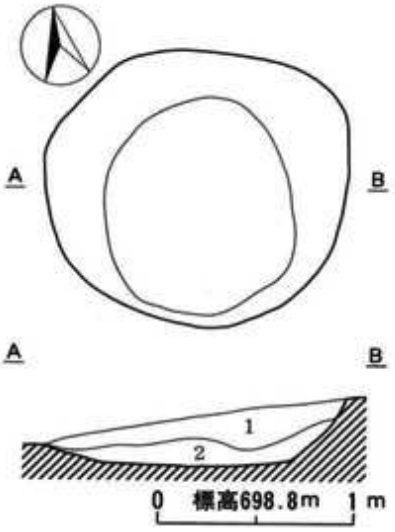


第368図　SYY 4　D92号土坑

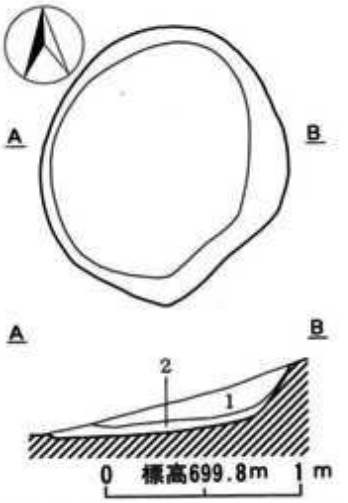




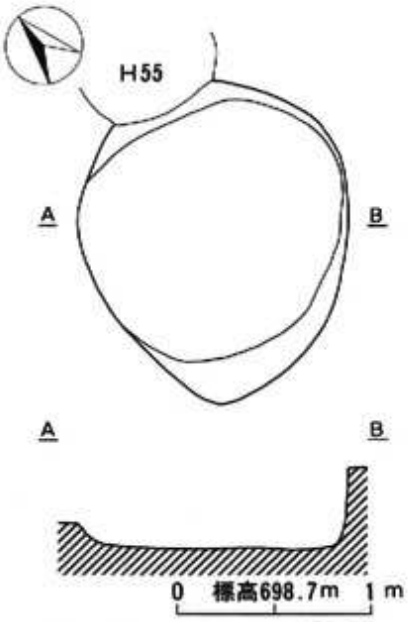
第358図　SYY 4　D82号土坑



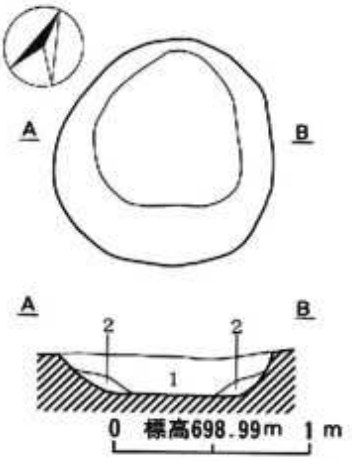
第366図　SYY 4　D90号土坑



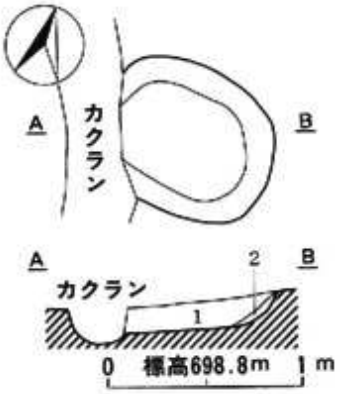
第367図　SYY 4　D91号土坑



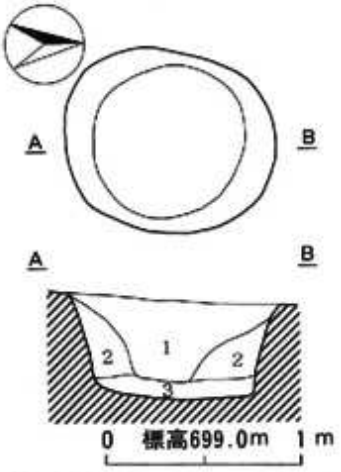
第369図　SYY 4　D93号土坑



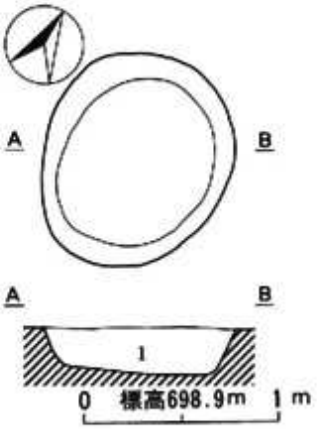
第370図　SYY 4　D94号土坑



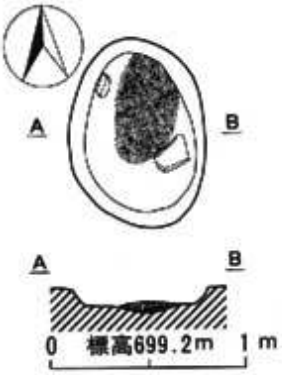
第372図　SYY 4　D96号土坑



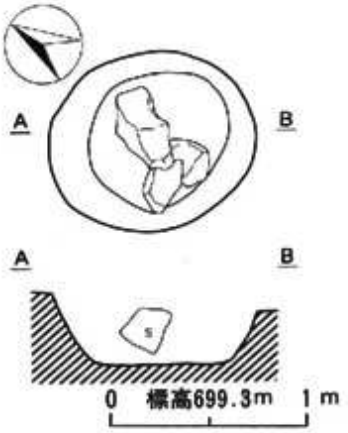
第371図　SYY 4　D95号土坑



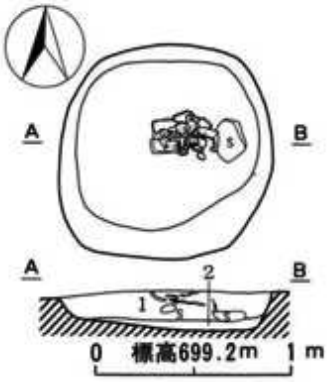
第373図　SYY 4　D97号土坑

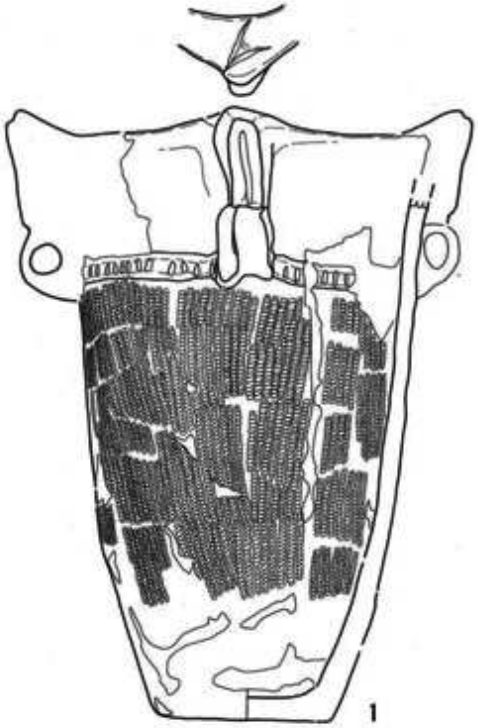


第374図　SYY 4　D98号土坑

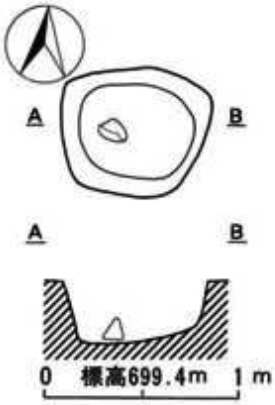


第377図　SYY 4　D101号土坑

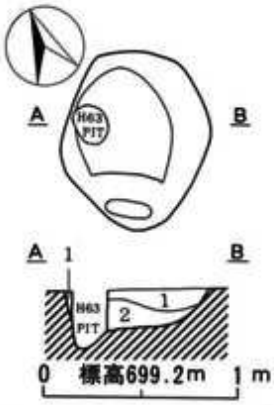




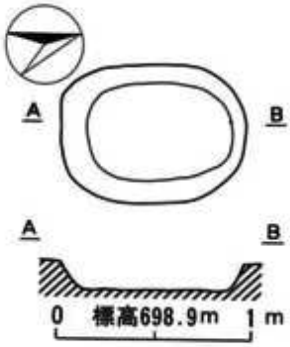
第375図　SYY 4　D99号土坑



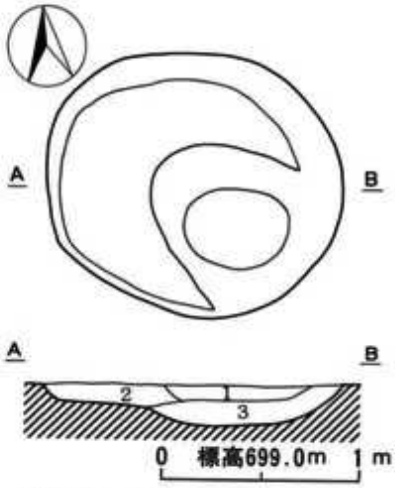
第382図　SYY 4　D106号土坑



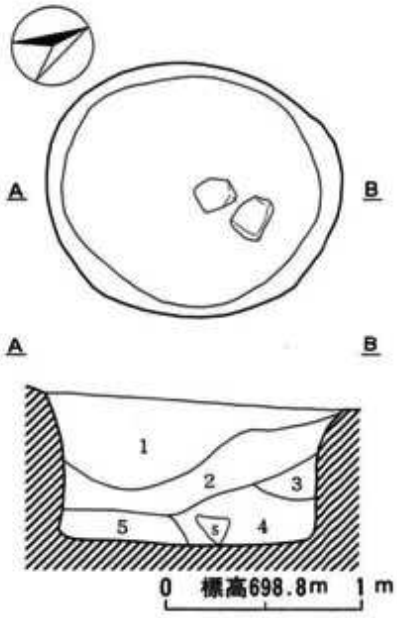
第384図　SYY 4　D108号土坑



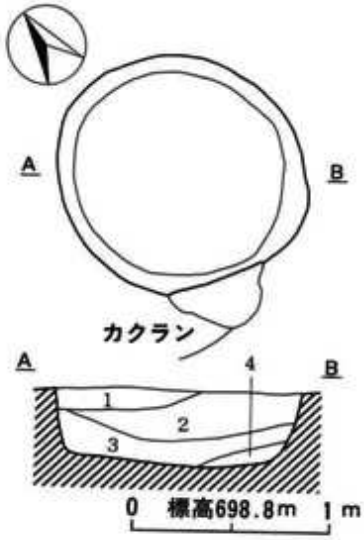
第385図　SYY 4　D109号土坑



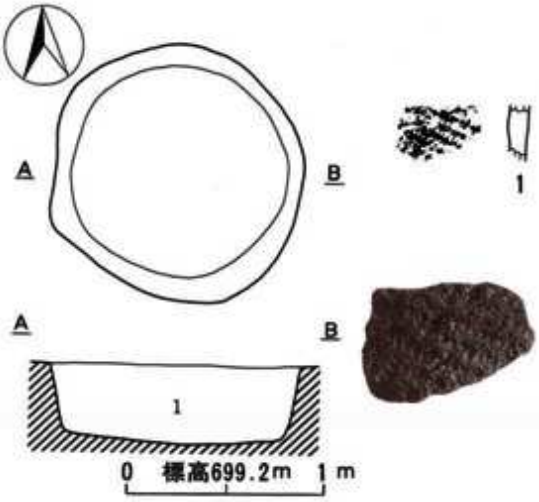
第376図　SYY 4　D100号土坑

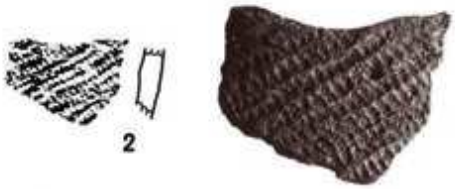


第378図　SYY 4　D102号土坑

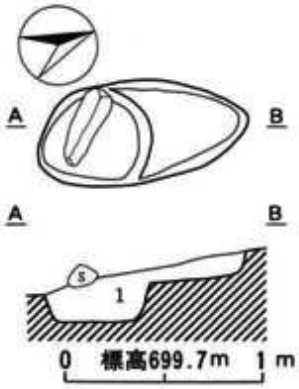


第379図　SYY 4　D103号土坑

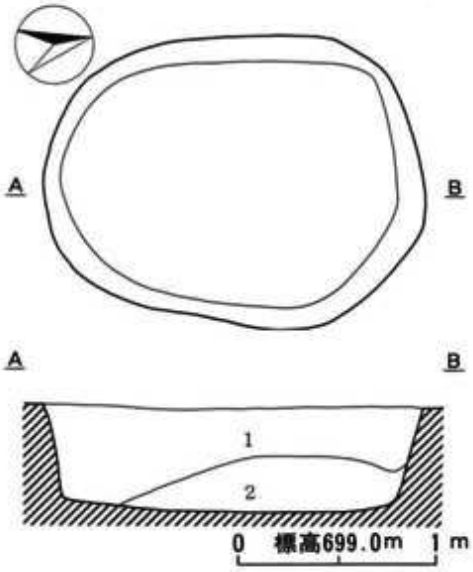




第380図　SYY 4　D104号土坑

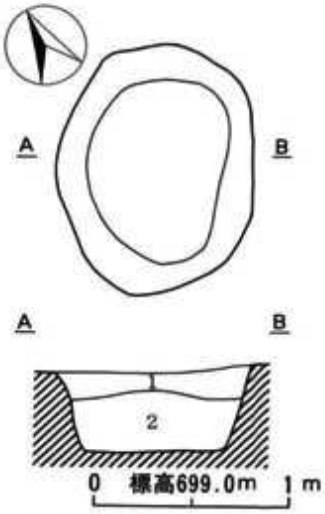


第393図　SYY 4　D116号土坑

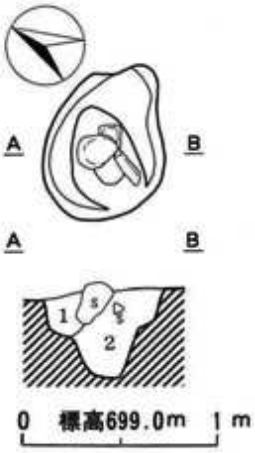


第381図　SYY 4　D105号土坑

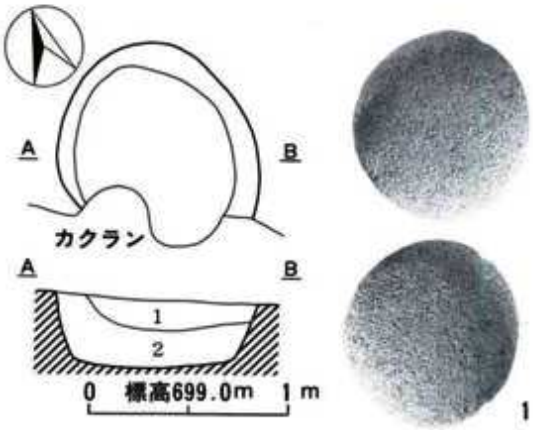
第383図　SYY 4　D107号土坑



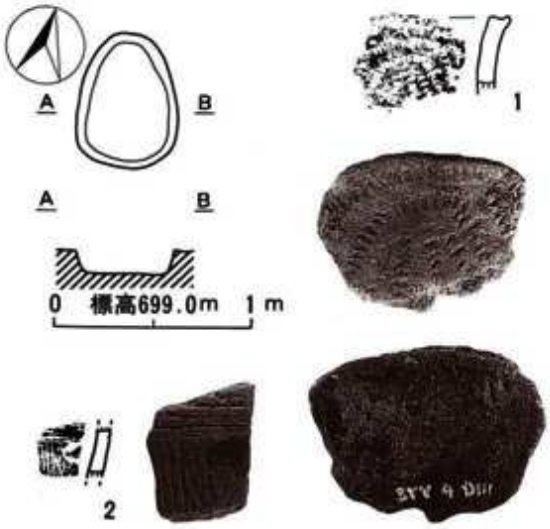
第386図　SYY 4　D110号土坑



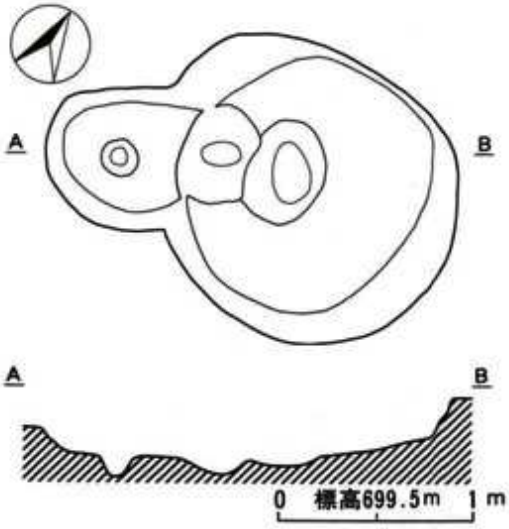
第391図　SYY 4　D114号土坑



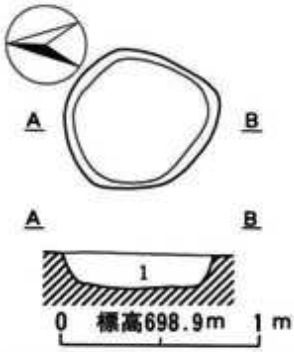
第396図　SYY 4　D119号土坑



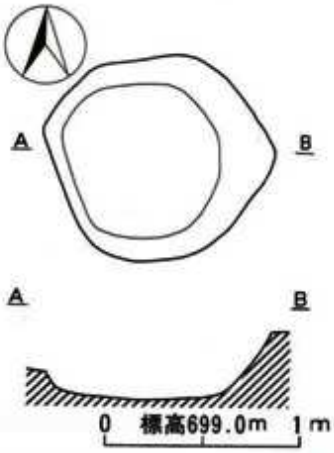
第387図　SYY 4　D111号土坑



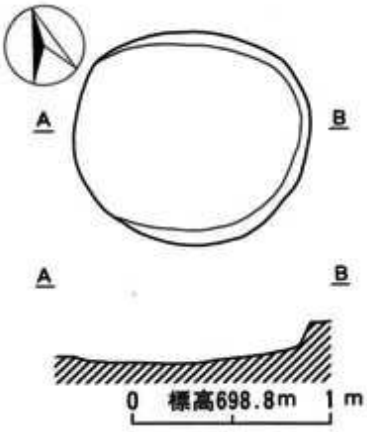
第392図　SYY 4　D115号土坑

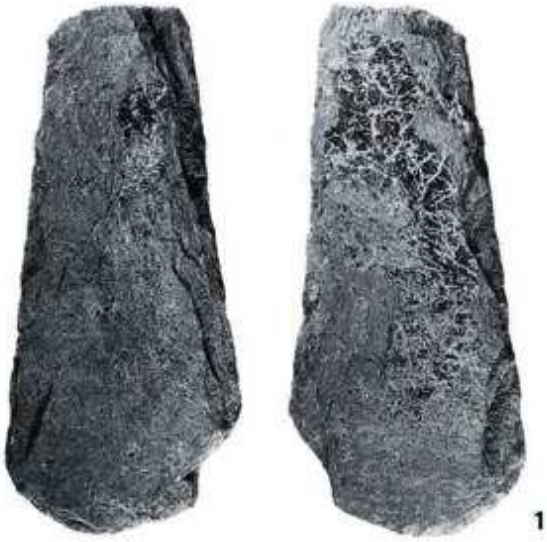


第394図　SYY 4　D117号土坑



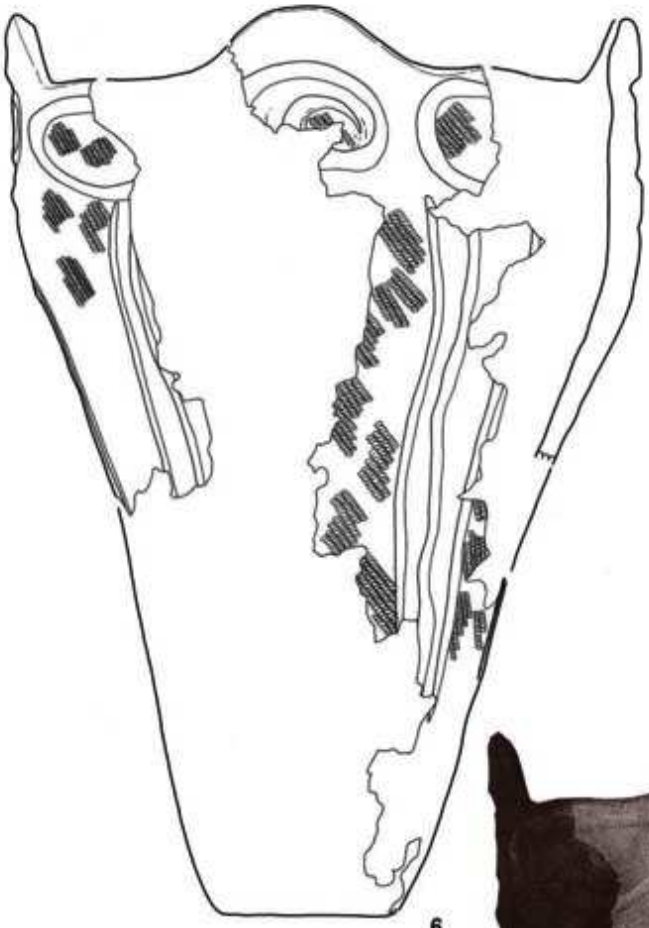
第400図　SYY 4　D123号土坑



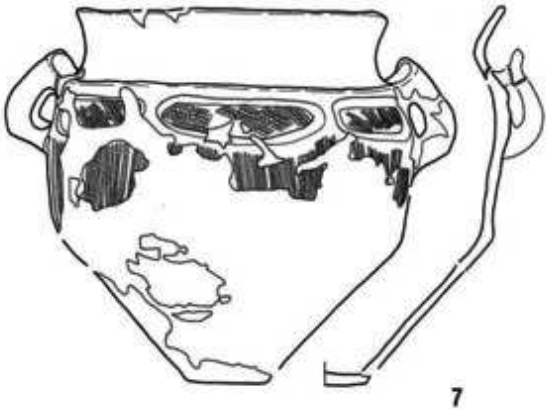


第388図　SYY 4　D112号土坑

第389図　SYY 4　D113号土坑（1）

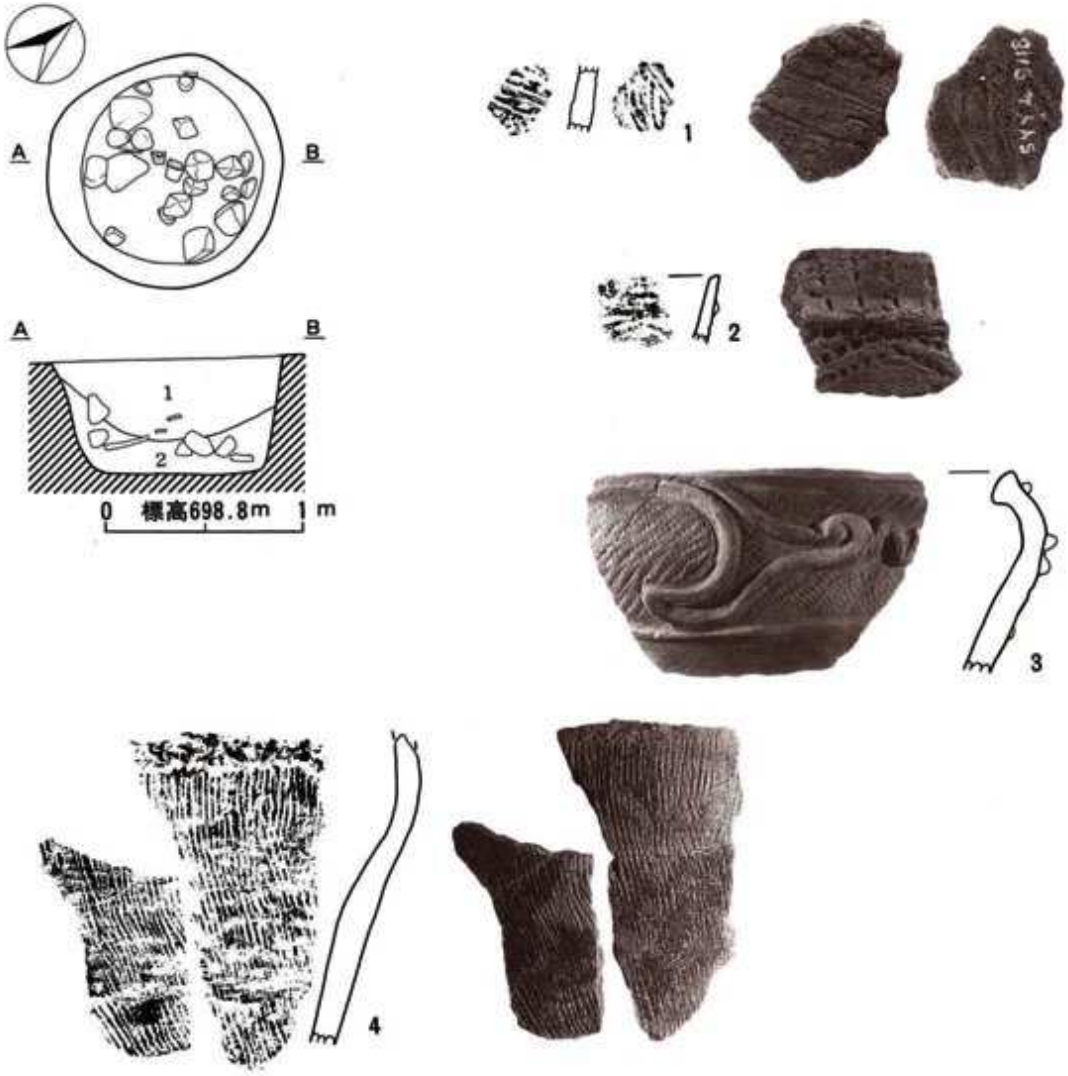


6

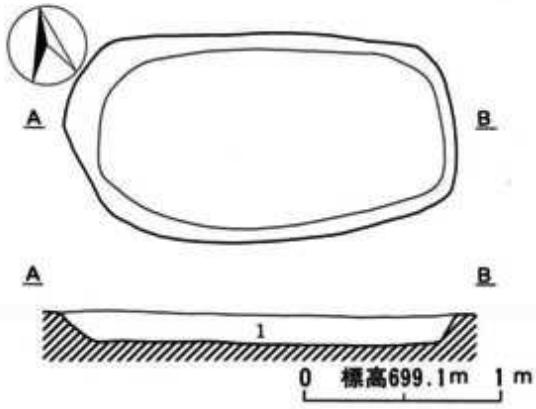


7

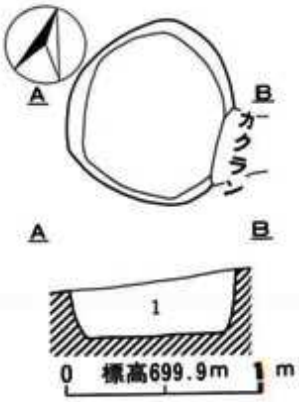
第390図　SYY 4　D113号土坑（2）



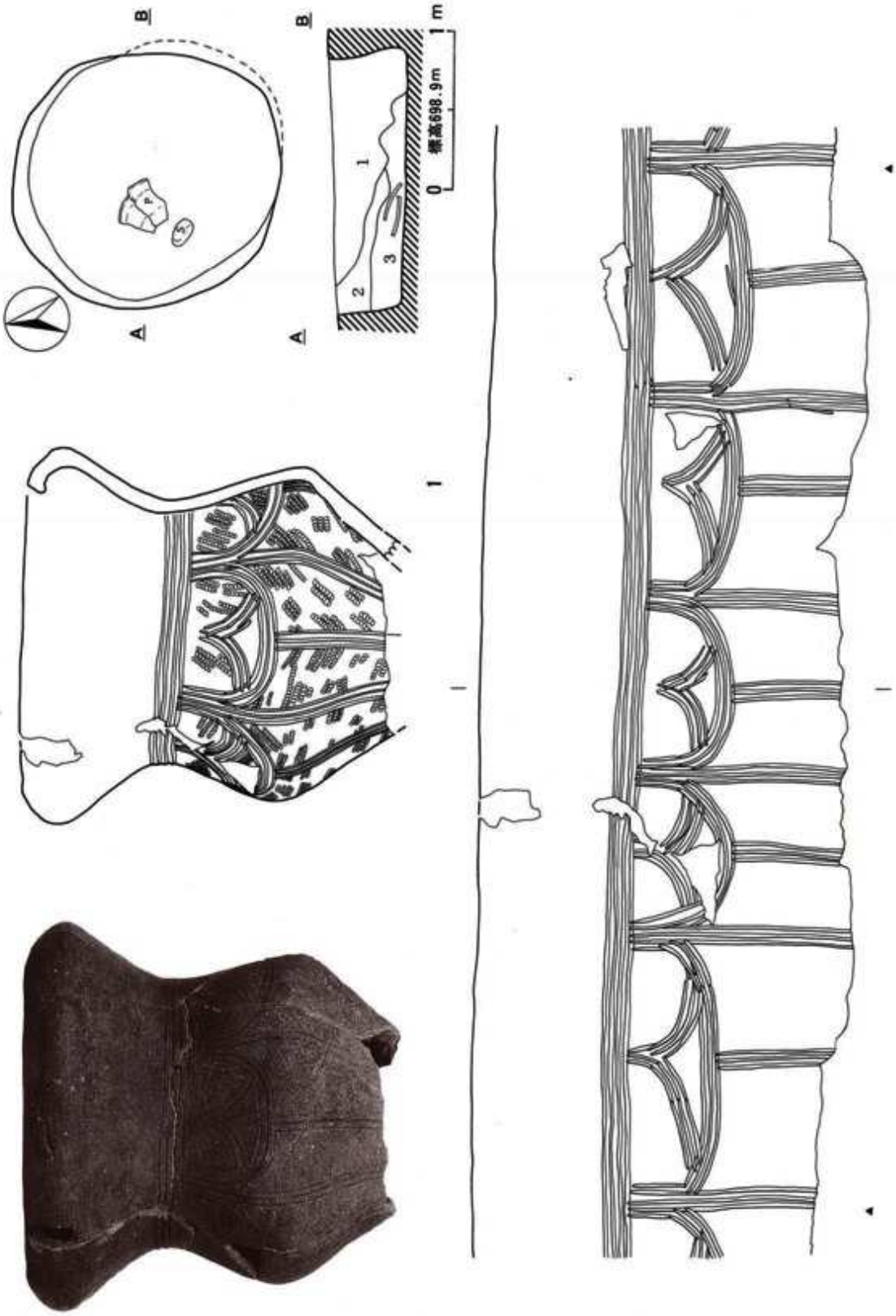
第395図　SYY 4　D118号土坑



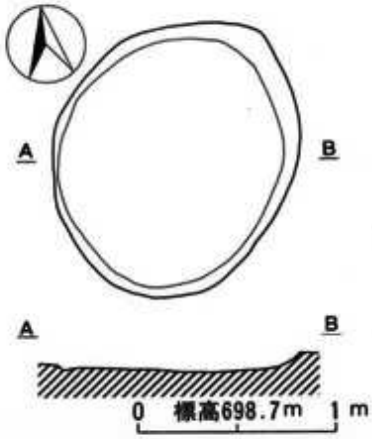
第397図　SYY 4　D120号土坑



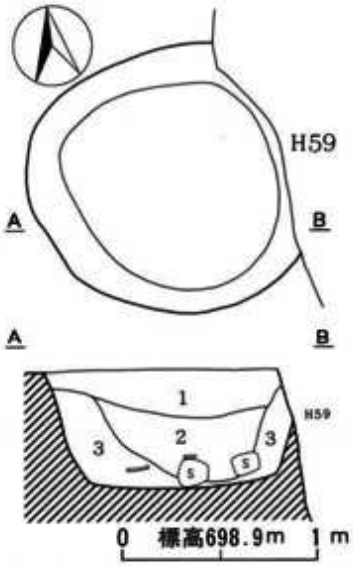
第403図　SYY 4　D126号土坑



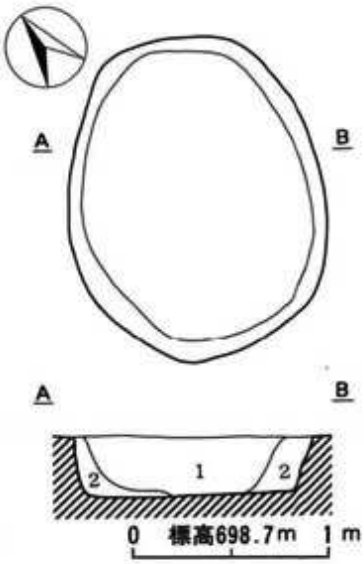
第398図　SYY 4　D121号土坑



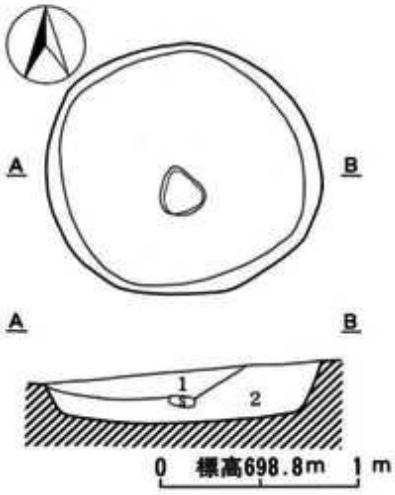
第399図　SYY 4　D122号土坑



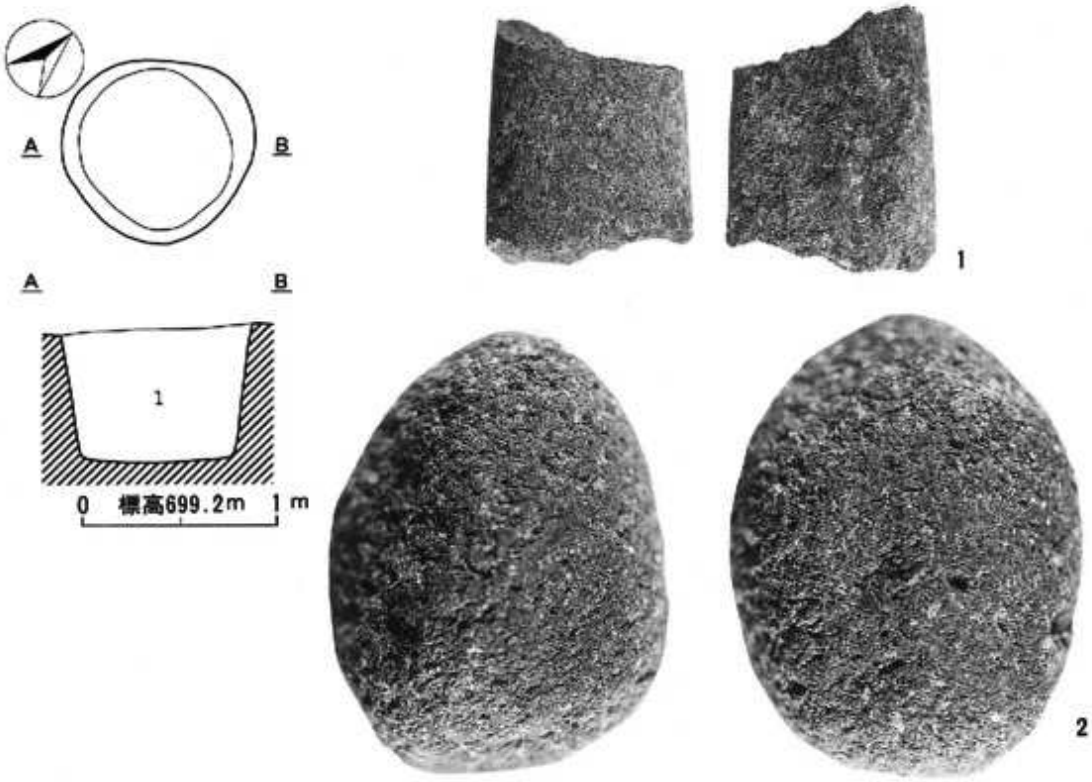
第401図　SYY 4　D124号土坑



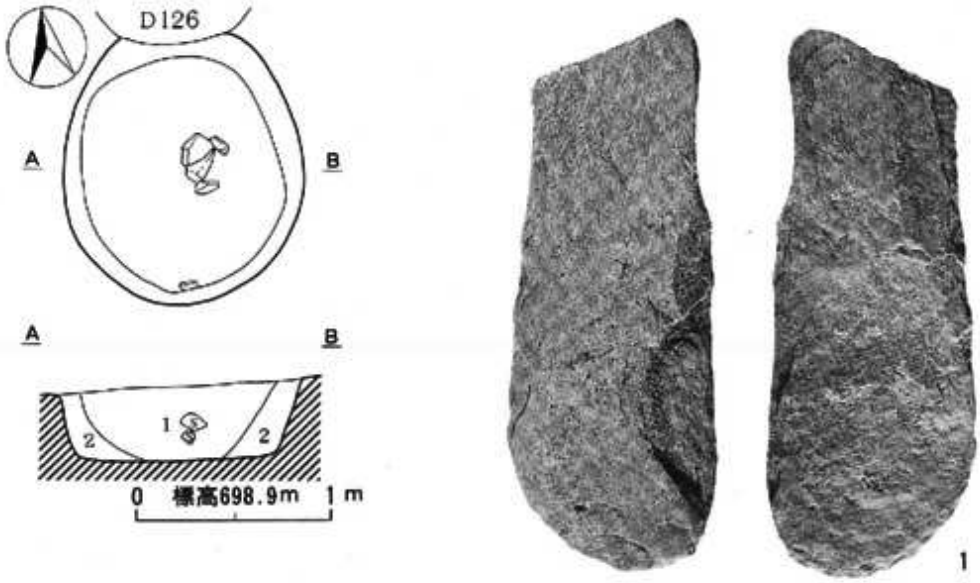
第406図　SYY 4　D129号土坑



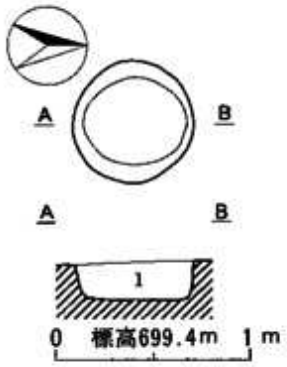
第402図　SYY 4　D125号土坑



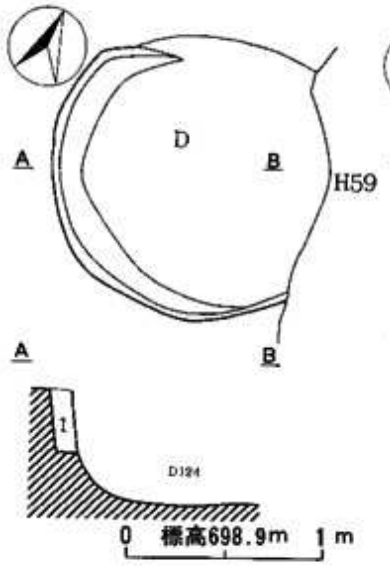
第404図　SYY 4　D127号土坑



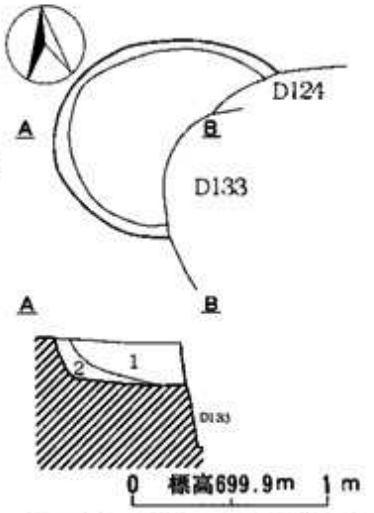
第405図　SYY 4　D128号土坑



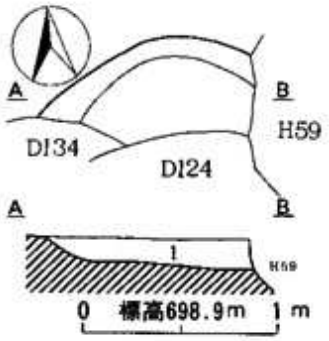
第407図　SYY 4　D130号土坑



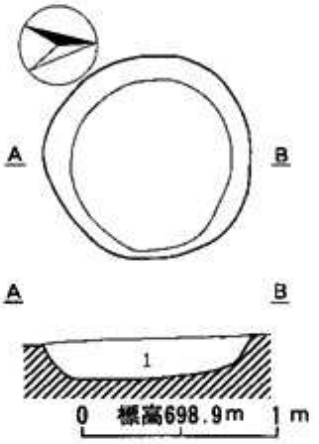
第412図　SYY 4　D133号土坑



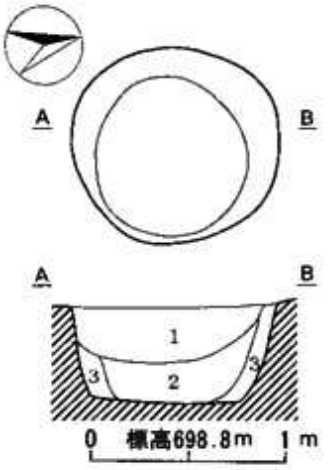
第413図　SYY 4　D134号土坑



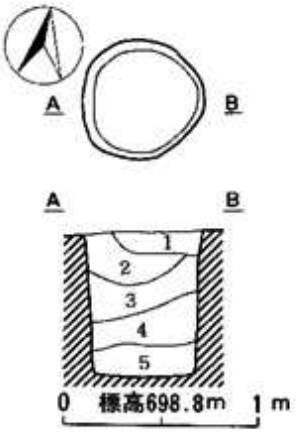
第414図　SYY 4　D135号土坑



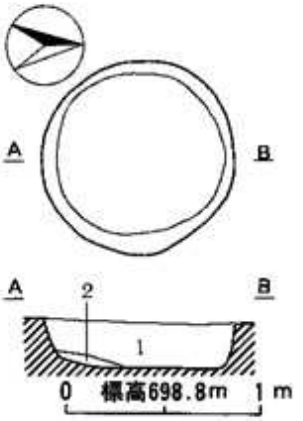
第416図　SYY 4　D137号土坑



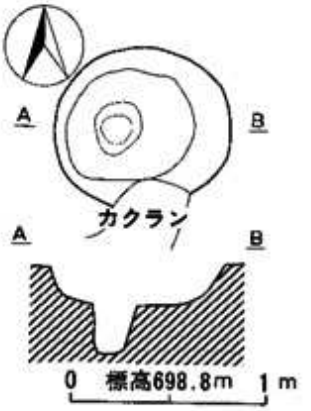
第417図　SYY 4　D138号土坑



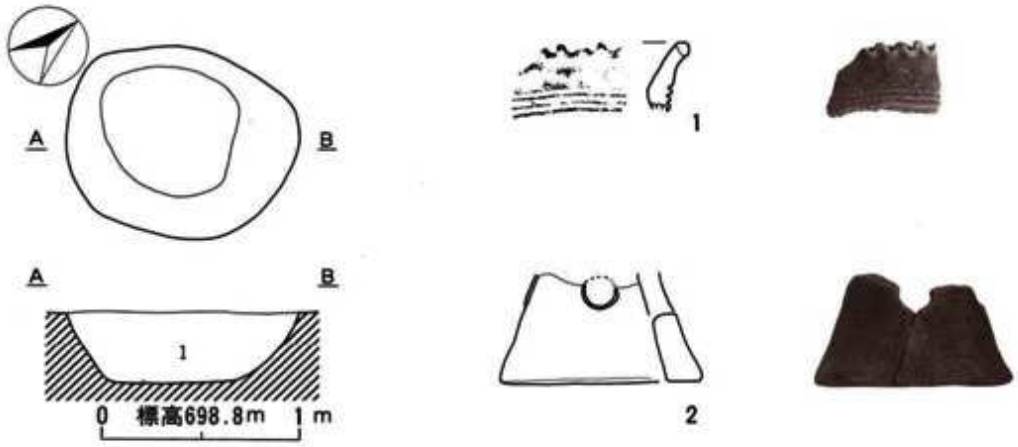
第418図　SYY 4　D139号土坑



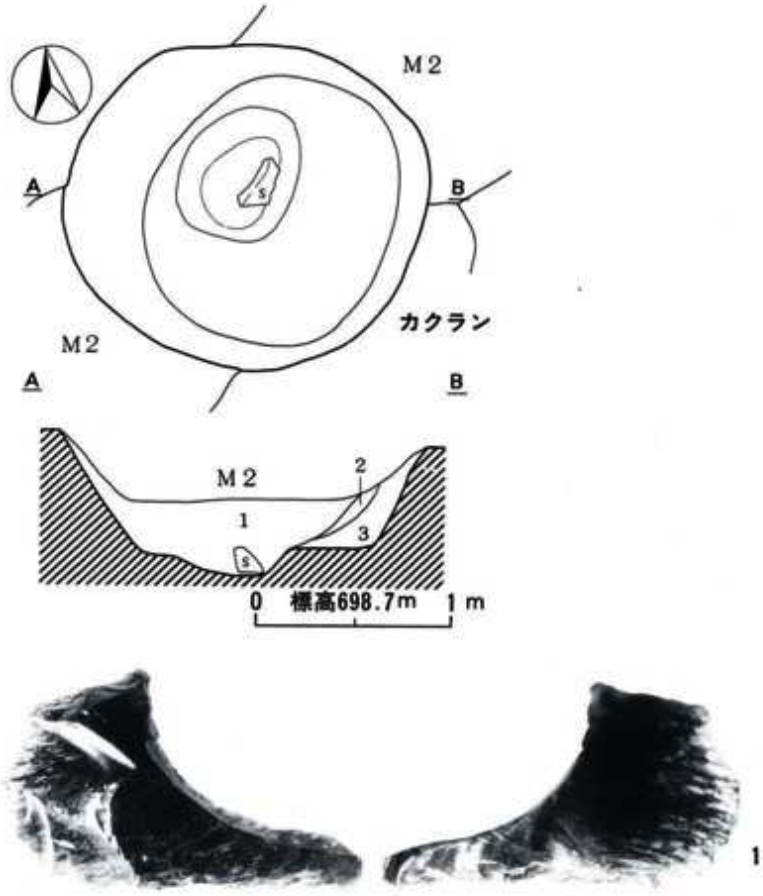
第419図　SYY 4　D140号土坑



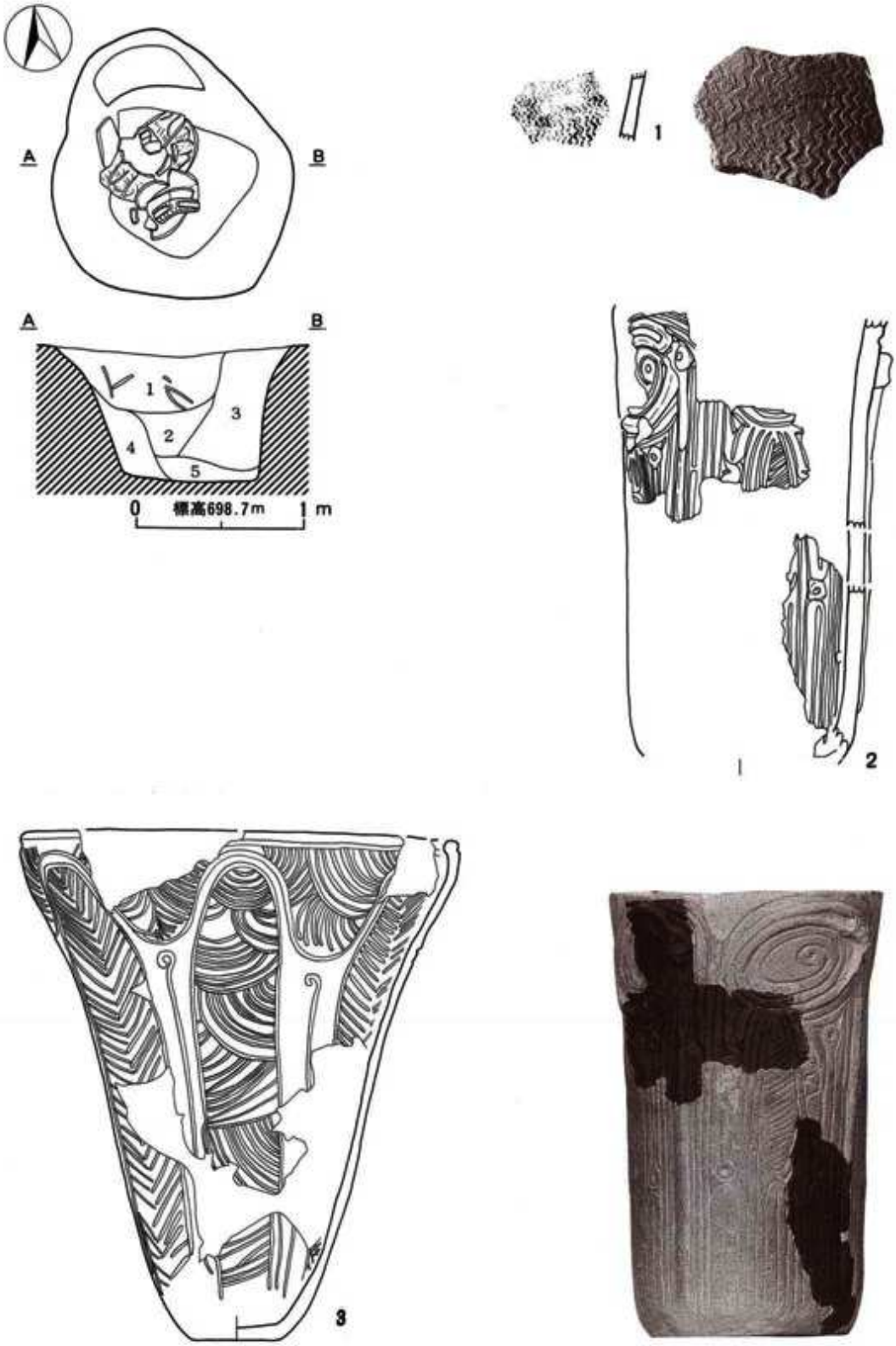
第425図　SYY 4　D146号土坑



第411図　SYY 4　D132号土坑

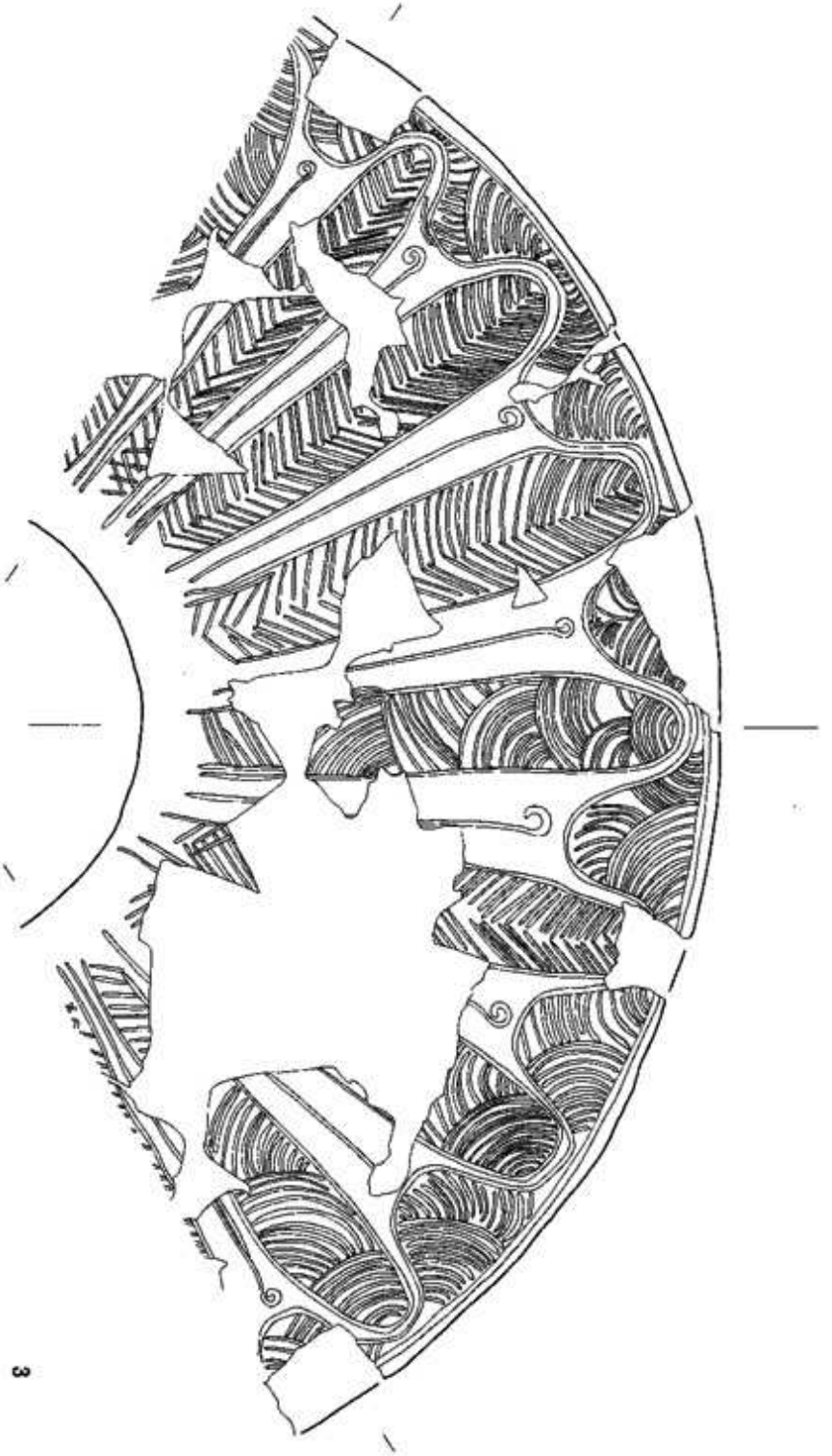


第415図　SYY 4　D136号土坑



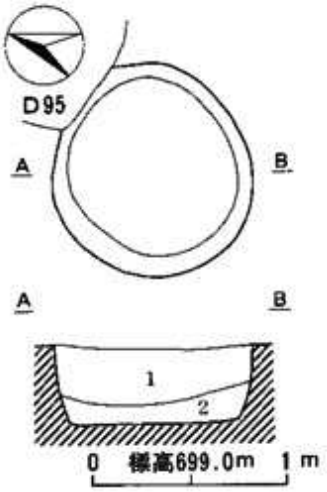
第408図　SYY 4　D131号土坑（1）

第409図　SYY 4　D131号土坑（2）

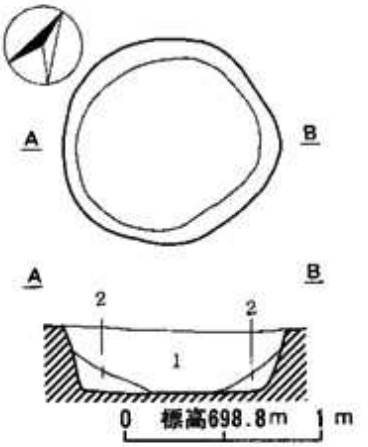


3

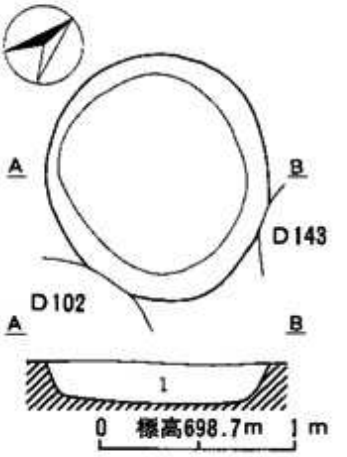
第410図　SYY 4　D131号土坑（3）



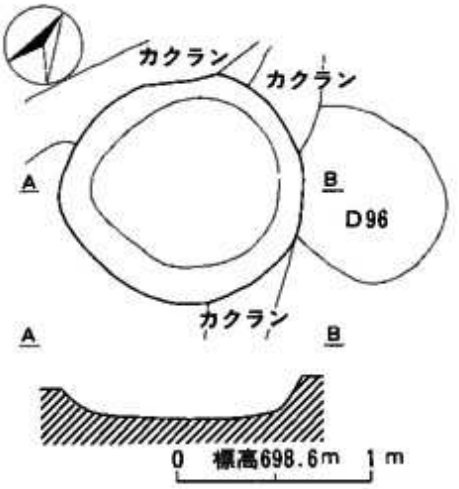
第420図　SYY 4　D141号土坑



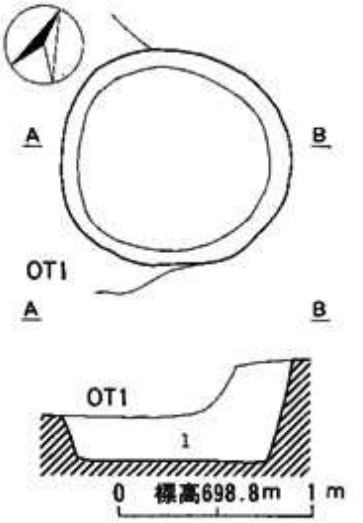
第422図　SYY 4　D143号土坑



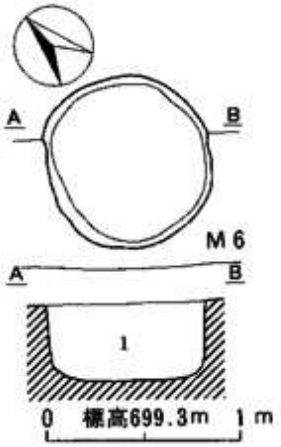
第424図　SYY 4　D145号土坑



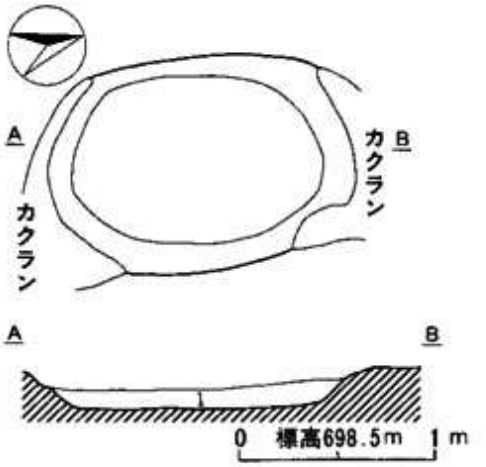
第423図　SYY 4　D144号土坑



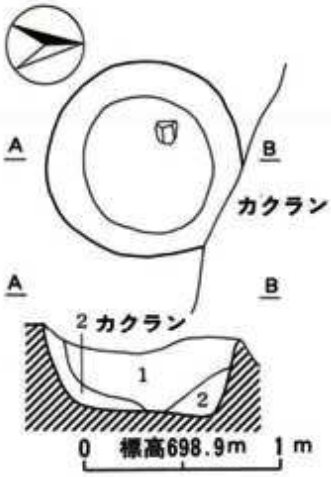
第428図　SYY 4　D148号土坑

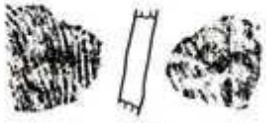


第439図　SYY 4　D159号土坑

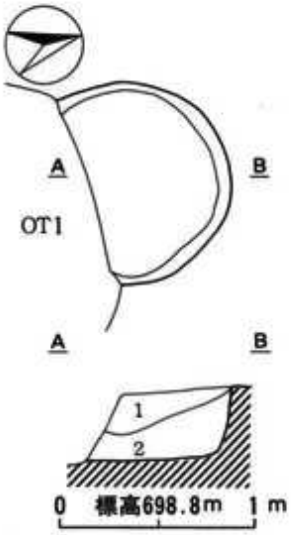


第433図　SYY 4　D153号土坑

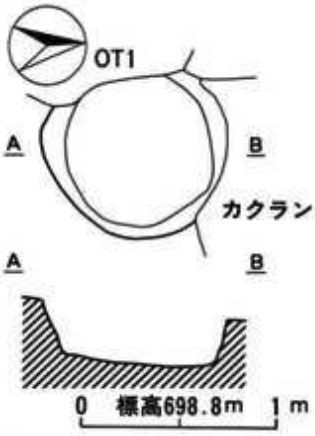




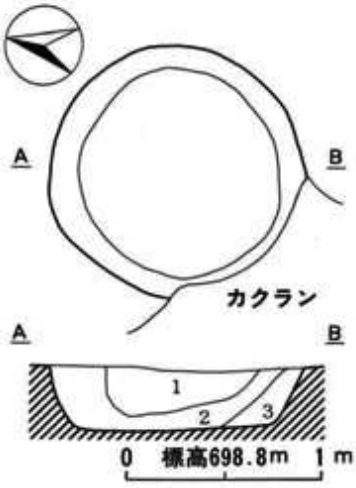
第421図　SYY 4　D142号土坑



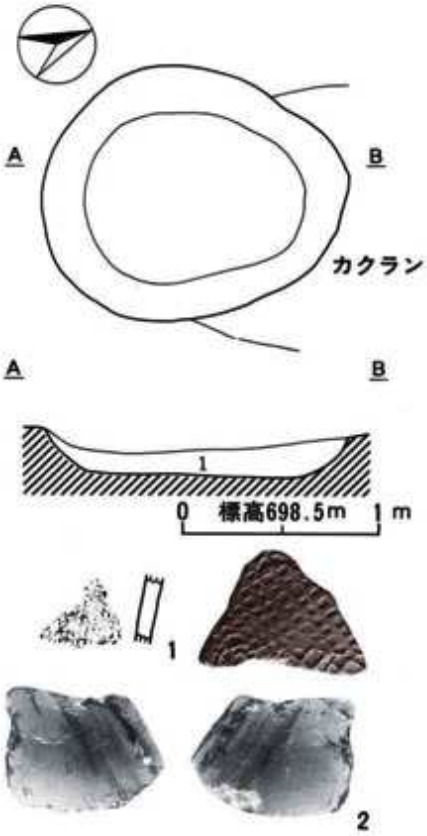
第429図　SYY 4　D149号土坑



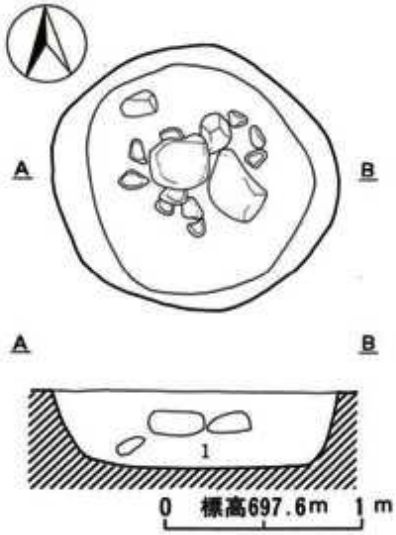
第434図　SYY 4　D154号土坑



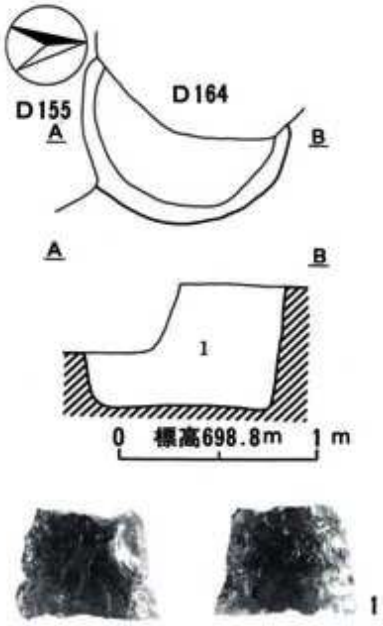
第435図　SYY 4　D155号土坑



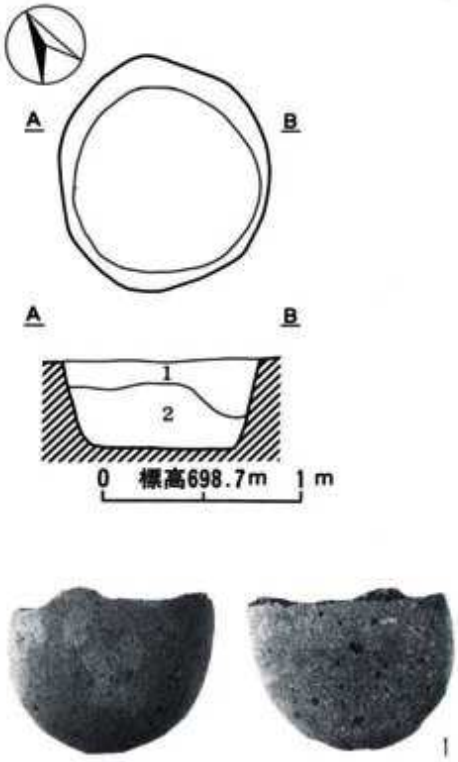
第430図　SYY 4　D150号土坑



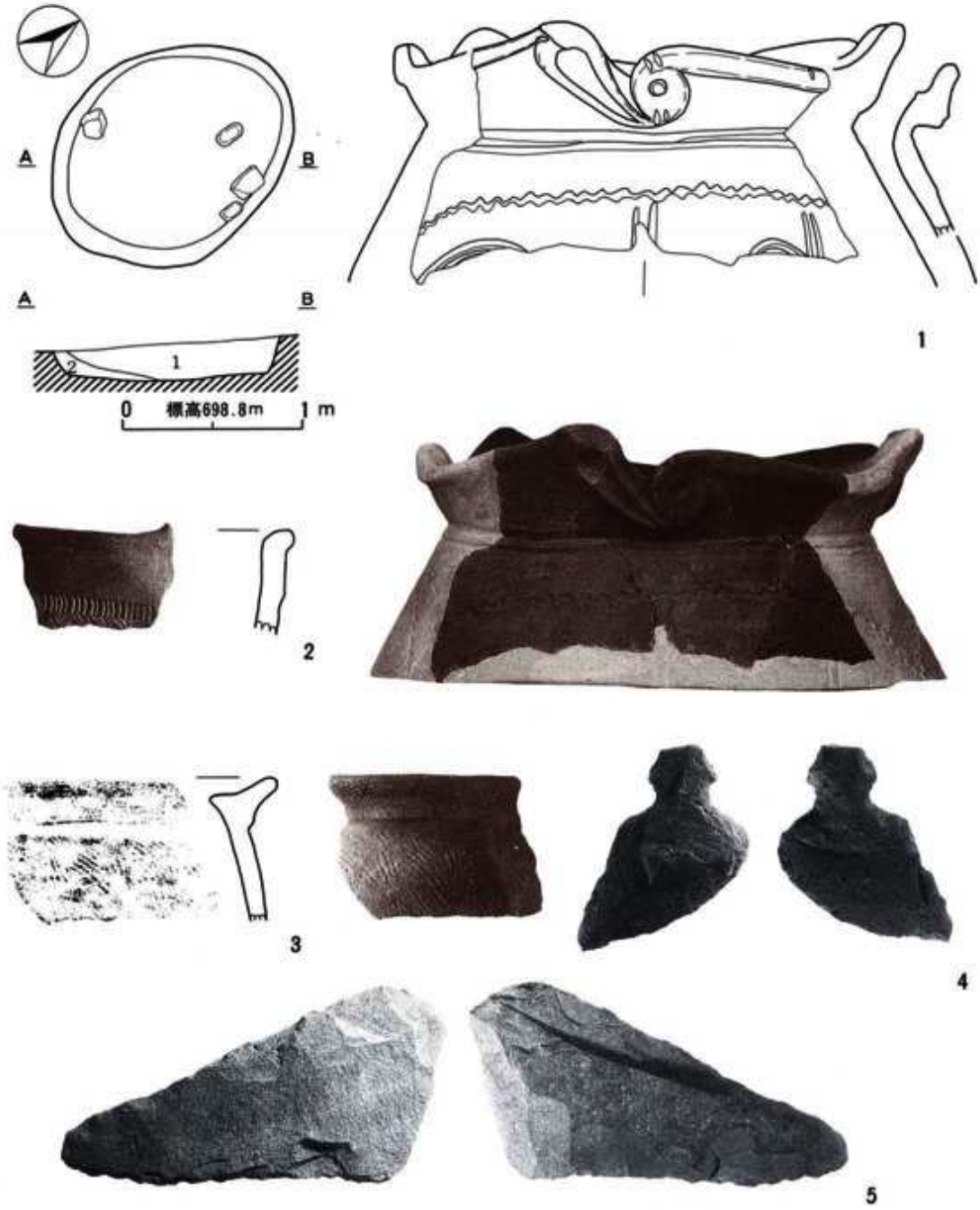
第437図　SYY 4　D157号土坑



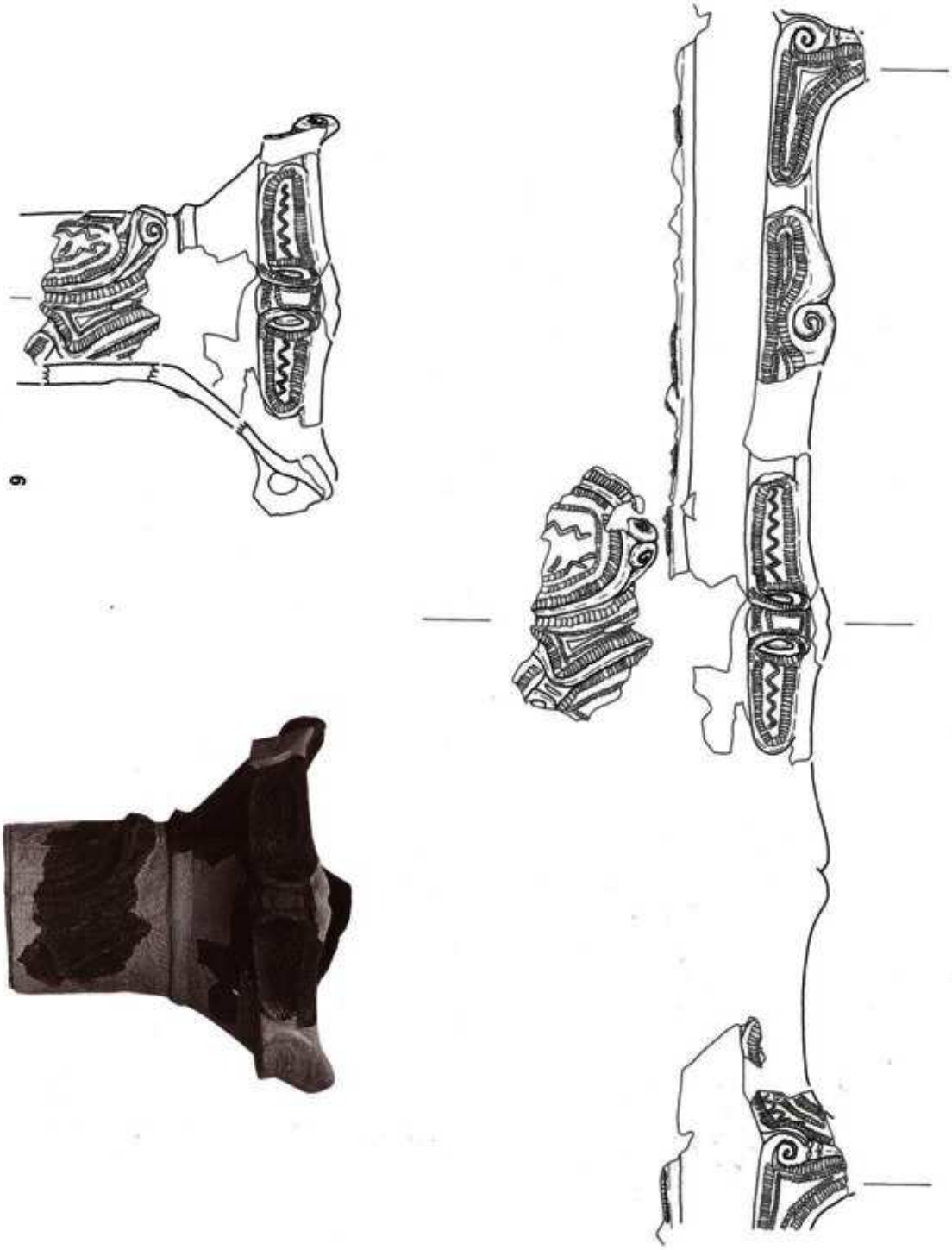
第436図　SYY 4　D156号土坑



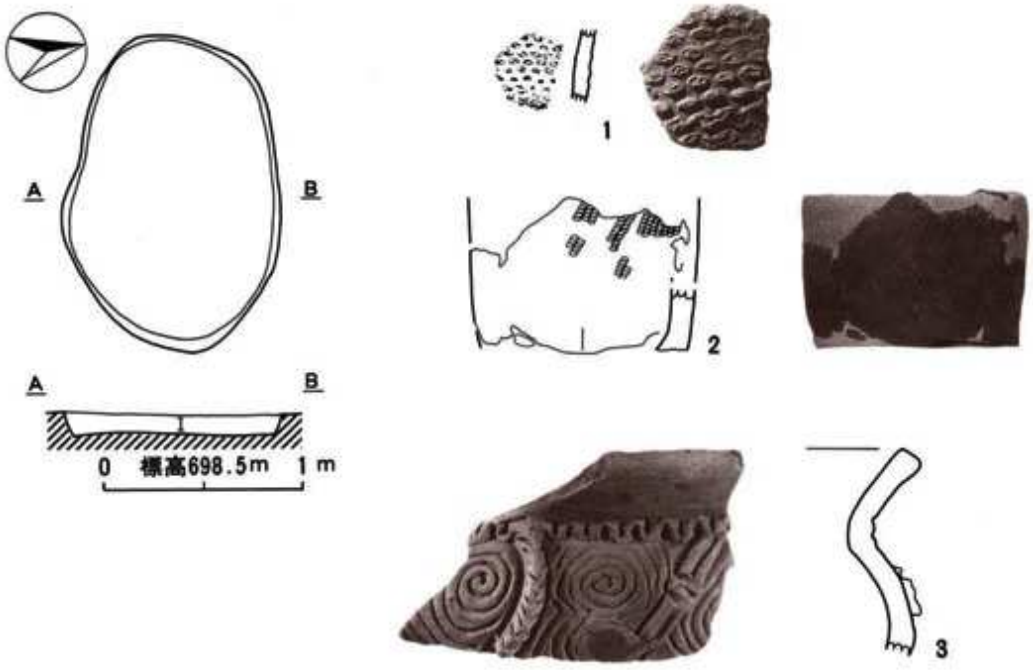
第432図　SYY 4　D152号土坑



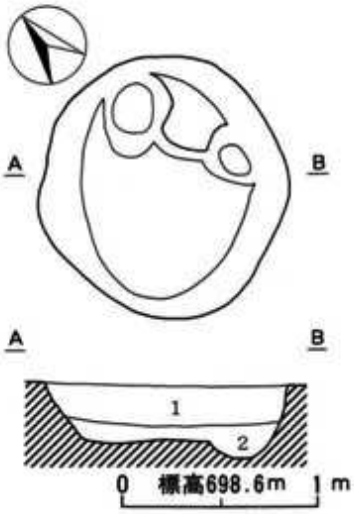
第426図　SYY 4　D147号土坑（1）



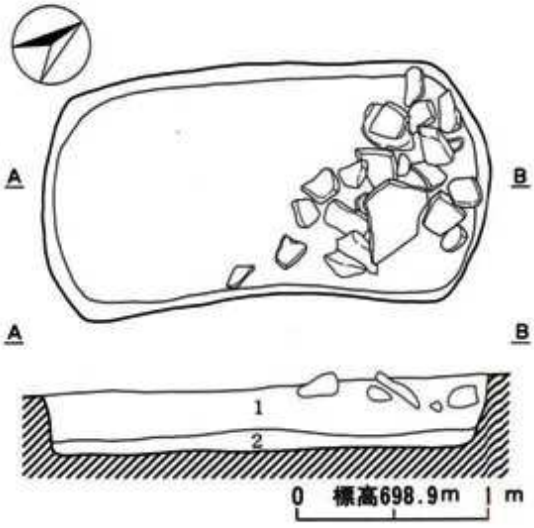
第427図　SYY 4　D147号土坑（2）



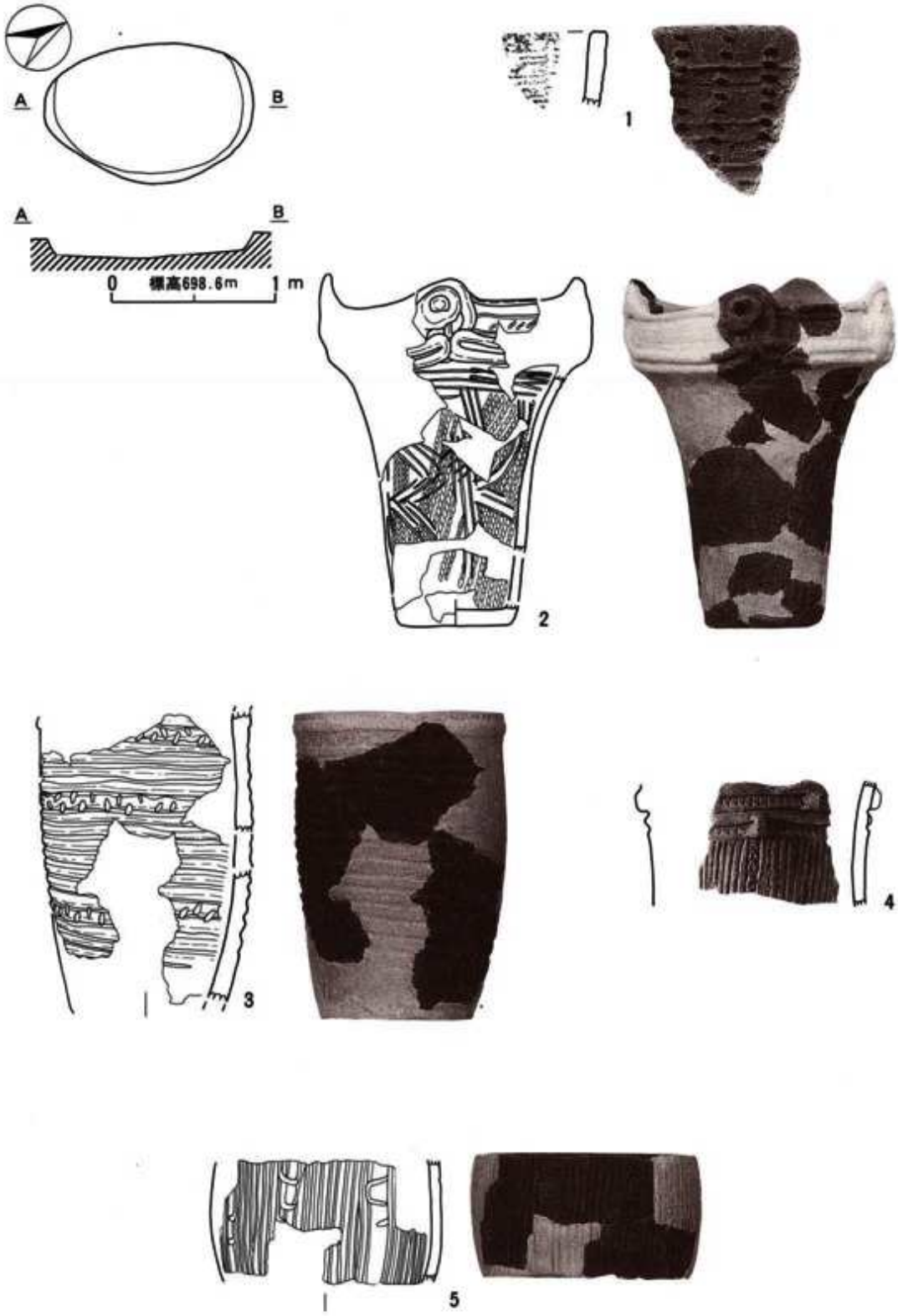
第431図　SYY 4　D151号土坑



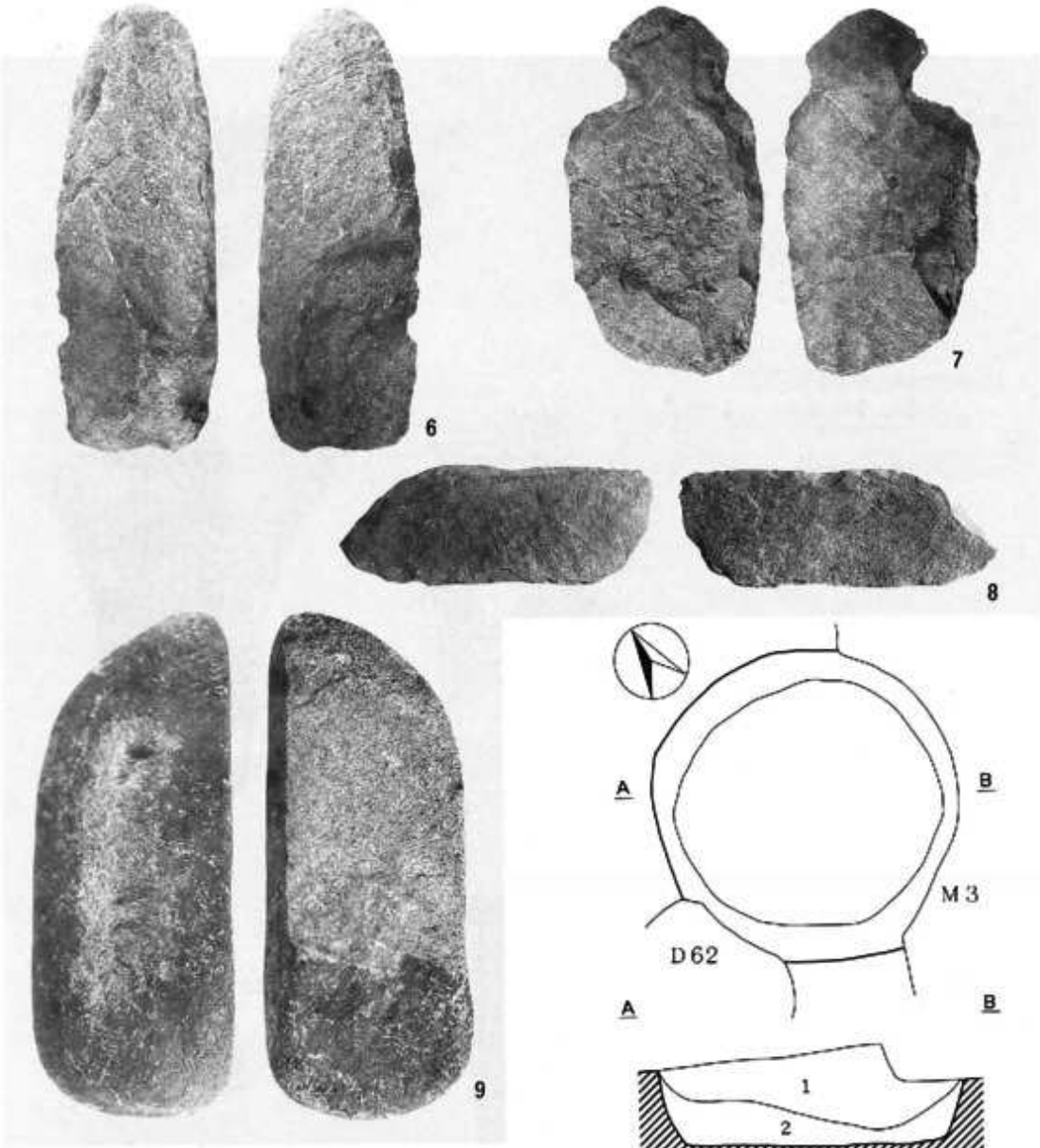
第450図　SYY 4　D168号土坑



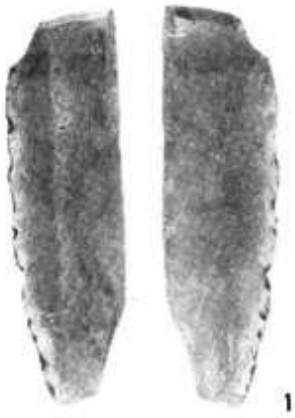
第440図　SYY 4　D160号土坑



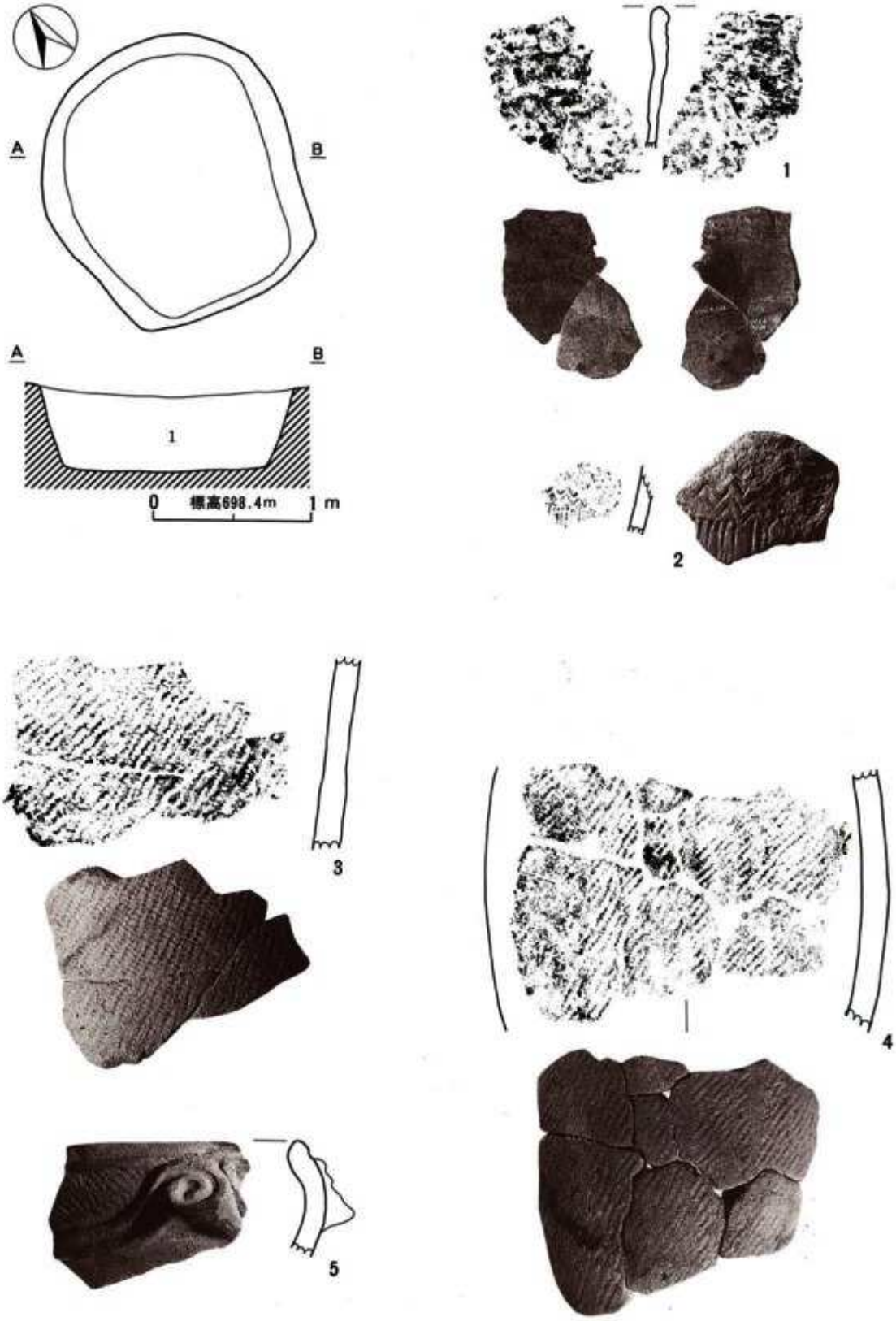
第445図　SYY 4　D165号土坑（1）



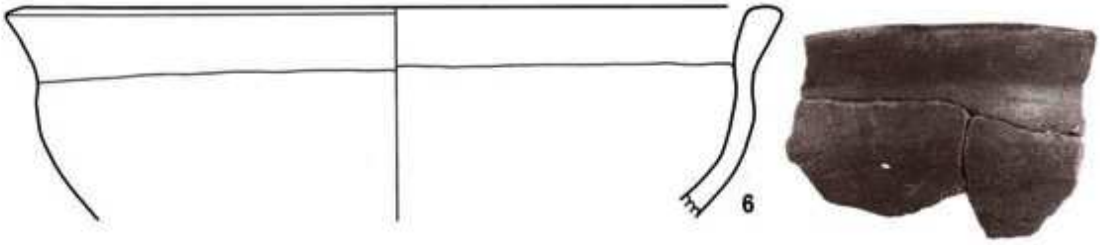
第446図　SYY 4　D165号土坑（2）



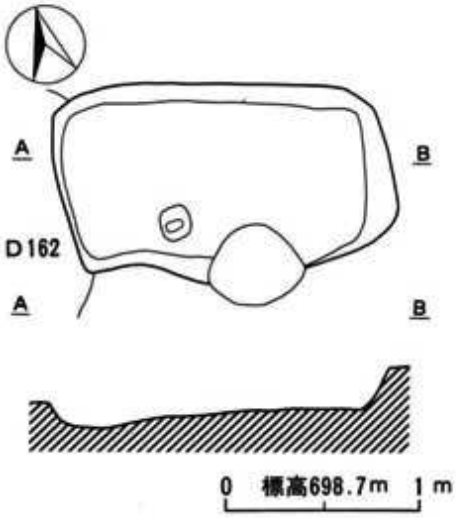
第438図　SYY 4　D158号土坑



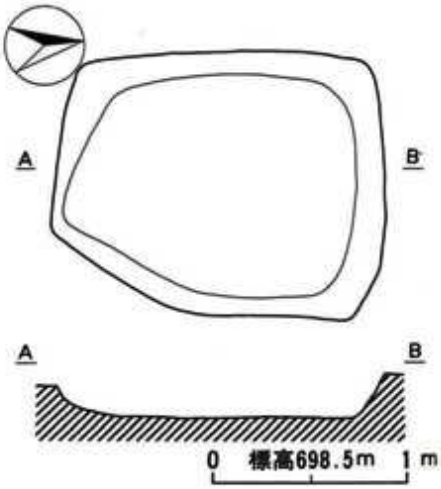
第448図　SYY 4　D167号土坑（1）



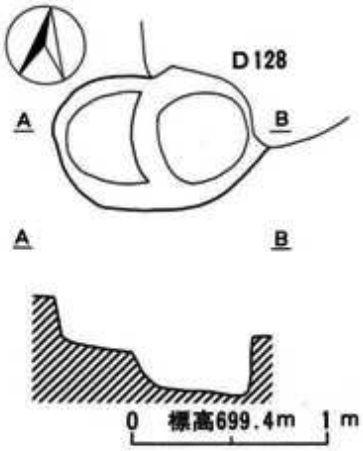
第449図　SYY 4　D167号土坑（2）



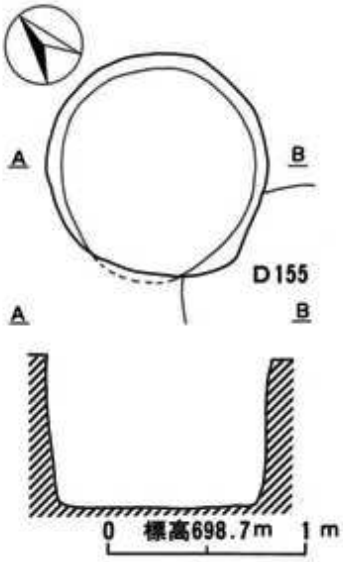
第441図　SYY 4　D161号土坑



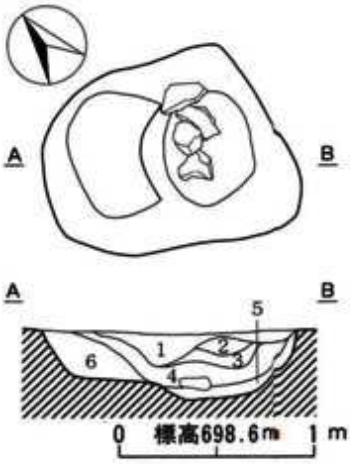
第442図　SYY 4　D162号土坑



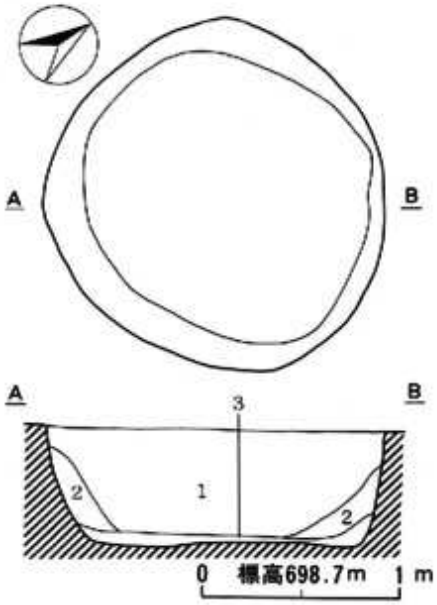
第443図　SYY 4　D163号土坑



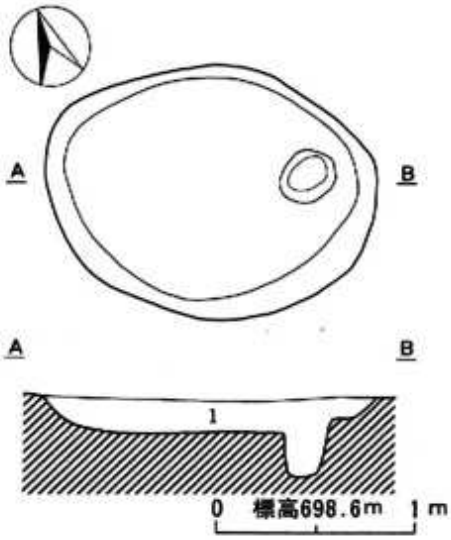
第444図　SYY 4　D164号土坑



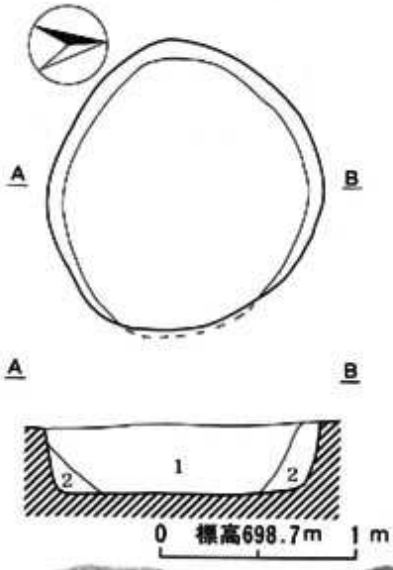
第451図　SYY 4　D169号土坑

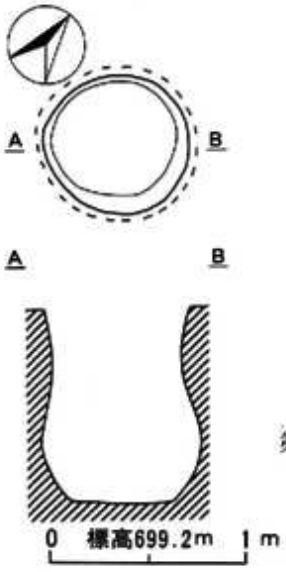


第447図　SYY 4　D166号土坑

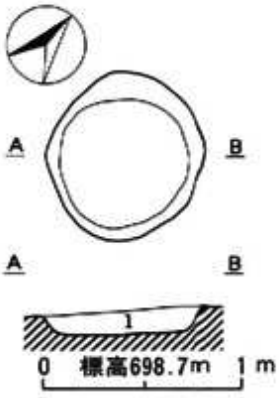


第452図　SYY 4　D170号土坑

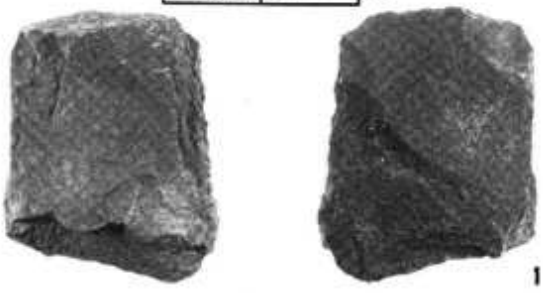




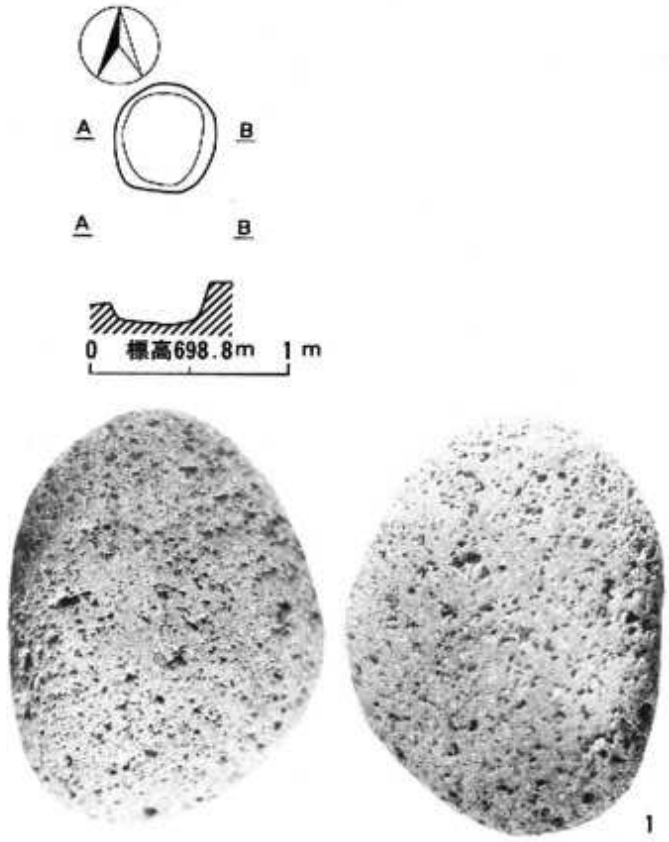
第456図　SYY 4　D174号土坑



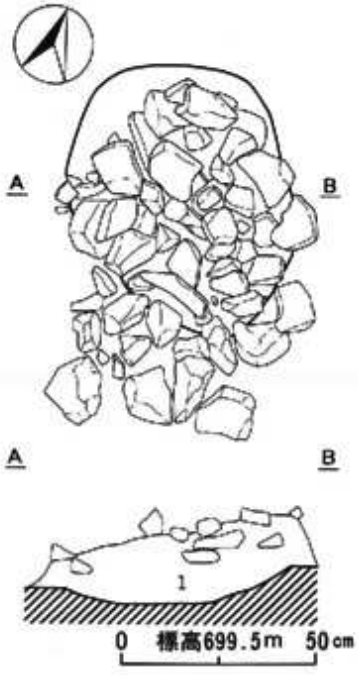
第454図　SYY 4　D172号土坑



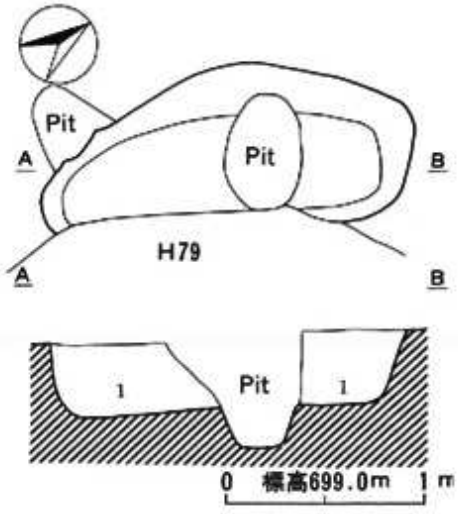
第453図　SYY 4　D171号土坑



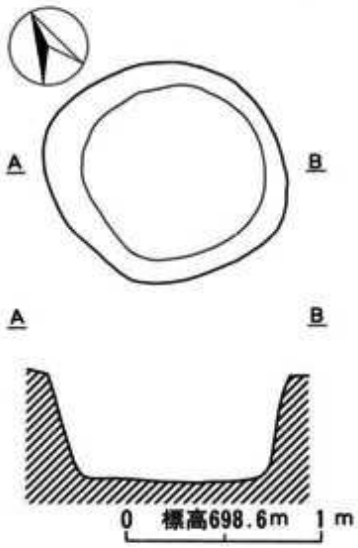
第455図　SYY 4　D173号土坑



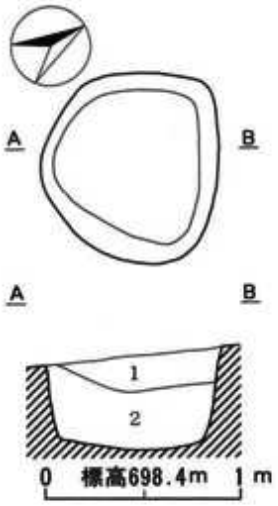
第457図　SYY 4　D175号土坑



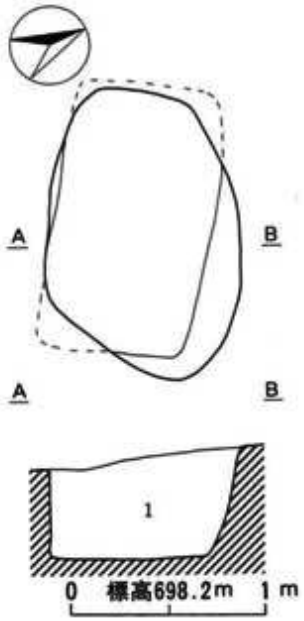
第458図　SYY 4　D176号土坑



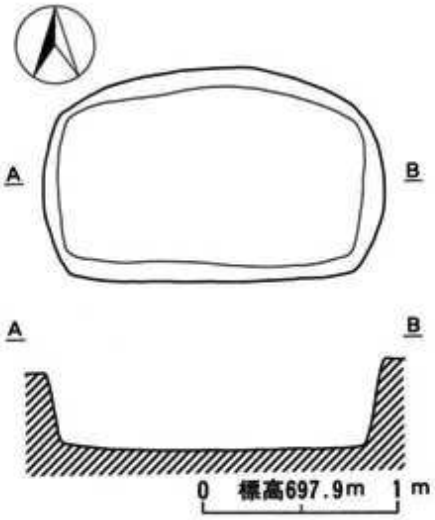
第459図　SYY 4　D177号土坑



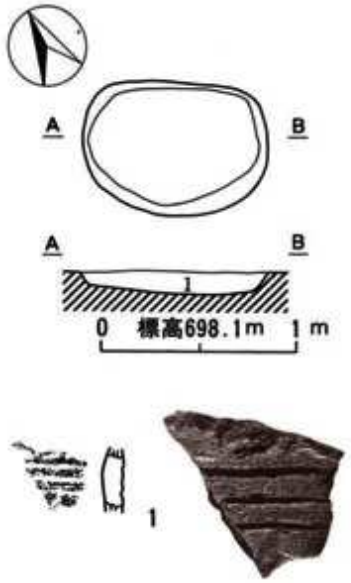
第460図　SYY 4　D178号土坑



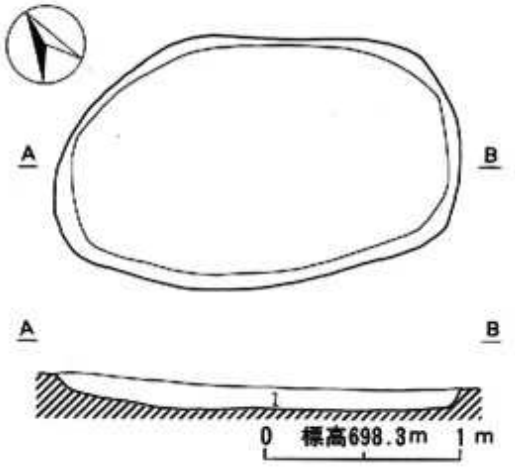
第461図　SYY 4　D179号土坑



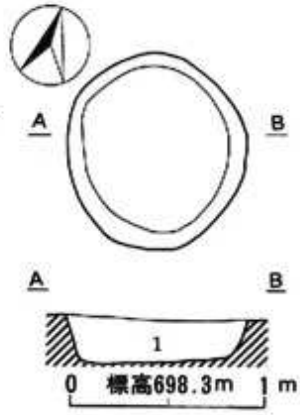
第462図　SYY 4　D180号土坑



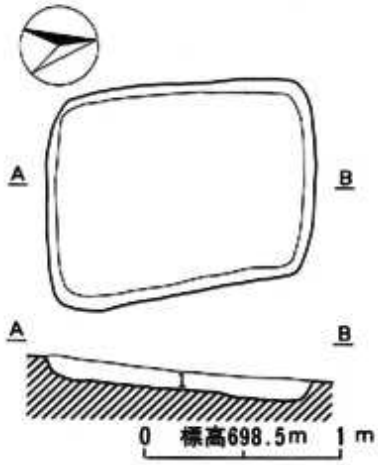
第463図　SYY 4　D181号土坑



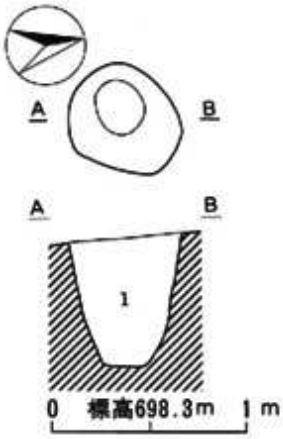
第464図　SYY 4　D182号土坑



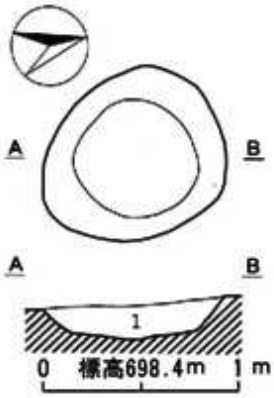
第465図　SYY 4　D183号土坑



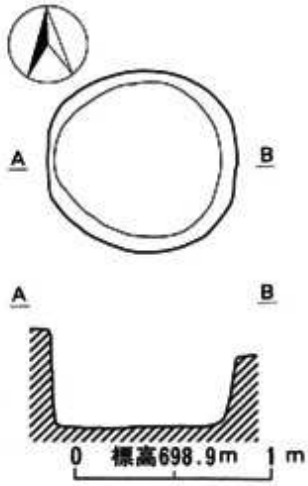
第468図　SYY 4　D186号土坑



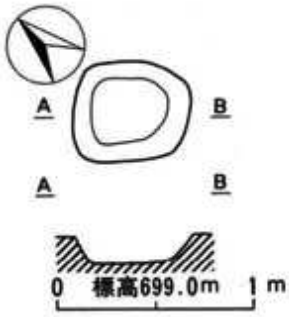
第466図　SYY 4　D184号土坑



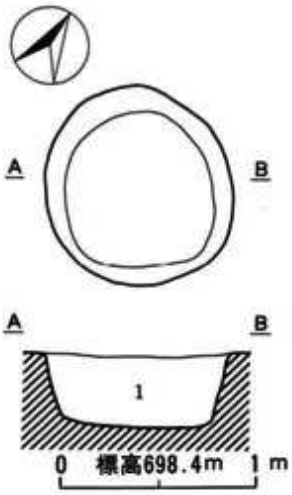
第467図　SYY 4　D185号土坑



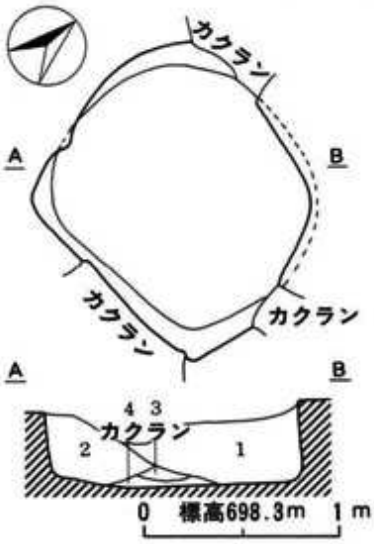
第469図　SYY 4　D187号土坑



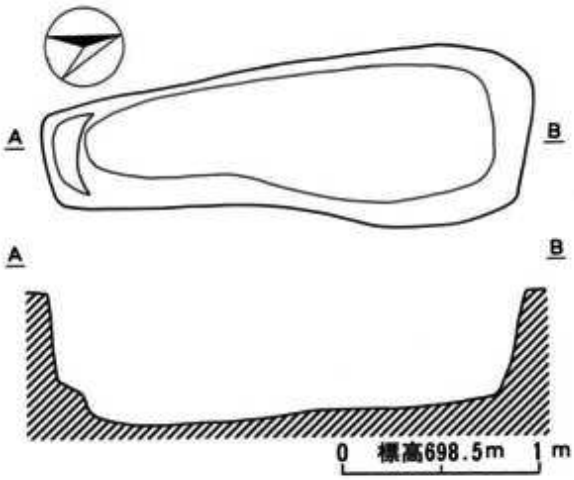
第471図　SYY 4　D189号土坑



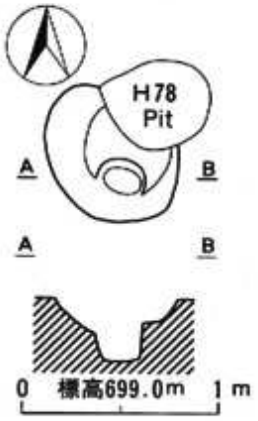
第470図　SYY 4　D188号土坑



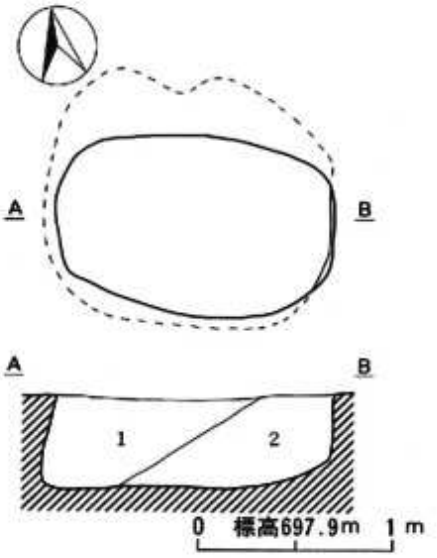
第473図　SYY 4　D191号土坑



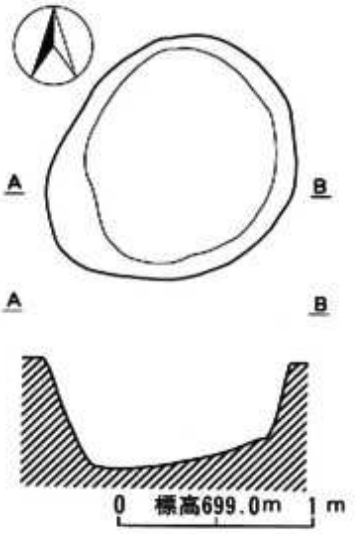
第472図　SYY 4　D190号土坑



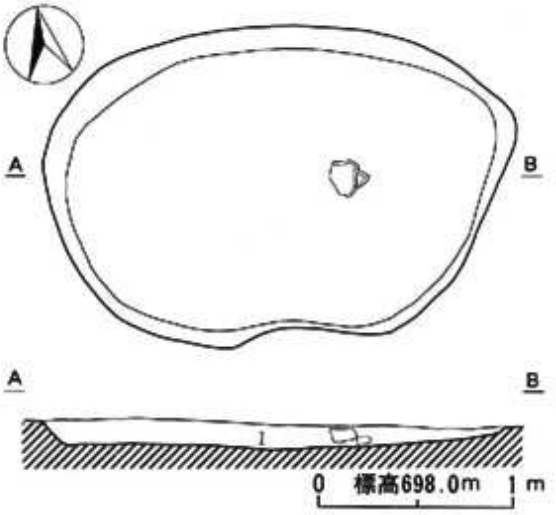
第474図　SYY 4
D192号土坑



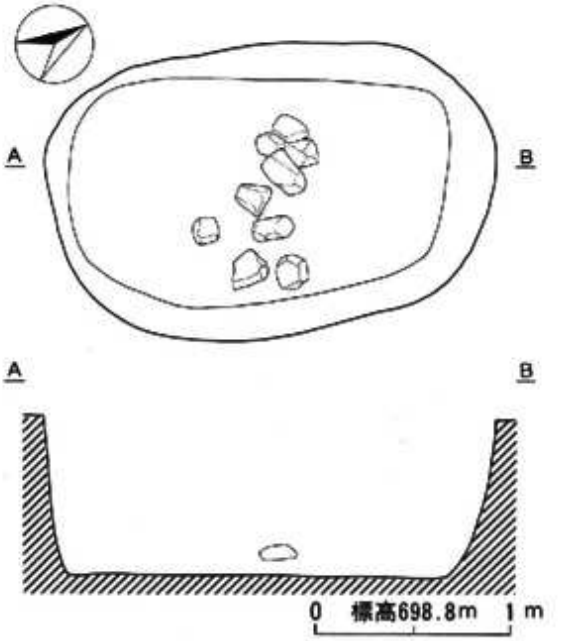
第475図　SYY 4　D193号土坑



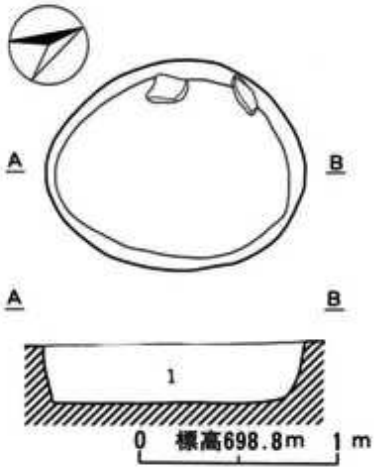
第476図　SYY 4　D194号土坑



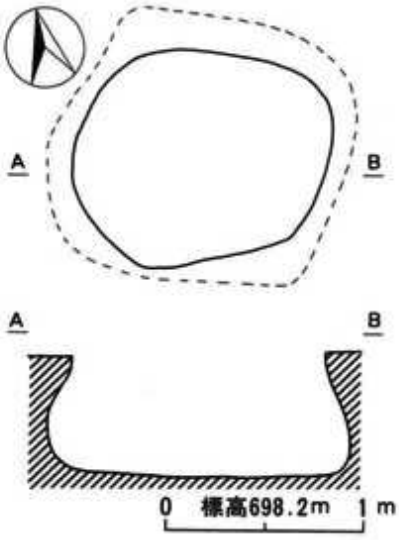
第480図　SYY 4　D198号土坑



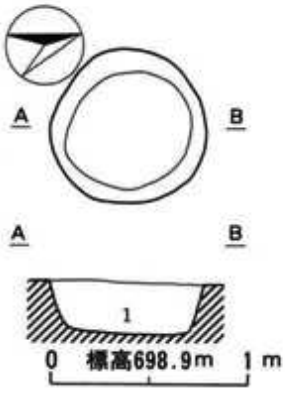
第481図　SYY 4　D199号土坑



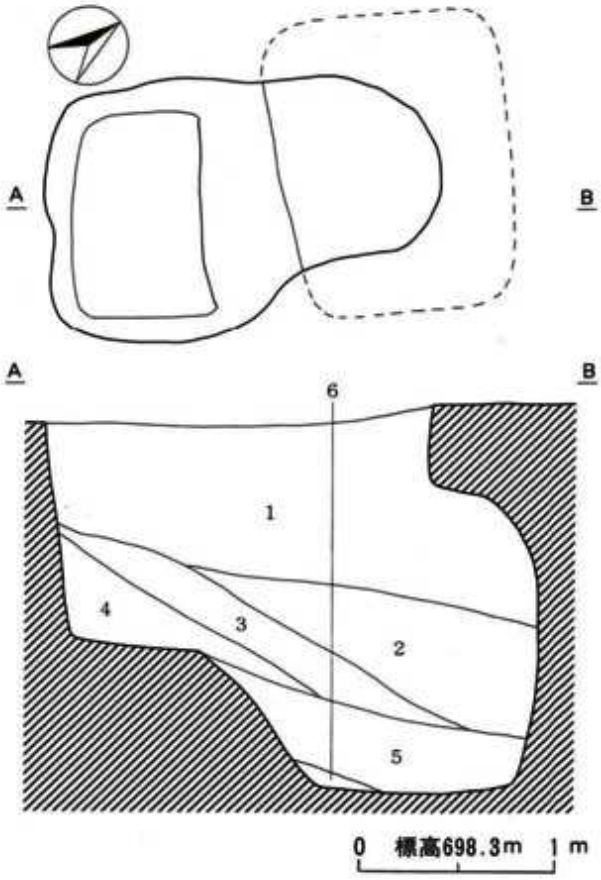
第477図　SYY 4　D195号土坑

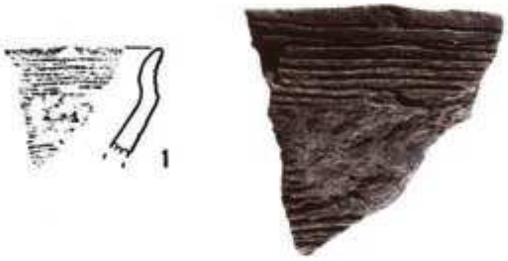


第478図　SYY 4　D196号土坑

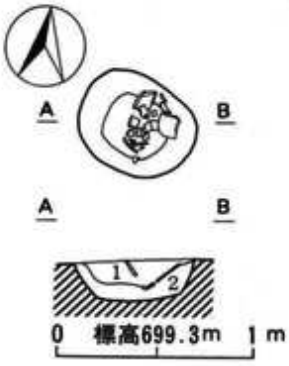


第483図　SYY 4　D201号土坑

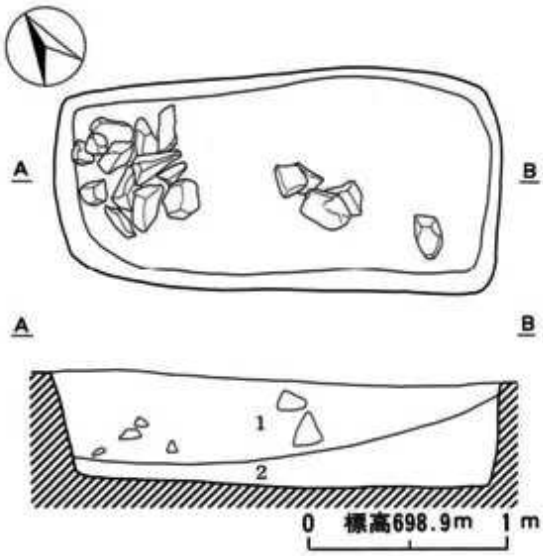




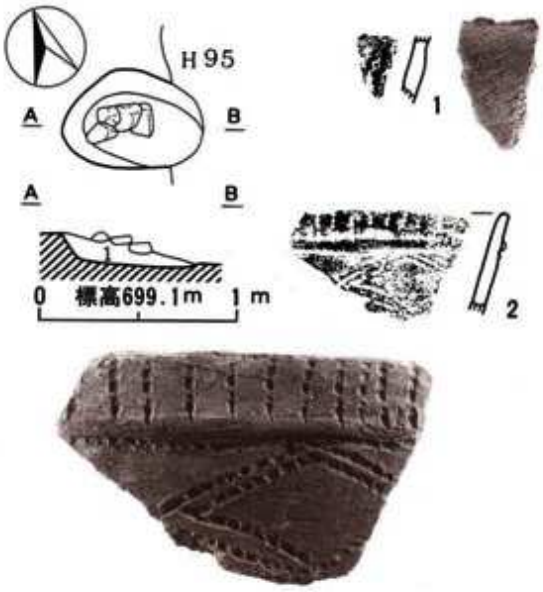
第479図　SYY 4　D197号土坑



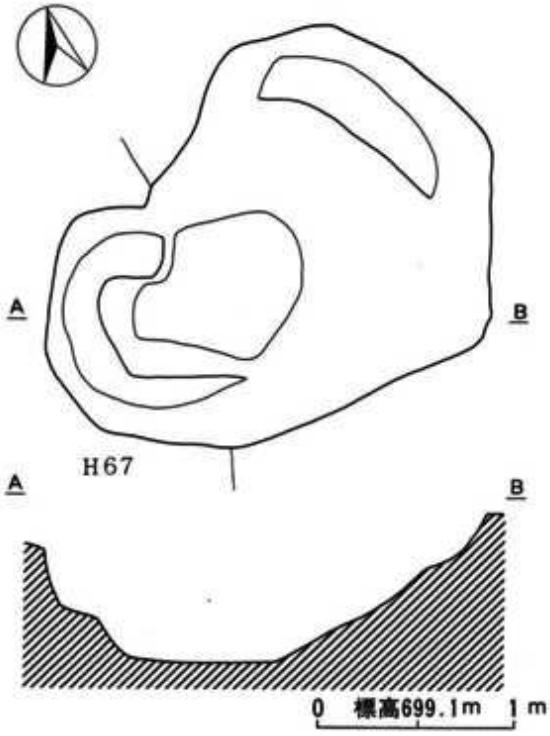
第491図　SYY 4　D208号土坑



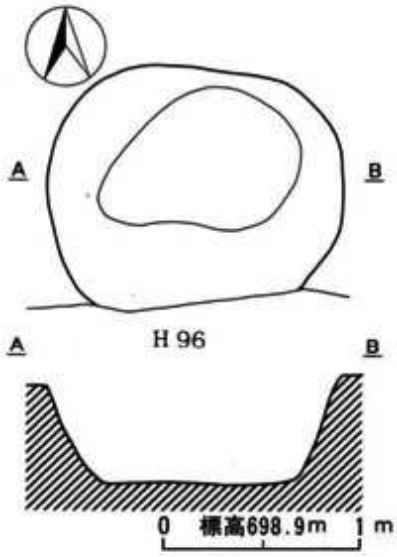
第482図　SYY 4　D200号土坑



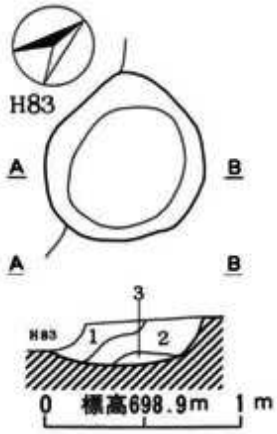
第484図　SYY 4　D202号土坑



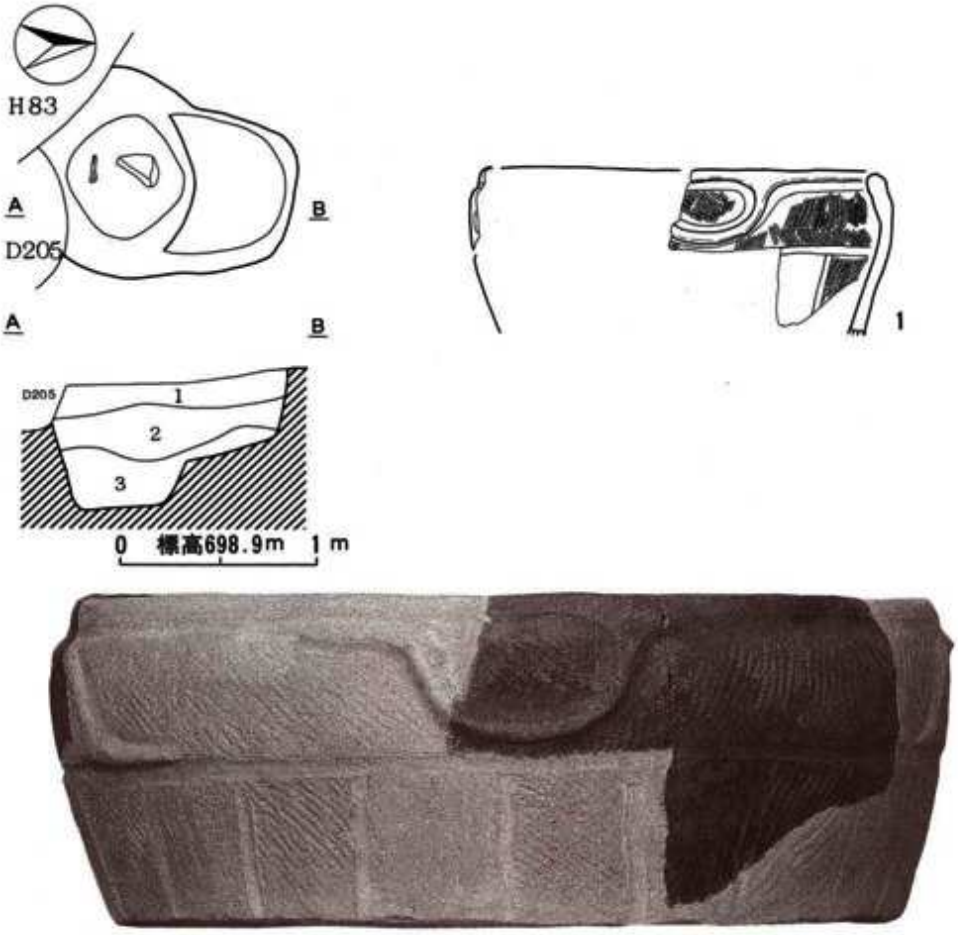
第486図　SYY 4　D204号土坑



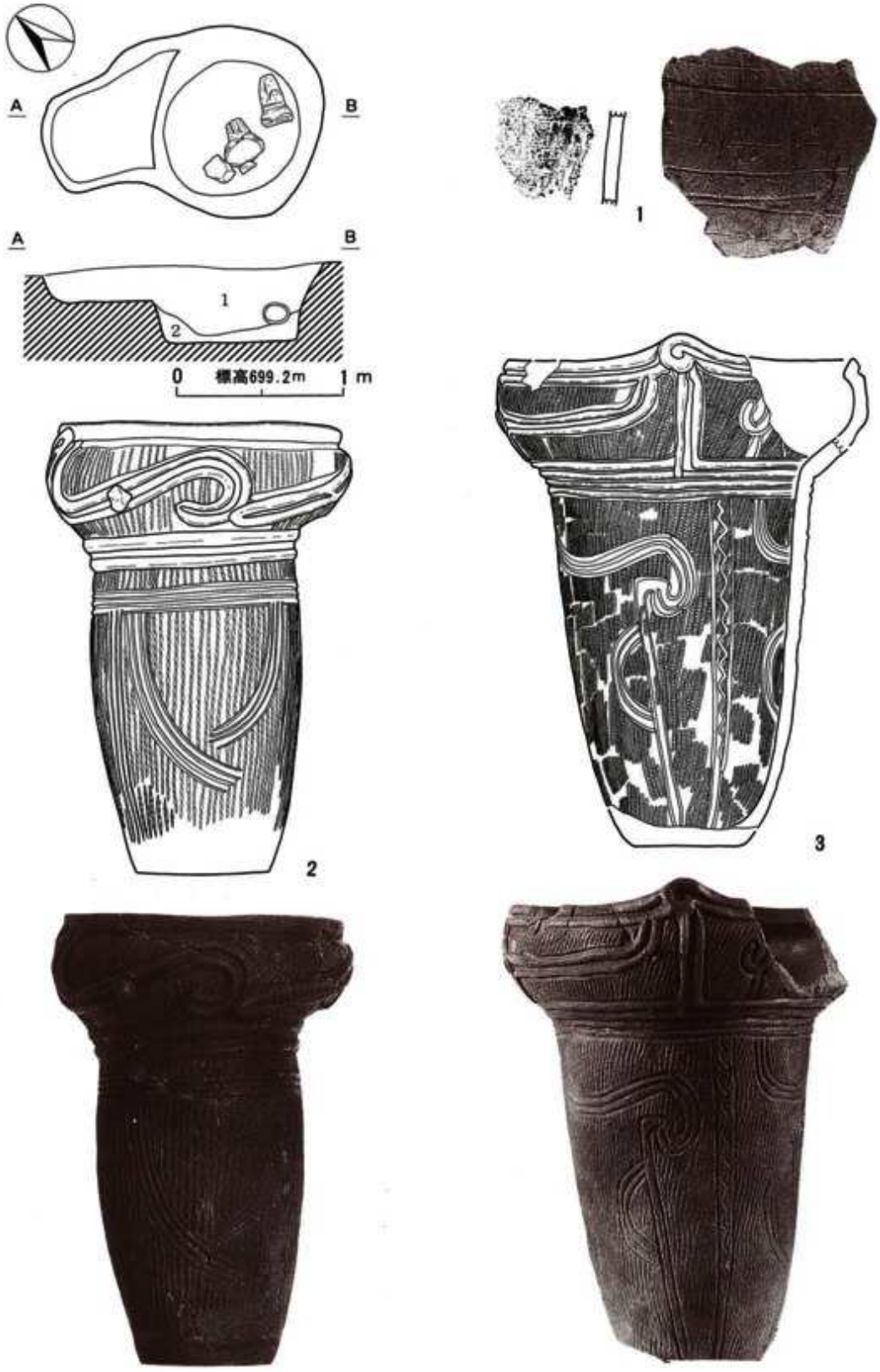
第485図　SYY 4　D203号土坑



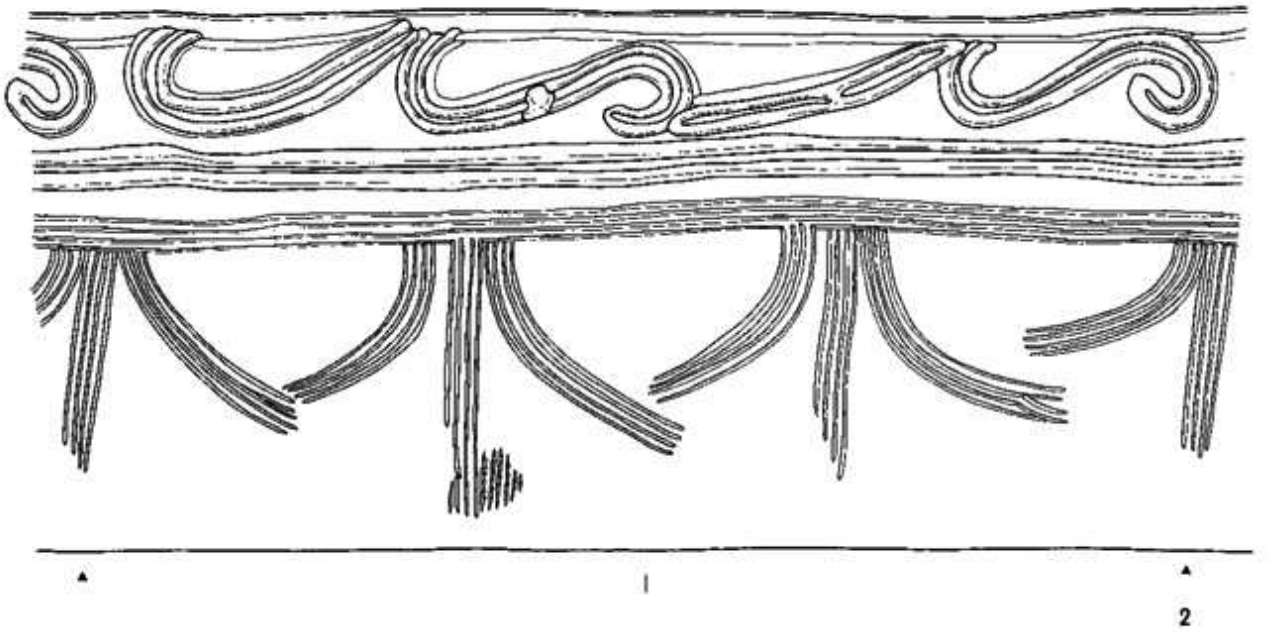
第487図　SYY 4　D205号土坑



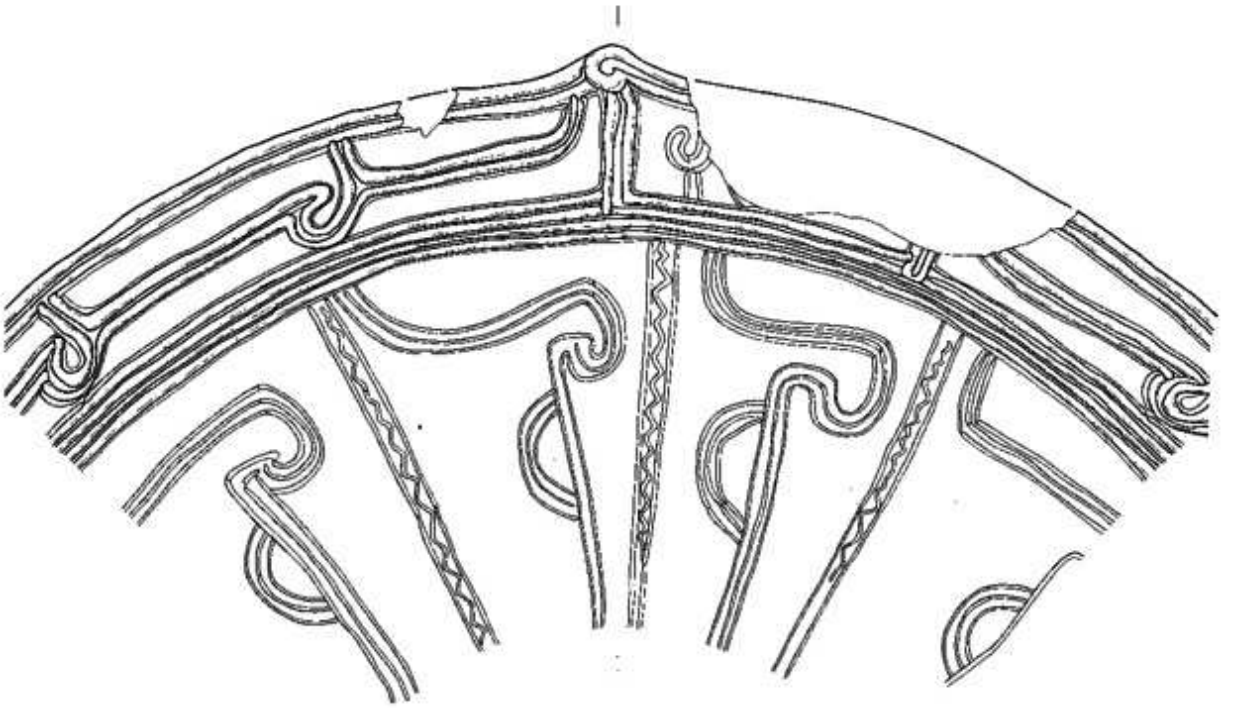
第488図　SYY 4　D206号土坑



第489図　SYY 4　D207号土坑（1）

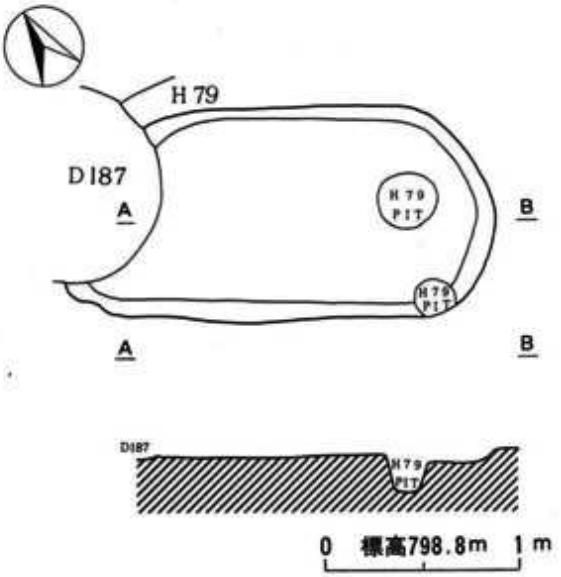


2

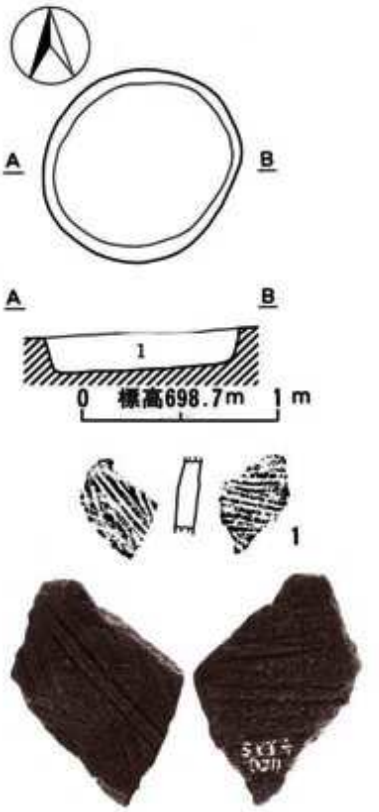


3

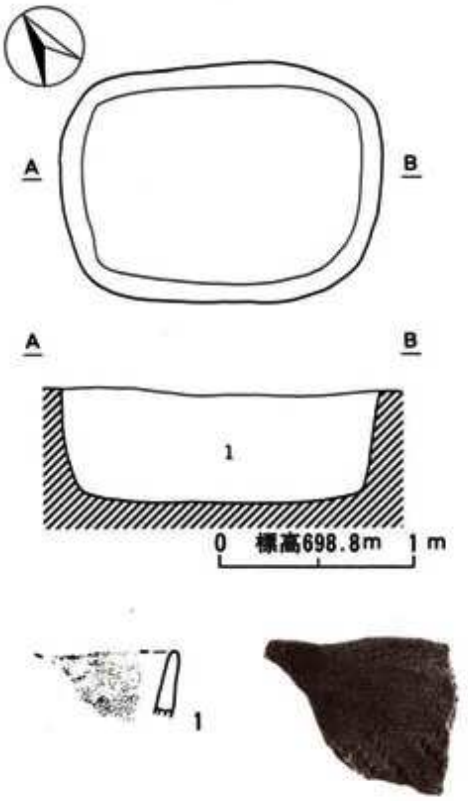
第490図　SYY 4　D207号土坑（2）



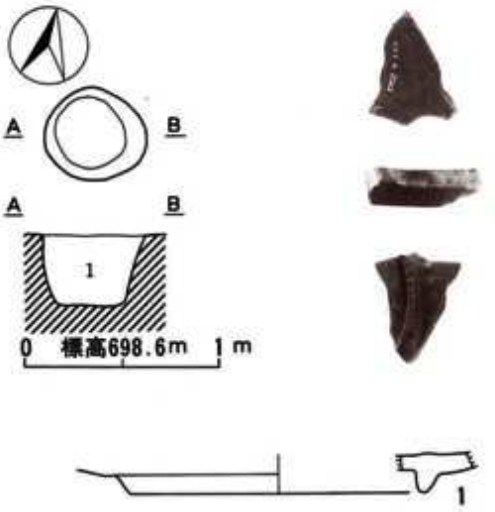
第492図　SYY 4　D209号土坑



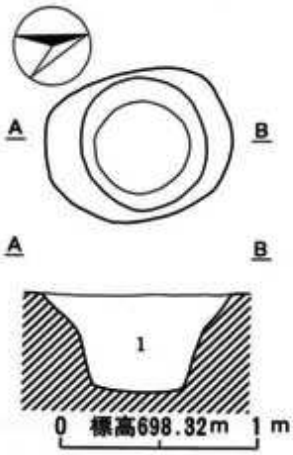
第494図　SYY 4　D211号土坑

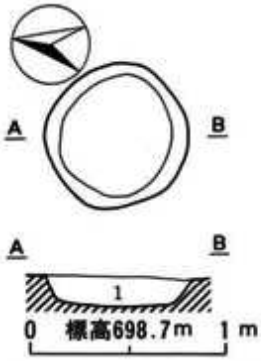


第493図　SYY 4　D210号土坑

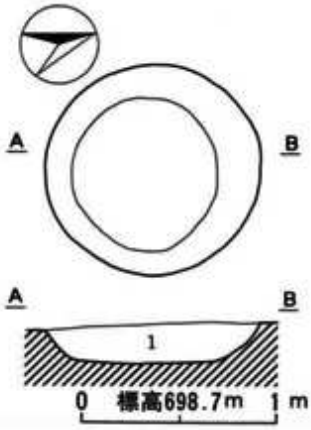


第495図　SYY 4　D212号土坑

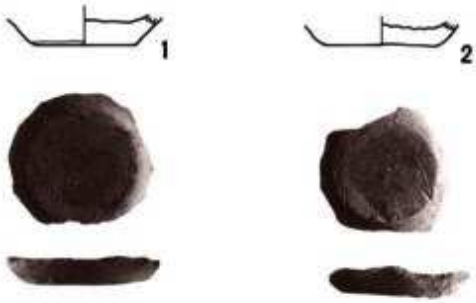




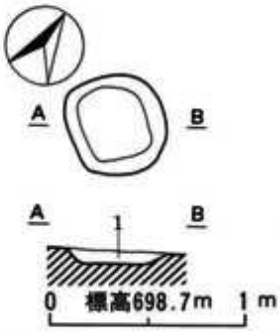
第499図　SYY 4　D216号土坑



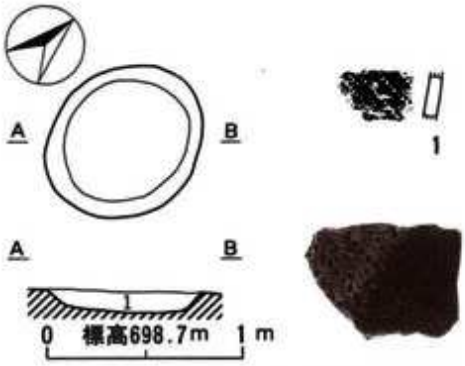
第497図　SYY 4　D214号土坑



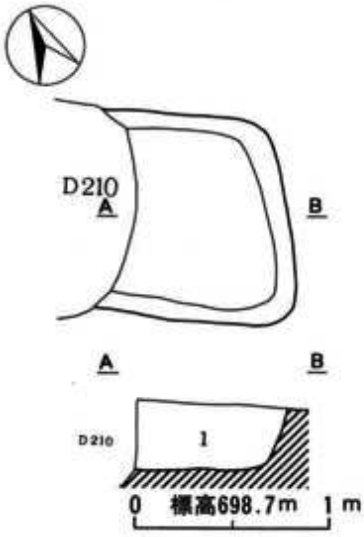
第496図　SYY 4　D213号土坑



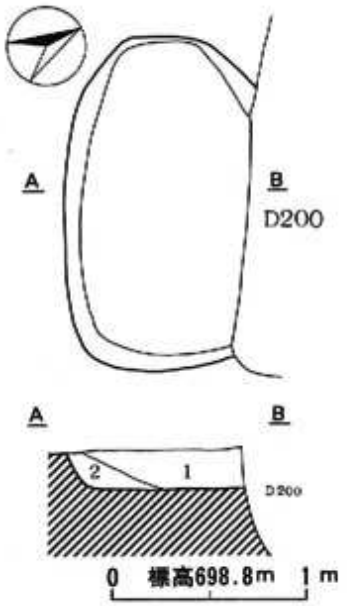
第500図　SYY 4　D217号土坑

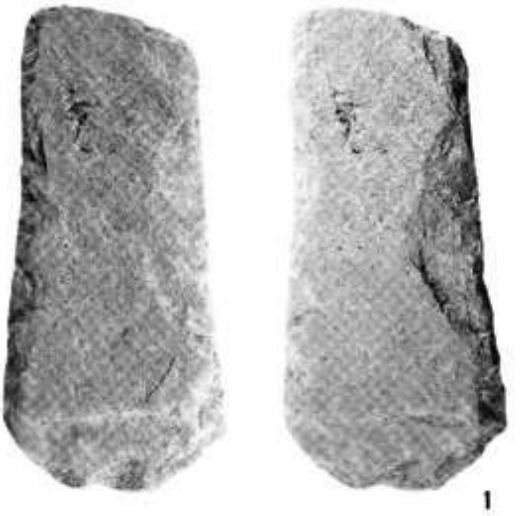


第498図　SYY 4　D215号土坑

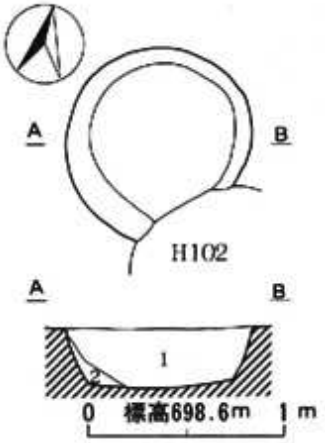


第502図　SYY 4　D219号土坑

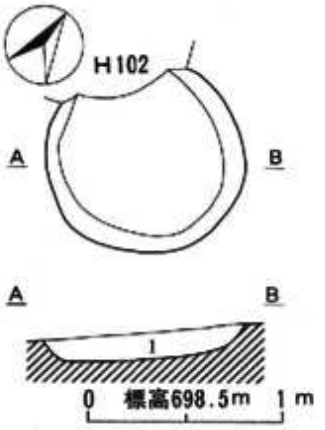




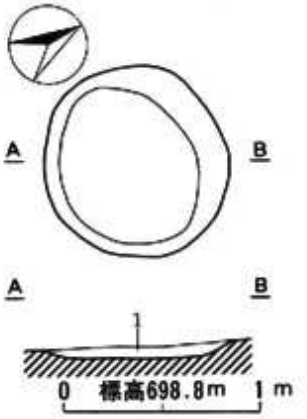
第501図　SYY 4　D218号土坑



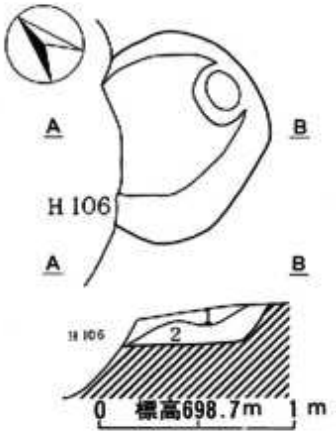
第503図　SYY 4　D220号土坑



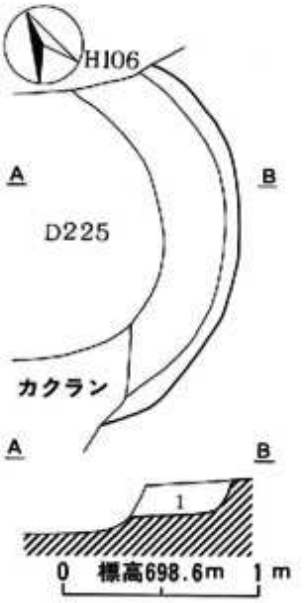
第504図　SYY 4　D221号土坑



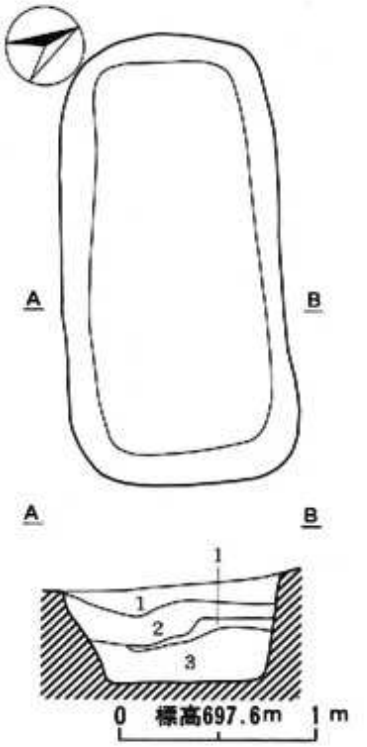
第505図　SYY 4　D222号土坑



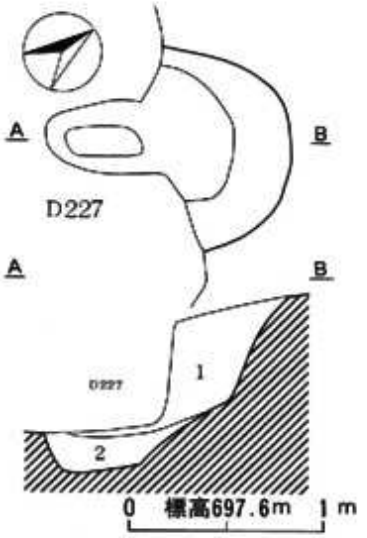
第506図　SYY 4　D223号土坑



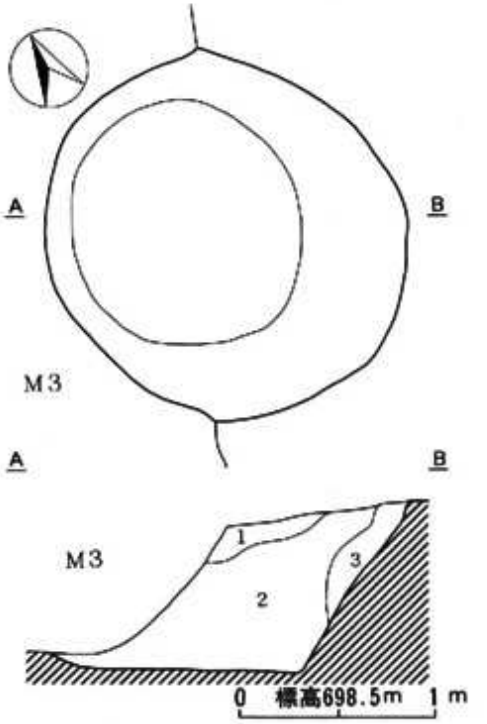
第509図　SYY 4　D226号土坑



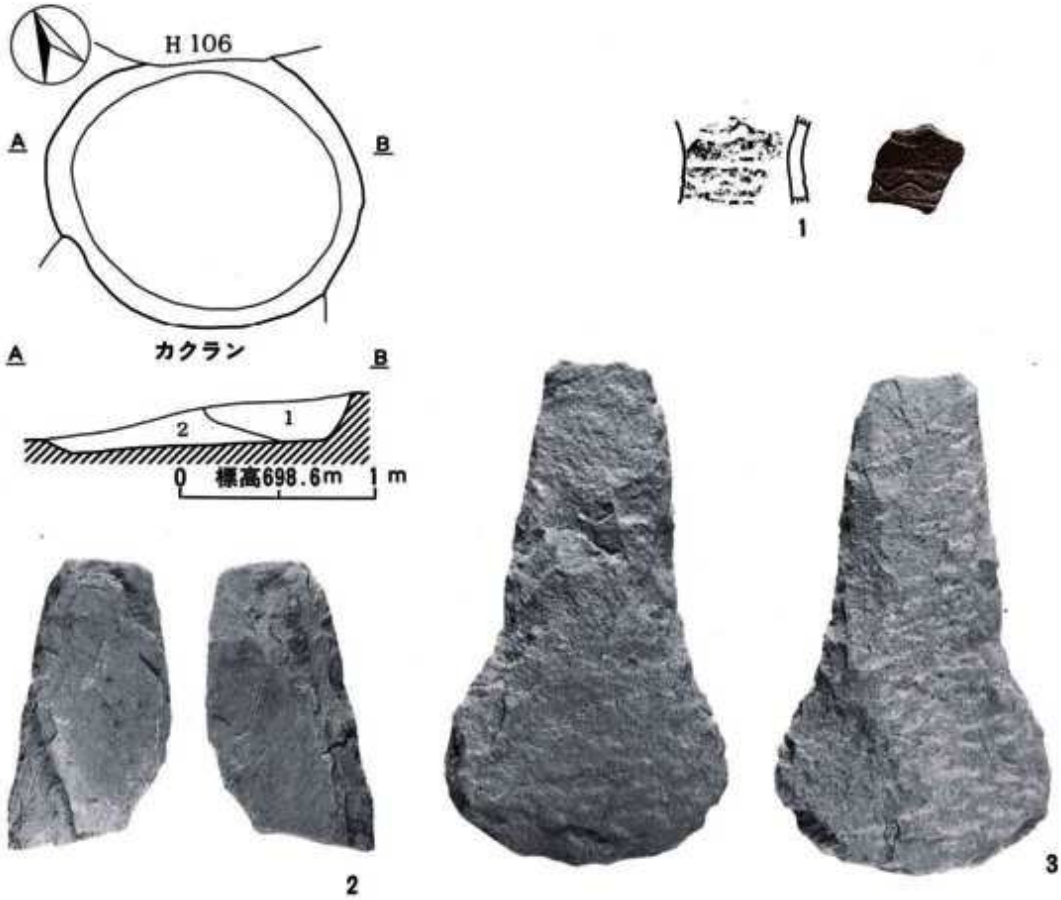
第510図　SYY 4　D227号土坑



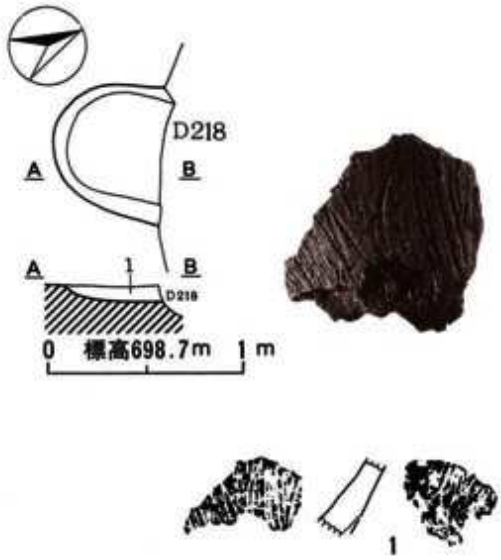
第511図　SYY 4　D228号土坑



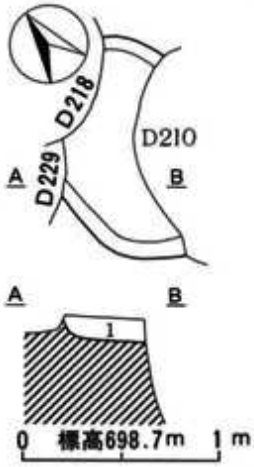
第507図　SYY 4　D224号土坑



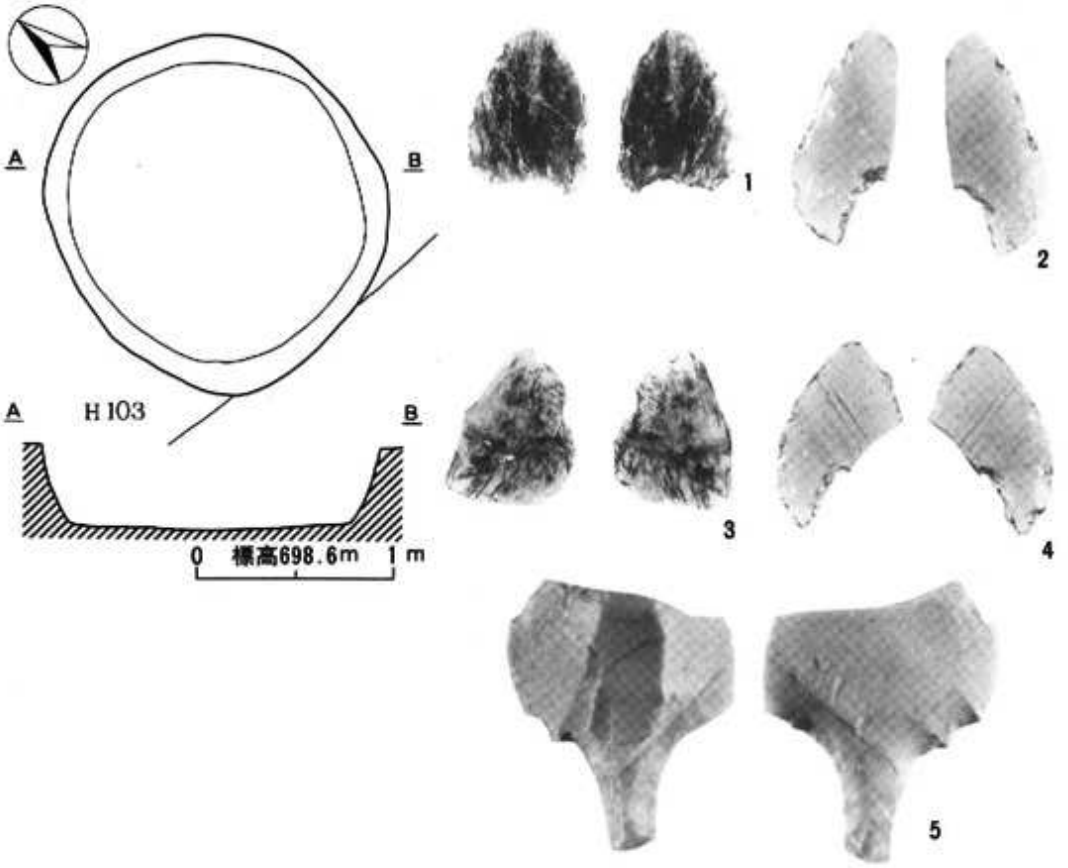
第508図　SYY 4　D225号土坑



第512図　SYY 4　D229号土坑

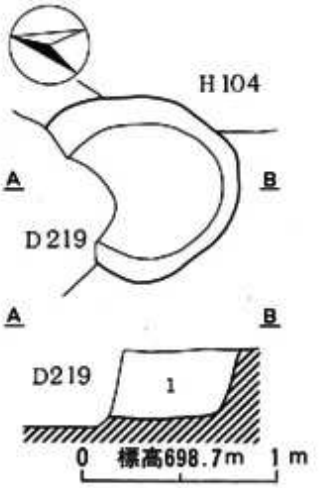


第513図　SYY 4　D230号土坑

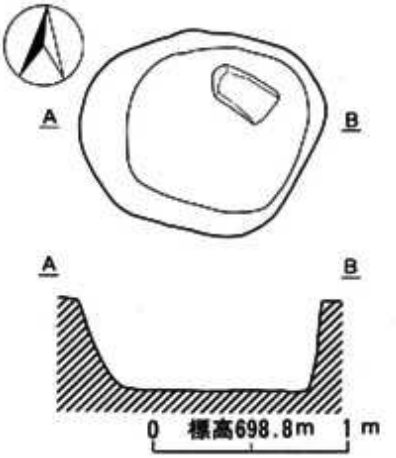


第515図　SYY 4　D232号土坑

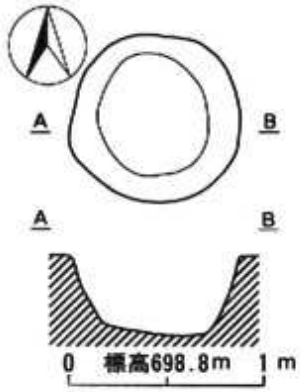
第514図　SYY 4　D231号土坑



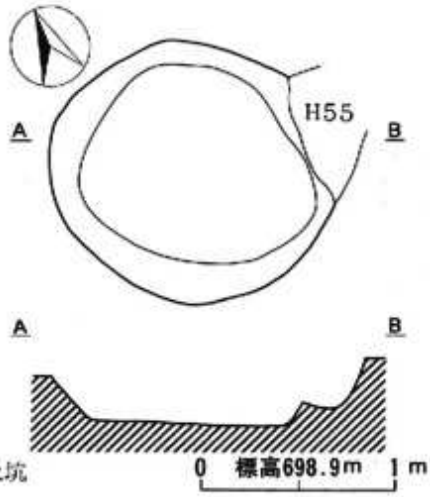
第516図　SYY 4　D233号土坑



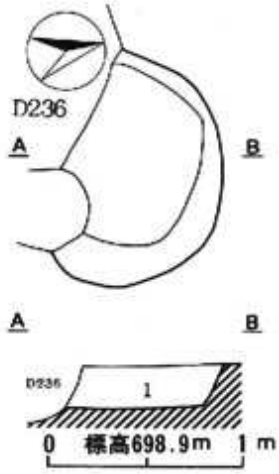
第517図　SYY 4　D234号土坑



第518図　SYY 4 D　235号土坑



第519図　SYY 4　D236号土坑



第520図　SYY 4　D237号土坑

寄山遺跡 4 B地区（SYY 4 B）D53号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	加曽利E

寄山遺跡 4 B地区（SYY 4 B）D59号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	
2	縄文深鉢	体	—	20.6	—	—	加曽利E
3	スクレイパー	—	7.30	14.4	0.97	120	

寄山遺跡 4 B地区（SYY 4 B）D66号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	—	—	—	—	唐草文
2	縄文深鉢	口	—	—	—	—	勝坂

寄山遺跡 4 B地区（SYY 4 B）D70号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	加曽利E

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ80号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨石	I	9.74	9.64	4.88	700	加曽利E

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ82号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ85号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	－	6.41	7.88	1.68	729	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ86号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	I 1	1.79	1.22	1.43	0.5	脚欠

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ87号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	－	6.52	8.37	1.73	134	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ99号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	完	31.40	24.00	8.60	－	曽利
2	石鏃	I 1	2.48	0.98	0.38	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ104号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	繊維
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	繊維

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D105号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	Ⅳ？c	5.12	4.45	1.49	42	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D107号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
2	縄文深鉢	底	－	－	－	－	繊維

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D111号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	絡条体圧痕文
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	前期末

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D112号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	Ⅱ１o	13.7	6.08	1.63	178	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D113号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器
3	縄文深鉢	底	－	－	－	－	繊維
4	縄文深鉢	底	－	－	10.4	－	繊維
5	縄文深鉢	口	－	－	－	－	有尾
6	縄文深鉢	口～底	46.8	31.8	8.4	－	曽利
7	縄文深鉢	口～底	38.4	30.0	8.4	－	加曽利Ｅ

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D118号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器
2	縄文深鉢	口	－	－	－	－	有尾
3	縄文深鉢	口	－	－	－	－	加曽利Ｅ
4	縄文深鉢	体	－	－	－	－	中期後半

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D119号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨石	Ⅰ	9.6	9.0	6.5	710	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D121号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口～体	－	21.0	－	－	加曽利Ｅ

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D125号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	－	8.11	6.01	1.23	68.0	
2	石匙	Ⅲ	4.03	1.72	0.68	4.0	
3	スクレイパー	－	6.60	3.65	0.92	20.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D127号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨製石斧	Ⅱ	6.34	5.07	3.25	186	
2	凹石	Ⅱ１	10.20	7.65	6.82	600	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D128号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	Ⅱ３ｏ	14.2	5.35	1.55	148	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D129号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	焼町

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D131号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	焼町
3	縄文深鉢	完	76.0	52.6	10.0	－	唐草文

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D132号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	中期後半
2	縄文台坏鉢	台	－	－	10.0	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D136号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	－	3.0	4.7	0.91	6.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D143号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器
2	スクレイパー	－	5.15	8.06	1.09	64	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D147号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口～体	－	28.60	－	－	新巻
2	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
3	縄文深鉢	口	－	－	－	－	
4	石匙	III	3.73	4.78	1.22	22	
5	スクレイパー	－	11.60	5.43	0.82	58	
6	縄文深鉢	口～体	－	22.60	－	－	勝坂

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D150号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
2	スクレイパー	—	1.6	2.1	0.43	1.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D151号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	押型文土器
2	縄文深鉢	体	—	—	—	—	
3	縄文深鉢	口	—	—	—	—	中期後半

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D152号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨石	1	8.34	10.5	4.04	600	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D155号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	Ⅰ1	1.82	1.16	0.34	0.9	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D156号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	Ⅰ2	1.4	1.85	0.59	2.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D158号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	スクレイパー	—	5.25	1.47	0.39	4.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D165号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	有尾
2	縄文深鉢	口～底	21.20	15.80	6.60	－	
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	曽利
4	縄文深鉢	体	－	－	－	－	曽利
5	縄文深鉢	体	－	－	－	－	曽利
6	打製石斧	II１o	11.80	4.30	2.00	116	
7	石匙	III	10.10	5.30	0.80	62	
8	スクレイパー	－	3.22	8.85	0.67	30	
9	凹石	II？	12.6	5.32	3.65	323	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D167号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	条痕文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文土器
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	
4	縄文深鉢	体	－	－	－	－	
5	縄文深鉢	口	－	－	－	－	加曽利E
6	縄文浅鉢	口～体	－	38.0	－	－	赤彩

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D171号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	IV？a	7.16	5.64	1.45	70	

寄山遺跡4B 地区（SYY4B）D173号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	磨石	I	9.9	7.59	4.02	380	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）D181号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	有尾

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ182号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	凹石	Ⅱ３	13.2	5.6	4.43	480	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ190号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	前期末
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	繊維

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ202号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	貝殻腹縁
2	縄文深鉢	口	－	－	－	－	有尾

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ204号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	Ⅰ１	2.07	1.35	0.42	1.0	片脚欠

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ206号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	41.2	－	－	加曽利Ｅ

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ207号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	繊維
2	縄文深鉢	完	27.4	16.8	7.8	－	加曽利Ｅ
3	縄文深鉢	完	31.2	21.6	6.6	－	加曽利Ｅ

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ209号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文浅鉢	口	－	－	－	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ210号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	繊維

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ211号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文土器

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ212号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	青磁皿	底	－	－	15.2	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ213号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	土師皿	底	－	－	5.2	－	
2	土師皿	底	－	－	5.8	－	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ215号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	－	－	－	－	繊維

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ218号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	打製石斧	Ⅱ１ｏ	12.5	5.76	1.39	159	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ225号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	弥生壺	頸	－	－	－	－	栗林
2	打製石斧	Ⅱ？ａ	7.61	3.9	1.33	57	
3	打製石斧	Ⅱ１ｏ	12.80	7.2	1.83	159	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ228号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石皿	—	108	12.2	6.91	1000	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ229号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	体	—	—	—	—	条痕文土器

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）Ｄ232号土坑出土遺物一覧表

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	石鏃	Ⅰ１	2.03	1.63	0.35	1.0	
2	石鏃	Ⅰ１	2.96	1.27	0.40	1.0	片脚欠
3	石鏃	Ⅰ１	2.12	1.78	0.41	2.0	脚欠
4	石鏃	Ⅰ１	2.59	1.48	0.28	1.0	片脚欠
5	石錐	Ⅰ	3.32	3.06	0.80	8.0	先端欠

SYY 4　土坑一覧表　No.1

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
41	き10Ｊ１	楕円形	Ｎ－50－Ｅ	138cm	74cm	34cm	0.35㎡	
42	く10Ｅ２	－	－	－	－	24cm	－	
48	か12Ｊ１	円形	Ｎ－90－Ｅ	78cm	70cm	11cm	0.16㎡	
49	き12Ａ３	楕円形	Ｎ－46－Ｅ	70cm	46cm	8 cm	0.13㎡	
50	き12Ｂ５	長方形	Ｎ－10－Ｅ	78cm	38cm	12cm	0.15㎡	
51	き12Ｂ６	－	Ｎ－71－Ｅ	70cm	62cm	16cm	0.12㎡	
53	て18	円形	Ｎ－29－Ｅ	104cm	100cm	24cm	0.20㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／2）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
54	か９Ｂ１	円形	Ｎ－53－Ｅ	100cm	98cm	20cm	0.20㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／2）。2.明黄褐色土層（10YR 7／6）。
55	と18	楕円形	Ｎ－37－Ｅ	100cm	90cm	18cm	0.40㎡	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
56	つ19	－	Ｎ－30－Ｅ	130cm	100cm	12cm	0.35㎡	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。2.明黄褐色土層（10YR 7／6）。
57	て19	楕円形	Ｎ－29－Ｅ	110cm	80cm	16cm	0.35㎡	1.ローム。2.黒褐色土層。3.褐色土層。
58	て18	－	－	－	－	16cm	－	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。2.黒褐色土層（10YR 3／2）。
59	つ17	－	－	－	－	38cm	－	1.黒褐色土層。2.黒褐色土層。3.褐色土層。
60	く19	楕円形	Ｎ－０－Ｅ	80cm	74cm	26cm	0.18㎡	1.褐色土層（10YR 4／4）。2.褐色土層（10YR 4／6）。
61	そ15	円形	Ｎ－90－Ｅ	94cm	92cm	31cm	0.60㎡	1.褐色土層（10YR 4／4）。2.黒褐色土層（10YR 2／2）。
62	て17	円形	Ｎ－20－Ｅ	100cm	94cm	18cm	0.51㎡	1.褐色土層（10YR 4／4）。2.褐色土層（10YR 4／6）。
63	ち16	－	－	－	102cm	16cm	－	
64	た16	楕円形	Ｎ－103－Ｅ	130cm	104cm	44cm	－	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.暗褐色、黒褐色の混在。4.黄褐色土層。
65	た16	楕円形	Ｎ－119－Ｅ	108cm	90cm	40cm	0.38㎡	
66	そ16	楕円形	Ｎ－65－Ｗ	150cm	130cm	54cm	0.70㎡	
67	く19	円形	Ｎ－89－Ｗ	78cm	72cm	32cm	0.20㎡	
68	つ18	－	Ｎ－86－Ｅ	130cm	110cm	54cm	0.56㎡	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。
69	ち19	楕円形	－	－	100cm	26cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
70	ち18	楕円形	Ｎ－105－Ｗ	190cm	170cm	22cm	1.60㎡	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。
71	せ12	－	Ｎ－60－Ｗ	176cm	54cm	20cm	－	
72	せ12	円形	Ｎ－165－Ｅ	126cm	124cm	40cm	0.80㎡	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層（7.5YR 4／4）。
73	せ13	円形	Ｎ－84－Ｅ	90cm	90cm	16cm	0.40㎡	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。
74	せ12	円形	Ｎ－85－Ｅ	80cm	80cm	15cm	0.32㎡	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／4）。
75	せ12	楕円形	Ｎ－90－Ｅ	124cm	114cm	64cm	0.70㎡	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層。
76	せ12	円形	Ｎ－１－Ｅ	110cm	104cm	24cm	0.60㎡	1.暗褐色土層（10YR 3／2）。2.褐色土層（10YR 4／4）。

SYY 4 B　土坑一覧表　No. 2

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
77	せ11	円形	N－0－E	110cm	106cm	28cm	0.75m²	1.暗褐色土層（10YR 2／3）。
78	せ11	円形	－	－	90cm	20cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
79	せ12	円形	N－7－E	87cm	84cm	38cm	0.41m²	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.暗褐色土層。
80	そ14	円形	－	－	－	28cm	－	1.黒褐色土層（10YR 3／2）。
81	そ14	円形	－	－	－	74cm	－	
82	せ14	円形	N－6－W	116cm	114cm	36cm	0.70m²	
83	せ14	－	－	－	－	32cm	－	
84	そ141	円形	－	－	－	22cm	－	
85	せ14	楕円形	－	－	－	19cm	－	
86	せ15	円形	N－5－E	138cm	136cm	38cm	1.10m²	1.黒色土層（10YR1.7／1）。2.褐色土層（10YR 4／6）。
87	せ15	楕円形	N－110－E	113cm	107cm	26cm	0.50m²	
88	く19	－	－	－	－	14cm	－	
89	せ12	円形	N－90－E	84cm	86cm	54cm	0.30m²	
90	す8	楕円形	N－90－E	142cm	126cm	26cm	0.80m²	1.黒色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／4）。
91	す7	楕円形	N－0－E	128cm	126cm	20cm	0.40m²	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／4）。
92	そ13	円形	N－125－E	84cm	82cm	26cm	0.30m²	
93	た13	円形	－	－	－	40cm	0.60m²	
94	せ13	円形	N－65－E	114cm	112cm	20cm	0.30m²	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／4）。
95	せ13	円形	N－1－E	108cm	82cm	50cm	0.27m²	1.黒褐色土層。2.黒褐色土層。3.暗褐色土層。
96	そ13	－	－	－	80cm	14cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。暗褐色土層（7.5YR 3／4）。
97	す17	楕円形	N－0－E	108cm	98cm	24cm	0.40m²	1.黒色土層（7.5YR 2／1）。
98	し13	楕円形	N－0－E	98cm	60cm	14cm	0.22m²	
99	さ14	隅丸方形	N－88－E	110cm	108cm	20cm	0.60m²	1.暗褐色土層（10YR 3／4）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
100	し14	楕円形	N－94－W	150cm	136cm	20cm	0.30m²	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層。
101	す8	楕円形	N－145－W	110cm	90cm	32cm	0.11m²	
102	た13	楕円形	N－29－E	150cm	130cm	74cm	0.60m²	1.暗褐色土層。2.褐色土層。3.黒褐色土層。4.黄褐色土層。
103	そ13	円形	N－126－E	124cm	124cm	46cm	0.43m²	1.暗褐色土層。2.褐色土層。3.黒褐色土層。4.黄褐色土層。
104	さ15	円形	N－94－E	130cm	124cm	36cm	0.36m²	1.黒褐色土層（10YR 3／2）。φ 5mm大パミス多含。
105	し172	楕円形	N－12－E	192cm	124cm	52cm	1.10m²	1.黒褐色土層（7.5YR 3／1）。2.褐色土層（7.5YR 4／3）。
106	こ16	台形	N－82－E	76cm	64cm	30cm	0.10m²	

SYY 4 B　土坑一覧表　No. 3

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
107	こ15	楕円形	N－90－E	92cm	88cm	12cm	0.25㎡	
108	こ14	楕円形	N－111－E	92cm	74cm	20cm	0.20㎡	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。2.黒褐色土層（10YR 2／3）。
109	せ12	楕円形	N－17－E	96cm	70cm	14cm	0.25㎡	
110	す17	楕円形	N－115－E	98cm	126cm	44cm	0.33㎡	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.黒褐色土層（10YR 2／3）。
111	せ12	楕円形	N－15－W	52cm	70cm	12cm	0.10㎡	
112	そ11	楕円形	N－108－W	－	110cm	－	－	
113	す17	円形	N－27－E	102cm	108cm	48cm	0.32㎡	1.黒褐色土層（7.5YR 3／1）。2.灰褐色土層（7.5YR 4／2）。
114	せ11	－	－	－	63cm	44cm	－	1.褐色土層（10YR 4／4）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
115	さ9	－	N－59－E	212cm	158cm	30cm	0.81㎡	
116	こ10	楕円形	N－25－E	102cm	54cm	24cm	0.31㎡	1.黒色土層（10YR 2／1）。
117	し17	楕円形	N－180－E	78cm	72cm	18cm	0.33㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／1）。
118	し18	円形	N－40－E	120cm	120cm	58cm	0.28㎡	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。
119	せ15	－	－	－	－	34cm	0.34㎡	1.黒褐色土層（7.5YR 3／1）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。
120	し16	隅丸長方	N－100－E	192cm	106cm	16cm	1.10㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／1）。φ 7～5cm大パミス多含。
121	す17	円形	N－98－E	166cm	138cm	48cm	1.73㎡	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層。
122	せ9	楕円形	N－96－E	138cm	114cm	8cm	0.91㎡	
123	せ10	円形	N－88－E	118cm	106cm	38cm	0.47㎡	
124	す16	－	－	－	－	60cm	－	1.黒褐色土層。2.黒褐色土層。3.暗褐色土層。
125	せ17	円形	N－89－E	140cm	128cm	24cm	1.05㎡	1.暗褐色土層。黒褐色土層。
126	せ16	楕円形	N－70－E	94cm	－	32cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 3／2）。φ 1cm大パミス少含。
127	し13	円形	N－42－E	98cm	94cm	68cm	0.25㎡	1.黒色土層（10YR 2／1）。φ 5cm大パミス少含。
128	せ16	楕円形	N－99－E	－	134cm	28cm	0.94㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／1）。2.黒褐色土層（10YR 2／3）。
129	そ16	楕円形	N－125－E	168cm	130cm	32cm	1.25㎡	1.黒色土層（10YR 2／1）。2.にぶい黄褐色土層（10YR 4／3）。
130	さ10	円形	N－0－E	64cm	62cm	20cm	0.15㎡	1.黒褐色土層（10YR 3／1）。
131	そ19	－	N－99－E	160cm	142cm	78cm	0.80㎡	1.にぶい黄褐色土層。2.黒色土層。3.暗褐色土層。4.黒褐色土層。
132	せ11	楕円形	N－40－E	116cm	98cm	36cm	0.34㎡	1.黒色土層（10YR1.7／1）。
133	す16	－	－	－	－	30cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
134	す16	－	－	－	－	20cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／4）。
135	す16	－	－	－	－	14cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。
136	そ14	円形	N－110－E	188cm	172cm	70cm	1.12㎡	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層。

SYY 4 B　土坑一覧表　No.4

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
137	そ15	円形	N－4－E	106cm	104cm	20cm	0.43m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
138	そ14	円形	N－14－E	108cm	94cm	50cm	0.50m²	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.褐色土層。
139	そ10	円形	N－80－E	62cm	60cm	74cm	0.20m²	1.黒褐色。2.褐色。3.黒褐色。4.明黄褐色。5.黒色。
140	そ15	円形	N－2－E	100cm	96cm	22cm	0.60m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
141	せ13	円形	N－159－E	110cm	102cm	40cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
142	そ14	円形	N－5－E	100cm	－	40cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
143	た13	円形	N－57－E	112cm	106cm	32cm	0.50m²	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
144	そ13	円形	N－59－E	－	－	18cm	－	
145	た13	楕円形	N－44－E	126cm	114cm	18cm	－	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
146	そ14	－	N－91－E	90cm	－	46cm	－	
147	た14	楕円形	N－39－E	150cm	106cm	20cm	0.99m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。2.褐色土層（10YR 4／6）。
148	た14	円形	N－65－E	118cm	110cm	50cm	0.61m²	1.褐色土層（10YR 4／4）。
149	せ15	－	－	－	－	34cm	0.34m²	1.黒褐色土層（7.5YR 3／1）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。
150	ち19	楕円形	N－22－E	154cm	130cm	22cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
151	す17	楕円形	N－100－E	162cm	110cm	12cm	1.02m²	1.黒褐色土層（7.5YR 2／1）。
152	そ18	円形	N－30－E	120cm	106cm	46cm	0.32m²	1.黒色土層（7.5YR 2／1）。2.極暗褐色土層（7.5YR 2／3）。
153	つ18	－	－	－	110cm	12cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
154	そ15	－	－	－	－	28cm	－	
155	そ15	円形	N－168－E	132cm	130cm	32cm	－	1.黒褐色土層。2.黒褐色土層。3.褐色土層。
156	そ14	－	－	－	－	62cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。
157	き23	円形	N－94－E	144cm	136cm	40cm	0.37m²	1.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。
158	て17	－	－	－	－	52cm	－	1.黒褐色土層(10YR 2／2)。2.にぶい黄褐色土層(10YR 4／3)。
159	す8	円形	N－45－E	88cm	84cm	38cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
160		長方形	N－36－E	226cm	122cm	34cm	1.32m²	1.黒色土層（10YR 2／1）。2.黒褐色土層（10YR 2／3）。
161	け20	長方形	N－109－E	172cm	100cm	18cm	0.96m²	
162	け20	長方形	N－7－E	170cm	134cm	20cm	1.30m²	
163	せ16	－	N－80－E	－	－	30cm	－	
164	そ14	円形	N－129－E	－	－	76cm	－	
165	た12	楕円形	N－30－E	126cm	86cm	16cm	－	
166	せ19	円形	N－35－E	180cm	164cm	60cm	0.93m²	1.黒褐色土層。2.暗褐色土層。3.暗褐色土層。

SYY 4 B　土坑一覧表　No. 5

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
167	た20	－	N－120－E	184cm	156cm	32cm	1.56m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
168	せ18	円形	N－130－E	120cm	126cm	36cm	0.77m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。2.暗褐色土層（10YR 5／6）。
169	た20	楕円形	N－126－E	130cm	100cm	32cm	0.52m²	1.黒褐色。2.浅黄橙色。3.黒色。4.黒褐色。5.暗褐色。6.褐色。
170	た20	楕円形	N－109－E	168cm	130cm	18cm	0.65m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
171	せ19	円形	N－93－E	150cm	140cm	35cm	0.70m²	1.黒褐色土層。2.にぶい黄褐色土層。
172	せ19	円形	N－140－E	87cm	80cm	12cm	0.22m²	1.黒褐色土層（7.5YR 3／2）。
173	た12	円形	N－179－E	56cm	50cm	18cm	0.25m²	
174	せ13	円形	N－38－W	74cm	70cm	100cm	0.30m²	
175	け13	楕円形	－	－	57cm	17cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 2／2）。
176	さ17	－	－	－	－	34cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 3／2）。
177	ち17	円形	N－142－E	130cm	114cm	54cm	0.44m²	
178	し21	－	N－120－E	98cm	90cm	48cm	0.34m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
179	し22	方形	N－113－E	146cm	100cm	54cm	0.72m²	1.黒褐色土層（10YR 3／2）。
180	し22	長方形	N－89－E	166cm	108cm	44cm	0.83m²	
181	す21	楕円形	N－117－E	96cm	68cm	10cm	0.42m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
182	そ21	長方形	N－62－E	206cm	128cm	14cm	1.25m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
183	せ21	楕円形	N－73－E	100cm	92cm	24cm	0.41m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
184	た21	楕円形	N－10－E	58cm	54cm	66cm	0.05m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
185	そ21	楕円形	N－15－E	98cm	82cm	16cm	0.22m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
186	た19	長方形	N－10－E	136cm	112cm	12cm	0.57m²	1.黒色土層（10YR 2／1）。
187	さ18	円形	N－90－E	98cm	92cm	48cm	0.48m²	
188	そ20	楕円形	N－58－E	104cm	96cm	24cm	0.44m²	1.黒色土層（7.5YR 2／1）。
189	し17	－	N－134－E	60cm	50cm	14cm	0.12m²	
190	た19	－	N－16－E	250cm	90cm	68cm	0.85m²	
191	く23	－	N－142－E	－	－	24cm	－	1.黒褐色土層。2.黒褐色土層。3.暗褐色土層。4.褐色土層。
192	し18	－	N－88－E	－	－	32cm	－	
193	せ22	楕円形	N－100－E	142cm	92cm	48cm	1.22m²	1.暗褐色土層（10YR 3／4）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
194	し18	楕円形	N－66－E	140cm	116cm	52cm	0.70m²	
195	し19	楕円形	N－25－E	130cm	108cm	30cm	0.76m²	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。
196	さ21	楕円形	N－105－E	128cm	110cm	64cm	1.15m²	

SYY 4 B　土坑一覧表　No. 6

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
197	そ21	－	N－36－E	200cm	120cm	196cm	－	1.暗褐色2.黄褐色3.黒褐色4.にぶい黄褐色5.黒色6.にぶい黄褐色。
198	し21	楕円形	N－100－E	234cm	150cm	12cm	2.00m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
199	し19	楕円形	N－30－E	230cm	176cm	90cm	1.50m²	
200	す18	長方形	N－121－E	226cm	114cm	56cm	1.19m²	1.暗褐色土層（10YR 3／2）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
201	す18	円形	N－18－E	80cm	78cm	26cm	0.24m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
202	こ17	－	N－110－E	－	50cm	16cm	－	
203	く17	－	N－89－E	150cm	－	54cm		
204	き16	－	N－105－W	－	188cm	68cm	－	
205	せ17	－	N－40－E	－	－	22cm	－	1.黒褐色土層。2.褐色土層。3.暗褐色土層。
206	せ17	－	－	－	－	64cm	－	1.黒褐色土層。2.黒色土層。3.黒褐色土層。
207	す12	－	N－138－E	170cm	116cm	48cm	0.86m²	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
208	す12	楕円形	N－80－E	60cm	50cm	20cm	0.13m²	1.黒色土層（10YR 2／1）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
209	さ17	－	－	－	108cm	8 cm	－	
210	し19	方形	N－120－E	166cm	120cm	56cm	1.12m²	1.暗褐色土層（10YR 8／4）。
211	さ19	円形	N－90－E	100cm	98cm	20cm	0.59m²	1.褐色土層（10YR 4／4）。
212	す19	円形	N－75－E	53cm	48cm	36cm	0.10m²	1.黒色土層（10YR 2／1）。
213	す20	楕円形	N－3－E	96cm	76cm	50cm	0.19m²	1.黒色土層（10YR 2／1）。
214	す18	円形	N－20－E	110cm	108cm	20cm	0.43m²	1.黒褐色土層（10YR 3／3）。
215	す19	楕円形	N－3－E	88cm	74cm	10cm	0.26m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
216	す19	円形	N－167－E	74cm	73cm	16cm	0.21m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
217	す19	円形	N－56－E	52cm	50cm	8 cm	0.10m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
218	す18	－	N－116－E	171cm	－	20cm	－	1.黒褐色土層(10YR 2／3)。2.にぶい黄褐色土層(10YR 4／3)。
219	し19	－	－	－	－	36cm	－	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
220	す20	－	N－77－E	96cm	－	32cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.暗褐色土層（10YR 3／3）。
221	す20	－	N－55－E	102cm	－	12cm	－	1.黒色土層（10YR 2／1）。
222	す19	円形	N－120－E	98cm	94cm	6 cm	0.40m²	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。
223	た13	－	－	－	－	2 cm	－	1.黒褐色土層（10YR 2／2）。2.褐色土層（10YR 4／4）。
224	ち14	－	－	－	－	8 cm	－	1.黒褐色土層。2.褐色土層。3.褐色土層。
225	ち13	－	N－133－E	160cm	－	22cm	－	1.黒褐色土層（7.5YR 3／2）。2.暗褐色土層（7.5YR 3／3）。
226	ち13	－	－	－	－	16cm	－	1.暗褐色土層（7.5YR 3／4）。

SYY 4 B　土坑一覧表　No. 7

No.	位　置	平面形状	長軸方位	長　径	短　径	深　度	面　積	覆　土
227	お23	長方形	N－115－E	232cm	116cm	52cm	1.55m²	1.極暗褐色土層。2.暗褐色土層。3.暗褐色土層。
228	お23	－	－	－	－	48cm	－	1.暗褐色土層（10YR 3／3）。2.褐色土層（7.5YR 4／4）。
229	す18	－	－	－	－	8 cm	－	1.褐色土層（10YR 4／4）。
230	す19	－	N－125－E	－	－	12cm	－	1.褐色土層（10YR 4／4）。
231	す18	楕円形	N－111－E	88cm	80cm	16cm	0.15m²	1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
232	し19	円形	N－140－E	－	166cm	42cm	－	
233	し19	－	N－165－E	－	96cm	24cm		1.黒褐色土層（10YR 2／3）。
234	し18	－	N－83－W	128cm	104cm	46cm	0.55m²	
235	さ18	円形	N－89－E	87cm	86cm	40cm	0.24m²	
236	そ12	－	N－112－E	－	134cm	34cm	－	
237	そ12	－	N－13－E	－	－	22cm	－	1.褐色土層（10YR 4／6）。

D53

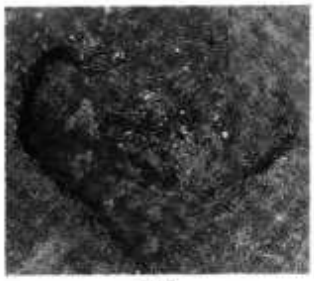
D58

D67

D54

D59

D72



D56

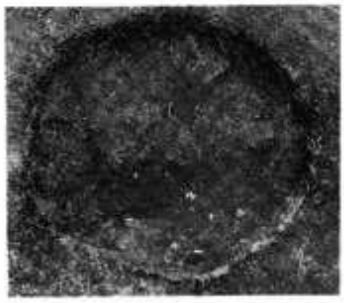
D65

D69

D55

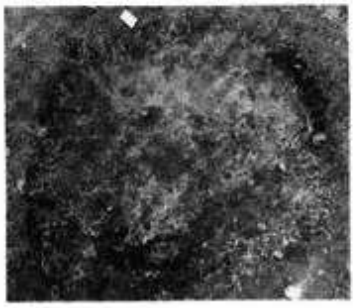
D62

D66

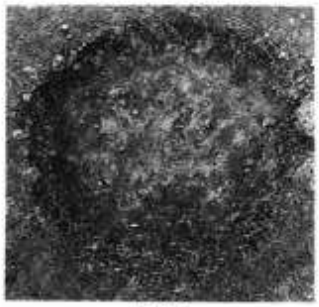


D57

D70



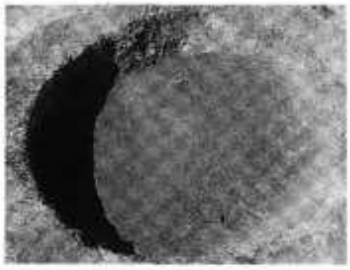
D73



D74

D75

D85



D76

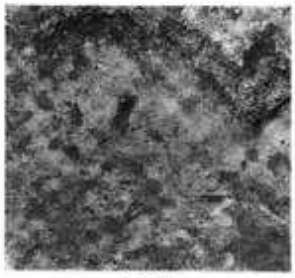
D79

D80

D81

D82

D86



D84

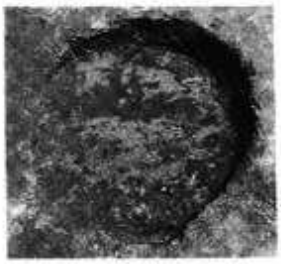
D77

D83

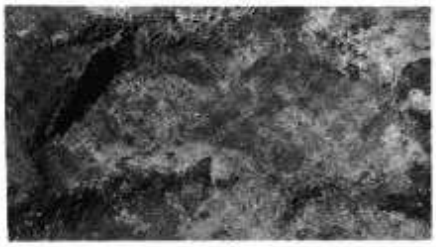
D87

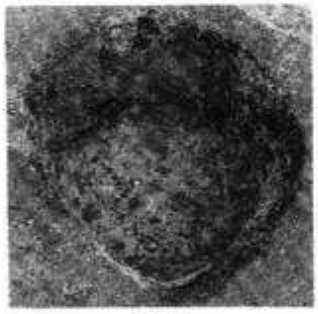
D89

D90


D91

D93

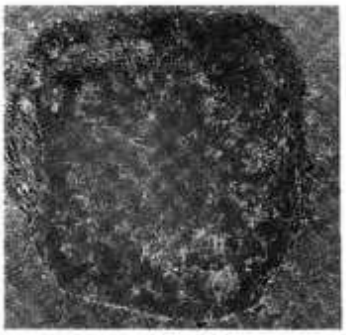

D97

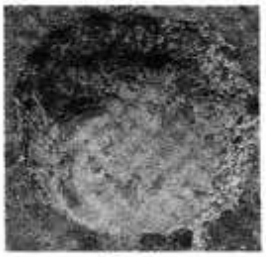

D95

D96

D100

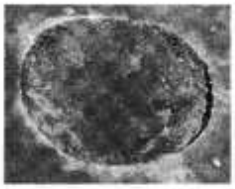
D98


D105


D94

D101

D102


D107

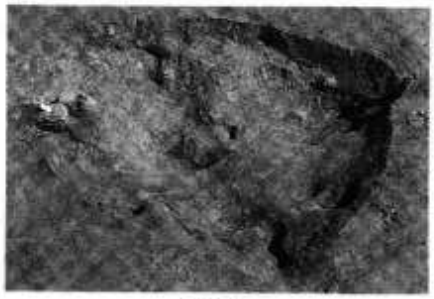
D104

D99

D103

D106

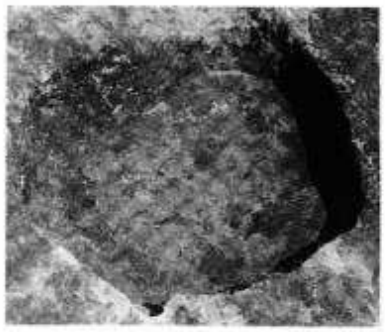
D109



D111

D113

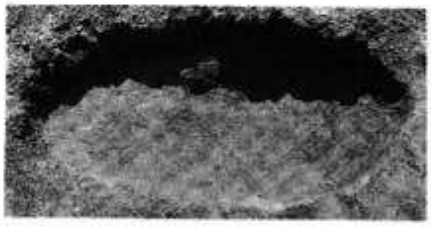
D117



D126

D115

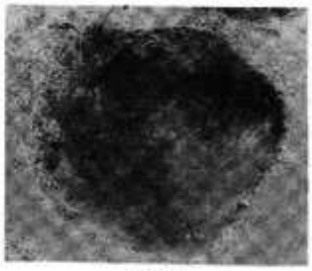
D122



D116

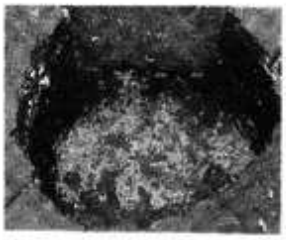
D125

D118

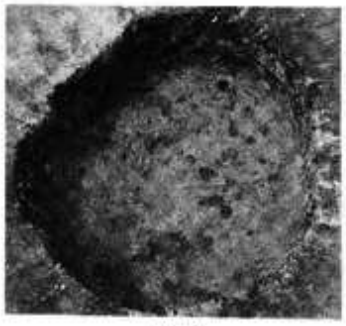


D123

D121

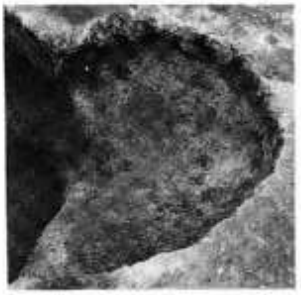


D127

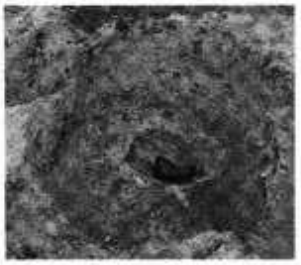


D129

D128



D134



D136

D131

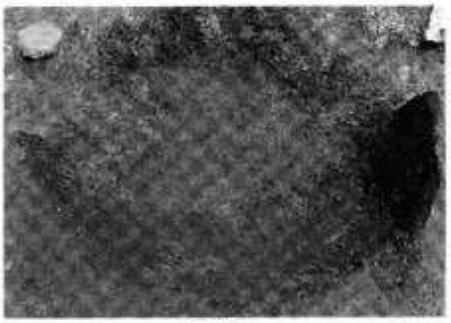
D137

D141

D138

D140

D142



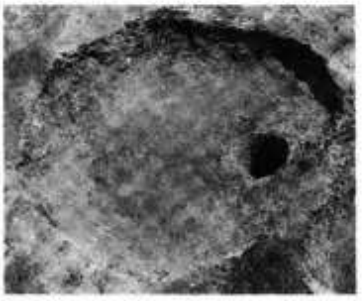
D132

D143

D144

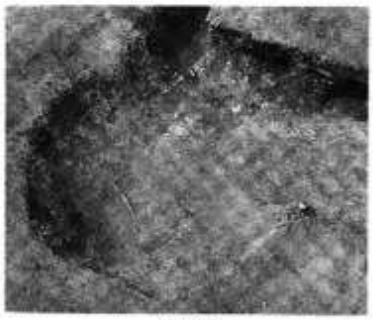
D146

D147



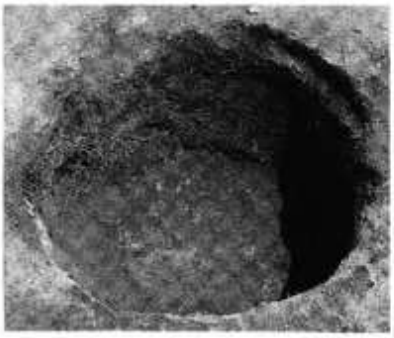
D145

D149



D150

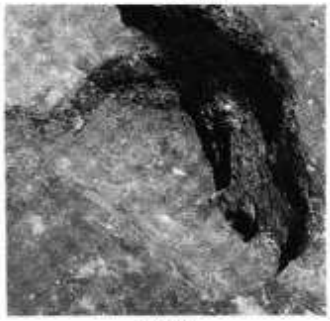
D159



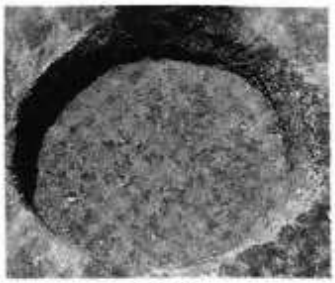
D152

D154

D156



D163



D158

D157

D164

D151

D161

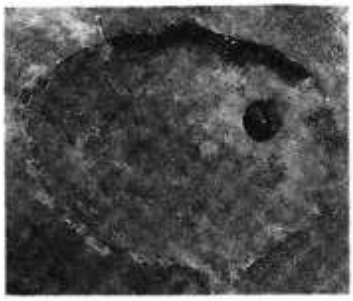
D166

D167

D169

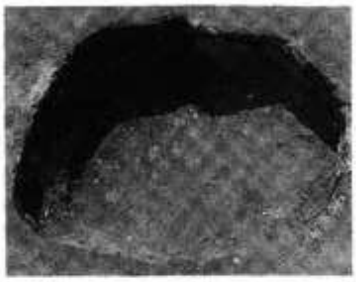
D175

D172



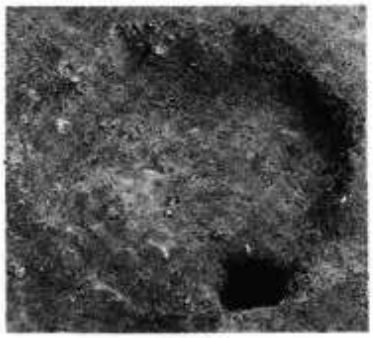
D176

D177

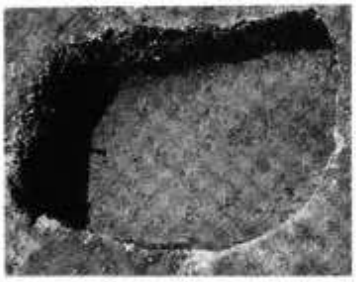


D178

D179

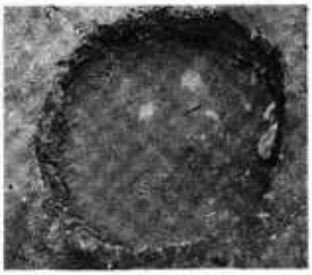


D187



D180

D181

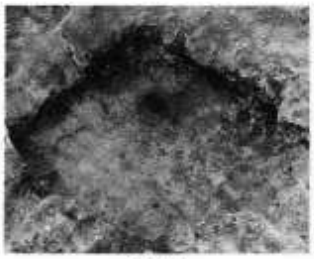


D183

D184

D186

D182



D191

D193

D200

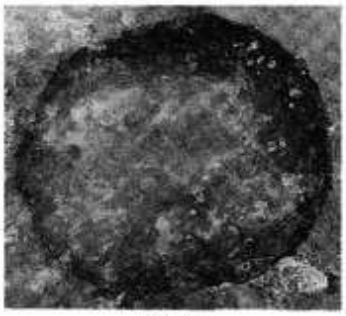
D196

D197

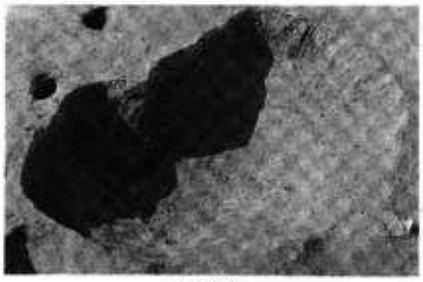
D210

D199

D198



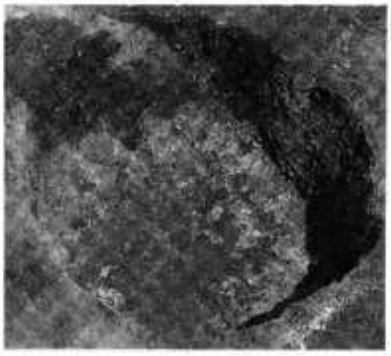
D211



D204

D205

D206



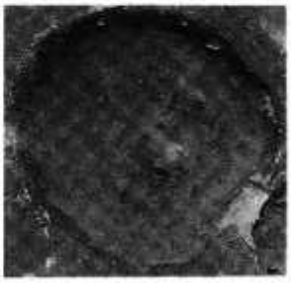
D188

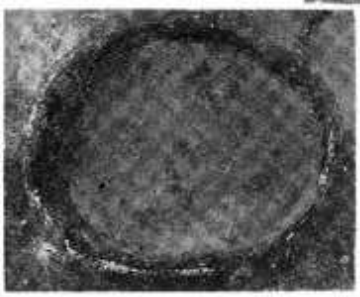
D207

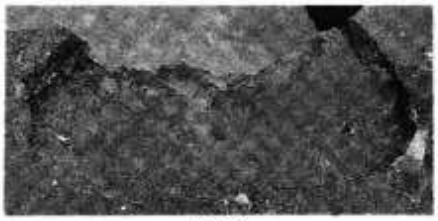
D201

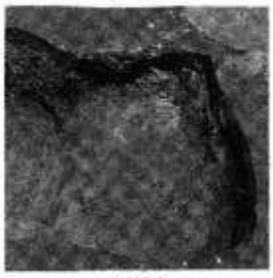
D212

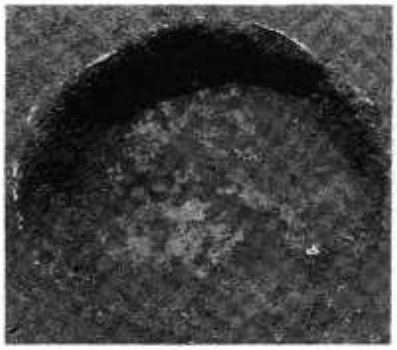
D213

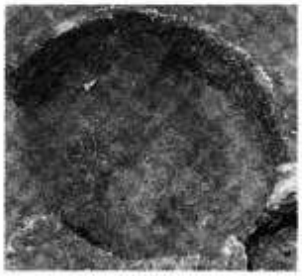

D216

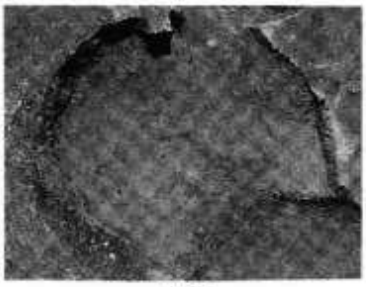

D215

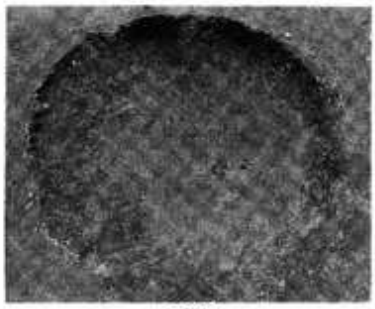

D218

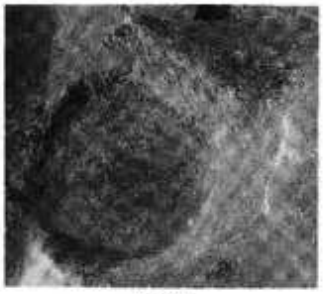

D219

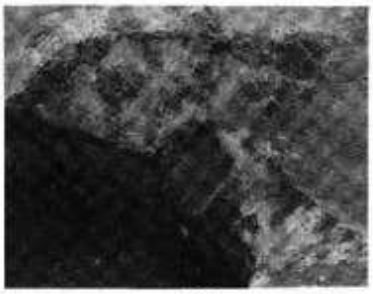

D214

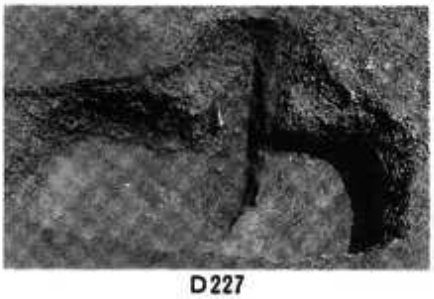

D220


D221

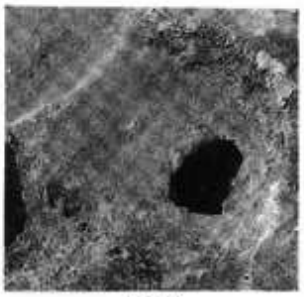

D222


D224


D230


D227

D229


D223

D231

D232

D233

寄山遺跡４Ａ地区（SYY ４Ａ）遺構外出土遺物一覧表　No.１

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	爪型文土器
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	爪型文土器
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	中期初頭
4	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
5	縄文深鉢	底	－	－	12.6	－	勝坂
6	縄文深鉢	体	－	－	－	－	勝坂
7	縄文深鉢	口	－	31.4	－	－	勝坂
8	縄文深鉢	口～体	－	34.6	－	－	勝坂
9	縄文深鉢	口～体	－	29.2	－	－	勝坂
10	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
11	縄文深鉢	口	－	17.0	－	－	勝坂
12	縄文深鉢	口	－	－	－	－	勝坂
13	縄文深鉢	底	－	－	8.8	－	
14	縄文深鉢	口～体	16.0	－	－	－	
15	縄文深鉢	口	－	－	－	－	
16	縄文深鉢	口	－	－	－	－	
17	縄文深鉢	口	－	－	－	－	
18	縄文深鉢	口	－	－	－	－	焼町
19	縄文深鉢	口	－	－	－	－	焼町
20	縄文深鉢	体	－	－	－	－	
21	縄文深鉢	体	－	－	－	－	焼町

寄山遺跡4A地区（SYY 4 A）遺構外出土遺物一覧表　No. 2

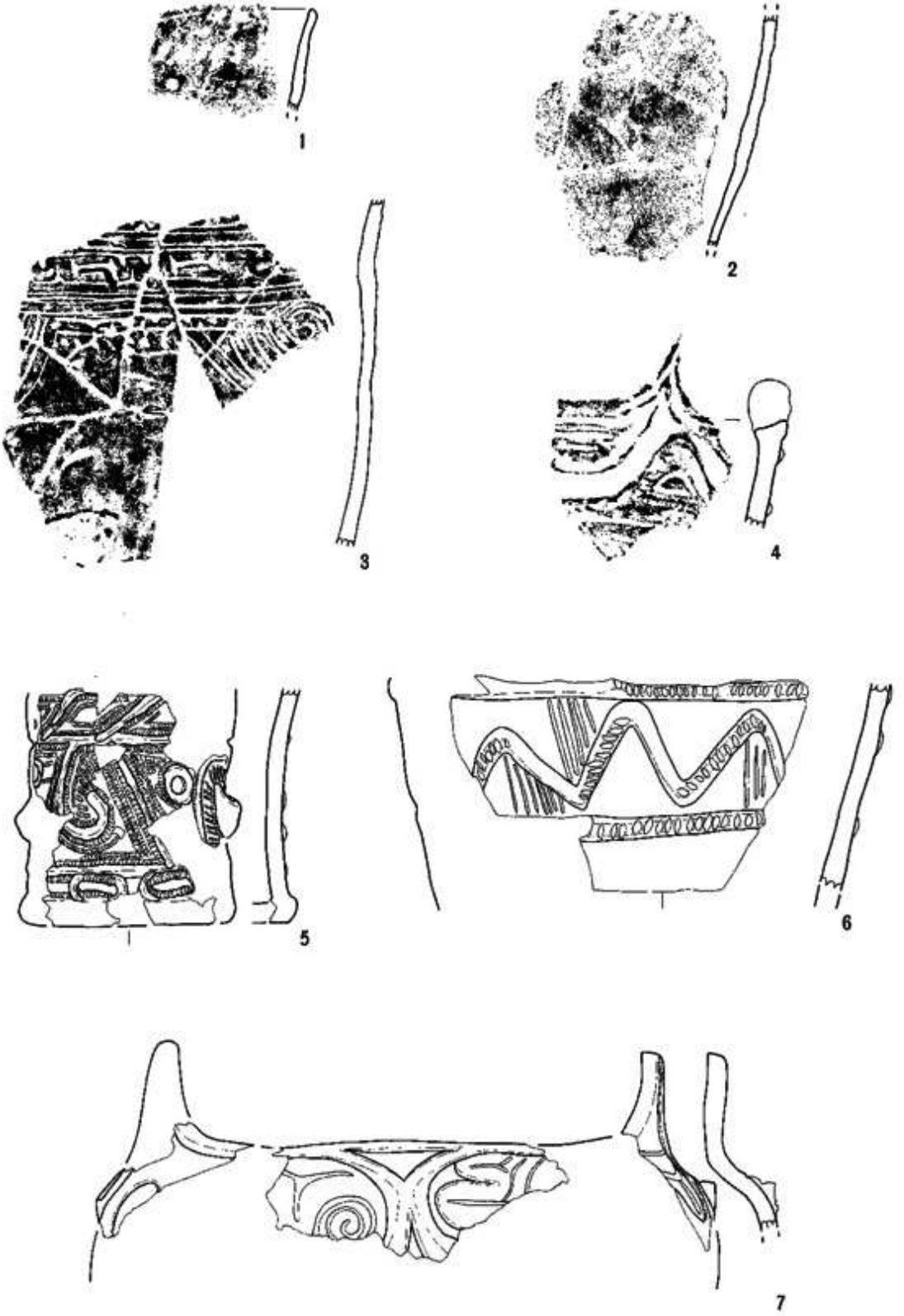
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
22	縄文深鉢	口	—	—	—	—	焼町
23	縄文深鉢	体	—	—	—	—	焼町
24	縄文深鉢	口	—	—	—	—	焼町
25	縄文深鉢	口～体	—	39.6	—	—	焼町
26	縄文深鉢	口	—	28.4	—	—	加曽利E
27	縄文深鉢	口～底	19.2	37.0	9.0	—	加曽利E
28	縄文深鉢	口	—	24.0	—	—	加曽利E
29	縄文深鉢	体	—	—	—	—	加曽利E
30	縄文深鉢	口	—	—	—	—	加曽利E
31	縄文深鉢	口～体	—	12.0	—	—	加曽利E
32	縄文深鉢	口	—	34.6	—	—	加曽利E
33	縄文深鉢	口	—	—	—	—	曽利
34	縄文深鉢	口～底	19.2	17.0	12.0	—	曽利
35	縄文深鉢	口	—	—	—	—	
36	縄文深鉢	口	—	—	—	—	
37	縄文深鉢	口	—	17.0	—	—	
38	縄文深鉢	口	—	15.6	—	—	唐草文
39	縄文深鉢	口	—	22.0	—	—	唐草文
40	縄文深鉢	口～体	—	20.4	—	—	唐草文
41	縄文深鉢	体	—	—	—	—	唐草文
42	縄文深鉢	口～体	—	16.2	—	—	唐草文
43	縄文深鉢	口～体	—	24.6	—	—	唐草文
44	縄文深鉢	口	—	—	—	—	唐草文
45	縄文深鉢	口	—	—	—	—	唐草文
46	縄文浅鉢	口～底	10.0	23.2	7.6	—	
47	縄文浅鉢	口～底	10.0	18.4	7.0	—	加曽利E
48	縄文浅鉢	口～体	—	—	—	—	
49	釣手土器	口	—	—	—	—	
50	ミニチュア土器	完	10.0	6.0	4.0	—	
51	ミニチュア土器	完	2.2	4.2	2.8	—	

寄山遺跡４Ａ地区（SYY ４Ａ）遺構外出土遺物一覧表　No.３

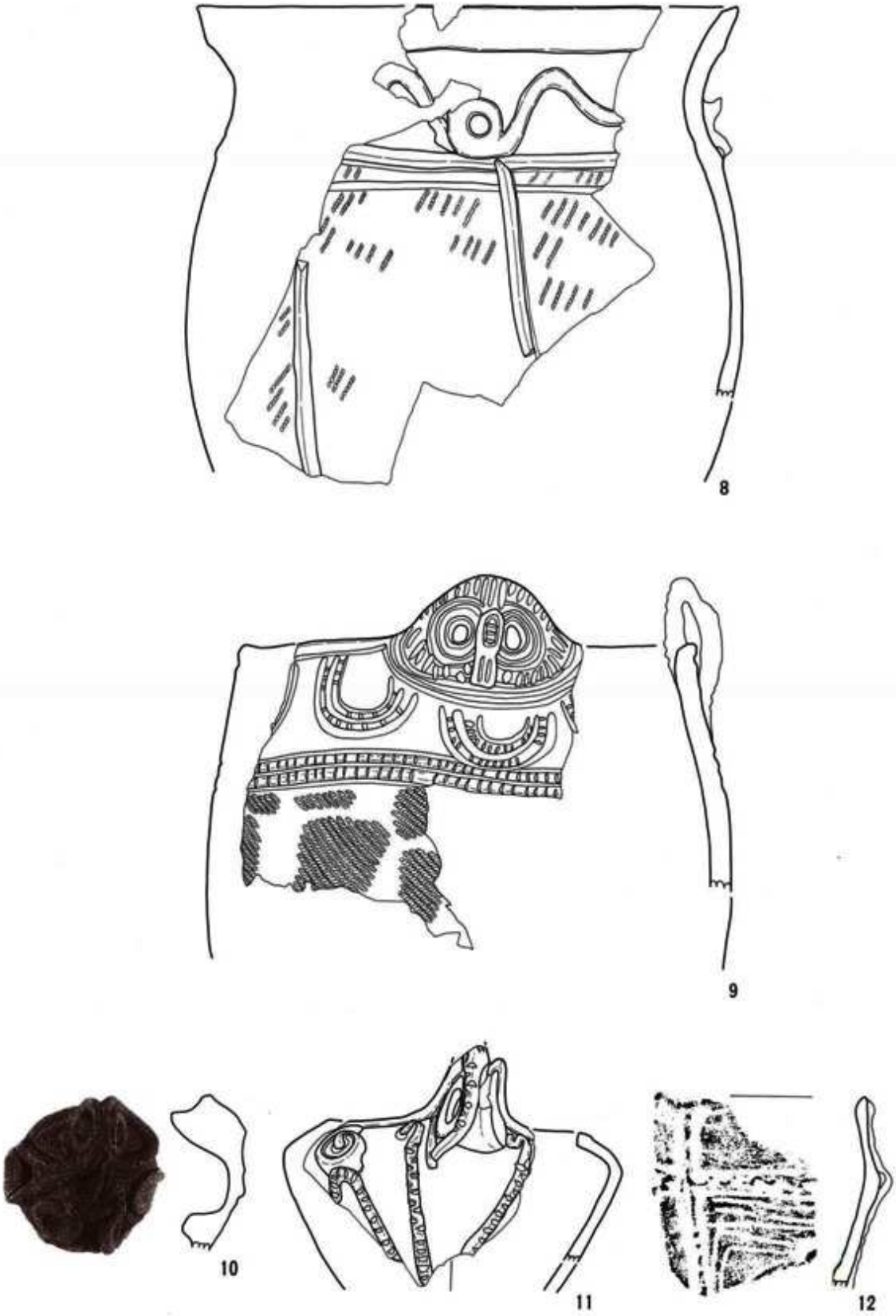
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
52	縄文深鉢	底	—	—	6.40	—	底部孔
53	土師器皿	完	1.80	8.80	3.00	—	
54	青磁	体	—	—	—	—	
55	打製石斧	II３c	11.40	6.04	1.53	44	
56	打製石斧	I？b	12.20	5.00	2.02	162	先端欠
57	打製石斧	II１o	11.20	6.65	1.45	150	
58	打製石斧	IV？b	8.05	5.70	1.42	92	
59	打製石斧	IV１c	8.60	5.63	1.08	92	
60	打製石斧	I？a	8.90	4.75	1.43	98	
61	打製石斧	II？b	8.20	5.04	0.97	66	
62	打製石斧	I？b	9.50	5.02	1.23	68	

寄山遺跡４Ａ地区（SYY ４Ａ）遺構外出土遺物一覧表　No. 3

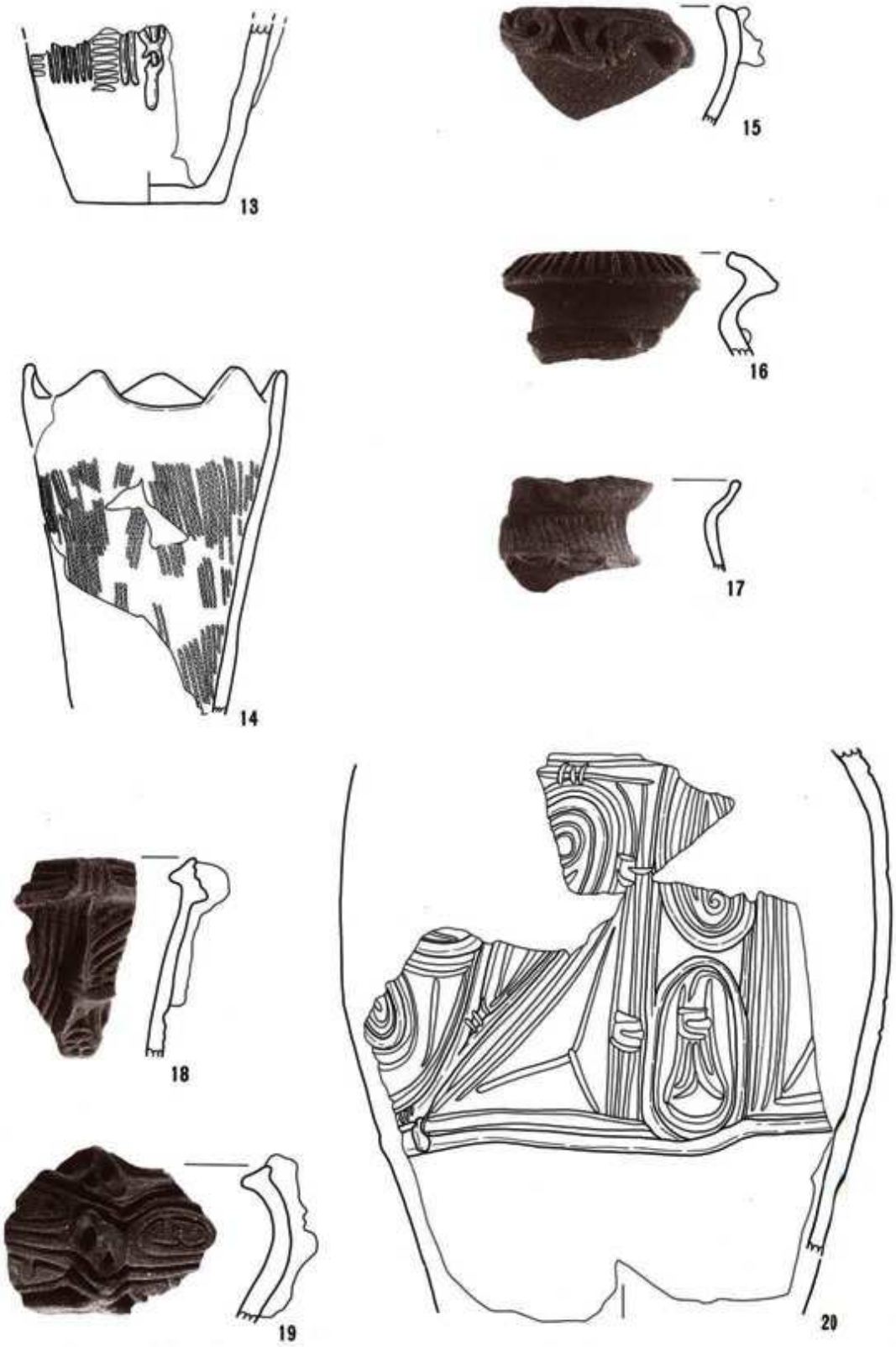
No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
33	縄文深鉢	口	—	—	—	—	曽利
34	縄文深鉢	口～底	19.20	17.00	12.00	—	曽利
35	縄文深鉢	口	—	—	—	—	
36	縄文深鉢	口	—	—	—	—	
37	縄文深鉢	口	—	17.00	—	—	
38	縄文深鉢	口	—	15.60	—	—	唐草文
39	縄文深鉢	口	—	22.00	—	—	唐草文
40	縄文深鉢	口～体	—	20.40	—	—	唐草文
41	縄文深鉢	体	—	—	—	—	唐草文
42	縄文深鉢	口～体	—	16.20	—	—	唐草文
43	縄文深鉢	口～体	—	24.60	—	—	唐草文
44	縄文深鉢	口	—	—	—	—	唐草文
45	縄文深鉢	口	—	—	—	—	唐草文
46	縄文浅鉢	口～底	10.00	23.20	7.60	—	
47	縄文浅鉢	口～底	10.00	18.40	7.00	—	加曽利E
48	縄文浅鉢	口～体	—	—	—	—	
49	釣手土器	口	—	—	—	—	
50	ミニチュア土器	完	10.00	6.00	4.00	—	
51	ミニチュア土器	完	2.20	4.20	2.80	—	
52	縄文深鉢	底	—	—	6.40	—	底部孔
53	土師器皿	完	1.80	8.80	3.00	—	
54	青磁	体	—	—	—	—	
55	打製石斧	II 3 c	11.40	6.04	1.53	44	
56	打製石斧	I ? b	12.20	5.00	2.02	162	先端欠
57	打製石斧	II 1 o	11.20	6.65	1.45	150	
58	打製石斧	IV ? b	8.05	5.70	1.42	92	
59	打製石斧	IV 1 c	8.60	5.63	1.08	92	
60	打製石斧	I ? a	8.90	4.75	1.43	98	
61	打製石斧	II ? b	8.20	5.04	0.97	66	
62	打製石斧	I ? b	9.50	5.02	1.23	68	



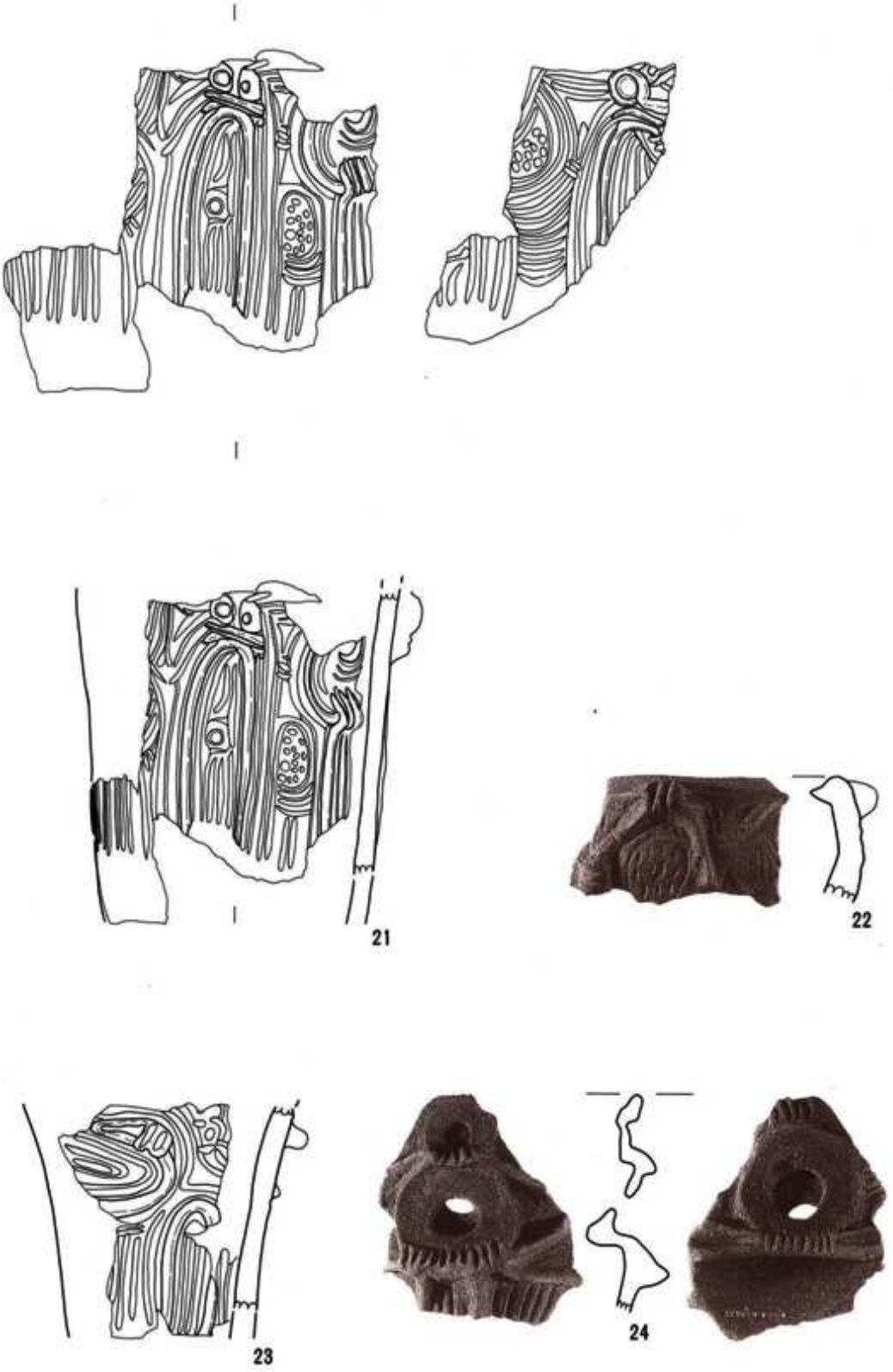
第521図　SYY 4 A　遺構外出土土器（1）



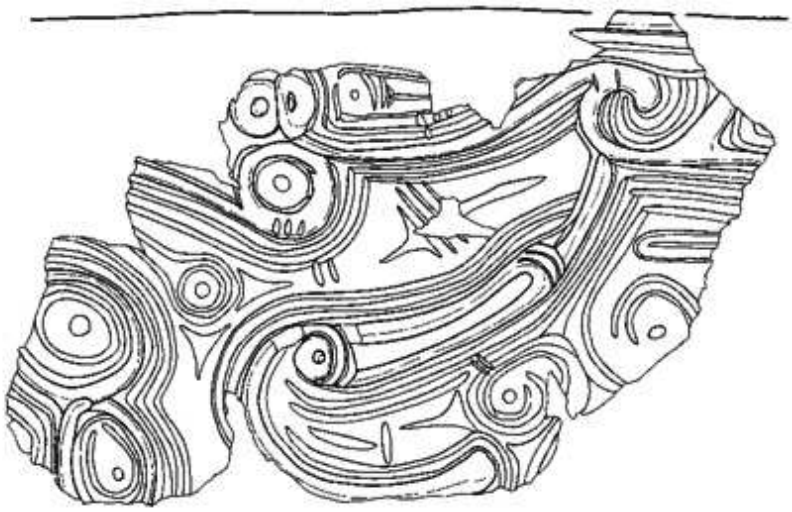
第522図　SYY 4 A　遺構外出土土器（2）

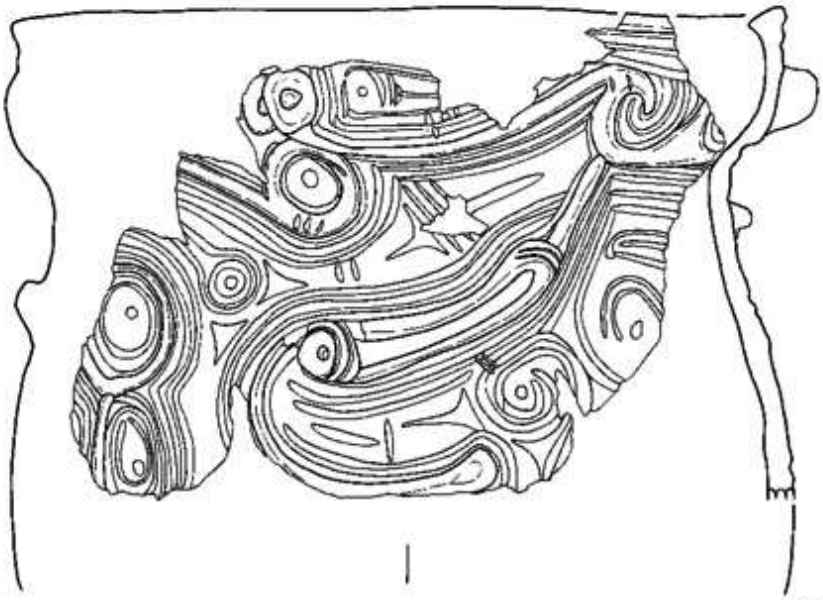


第523図　SYY 4 A　遺構外出土土器（3）



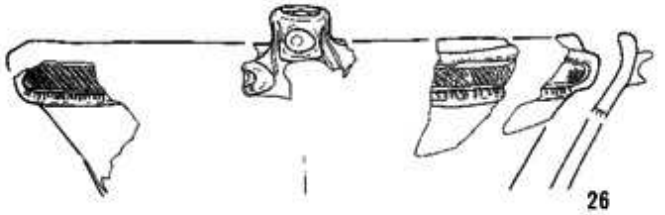
第524図　SYY 4 A　遺構外出土土器（4）

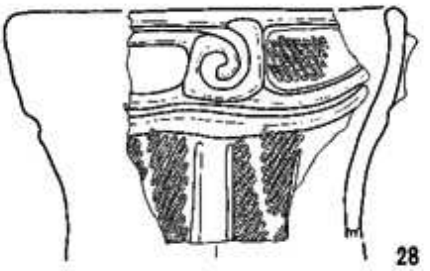


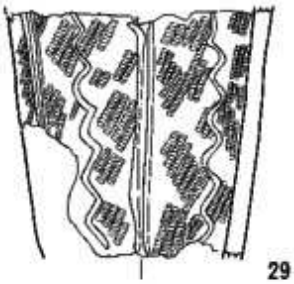


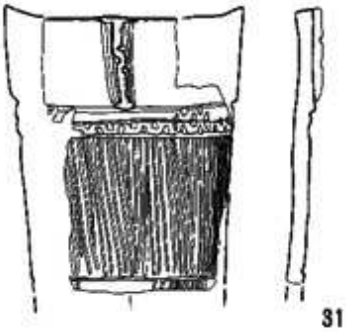
25

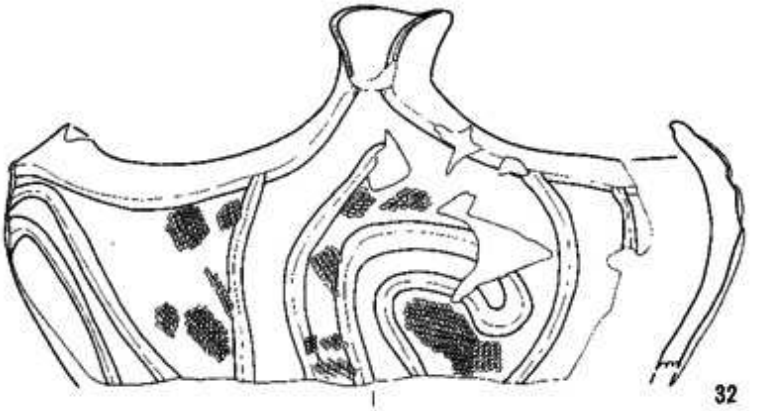
第525図　SYY 4 A　遺構外出土土器（5）



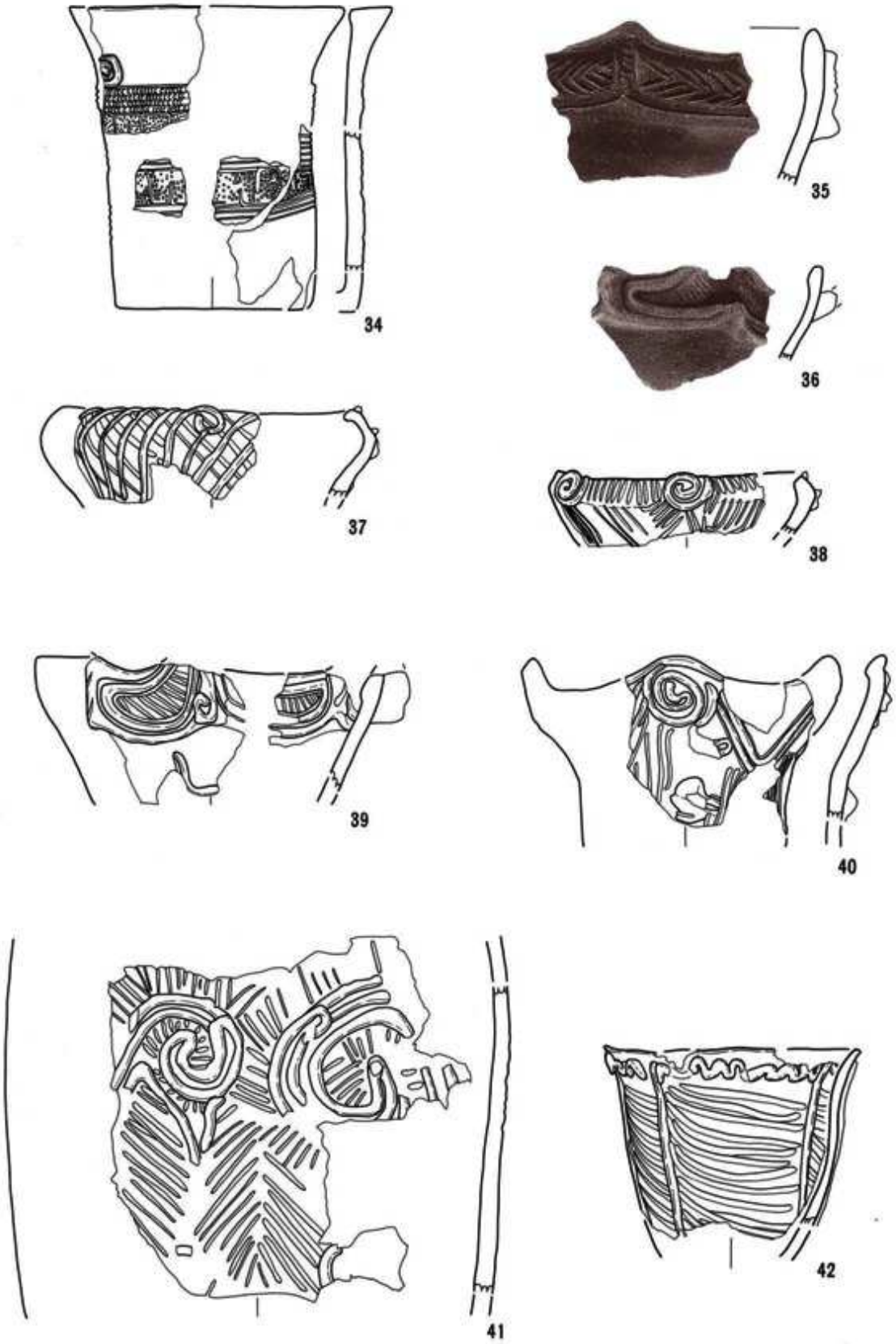




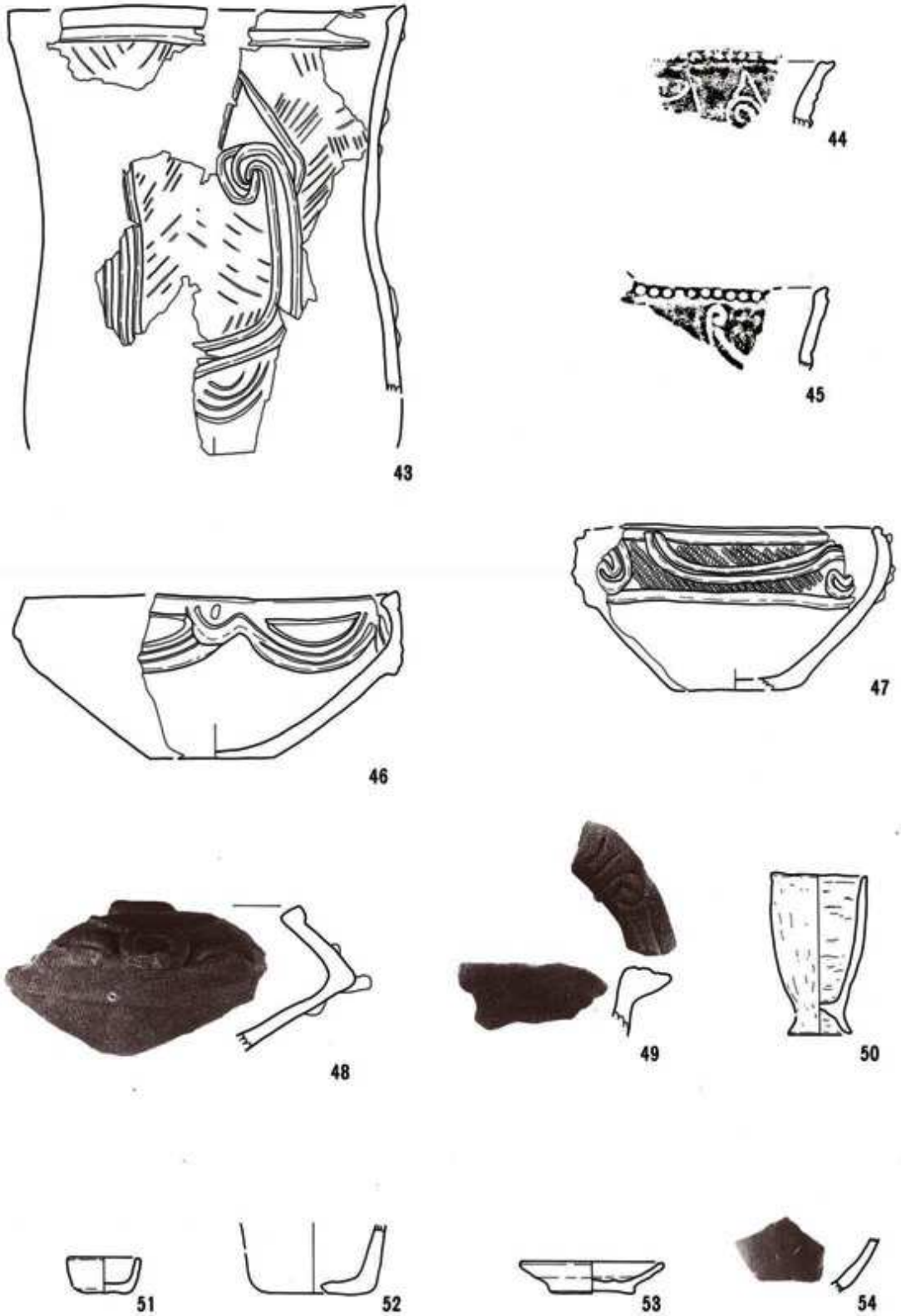




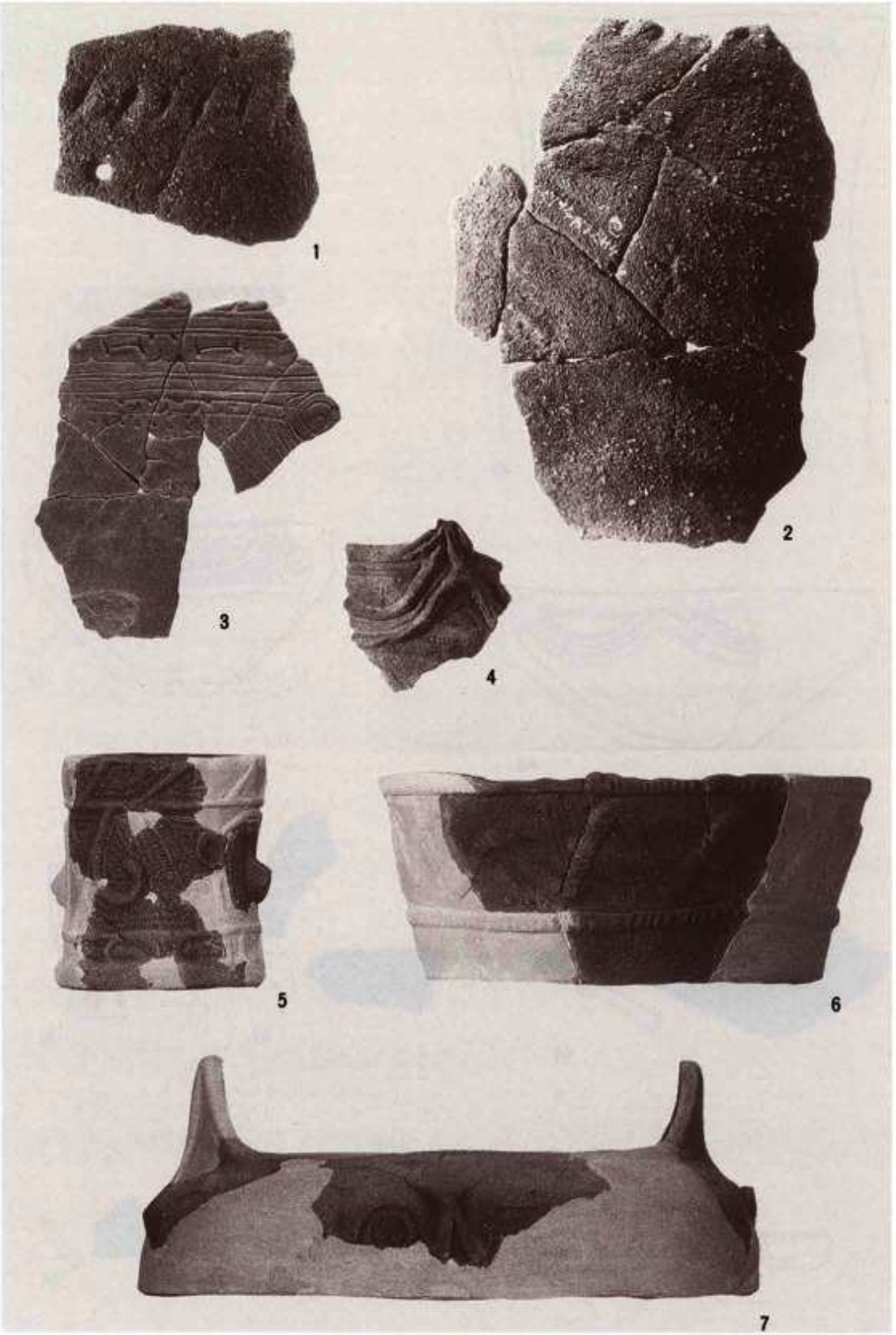
第526図　SYY 4 A　遺構外出土土器（6）



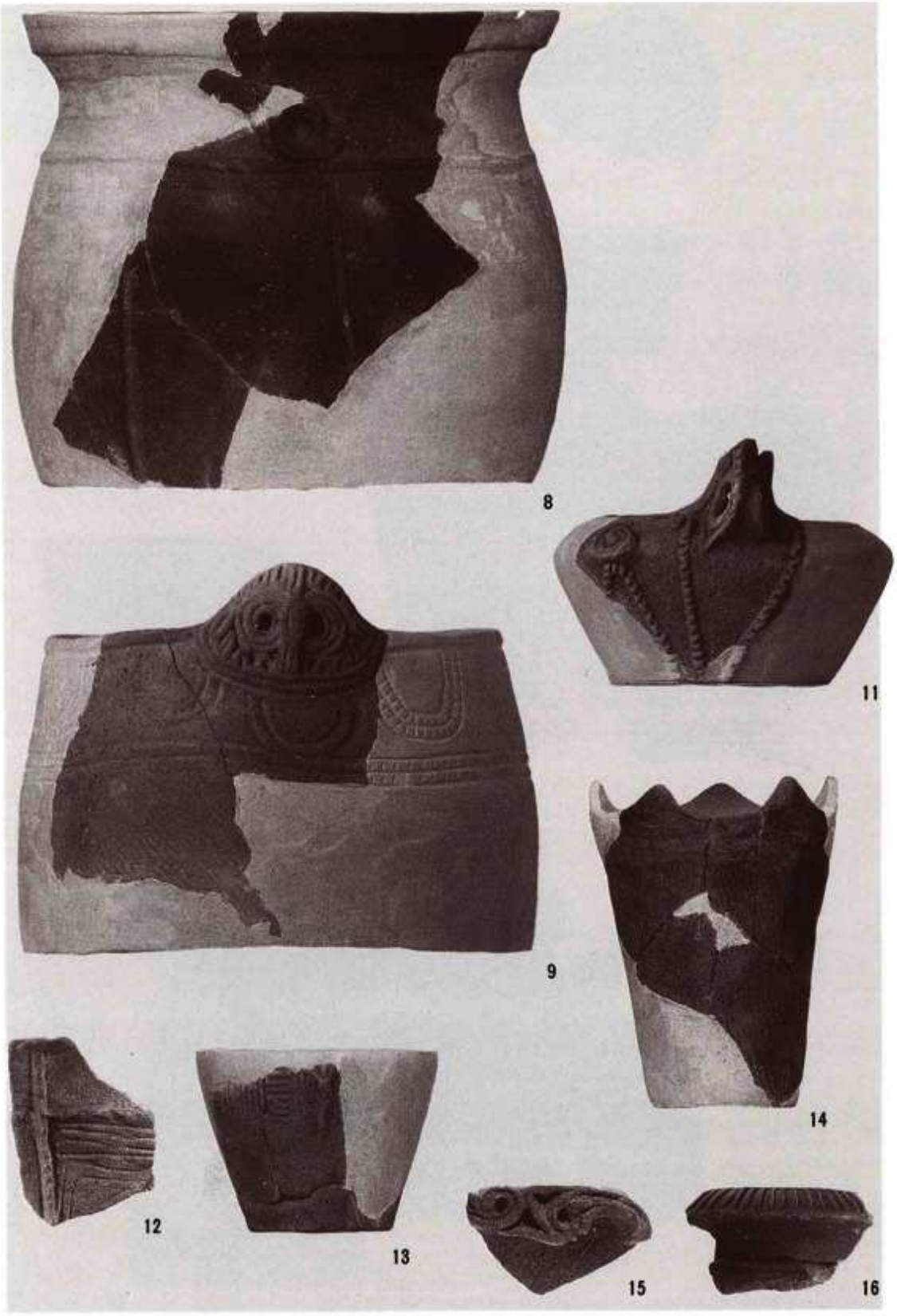
第527図　SYY 4 A　遺構外出土土器（7）



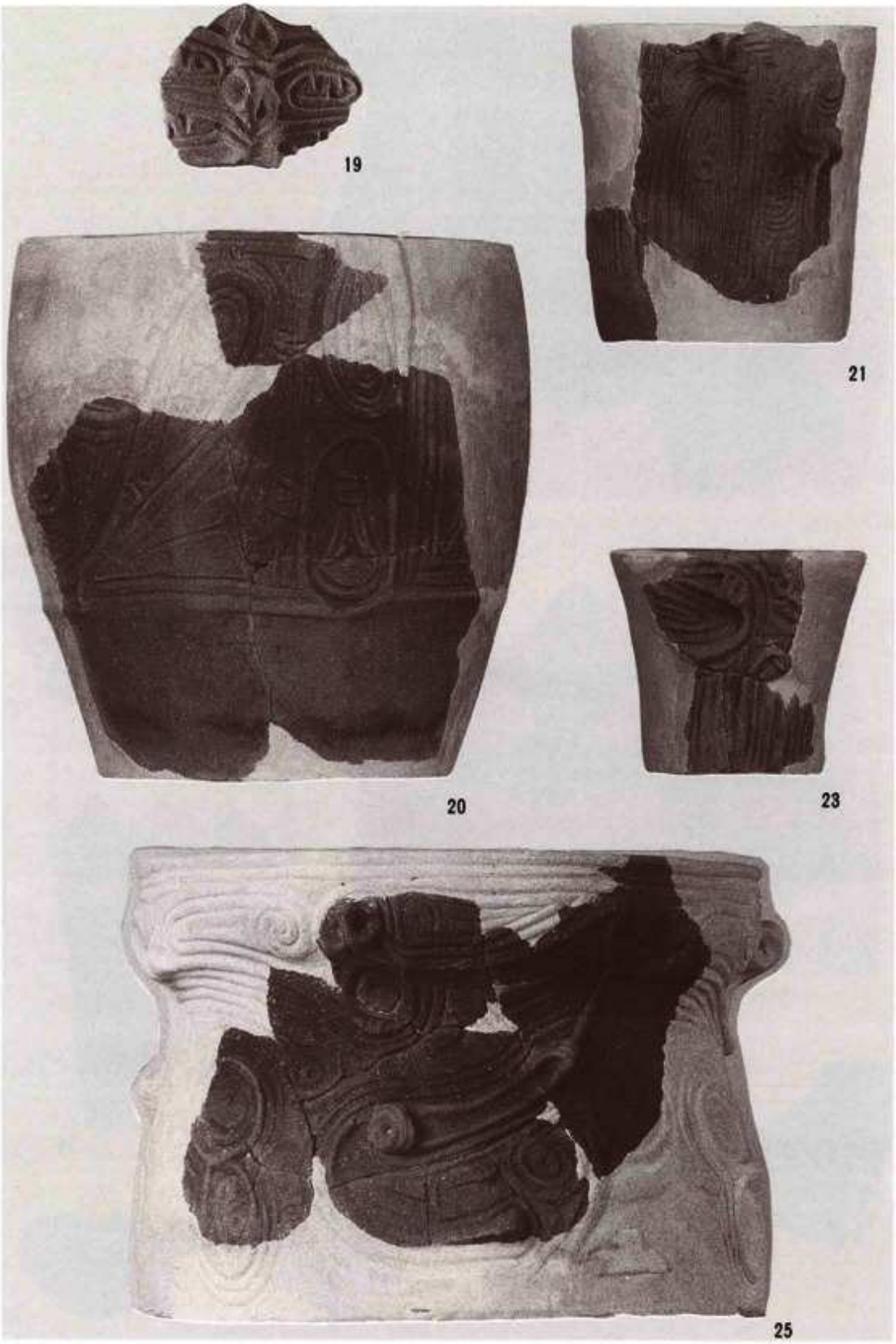
第528図　SYY 4 A　遺構外出土土器（8）



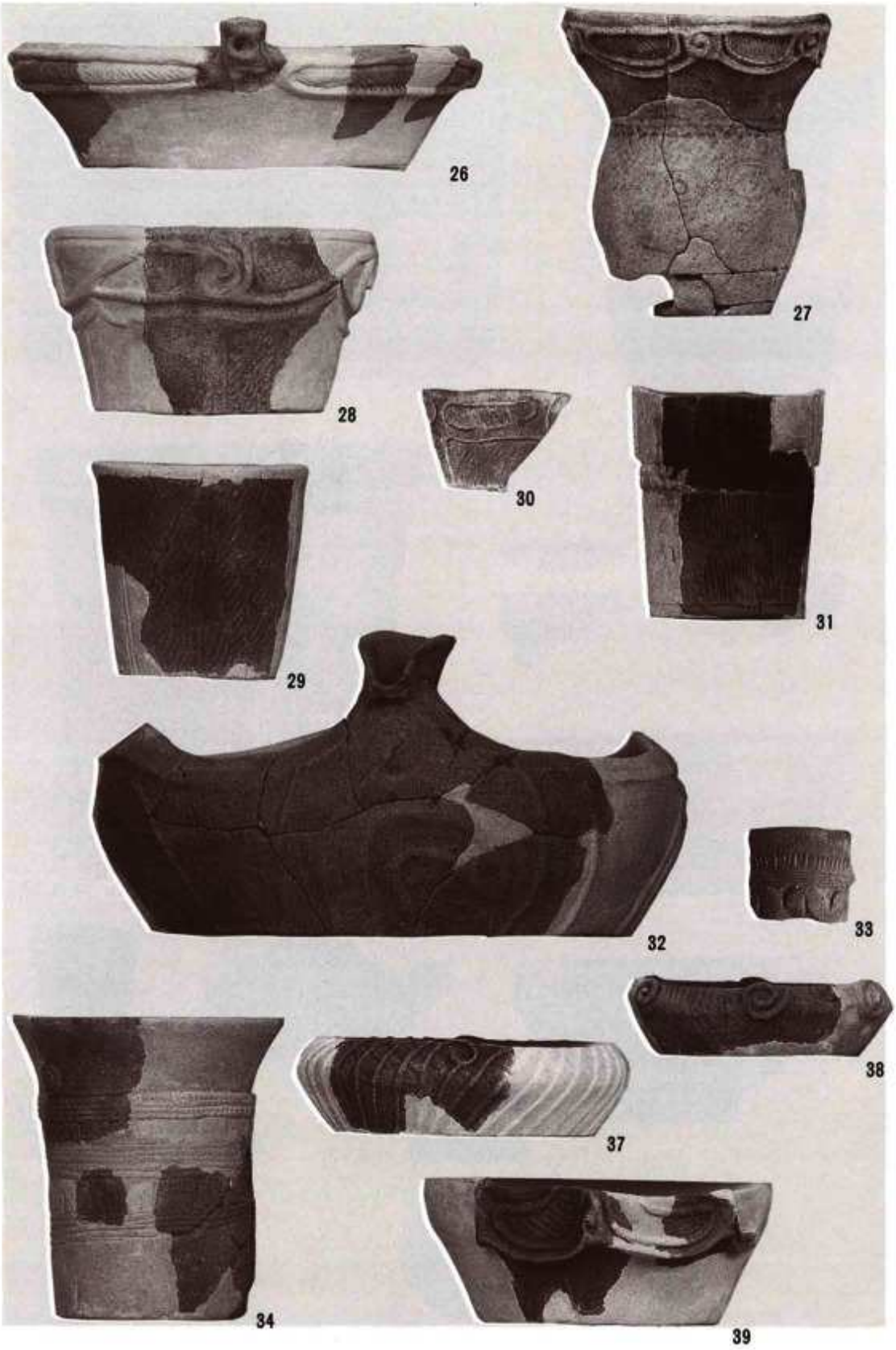
SYY 4 A　遺構外出土土器（1）



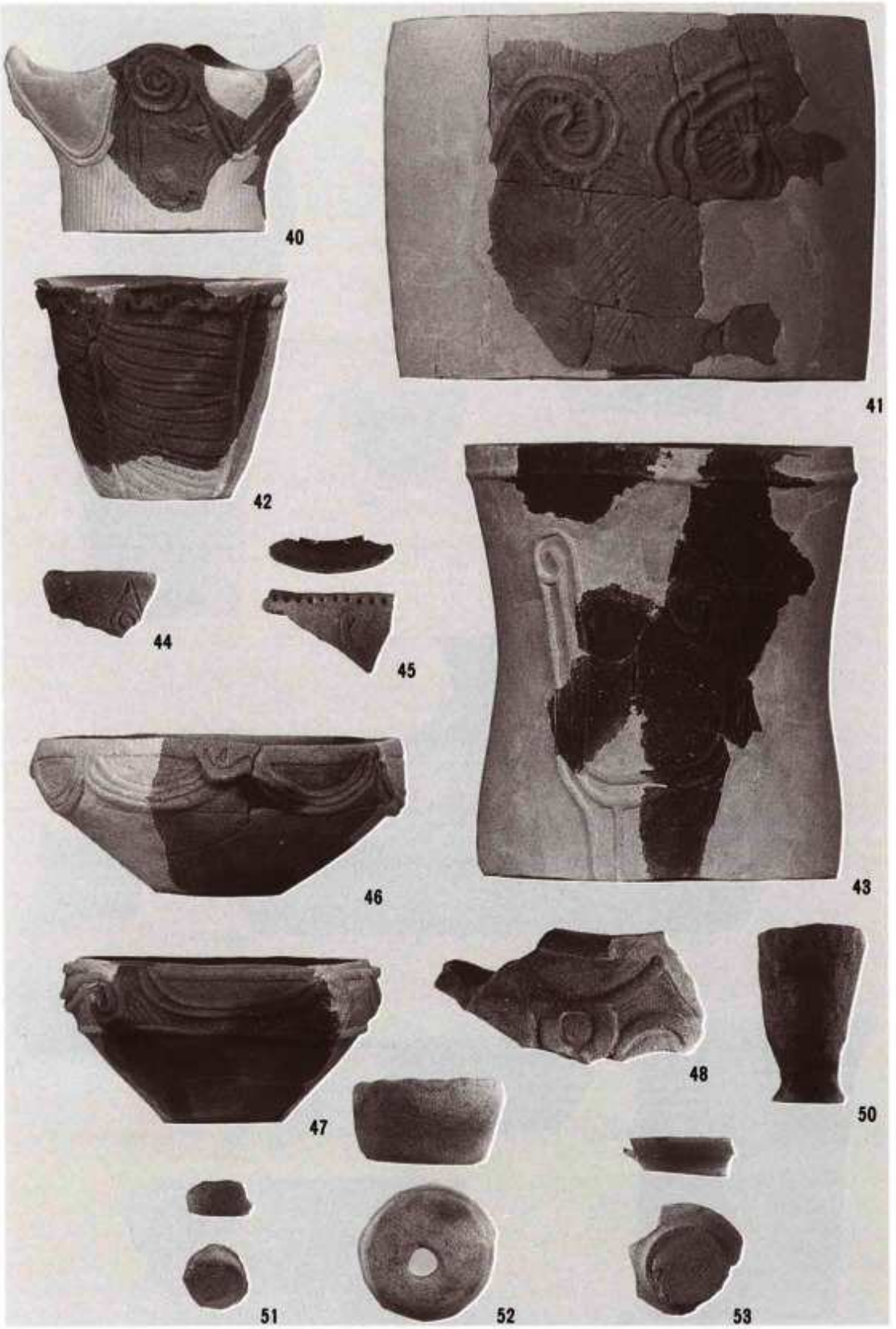
SYY 4 A　遺構外出土土器（2）



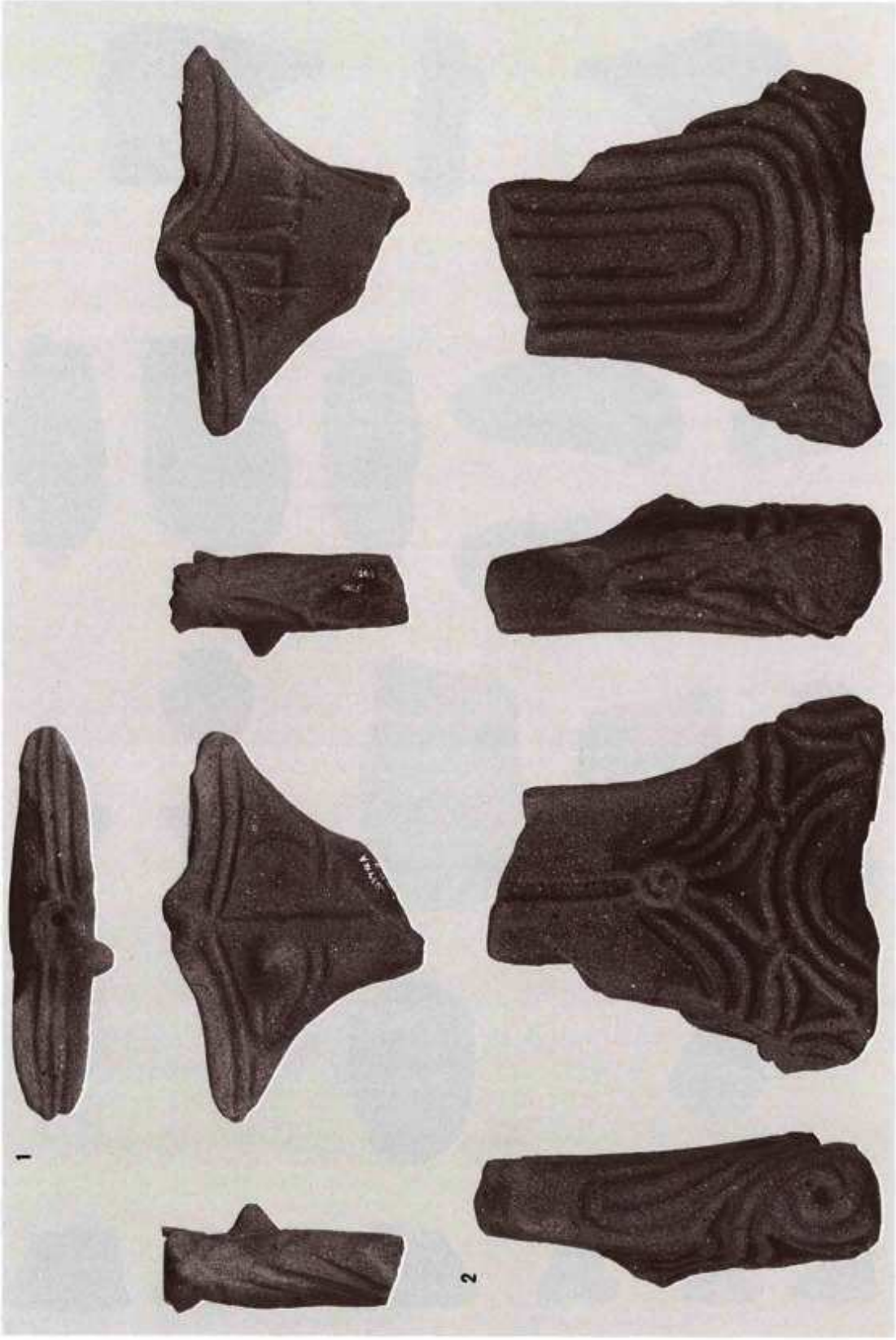
SYY 4 A　遺構外出土土器（3）



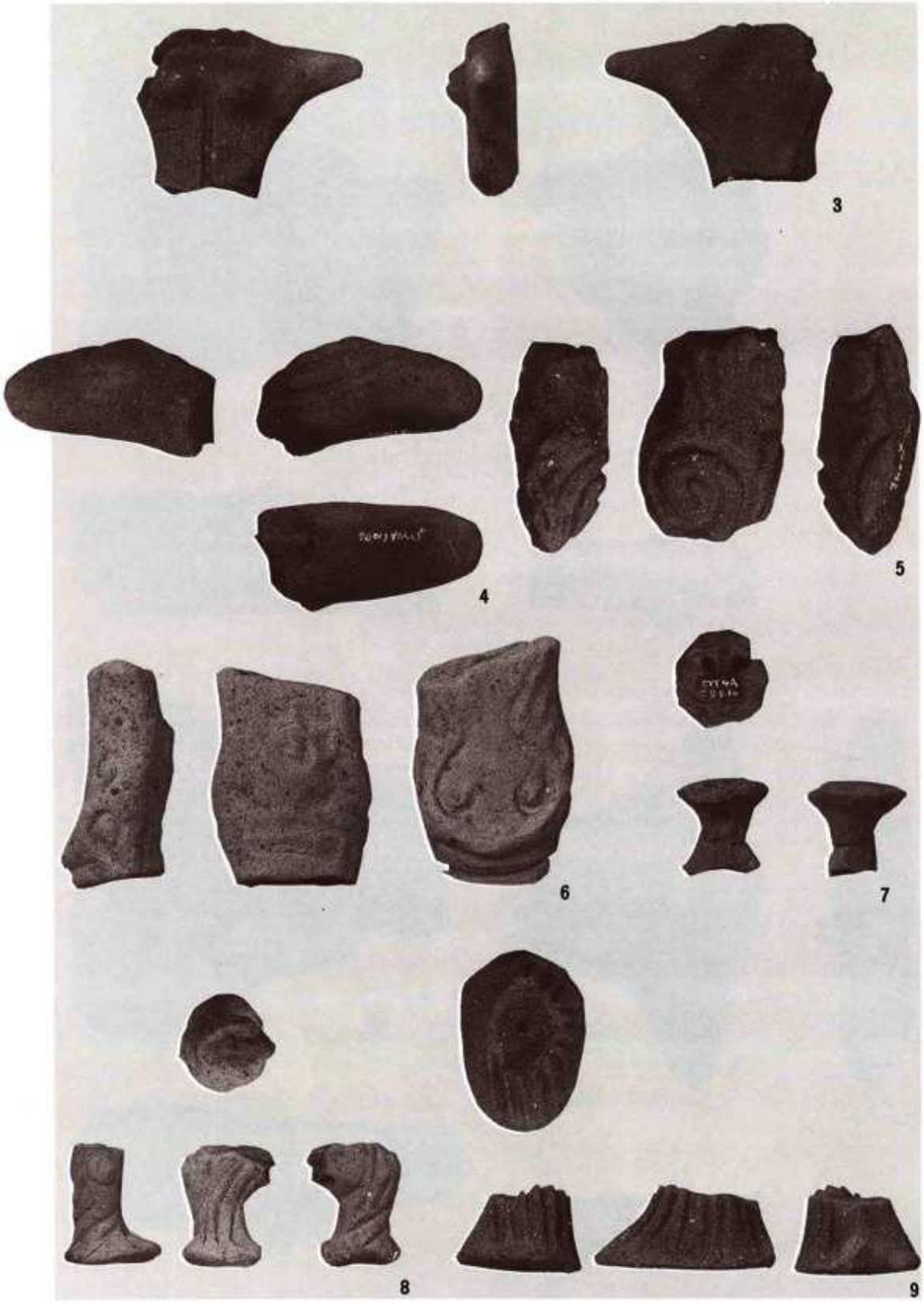
SYY 4 A　遺構外出土土器（4）



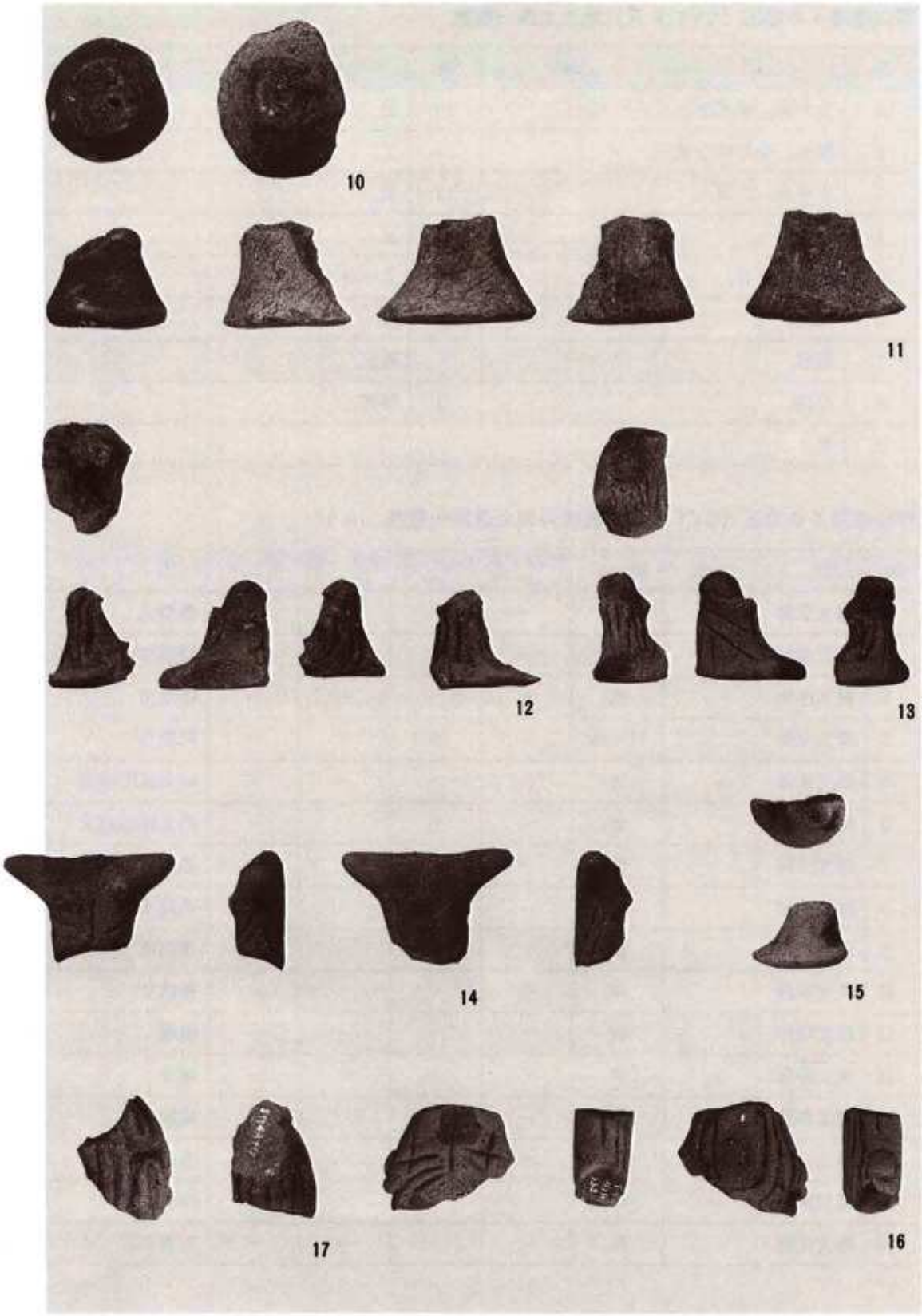
SYY 4 A　遺構外出土土器（5）



SYY 4 A　土偶（1）



SYY 4 A　土偶（2）



SYY 4 A　土偶（3）

寄山遺跡４Ａ地区（SYY ４Ａ）出土土偶一覧表

No.	部　　位	No.	部　　位
1	上半身。頭部欠。	10	足。
2	腰部。焼町的な意匠。	11	足。
3	上半身。片腕欠。	12	足。
4	片腕。	13	足。
5	腰部。半身。	14	上半身。
6	腰部。	15	足。
7	頭部。	16	腰部。
8	片脚。	17	腰部。
9	足。		

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）遺構外出土遺物一覧表　No.１

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
1	縄文深鉢	口	－	－	－	－	押型文
2	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文
3	縄文深鉢	体	－	－	－	－	押型文
4	縄文深鉢	口～体	－	16.4	－	－	鵜島台
5	縄文深鉢	体	－	－	－	－	絡条体圧痕文
6	縄文深鉢	体	－	－	－	－	絡条体圧痕文
7	縄文深鉢	体	－	－	－	－	絡条体圧痕文
8	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文
9	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文
10	縄文深鉢	体	－	－	－	－	条痕文
11	縄文深鉢	底	－	－	－	－	繊維
12	縄文深鉢	口	－	－	－	－	繊維
13	縄文深鉢	口	－	－	－	－	繊維
14	縄文深鉢	体	－	－	－	－	有尾
15	縄文深鉢	体	－	－	－	－	勝坂
16	縄文深鉢	体	－	－	－	－	加曽利Ｅ

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）遺構外出土遺物一覧表　No. 2

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
17	縄文深鉢	口	－	－	－	－	唐草文
18	縄文深鉢	体～底	－	－	7.60	－	加曽利E
19	縄文深鉢	体	－	－	－	－	唐草文
20	縄文深鉢	口～体	－	40.00	－	－	唐草文
21	縄文深鉢	体	－	－	－	－	
22	縄文深鉢	体～底	－	－	11.60	－	
23	縄文深鉢	体～底	－	－	9.40	－	
24	縄文深鉢	口	－	24.00	－	－	
25	縄文浅鉢	口	－	－	－	－	
26	縄文浅鉢	口～体	－	27.00	－	－	赤彩
27	縄文浅鉢	口～底	－	37.00	－	－	赤彩
28	縄文浅鉢	体～底	－	－	8.00	－	
29	土師器坏	口～底	－	14.40	8.20	－	
30	土師器甕	口～体	－	12.00	－	－	
31	土師器壺	体	－	－	－	－	
32	青磁	体	－	－	－	－	
33	石鏃	Ⅰ１	1.01	0.93	0.21	0.1	
34	石鏃	Ⅰ１	1.49	1.20	0.34	1.0	
35	石鏃	?	1.55	1.32	0.21	0.1	脚欠
36	石鏃	Ⅰ１	1.97	1.04	0.40	1.0	片脚欠
37	石鏃	Ⅰ１	1.95	1.47	0.36	1.0	
38	石鏃	Ⅰ１	1.47	1.29	0.32	1.0	先端欠
39	石鏃	Ⅰ１	1.56	1.57	0.56	1.0	片脚・先端欠
40	石鏃	Ⅰ１	1.79	1.58	0.25	0.5	脚欠
41	石鏃	Ⅰ１	1.94	1.12	0.33	0.5	
42	石鏃	Ⅰ１	2.12	1.40	0.45	1.0	
43	石鏃	Ⅰ１	2.23	1.35	0.50	1.0	先端・片脚欠
44	石鏃	Ⅰ１	2.04	0.99	0.32	0.1	片脚欠
45	石鏃	Ⅰ１	2.32	1.25	0.35	1.0	
46	石鏃	Ⅰ１	2.21	1.33	0.37	1.8	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）遺構外出土遺物一覧表　No. 3

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
47	石鏃	Ⅰ１	2.78	0.92	0.34	1.5	片脚欠
48	石鏃	Ⅰ１	2.62	1.49	0.35	1.0	片脚欠
49	石鏃	Ⅰ１	2.27	1.58	0.37	2.0	先端・片脚欠
50	石鏃	Ⅰ２	2.35	2.01	0.65	3.8	
51	石鏃	Ⅰ１	2.61	2.01	0.46	2.0	
52	石鏃	Ⅰ１	3.00	1.68	0.44	2.0	
53	石鏃	Ⅰ１	2.06	1.40	0.40	1.9	
54	石錐	Ⅰ	1.81	1.38	0.56	2.0	先端欠
55	石錐	Ⅰ	4.83	1.05	0.60	1.0	
56	石錐	Ⅲ	1.41	1.85	0.97	8.0	先端欠
57	スクレイパー	－	1.47	2.21	0.51	1.0	
58	スクレイパー	－	2.15	3.69	0.72	3.0	
59	スクレイパー	－	1.92	2.91	0.36	2.0	
60	スクレイパー	－	1.81	2.30	0.47	2.0	
61	スクレイパー	－	1.81	1.27	0.52	1.8	
62	スクレイパー	－	1.94	2.48	0.38	2.0	
63	スクレイパー	－	2.22	2.23	0.38	2.0	
64	スクレイパー	－	5.15	3.58	1.34	17.0	
65	石匙	Ⅱ	8.64	3.42	0.81	36.0	
66	スクレイパー	－	4.42	6.74	0.62	22.0	
67	スクレイパー	－	4.26	5.42	1.34	25.0	
68	スクレイパー	－	7.09	6.45	1.27	54.0	
69	スクレイパー	－	7.65	8.61	0.98	87.0	
70	スクレイパー	－	7.45	12.30	2.28	236.0	
71	打製石斧	Ⅱ１ｏ	12.60	5.57	1.71	148.0	
72	打製石斧	Ⅱ？ａ	19.00	6.13	2.57	396.0	
73	打製石斧	Ⅱ？ａ	8.35	7.63	3.02	258.0	
74	打製石斧	Ⅳ？ａ	6.96	6.35	2.66	174.0	
75	打製石斧	Ⅱ？ａ	6.76	4.95	1.82	75.0	
76	打製石斧	Ⅳ？ａ	7.37	3.90	1.42	56.0	

寄山遺跡４Ｂ地区（SYY ４Ｂ）遺構外出土遺物一覧表　No.４

No.	器　　種	部　位	器高・長 (cm)	口径・幅 (cm)	底径・厚 (cm)	重　量 (g)	備　　考
77	打製石斧	Ⅳ？a	7.17	3.80	1.54	62.0	
78	打製石斧	Ⅱ１o	14.10	4.98	1.83	135.0	
79	打製石斧	Ⅱ２o	13.70	6.25	1.91	201.0	
80	打製石斧	Ⅱ３o	11.90	4.82	1.73	131.0	
81	打製石斧	Ⅱ３c	9.80	5.23	2.02	144.0	
82	打製石斧	Ⅱ？b	8.96	5.89	1.61	131.0	
83	打製石斧	Ⅱ？b	8.59	5.72	1.22	98.0	
84	打製石斧	Ⅱ１c	10.10	7.76	1.38	176.0	
85	打製石斧	Ⅱ？a	8.37	5.32	1.29	82.0	
86	打製石斧	Ⅱ？a	8.52	6.71	1.77	145.0	
87	打製石斧	Ⅰ？a	5.57	5.31	1.53	81.0	
88	打製石斧	Ⅱ？a	9.85	4.36	2.55	102.0	
89	打製石斧	Ⅳ？a	8.04	5.49	1.28	77.0	
90	礫器	－	7.72	8.27	3.47	304.0	
91	凹石	Ⅱ１	11.90	6.96	5.72	88.0	
92	磨石	Ⅰ	12.20	7.16	4.41	580.0	
93	磨石	Ⅰ	9.42	8.55	3.02	378.0	
94	石皿	－	26.00	16.80	7.85	1400.0	
95	磨石	Ⅰ	10.10	6.93	4.13	493.0	
96	磨石	Ⅰ	9.83	6.50	4.68	480.0	
97	凹石	Ⅱ２	12.20	9.65	3.85	540.0	
98	砥石	－	6.84	7.30	4.76	280.0	
99	砥石	－	10.40	5.80	4.63	360.0	

SYY 4 A　打製石斧一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(5.39)	(4.76)	(1.79)	(60)	〈10H 2	I ? a	37	(8.21)	(5.67)	(2.39)	(130)	き10I 6	I ? a
2	(5.53)	(4.51)	(1.20)	(35)	〈10F 3	I ? a	38	(8.25)	(4.63)	(1.72)	(70)	〈10D 2	I ? a
3	(5.83)	(6.00)	(1.63)	(100)	き10G 7	I ? a	39	(8.34)	(4.30)	(1.29)	(50)	〈10B 4	I ? a
4	(5.89)	(4.55)	(1.26)	(40)	〈10D 4	I ? a	40	(8.42)	(4.91)	(1.94)	(103)	き10G 7	I ? a
5	(5.90)	(4.58)	(1.64)	(60)	き10I 6	I ? a	41	(8.61)	(5.84)	(1.52)	(120)	〈10F 3	I ? a
6	(6.05)	(5.06)	(1.49)	(60)	Z	I ? a	42	(8.64)	(5.23)	(1.83)	(108)	き10G 8	I ? a
7	(6.28)	(5.45)	(1.06)	(50)	〈10H 7	I ? a	43	(8.71)	(5.05)	(1.87)	(101)	包含層	I ? a
8	(6.47)	(4.64)	(0.87)	(40)	〈10F 3	I ? a	44	(8.82)	(4.25)	(1.60)	(98)	〈10B 5	I ? a
9	(6.50)	(5.65)	(2.10)	(105)	き10I 6	I ? a	45	(8.87)	(5.93)	(1.87)	(135)	き10G 8	I ? a
10	(6.63)	(4.59)	(1.26)	(50)	〈10I 2	I ? a	46	(8.87)	(7.90)	(2.26)	(185)	〈10F 3	I ? a
11	(6.70)	(4.05)	(0.93)	(37)	Z	I ? a	47	(80.00)	(4.78)	(0.74)	(42)	〈10F 3	I ? a
12	(6.74)	(4.31)	(1.63)	(62)	き10I 6	I ? a	48	(83.00)	(4.19)	(1.68)	(80)	〈10D 2	I ? a
13	(6.89)	(4.99)	(0.97)	(45)	き10G 7	I ? a	49	(9.00)	(3.65)	(1.44)	(60)	〈10I 2	I ? a
14	(6.90)	(5.61)	(0.87)	(50)	〈10B 4	I ? a	50	(9.00)	(3.89)	(1.18)	(40)	〈10F 6	I ? a
15	(6.96)	(3.80)	(1.77)	(60)	〈10D 4	I ? a	51	(9.04)	(4.42)	(1.60)	(90)	き10H 6	I ? a
16	(7.05)	(5.63)	(1.13)	(60)	〈10D 4	I ? a	52	(9.08)	(4.45)	(1.40)	(62)	〈10G 2	I ? a
17	(7.17)	(4.50)	(2.09)	(80)	〈10B 4	I ? a	53	(9.12)	(5.25)	(1.19)	(90)	〈10E 3	I ? a
18	(7.22)	(4.92)	(1.44)	(80)	き10H 7	I ? a	54	(9.17)	(4.48)	(1.01)	(50)	Z	I ? a
19	(7.23)	(4.94)	(1.45)	(78)	き10G 8	I ? a	55	(9.20)	(6.46)	(2.04)	(166)	き10G 8	I ? a
20	(7.25)	(4.91)	(1.68)	(75)	〈10I 2	I ? a	56	(9.34)	(4.69)	(1.52)	(100)	Z	I ? a
21	(7.34)	(4.40)	(1.90)	(90)	〈10G 7	I ? a	57	(9.35)	(4.61)	(1.82)	(120)	〈10F 3	I ? a
22	(7.80)	(4.51)	(2.02)	(100)	〈10I 2	I ? a	58	(9.40)	(6.11)	(1.30)	(110)	き10I 6	I ? a
23	(7.90)	(5.06)	(1.41)	(100)	〈10C 3	I ? a	59	(9.43)	(4.63)	(1.28)	(70)	〈10A 5	I ? a
24	(7.92)	(6.20)	(1.69)	(118)	〈10C 4	I ? a	60	(9.45)	(4.63)	(1.69)	(103)	〈10F 3	I ? a
25	(7.94)	(4.52)	(1.56)	(80)	〈10J 1	I ? a	61	(9.52)	(4.28)	(0.93)	(60)	〈10G 2	I ? a
26	(7.95)	(4.69)	(1.65)	(80)	き10H 7	I ? a	62	(9.54)	(5.76)	(2.25)	(170)	〈10B 4	I ? a
27	(7.98)	(6.47)	(1.26)	(81)	〈10D 3	I ? a	63	(9.67)	(4.86)	(1.96)	(121)	き10I 6	I ? a
28	(8.01)	(4.79)	(1.40)	(62)	〈10H 1	I ? a	64	(9.69)	(4.77)	(2.07)	(118)	Z	I ? a
29	(8.01)	(4.97)	(1.25)	(80)	き10I 6	I ? a	65	(9.78)	(5.35)	(2.56)	(190)	〈10E 3	I ? a
30	(8.07)	(5.50)	(1.55)	(110)	き10H 7	I ? a	66	(9.81)	(4.93)	(1.30)	(120)	包含層	I ? a
31	(8.08)	(5.60)	(1.49)	(100)	き10G 8	I ? a	67	(9.86)	(5.83)	(1.65)	(120)	〈10C 4	I ? a
32	(8.09)	(5.27)	(1.73)	(100)	〈10D 3	I ? a	68	(9.88)	(4.28)	(1.17)	(70)	〈10B 4	I ? a
33	(8.10)	(3.93)	(1.26)	(60)	〈10D 4	I ? a	69	(9.91)	(4.55)	(1.29)	(58)	Z	I ? a
34	(8.10)	(5.68)	(1.94)	(120)	〈10A 5	I ? a	70	(9.91)	(5.53)	(1.63)	(130)	〈10C 4	I ? a
35	(8.14)	(4.96)	(1.21)	(62)	き10G 8	I ? a	71	(10.15)	(5.74)	(2.50)	(165)	〈10H1-H3	I ? a
36	(8.14)	(5.81)	(1.64)	(122)	〈10C 3	I ? a	72	(10.23)	(6.08)	(1.72)	(150)	〈10D 3	I ? a

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
73	(10.44)	(4.95)	(1.20)	(110)	く10G 3	Ⅰ？a	109	(7.55)	(5.11)	(1.14)	(60)	き11A 9	Ⅰ？b
74	(10.45)	(4.77)	(1.96)	(160)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？a	110	(7.56)	(5.94)	(1.84)	(80)	き10G 8	Ⅰ？b
75	(10.45)	(5.15)	(2.18)	(160)	く10D 3	Ⅰ？a	111	(7.62)	(3.35)	(1.08)	(37)	き10G 8	Ⅰ？b
76	(10.56)	(4.66)	(1.79)	(105)	く10J 2	Ⅰ？a	112	(8.25)	(5.70)	(1.11)	(82)	き10G 8	Ⅰ？b
77	(10.77)	(5.67)	(1.24)	(100)	く10F 3	Ⅰ？a	113	(8.28)	(5.20)	(1.15)	(67)	包含層	Ⅰ？b
78	(10.92)	(5.86)	(2.17)	(194)	き11B 8	Ⅰ？a	114	(8.44)	(7.06)	(1.53)	(120)	き10G 8	Ⅰ？b
79	(11.05)	(5.71)	(1.54)	(140)	け10A 3	Ⅰ？a	115	(8.52)	(5.37)	(1.53)	(82)	包含層	Ⅰ？b
80	(11.37)	3.63	(1.87)	(102)	く10E 3	Ⅰ？a	116	(8.54)	(5.93)	(1.47)	(100)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
81	(11.45)	(5.45)	(1.21)	(101)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？a	117	(8.68)	(5.26)	(1.20)	(82)	く10J 3	Ⅰ？b
82	(11.45)	(5.74)	(1.97)	(160)	く10D 3	Ⅰ？a	118	(8.77)	(4.39)	(1.35)	(60)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
83	(11.79)	(5.87)	(1.68)	(220)	き10H 6	Ⅰ？a	119	(8.87)	(5.08)	(1.69)	(105)	く10E 3	Ⅰ？b
84	(11.96)	(5.31)	(1.30)	(120)	き10H 7	Ⅰ？a	120	(8.90)	(4.77)	(1.57)	(100)	き10H 7	Ⅰ？b
85	(12.12)	(5.84)	(1.93)	(162)	き10H 7	Ⅰ？a	121	(8.95)	(6.56)	(0.94)	(100)	く10B 5	Ⅰ？b
86	(12.12)	4.52	1.57	(90)	く10F 3	Ⅰ？a	122	(8.98)	(5.45)	(1.00)	(80)	き10H 7	Ⅰ？b
87	(12.18)	(5.42)	(1.86)	(150)	き10G 7	Ⅰ？a	123	(9.00)	(4.50)	(1.76)	(90)	く10H 2	Ⅰ？b
88	(12.51)	(6.39)	(2.00)	(261)	Z	Ⅰ？a	124	(9.10)	(5.33)	(1.05)	(75)	き10G 8	Ⅰ？b
89	(13.20)	(5.64)	(1.60)	(180)	き10G 8	Ⅰ？a	125	(9.21)	(6.74)	(1.18)	(120)	く 9 J10	Ⅰ？b
90	(14.01)	(5.51)	1.97	(175)	き10H 7	Ⅰ？a	126	(9.24)	(5.28)	(1.40)	(80)	き10G 8	Ⅰ？b
91	(14.34)	(7.44)	(2.55)	(450)	き10G 8	Ⅰ？a	127	(9.35)	(5.26)	(1.46)	(100)	く10F 3	Ⅰ？b
92	(4.62)	(5.59)	(1.15)	(58)	き10G 8	Ⅰ？b	128	(9.38)	(5.56)	(1.18)	(80)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
93	(5.12)	(4.99)	(1.29)	(50)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b	129	(9.58)	(4.74)	(1.43)	(80)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
94	(5.62)	(4.31)	(0.71)	(20)	く10F 2	Ⅰ？b	130	(9.58)	(5.08)	(1.50)	(120)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
95	(6.04)	(3.99)	(1.13)	(30)	く10B 4	Ⅰ？b	131	(9.62)	(7.39)	(1.28)	(122)	く10H 2	Ⅰ？b
96	(6.25)	(4.29)	(1.37)	(42)	く10D 4	Ⅰ？b	132	(9.71)	(5.57)	(2.52)	(160)	く10C 5	Ⅰ？b
97	(6.29)	(4.20)	(0.97)	(22)	き10J 6	Ⅰ？b	133	(9.77)	(5.13)	(1.63)	(83)	く10E 2	Ⅰ？b
98	(6.29)	(6.06)	(0.55)	(40)	き10J 5	Ⅰ？b	134	(9.79)	(4.91)	(1.58)	(110)	包含層	Ⅰ？b
99	(6.38)	(4.40)	(1.66)	(62)	く10D 4	Ⅰ？b	135	(10.18)	(5.60)	(1.23)	(120)	Z	Ⅰ？b
100	(6.66)	(4.18)	(1.14)	(40)	く10Ⅰ 2	Ⅰ？b	136	(10.33)	(5.80)	(1.94)	(160)	く10K 3	Ⅰ？b
101	(6.73)	(3.77)	(1.83)	(59)	き10G7~8	Ⅰ？b	137	(10.52)	(6.28)	(1.63)	(139)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b
102	(6.94)	(4.00)	(1.11)	(40)	Z	Ⅰ？b	138	(10.63)	4.40	(1.14)	(84)	き10G 8	Ⅰ？b
103	(7.07)	(5.53)	(1.87)	(104)	く10H 7	Ⅰ？b	139	(10.87)	(4.90)	(2.16)	(170)	く 9 J10	Ⅰ？b
104	(7.17)	(5.58)	(1.13)	(65)	き10H 7	Ⅰ？b	140	(11.15)	(6.56)	(1.76)	(160)	く10F 3	Ⅰ？b
105	(7.18)	(4.28)	(0.70)	(30)	包含層	Ⅰ？b	141	(11.53)	(7.21)	(1.34)	(200)	く10J 3	Ⅰ？b
106	(7.22)	(5.27)	(1.26)	(75)	き10H 7	Ⅰ？b	142	(11.68)	(6.97)	(1.44)	(142)	き10J5~7	Ⅰ？b
107	(7.22)	(5.34)	(1.70)	(100)	く10E 3	Ⅰ？b	143	(11.72)	4.48	2.09	(140)	く10E 3	Ⅰ？b
108	(7.33)	(5.03)	(1.61)	(82)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b	144	(11.92)	(4.97)	(1.87)	(140)	き10Ⅰ 6	Ⅰ？b

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
145	(12.22)	(6.11)	(2.48)	(210)	〈10G 2	I ? b	181	16.30	5.87	2.13	262	き10G 7	I 1 o
146	(12.62)	(5.19)	(1.86)	(160)	〈10C 3	I ? b	182	(7.76)	(5.29)	(1.54)	(70)	包含層	I 2 c
147	(12.66)	(6.52)	(1.31)	(150)	き10I 6	I ? b	183	(7.83)	(5.03)	(1.34)	(70)	き10H 7	I 2 c
148	(14.79)	(4.98)	(2.08)	(210)	き10G 8	I ? b	184	(9.37)	(4.97)	(1.38)	(70)	〈10I 1	I 2 c
149	(15.37)	(6.80)	(2.31)	(320)	〈10D1~D3	I ? b	185	(10.52)	(5.18)	(1.55)	(115)	き10G 8	I 2 c
150	(6.69)	(5.31)	(1.01)	(42)	〈10G 2	I 1 c	186	13.94	5.44	1.60	180	き10G 8	I 2 o
151	(6.94)	(4.63)	(1.25)	(60)	き10G 8	I 1 c	187	(7.63)	(5.76)	(1.10)	(75)	き10G 8	I 3 c
152	(7.85)	(5.84)	(1.72)	(103)	〈10G 7	I 1 c	188	(8.25)	(5.38)	(1.74)	(90)	〈10G 3	I 3 c
153	(8.38)	(5.13)	(1.35)	(82)	き10H 7	I 1 c	189	(8.96)	(4.95)	(0.75)	(60)	き10H 6	I 3 c
154	(9.02)	(5.17)	(0.88)	(80)	き10G 6	I 1 c	190	(9.51)	(5.23)	(1.24)	(80)	き10H 7	I 3 c
155	(9.04)	(5.94)	(1.17)	(104)	〈10B 5	I 1 c	191	(9.63)	(7.01)	(1.15)	(98)	Z	I 3 c
156	(9.60)	(5.49)	(1.03)	(100)	Z	I 1 c	192	(9.70)	(5.26)	(1.51)	(100)	き10J5~7	I 3 c
157	(10.00)	5.49	1.17	(99)	〈10C 4	I 1 c	193	(10.05)	(6.27)	(1.18)	(102)	き10J 5	I 3 c
158	(10.15)	3.91	1.04	(58)	Z	I 1 c	194	(10.49)	(6.05)	(0.98)	(100)	〈10D1~D3	I 3 c
159	(10.17)	(6.06)	(0.85)	(82)	〈10F 2	I 1 c	195	(12.47)	4.67	2.04	(160)	き10J 5	I 3 c
160	(10.57)	(5.55)	(2.42)	(198)	き10G 8	I 1 c	196	(16.50)	6.56	(1.75)	(240)	き10I 6	I 3 c
161	(10.97)	(4.20)	(2.04)	(120)	〈10C 5	I 1 c	197	(8.86)	(5.32)	(1.97)	(123)	〈10G 7	I 1 c
162	(11.24)	(7.96)	(2.13)	(298)	〈10E 3	I 1 c	198	(4.43)	(4.60)	(0.62)	(20)	き10I 6	II ? a
163	(11.30)	4.71	0.92	(68)	Z	I 1 c	199	(4.55)	(4.70)	(1.23)	(13)	き10G 7	II ? a
164	(11.48)	(5.48)	(1.05)	(100)	〈10G 2	I 1 c	200	(4.89)	(4.98)	(0.95)	(22)	〈10D 2	II ? a
165	(11.54)	(6.38)	(2.21)	(182)	〈10G 7	I 1 c	201	(4.98)	(4.56)	(1.32)	(35)	〈10D 4	II ? a
166	(11.69)	(4.88)	(2.04)	(140)	Z	I 1 c	202	(5.22)	(3.30)	(1.13)	(20)	〈10I 2	II ? a
167	(12.33)	(5.93)	(1.51)	(162)	Z	I 1 c	203	(5.34)	(5.28)	(0.66)	(18)	〈10F 3	II ? a
168	(12.74)	(5.48)	(2.32)	(240)	〈10G 3	I 1 c	204	(5.41)	(4.36)	(1.41)	(50)	〈10D 2	II ? a
169	(13.99)	6.53	(1.94)	(236)	き10I 6	I 1 c	205	(5.43)	(4.98)	(1.16)	(42)	〈10I 2	II ? a
170	(14.53)	5.41	2.45	(236)	き10G 6	I 1 c	206	(5.46)	(5.03)	(0.82)	(30)	〈10J 3	II ? a
171	(15.13)	(5.18)	(1.92)	(200)	き10J5~7	I 1 c	207	(5.63)	(4.72)	(0.85)	(25)	〈10E2~4	II ? a
172	10.69	4.25	1.47	(95)	き10I 6	I 1 o	208	(5.65)	(6.02)	(0.83)	(40)	Z	II ? a
173	10.89	4.71	1.58	120	〈10H1~H3	I 1 o	209	(5.75)	(4.54)	(2.11)	(78)	き10G7~8	II ? a
174	10.92	5.01	1.65	110	〈10H 2	I 1 o	210	(5.87)	(3.92)	(1.75)	(40)	き10H 7	II ? a
175	11.39	5.13	1.32	(115)	〈10D 3	I 1 o	211	(6.05)	(4.16)	(1.32)	(30)	包含層	II ? a
176	12.11	5.81	1.42	135	〈10A 5	I 1 o	212	(6.12)	(5.02)	(2.06)	(80)	き10G 7	II ? a
177	12.22	4.77	191.00	155	〈10C 2	I 1 o	213	(6.18)	(3.77)	(1.14)	(34)	き10I 6	II ? a
178	12.25	4.27	1.80	(139)	〈10B 5	I 1 o	214	(6.22)	(4.13)	(1.32)	(40)	包含層	II ? a
179	13.29	4.53	1.50	(125)	〈10C 3	I 1 o	215	(6.28)	(5.22)	(1.58)	(80)	き10H 7	II ? a
180	13.69	5.67	1.80	172	き10G 6	I 1 o	216	(6.31)	(5.92)	(1.31)	(50)	〈10H 7	II ? a

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
217	(6.38)	(4.44)	(1.03)	(40)	く10D 2	II ? a	253	(9.52)	(5.68)	(1.25)	(100)	き10H 6	II ? a
218	(6.48)	(6.39)	(1.20)	(50)	Z	II ? a	254	(9.53)	(4.73)	(1.80)	(95)	く10E 3	II ? a
219	(6.55)	(4.64)	(2.28)	(80)	く10F 3	II ? a	255	(9.55)	(4.79)	(1.54)	(98)	く10D 2	II ? a
220	(6.55)	(5.73)	(1.15)	(58)	け10A 2	II ? a	256	(9.59)	(4.96)	(1.62)	(120)	包含層	II ? a
221	(6.72)	(4.89)	(1.45)	(70)	Z	II ? a	257	(9.63)	(5.96)	(1.68)	(140)	く10D 2	II ? a
222	(7.02)	(6.62)	(1.11)	(50)	く10G 3	II ? a	258	(9.73)	(4.93)	(1.22)	(60)	き10G 7	II ? a
223	(7.37)	(5.26)	(2.48)	(100)	く10F 3	II ? a	259	(9.87)	(7.00)	(1.87)	(120)	き10G7~8	II ? a
224	(7.38)	(5.65)	(1.29)	(82)	き10H 7	II ? a	260	(9.98)	(5.79)	(1.38)	(85)	く10F 3	II ? a
225	(7.45)	(5.77)	(2,36)	(140)	く10F 3	II ? a	261	(10.09)	(6.45)	(1.62)	(125)	き10H 7	II ? a
226	(7.65)	(4.30)	(1.37)	(59)	け10A 2	II ? a	262	(10.14)	(4.55)	(1.90)	(100)	き10H 7	II ? a
227	(7.75)	(5.80)	(1.41)	(80)	く10F 3	II ? a	263	(10.15)	(4.45)	(1.63)	(80)	く10G 3	II ? a
228	(7.80)	(5.47)	(1.17)	(70)	き10G 8	II ? a	264	(10.20)	(4.80)	(1.54)	(82)	き10H 7	II ? a
229	(7.84)	(5.49)	(1.08)	(55)	く10F 2	II ? a	265	(10.28)	5.38	1.69	(95)	く10G 3	II ? a
230	(8.02)	(5.10)	(0.86)	(30)	く10C 5	II ? a	266	(10.39)	(4.25)	(1.94)	(115)	く10D 3	II ? a
231	(8.04)	(5.01)	(1.22)	(60)	く10J 3	II ? a	267	(10.46)	(5.00)	(2.15)	(120)	き10H 7	II ? a
232	(8.05)	(4.71)	(1.67)	(80)	く10F 3	II ? a	268	(10.89)	(4.87)	(1.44)	(100)	く10C 3	II ? a
233	(8.07)	(4.54)	(1.27)	(60)	く10G1~3	II ? a	269	(11.04)	(5.78)	(2.65)	(180)	く10F 3	II ? a
234	(8.10)	(4.75)	(1.67)	(90)	く10E 3	II ? a	270	(11.05)	(7.11)	(1.51)	(140)	き10I 6	II ? a
235	(8.10)	(5.37)	(1.86)	(102)	か12H 3	II ? a	271	(11.10)	(5.37)	(2.42)	(180)	く10E 3	II ? a
236	(8.10)	(5.49)	(1.48)	(90)	く10D 2	II ? a	272	(11.16)	(5.45)	(1.30)	(86)	き10G 6	II ? a
237	(8.12)	(4.73)	(1.88)	(95)	く10F 3	II ? a	273	(11.24)	(4.88)	(1.75)	(125)	け10A 2	II ? a
238	(8.20)	(6.97)	(1.50)	(60)	く10E 3	II ? a	274	(11.38)	(4.35)	(1.68)	(102)	き10G 8	II ? a
239	(8.25)	(5.38)	(1.69)	(80)	く10J 2	II ? a	275	(11.47)	(6.48)	(1.48)	(138)	き10I 6	II ? a
240	(8.45)	(4.53)	(1.51)	(60)	く10E 3	II ? a	276	(11.59)	(5.62)	(1.96)	(200)	く10B 5	II ? a
241	(8.56)	(4.83)	(1.25)	(80)	く10D 2	II ? a	277	(11.62)	(5.68)	(1.52)	(120)	き10H 6	II ? a
242	(8.61)	(5.33)	(1.73)	(98)	Z	II ? a	278	(11.66)	(5.25)	(1.64)	(120)	く10B 5	II ? a
243	(8.70)	(5.65)	(1.38)	(80)	く10B 5	II ? a	279	(11.67)	(5.29)	(2.13)	(160)	く10A 5	II ? a
244	(8.81)	(4.81)	(1.57)	(62)	く10F 3	II ? a	280	(11.68)	(5.41)	(1.50)	(140)	Z	II ? a
245	(8.85)	(4.82)	(1.17)	(64)	く10I 1	II ? a	281	(12.08)	(5.50)	(2.11)	(180)	く10C 3	II ? a
246	(8.90)	(5.50)	(1.65)	(90)	き10I 6	II ? a	282	(12.08)	(6.42)	(1.69)	(122)	き10H7~8	II ? a
247	(8.92)	(6.04)	(1.64)	(100)	き10I 6	II ? a	283	(12.25)	(4.77)	(1.64)	(102)	く10C 5	II ? a
248	(9.04)	(6.56)	(1.30)	(120)	く10C 3	II ? a	284	(12.45)	(5.51)	(1.48)	(110)	き10I 6	II ? a
249	(9.26)	(5.27)	(1.59)	(85)	く10D 7	II ? a	285	(12.47)	(5.93)	(1.18)	(140)	く10H 2	II ? a
250	(9.35)	(5.59)	(1.53)	(100)	く10J 3	II ? a	286	(12.55)	4.92	1.70	(135)	き10H7~8	II ? a
251	(9.35)	(5.98)	(1.87)	(100)	く10H 1	II ? a	287	(12.62)	(5.37)	(1.55)	(160)	く10D 3	II ? a
252	(9.50)	(5.91)	(1.69)	(98)	き10I 6	II ? a	288	(12.88)	(5.56)	(2.00)	(180)	Z	II ? a

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
289	(12.90)	(5.48)	(1.68)	(120)	き10G 8	II ? a	325	(8.01)	(3.82)	(1.15)	(40)	き10G7~8	II ? b
290	(13.19)	(5.45)	(1.51)	(163)	き10J 5	II ? a	326	(8.17)	(4.91)	(0.92)	(60)	き10I 6	II ? b
291	(13.19)	(6.35)	(2.36)	(260)	く10G 2	II ? a	327	(8.29)	(7.70)	(0.84)	(81)	き10I 6	II ? b
292	(13.23)	6.31	1.57	(160)	く10F 3	II ? a	328	(8.75)	(6.80)	(0.97)	(100)	く10B 2	II ? b
293	(13.42)	(6.15)	2.54	(180)	き10H 6	II ? a	329	(8.76)	(5.92)	(1.64)	(98)	き10H 7	II ? b
294	(13.54)	(4.93)	(1.59)	(100)	き16H 7	II ? a	330	(8.80)	(4.75)	(1.19)	(60)	き10G 8	II ? b
295	(14.10)	(6.16)	(1.93)	(220)	く10B 3	II ? a	331	(8.98)	(6.48)	(1.62)	(140)	く10C 3	II ? b
296	(15.80)	(5.83)	(1.81)	(180)	く10D 3	II ? a	332	(9.04)	(4.65)	(1.83)	(82)	き10G 6	II ? b
297	(18.00)	(6.00)	(2.36)	(310)	く10E 3	II ? a	333	(9.05)	(6.80)	(2.93)	(198)	き10G7~8	II ? b
298	(4.11)	(4.78)	(1.43)	(40)	包含層	II ? b	334	(9.31)	(5.20)	(1.43)	(90)	き10G7~8	II ? b
299	(4.84)	(5.17)	(1.07)	(40)	く10A 5	II ? b	335	(9.31)	(8.93)	(2.02)	(250)	き10G 8	II ? b
300	(5.18)	(4.08)	(1.61)	(45)	く10H 7	II ? b	336	(9.35)	(6.39)	(1.98)	(130)	く10G 3	II ? b
301	(5.38)	(4.43)	(1.11)	(40)	か11J 9	II ? b	337	(9.48)	(4.09)	(1.49)	(60)	く10F 3	II ? b
302	(5.88)	(5.93)	(1.50)	(28)	き10J5~7	II ? b	338	(9.48)	(5.45)	(1.68)	(122)	き10H 7	II ? b
303	(6.12)	(4.73)	(1.37)	(40)	く10D 2	II ? b	339	(9.49)	4.74	1.40	(65)	Z	II ? b
304	(6.22)	(5.88)	(0.95)	(409)	く10I 2	II ? b	340	(9.51)	(5.34)	(1.38)	(70)	く10A12	II ? b
305	(6.23)	(5.92)	(1.15)	(50)	き10I 6	II ? b	341	(9.61)	(5.28)	(0.94)	(61)	き10G 7	II ? b
306	(6.25)	(6.32)	(1.22)	(62)	き10I 6	II ? b	342	(9.73)	(5.28)	(1.04)	(78)	き10I 6	II ? b
307	(6.46)	(6.36)	(0.95)	(62)	き10G 8	II ? b	343	(9.89)	(5.76)	(2.04)	(160)	き10H 7	II ? b
308	(6.48)	(4.93)	(1.19)	(50)	く10F 3	II ? b	344	(9.90)	(6.25)	(1.31)	(82)	き10I 6	II ? b
309	(6.49)	(4.35)	(1.02)	(24)	包含層	II ? b	345	(9.94)	(5.11)	(1.44)	(105)	き11A 9	II ? b
310	(6.81)	(5.04)	(2.02)	(65)	く10C 5	II ? b	346	(10.10)	(5.32)	(1.69)	(110)	き10G 8	II ? b
311	(7.00)	(5.93)	(9.07)	(41)	き10G 7	II ? b	347	(10.16)	(6.90)	(2.70)	(180)	く10C 5	II ? b
312	(7.02)	(5.40)	(0.85)	(60)	け10A 3	II ? b	348	(10.29)	(5.43)	(1.30)	(98)	く10F 3	II ? b
313	(7.03)	(4.16)	(1.77)	(44)	き10I 6	II ? b	349	(10.73)	(5.14)	(1.61)	(100)	き10G7~8	II ? b
314	(7.13)	(7.26)	(1.84)	(125)	Z	II ? b	350	(10.94)	(4.54)	(1.69)	(81)	き11A 6	II ? b
315	(7.19)	(5.63)	(1.04)	(60)	き10I 6	II ? b	351	(10.99)	(5.32)	(1.37)	(98)	く10C 3	II ? b
316	(7.26)	(4.97)	(1.35)	(50)	く10D 4	II ? b	352	(11.23)	(4.75)	(1.27)	(80)	き10J 6	II ? b
317	(7.30)	(4.55)	(1.98)	(80)	き10G 8	II ? b	353	(11.77)	(5.39)	(1.75)	(120)	く10G 3	II ? b
318	(7.69)	(5.95)	(1.68)	(100)	く10D 2	II ? b	354	(11.82)	(7.73)	(1.23)	(182)	き10G 8	II ? b
319	(7.75)	(4.60)	(1.48)	(60)	き10G 8	II ? b	355	(11.90)	7.29	(1.10)	(140)	き10G 8	II ? b
320	(7.88)	(5.32)	(0.87)	(50)	き10G 7	II ? b	356	(11.98)	(7.82)	(1.02)	(122)	く10D 3	II ? b
321	(7.88)	(5.59)	(1.25)	(61)	く10D 3	II ? b	357	(12.07)	(5.81)	(1.57)	(145)	く10B 4	II ? b
322	(7.94)	(5.97)	(1.05)	(57)	き10G 7	II ? b	358	(12.11)	(5.09)	(1.46)	(125)	く10C 3	II ? b
323	(7.95)	(4.81)	(1.13)	(43)	Z	II ? b	359	(12.18)	6.53	1.28	(160)	き10H 7	II ? b
324	(7.96)	(4.66)	(1.63)	(60)	き10G 6	II ? b	360	(12.73)	(6.69)	(0.97)	(100)	き10H 7	II ? b

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
361	(13.93)	(6.19)	(1.94)	(200)	く10D 3	II ? b	397	(11.17)	(6.42)	(1.91)	(176)	く10J 2	II 1 c
362	(16.00)	(8.01)	(2.32)	(395)	き10H 7	II ? b	398	(11.39)	(6.72)	(1.25)	(105)	き10G7~8	II 1 c
363	(16.50)	(11.75)	(1.83)	(440)	き10G 8	II ? b	399	(11.52)	(5.82)	(1.29)	(105)	く10B 3	II 1 c
364	(7.81)	(3.67)	(1.38)	(21)	Z	II ? d	400	(11.55)	(5.44)	(1.45)	(120)	き10H 7	II 1 c
365	15.04	(6.95)	1.52	(190)	く10C 3	II ? d	401	(11.75)	5.98	1.08	(102)	き10H 7	II 1 c
366	(6.38)	(5.81)	(1.03)	(43)	き10J5~7	II 1 c	402	(12.11)	7.21	(1.95)	(210)	く10E 3	II 1 c
367	(7.07)	(5.13)	(1.12)	(50)	く10G 3	II 1 c	403	(12.30)	(6.20)	(2.15)	(220)	き10G 7	II 1 c
368	(7.30)	(7.58)	(2.22)	(141)	く10C 5	II 1 c	404	(12.54)	4.61	2.00	(150)	け10A 3	II 1 c
369	(7.72)	(5.03)	(1.26)	(70)	き10H 6	II 1 c	405	(12.70)	(6.27)	(2.20)	(200)	き10H 6	II 1 c
370	(7.90)	(3.81)	(0.70)	(23)	き10H 7	II 1 c	406	(12.78)	6.14	(1.49)	(1629)	き10G71	II 1 c
371	(7.90)	(4.85)	(1.39)	(70)	き11A 9	II 1 c	407	(13.32)	(5.58)	(1.83)	(162)	く10G 3	II 1 c
372	(7.92)	(5.78)	(1.61)	(70)	く10C 5	II 1 c	408	(13.43)	5.82	1.26	(124)	き10H 7	II 1 c
373	(8.15)	(5.80)	(1.58)	(75)	く10E 2	II 1 c	409	(14.02)	(7.30)	(1.36)	(150)	き10H 7	II 1 c
374	(8.15)	(5.95)	(1.88)	(102)	く10H 2	II 1 c	410	(14.58)	6.04	(1.40)	(160)	き10G 7	II 1 c
375	(8.16)	(4.99)	(1.80)	(65)	く10G 3	II 1 c	411	(14.71)	5.77	(1.83)	(220)	き10G 8	II 1 c
376	(8.24)	(5.48)	(1.34)	(98)	く10B 4	II 1 c	412	(15.40)	6.47	1.37	(160)	き10I 6	II 1 c
377	(8.28)	(6.19)	(0.90)	(60)	く10D 3	II 1 c	413	(9.58)	(4.94)	(1.04)	(80)	く10C 5	II 1 d
378	(8.29)	(5.56)	(1.00)	(60)	く10B 3	II 1 c	414	12.31	(8.19)	1.92	(195)	く10C 4	II 1 d
379	(8.52)	6.12	(1.37)	(95)	く10A 5	II 1 c	415	9.42	4:48	(1.09)	(60)	く10F 2	II 1 o
380	(8.95)	(6.24)	(1.56)	(101)	く10C 5	II 1 c	416	9.45	5.00	1.63	(101)	き10G 8	II 1 o
381	(9.39)	(6.33)	(1.87)	(140)	か11J 9	II 1 c	417	9.81	5.58	1.35	105	き10G 8	II 1 o
382	(9.43)	6.86	(1.33)	(120)	け10A 2	II 1 c	418	9.92	5.58	0.93	60	く10D 4	II 1 o
383	(9.59)	(5.36)	(1.29)	(70)	か12G14	II 1 c	419	10.17	5.34	1.50	110	く10E 3	II 1 o
384	(9.69)	(5.67)	(1.02)	(82)	く10C 4	II 1 c	420	10.44	4.77	10.34	87	く10J 3	II 1 o
385	(9.78)	(5.37)	(1.48)	(95)	く10D 7	II 1 c	421	10.56	4.51	1.35	70	く10C 4	II 1 o
386	(9.90)	(5.14)	(1.13)	(82)	き10G 6	II 1 c	422	10.78	5.21	1.69	100	く10J 2	II 1 o
387	10.34	5.03	1.44	98	く10J 1	II 1 c	423	10.92	4.98	1.01	55	く10D 4	II 1 o
388	12.90	5.74	1.76	(140)	き10J 5	II 1 c	424	10.95	4.69	1.50	70	く10H 2	II 1 o
389	(10.01)	(4.88)	(1.14)	(80)	く10G1~G3	II 1 c	425	11.09	4.94	1.53	(98)	Z	II 1 o
390	(10.03)	(5.27)	(1.63)	(90)	く10A 4	II 1 c	426	11.10	4.77	2.02	130	く10F 3	II 1 o
391	(10.04)	(5.59)	(8.60)	(62)	き10G 6	II 1 c	427	11.19	5.83	1.51	102	き10J 5	II 1 o
392	(10.12)	(5.27)	(1.44)	(100)	く10C 3	II 1 c	428	11.21	5.12	1.62	(103)	く10A 5	II 1 o
393	(10.34)	(4.80)	(1.50)	(82)	く10D1~D3	II 1 c	429	11.28	5.45	1.71	120	く10D 2	II 1 o
394	(10.82)	(4.47)	(0.96)	(62)	Z	II 1 c	430	11.43	5.21	1.71	125	く10I 2	II 1 o
395	(10.82)	5.53	1.61	(101)	く10E 3	II 1 c	431	11.61	6.02	0.93	85	く10G 3	II 1 o
396	(11.05)	5.52	(0.98)	(80)	き10G 8	II 1 c	432	11.74	5.45	1.53	118	き10H 6	II 1 o

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
433	11.75	3.91	2.06	95	き10H 6	II 1 o	469	8.84	4.46	1.27	60	き11A 6	II 3 o
434	12.01	7.00	1.72	145	き10G 8	II 1 o	470	9.56	5.28	1.21	80	く10D 3	II 3 o
435	12.30	3.92	2.08	120	き10G 8	II 1 o	471	10.53	5.39	1.51	100	く10H1~H3	II 3 o
436	12.49	6.32	1.55	180	け10A 3	II 1 o	472	10.83	4.71	1.15	70	く10F 3	II 3 o
437	12.58	5.40	1.77	(142)	き10G 6	II 1 o	473	11.13	5.40	1.25	82	Z	II 3 o
438	12.59	5.30	2.58	(200)	く10J 2	II 1 o	474	11.34	4.83	1.25	83	く10G 3	II 3 o
439	12.62	5.78	1.82	(158)	Z	II 1 o	475	11.76	5.76	2.02	125	き10G 7	II 3 o
440	12.79	6.31	1.05	(90)	き10H 7	II 1 o	476	12.22	4.96	1.32	100	き10G 8	II 3 o
441	12.95	5.82	1.42	138	き10H 6	II 1 o	477	13.12	4.97	1.45	110	く10D1~D3	II 3 o
442	13.03	5.67	1.69	163	く10H 7	II 1 o	478	13.19	6.19	2.02	180	く10B 4	II 3 o
443	13.10	4.49	2.20	180	く10F 3	II 1 o	479	14.15	5.40	3.25	(190)	き10I 6	II 3 o
444	13.92	5.62	1.74	157	き10G 7	II 1 o	480	14.70	5.24	1.62	140	Z	II 3 o
445	14.21	5.88	1.92	200	く10B 4	II 1 o	481	(9.40)	(4.94)	(2.12)	(130)	く10D 7	III ? a
446	14.32	4.73	1.84	140	く10I 2	II 1 o	482	(10.18)	(6.45)	1.85	(104)	く10F 3	III ? a
447	16.00	6.14	1.44	160	き10G 6	II 1 o	483	(12.32)	(5.29)	(1.25)	(110)	け10A 3	III ? a
448	(8.45)	(5.83)	(1.96)	(100)	く10B 4	II 2 c	484	(6.86)	(5.62)	(1.35)	(60)	Z	III ? b
449	(10.09)	(5.14)	(1.11)	(60)	き10G 8	II 2 c	485	(9.72)	(5.53)	(1.83)	(120)	き10G 8	III ? b
450	(10.88)	7.33	(1.64)	(160)	Z	II 2 c	486	(10.76)	(5.68)	(2.00)	(142)	く10F 3	III ? b
451	(11.23)	11.28	(1.97)	(261)	き10H 7	II 2 c	487	(15.43)	4.82	2.67	(260)	く10G 7	III 1 c
452	13.29	5.49	1.25	103	く10C 5	II 2 o	488	11.29	6.00	1.72	120	き10H 7	III 1 o
453	14.65	6.77	1.66	140	く10D1~D3	II 2 o	489	(3.75)	(4.62)	(1.10)	(22)	く10G 1	IV ? a
454	(8.31)	(5.19)	(1.32)	(60)	く10G 1	II 3 c	490	(3.77)	(4.79)	(1.02)	(22)	く10J 3	IV ? a
455	(8.65)	(6.77)	(1.44)	(110)	Z	II 3 c	491	(3.93)	(5.53)	(1.09)	(40)	Z	IV ? a
456	(8.71)	(4.85)	(0.85)	(60)	く10G 1	II 3 c	492	(4.30)	(4.10)	(0.99)	(22)	く10B 4	IV ? a
457	(9.04)	(5.46)	(1.20)	(80)	く10C 5	II 3 c	493	(4.32)	(4.62)	(1.51)	(30)	く10E 3	IV ? a
458	(9.35)	5.23	1.48	(78)	Z	II 3 c	494	(4.55)	(5.66)	(1.95)	(60)	く10C 4	IV ? a
459	(9.72)	6.80	(1.07)	(81)	き10G 8	II 3 c	495	(4.60)	(5.39)	(1.12)	(30)	く10C 4	IV ? a
460	(9.87)	5.18	(1.02)	(65)	く10E 3	II 3 c	496	(4.70)	(3.80)	(1.10)	(20)	く10E 3	IV ? a
461	(10.72)	9.25	(1.88)	(219)	き10H 7	II 3 c	497	(4.75)	(4.57)	(1.29)	(30)	く10I 2	IV ? a
462	(10.75)	(6.25)	(1.42)	(120)	き10I 6	II 3 c	498	(4.98)	(5.54)	(1.54)	(55)	く10J 1	IV ? a
463	(11.16)	(6.31)	(1.09)	(102)	く10C 3	II 3 c	499	(5.02)	(4.18)	(0.98)	(23)	き10H 6	IV ? a
464	(11.90)	5.41	(1.32)	(100)	く10C 4	II 3 c	500	(5.18)	(6.15)	(1.58)	(62)	包含層	IV ? a
465	(13.23)	5.45	1.39	(130)	き10H 7	II 3 c	501	(5.21)	(4.17)	(1.12)	(25)	Z	IV ? a
466	(14.26)	5.83	1.67	(170)	く10C 3	II 3 c	502	(5.31)	(4.36)	(1.76)	(62)	く10G 2	IV ? a
467	(15.33)	7.42	1.62	(210)	き10G 8	II 3 c	503	(5.45)	(4.13)	(1.14)	(22)	く10G 3	IV ? a
468	(18.80)	7.03	2.75	(402)	き10G 6	II 3 c	504	(5.46)	(4.11)	(1.30)	(40)	く10G 3	IV ? a

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
505	(5.48)	(5.11)	(1.21)	(39)	Z	Ⅳ？a	541	(7.42)	(6.33)	(0.98)	(65)	く10F 3	Ⅳ？a
506	(5.50)	(3.90)	(1.31)	(40)	き11A 9	Ⅳ？a	542	(7.53)	(5.41)	(1.21)	(80)	き10G 6	Ⅳ？a
507	(5.55)	(6.88)	(1.35)	(80)	き10G 7	Ⅳ？a	543	(7.54)	(5.82)	(1.14)	(63)	く10B 4	Ⅳ？a
508	(5.63)	(4.79)	(0.98)	(30)	き10H 7	Ⅳ？a	544	(7.56)	(4.57)	(1.55)	(55)	く10D 2	Ⅳ？a
509	(5.68)	(5.51)	(0.86)	(45)	く10C 3	Ⅳ？a	545	(7.66)	(5.34)	(1.80)	(98)	き10I 6	Ⅳ？a
510	(5.72)	(3.89)	(1.87)	(42)	く10D 2	Ⅳ？a	546	(7.83)	(4.61)	(1.95)	(96)	Z	Ⅳ？a
511	(5.74)	(4.65)	(1.81)	(60)	く10B 4	Ⅳ？a	547	(7.84)	(5.04)	(1.41)	(60)	く10F 3	Ⅳ？a
512	(5.86)	(4.20)	(1.56)	(50)	く10E2~4	Ⅳ？a	548	(7.88)	(4.69)	(2.09)	(82)	き11A 9	Ⅳ？a
513	(5.87)	(5.59)	(1.51)	(60)	包含層	Ⅳ？a	549	(7.90)	(4.85)	(1.52)	(70)	く10D 2	Ⅳ？a
514	(6.01)	(4.58)	(1.13)	(42)	く10I 1	Ⅳ？a	550	(7.93)	(6.24)	(1.39)	(100)	Z	Ⅳ？a
515	(6.01)	(5.35)	(1.31)	(60)	き10I 6	Ⅳ？a	551	(7.94)	(4.35)	(1.72)	(78)	包含層	Ⅳ？a
516	(6.04)	(4.59)	(0.96)	(35)	く10J 1	Ⅳ？a	552	(8.04)	(4.59)	(1.70)	(80)	く10C 3	Ⅳ？a
517	(6.07)	(4.34)	(1.49)	(41)	く10I 2	Ⅳ？a	553	(8.16)	(5.07)	(1.73)	(85)	く10D 4	Ⅳ？a
518	(6.14)	(5.48)	(1.33)	(60)	く10E 3	Ⅳ？a	554	(8.17)	(4.21)	(1.85)	(80)	く10C 5	Ⅳ？a
519	(6.17)	(4.53)	(1.66)	(62)	き10H 7	Ⅳ？a	555	(8.25)	(4.41)	(1.89)	(70)	く10F 3	Ⅳ？a
520	(6.24)	(4.35)	(1.69)	(60)	き11B 7	Ⅳ？a	556	(8.25)	(5.57)	(1.31)	(85)	く10G 3	Ⅳ？a
521	(6.41)	(5.78)	(0.92)	(50)	き10J5~7	Ⅳ？a	557	(8.32)	(6.50)	(1.95)	(150)	く10J 2	Ⅳ？a
522	(6.43)	(6.78)	(1.34)	(80)	き10G 8	Ⅳ？a	558	(8.40)	(5.24)	(1.73)	(115)	く10D 4	Ⅳ？a
523	(6.45)	(5.32)	(1.07)	(60)	き10G 6	Ⅳ？a	559	(8.42)	(5.04)	(1.07)	(60)	き10G 6	Ⅳ？a
524	(6.51)	(4.47)	(1.00)	(40)	く16I 2	Ⅳ？a	560	(8.45)	(5.11)	(1.57)	(82)	く10C 5	Ⅳ？a
525	(6.54)	(5.39)	(1.33)	(60)	Z	Ⅳ？a	561	(8.48)	(5.58)	(2.74)	(140)	く10E 3	Ⅳ？a
526	(6.59)	(6.28)	(1.11)	(77)	き10I 6	Ⅳ？a	562	(8.55)	(4.24)	(1.54)	(78)	き10G 8	Ⅳ？a
527	(6.62)	(3.65)	(1.40)	(40)	C10I 2	Ⅳ？a	563	(8.55)	(5.06)	(1.61)	(90)	く10A 4	Ⅳ？a
528	(6.63)	(5.87)	(1.21)	(60)	き10I 6	Ⅳ？a	564	(8.60)	(4.74)	(1.52)	(80)	く10E 2	Ⅳ？a
529	(6.72)	(4.55)	(1.49)	(58)	き10I 6	Ⅳ？a	565	(8.64)	(7.45)	(1.50)	(107)	く10G 1	Ⅳ？a
530	(6.72)	(5.47)	(1.91)	(76)	く10G 3	Ⅳ？a	566	(8.80)	(4.71)	(1.65)	(90)	く10C 4	Ⅳ？a
531	(6.98)	(4.23)	(1.40)	(50)	き10G7~8	Ⅳ？a	567	(8.81)	(5.86)	(1.36)	(60)	く10D 2	Ⅳ？a
532	(6.50)	(5.76)	(1.48)	(70)	く10B 5	Ⅳ？a	568	(8.92)	(4.25)	(1.71)	(80)	く10D 3	Ⅳ？a
533	(7.02)	(4.85)	(1.48)	(60)	く10H 7	Ⅳ？a	569	(8.97)	(4.65)	(2.30)	(120)	包含層	Ⅳ？a
534	(7.03)	(5.23)	(1.15)	(60)	き10I 6	Ⅳ？a	570	(9.15)	(5.03)	(1.83)	(90)	く10I 2	Ⅳ？a
535	(7.16)	(7.04)	(1.12)	(60)	く10F 3	Ⅳ？a	571	(9.17)	(6.65)	(2.05)	(165)	く10D 3	Ⅳ？a
536	(7.18)	(4.31)	(1.82)	(80)	く10A 5	Ⅳ？a	572	(9.21)	(5.88)	(1.31)	(122)	Z	Ⅳ？a
537	(7.23)	(4.56)	(1.56)	(70)	き10G7~8	Ⅳ？a	573	(9.25)	(5.39)	(0.88)	(62)	Z	Ⅳ？a
538	(7.25)	(6.92)	(1.25)	(107)	く10F 2	Ⅳ？a	574	(9.35)	(5.63)	(1.78)	(120)	き10H 6	Ⅳ？a
539	(7.30)	(5.01)	(1.47)	(60)	く10F 3	Ⅳ？a	575	(9.41)	(5.15)	(2.52)	(165)	く10C 4	Ⅳ？a
540	(7.33)	(6.27)	(1.01)	(75)	き10I 6	Ⅳ？a	576	(9.58)	(5.61)	(1.20)	(70)	き10G 8	Ⅳ？a

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
577	(9.95)	(6.48)	(0.94)	(80)	き10G 6	Ⅳ？a	613	(5.18)	(4.90)	(1.07)	(42)	き10G 7	Ⅳ？b
578	(10.02)	(5.39)	(1.45)	(120)	く10G 3	Ⅳ？a	614	(5.18)	(6.82)	(0.82)	(45)	き10G 8	Ⅳ？b
579	(10.03)	(5.51)	(2.52)	(180)	く10J 5	Ⅳ？a	615	(5.24)	(5.32)	(1.23)	(40)	か11J 9	Ⅳ？b
580	(10.14)	(5.74)	(1.40)	(125)	く10F 3	Ⅳ？a	616	(5.28)	(5.14)	(1.67)	(50)	き10I 6	Ⅳ？b
581	(10.70)	(5.72)	(1.71)	(140)	く10F 3	Ⅳ？a	617	(5.33)	(6.18)	(1.46)	(65)	き11B 8	Ⅳ？b
582	(11.08)	(5.44)	(5.38)	(140)	く10J 2	Ⅳ？a	618	(5.43)	(5.63)	(1.12)	(40)	き10G 8	Ⅳ？b
583	(11.16)	(4.65)	(1.64)	(100)	き10I 6	Ⅳ？a	619	(5.50)	(4.45)	(1.22)	(41)	き10I 6	Ⅳ？b
584	(11.26)	(5.55)	(1.84)	(100)	く10F 6	Ⅳ？a	620	(5.50)	(5.03)	(1.09)	(40)	包含層	Ⅳ？b
585	(11.28)	(5.53)	(1.51)	(120)	く10H 7	Ⅳ？a	621	(5.60)	(4.35)	(0.97)	(35)	く10I 2	Ⅳ？b
586	(12.10)	(8.21)	(2.88)	(390)	く10C 5	Ⅳ？a	622	(5.60)	(4.44)	(0.80)	(25)	き10G 7	Ⅳ？b
587	(12.40)	(5.09)	(1.81)	(140)	き10I 6	Ⅳ？a	623	(5.63)	(5.16)	(1.15)	(42)	Z	Ⅳ？b
588	(2.71)	(4.23)	(1.10)	(20)	包含層	Ⅳ？b	624	(5.64)	(5.67)	(0.77)	(25)	き10J5~7	Ⅳ？b
589	(2.87)	(5.77)	(1.29)	(37)	包含層	Ⅳ？b	625	(5.71)	(4.97)	(1.37)	(43)	包含層	Ⅳ？b
590	(3.14)	(7.38)	(1.47)	(60)	包含層	Ⅳ？b	626	(5.74)	(6.21)	(0.84)	(40)	き10I 6	Ⅳ？b
591	(3.20)	(4.72)	(1.45)	(22)	く10F 1	Ⅳ？b	627	(5.77)	(4.83)	(1.04)	(40)	け11J 9	Ⅳ？b
592	(3.35)	(5.03)	(0.97)	(22)	く10J 3	Ⅳ？b	628	(5.78)	(6.05)	(1.06)	(50)	く10b 4	Ⅳ？b
593	(3.59)	(4.75)	(1.05)	(21)	包含層	Ⅳ？b	629	(5.80)	(4.32)	(0.82)	(25)	く10E 2	Ⅳ？b
594	(3.78)	(3.21)	(0.97)	(16)	包含層	Ⅳ？b	630	(5.81)	(4.68)	(1.65)	(60)	か11J 9	Ⅳ？b
595	(4.00)	(5.52)	(1.43)	(50)	き10G 8	Ⅳ？b	631	(5.86)	(4.79)	(1.08)	(42)	け10A 2	Ⅳ？b
596	(4.01)	(5.05)	(1.35)	(40)	き10I 6	Ⅳ？b	632	(5.86)	(5.58)	(0.94)	(42)	Z	Ⅳ？b
597	(4.06)	(5.30)	(1.68)	(45)	く10F 3	Ⅳ？b	633	(5.86)	(5.69)	(1.05)	(58)	き10G 8	Ⅳ？b
598	(4.06)	(6.00)	(1.42)	(41)	き10G 8	Ⅳ？b	634	(5.95)	(4.81)	(1.07)	(40)	く10G 2	Ⅳ？b
599	(4.10)	(3.91)	(1.00)	(21)	き10H 7	Ⅳ？b	635	(5.99)	(5.58)	(1.20)	(70)	Z	Ⅳ？b
600	(4.16)	(4.10)	(1.18)	(22)	く10A 5	Ⅳ？b	636	(5.20)	(4.89)	(1.05)	(30)	く10C 3	Ⅳ？b
601	(4.49)	(4.49)	(1.23)	(21)	き10G 8	Ⅳ？b	637	(6.13)	(5.58)	(1.37)	(60)	き10H 7	Ⅳ？b
602	(4.61)	(4.76)	(0.78)	(20)	く10J 5	Ⅳ？b	638	(6.25)	(5.51)	(0.81)	(40)	き10H 7	Ⅳ？b
603	(4.72)	(3.71)	(0.98)	(21)	Z	Ⅳ？b	639	(6.30)	(6.19)	(1.72)	(80)	く10J 3	Ⅳ？b
604	(4.76)	(4.56)	(1.20)	(35)	く10E 3	Ⅳ？b	640	(6.33)	(4.53)	(1.14)	(45)	く10E 3	Ⅳ？b
605	(4.81)	(6.09)	(1.03)	(40)	Z	Ⅳ？b	641	(6.40)	(6.20)	(2.70)	(100)	く10E 3	Ⅳ？b
606	(4.82)	(4.22)	(1.67)	(40)	Z	Ⅳ？b	642	(6.41)	(6.18)	(1.38)	(78)	き10I 6	Ⅳ？b
607	(4.92)	(5.33)	(1.31)	(18)	き10G 8	Ⅳ？b	643	(6.44)	(5.16)	(1.23)	(58)	包含層	Ⅳ？b
608	(4.96)	(4.76)	(1.23)	(38)	き10G 8	Ⅳ？b	644	(6.45)	(5.28)	(2.03)	(63)	き10H 7	Ⅳ？b
609	(49.20)	(4.16)	(1.10)	(25)	Z	Ⅳ？b	645	(6.52)	(5.10)	(0.93)	(36)	く10E 2	Ⅳ？b
610	(5.00)	(4.76)	(0.89)	(30)	き10I 6	Ⅳ？b	646	(6.60)	(5.10)	(1.43)	(64)	Z	Ⅳ？b
611	(5.10)	(5.57)	(1.15)	(50)	く10F 2	Ⅳ？b	647	(6.61)	(4.35)	(0.99)	(40)	く10F 3	Ⅳ？b
612	(5.14)	(5.16)	(0.62)	(20)	く10J 2	Ⅳ？b	648	(6.67)	(5.86)	(0.92)	(43)	く10B 3	Ⅳ？b

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	編分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	編分類
649	(6.67)	(6.88)	(1.48)	(100)	Z	Ⅳ？b	685	(8.29)	(4.75)	(1.11)	(70)	き10G 8	Ⅳ？b
650	(6.70)	(5.05)	(1.29)	(70)	く10C 3	Ⅳ？b	686	(8.47)	(5.48)	(0.88)	(42)	Z	Ⅳ？b
651	(6.73)	(4.98)	(1.10)	(55)	Z	Ⅳ？b	687	(8.48)	(6.30)	(1.27)	(66)	く10F 3	Ⅳ？b
652	(6.75)	(4.85)	(1.43)	(63)	く10J 2	Ⅳ？b	688	(8.50)	(5.02)	(1.36)	(80)	き10I 6	Ⅳ？b
653	(6.75)	(7.31)	(1.78)	(120)	Z	Ⅳ？b	689	(8.50)	(5.43)	(2.55)	(155)	く10E 3	Ⅳ？b
654	(6.77)	(5.00)	(1.58)	(63)	き10G 6	Ⅳ？b	690	(8.58)	(4.58)	(2.11)	(95)	く10C 3	Ⅳ？b
655	(6.86)	(5.40)	(1.32)	(80)	包含層	Ⅳ？b	691	(8.68)	(5.14)	(1.48)	(96)	く10F 3	Ⅳ？b
656	(6.87)	(4.68)	(1.36)	(40)	く10I 1	Ⅳ？b	692	(8.77)	(5.68)	(1.33)	(97)	く10F 3	Ⅳ？b
657	(6.94)	(4.89)	(1.14)	(40)	く10D 4	Ⅳ？b	693	(8.95)	(6.65)	(1.43)	(90)	き10H 7	Ⅳ？b
658	(6.95)	(4.58)	(1.13)	(40)	き10H 7	Ⅳ？b	694	(8.98)	(6.10)	(1.53)	(110)	き10H 7	Ⅳ？b
659	(6.10)	(4.75)	(1.09)	(60)	く10B 4	Ⅳ？b	695	(9.05)	(5.49)	(1.21)	(82)	き10J 6	Ⅳ？b
660	(7.03)	(6.65)	(1.39)	(85)	き10G 6	Ⅳ？b	696	(9.23)	(5.29)	(2.13)	(110)	き10I 6	Ⅳ？b
661	(7.04)	(5.83)	(1.10)	(62)	き10G 8	Ⅳ？b	697	(9.27)	(6.69)	(1.12)	(118)	包含層	Ⅳ？b
662	(7.06)	(5.85)	(1.60)	(100)	き10G 6	Ⅳ？b	698	(9.30)	(6.34)	(1.56)	(103)	き10I 6	Ⅳ？b
663	(7.16)	(4.27)	(1.66)	(42)	く10D 2	Ⅳ？b	699	(9.39)	(7.36)	(1.71)	(102)	く10E 2	Ⅳ？b
664	(7.23)	(5.62)	(1.50)	(60)	き10G 8	Ⅳ？b	700	(9.46)	(5.48)	(1.65)	(989)	き10G 6	Ⅳ？b
665	(7.24)	(4.02)	(1.16)	(40)	き10G 8	Ⅳ？b	701	(9.66)	(6.02)	(1.81)	120	き10G 8	Ⅳ？b
666	(7.26)	(6.67)	(0.78)	(60)	く10D1~D3	Ⅳ？b	702	(9.70)	(4.10)	(1.68)	(60)	く10F 3	Ⅳ？b
667	(7.35)	(4.85)	(1.27)	(70)	き10H 7	Ⅳ？b	703	(9.70)	(4.99)	(1.27)	(60)	く10F 3	Ⅳ？b
668	(7.35)	(5.60)	(1.58)	(90)	く10B 4	Ⅳ？b	704	(9.91)	(7.30)	(1.24)	(120)	く10I 2	Ⅳ？b
669	(7.35)	(7.59)	(1.17)	(100)	く10I 1	Ⅳ？b	705	(10.09)	(5.94)	(1.60)	(120)	く10C 5	Ⅳ？b
670	(7.38)	(5.50)	(1.50)	(100)	き10G 8	Ⅳ？b	706	(10.30)	(5.77)	(1.13)	(80)	Z	Ⅳ？b
671	(7.39)	(5.49)	(0.78)	(40)	く10H 7	Ⅳ？b	707	(10.40)	(8.28)	(1.50)	(115)	き10H 7	Ⅳ？b
672	(7.45)	(6.29)	(0.77)	(41)	き10G 8	Ⅳ？b	708	(10.51)	(5.56)	(1.35)	(80)	く10I 1	Ⅳ？b
673	(7.46)	(4.64)	(1.05)	(40)	く10E 2	Ⅳ？b	709	(10.51)	(5.86)	(1.68)	(157)	く10F 3	Ⅳ？b
674	(7.51)	(4.96)	(1.38)	(80)	く10B 4	Ⅳ？b	710	(10.69)	(4.55)	(1.59)	(66)	Z	Ⅳ？b
675	(7.52)	(3.36)	(1.02)	(20)	き10G 8	Ⅳ？b	711	(10.95)	(5.14)	(2.06)	(120)	く10H 2	Ⅳ？b
676	(7.59)	(5.59)	(1.69)	(100)	く10F 3	Ⅳ？b	712	(10.95)	(6.45)	(1.94)	(160)	く10J 1	Ⅳ？b
677	(7.64)	(5.05)	(1.57)	(60)	く10F 3	Ⅳ？b	713	(11.09)	(5.63)	(1.02)	(82)	包含層	Ⅳ？b
678	(7.69)	(4.85)	(0.99)	(50)	き10H 7	Ⅳ？b	714	(11.23)	(5.31)	(1.77)	(140)	き10G 8	Ⅳ？b
679	(7.81)	(5.73)	(1.44)	(82)	き10H 7	Ⅳ？b	715	(11.38)	(9.65)	(2.92)	(362)	き10I 6	Ⅳ？b
680	(7.81)	(5.88)	(1.87)	(125)	き10I 6	Ⅳ？b	716	(11.40)	(6.87)	(1.71)	(180)	く10B 5	Ⅳ？b
681	(7.98)	(3.05)	(0.90)	(30)	き10H 7	Ⅳ？b	717	(3.28)	(8.02)	(0.89)	(25)	き10G 8	Ⅳ1 c
682	(8.08)	(5.23)	(1.41)	(75)	き10H 6	Ⅳ？b	718	(4.19)	(4.89)	(0.87)	(20)	く10D 4	Ⅳ1 c
683	(8.11)	(4.55)	(1.87)	(80)	く10C 4	Ⅳ？b	719	(5.18)	(5.90)	(1.33)	(42)	き10I 6	Ⅳ1 c
684	(8.18)	(3.73)	(1.58)	(45)	く10F 3	Ⅳ？b	720	(5.39)	(5.70)	(1.13)	(40)	き10G7~8	Ⅳ1 c

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
721	(5.54)	(6.63)	(1.32)	(60)	Z	Ⅳ1 c	741	(9.07)	(4.50)	(1.16)	(40)	き11H 7	Ⅳ1 c
722	(5.75)	(5.75)	(1.42)	(62)	Z	Ⅳ1 c	742	(9.09)	(6.25)	(2.65)	(150)	く10G 2	Ⅳ1 c
723	(5.87)	(5.12)	(0.88)	(40)	く10H 1	Ⅳ1 c	743	(9.39)	(8.23)	(0.97)	(77)	き10J 5	Ⅳ1 c
724	(5.94)	(6.15)	(1.39)	(50)	き10J 5	Ⅳ1 c	744	(9.51)	(6.60)	(1.45)	(120)	か11J 9	Ⅳ1 c
725	(6.00)	(5.82)	(0.82)	(40)	き11A 7	Ⅳ1 c	745	(10.30)	(4.98)	(1.17)	(60)	く10B 4	Ⅳ1 c
726	(6.04)	(4.60)	(1.38)	(40)	き11B 7	Ⅳ1 c	746	(10.83)	(5.96)	(1.07)	(102)	く10C 4	Ⅳ1 c
727	(6.37)	(4.76)	(0.80)	(40)	く10C 5	Ⅳ1 c	747	(6.29)	(6.78)	(1.13)	(809)	き11A 7	Ⅳ2 c
728	(6.56)	(5.87)	(0.81)	(40)	き10G 8	Ⅳ1 c	748	(7.86)	6.52	(0.81)	(60)	き10I 6	Ⅳ2 c
729	(6.80)	(6.17)	(1.38)	(80)	く10H 2	Ⅳ1 c	749	(8.86)	(7.81)	(2.00)	(200)	Z	Ⅳ2 c
730	(6.88)	(5.10)	(0.86)	(40)	き10G 8	Ⅳ1 c	750	(5.29)	(6.25)	(0.89)	(36)	Z	Ⅳ3 c
731	(7.29)	(7.08)	(1.08)	(98)	き10I 6	Ⅳ1 c	751	(5.47)	(4.18)	(1.41)	(40)	く10E 3	Ⅳ3 c
732	(7.35)	(6.42)	(1.35)	(80)	き10H 7	Ⅳ1 c	752	(6.54)	(7.75)	(1.28)	(80)	Z	Ⅳ3 c
733	(7.38)	(6.12)	(1.26)	(98)	き10G 7	Ⅳ1 c	753	(6.98)	(4.93)	(1.80)	(50)	く10G 2	Ⅳ3 c
734	(7.47)	(6.41)	(1.40)	(90)	く10J 2	Ⅳ1 c	754	(7.60)	(4.65)	(1.06)	(40)	く10E 3	Ⅳ3 c
735	(7.62)	(6.10)	(1.41)	(97)	き10I 6	Ⅳ1 c	755	(7.75)	(6.97)	(1.65)	(100)	き10G7~8	Ⅳ3 c
736	(7.68)	(8.00)	(1.38)	(100)	く10D 2	Ⅳ1 c	756	(8.42)	(6.10)	(1.00)	(70)	き10H 7	Ⅳ3 c
737	(7.74)	(6.44)	(1.12)	(80)	き10I 6	Ⅳ1 c	757	(8.74)	(7.26)	(0.72)	(65)	き10H 7	Ⅳ3 c
738	(7.76)	(5.04)	(1.06)	(50)	Z	Ⅳ1 c	758	(9.60)	(6.43)	(0.97)	(80)	き10I 6	Ⅳ3 c
739	(8.17)	(7.82)	(1.33)	(102)	く10C 5	Ⅳ1 c	759	(9.87)	(5.59)	(1.74)	(110)	く10C 3	Ⅳ3 c
740	(8.45)	(7.78)	(1.37)	(110)	く10C 3	Ⅳ1 c	760	(10.18)	(6.38)	(1.57)	(122)	き10G 8	Ⅳ3 c

SYY 4 A　石錐一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(1.97)	(0.65)	(0.44)	(0.1)	く10G 1	?	8	(4.98)	1.67	0.96	(6.0)	け10A 1	Ⅰ
2	(2.14)	(0.75)	(0.41)	(0.2)	く10G 2	?	9	2.78	2.70	1.22	3.0	く10G 2	Ⅱ
3	(1.51)	1.55	0.30	(0.2)	Z	Ⅰ	10	4.13	1.94	1.10	5.0	く10B 4	Ⅱ
4	(1.76)	2.12	0.52	(2.0)	き10I 6	Ⅰ	11	(4.43)	2.05	0.97	(7.0)	26T	Ⅱ
5	(2.65)	1.33	0.50	(2.0)	く10C 3	Ⅰ	12	(1.38)	0.75	0.41	(0.2)	く10H 1	Ⅲ
6	(2.70)	(2.64)	(1.08)	(6.0)	く10D 3	Ⅰ	13	(2.43)	1.40	0.71	(2.0)	く10E 3	Ⅲ
7	(2.80)	(2.22)	(0.54)	(3.0)	き10G 7	Ⅰ							

SYY 4 A　礫器一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	3.73	6.47	2.62	65	き10I 6		4	6.44	5.41	1.82	90	く10G 2	
2	6.13	9.16	1.53	135	く10H 2		5	7.57	6.09	2.01	120	き10I 6	
3	6.17	7.06	2.30	122	く10I 2								

SYY 4 A　スクレイパー一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	1.10	2.93	0.63	2.0	く10C 4		31	5.85	6.41	1.22	40	Z	
2	1.58	1.58	0.45	0.3	き10H 7		32	5.89	11.73	1.27	75	Z	
3	1.58	2.04	0.43	0.5	き10G 1		33	6.00	7.13	1.16	42	き10G 8	
4	1.64	2.38	0.42	1.0	く10B 4		34	6.04	8.06	1.45	80	く10C 4	
5	1.75	1.49	0.47	1.0	く10G 1		35	6.14	8.69	1.65	82	く10H 2	
6	1.79	2.46	0.52	1.0	く10G 1		36	6.17	3.74	1.21	30	く10D 2	
7	2.03	1.68	0.54	1.0	く10D 3		37	6.32	8.00	0.78	50	き11B 8	
8	2.25	1.67	0.55	1.0	く10G 1		38	6.43	7.39	0.92	40	き10G 6	
9	2.32	2.57	0.68	2.0	Z		39	6.56	7.90	0.78	40	く10I 2	
10	2.48	1.83	0.58	1.5	く10I 2		40	6.60	8.10	1.95	45	か11J 9	
11	2.51	3.75	0.53	2.0	く10E 3		41	6.69	3.88	1.54	40	く10B 5	
12	2.57	2.02	0.61	2.0	く10A 5		42	7.06	7.61	1.03	(50)	く10B 3	
13	2.71	1.95	0.80	2.0	く10F 3		43	7.09	4.15	1.03	40	く10E 3	
14	2.85	2.31	0.88	4.0	く10H 2		44	7.20	9.72	1.51	120	く10H 2	
15	3.40	5.78	0.71	10.0	く10I 2		45	7.32	6.12	10.80	60	く10E 3	
16	3.43	8.04	1.29	30.0	く10B 5		46	7.44	8.23	0.87	60	く10F 3	
17	3.65	4.93	1.15	20.0	く10F 2		47	7.89	14.77	2.03	220	き10G 6	
18	4.16	7.09	1.26	30.0	く10C 3		48	7.93	8.45	1.17	90	く10F 3	
19	4.20	10.39	1.30	40.0	く10E 3		49	8.20	7.98	1.27	150	く10F 3	
20	4.31	8.06	1.10	40.0	く10A 5		50	8.33	6.54	1.02	60	Z	
21	4.49	8.01	1.40	43.0	く10F 3		51	9.06	7.38	1.66	125	く10E 3	
22	4.50	8.67	0.94	40.0	く10H 2		52	9.16	10.79	1.48	160	く10D 2	
23	4.68	7.44	1.41	42.0	く10E 3		53	9.17	8.16	1.48	65	く10F 2	
24	4.78	8.80	1.28	50.0	き10H7~H8		54	9.50	5.67	1.20	60	く10A 4	
25	4.90	8.35	1.11	60.0	く10F 3		55	(9.55)	5.49	0.88	(50)	き10I 6	
26	4.96	7.90	1.30	40.0	く10D 4		56	10.03	5.86	1.09	65	く10E 3	
27	5.10	8.44	0.63	40.0	く10D 4		57	10.74	7.76	0.88	90	く10C 3	
28	5.15	6.98	0.70	20.0	く10J 1		58	11.58	7.07	2.05	140	き11A 7	
29	5.52	7.43	0.77	40.0	く10H 1		59	11.69	4.85	1.31	85	く10G 1	
30	5.80	13.62	1.38	95.0	く10C 3		60	12.67	6.90	1.54	110.1	く10C 3	

SYY 4 A　磨製石斧一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(3.74)	(3.10)	(1.85)	(22)	く10E 3	I	6	(8.25)	(5.57)	(2.31)	(100)	く10F 3	I
2	(4.65)	(3.36)	(1.83)	(22)	く10B 3	I	7	(10.45)	(6.70)	(4.26)	(440)	き10H78	I
3	(6.75)	(3.50)	(1.37)	(40)	き10G 6	I	8	(7.02)	(5.37)	(3.20)	(170)	く10C 2	II
4	(7.70)	(2.17)	(2.12)	(70)	く10E 3	I	9	(11.74)	5.10	3.25	(300)	き10I 6	II
5	(8.07)	(2.61)	(3.22)	(100)	き10I 6	I	10	(19.50)	(5.96)	(5.04)	(800)	く10C 3	II

SYY 4 A　石鏃一覧表

No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(1.38)	(0.85)	(0.30)	(0.1)	〈10H 1	?	34	(2.03)	(0.92)	0.49	(0.7)	Z	I 1
2	(1.43)	(1.31)	(0.32)	(0.2)	Z	?	35	2.07	1.45	0.44	0.6	〈10C 2	I 1
3	(1.62)	(1.75)	0.38	(0.8)	〈10E 2	?	36	2.08	1.26	0.34	0.2	Z	I 1
4	(1.69)	(0.88)	(0.42)	(0.2)	Z	?	37	(2.11)	1.37	0.27	(0.2)	Z	I 1
5	(1.87)	(1.80)	(0.49)	(0.5)	〈10F 3	?	38	(2.11)	(1.65)	0.47	0.6	Z	I 1
6	(2.16)	(1.85)	0.49	(0.6)	〈10A12	?	39	2.17	1.39	0.46	(0.5)	〈10E 2	I 1
7	(2.17)	(1.41)	(0.43)	(0.5)	Z	?	40	2.25	1.37	0.36	0.2	〈10G 2	I 1
8	(2.22)	(1.75)	(0.52)	(0.6)	〈10C 3	?	41	(2.27)	(1.35)	0.38	(0.5)	き10G 8	I 1
9	(2.46)	(1.70)	(0.57)	(1.0)	〈10G 1	?	42	2.27	1.74	0.68	1.0	き10H 6	I 1
10	(2.58)	(2.10)	0.72	(1.0)	〈10G 2	?	43	2.29	(1.30)	0.37	(0.2)	Z	I 1
11	(0.28)	(1.88)	0.28	(0.2)	〈10C 5	I 1	44	2.29	1.34	0.36	0.5	き10I 6	I 1
12	(1.05)	1.25	0.13	(0.1)	Z	I 1	45	2.32	1.42	0.43	0.3	〈10F 3	I 1
13	(1.28)	1.24	0.18	(0.1)	Z	I 1	46	2.33	(1.75)	0.49	(0.6)	〈10C 4	I 1
14	(1.30)	(0.99)	(0.25)	(0.1)	Z	I 1	47	2.40	1.41	0.23	0.1	〈10G 1	I 1
15	(1.48)	1.70	0.29	(0.4)	〈10H 2	I 1	48	2.40	1.58	0.27	0.2	き10I 6	I 1
16	1.56	(1.40)	0.24	(0.1)	き10I 6	I 1	49	(2.50)	(1.00)	0.41	(0.3)	〈10F 2	I 1
17	(1.64)	(1.40)	0.40	(0.2)	Z	I 1	50	(2.53)	(1.75)	0.39	(0.6)	Z	I 1
18	(1.64)	1.57	0.32	(0.2)	〈10E 2	I 1	51	2.55	1.48	0.35	0.3	〈10J 2	I 1
19	(1.65)	1.12	0.36	(0.2)	Z	I 1	52	2.58	(1.30)	0.33	(0.2)	〈10C 4	I 1
20	(1.66)	(1.22)	0.26	(0.2)	き10G 8	I 1	53	2.58	(1.89)	0.25	(0.3)	〈10H 1	I 1
21	1.68	1.02	0.25	0.1	〈10F 2	I 1	54	(2.75)	(1.58)	0.56	(1.1)	〈10E 2	I 1
22	(1.69)	(1.10)	0.35	(0.2)	〈10F 3	I 1	55	2.76	(1.46)	0.46	(0.5)	〈10E 3	I 1
23	(1.73)	(1.35)	0.29	(0.2)	Z	I 1	56	(2.81)	(1.53)	0.54	(0.8)	Z	I 1
24	1.75	1.36	0.32	0.2	き10I 6	I 1	57	2.82	(1.45)	0.47	(0.4)	〈10D 2	I 1
25	1.76	(1.58)	0.36	(0.2)	〈10H 2	I 1	58	2.96	1.78	0.40	1.0	〈10F 3	I 1
26	1.76	1.38	0.45	0.2	〈10F 2	I 1	59	(2.97)	(1.85)	0.28	(0.7)	き10H 7	I 1
27	(1.80)	(1.36)	(0.43)	(0.2)	き10J5~J7	I 1	60	(3.02)	(1.51)	0.40	(0.4)	〈10G 2	I 1
28	1.81	1.22	0.39	0.2	Z	I 1	61	(3.26)	(1.80)	0.48	(0.6)	〈30G 3	I 1
29	1.87	(1.38)	0.36	(0.3)	Z	I 1	62	(3.48)	(1.85)	0.43	(1.2)	Z	I 1
30	1.88	(1.39)	0.38	(0.2)	〈10B 4	I 1	63	2.18	(1.64)	0.38	(0.5)	〈10I 2	I 2
31	1.92	1.46	0.40	0.3	〈10C 3	I 1	64	2.20	1.56	0.45	1.0	〈10G 1	I 2
32	(1.95)	(1.11)	0.44	(0.3)	〈10F 3	I 1	65	(1.87)	1.23	0.43	(0.6)	Z	III 2
33	(2.00)	(1.53)	0.44	(0.3)	〈10C 4	I 1	66	1.91	0.93	0.46	0.4	Z	III 2

SYY 4 A　石棒一覧表

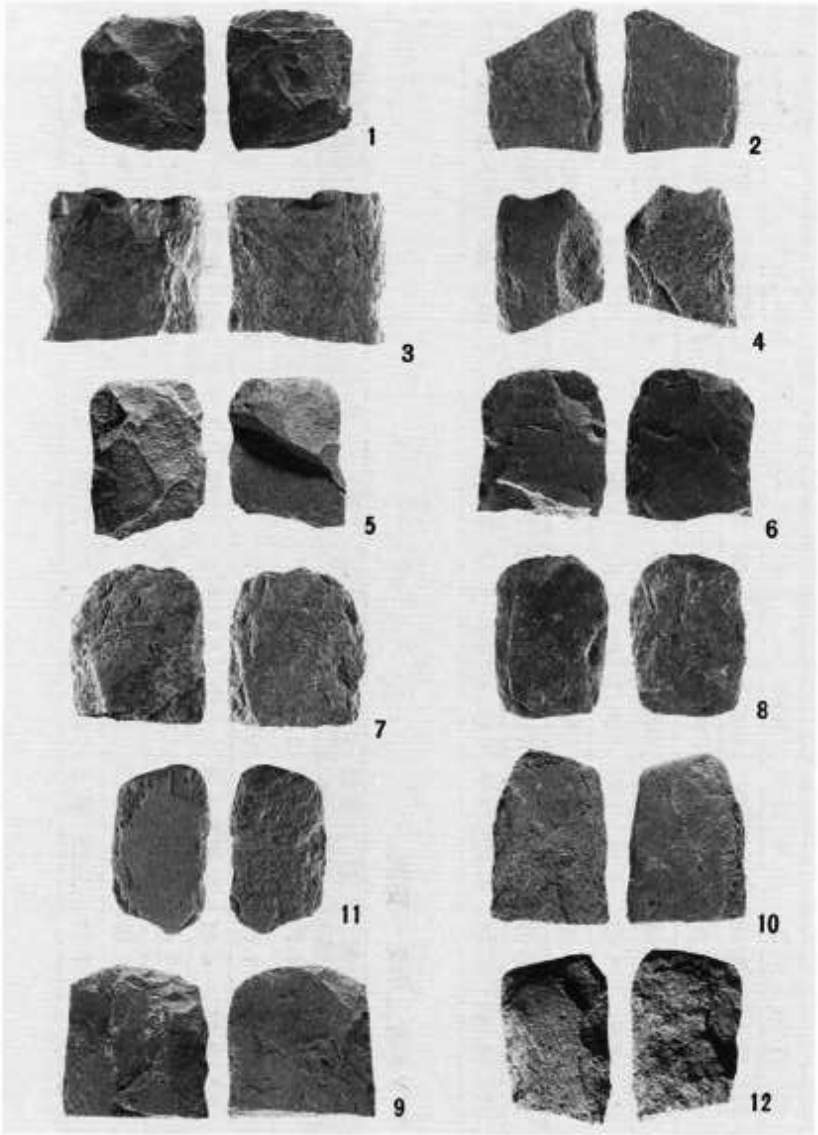
No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(4.95)	(3.31)	(0.82)	(20)	〈10F 3		3	(6.62)	(3.77)	(1.80)	(22)	〈10E 3	
2	(4.98)	(5.83)	(1.70)	(80)	Z		4	(9.28)	(3.25)	(1.45)	(65)	〈10D11	

SYY 4 A　凹石・磨石一覧表

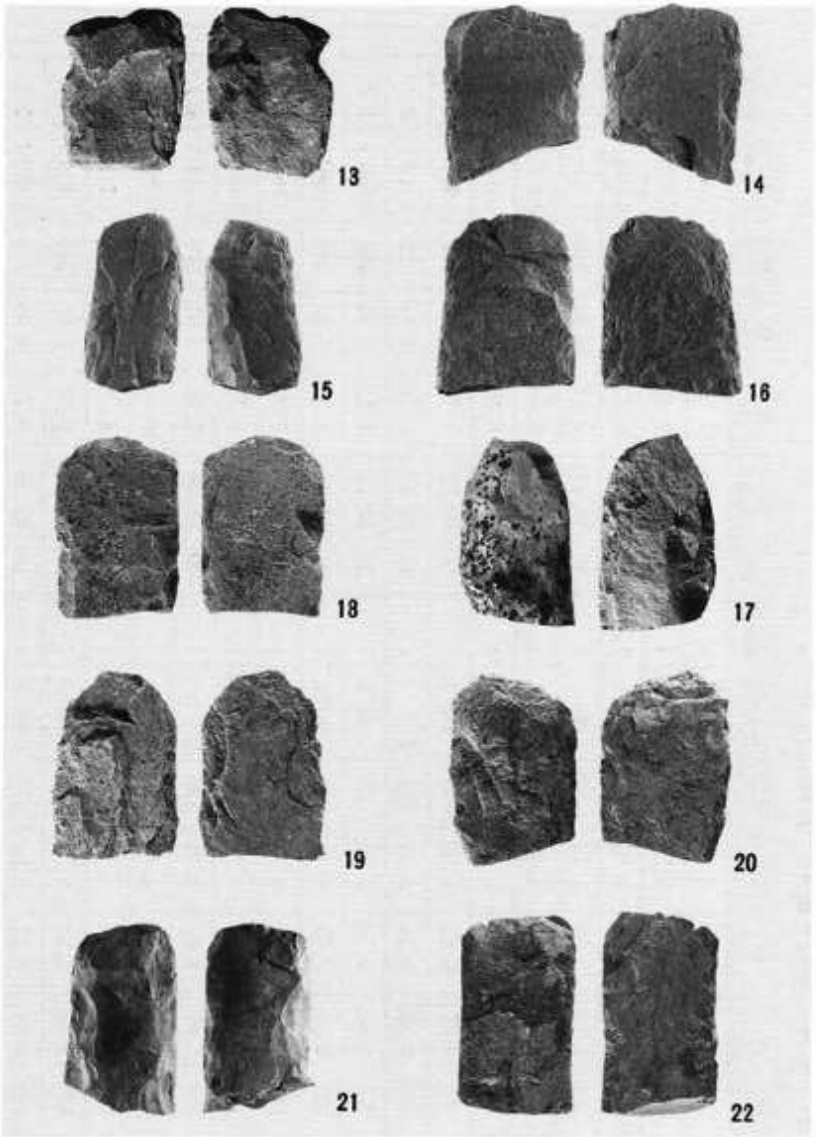
No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	(10.80)	7.72	4.69	620	く10B 3	I	28	(8.55)	(7.79)	(4.40)	450	包含層	II 2
2	(17.00)	7.83	6.24	(1150)	き11B 8	I	29	(8.98)	(8.49)	(5.76)	(480)	く10D 2	II 2
3	6.80	6.64	5.95	450	く10B 5	I	30	(9.24)	(6.32)	(4.70)	(400)	き10H 7	II 2
4	7.72	5.40	2.57	135	く10I 2	I	31	(9.43)	(6.53)	(3.50)	(260)	く10D 4	II 2
5	7.74	6.09	4.36	290	く10J 3	I	32	7.98	5.60	3.37	195	き10H 7	II 2
6	8.74	7.86	7.07	780	く10D 3	I	33	9.31	6.85	3.95	320	く10B 5	II 2
7	9.07	6.63	5.50	445	く10D 3	I	34	10.22	7.69	3.30	350	く10C 3	II 2
8	9.79	8.54	5.57	565	Z	I	35	10.47	8.27	4.01	480	き11B 7	II 2
9	9.80	8.10	5.15	560	く10C 5	I	36	10.74	8.23	6.40	680	く10B 4	II 2
10	9.83	7.05	5.67	550	く10F 3	I	37	10.86	7.19	4.57	540	く10B 5	II 2
11	10.63	6.56	4.34	550	く 9 B10	I	38	11.25	7.89	4.70	540	く16C 4	II 2
12	10.82	8.34	4.70	600	Z	I	39	11.32	9.71	5.52	720	き10H 7	II 2
13	11.09	5.07	3.31	330	Z	I	40	11.45	10.02	3.92	620	く10E 3	II 2
14	11.10	7.95	6.67	850	く10B 4	I	41	11.50	10.77	6.55	970	包含層	II 2
15	11.52	5.91	4.16	405	く 9 I 9	I	42	11.62	6.75	3.92	410	く10E 3	II 2
16	12.88	7.31	6.53	960	き10J5~J7	I	43	11.75	9.92	5.82	910	く10B 3	II 2
17	13.14	8.71	3.90	670	く10E 3	I	44	12.19	8.73	4.94	710	き10H 7	II 2
18	13.38	6.42	4.79	(540)	く10B 4	I	45	14.10	9.15	4.05	730	く10J 1	II 2
19	14.06	8.43	4.62	780	く10F 3	I	46	15.02	6.46	3.66	460	き10I 6	II 2
20	21.50	8.80	7.30	2160	く10B 5	I	47	(14.35)	4.63	3.69	(280)	き10H 7	II 3
21	(7.56)	(8.49)	(6.04)	(480)	く10B 5	II ?	48	(5.67)	(6.05)	(3.82)	(200)	く10F 3	II 3
22	4.98	6.78	6.23	680	く10C 4	II 1	49	(6.06)	(7.22)	(4.94)	(240)	く10D 3	II 3
23	11.19	5.98	4.03	470	く10H1~H3	II 1	50	11.06	7.27	4.13	490	く10G 2	II 3
24	12.31	8.07	4.21	620	く10D 2	II 1	51	11.08	7.11	5.70	515	く10B 4	II 3
25	(6.55)	(8.06)	(5.68)	(360)	く10D 3	II 2	52	11.52	5.55	5.38	340	く10D 3	II 3
26	(7.08)	(7.07)	(4.38)	(250)	く10E 3	II 2	53	14.23	6.48	4.85	460	く10G 7	II 3
27	(8.06)	(7.68)	(5.62)	(310)	く10C 4	II 2	54	(11.43)	(12.03)	(5.65)	860	き10H7~H8	石皿

SYY 4 A　石匙一覧表

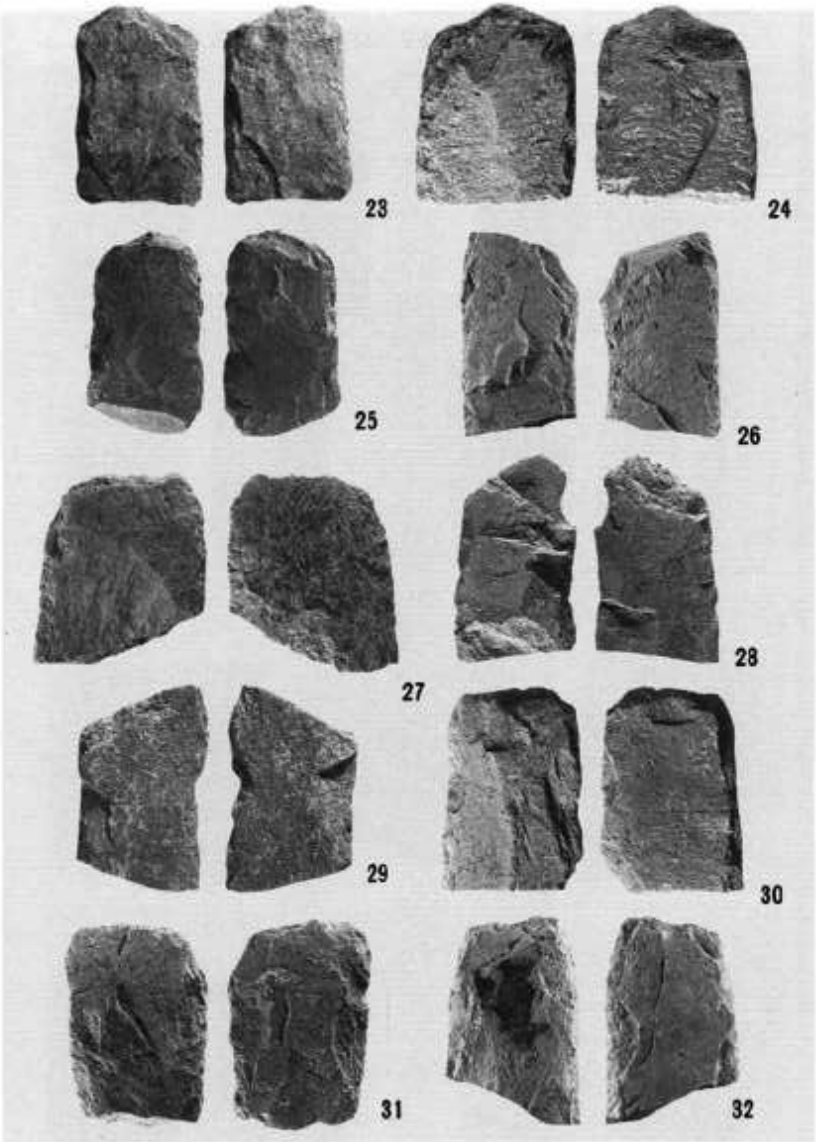
No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類	No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	出土位置	細分類
1	2.38	(2.90)	0.50	2.0	く10H 2	I	7	8.06	8.24	1.17	80.0	く10F 2	I
2	3.44	4.94	0.59	4.5	か12H 4	I	8	8.55	5.82	0.66	37.0	き10H 7	I
3	3.65	4.81	0.82	5.0	く10I 1	I	9	7.03	4.00	1.33	49.0	く10J 2	II
4	4.11	7.61	0.76	18.0	く10D 2	I	10	10.32	6.45	0.75	68.0	く10G 3	II
5	(6.33)	(6.00)	(1.31)	(42.0)	く10I 2	I	11	8.37	3.70	1.00	26.0	く10E 3	III
6	6.34	7.73	1.13	41.0	く10G 1	I	12	11.08	5.52	0.92	53.0	く10I 2	III



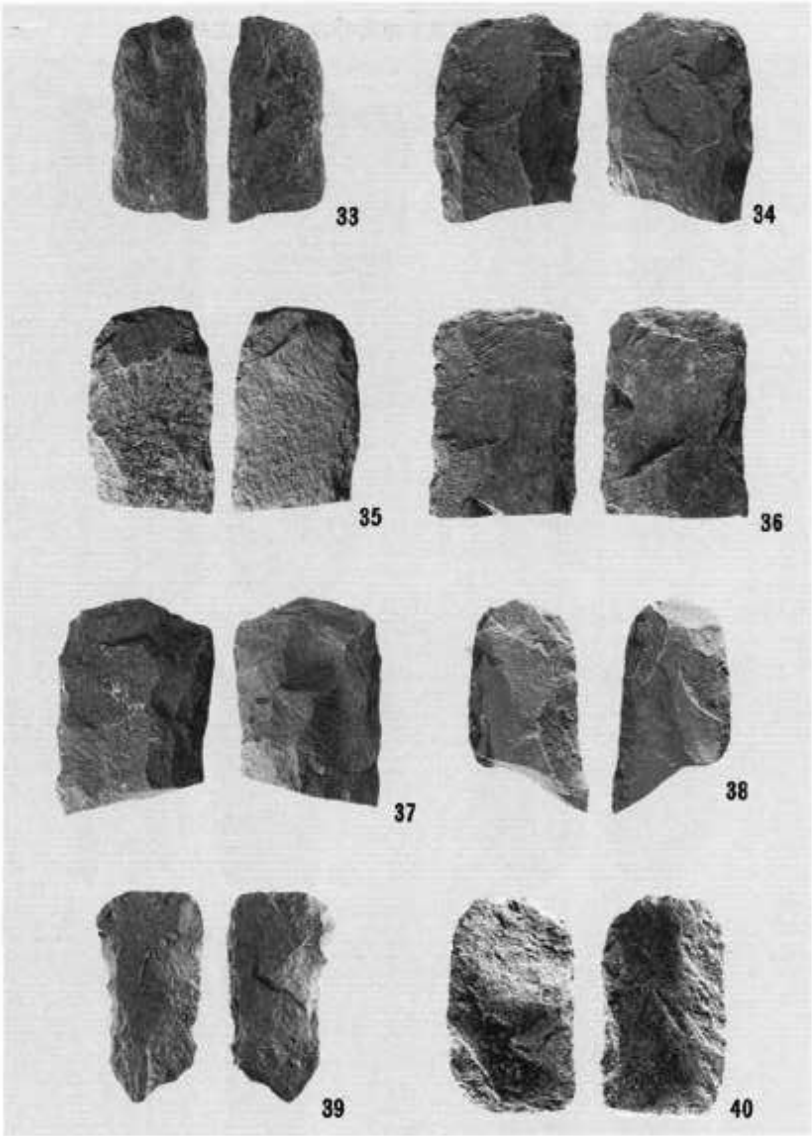
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（1）(1/4)



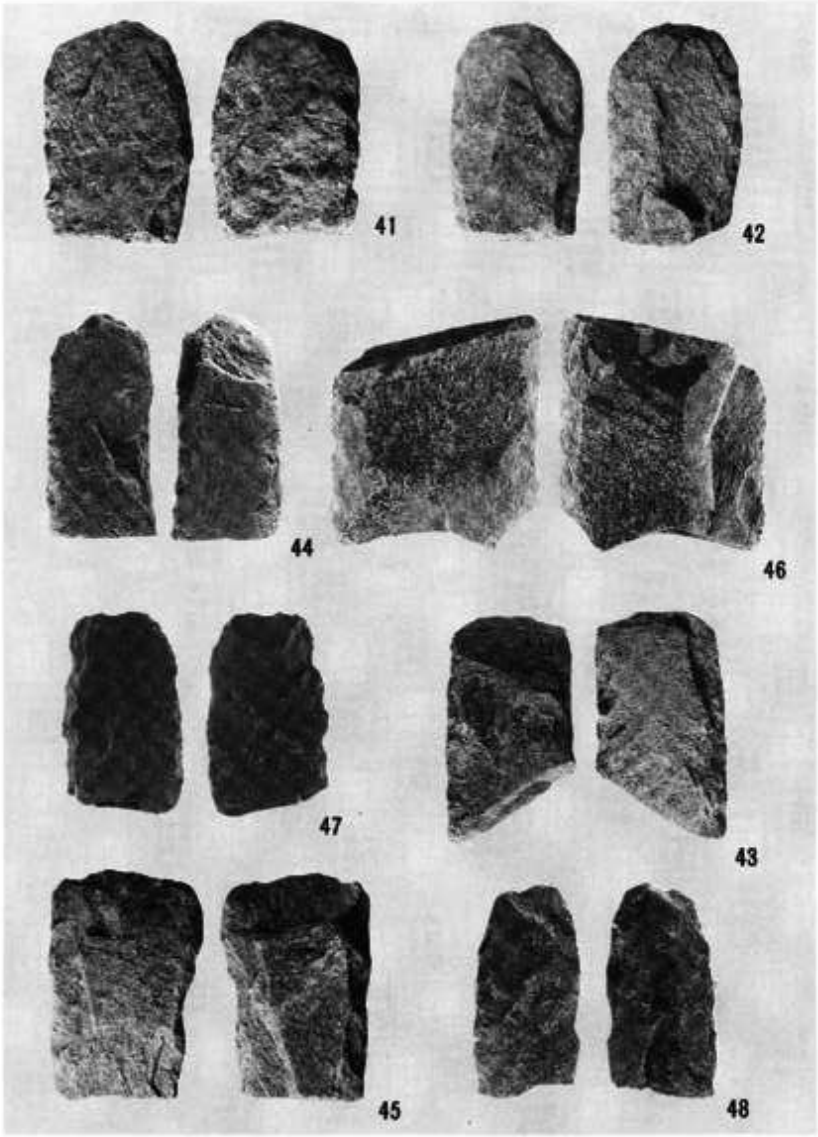
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（2）(1/4)



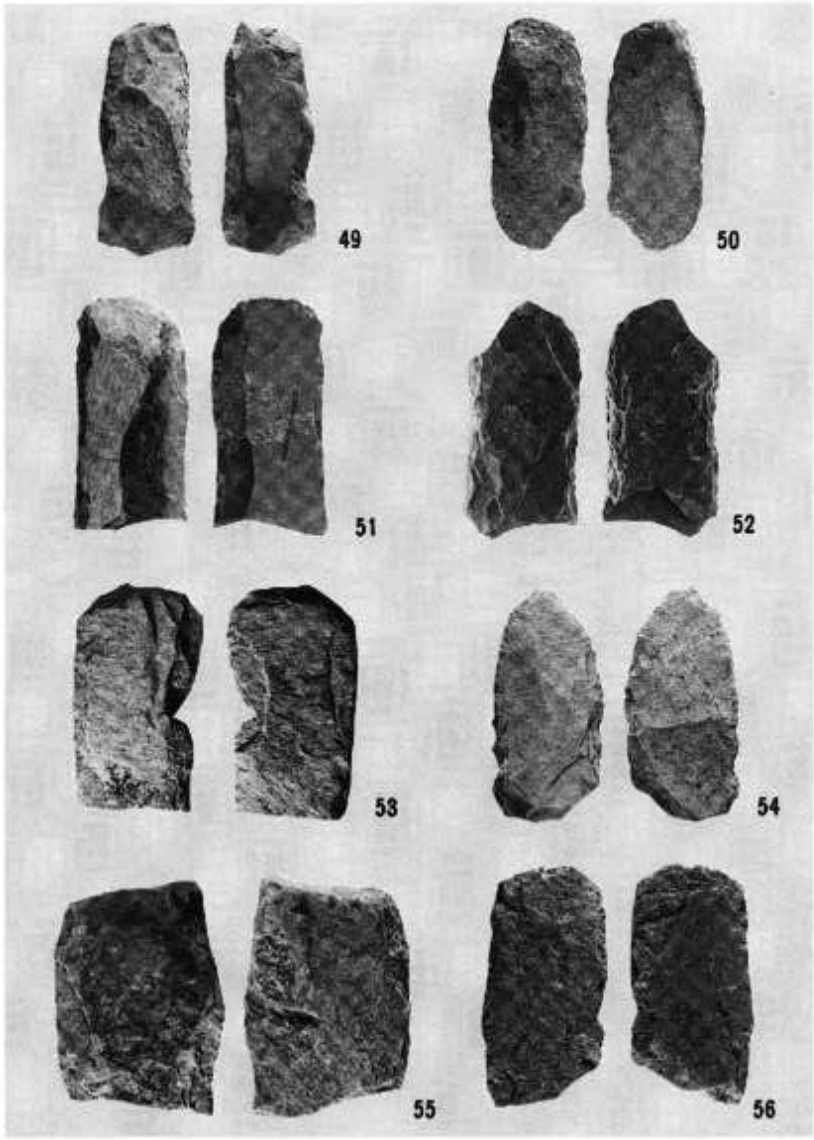
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（3）(1/4)



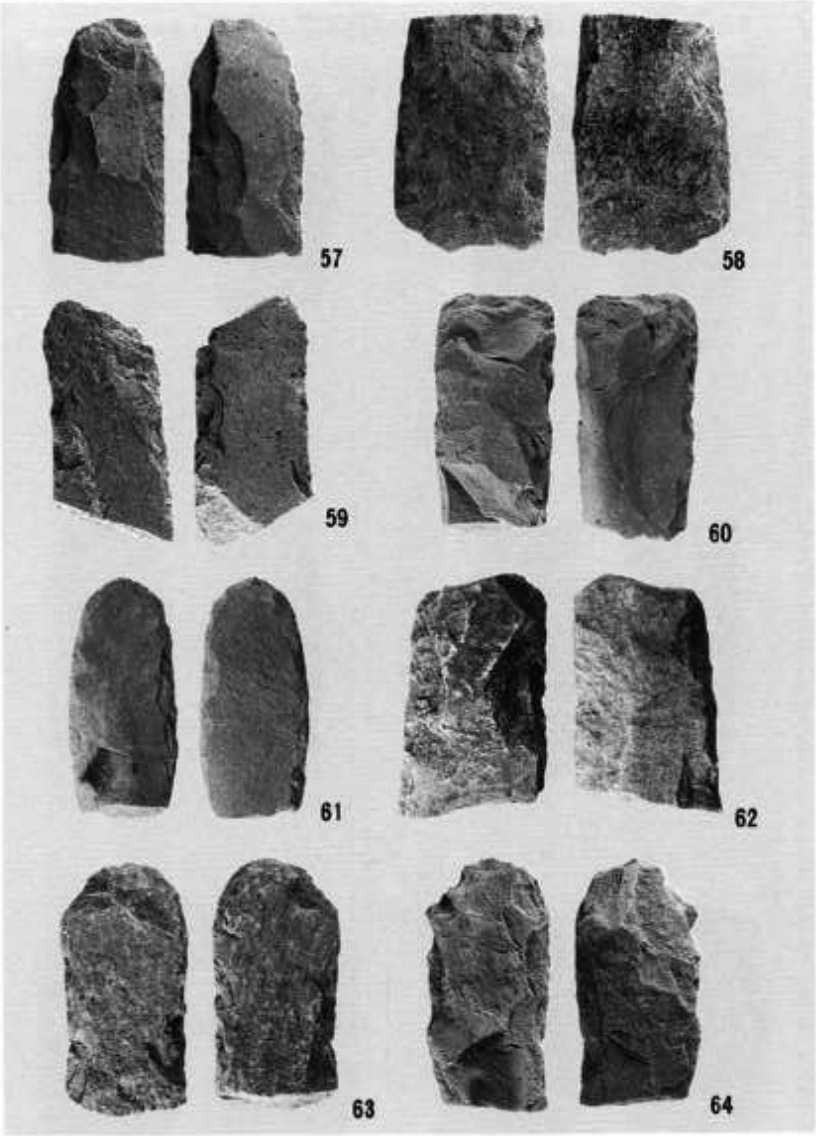
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（4）(1/4)



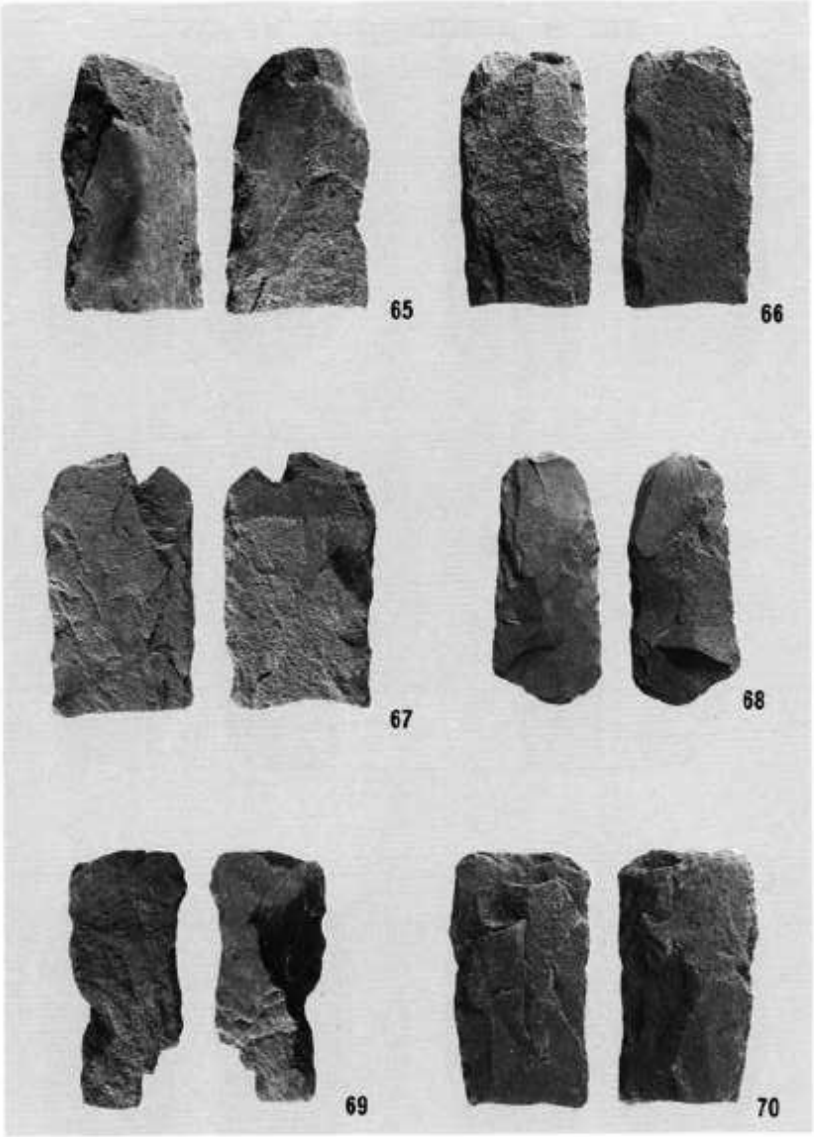
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（5）(1/4)



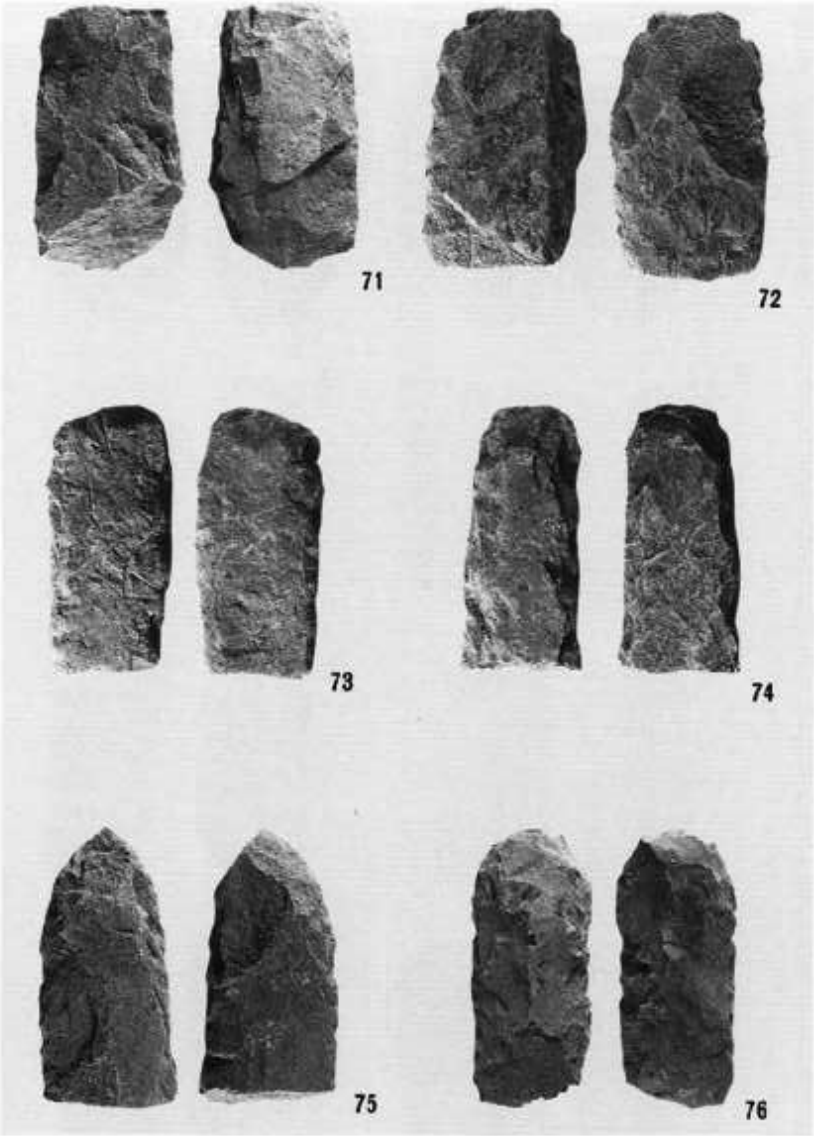
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（6）(1/4)



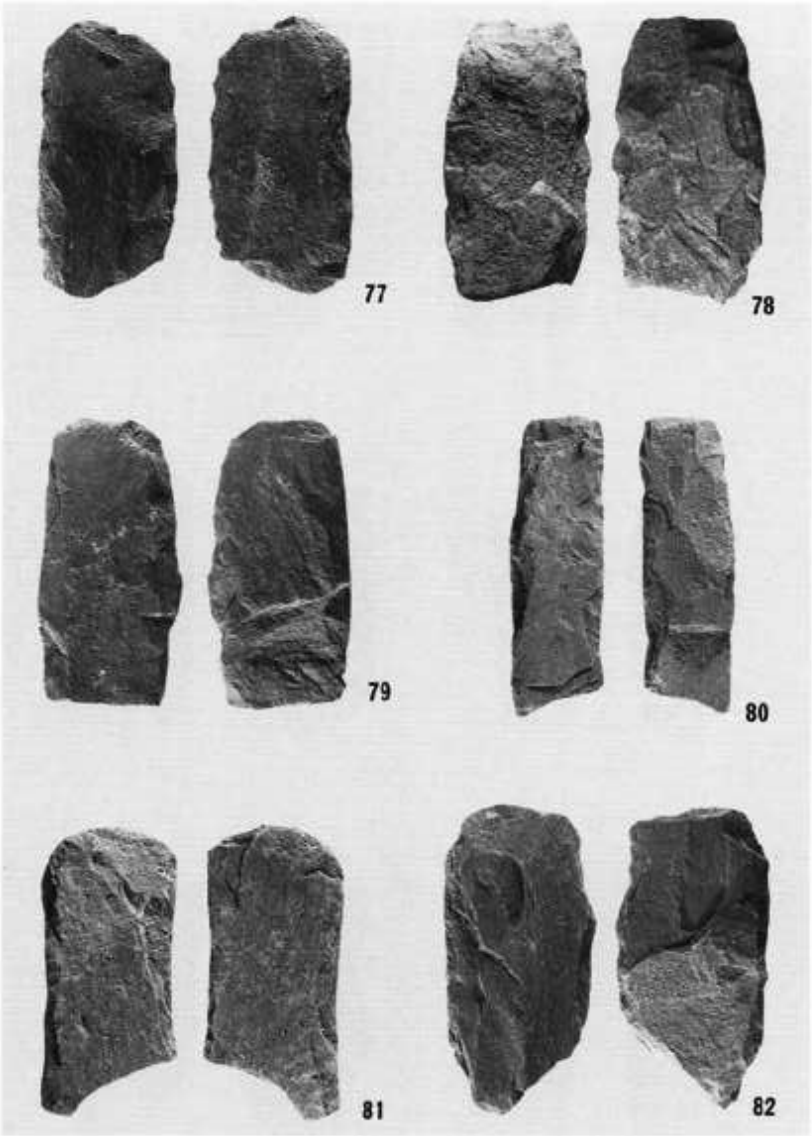
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（7）(1/4)



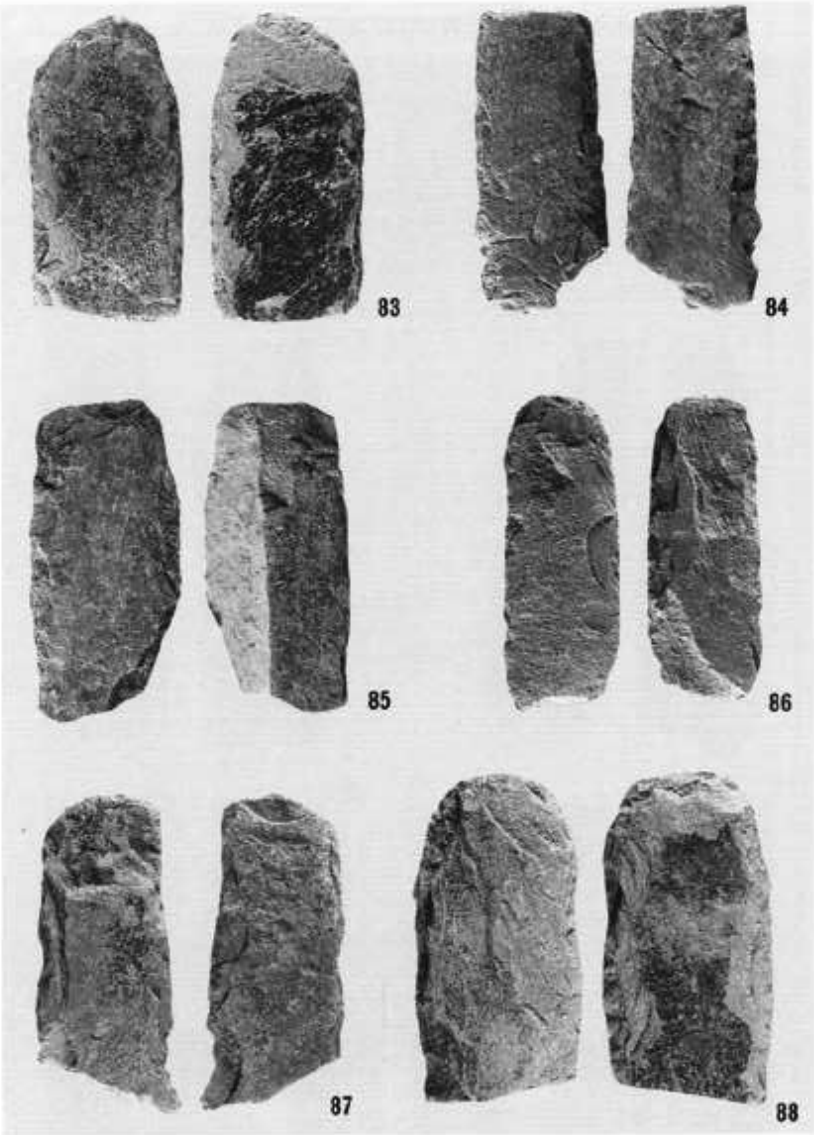
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（8）(1/4)



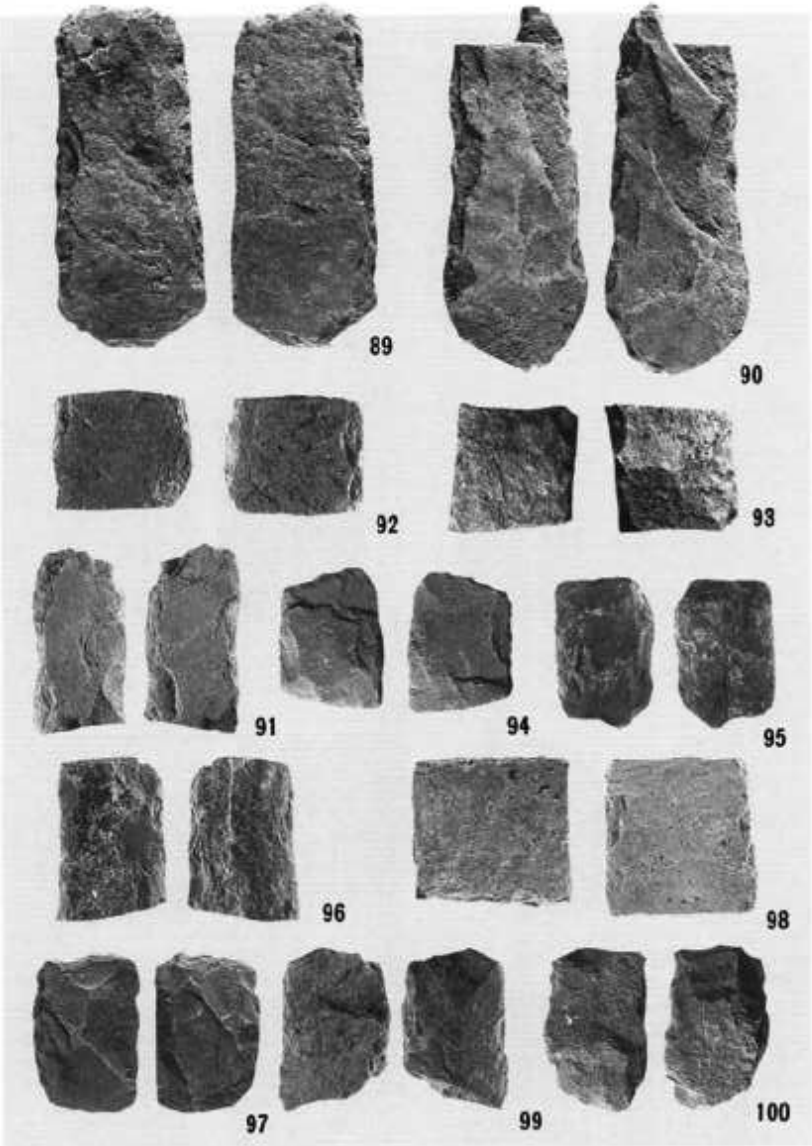
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（9）(1/4)



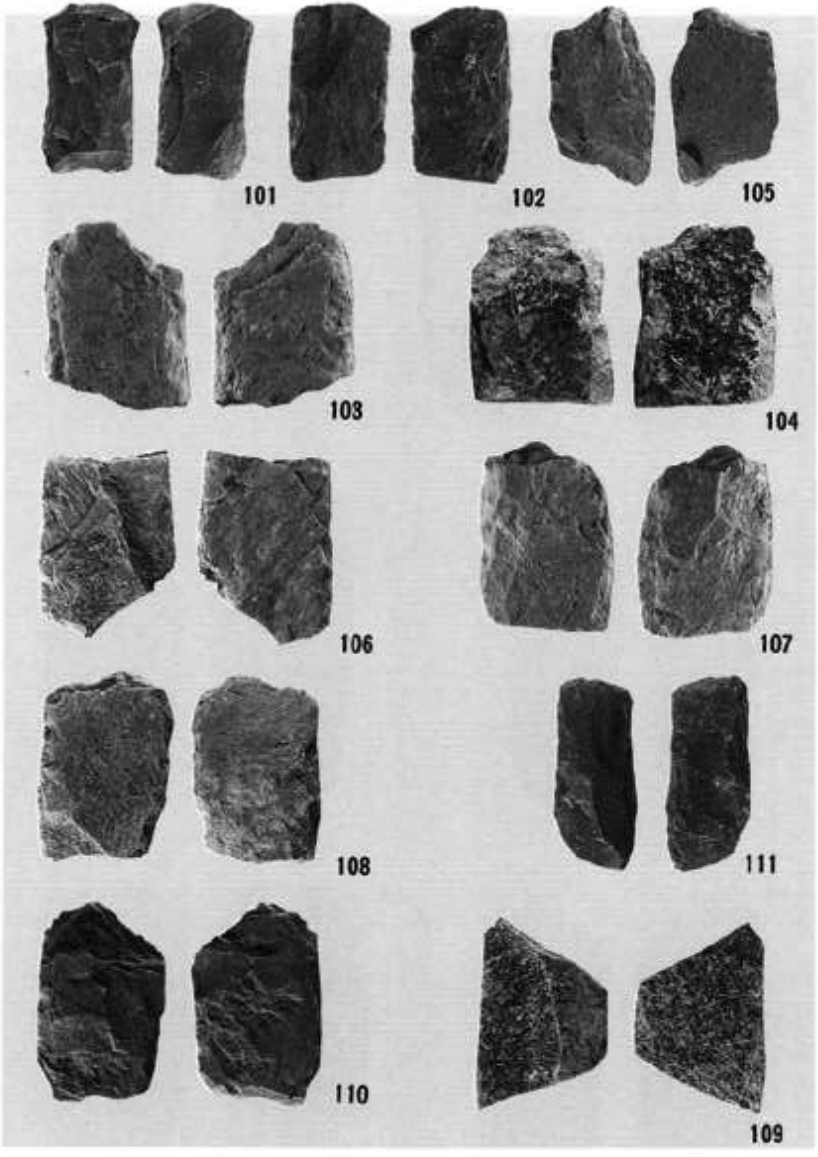
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（10）(1/4)



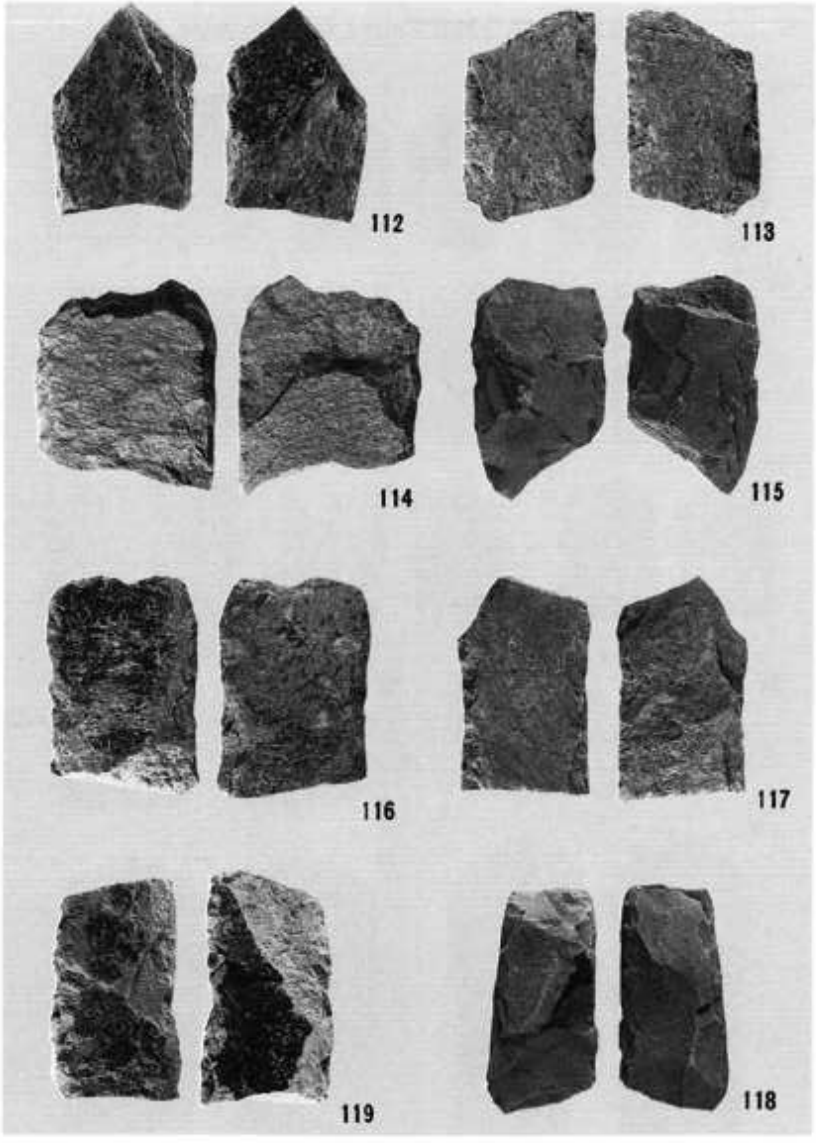
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (11) (1/4)



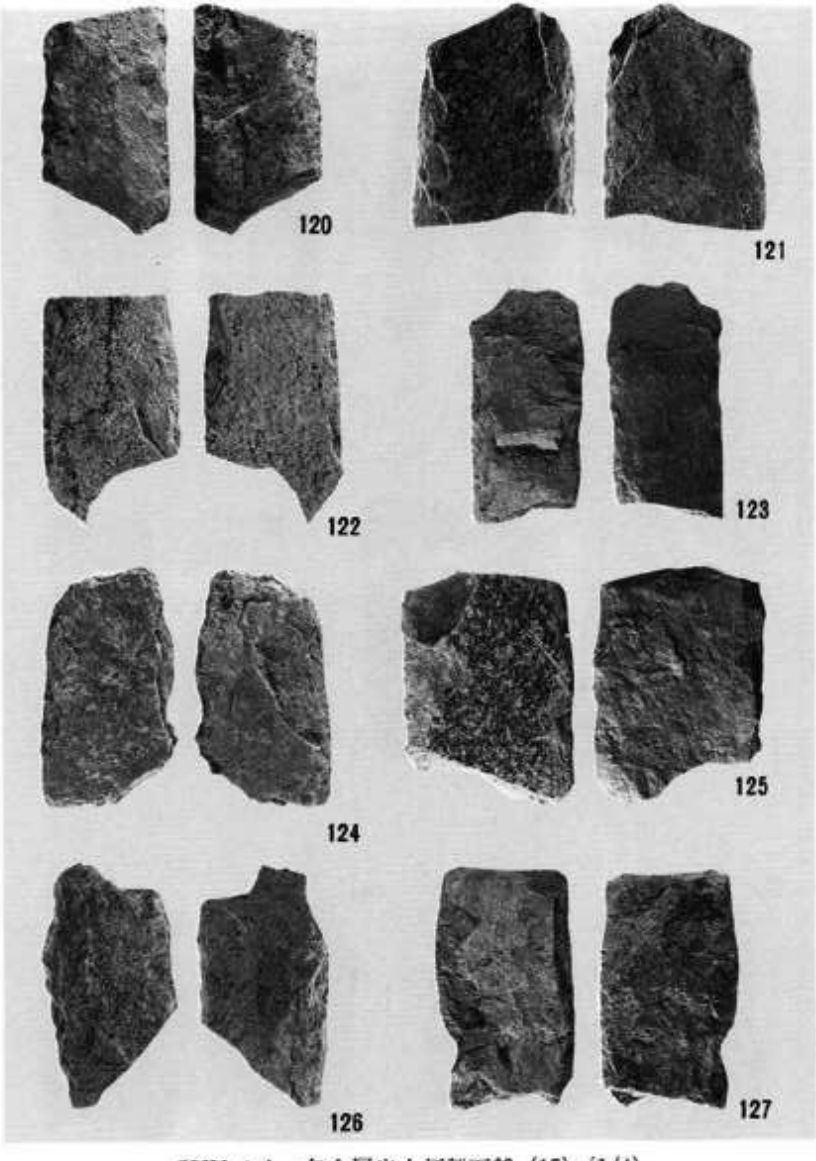
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (12) (1/4)



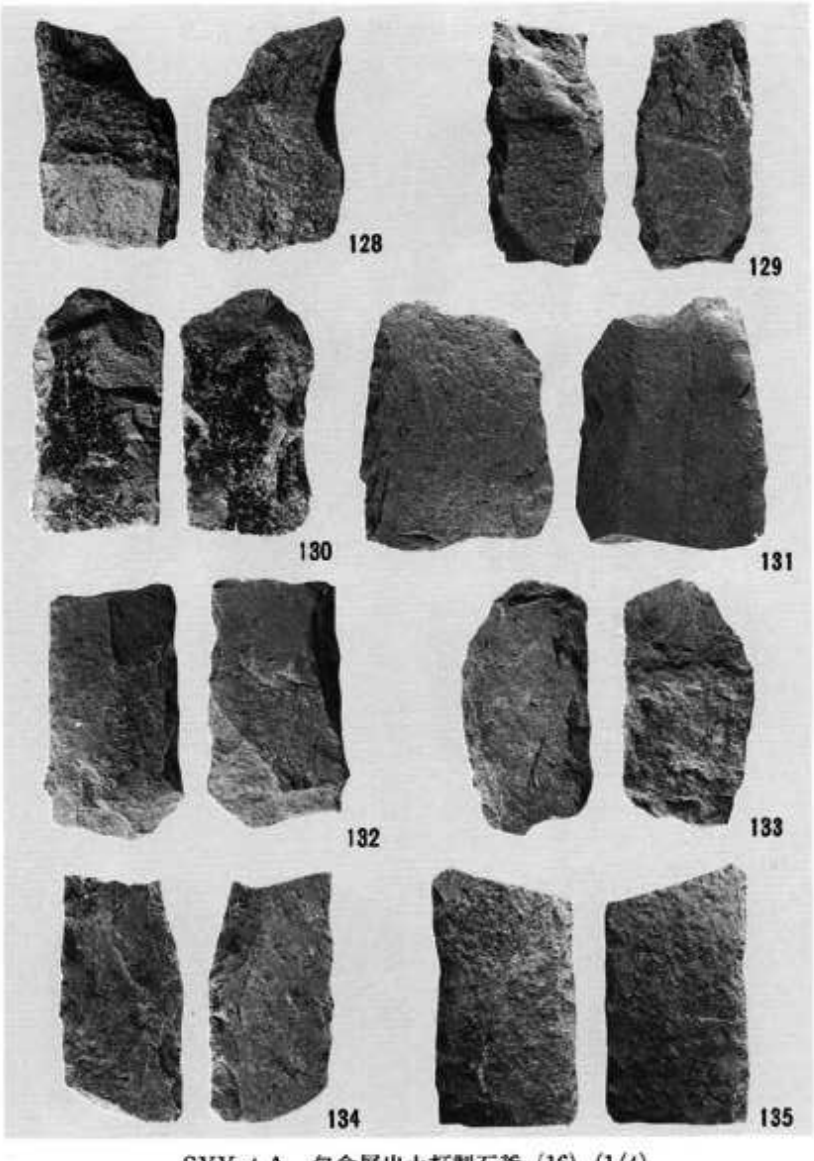
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (13) (1/4)



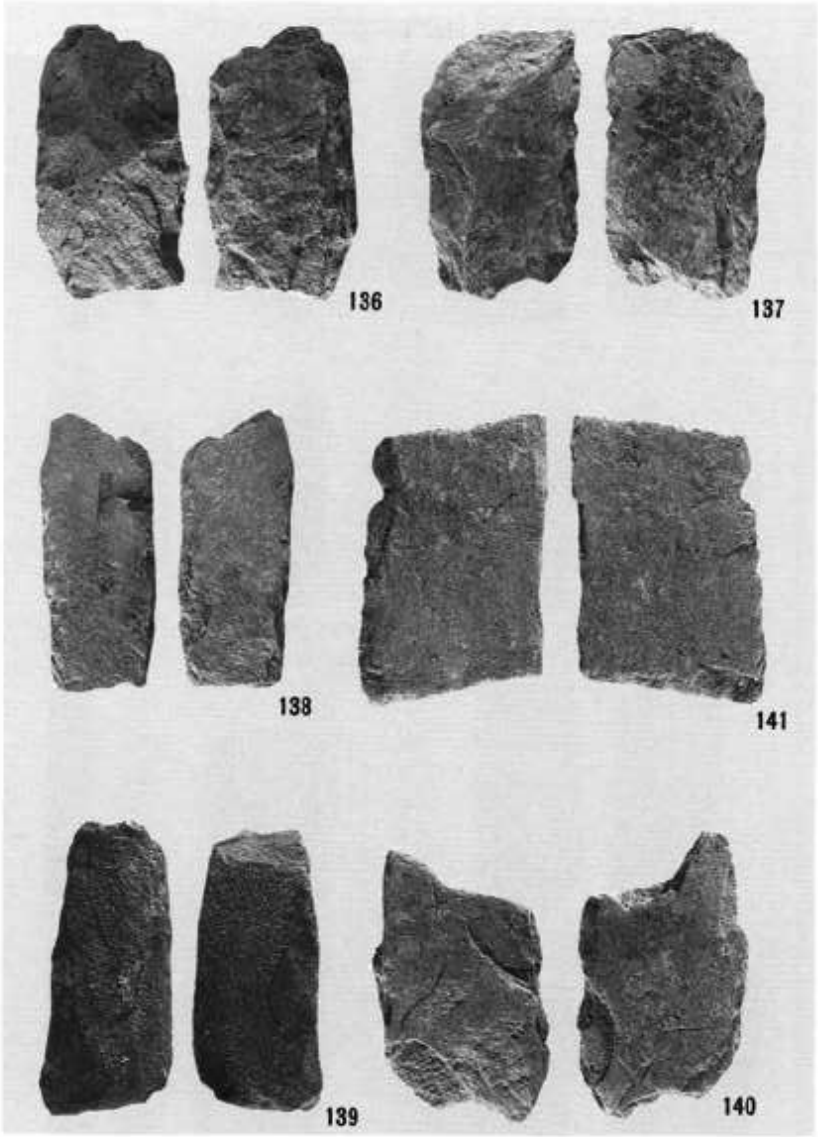
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (14) (1/4)



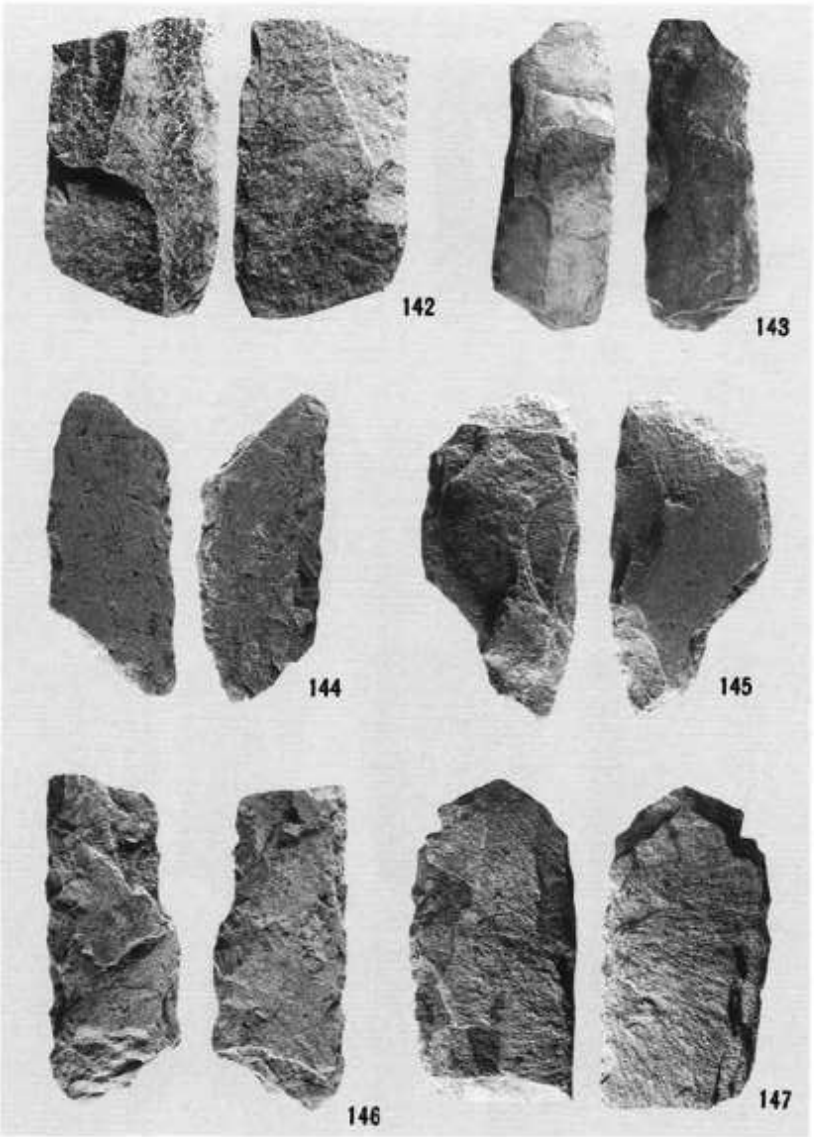
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (15) (1/4)



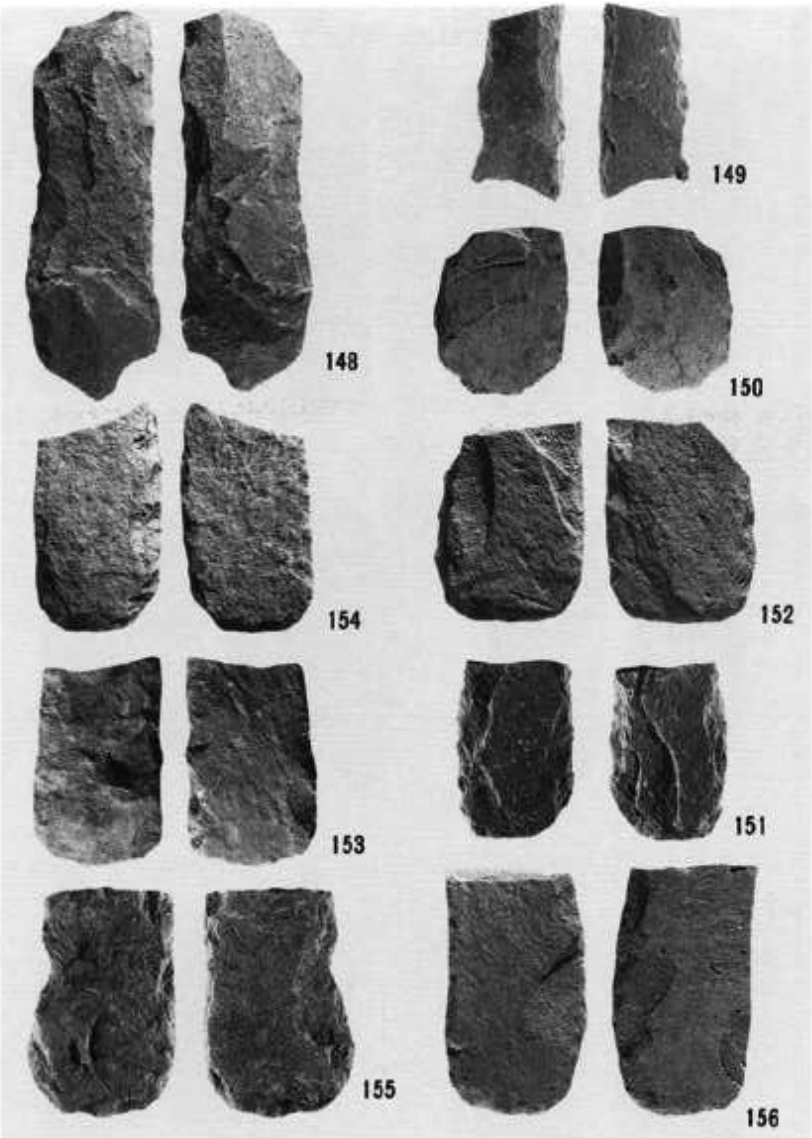
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (16) (1/4)



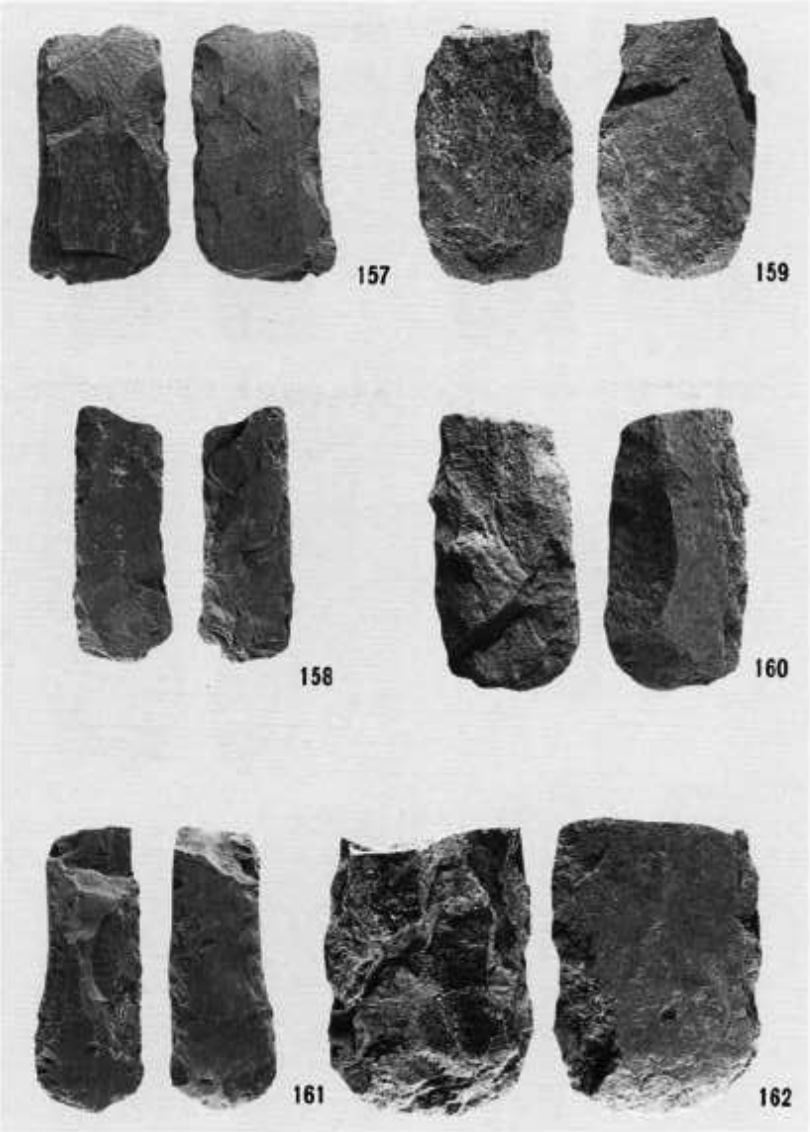
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (17) (1/4)



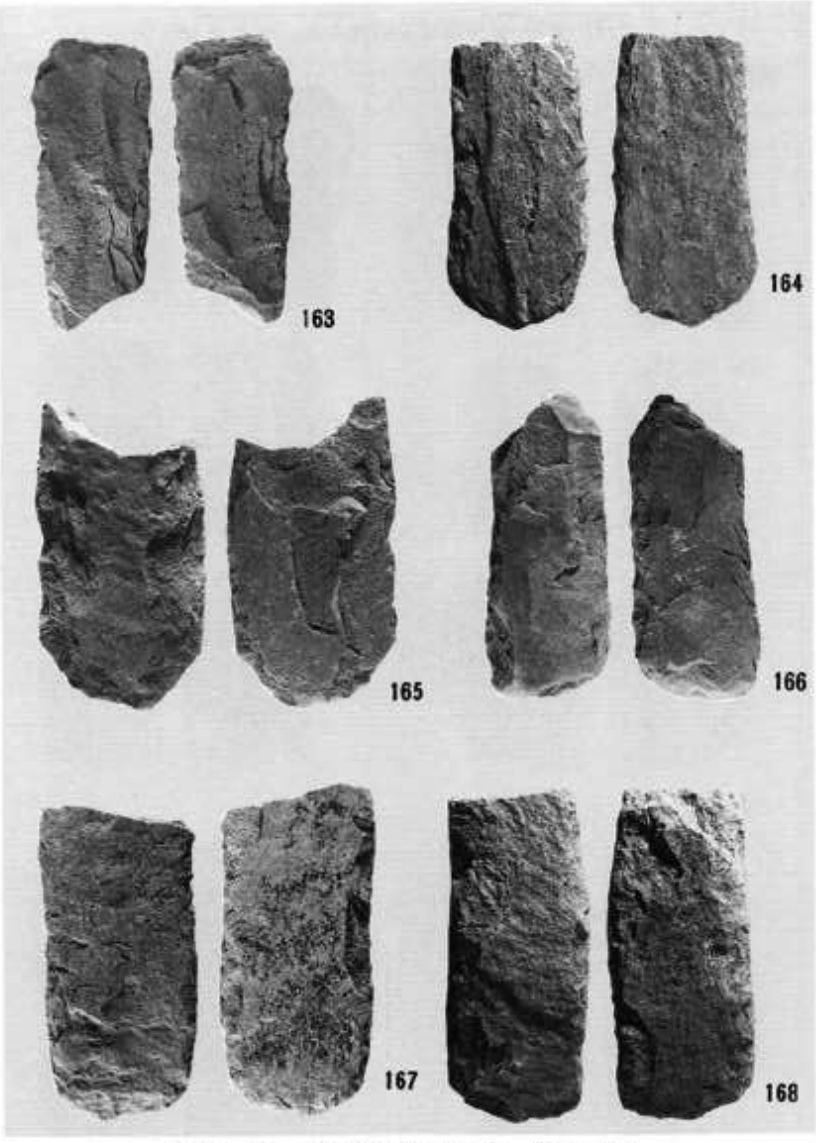
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (18) (1/4)



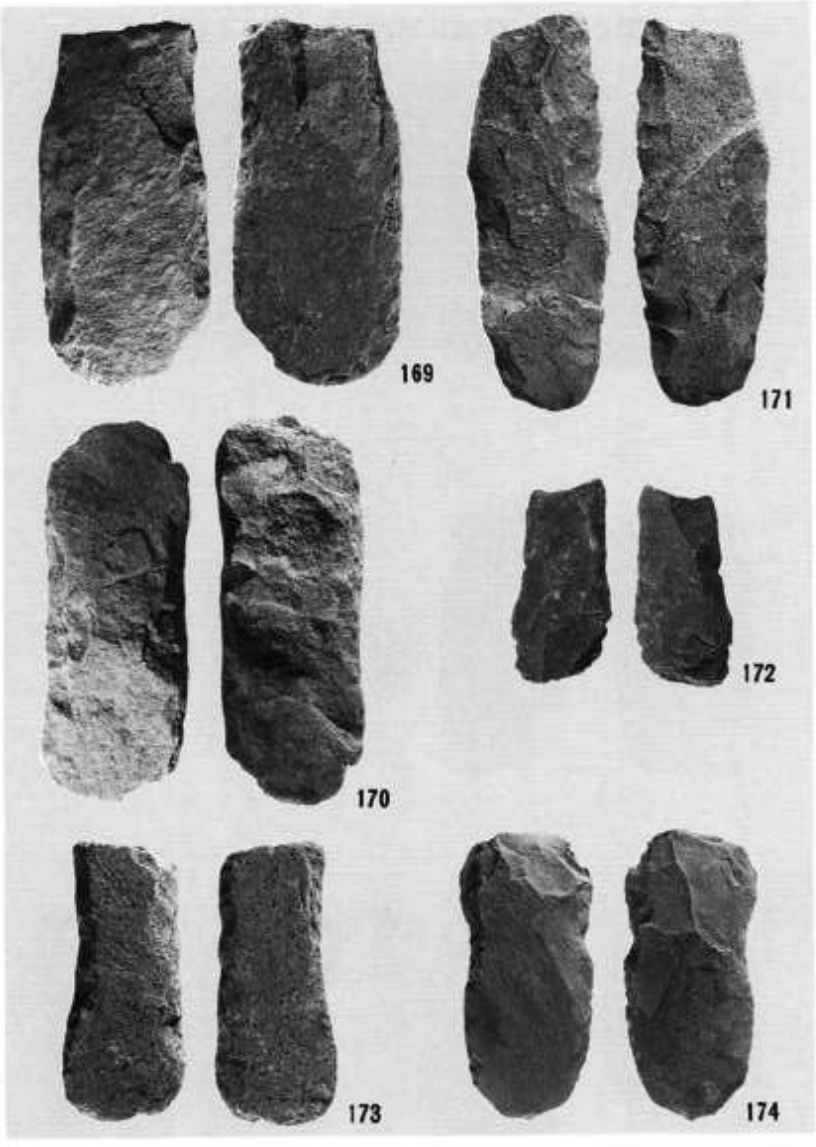
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（19）（1/4）



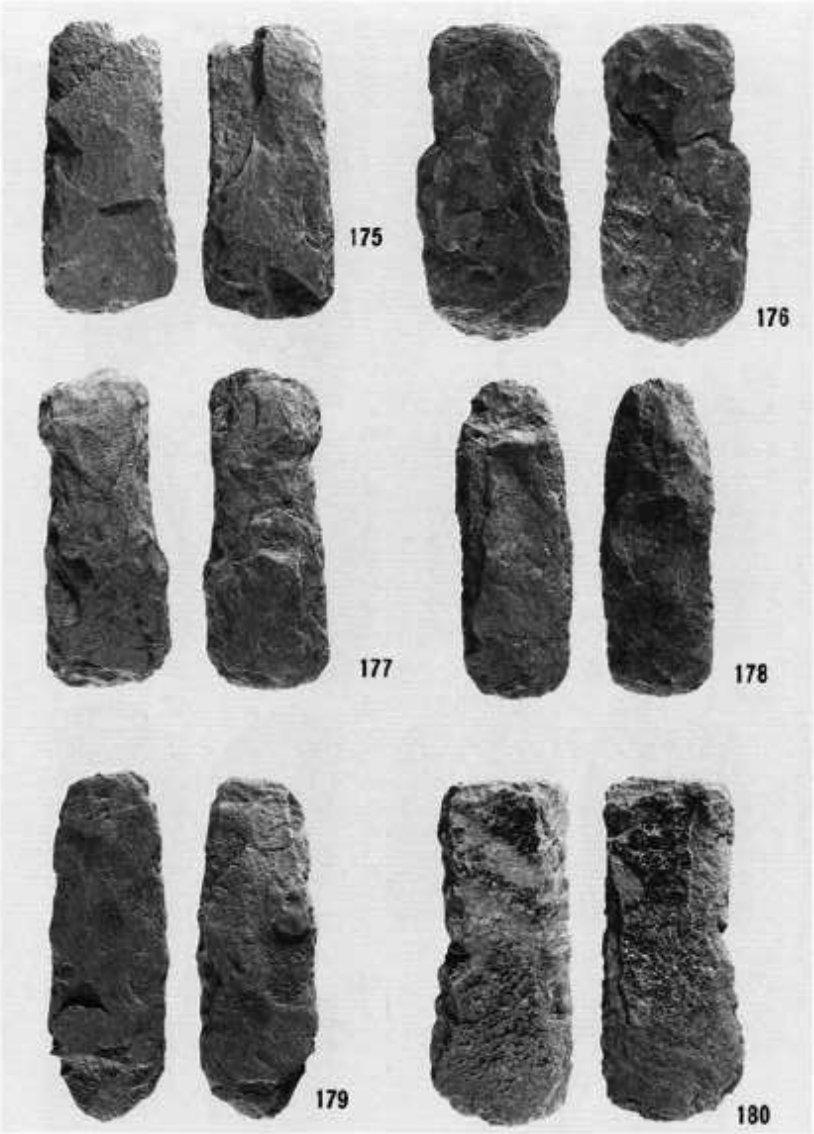
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（20）（1/4）



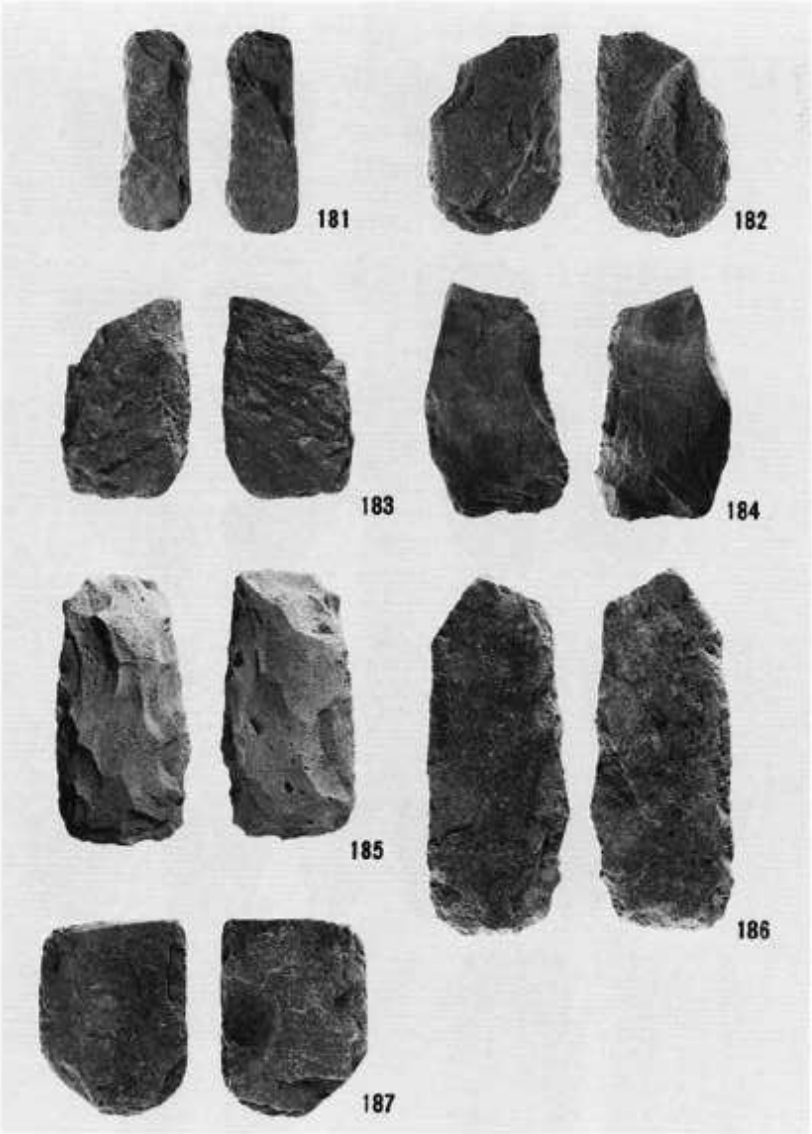
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (21) (1/4)



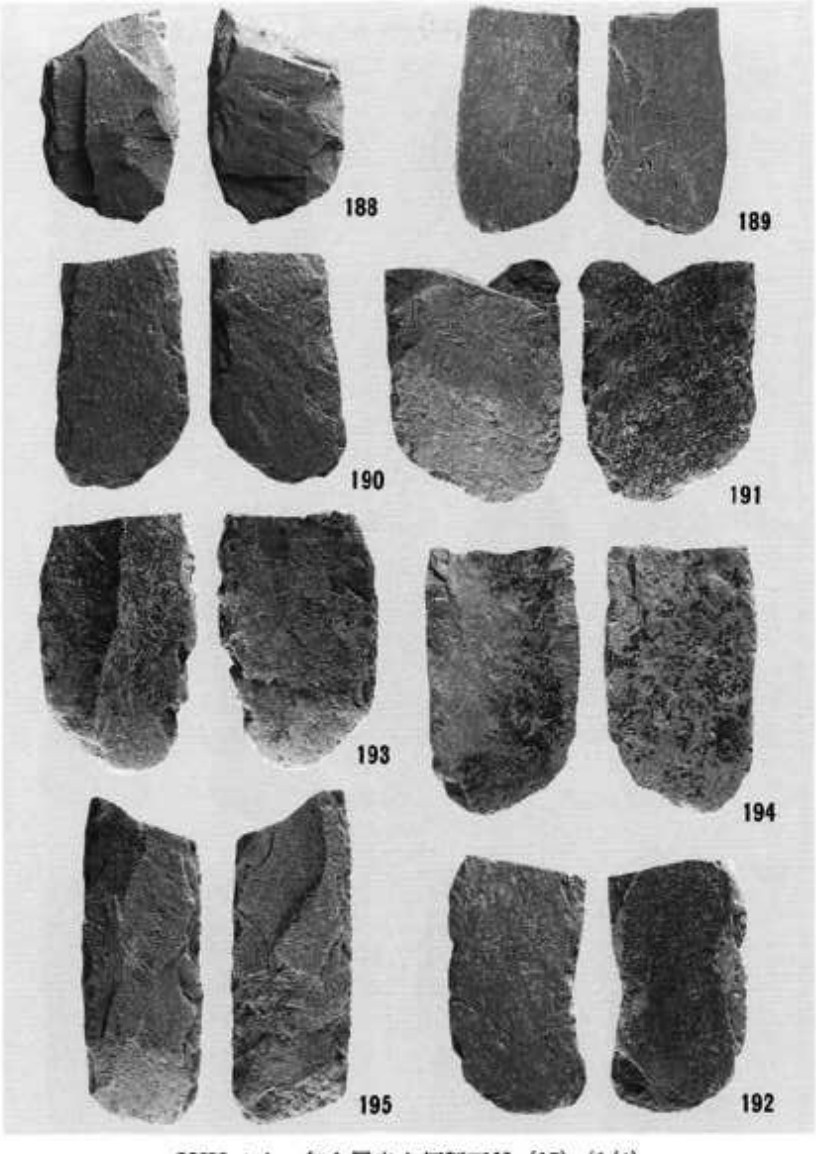
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (22) (1/4)



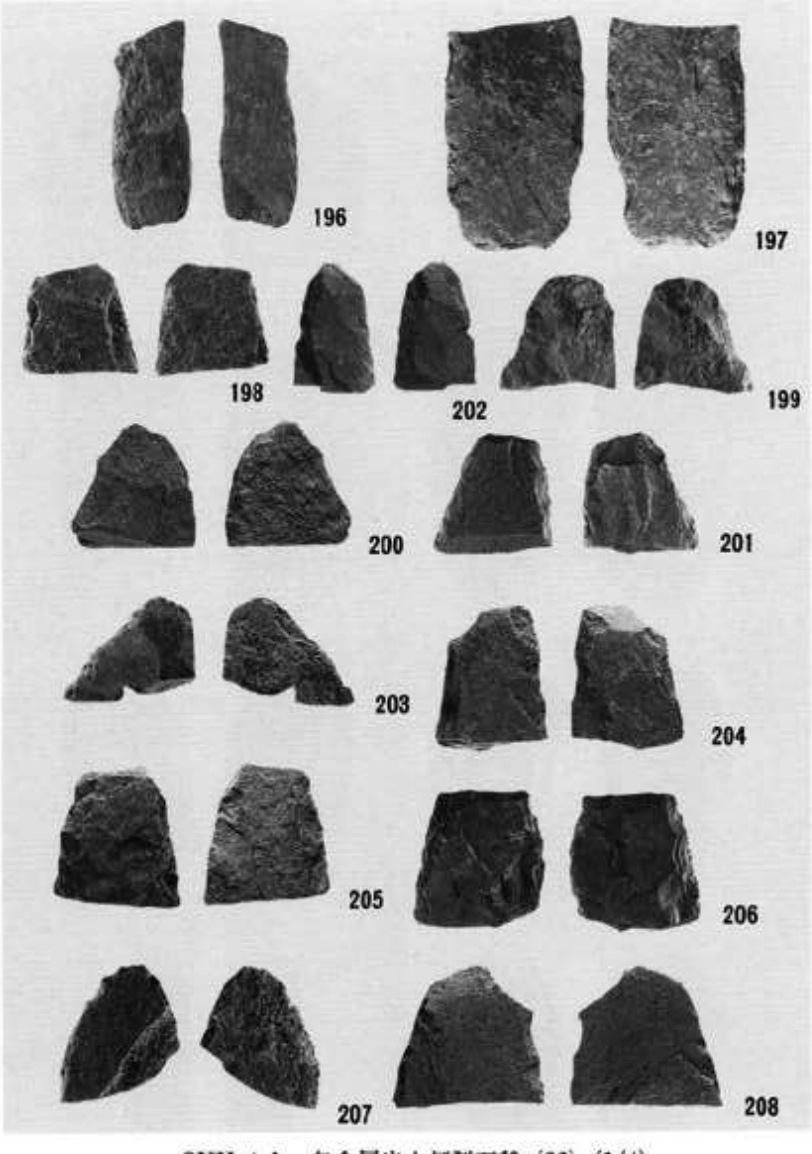
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（23）（1/4）



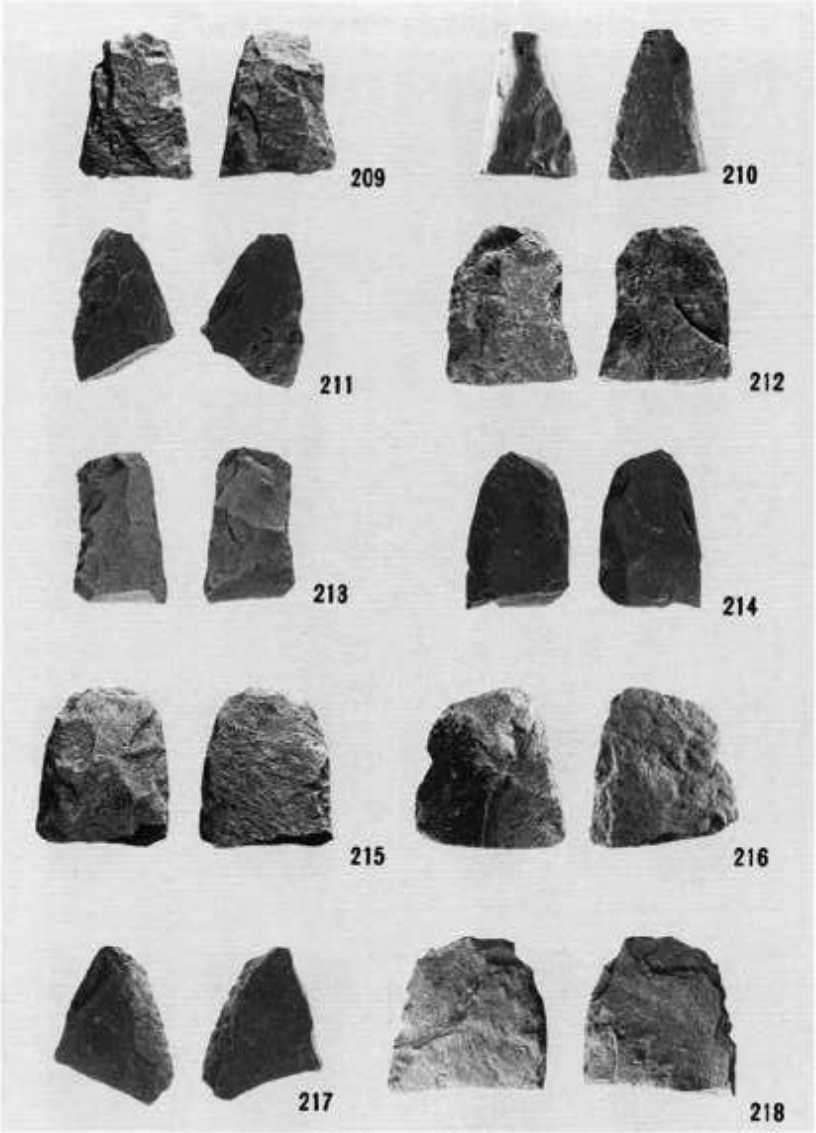
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（24）（1/4）



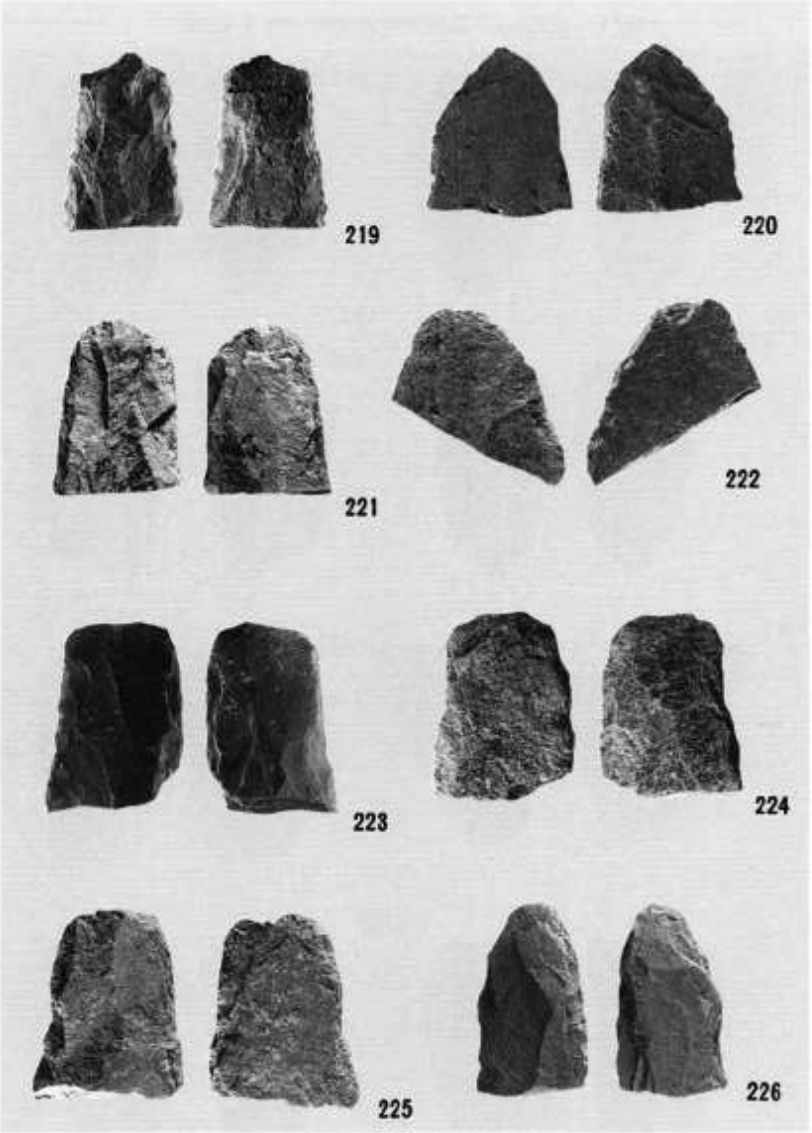
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (25) (1/4)



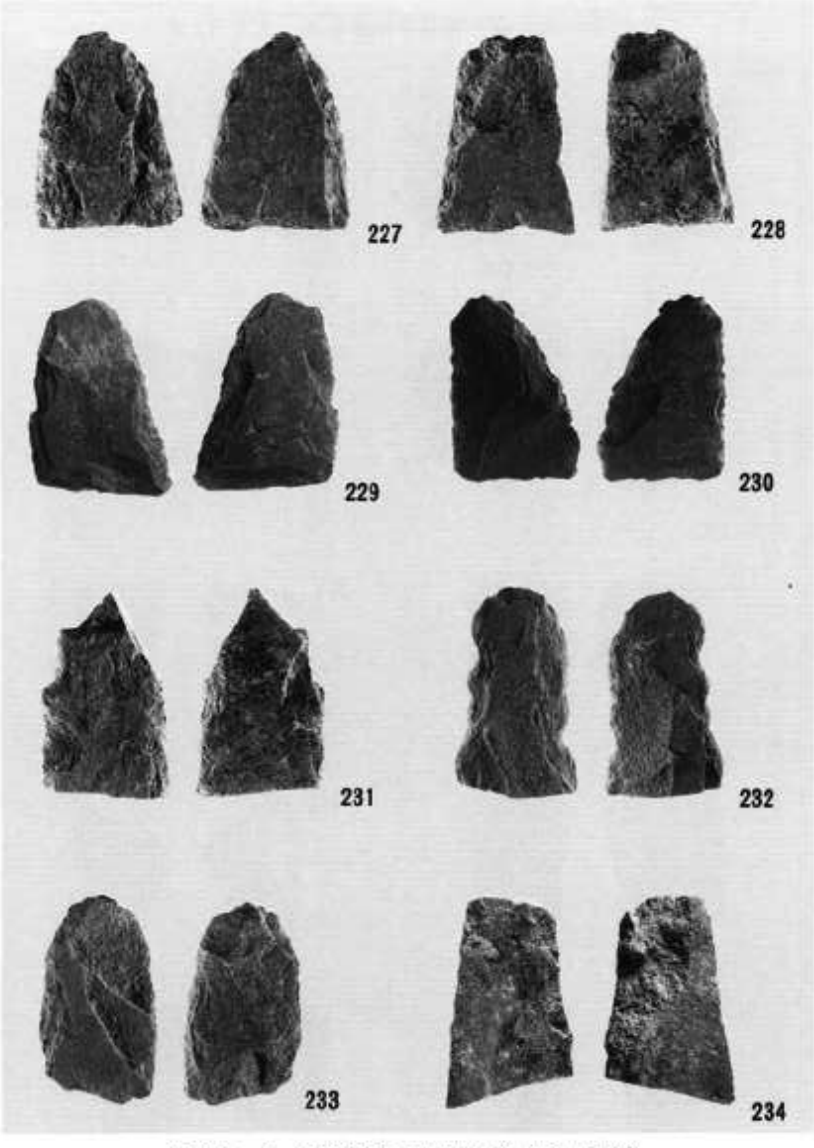
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (26) (1/4)



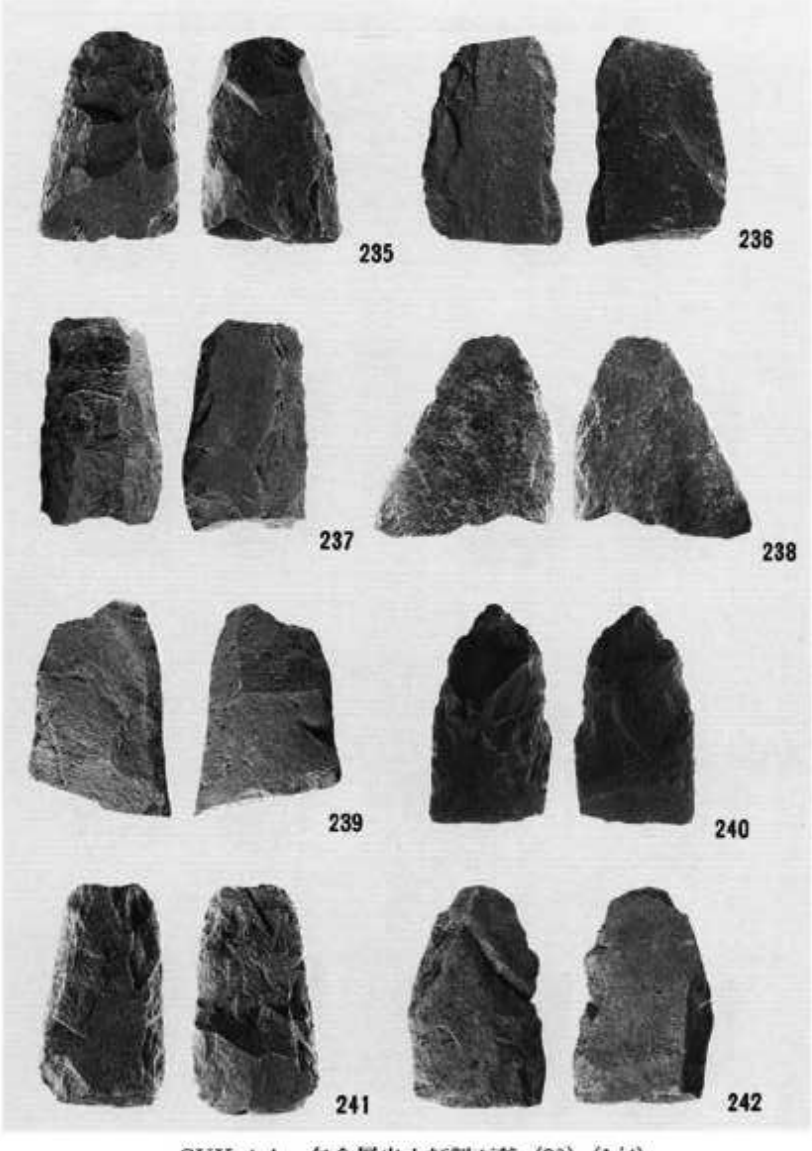
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (27) (1/4)



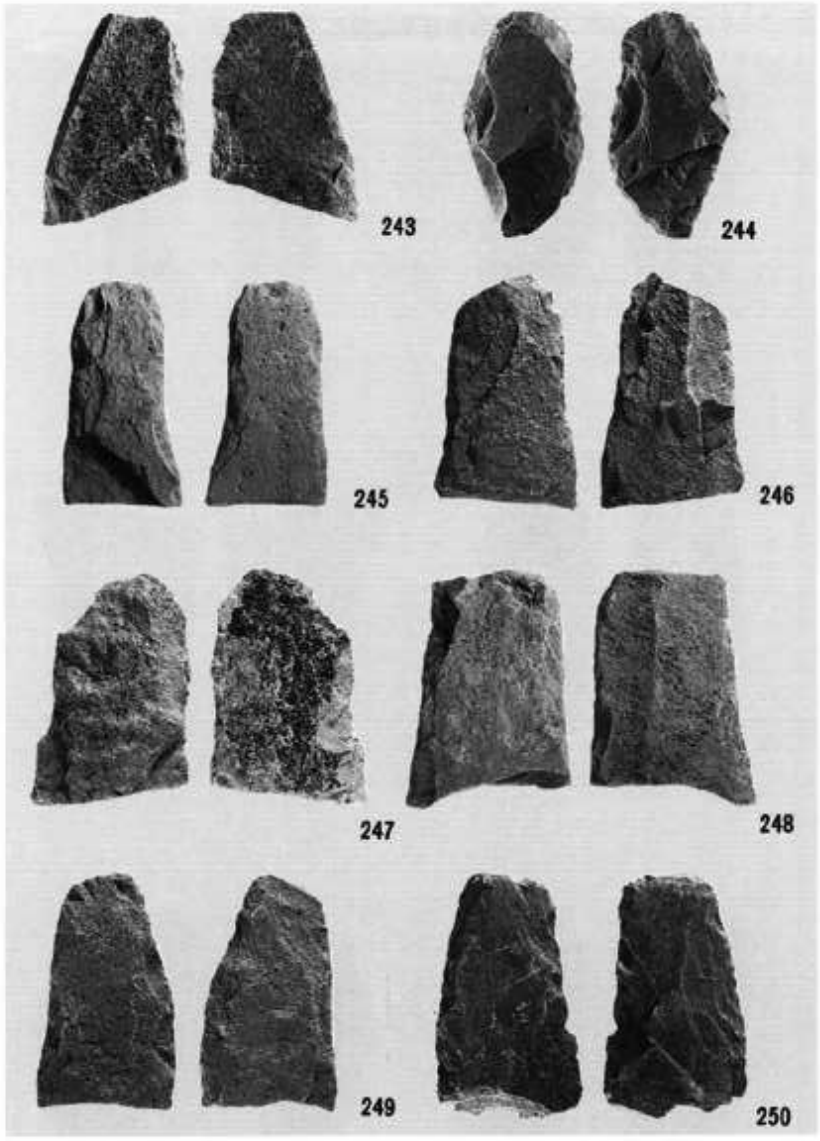
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (28) (1/4)



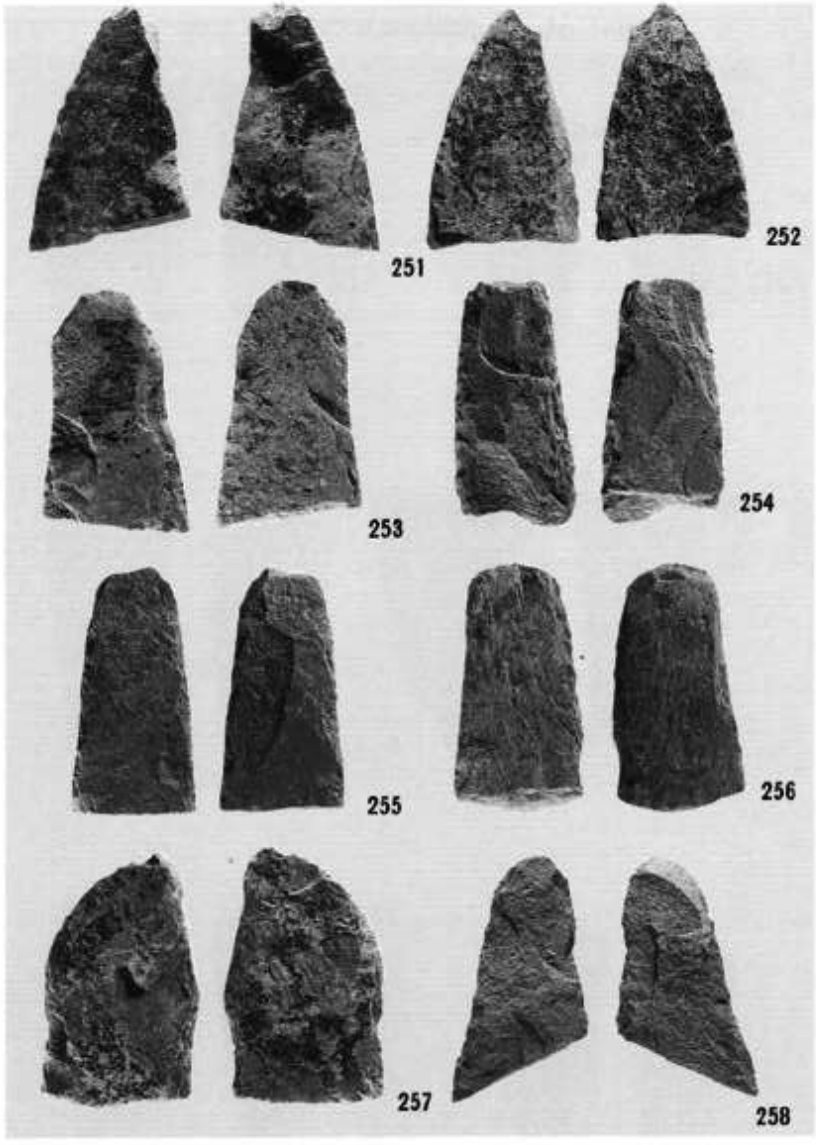
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (29) (1/4)



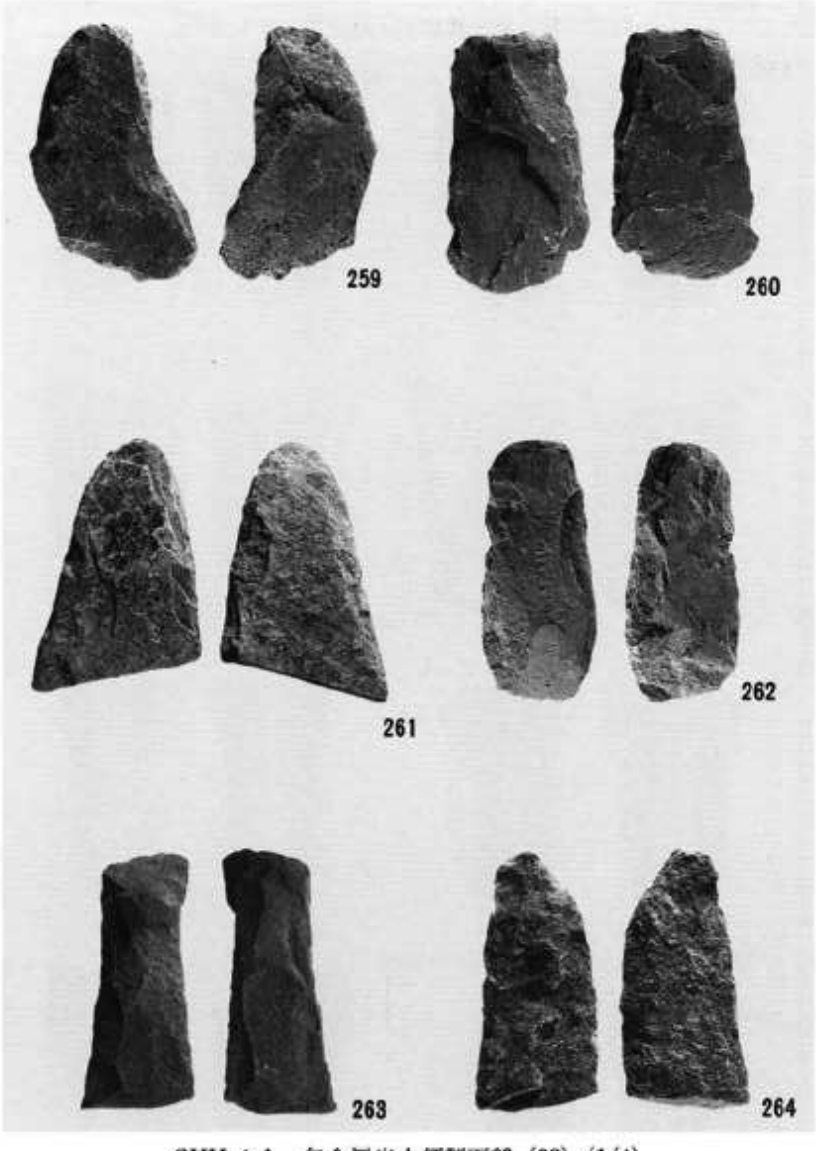
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (30) (1/4)



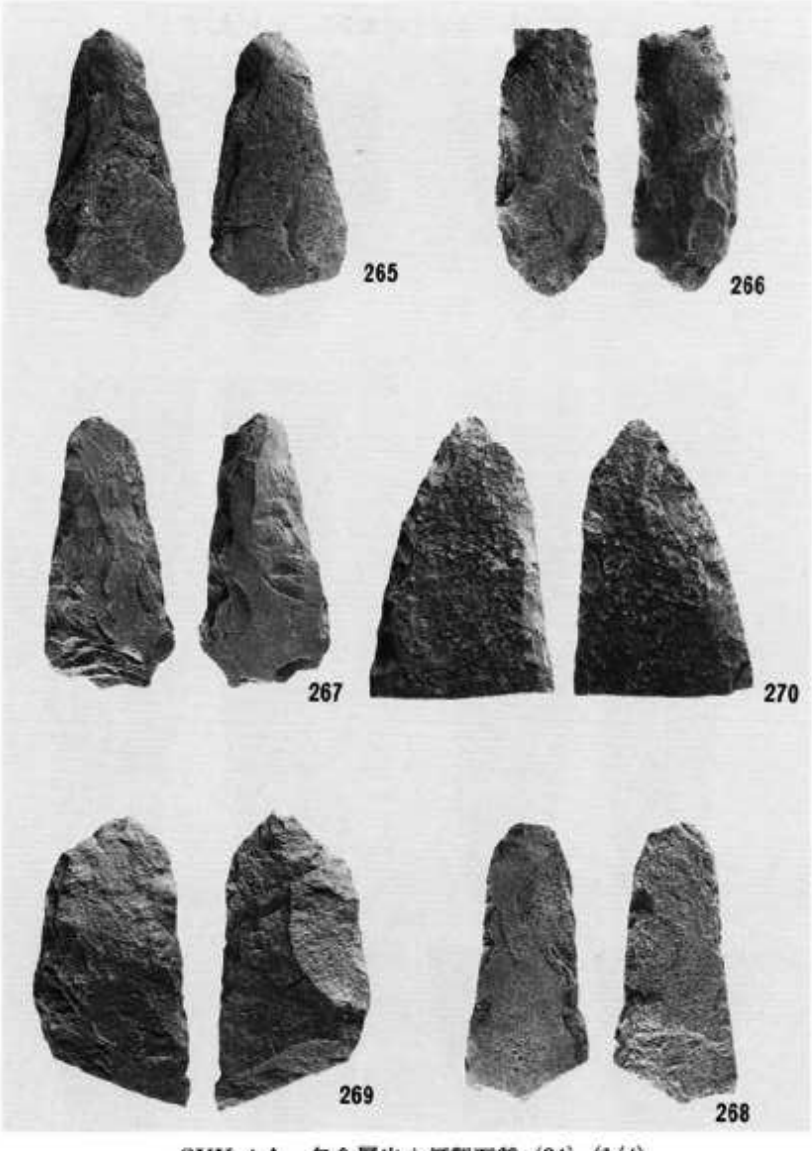
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (31) (1/4)



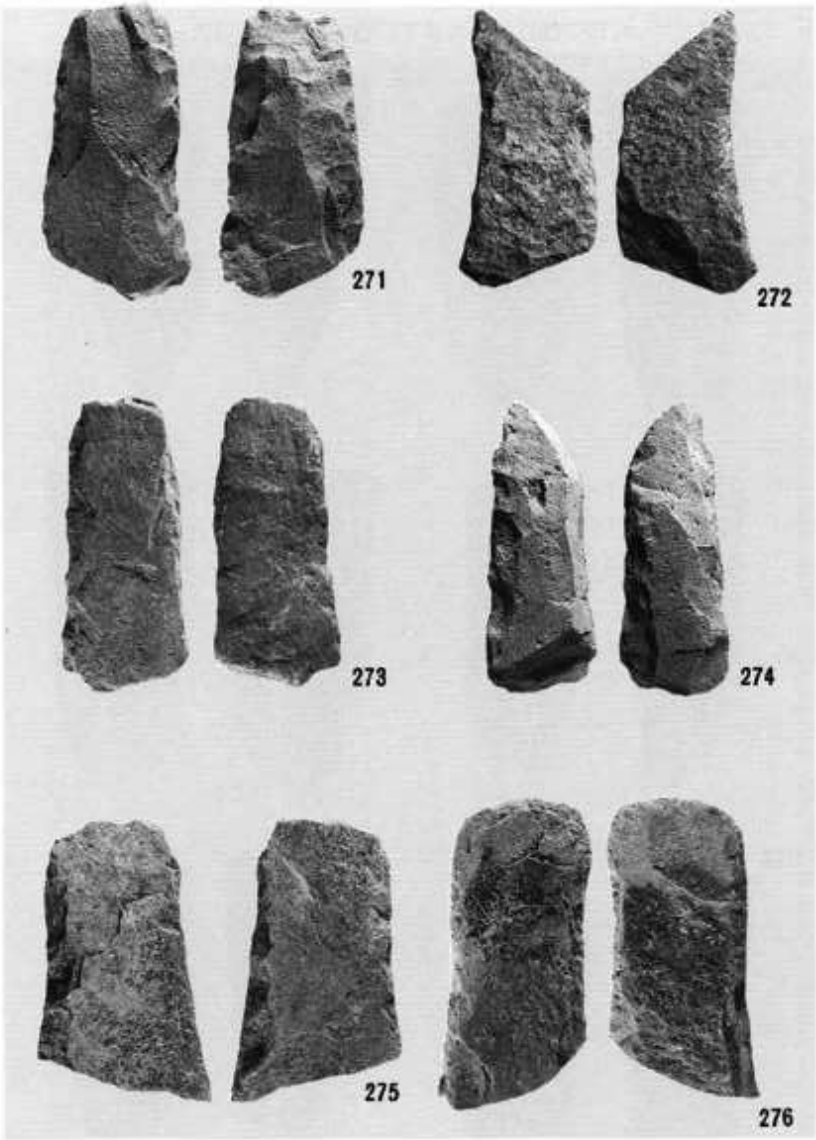
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (32) (1/4)



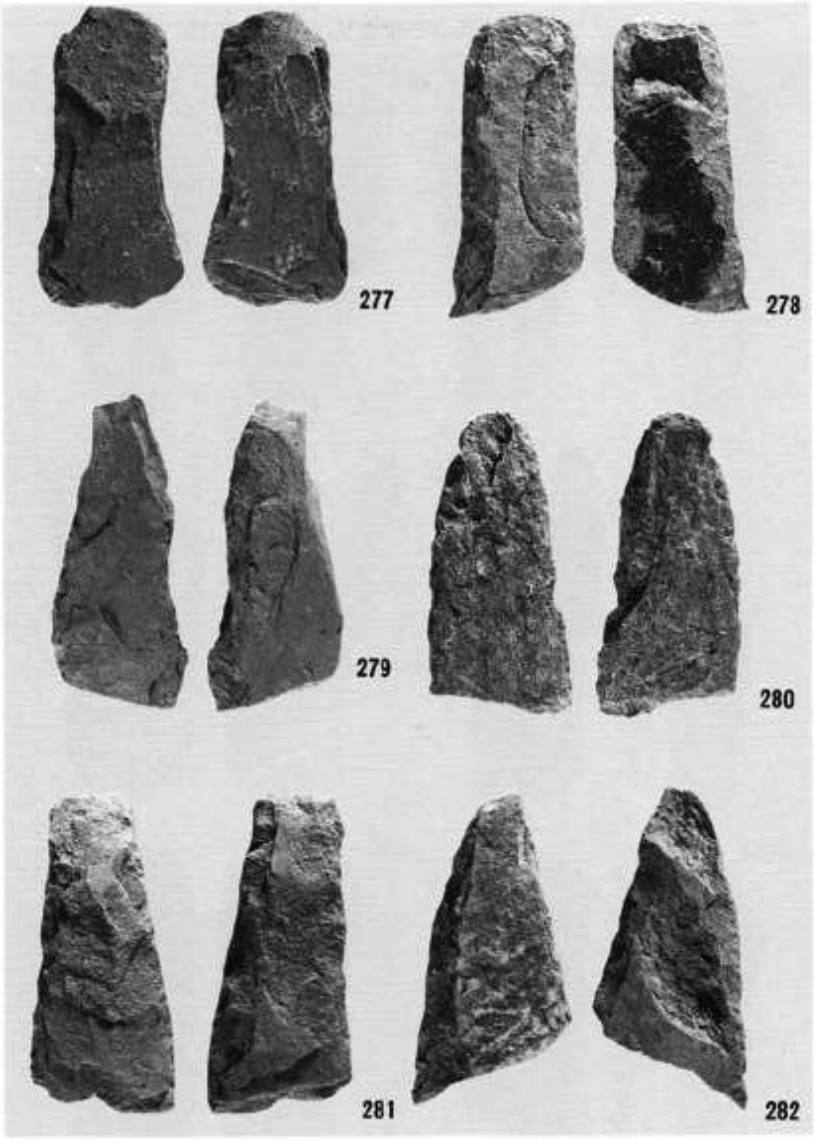
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (33) (1/4)



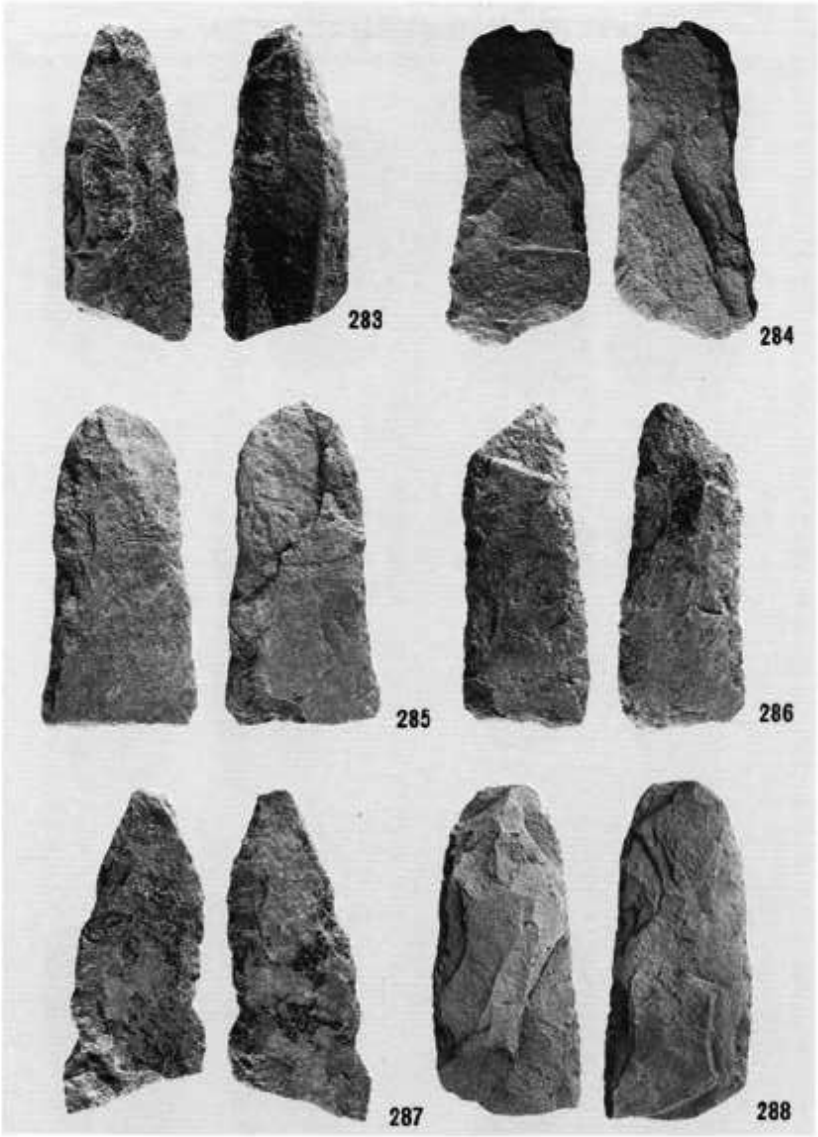
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (34) (1/4)



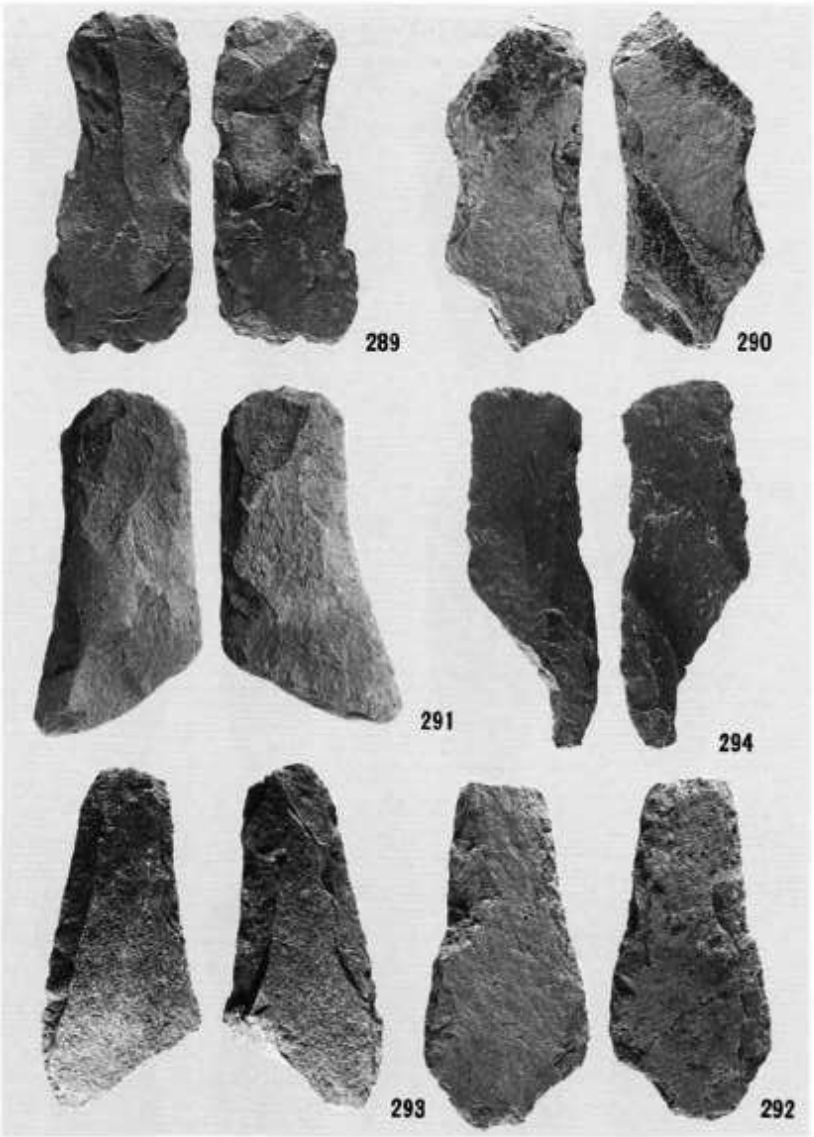
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (35) (1/4)



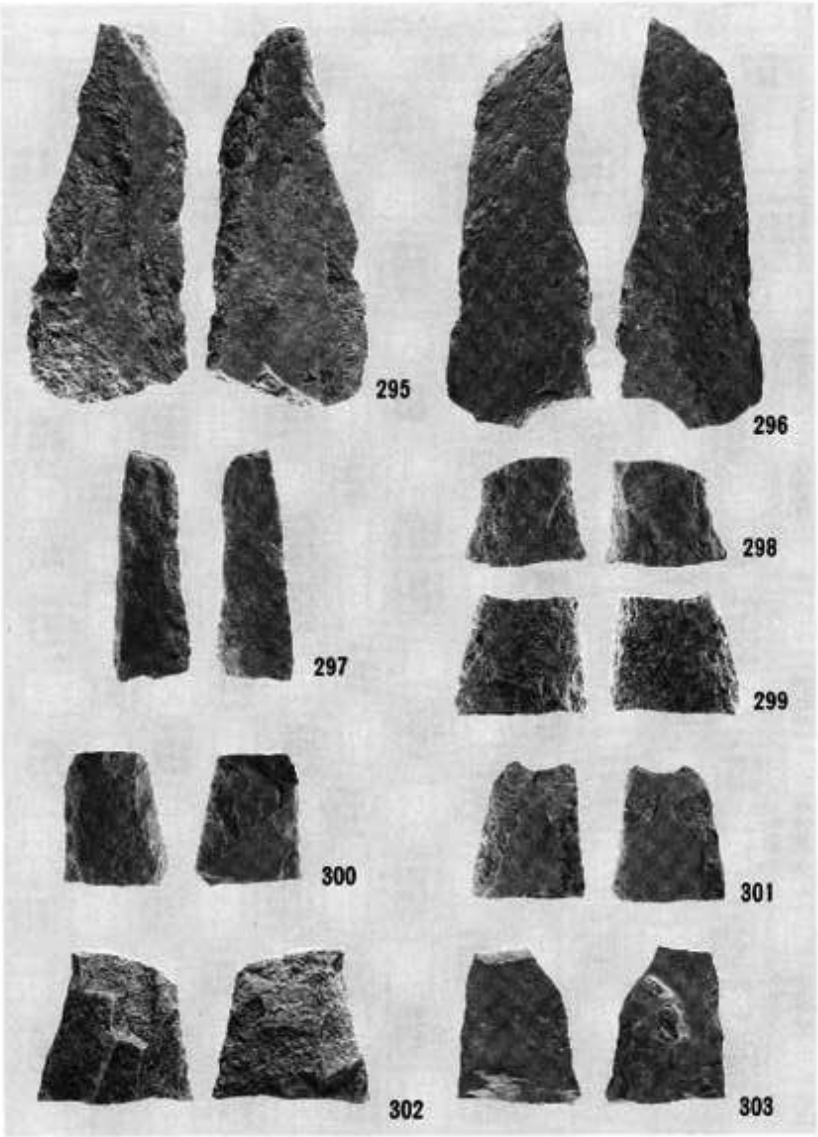
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (36) (1/4)



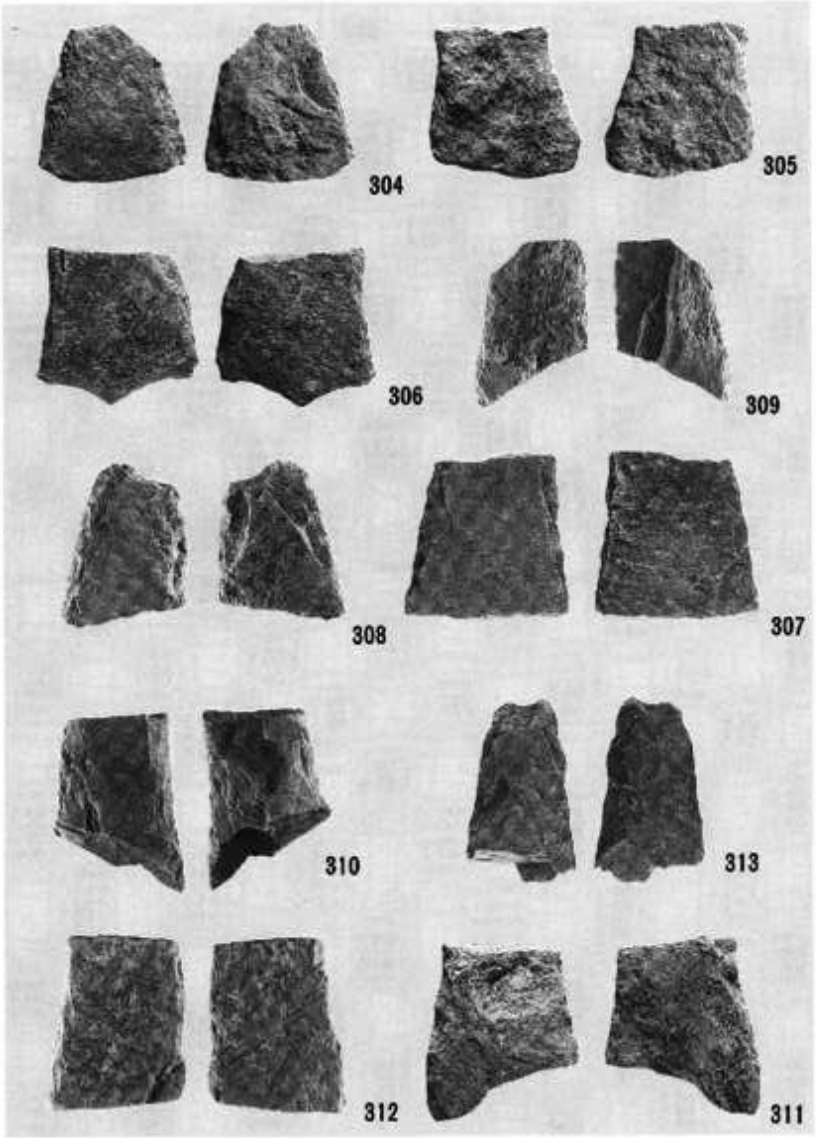
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (37) (1/4)



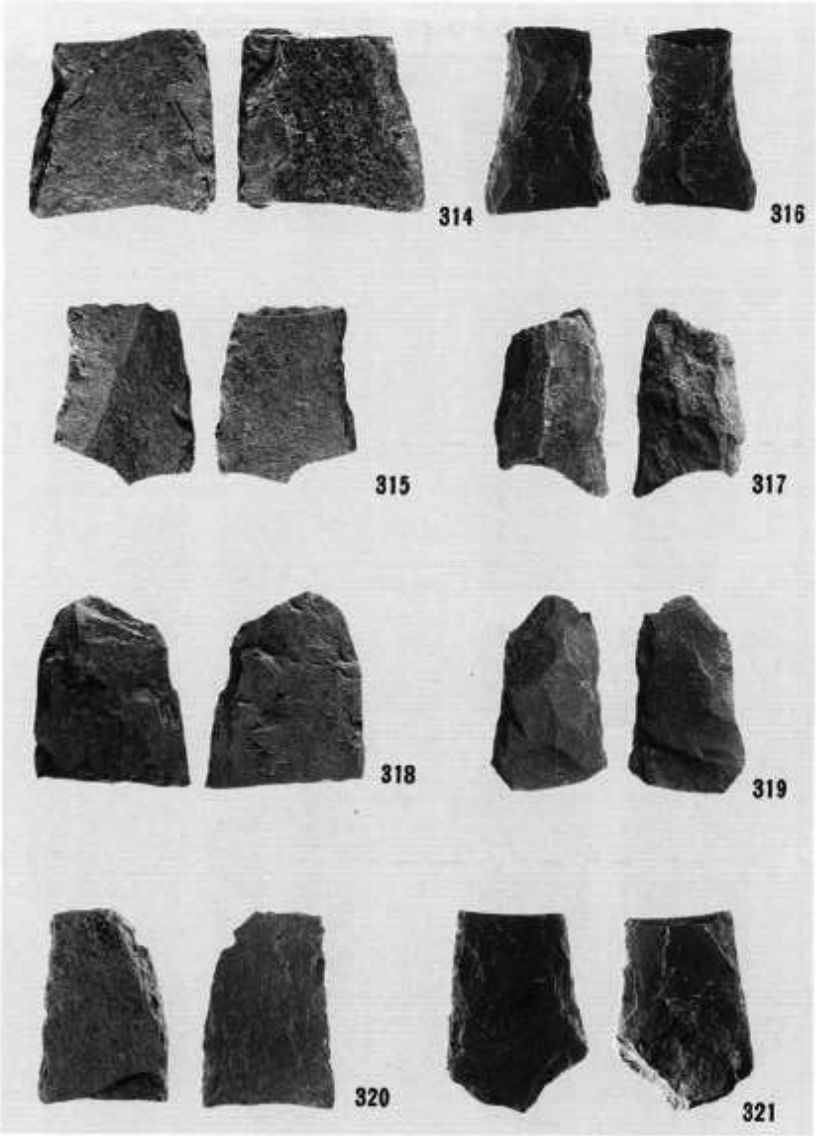
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (38) (1/4)



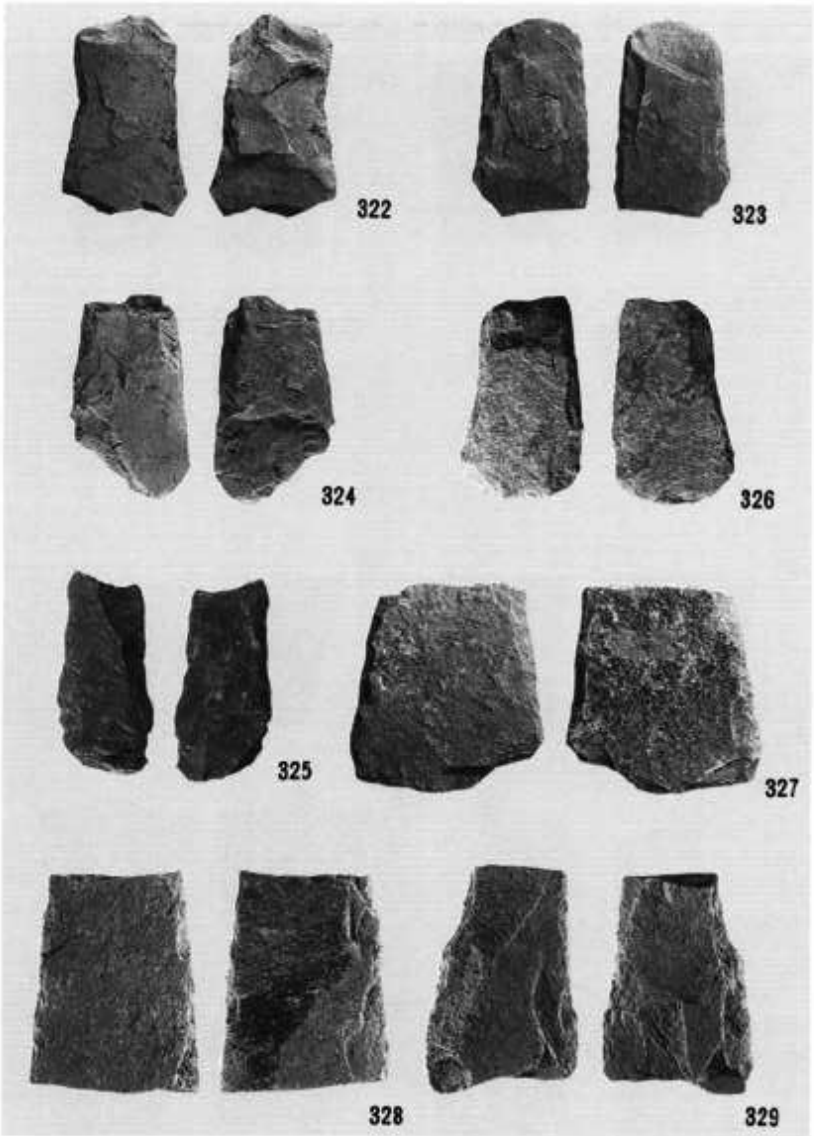
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (39) (1/4)



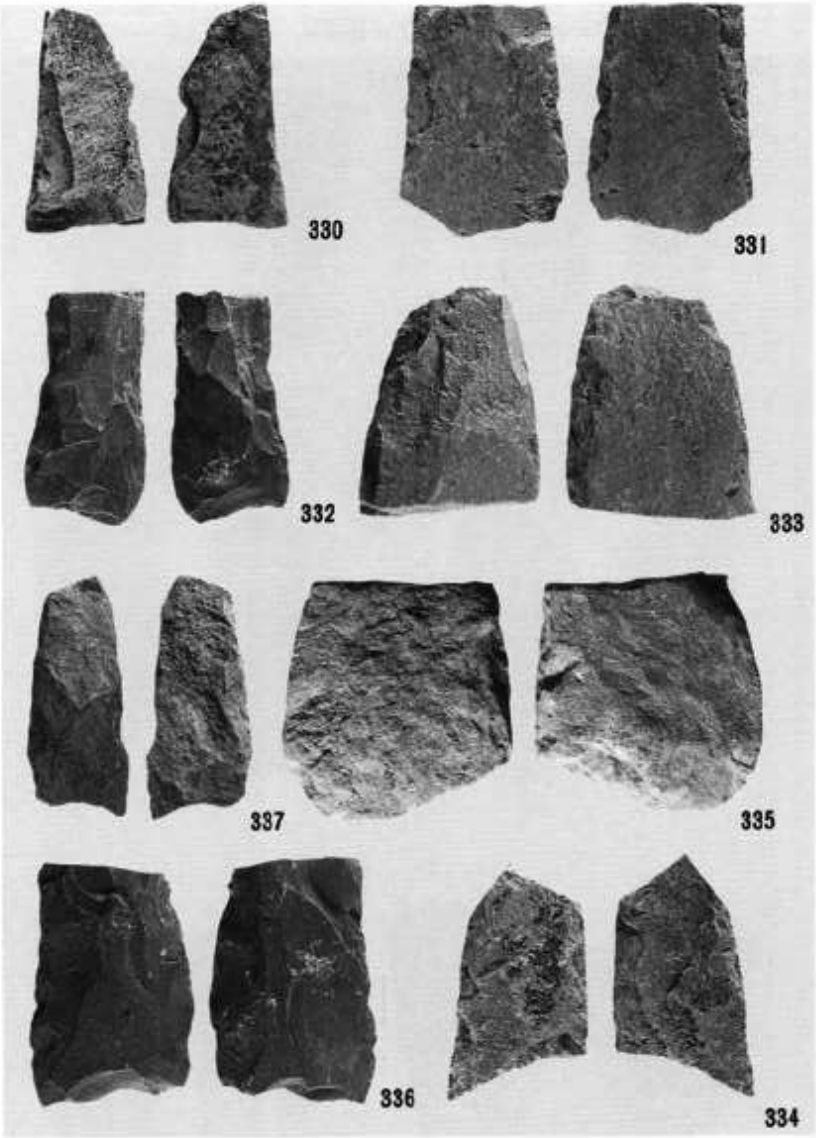
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (40) (1/4)



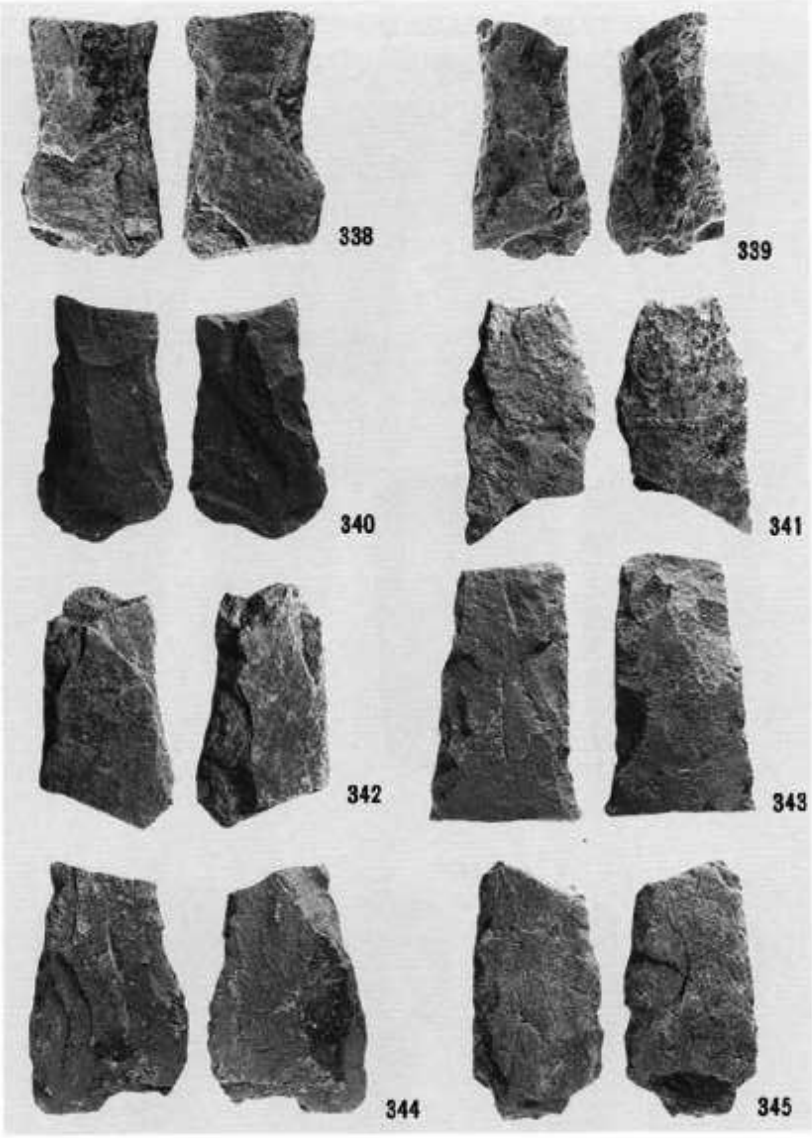
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（41）（1/4）



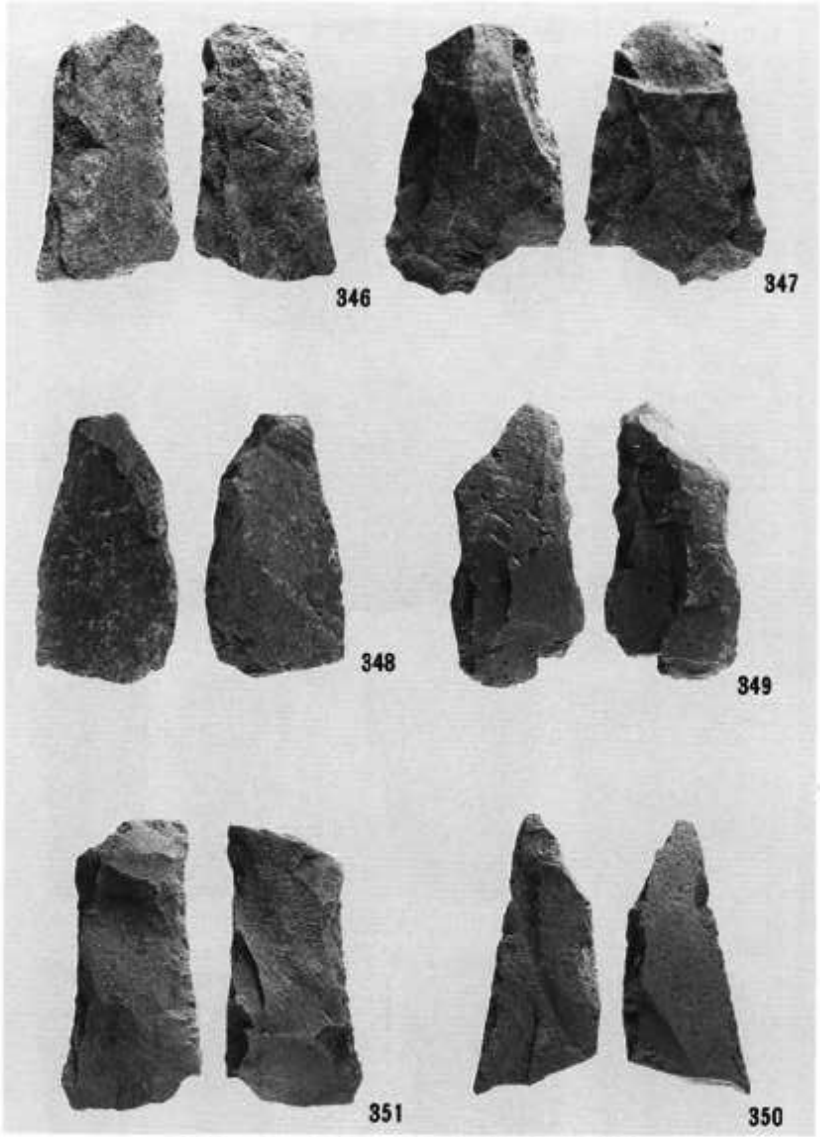
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（42）（1/4）



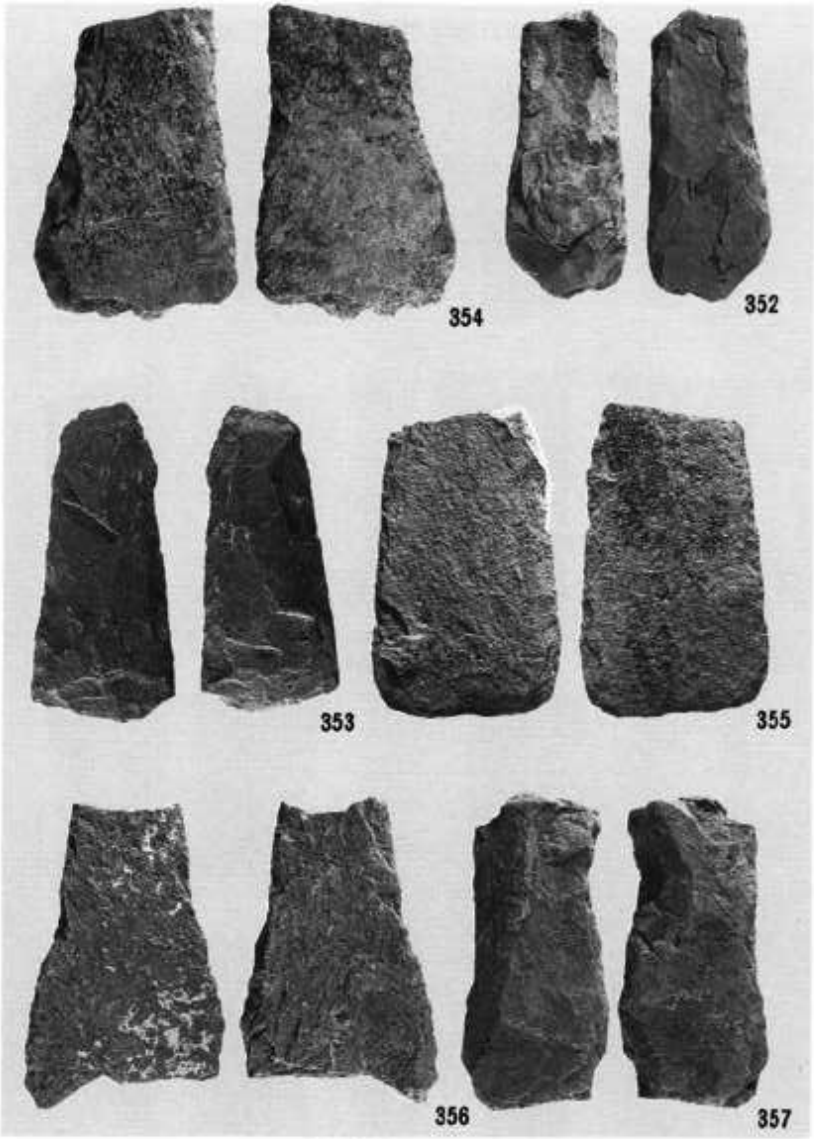
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (43) (1/4)



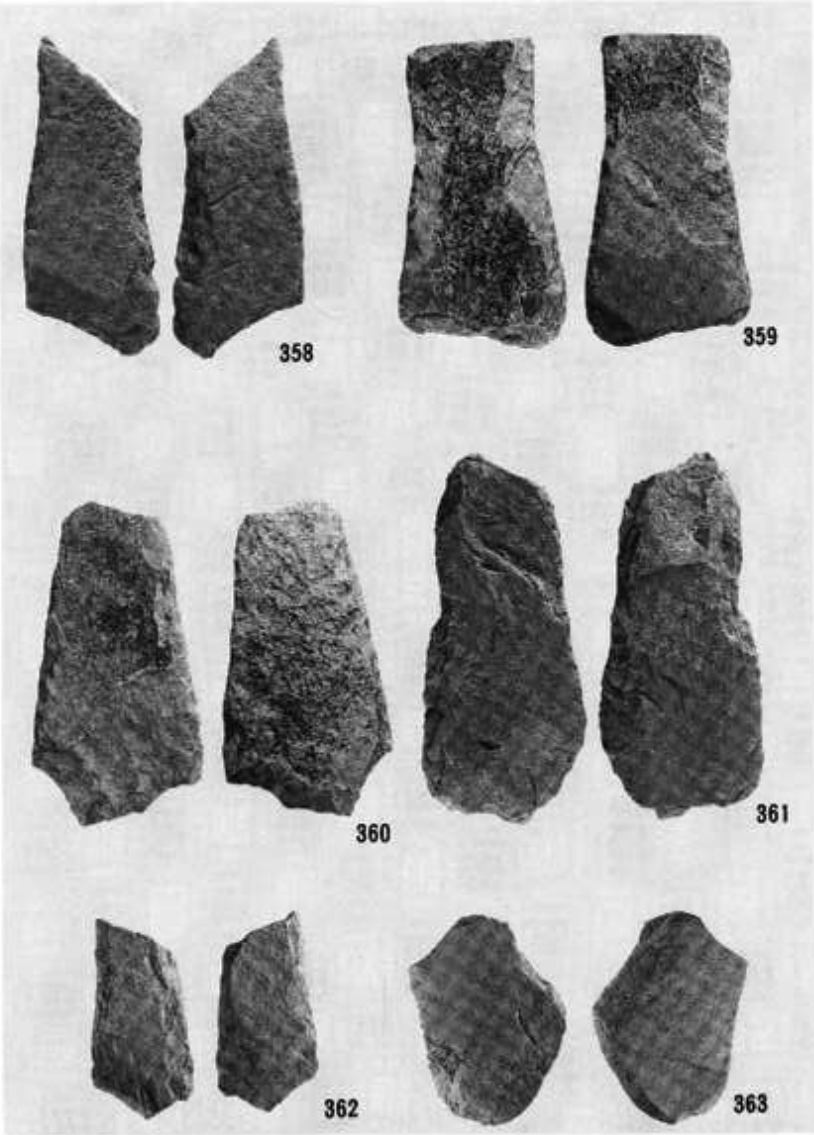
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (44) (1/4)



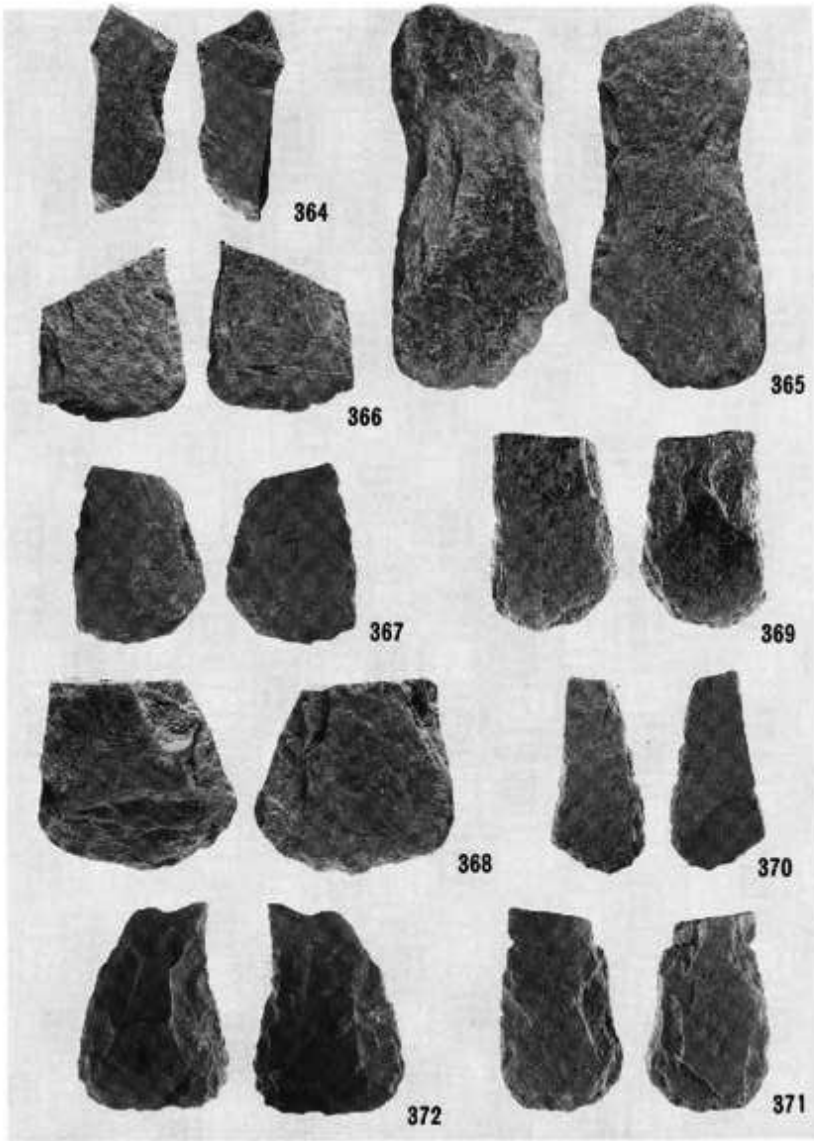
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（45）（1/4）



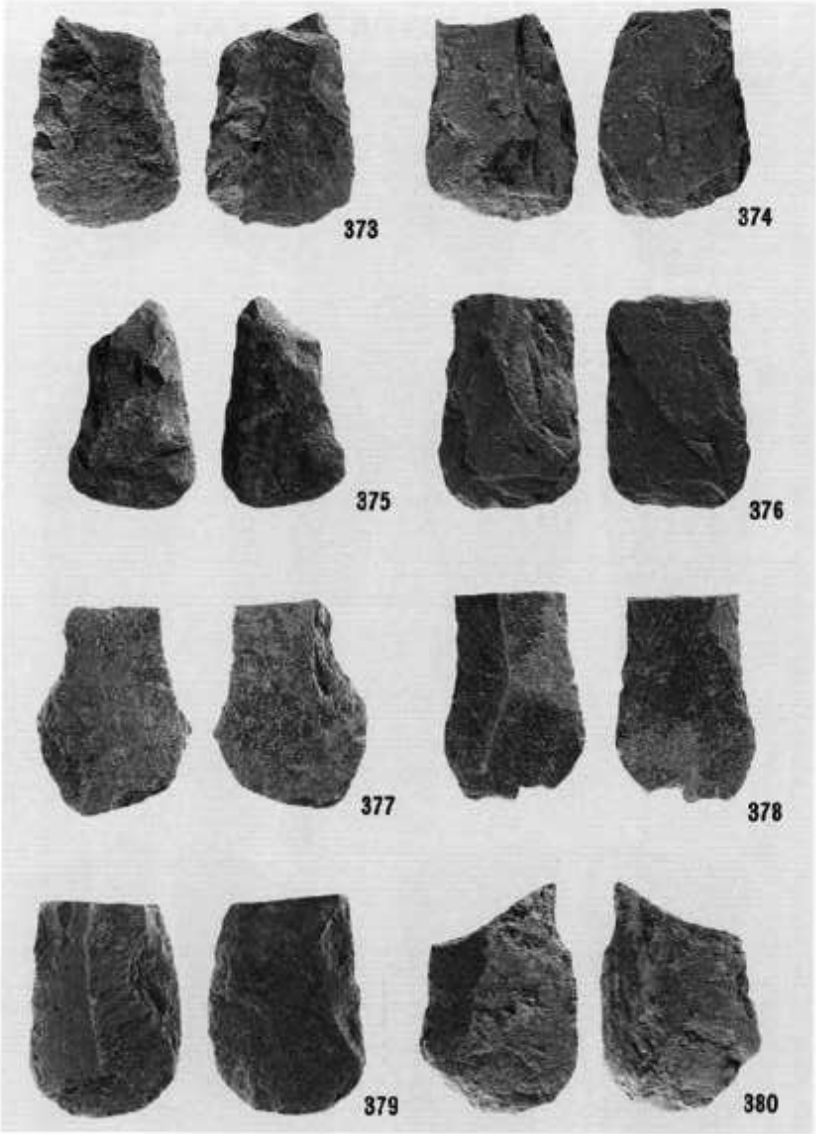
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（46）（1/4）



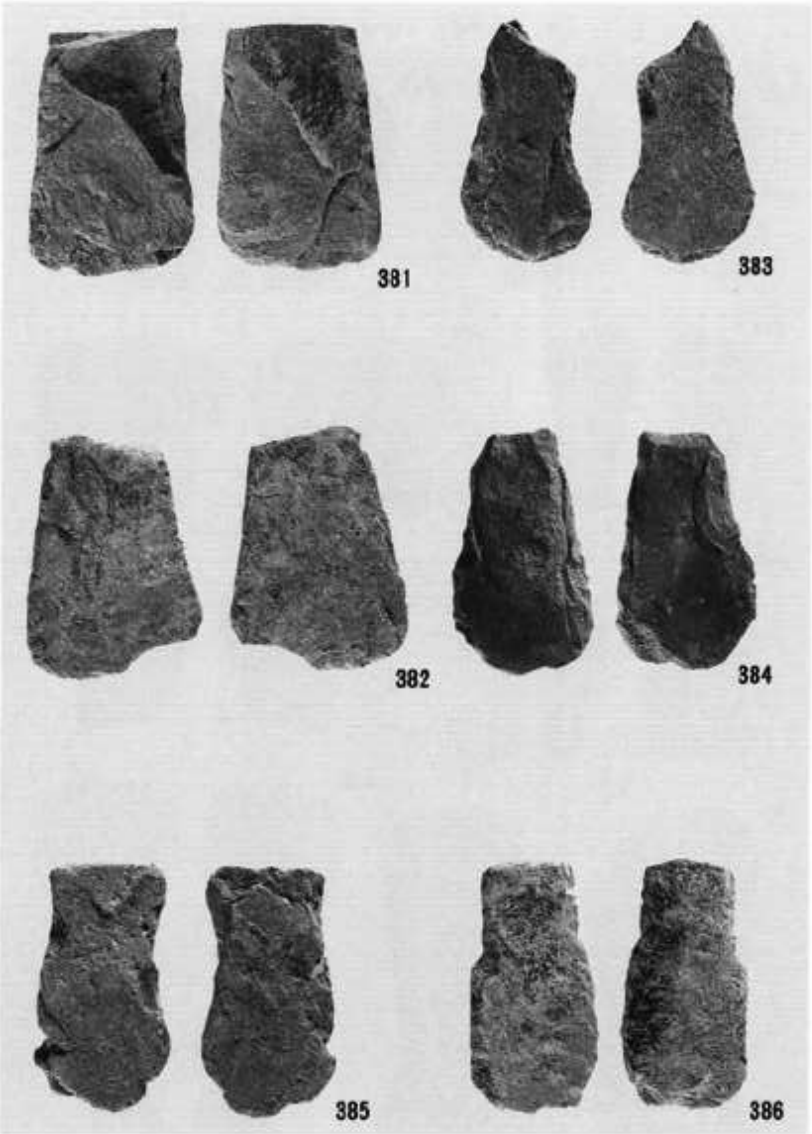
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (47) (1/4)



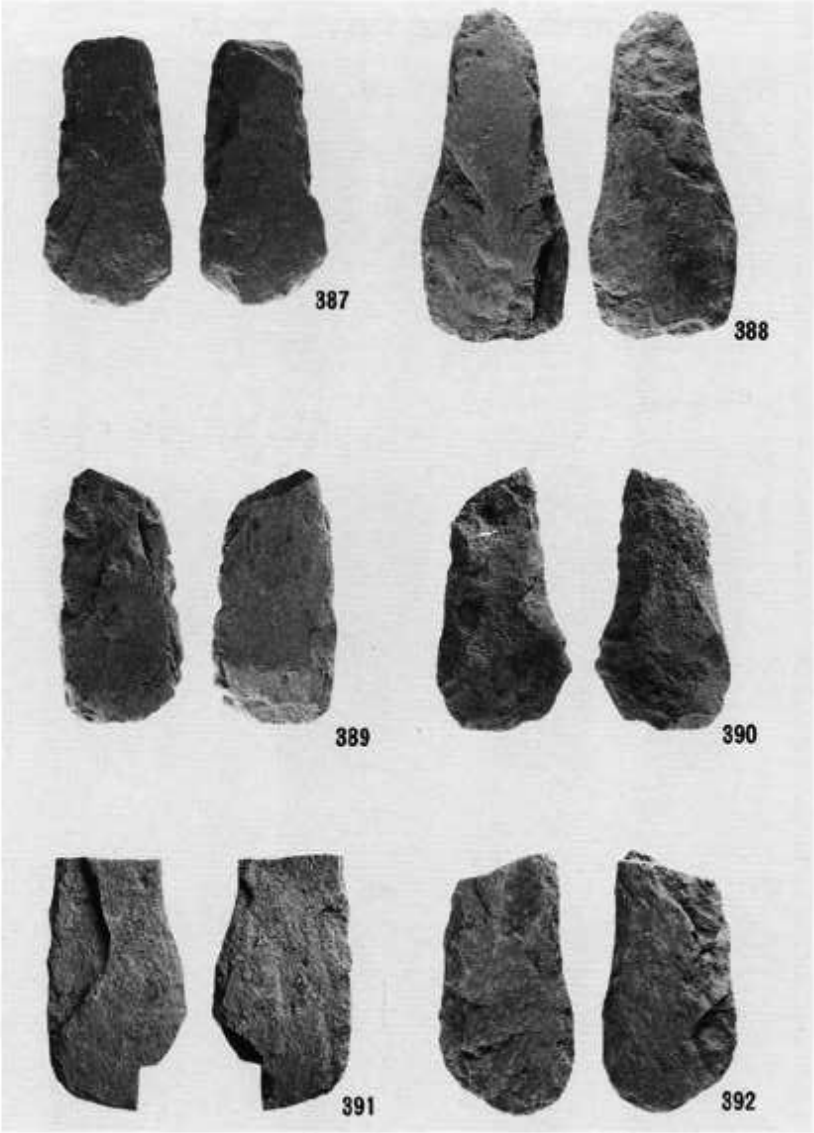
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (48) (1/4)



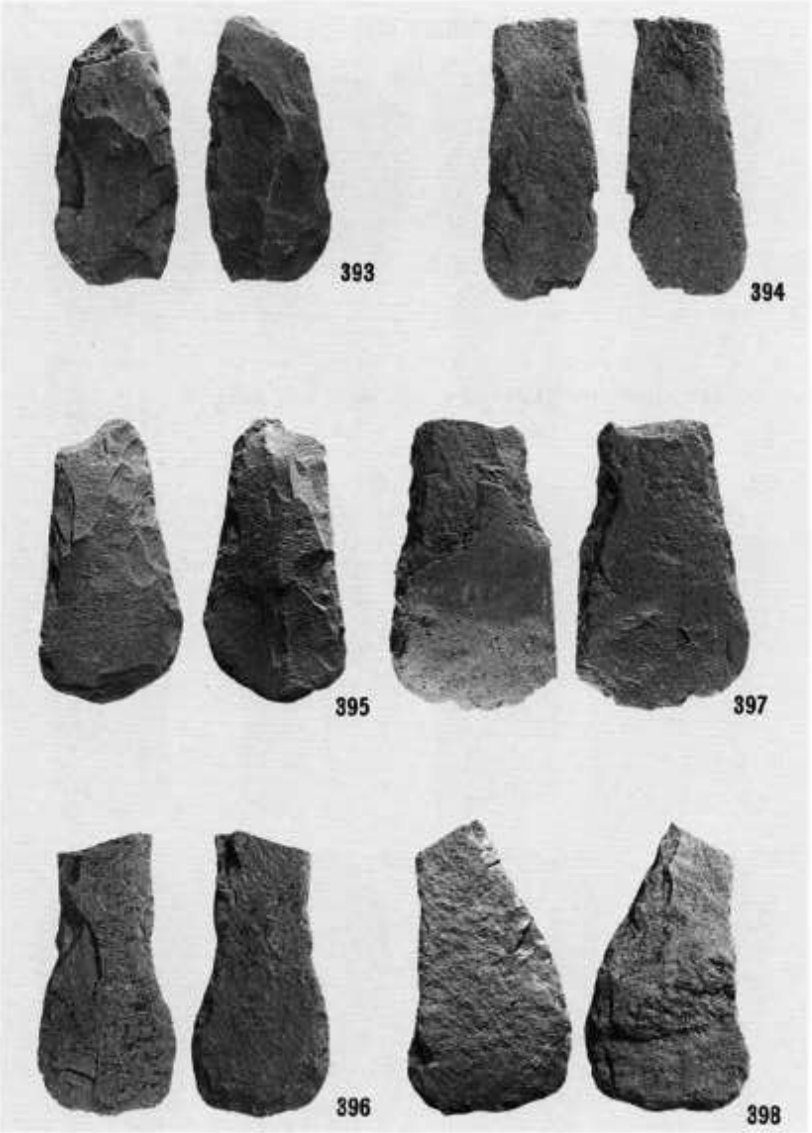
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (49) (1/4)



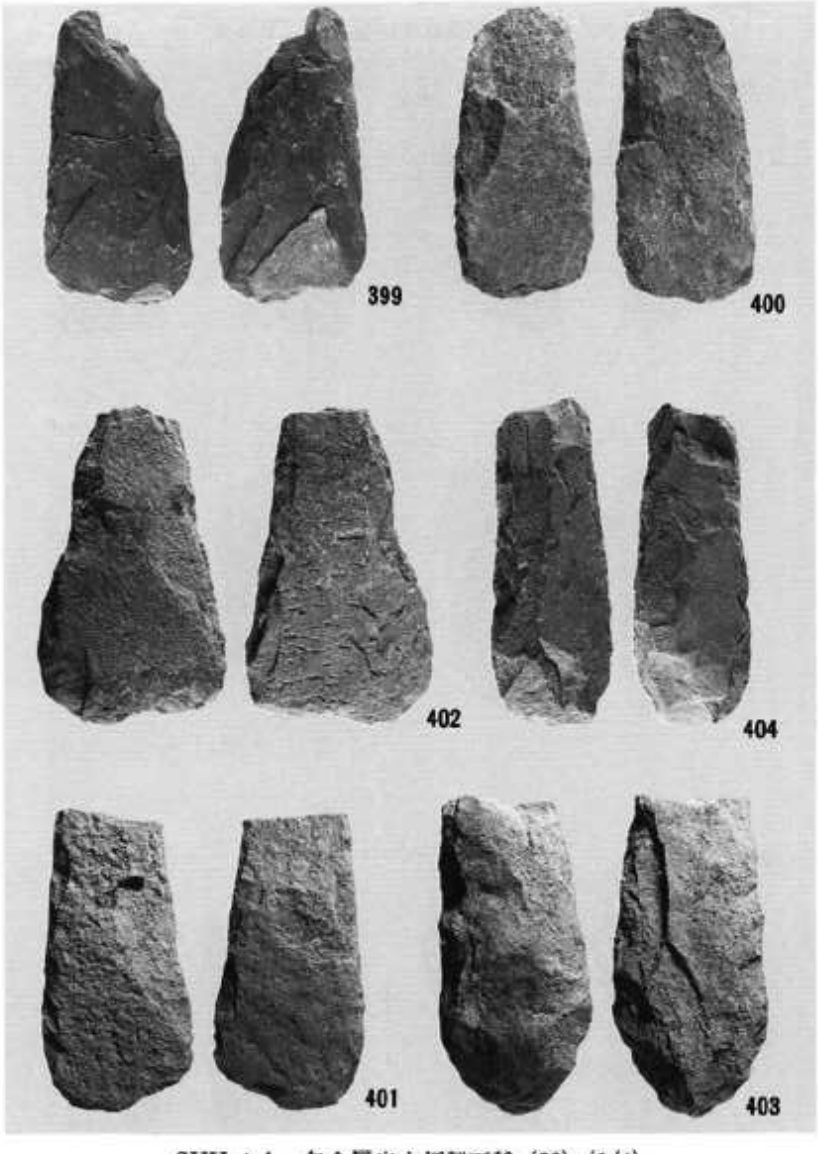
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (50) (1/4)



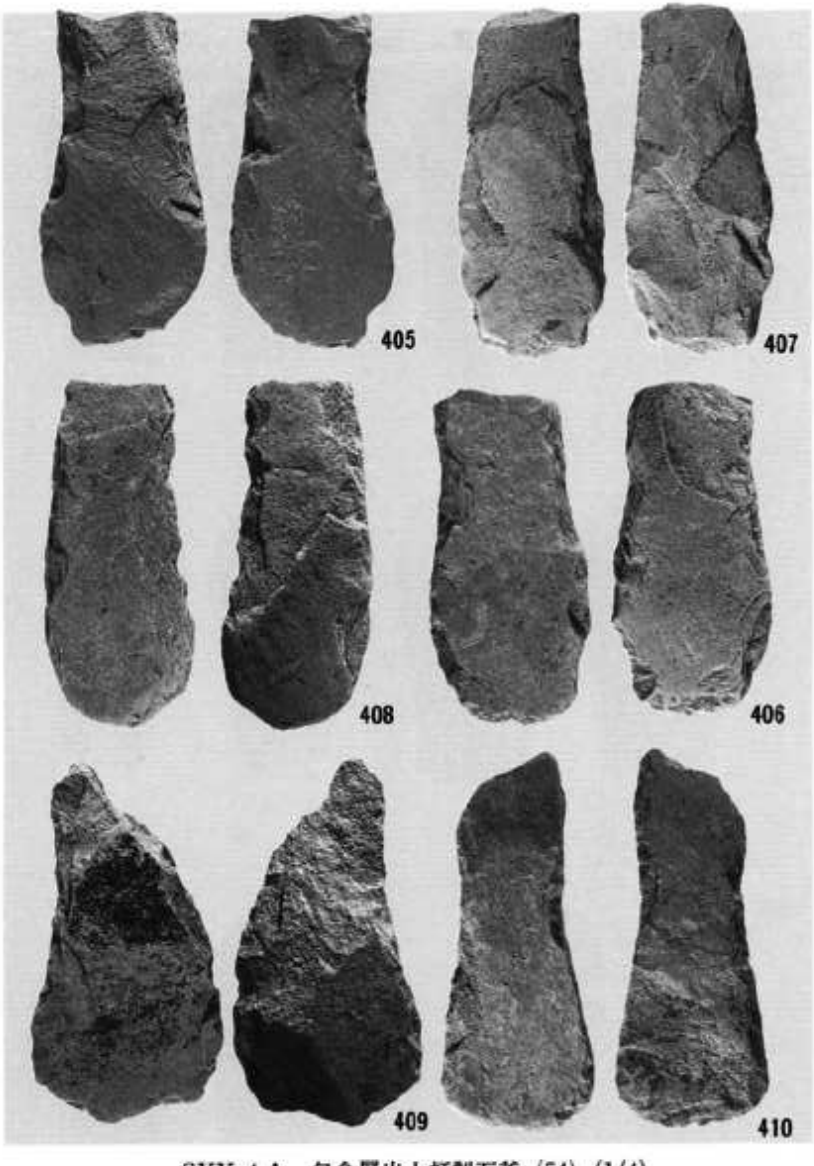
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (51) (1/4)



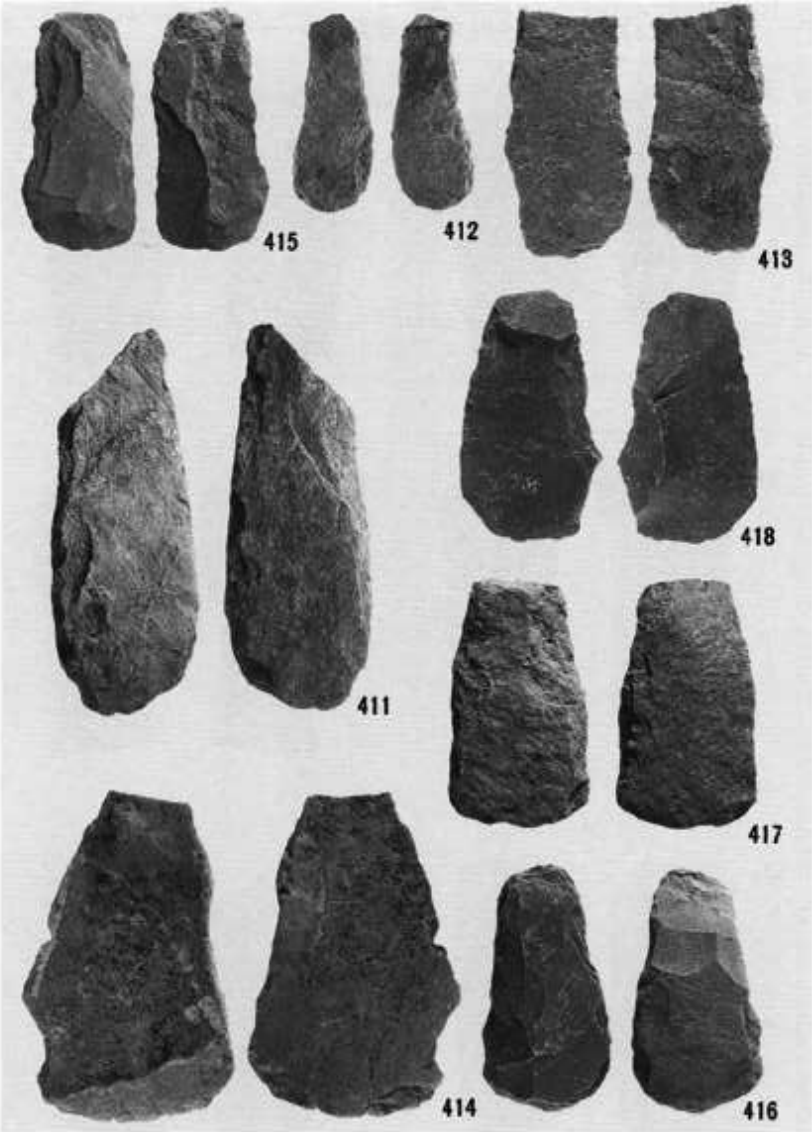
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (52) (1/4)



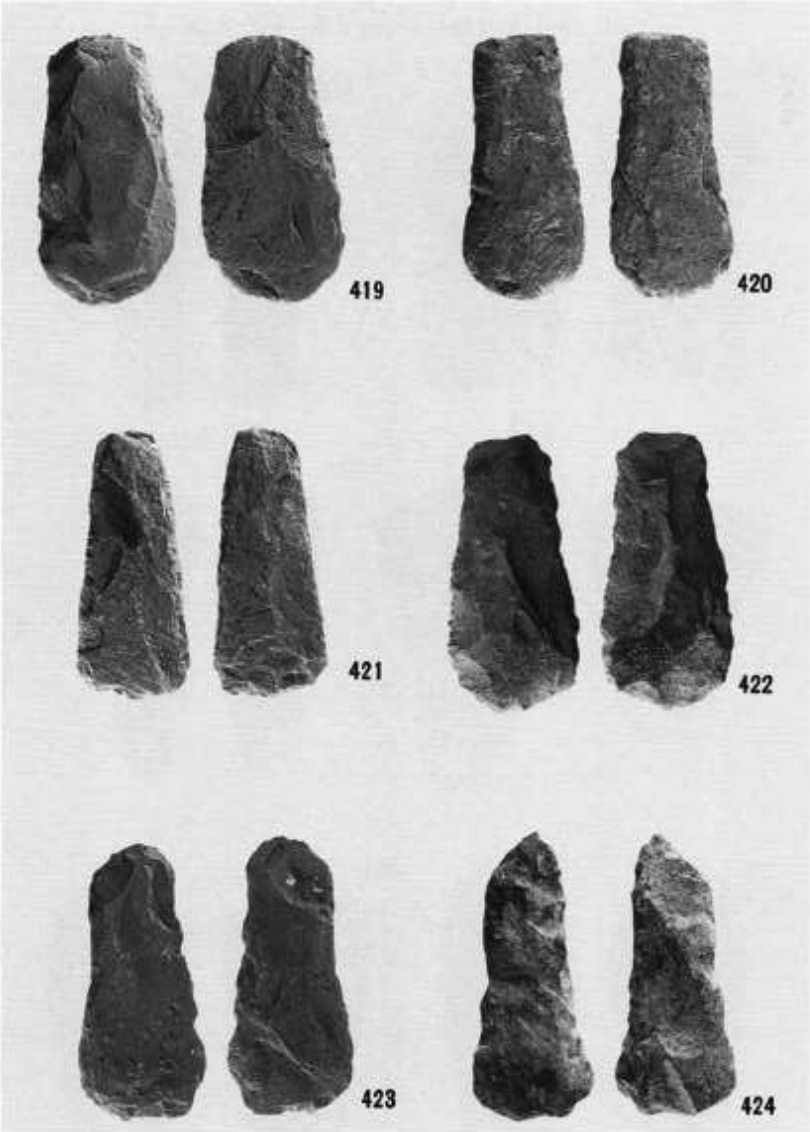
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (53) (1/4)



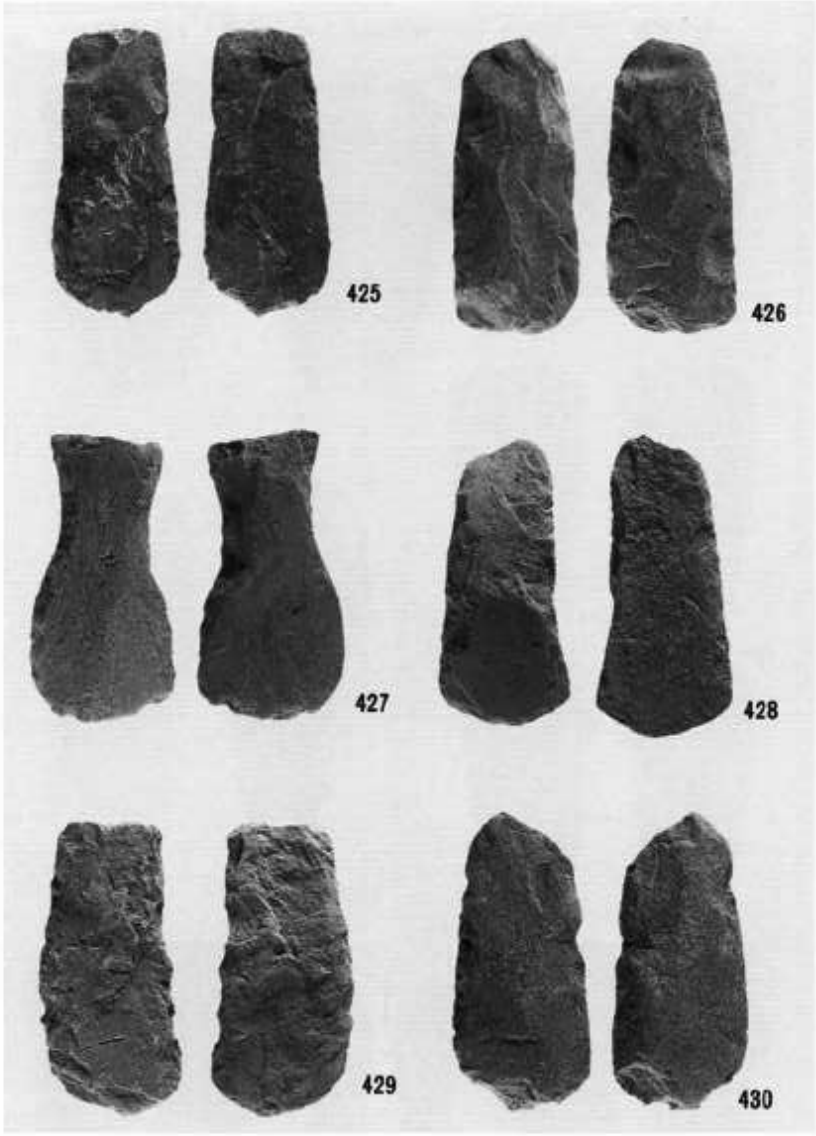
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (54) (1/4)



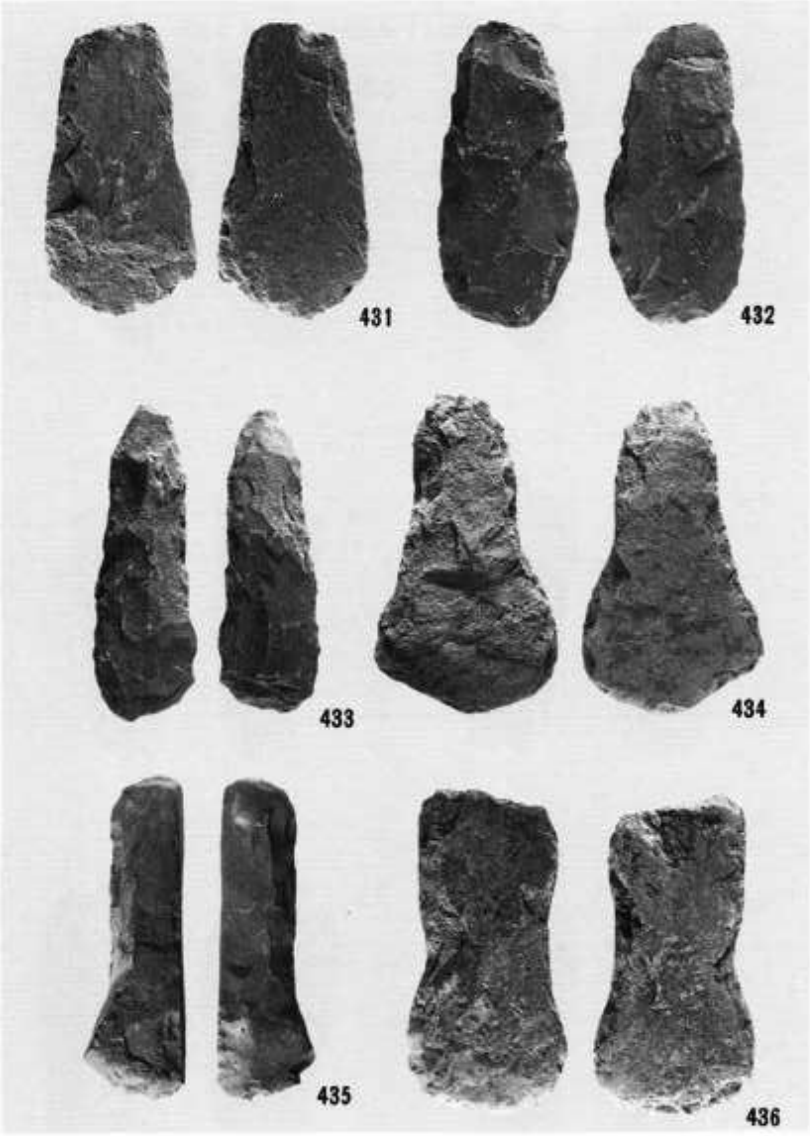
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (55) (412は1/8、他は1/4)



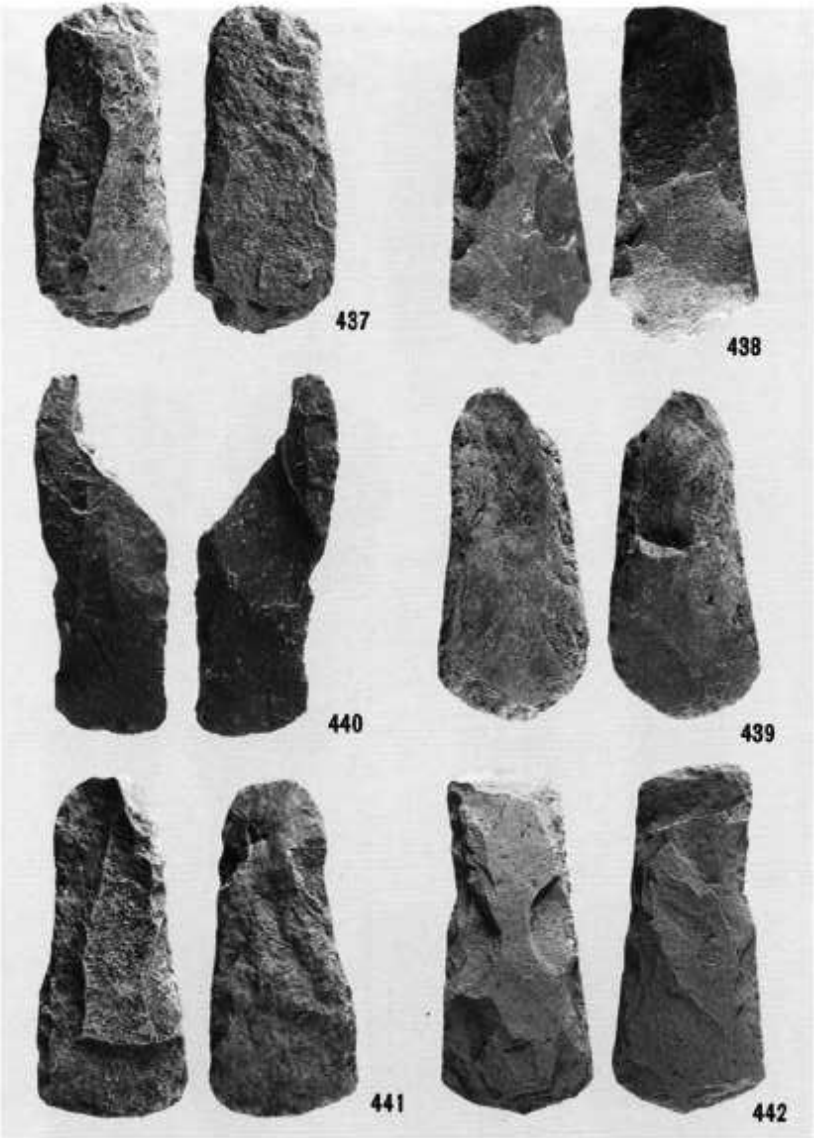
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (56) (1/4)



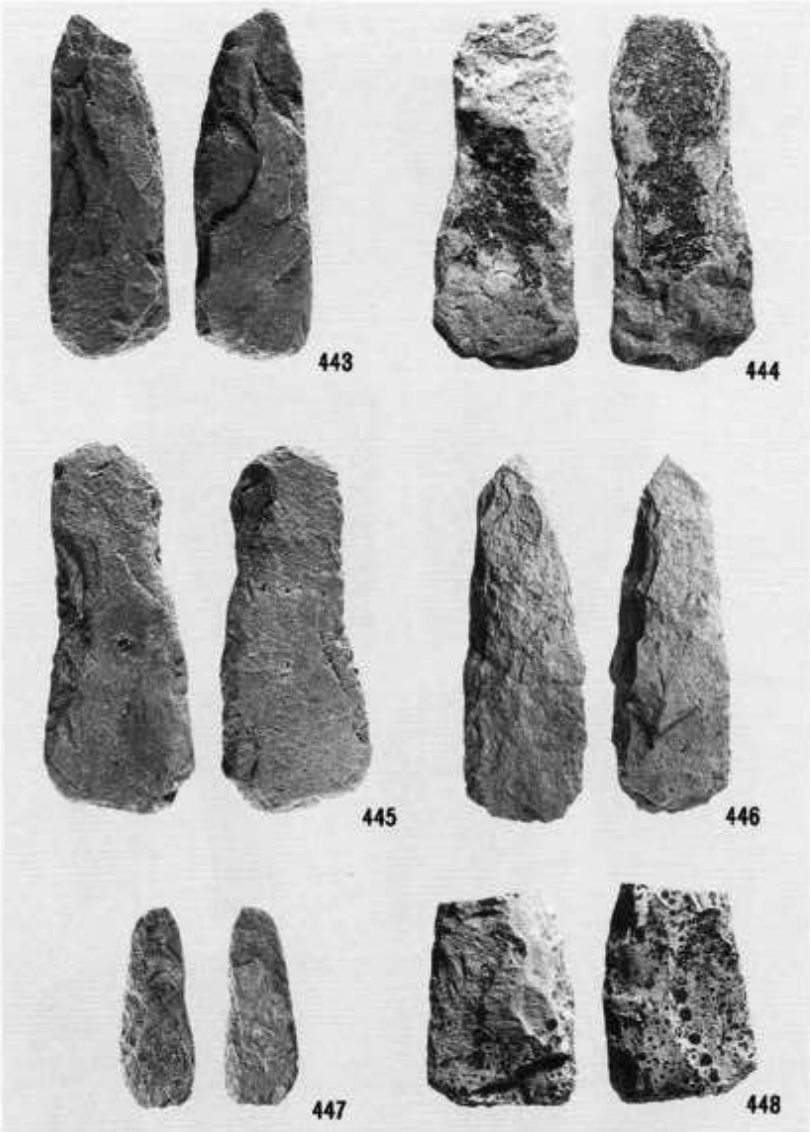
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (57) (1/4)



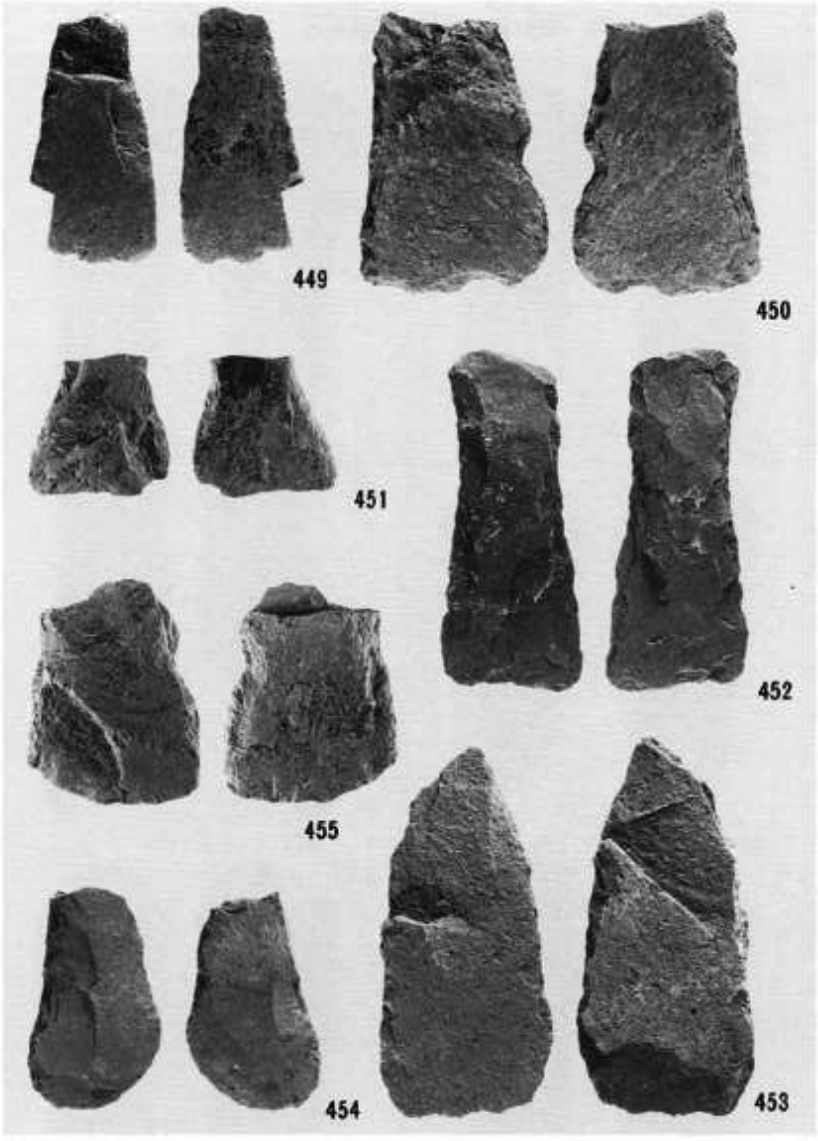
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (58) (1/4)



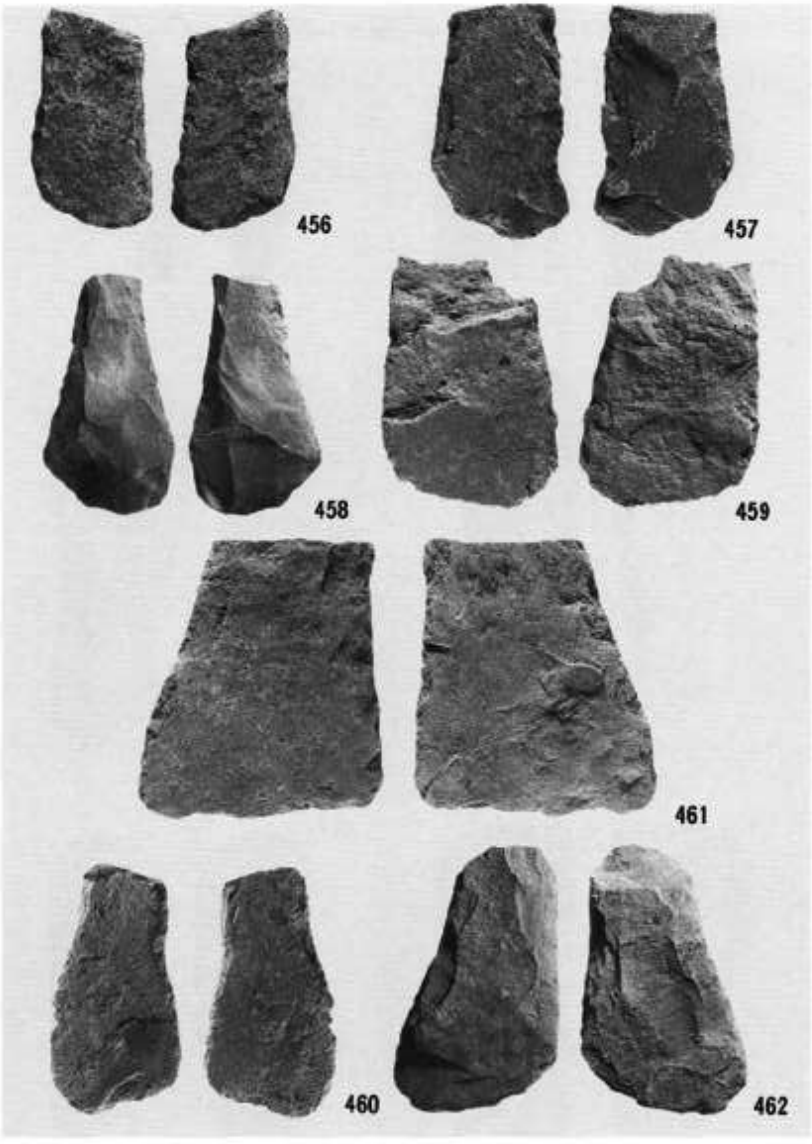
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（59）（1/4）



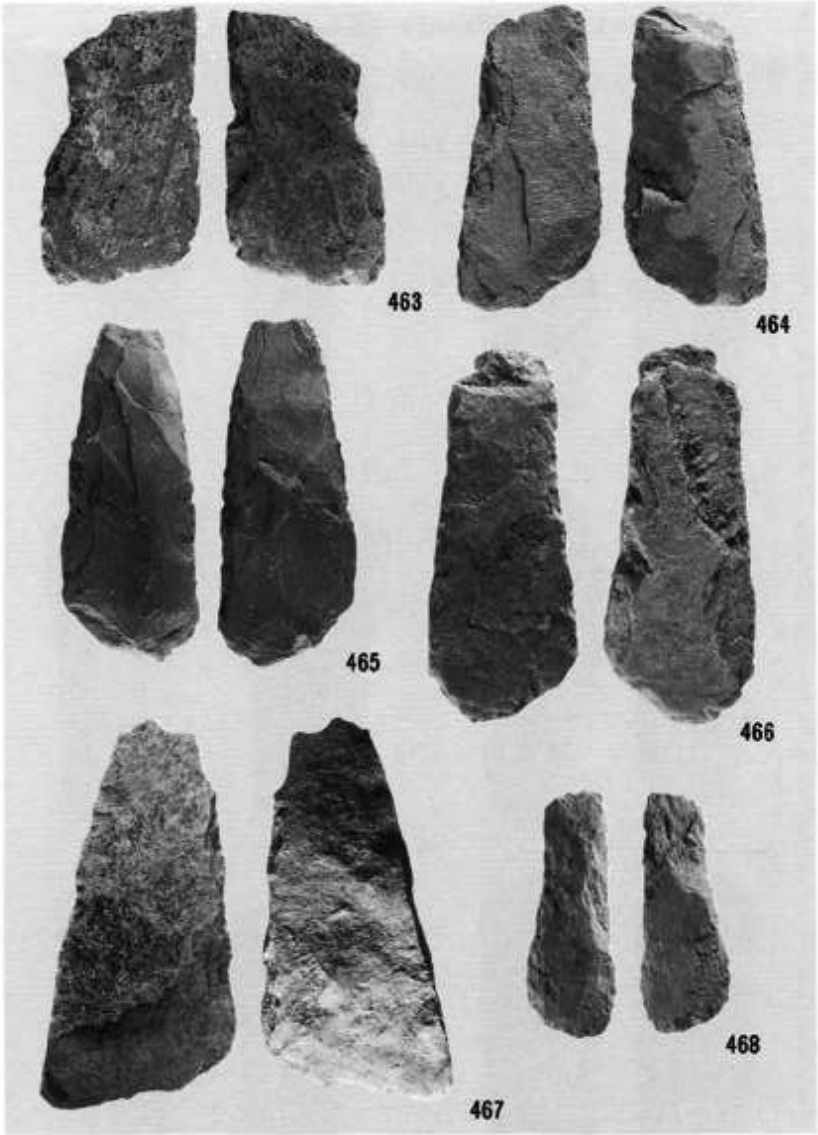
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（60）（447は1/8、他は1/4）



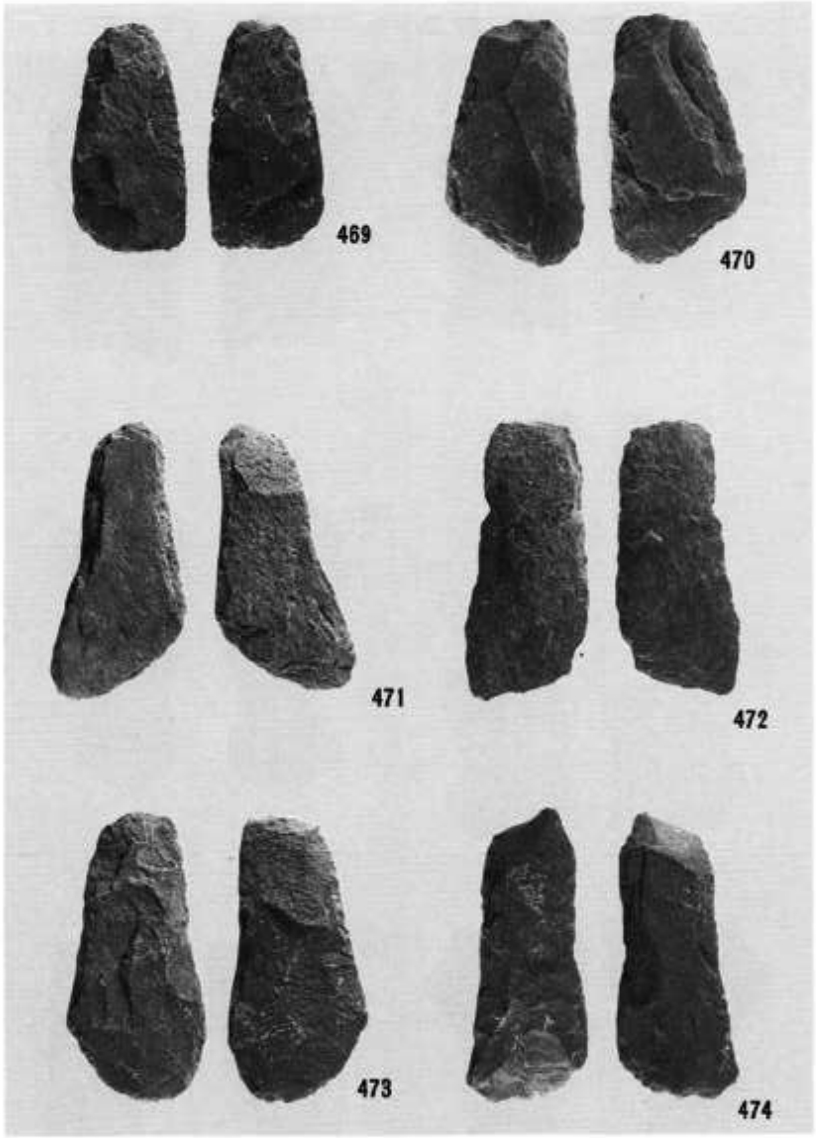
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (61) (1/4)



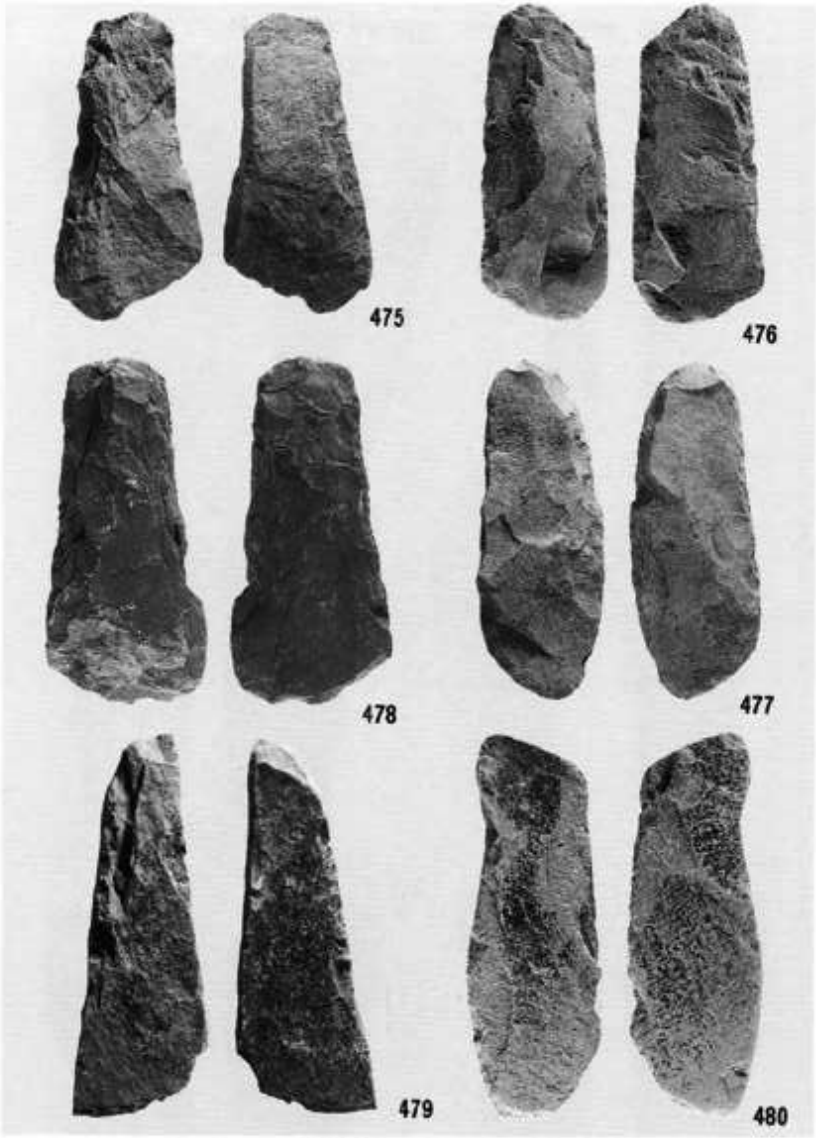
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (62) (1/4)



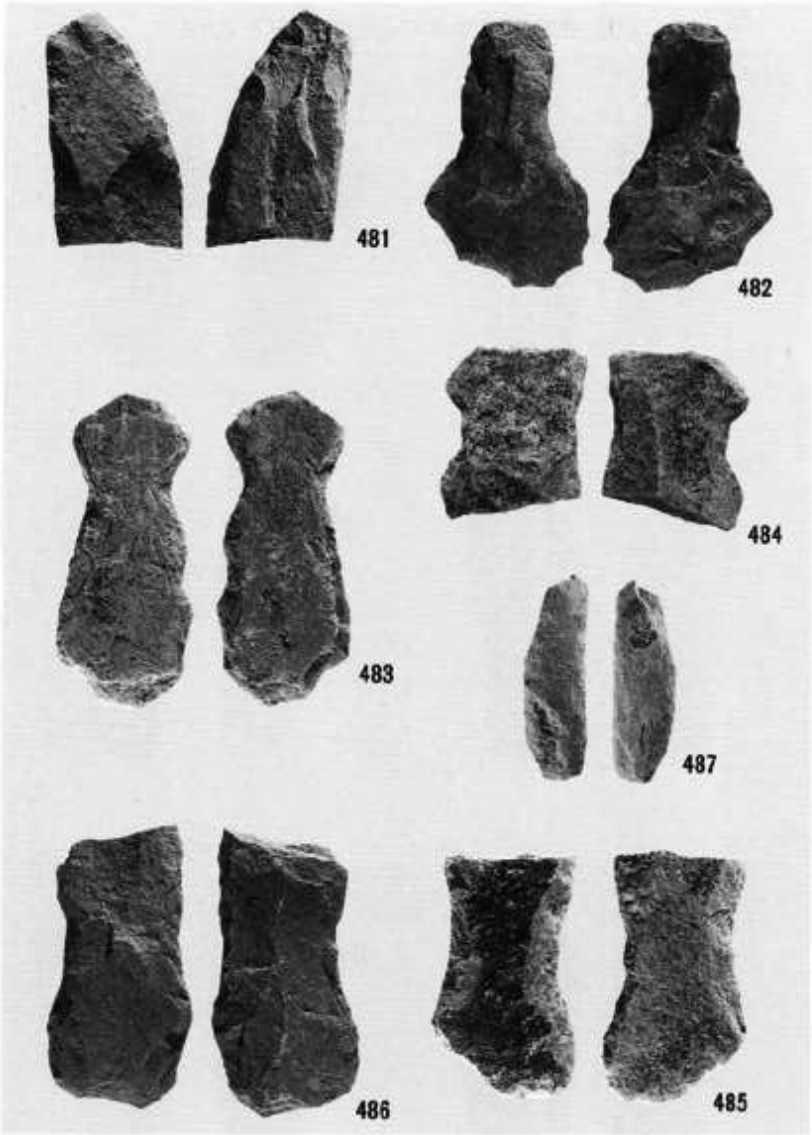
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（63）（468は1/8、他は1/4）



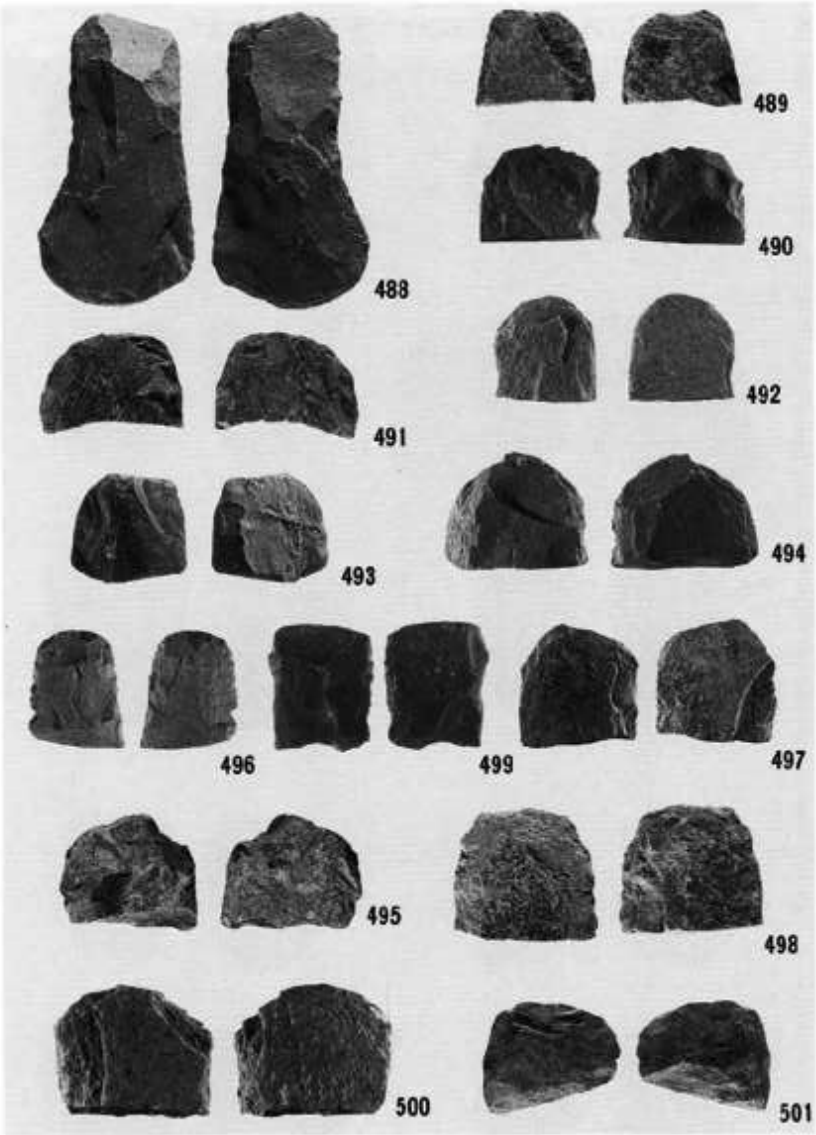
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（64）（1/4）



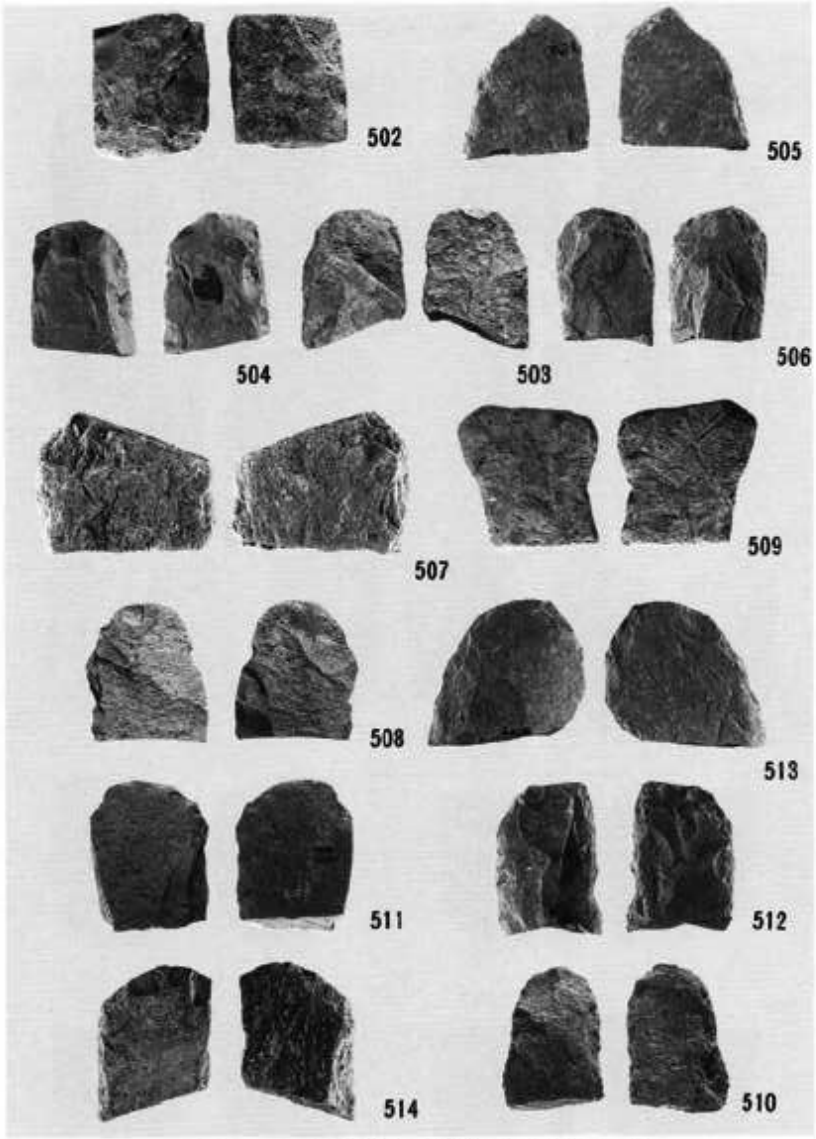
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（65）（1/4）



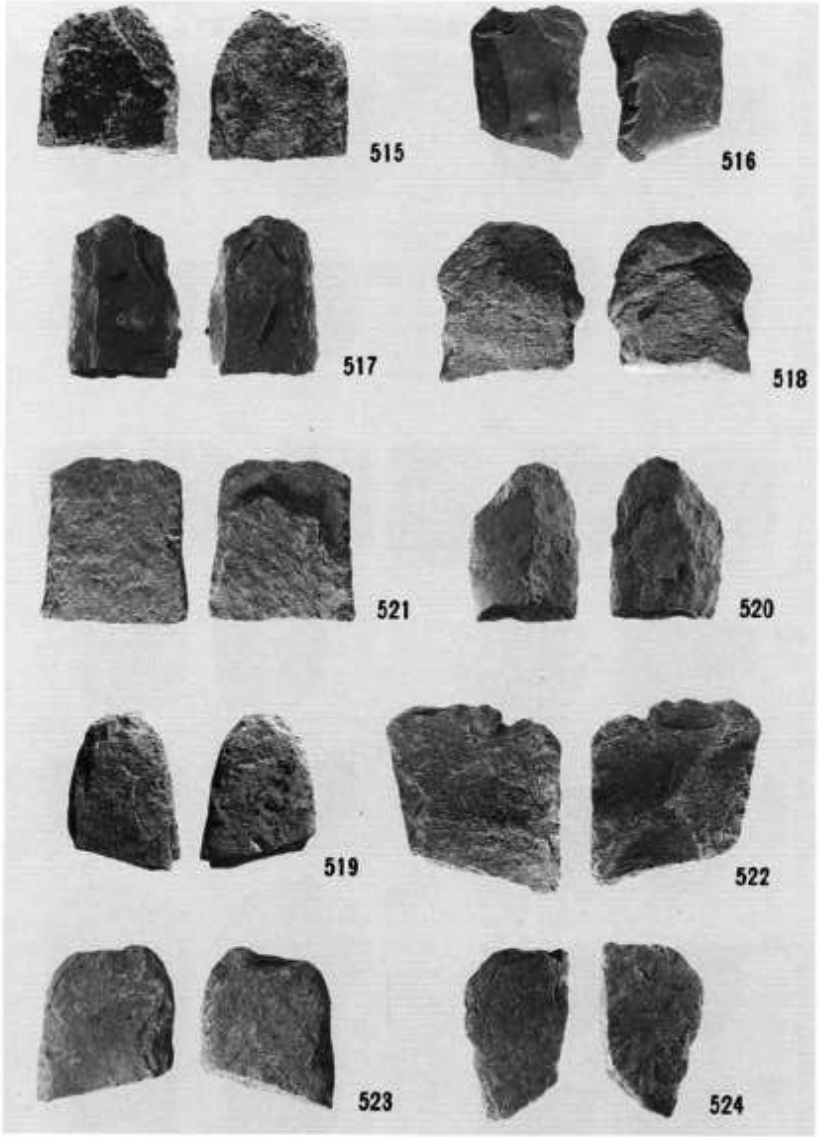
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（66）（487は1/8、他は1/4）



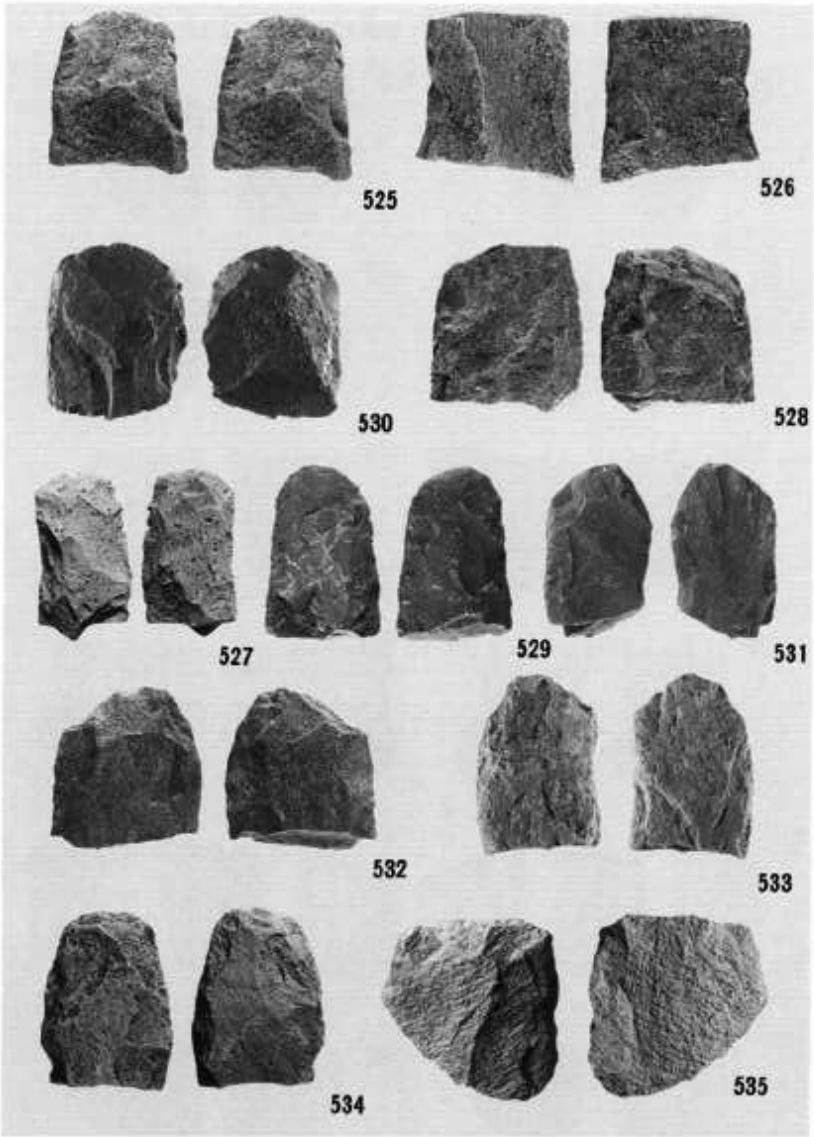
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（67）（1/4）



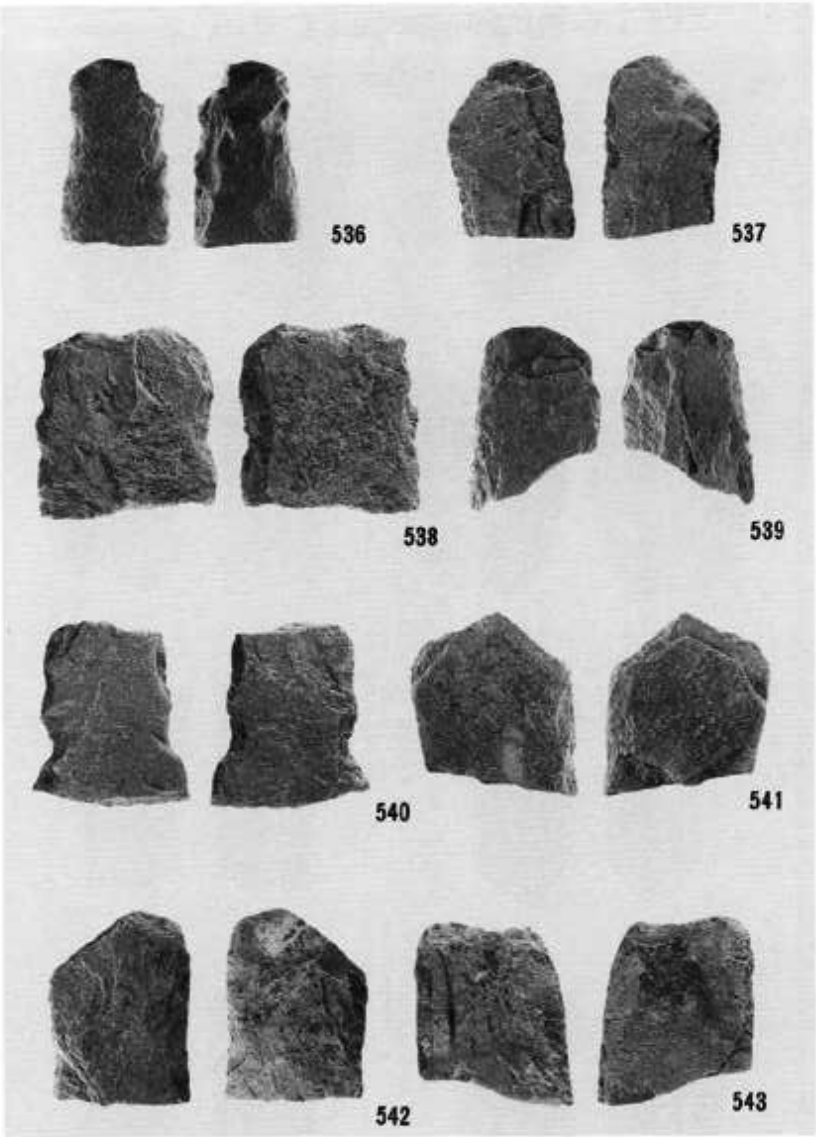
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（68）（1/4）



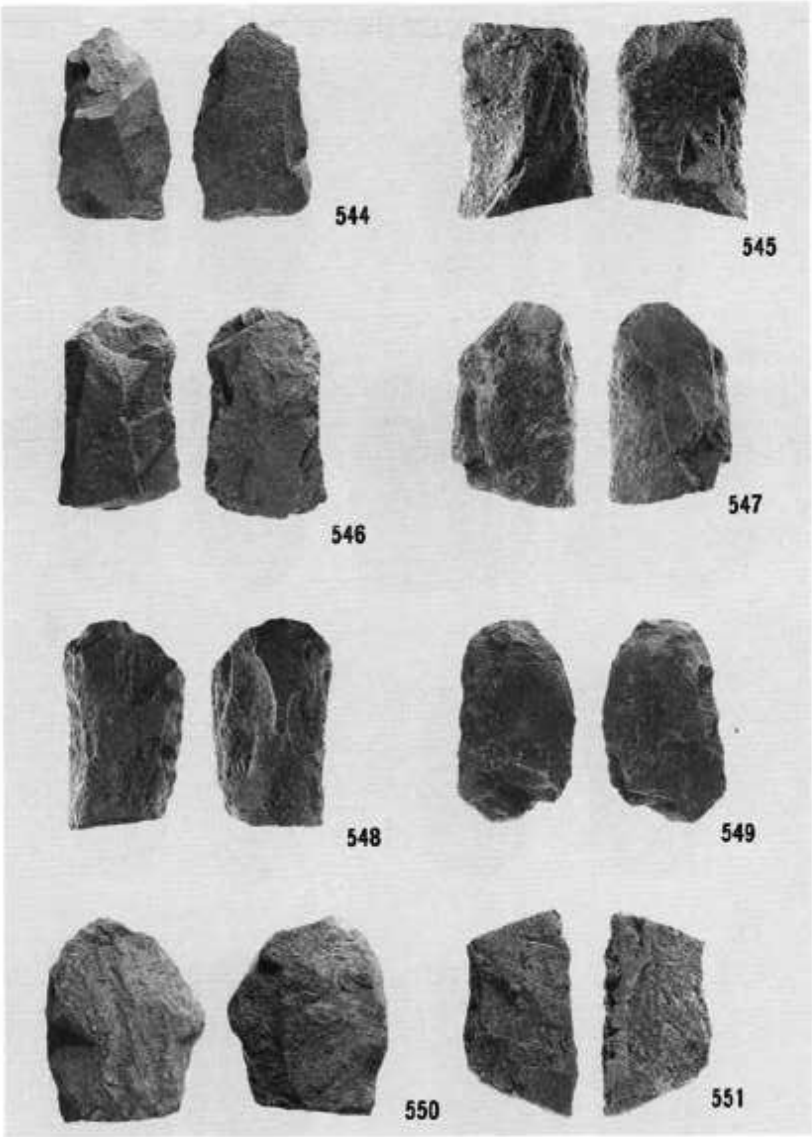
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（69）（1/4）



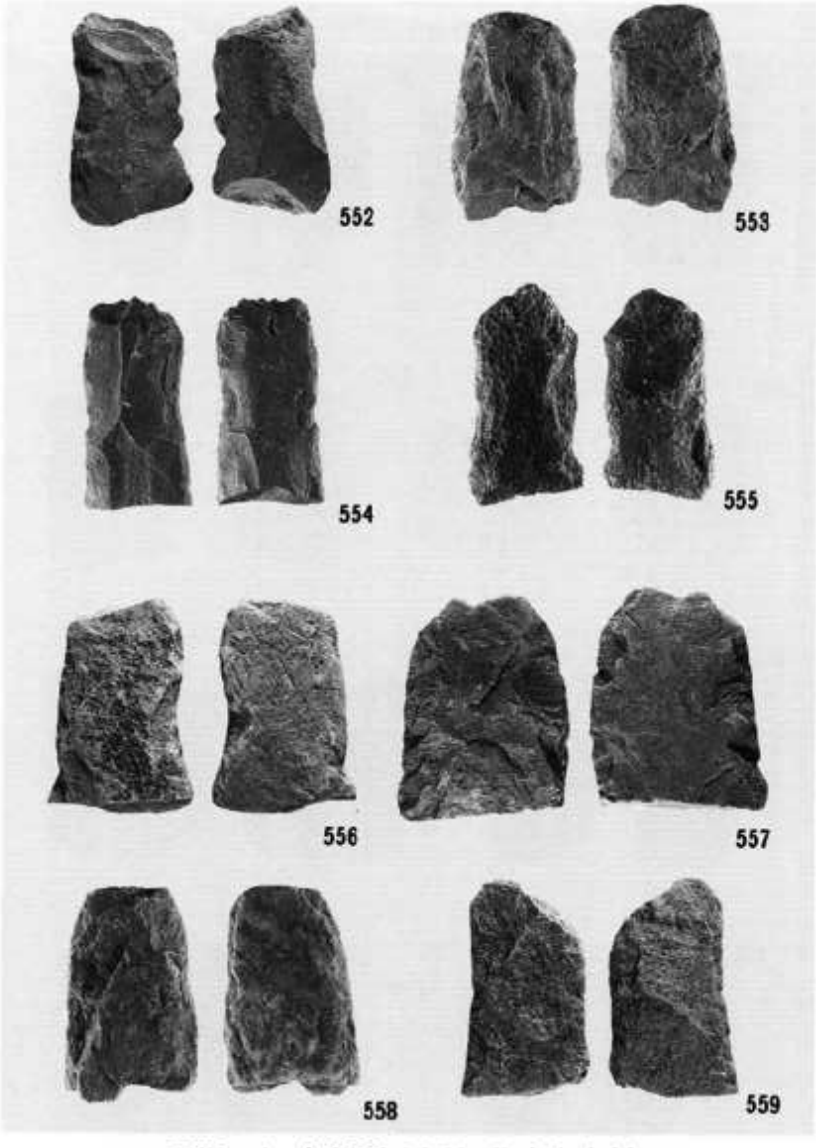
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（70）（1/4）



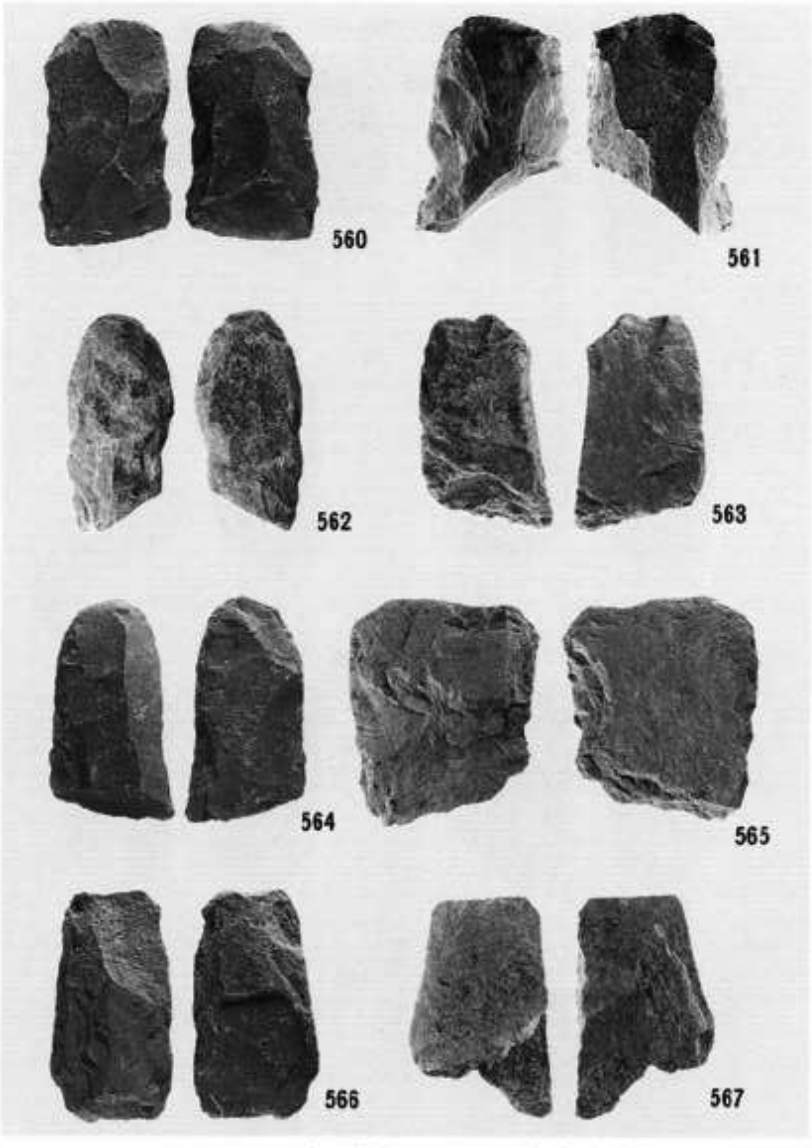
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (71) (1/4)



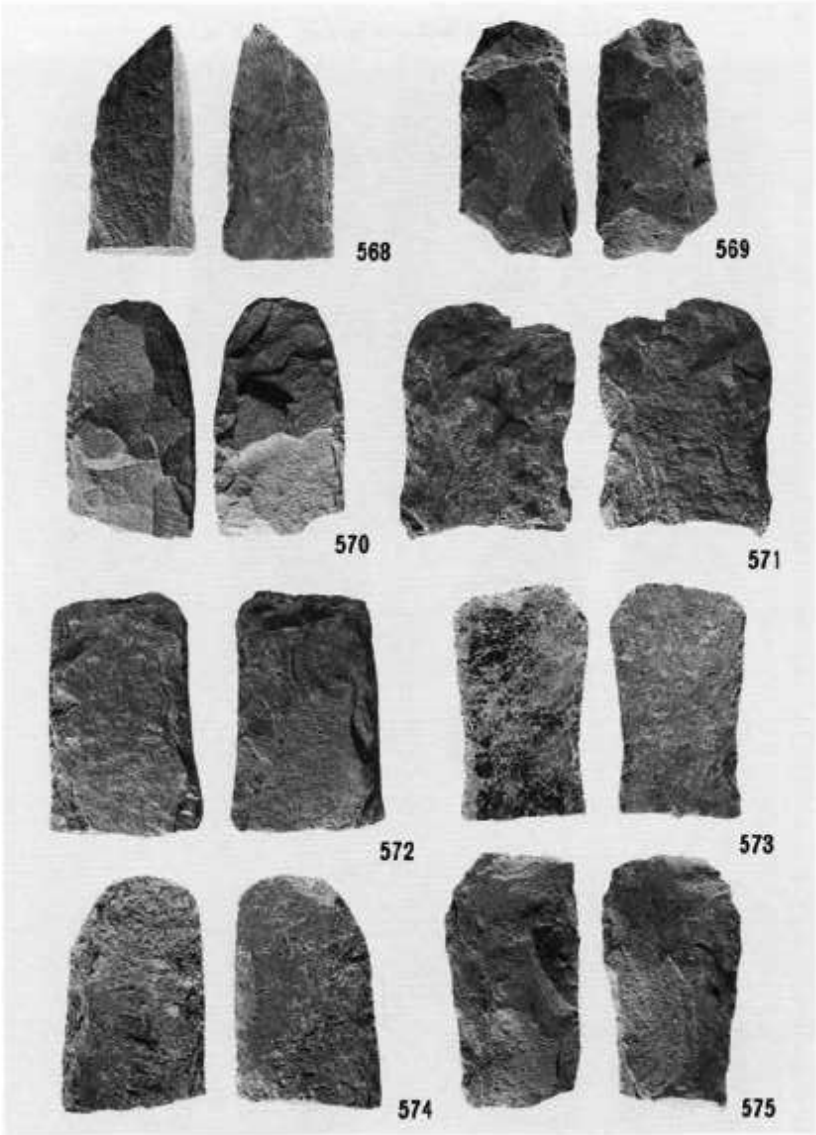
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (72) (1/4)



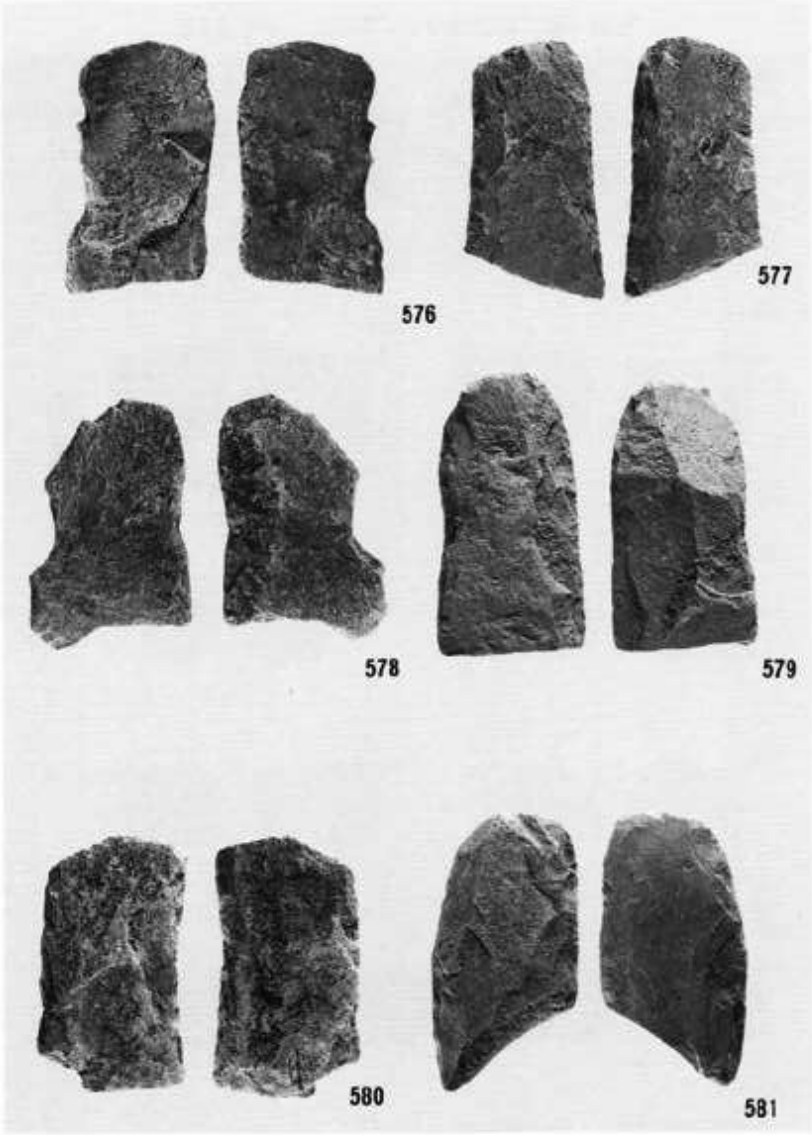
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（73）（1/4）



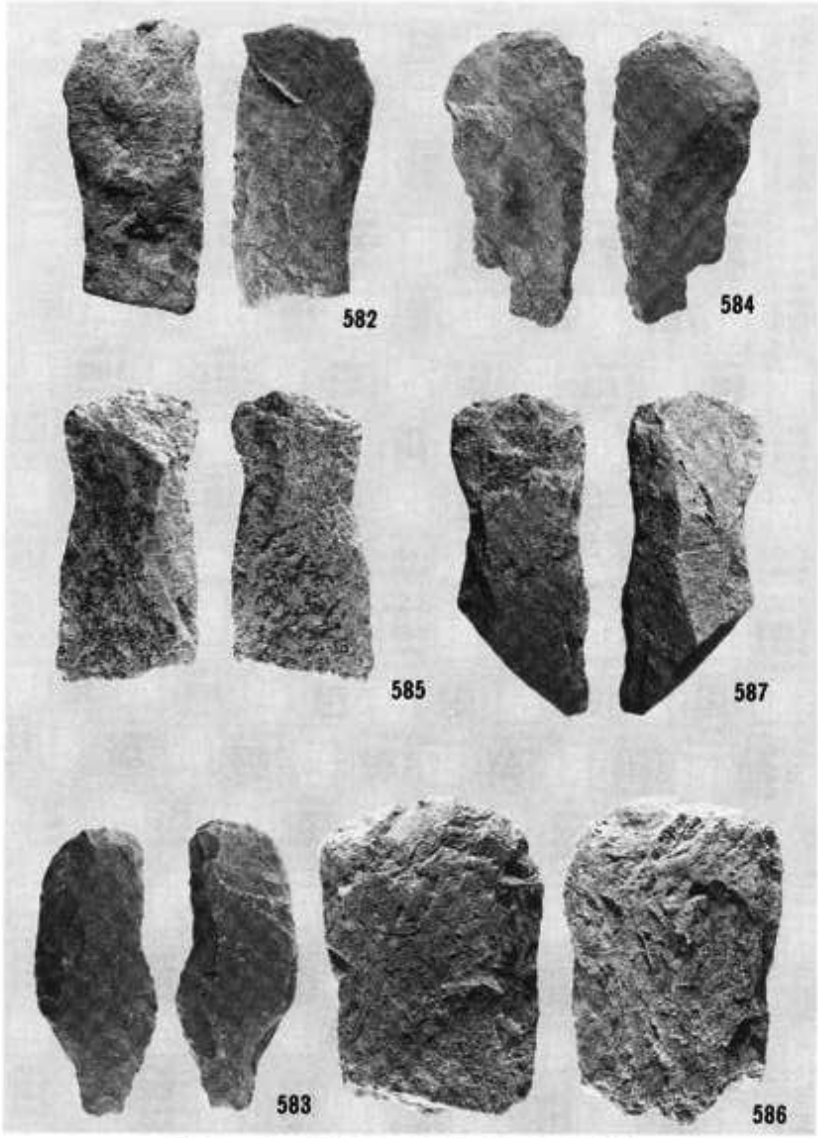
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（74）（1/4）



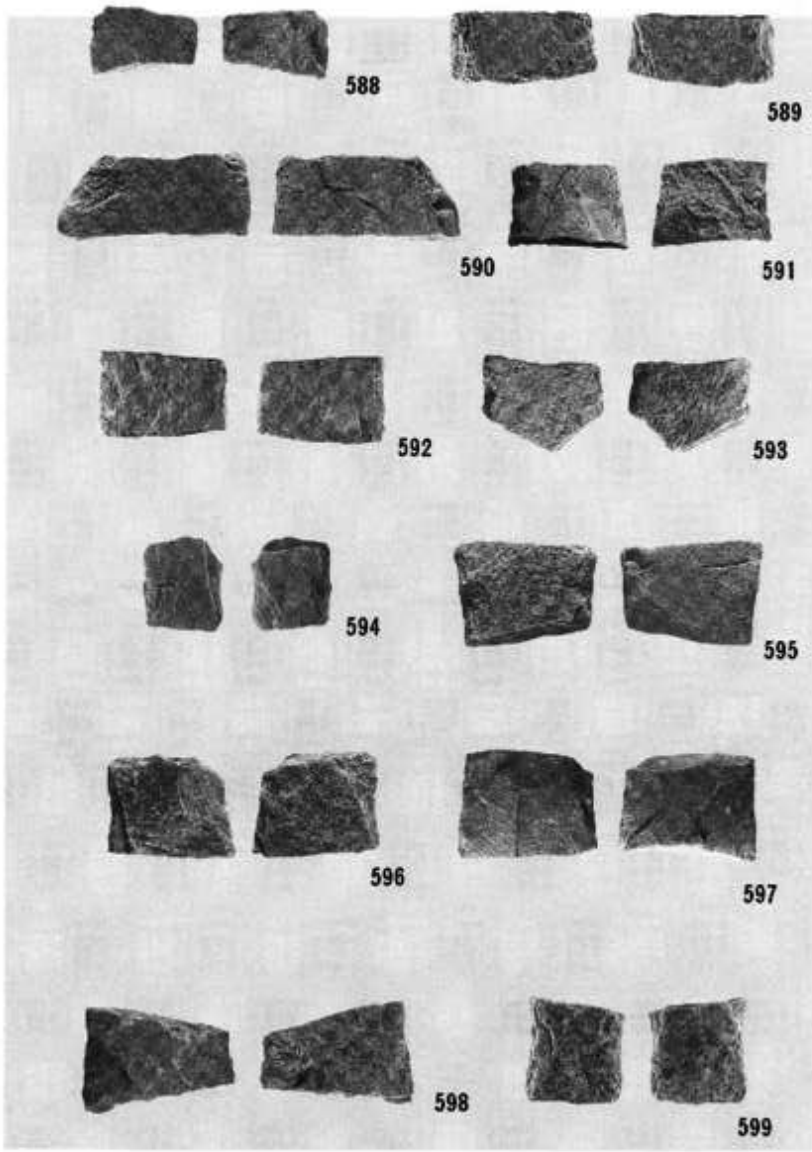
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (75) (1/4)



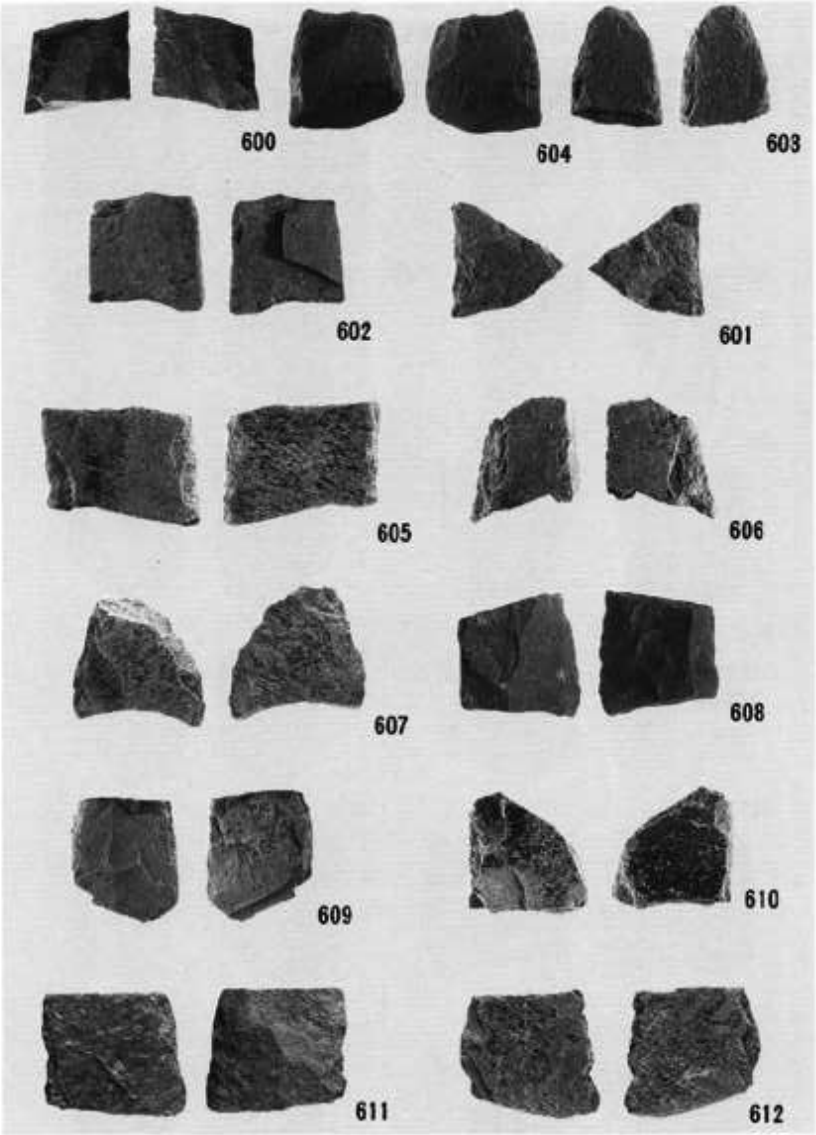
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (76) (1/4)



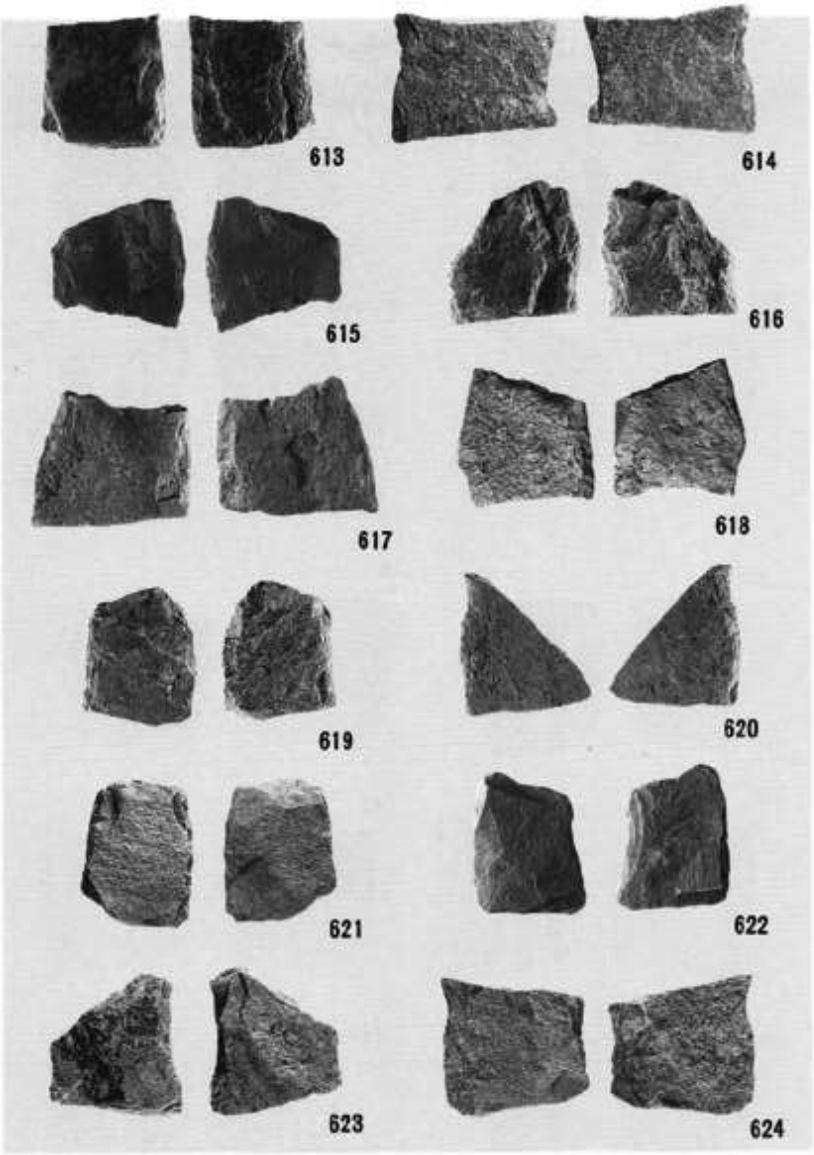
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（77）（1/4）



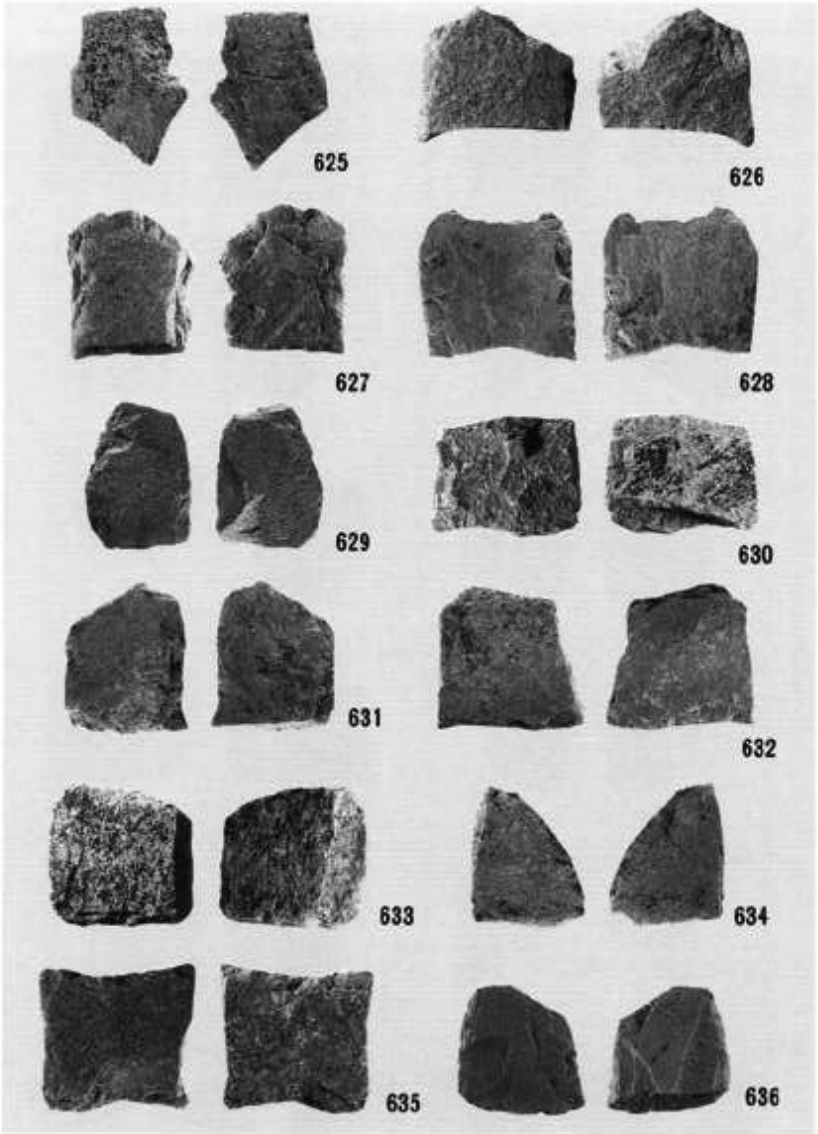
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（78）（1/4）



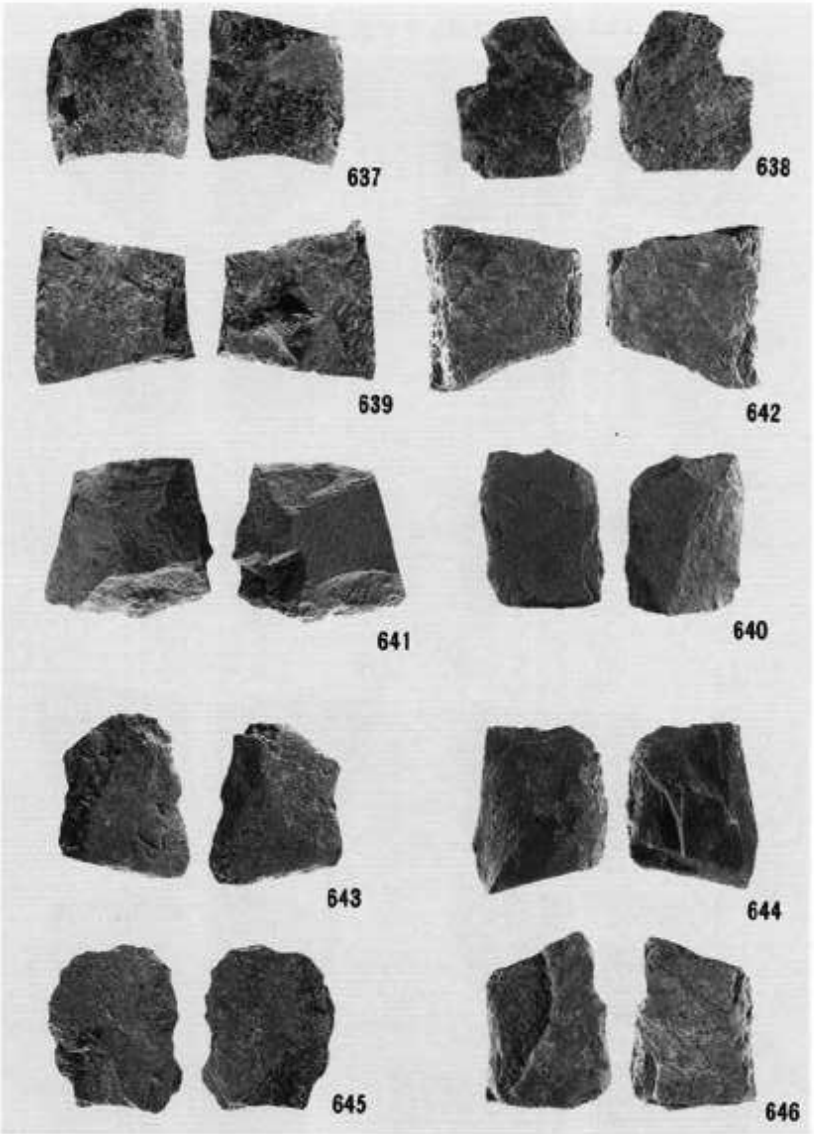
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（79）（1/4）



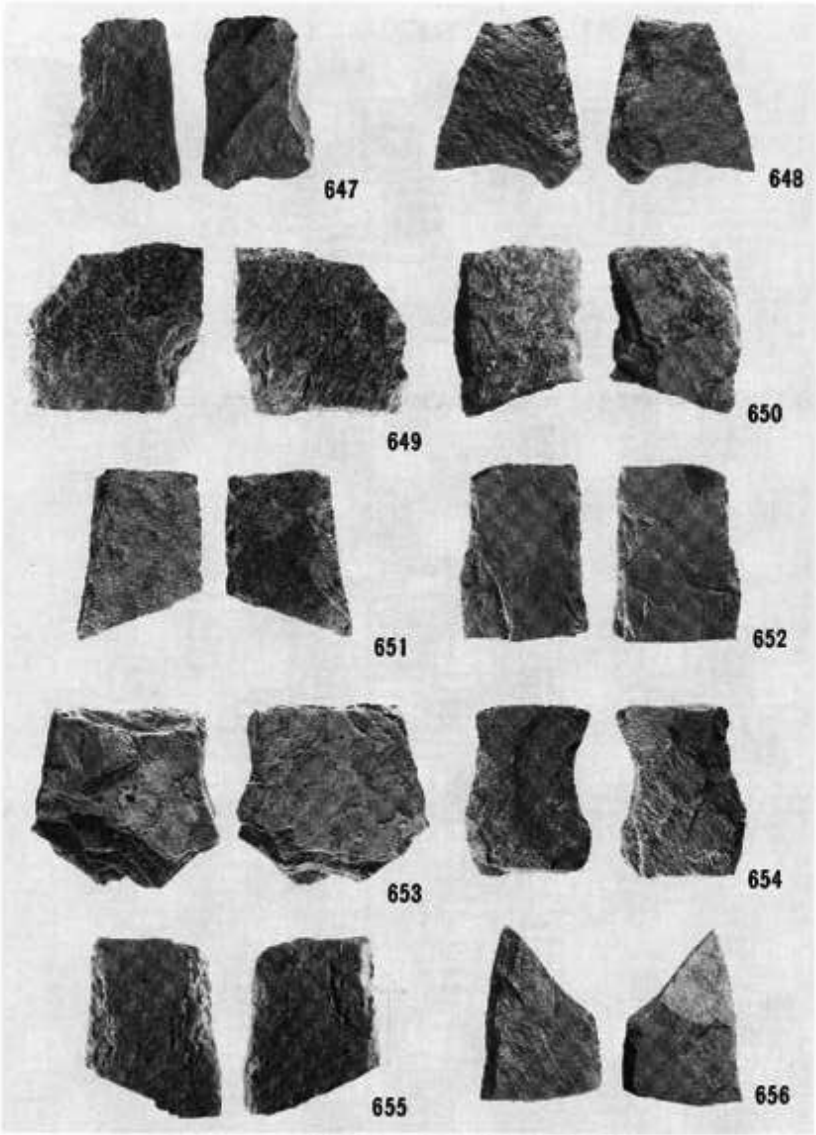
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（80）（1/4）



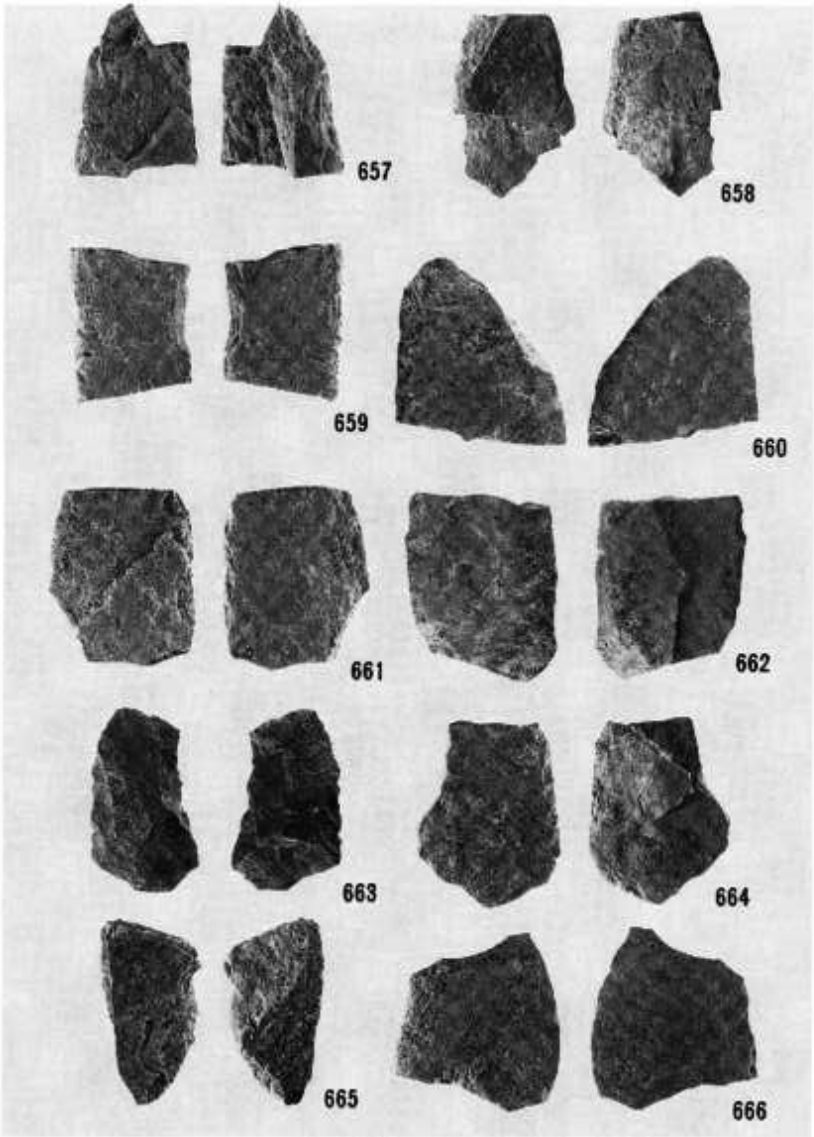
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (81) (1/4)



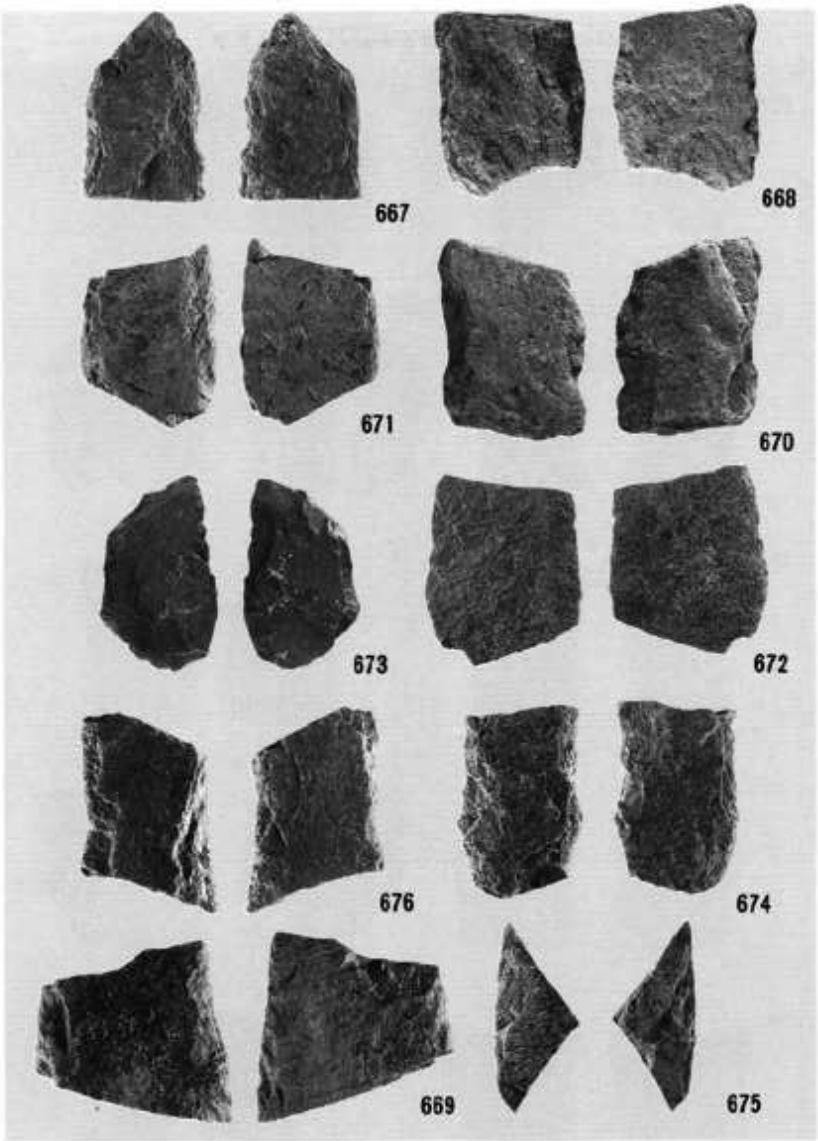
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (82) (1/4)



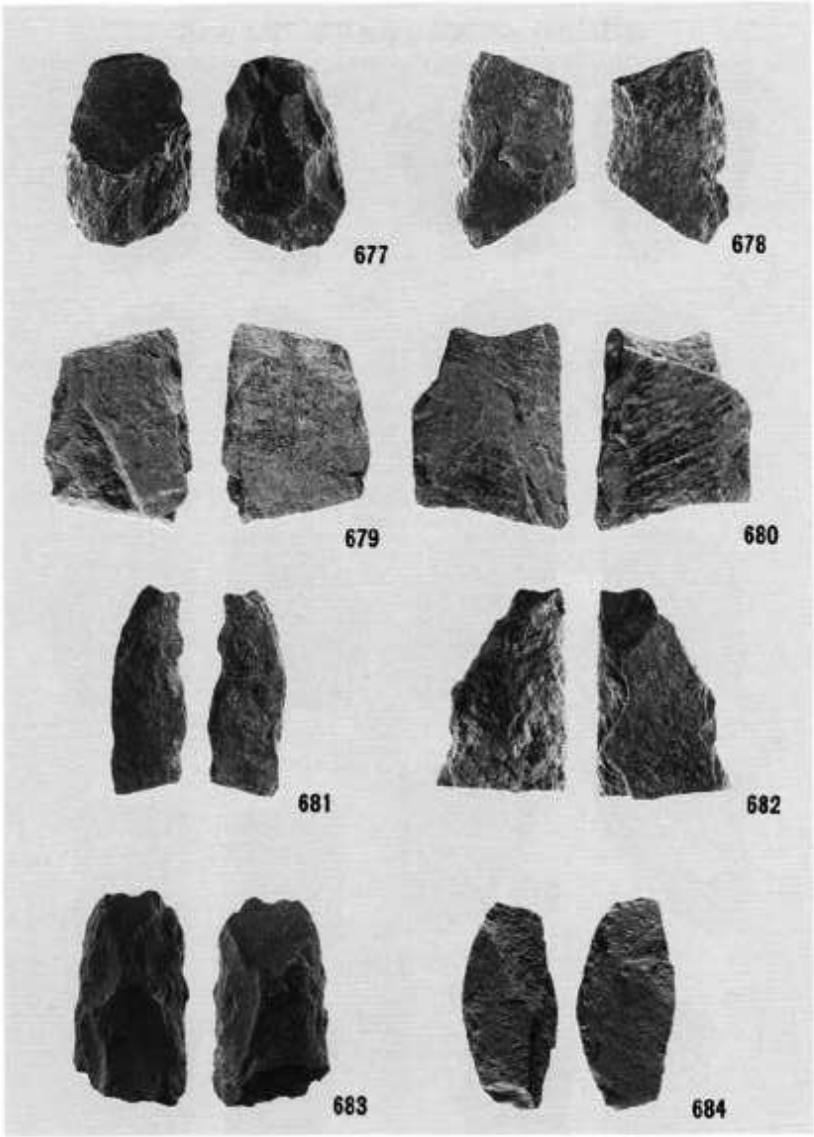
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (83) (1/4)



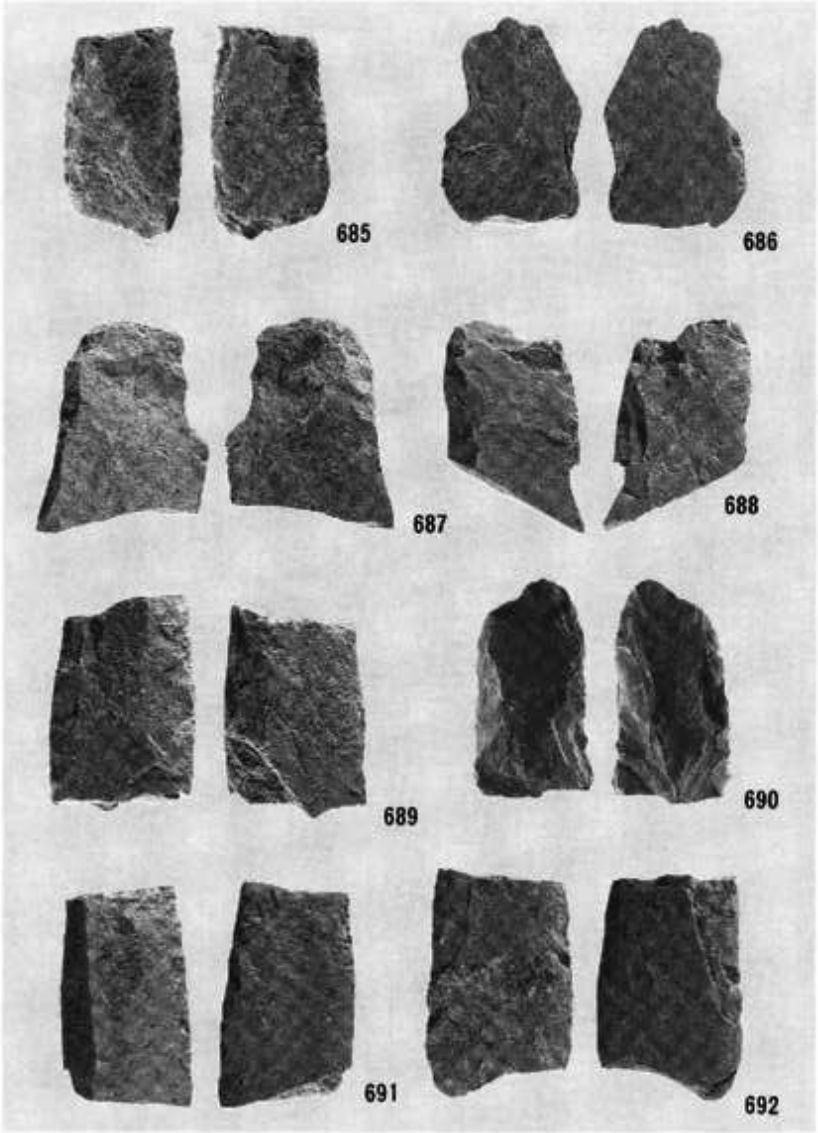
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (84) (1/4)



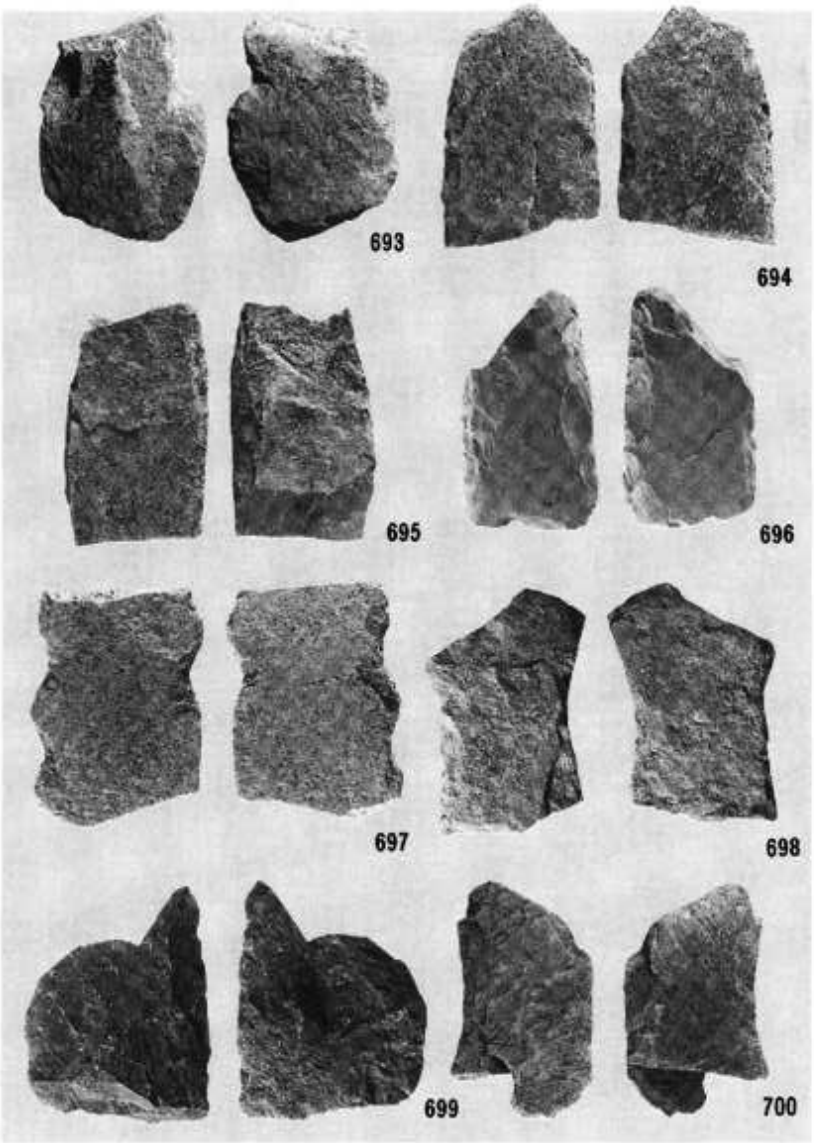
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（85）（1/4）



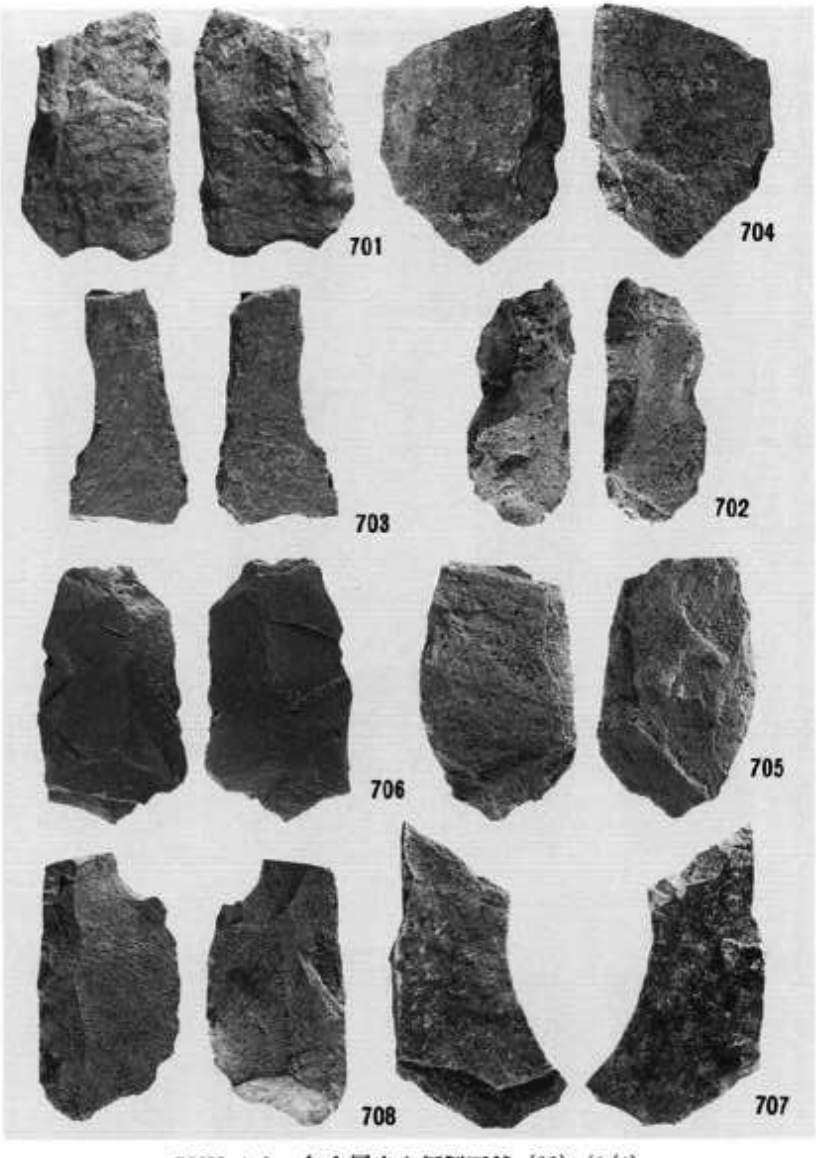
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（86）（1/4）



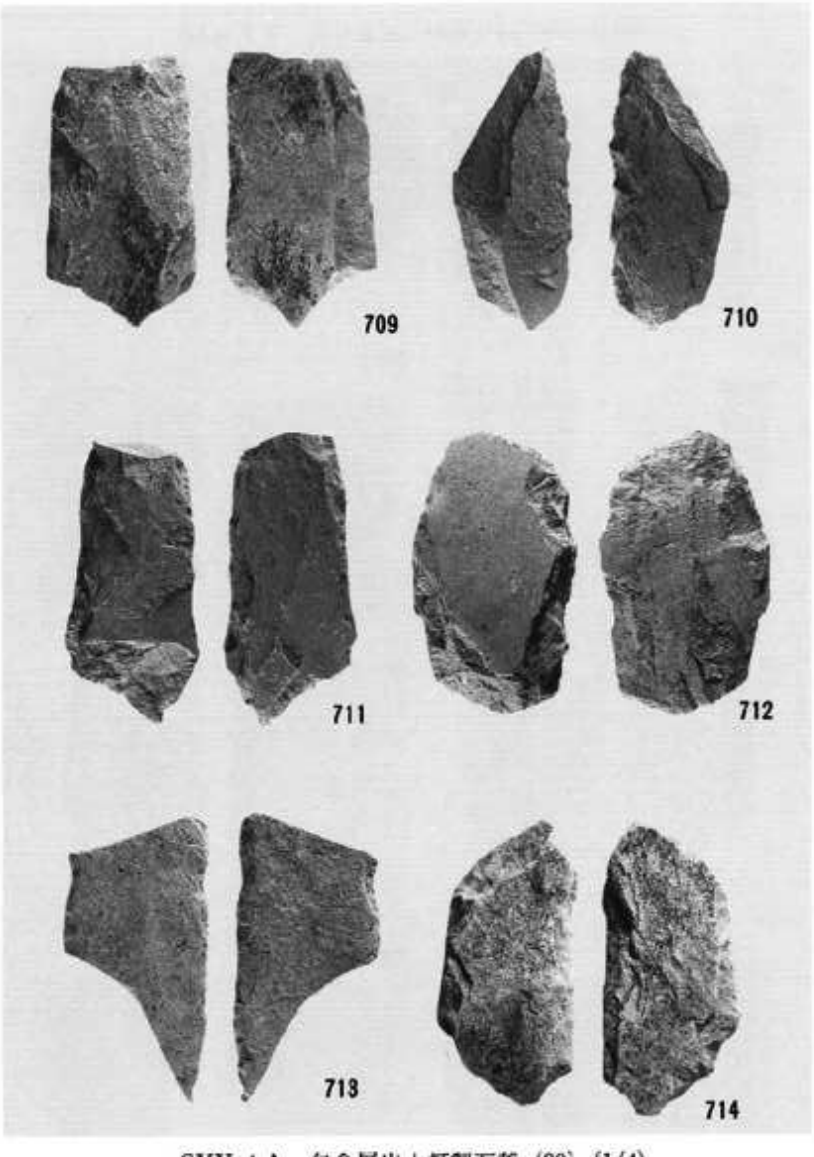
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（87）（1/4）



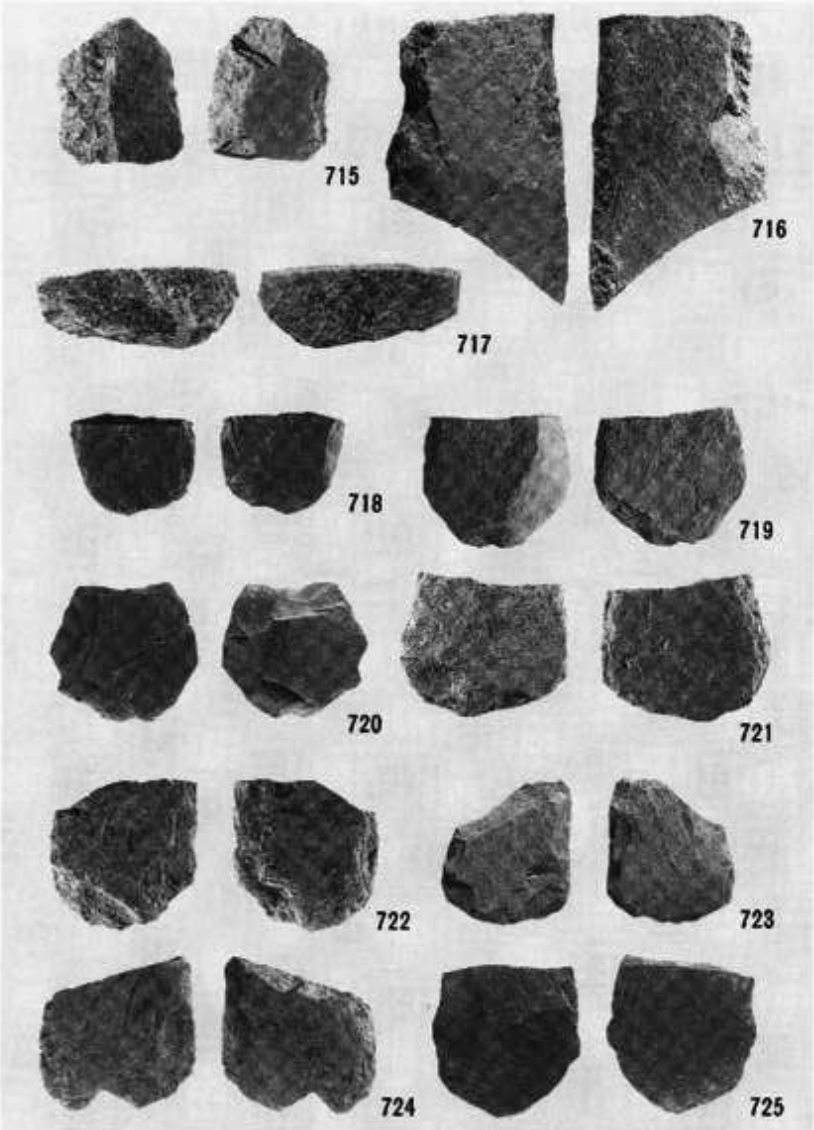
SYY 4 A　包含層出土打製石斧（88）（1/4）



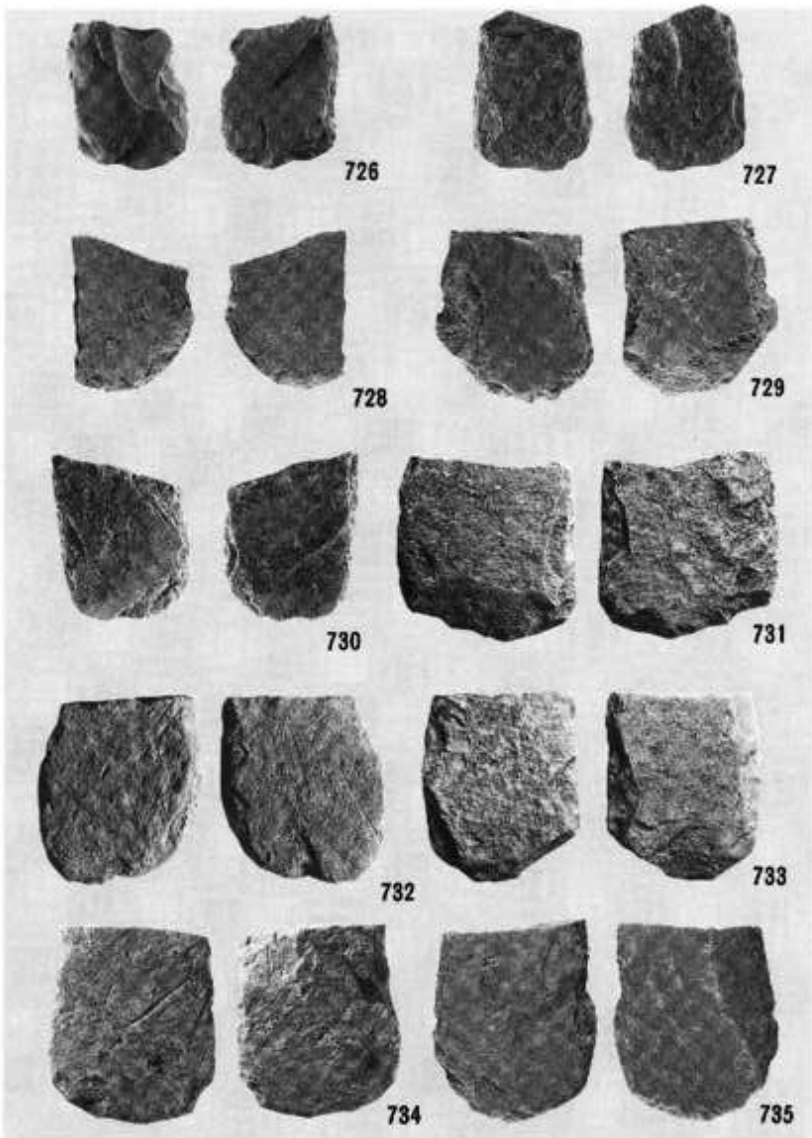
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (89) (1/4)



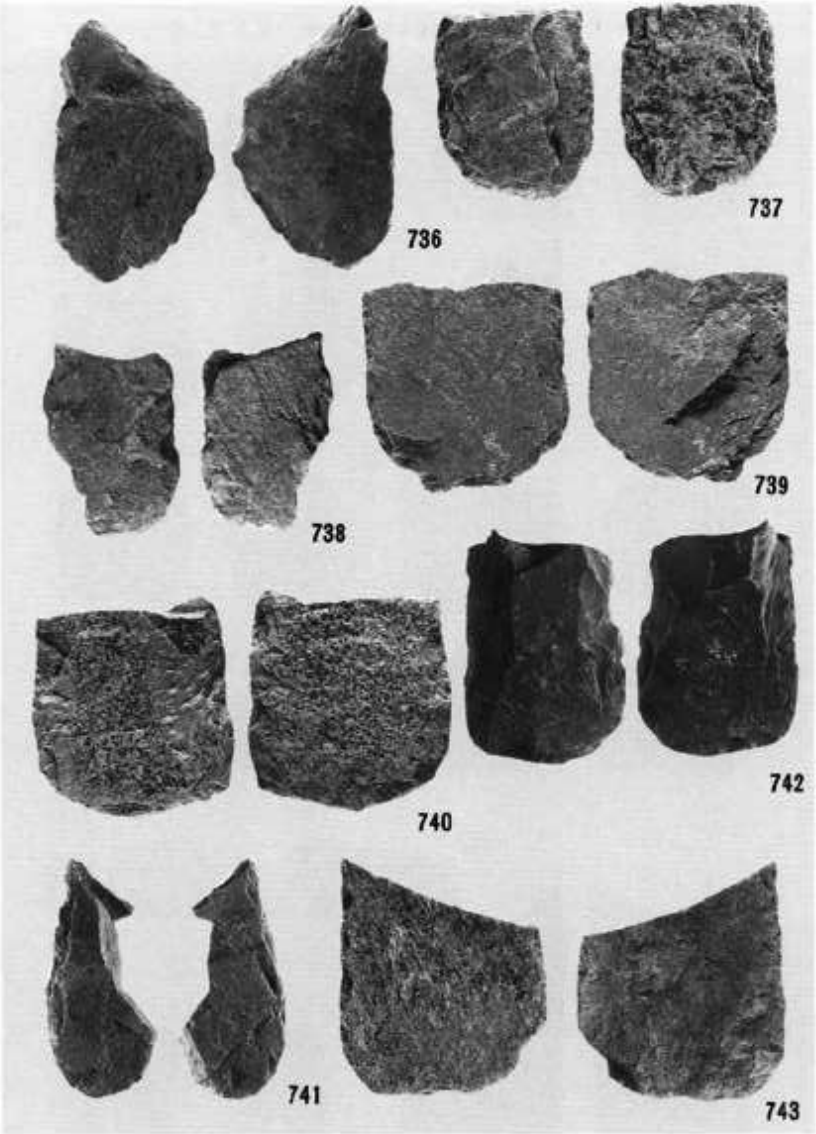
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (90) (1/4)



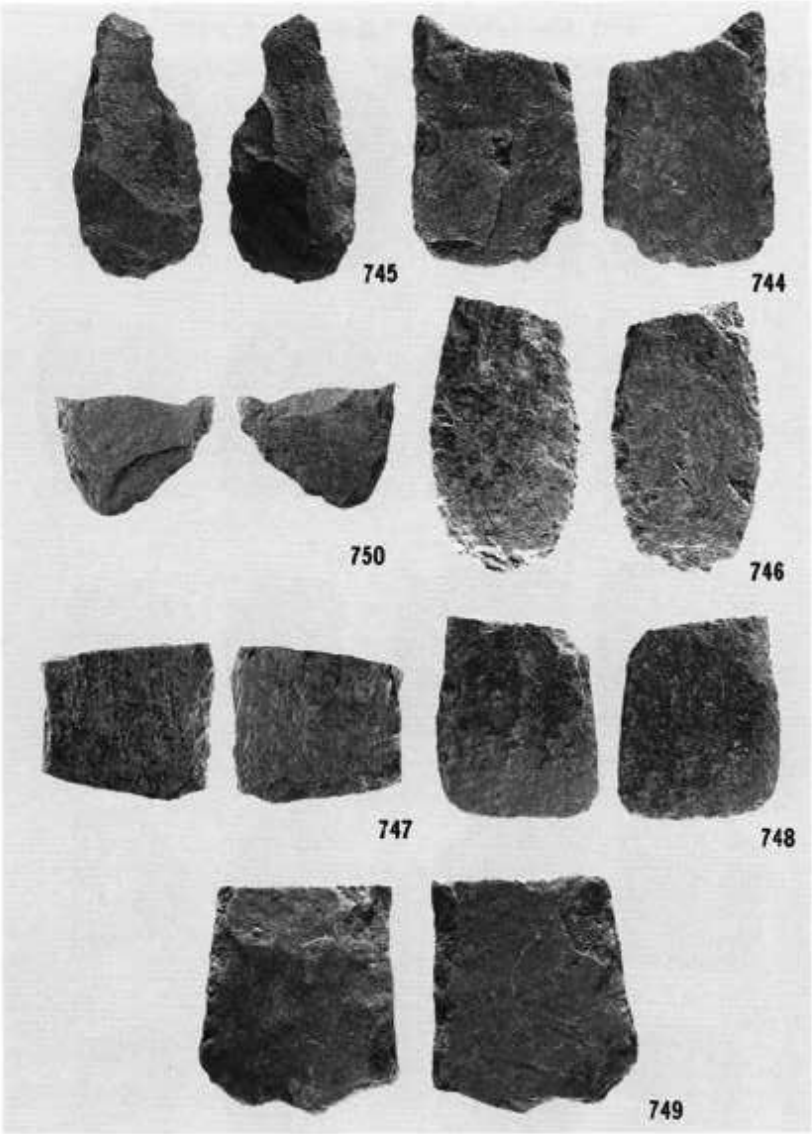
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (91) (1/4)



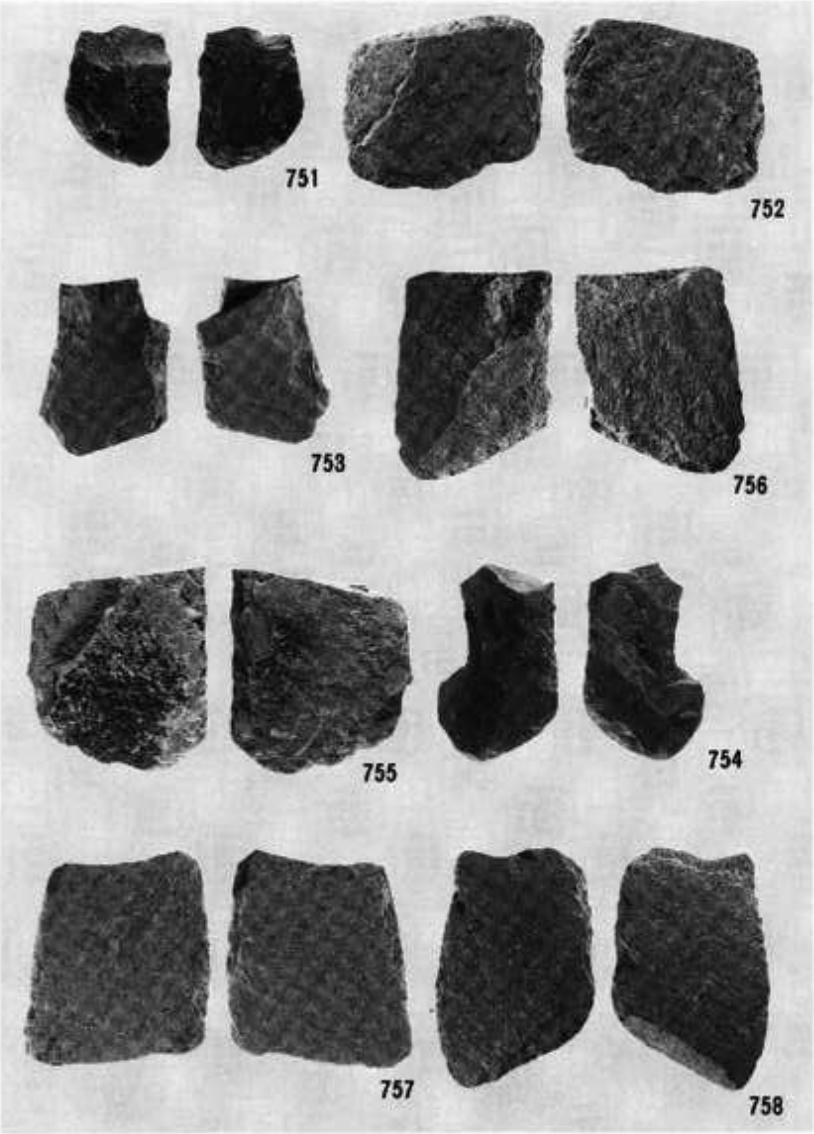
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (92) (1/4)



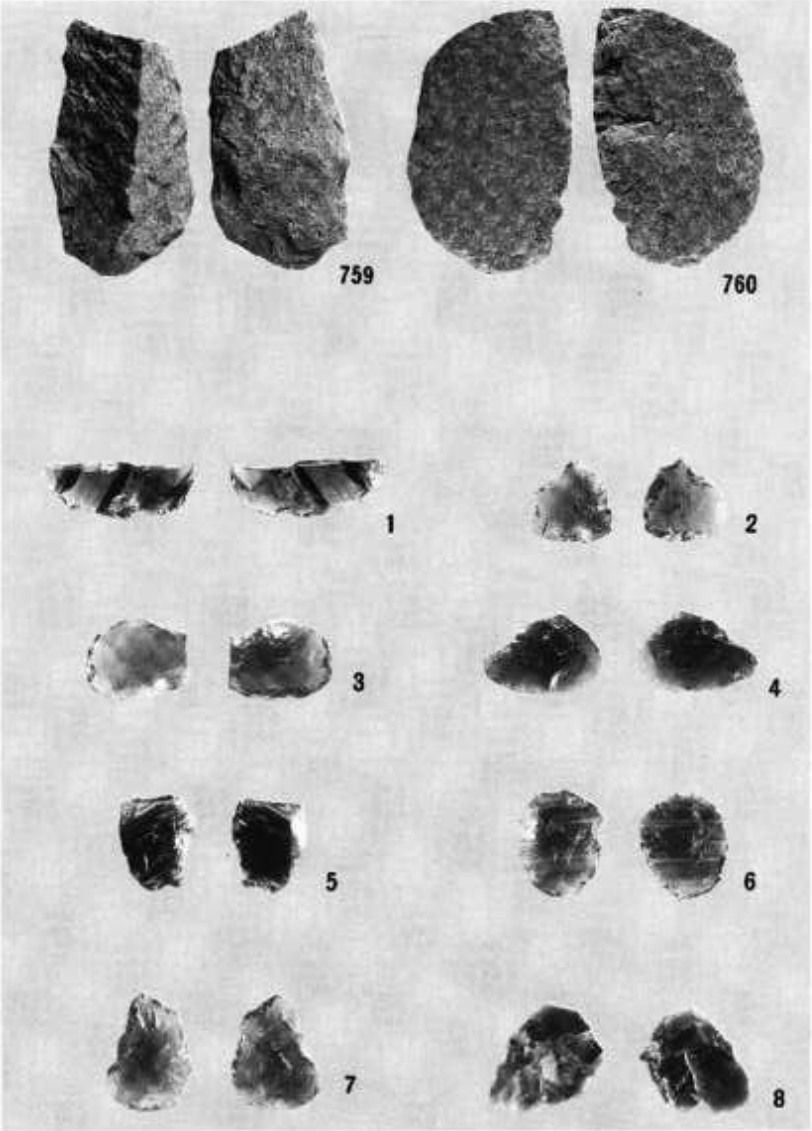
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (93) (1/4)



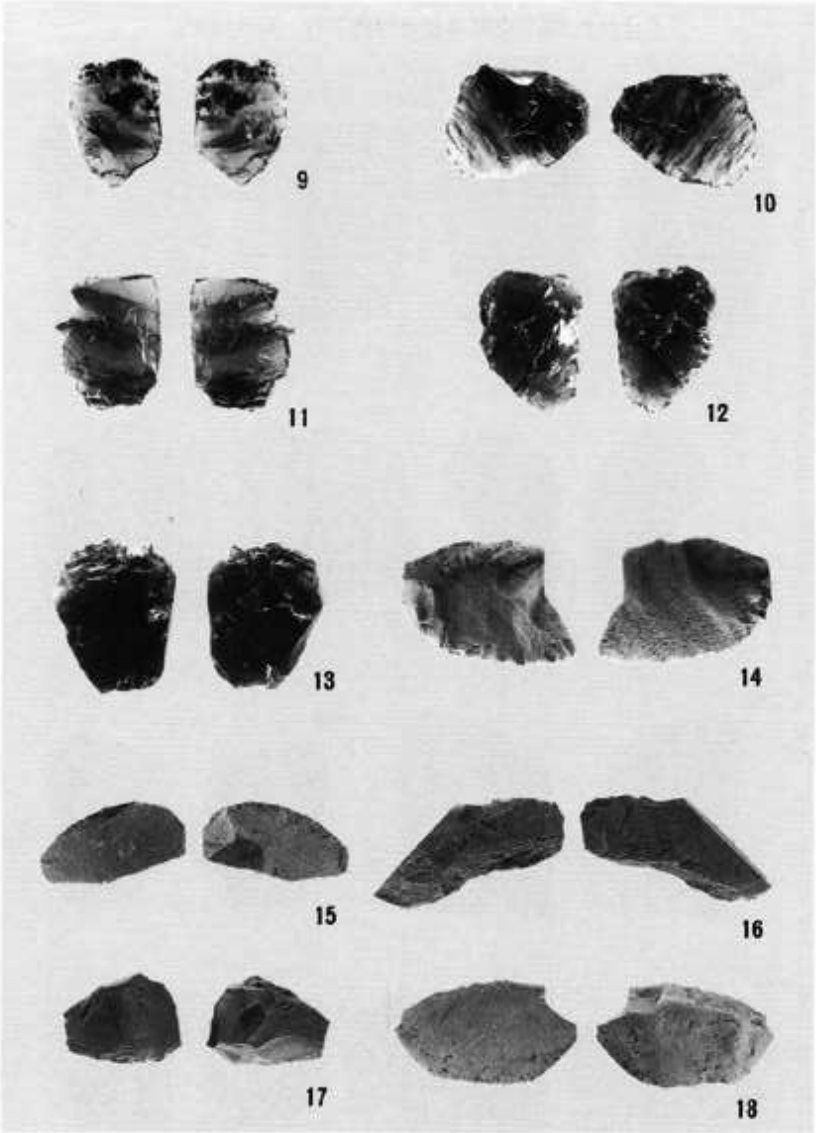
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (94) (1/4)



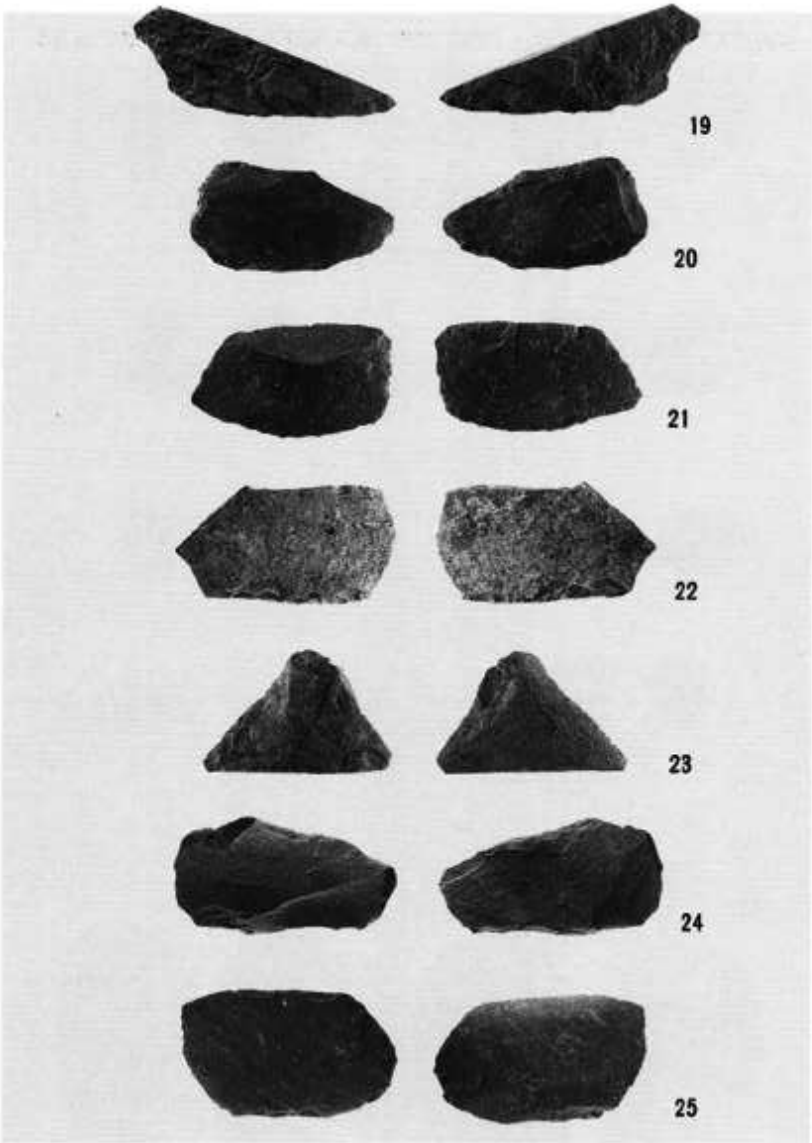
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (95) (1/4)



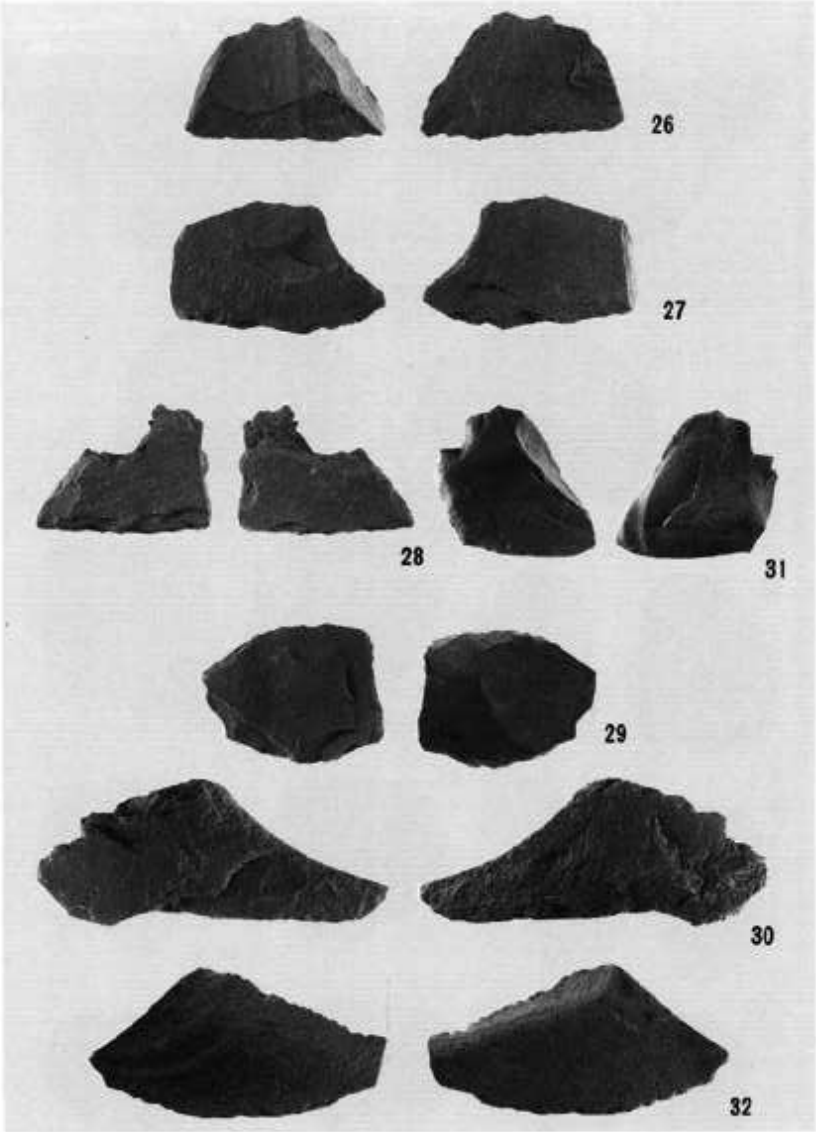
SYY 4 A　包含層出土打製石斧 (96) (1/4)・スクレイパー (1) (1/2)



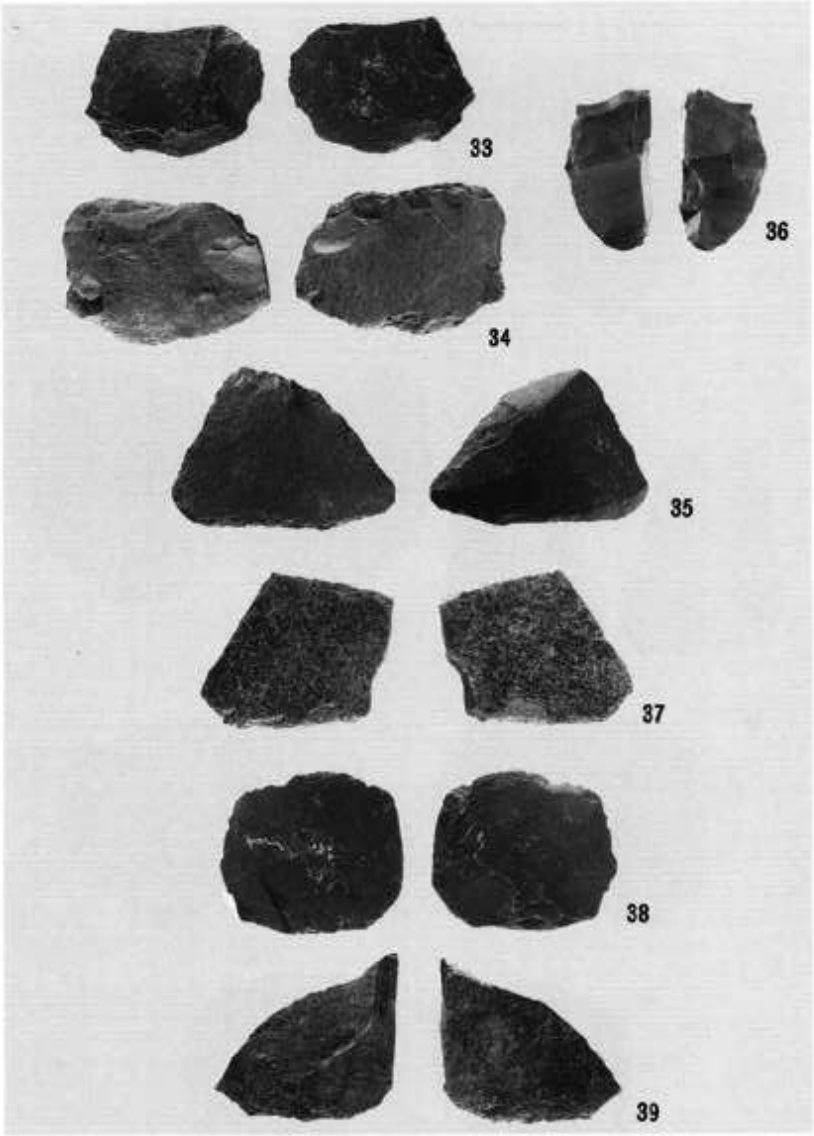
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（2）(1/2)



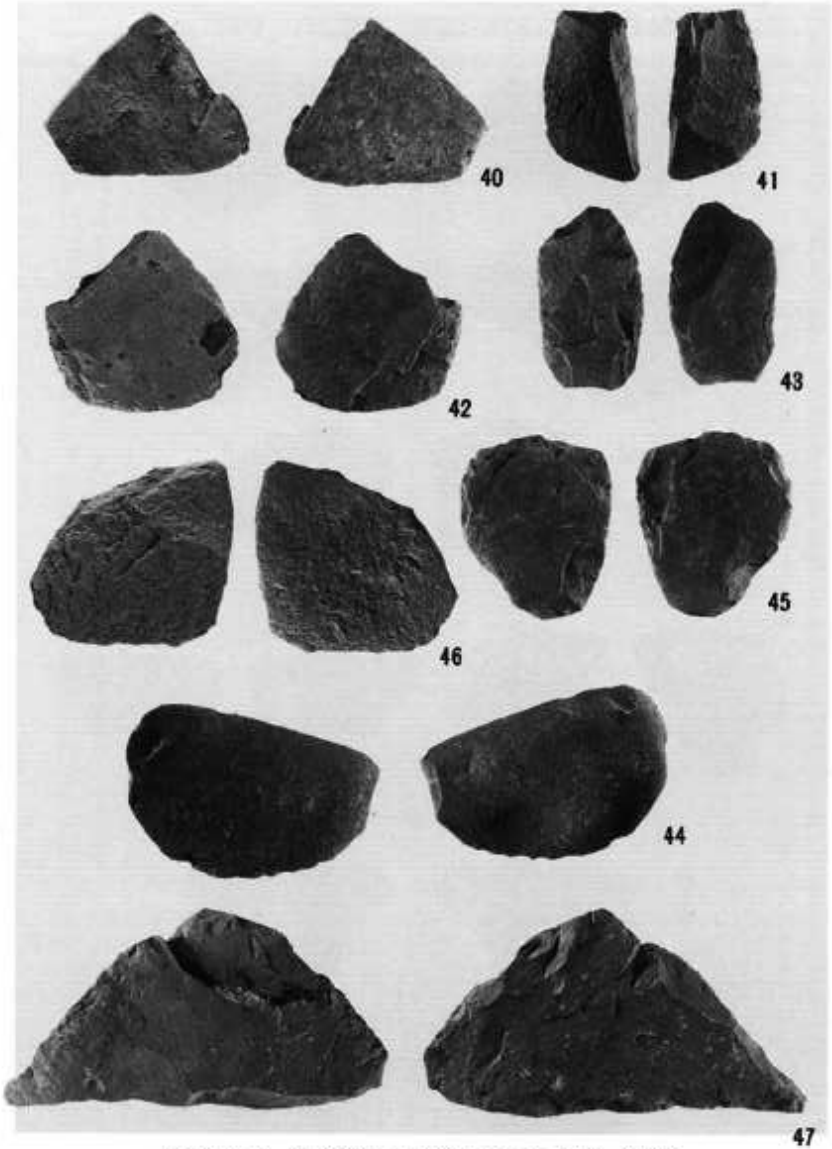
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（3）(1/4)



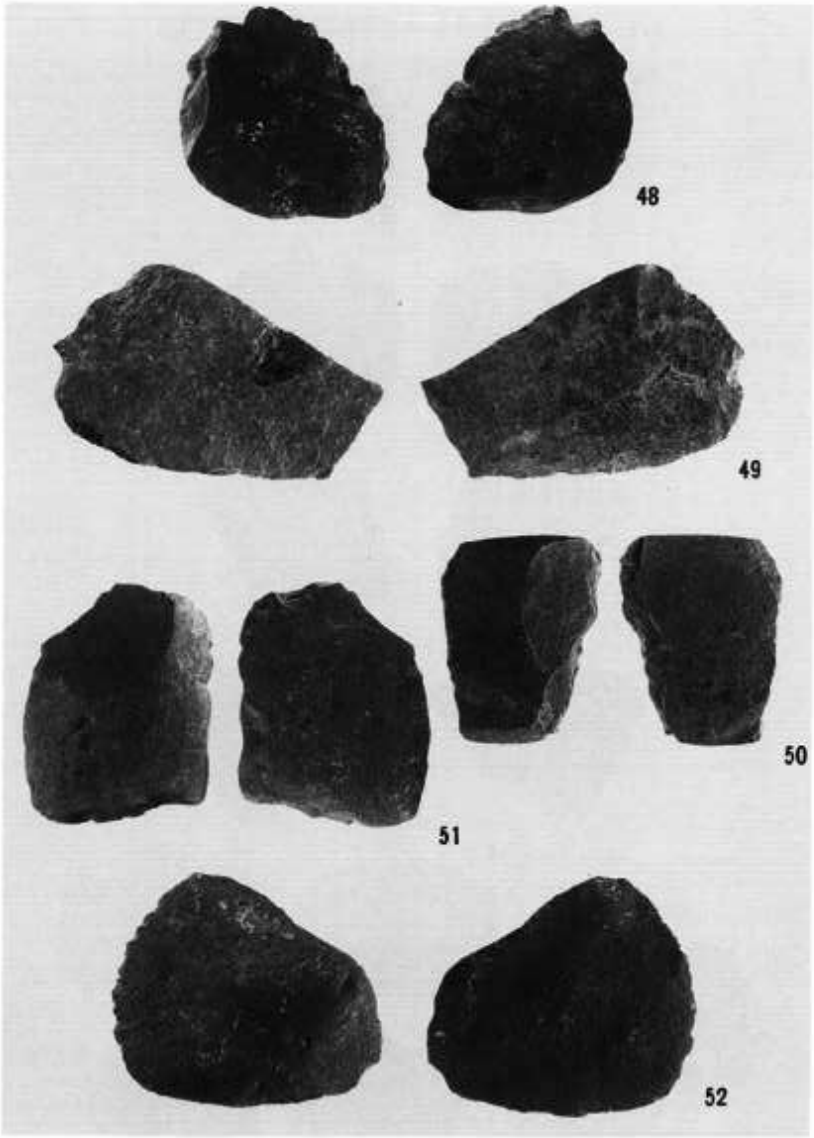
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（4）(1/4)



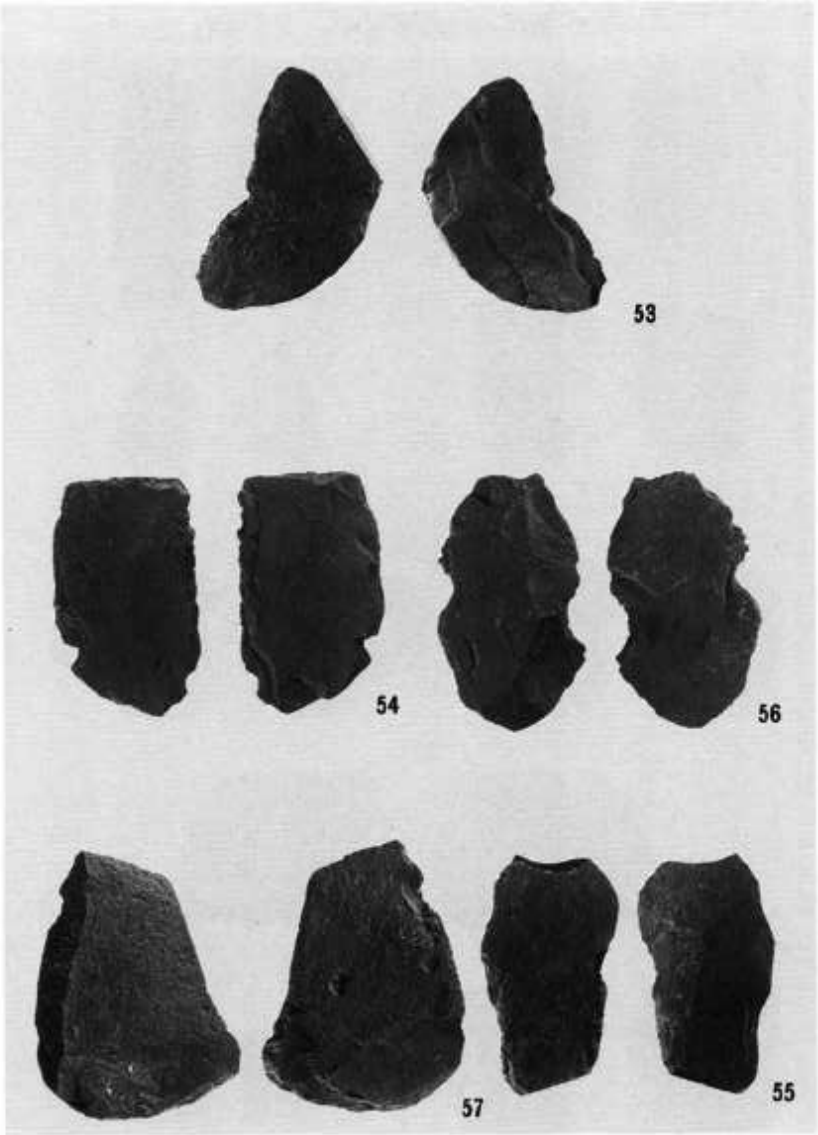
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（5）(1/4)



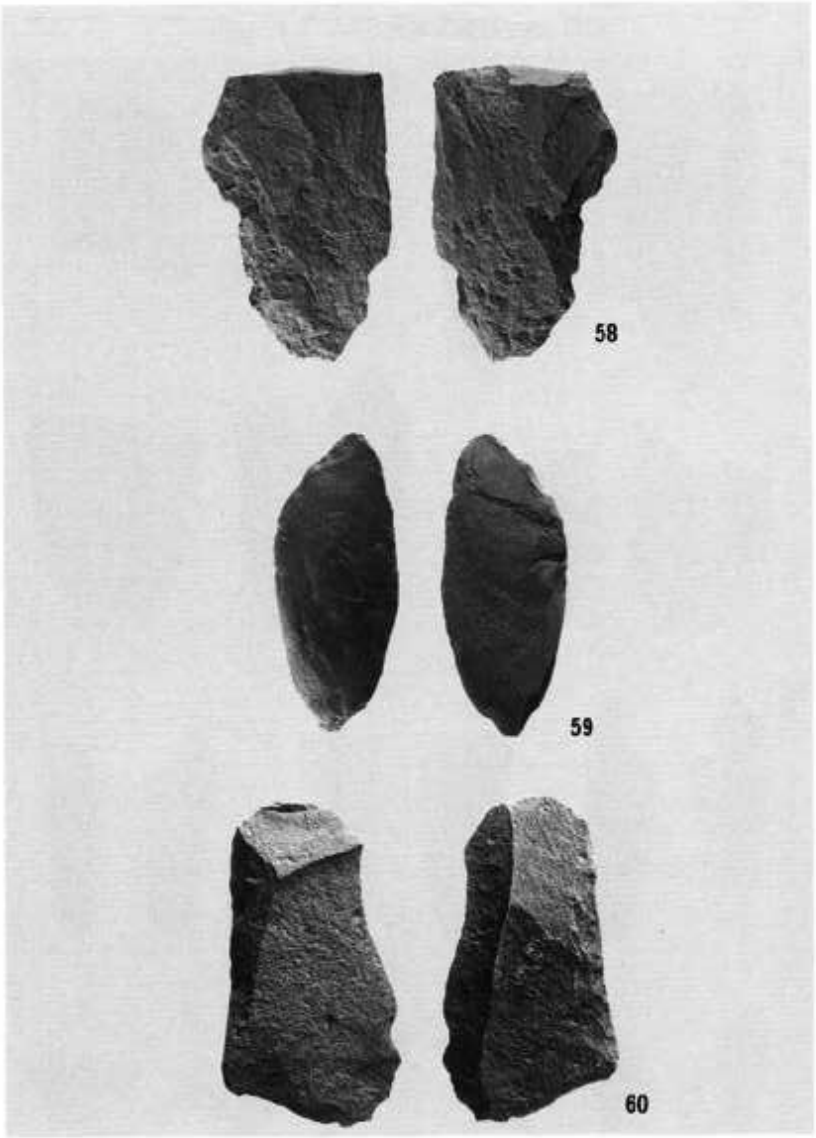
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（6）(1/4)



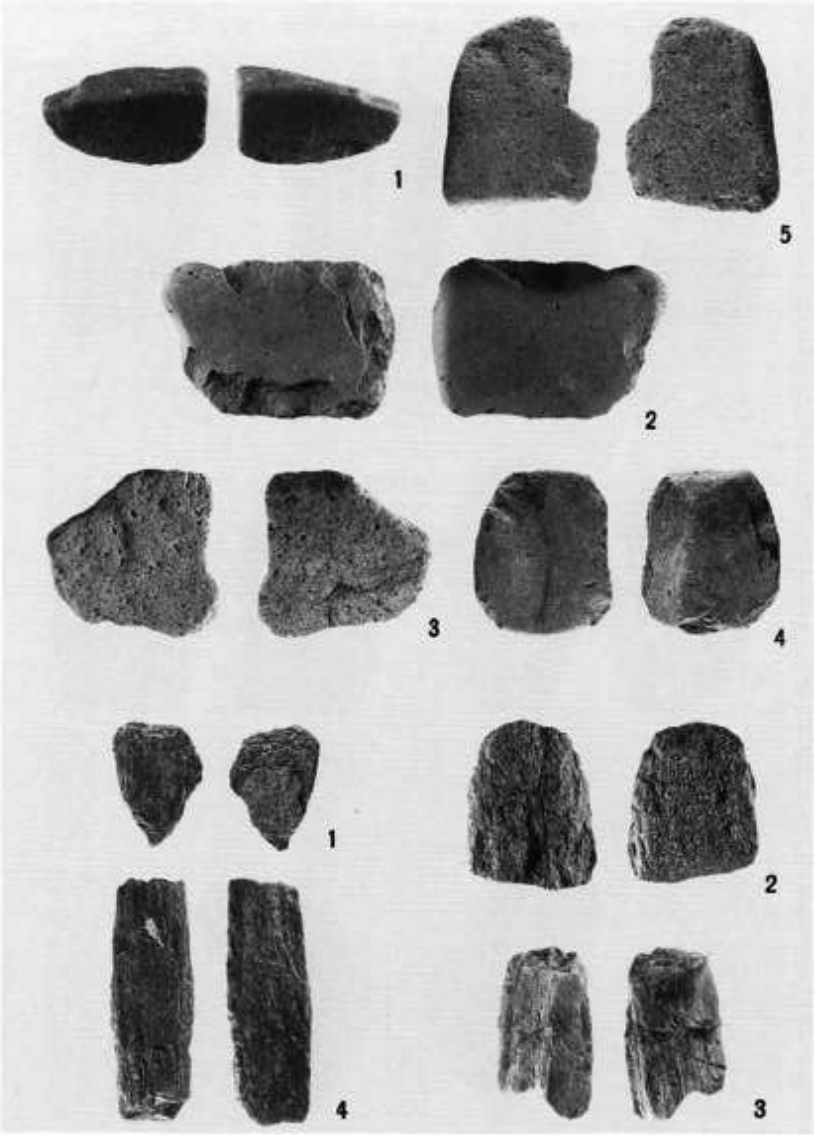
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（7）(1/4)



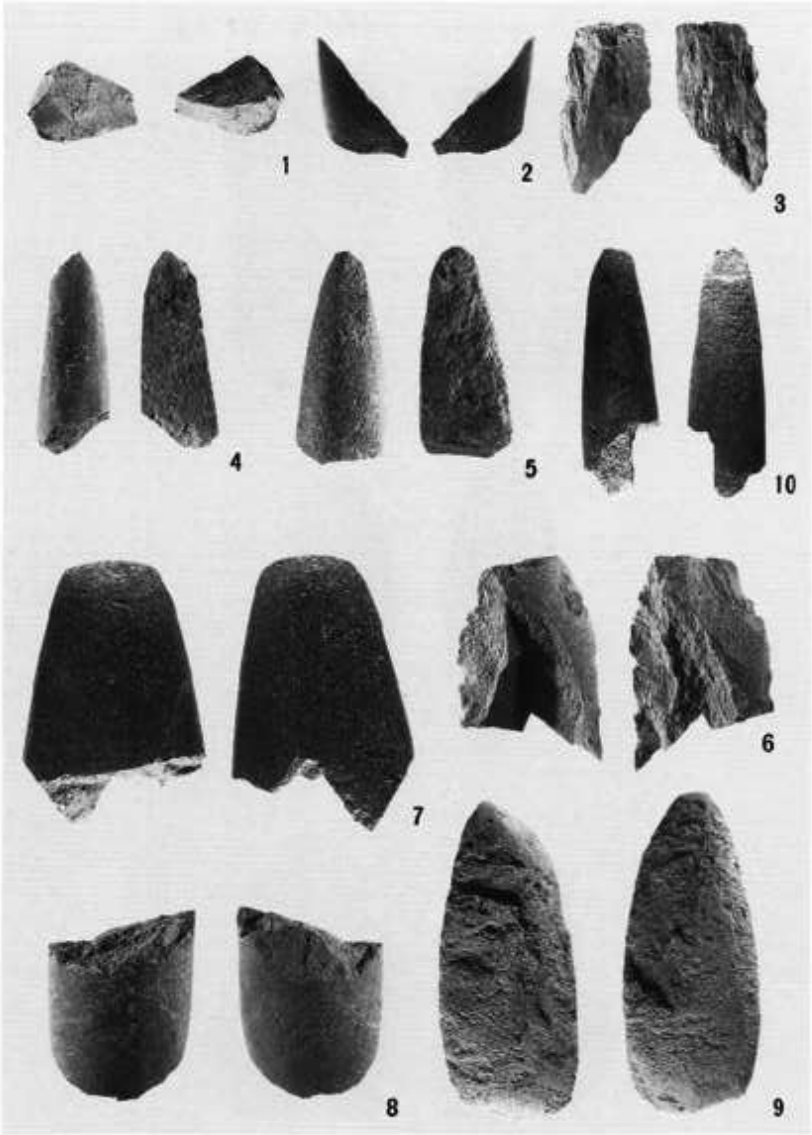
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（8）(1/4)



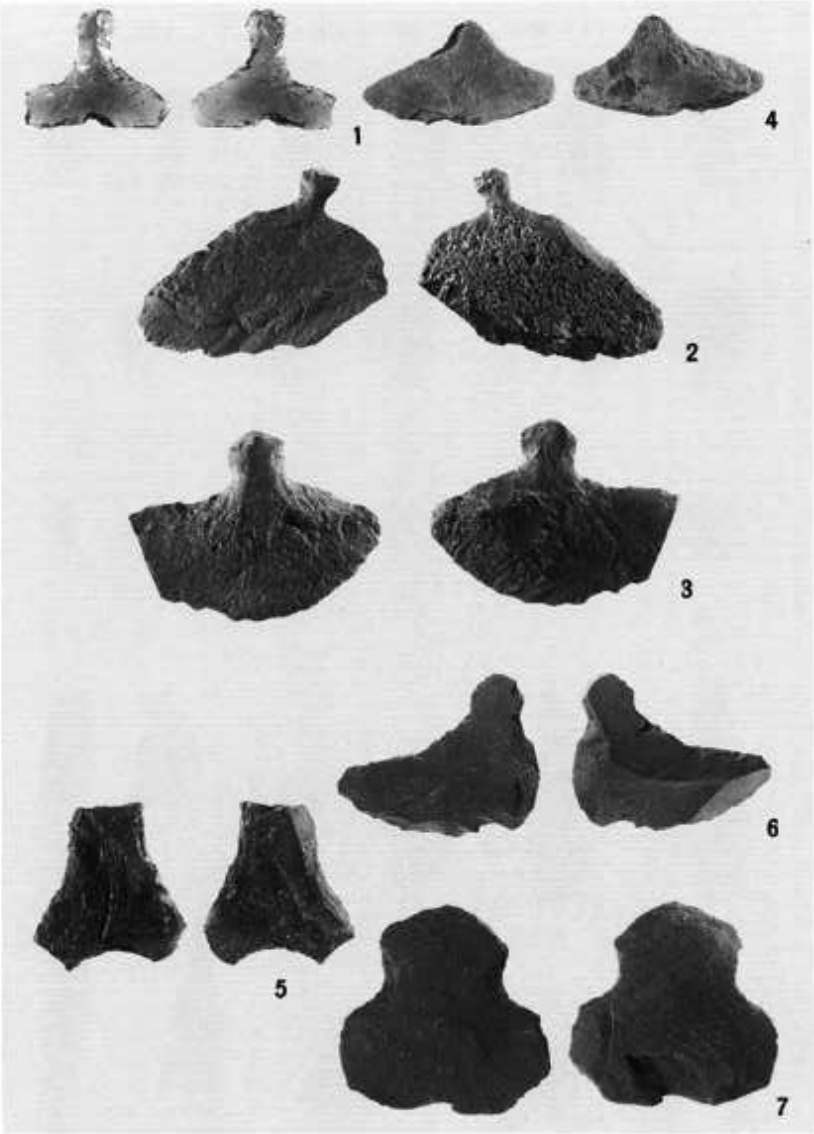
SYY 4 A　包含層出土スクレイパー（9）(1/4)



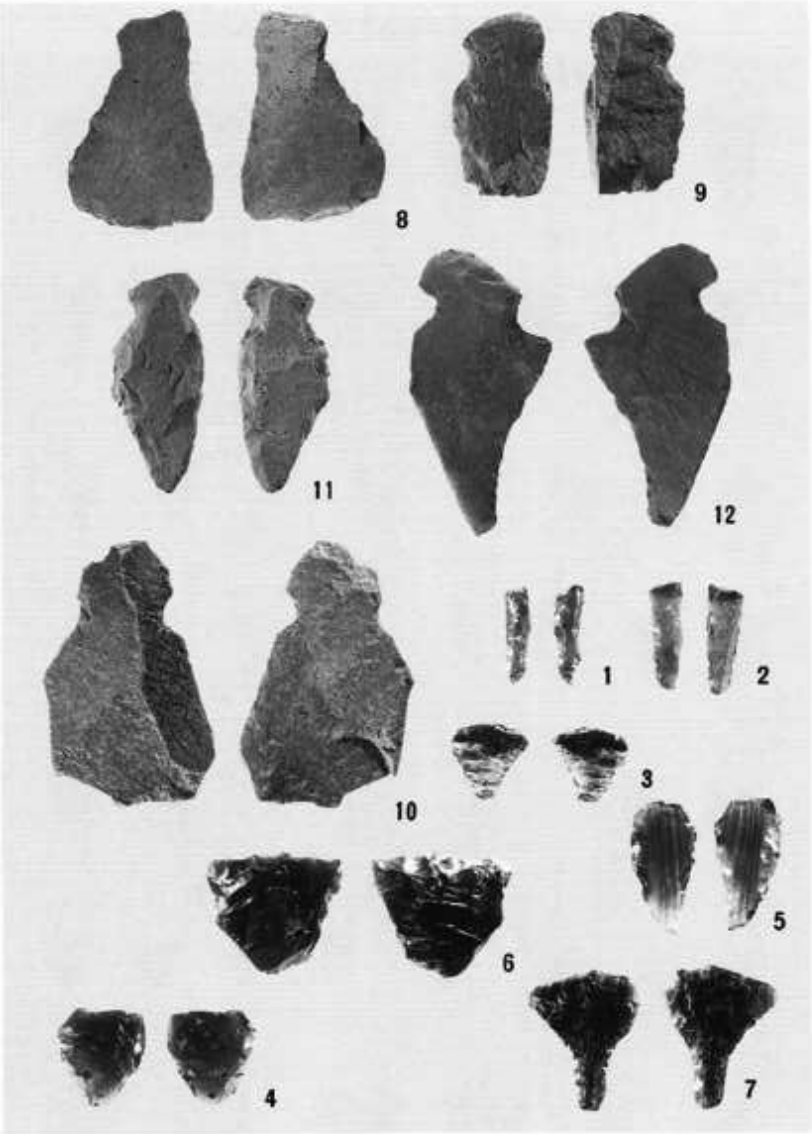
SYY 4 A　包含層出土礫器・石棒 (1/4)



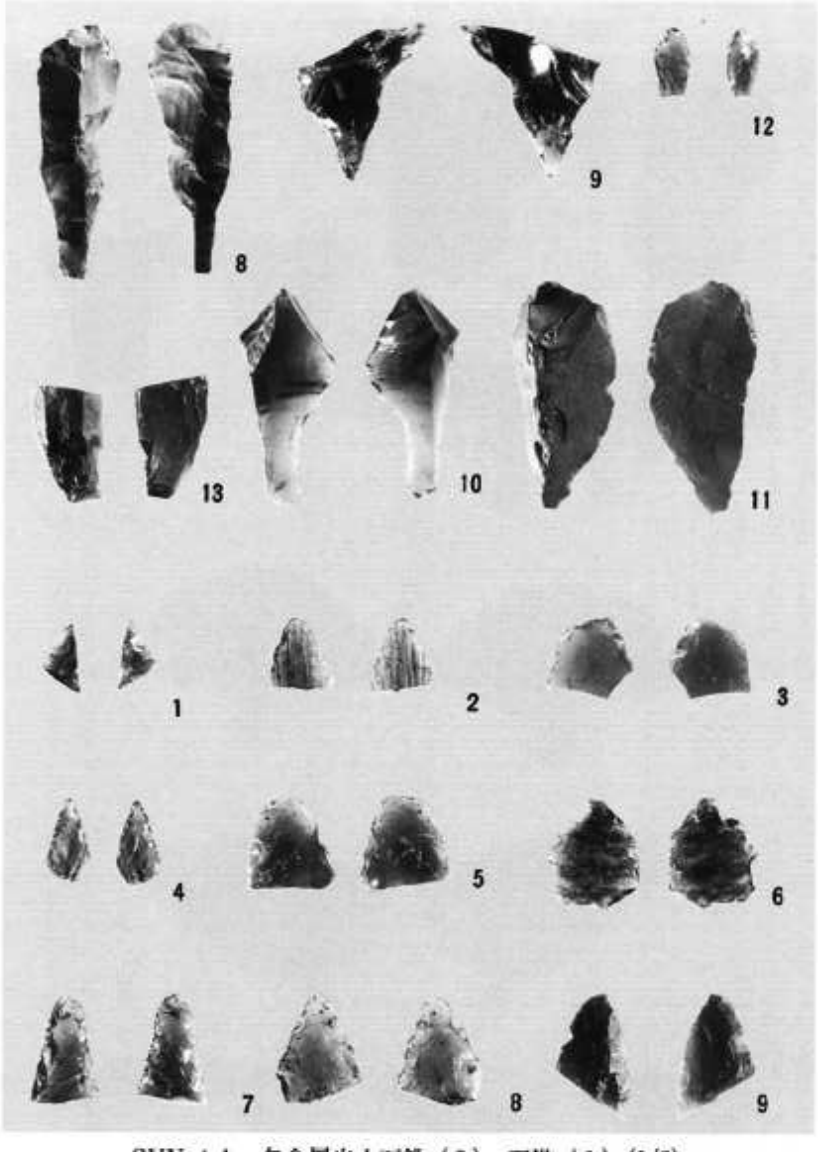
SYY 4 A　包含層出土磨製石斧 (1/4)



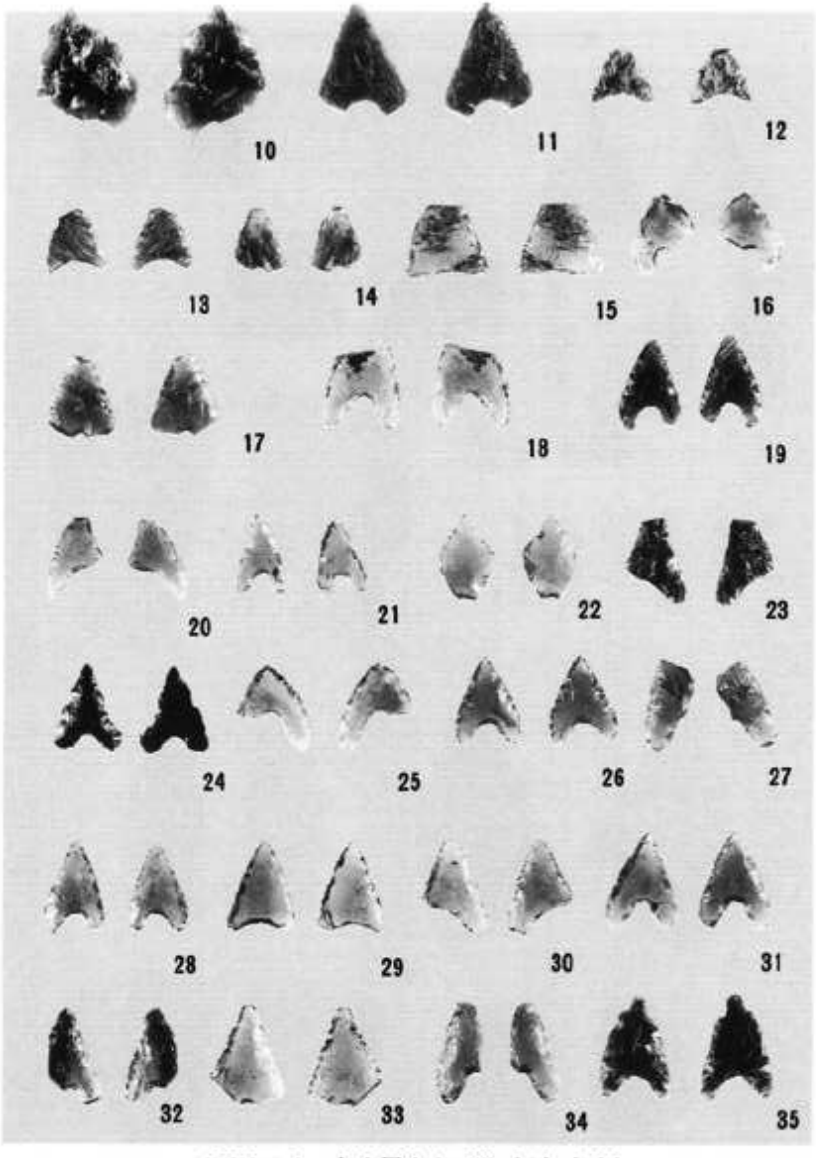
SYY 4 A　包含層出土石匙（1）(1/4)



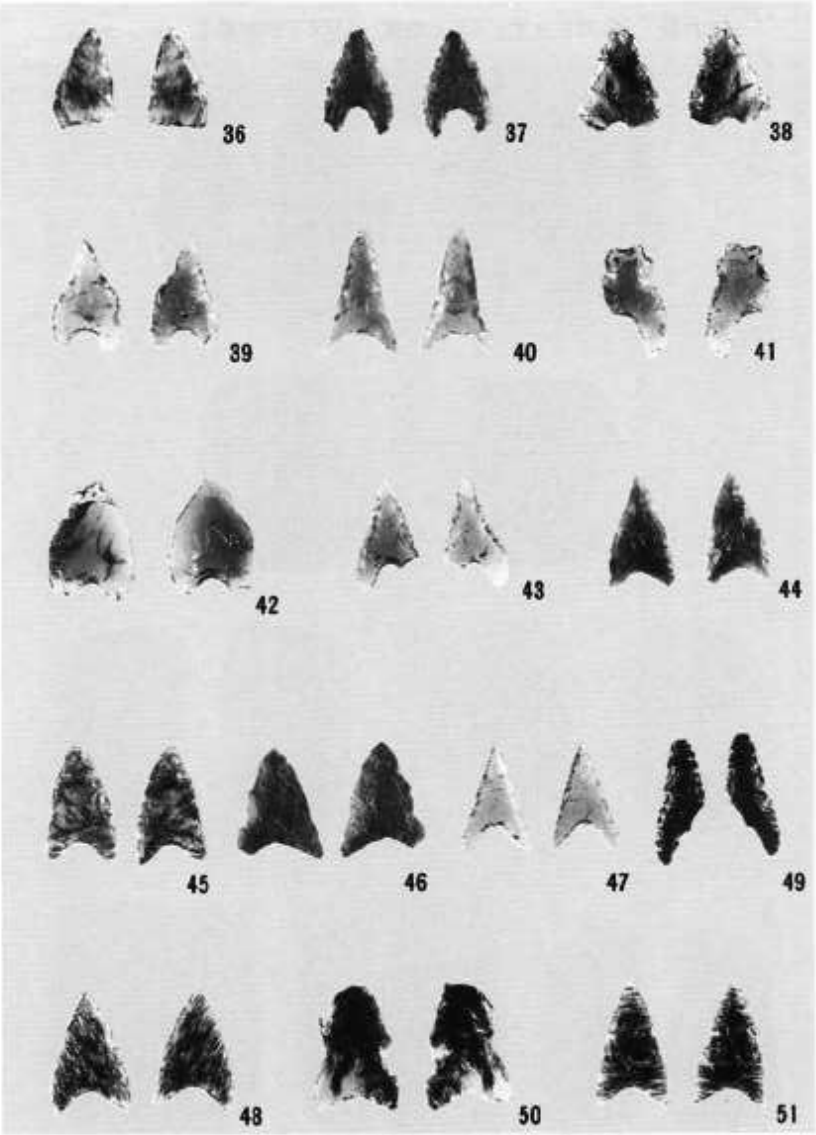
SYY 4 A　包含層出土石匙（2）(1/4)・石錐（1）(1/2)



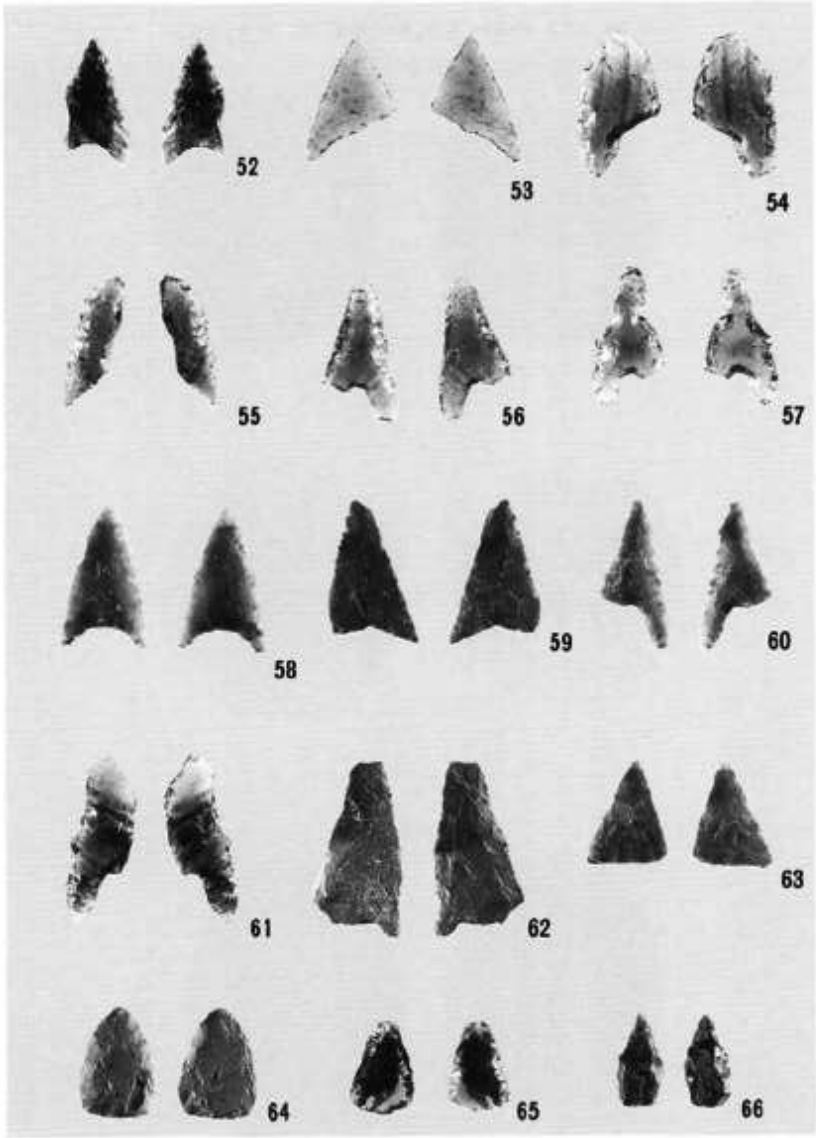
SYY 4 A　包含層出土石錐（2）・石鏃（1）(1/2)



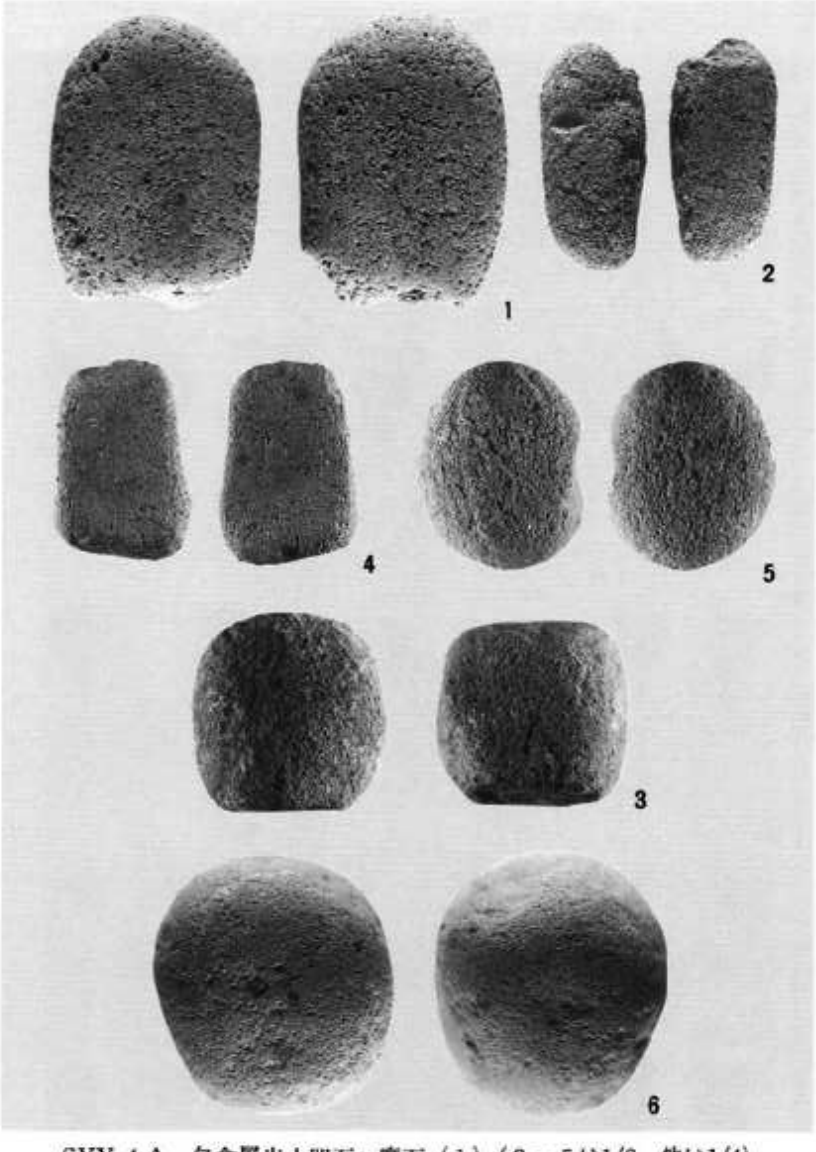
SYY 4 A　包含層出土石鏃（2）(1/2)



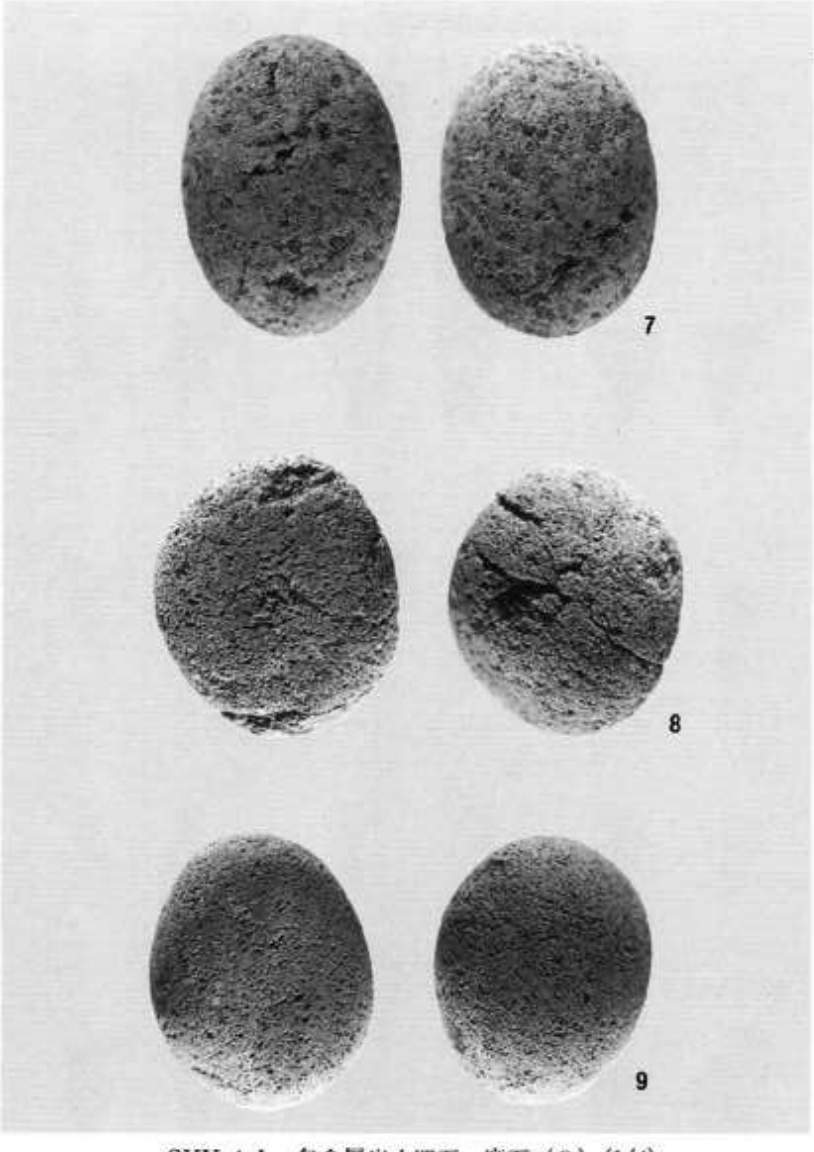
SYY 4 A　包含層出土石鏃（3）(1/2)



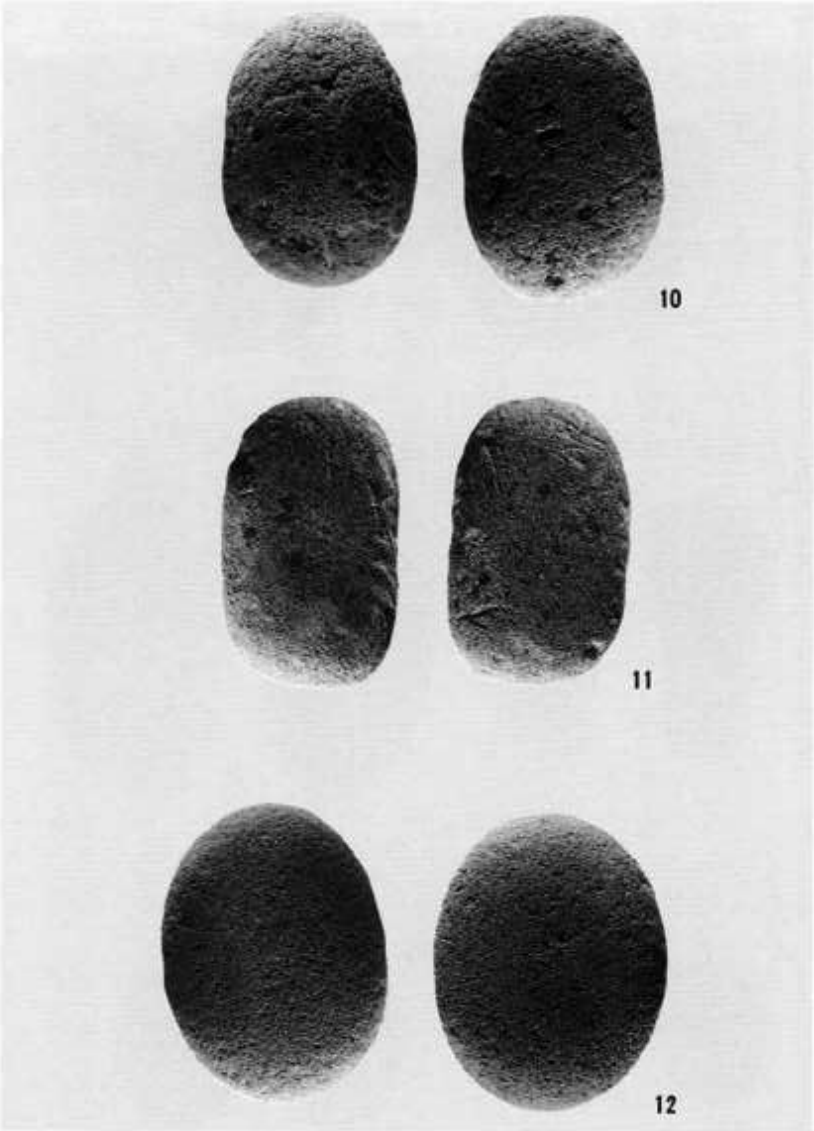
SYY 4 A　包含層出土石鏃（4）(1/2)



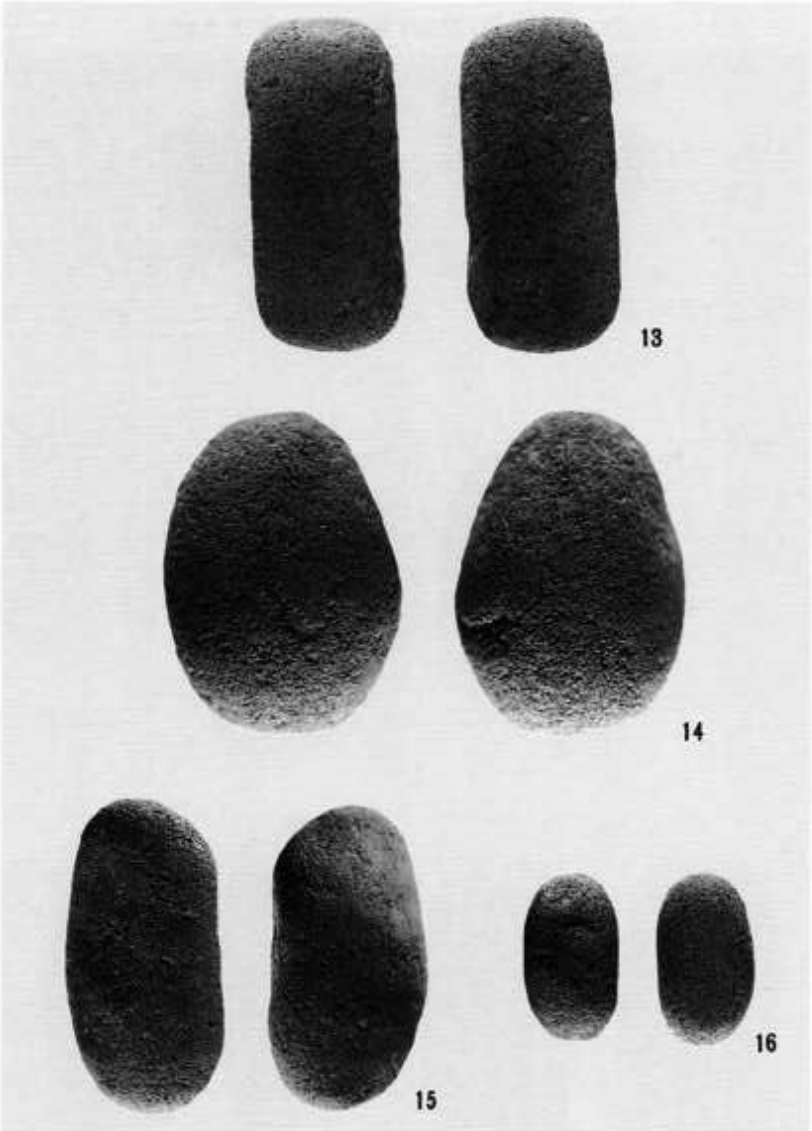
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（1）（2～5は1/8、他は1/4）



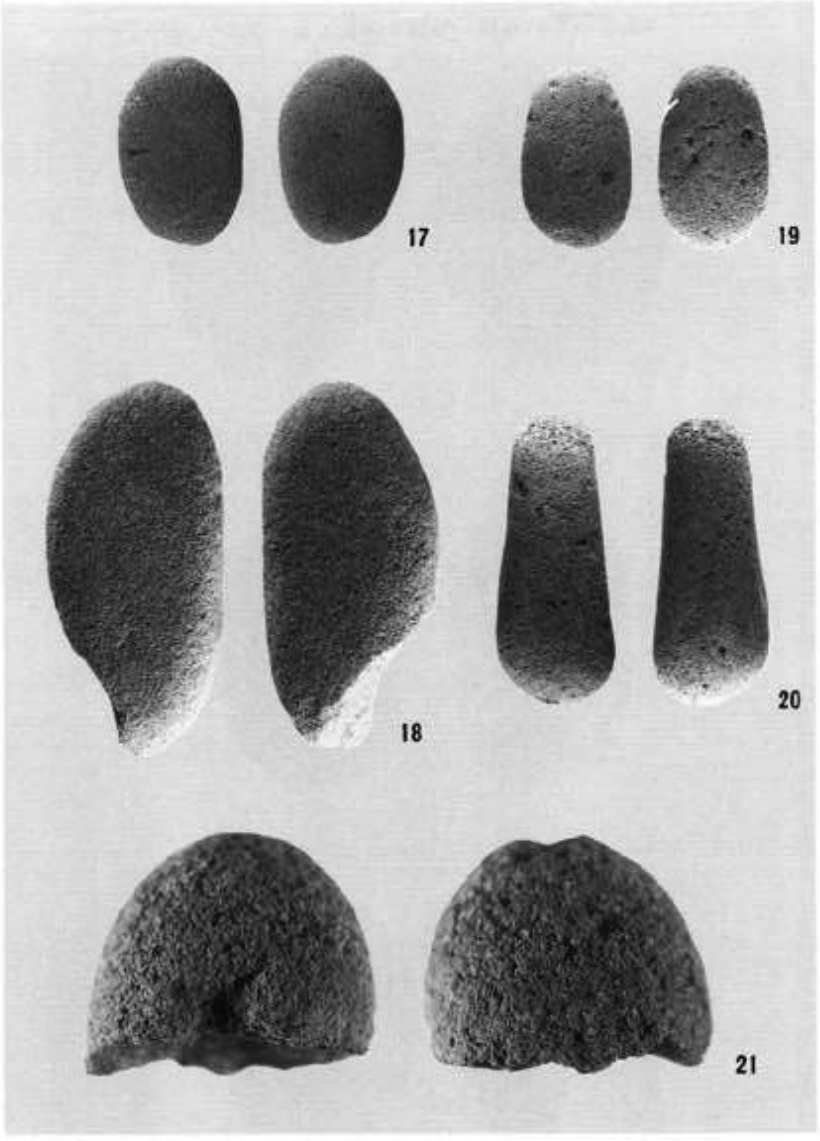
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（2）（1/4）



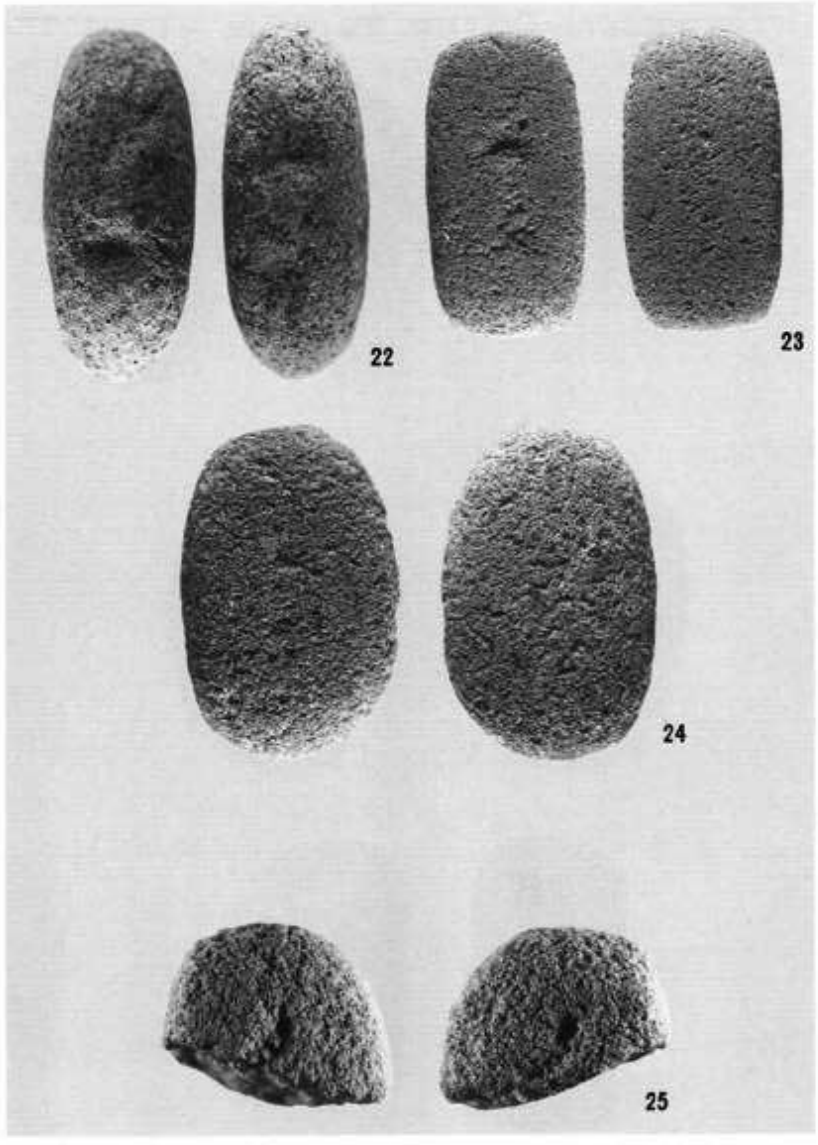
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（3）(1/4)



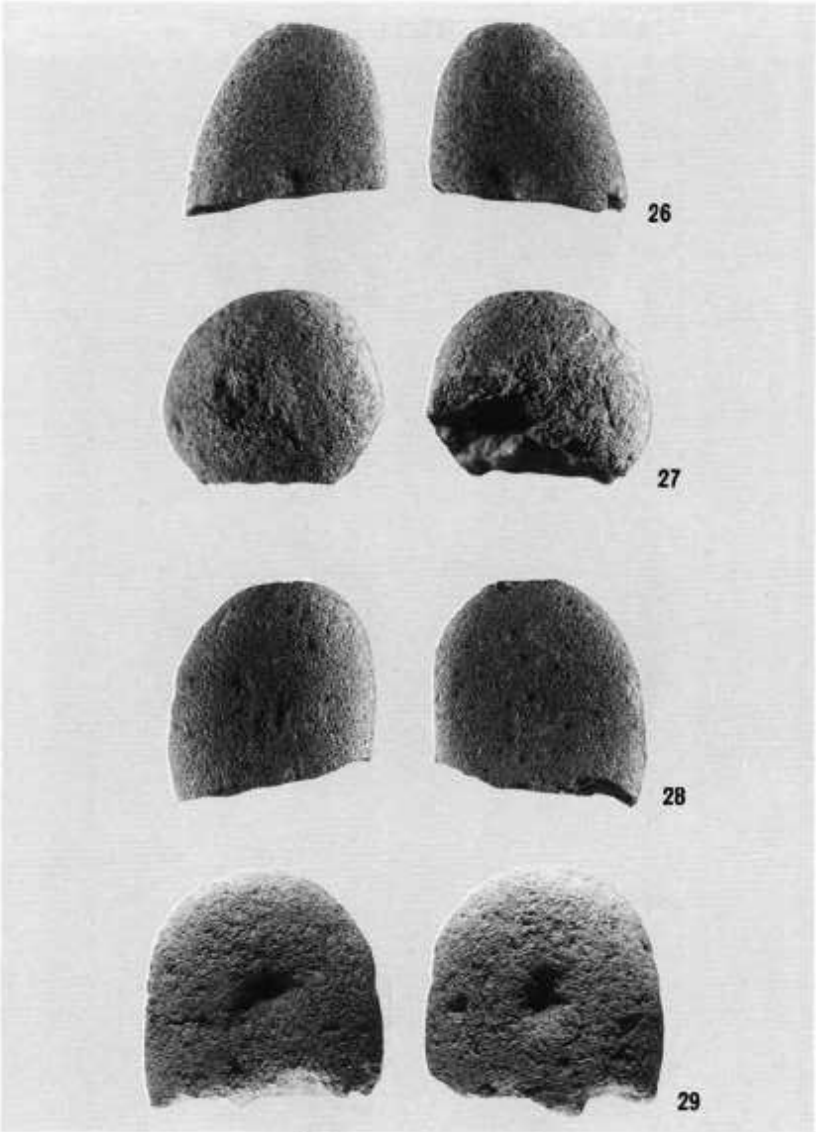
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（4）(16は1/8、他は1/4)



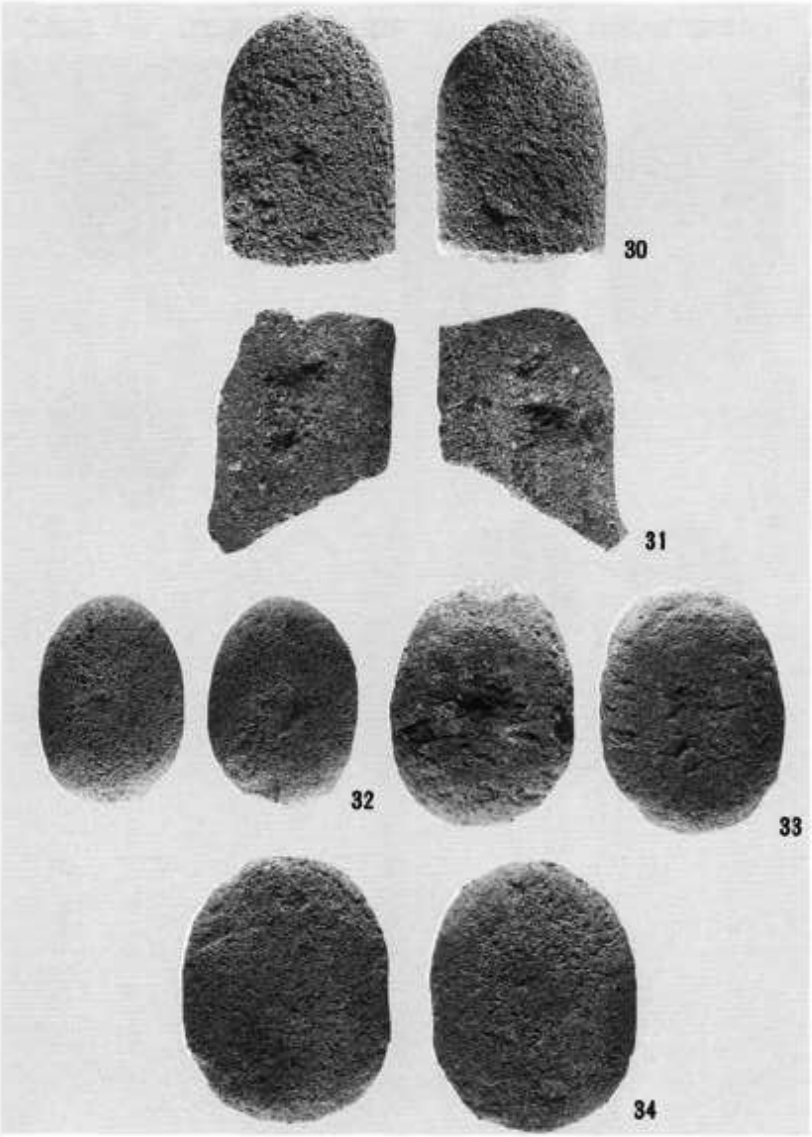
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（5）（17、19は1/8、他は1/4）



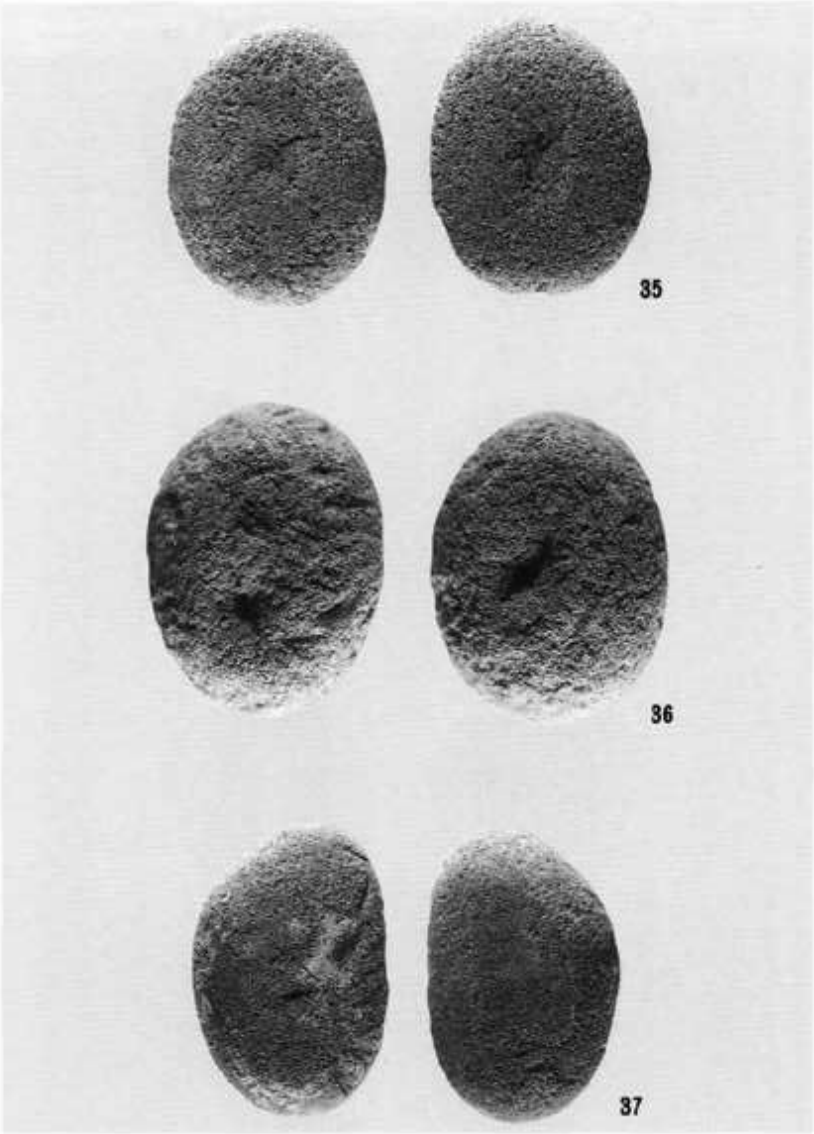
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（6）（1/4）



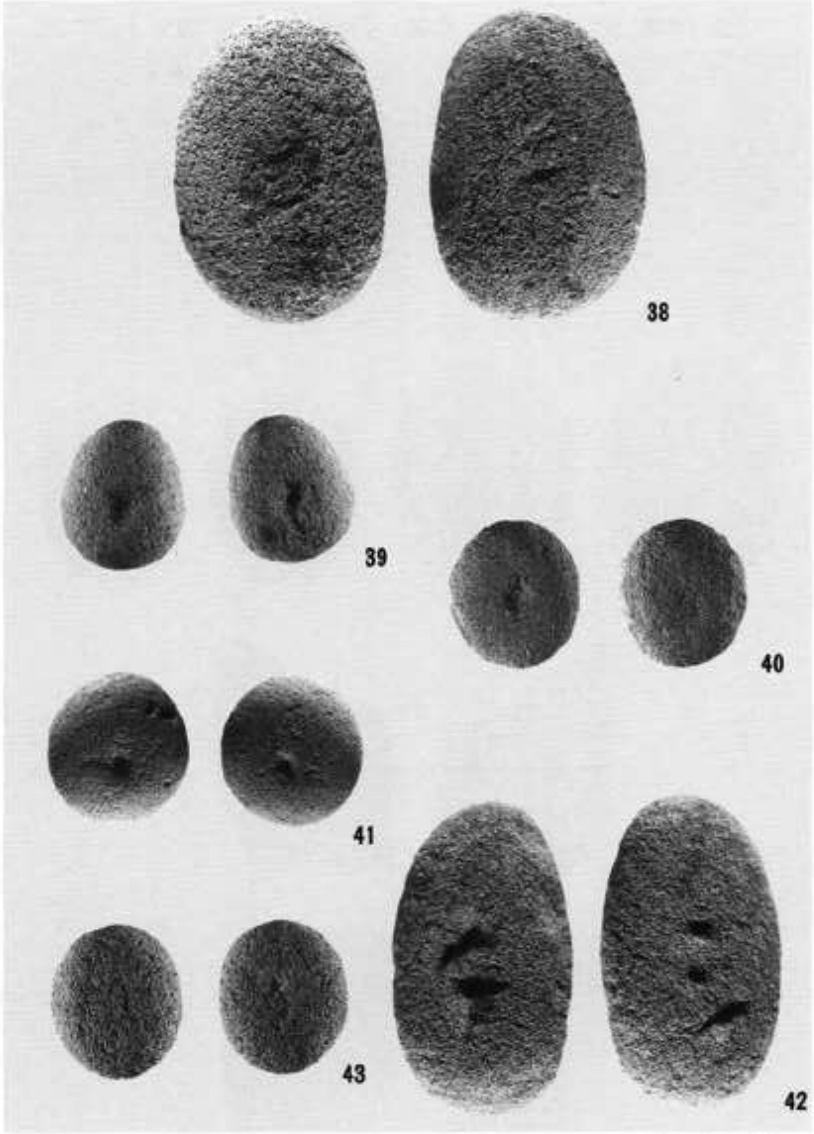
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（7）(1/4)



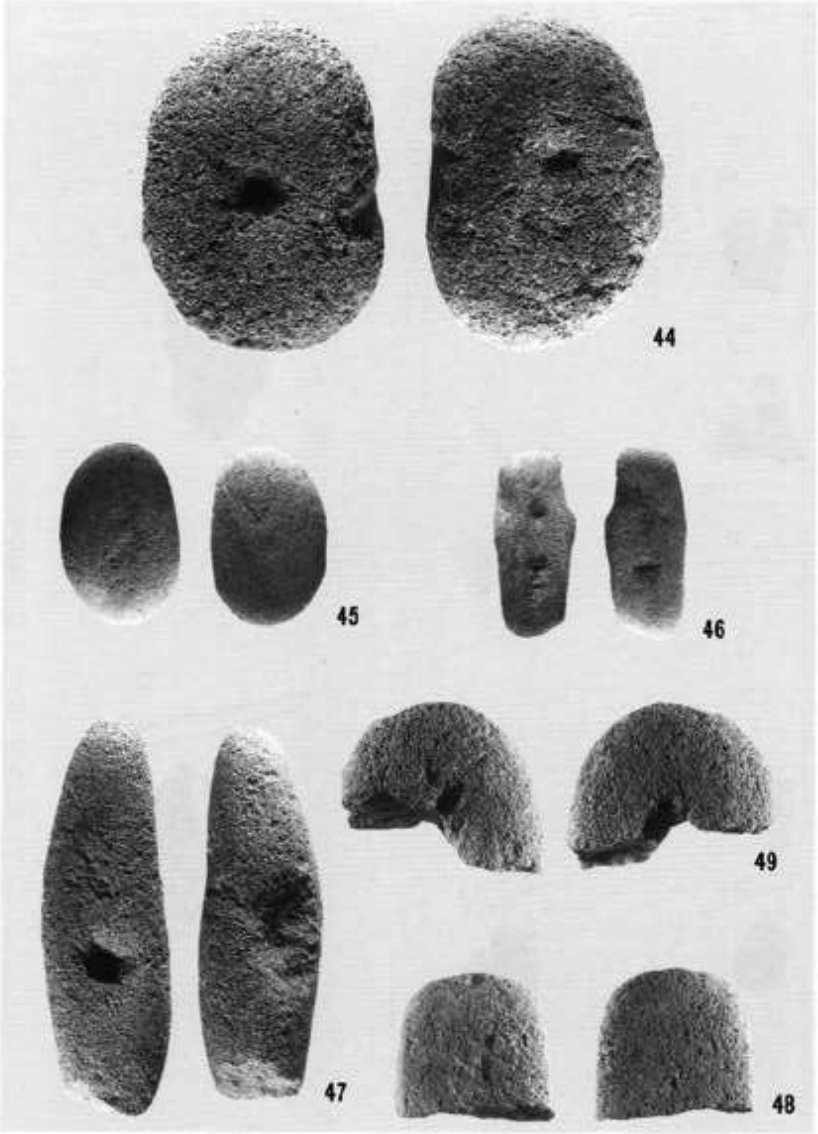
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（8）(32は1/8、他は1/4)



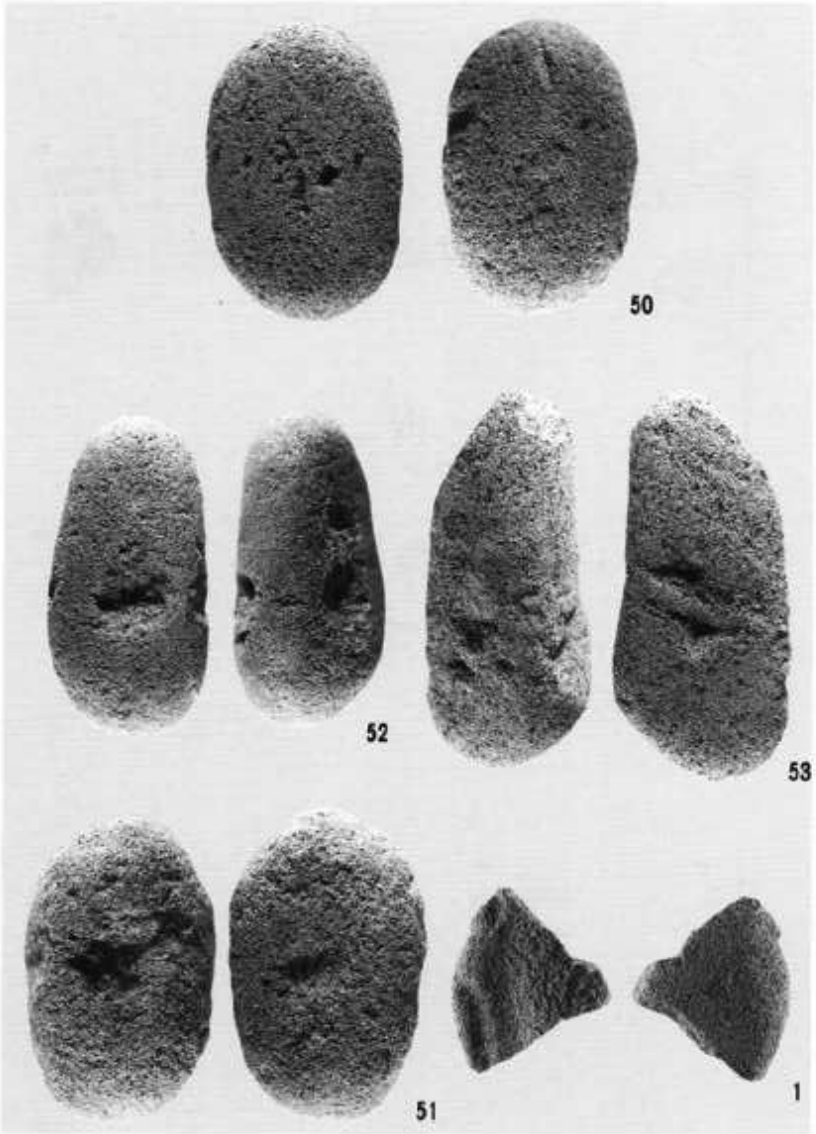
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（9）（1/4）



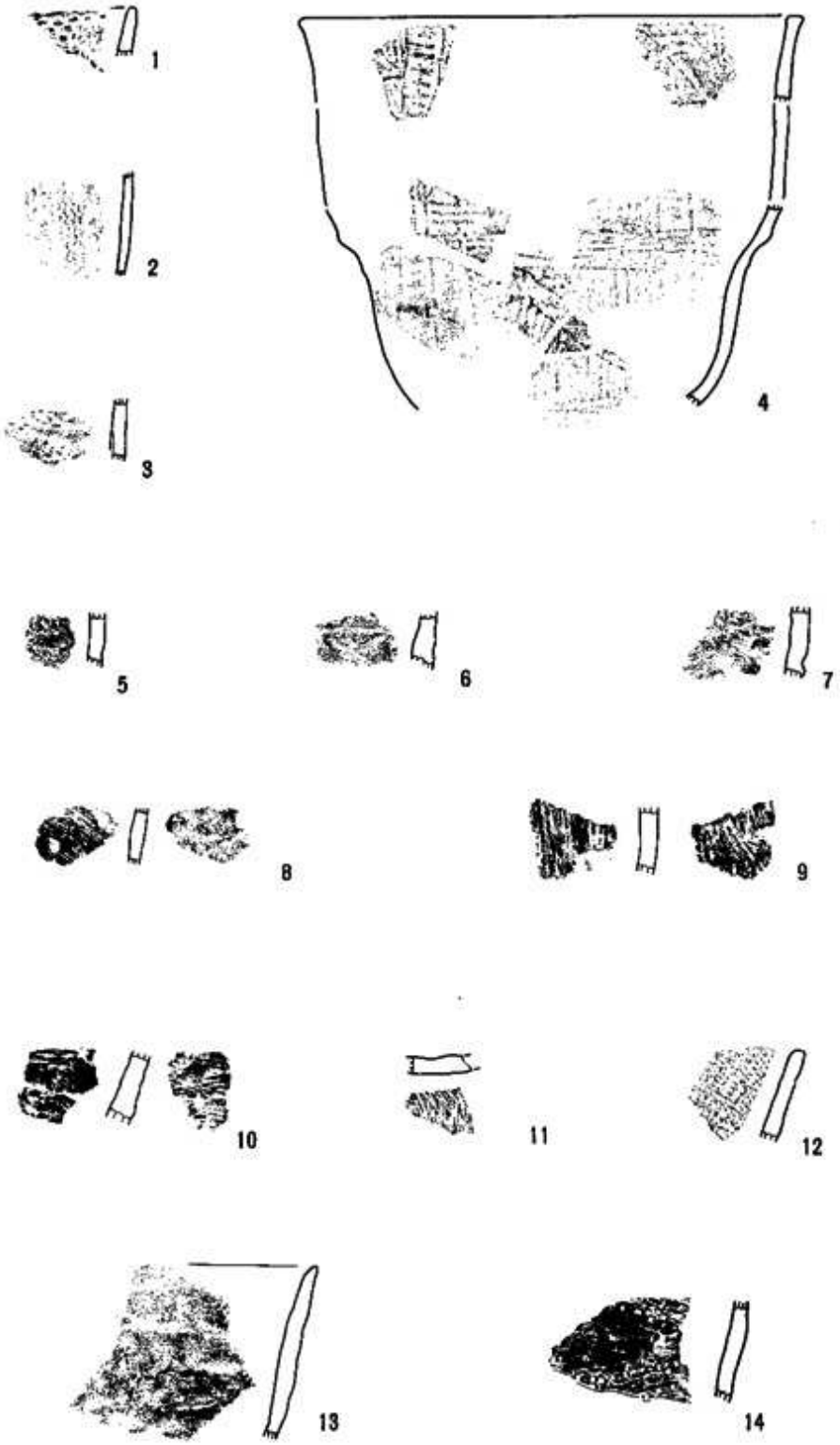
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（10）（39～41、43は1/8、他は1/4）



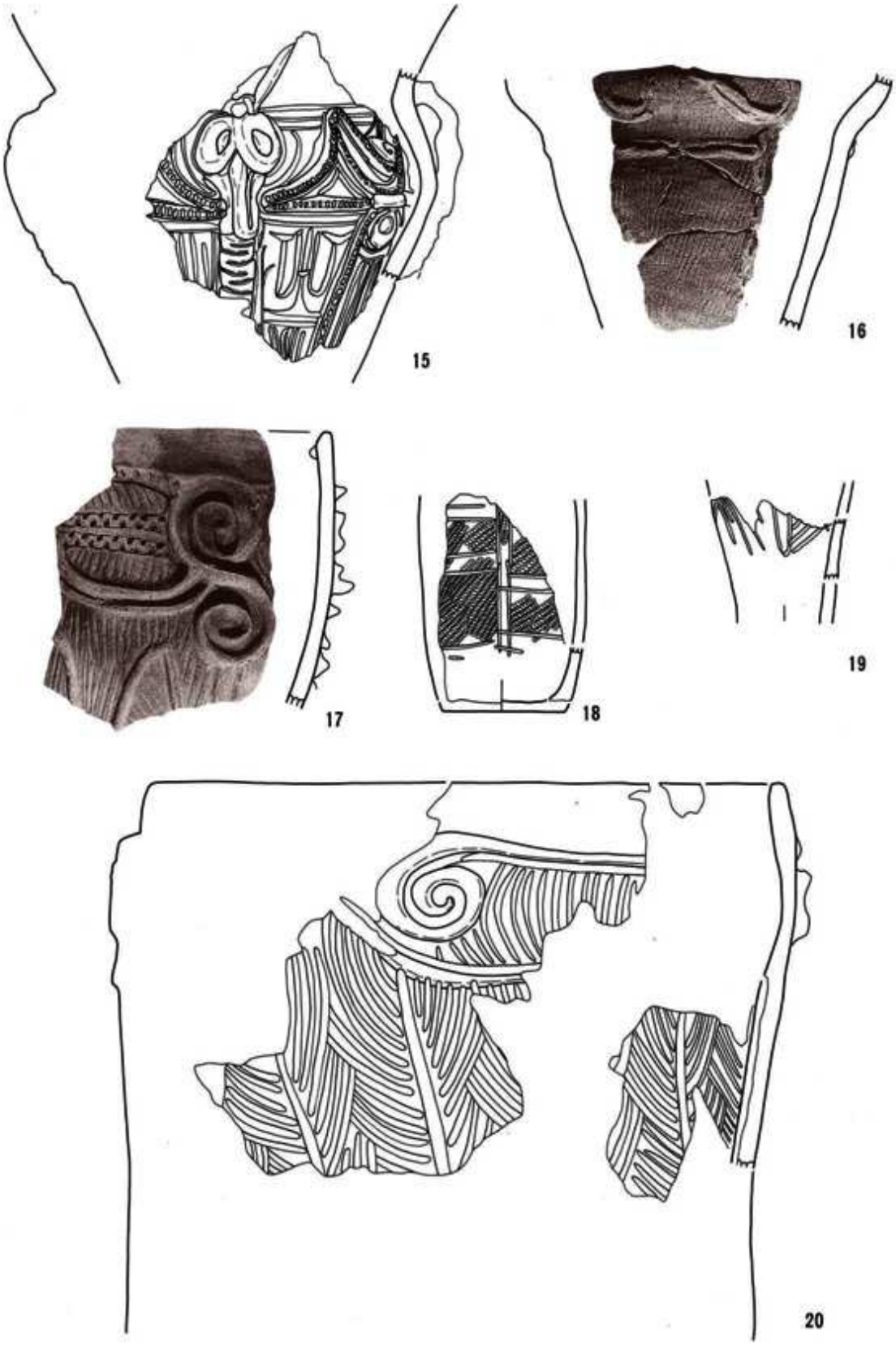
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（11）（45、26は1/8、他は1/4）



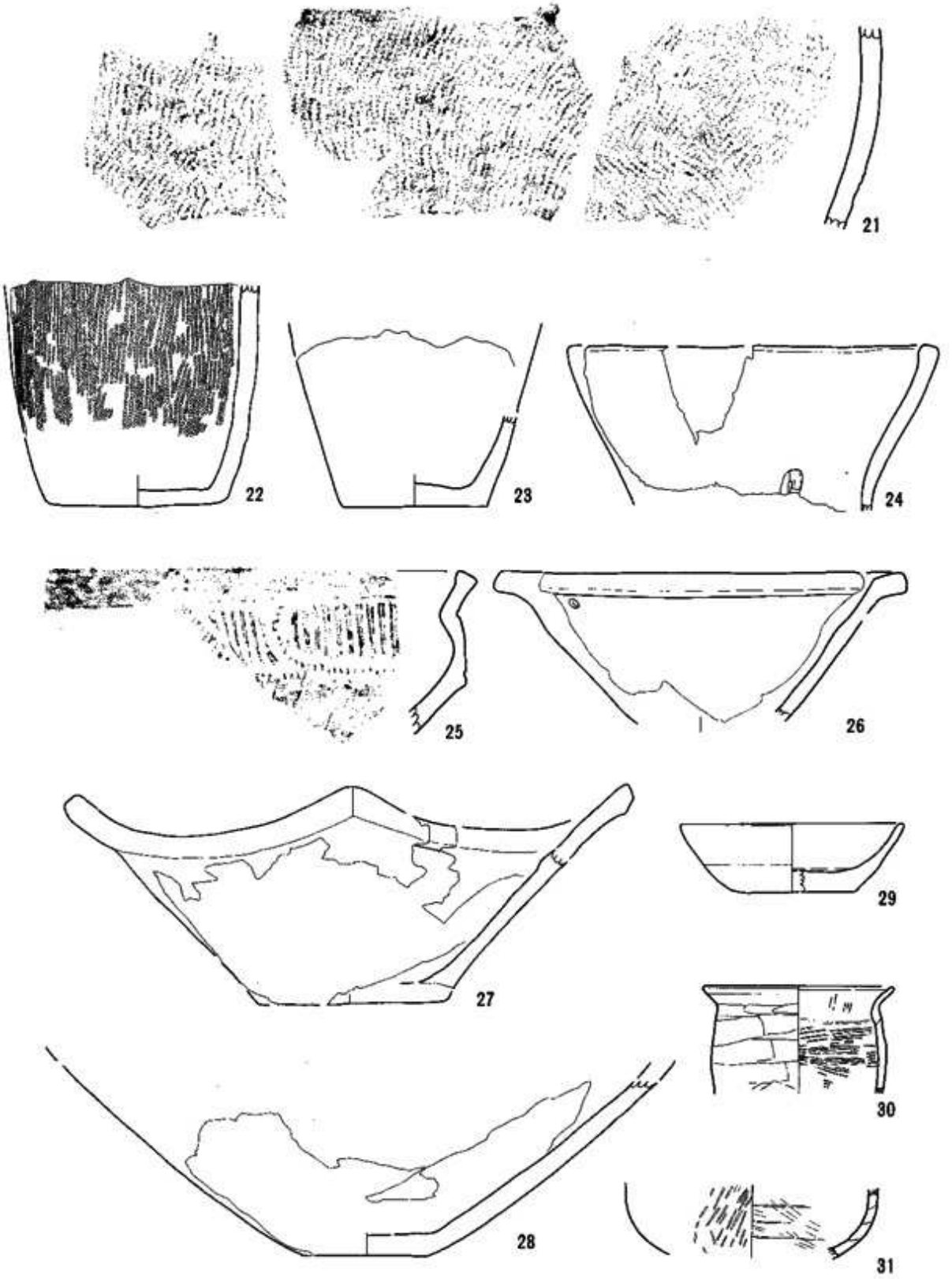
SYY 4 A　包含層出土凹石・磨石（12）（1/4）



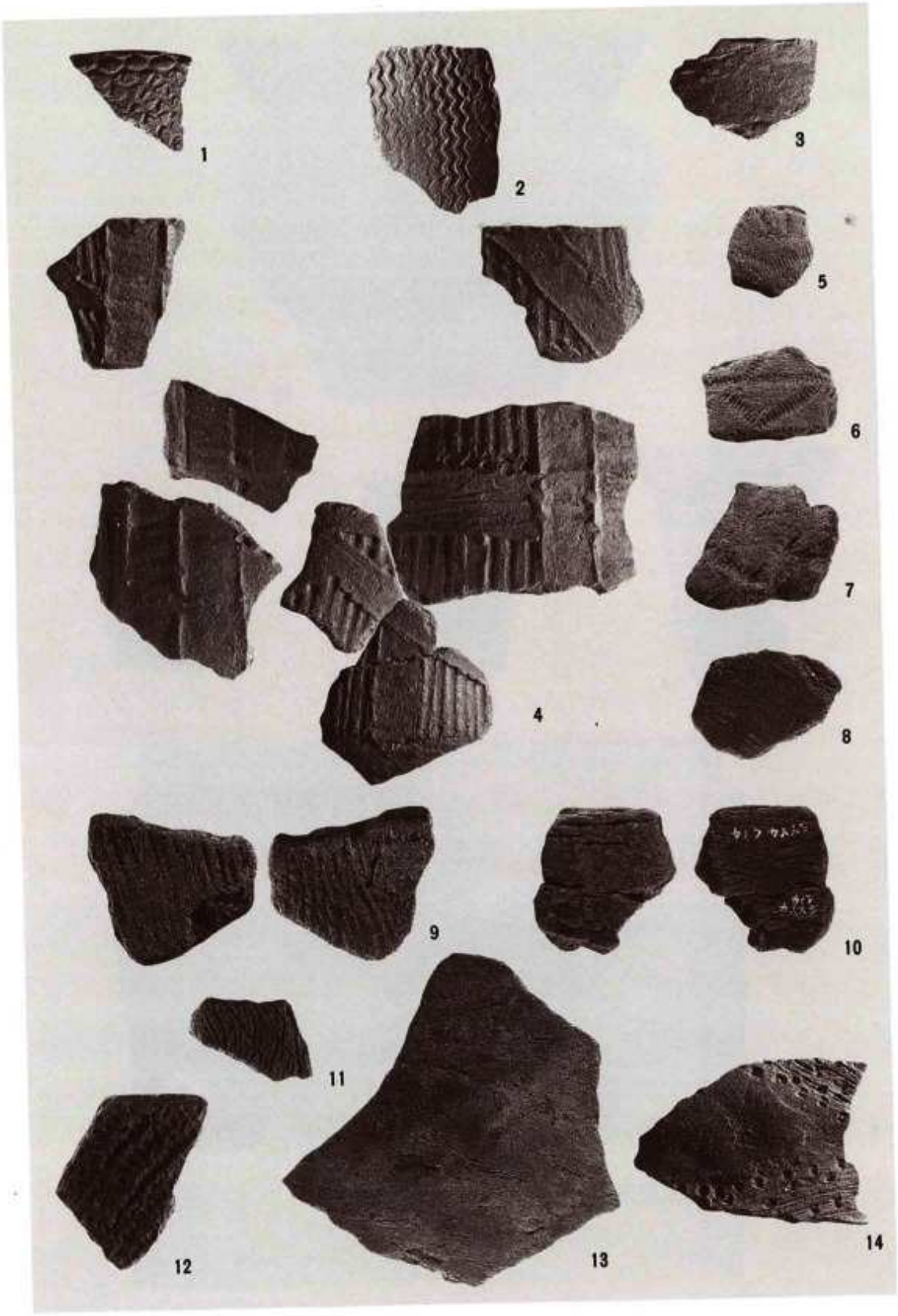
第529図　SYY 4 B　遺構外出土遺物（1）



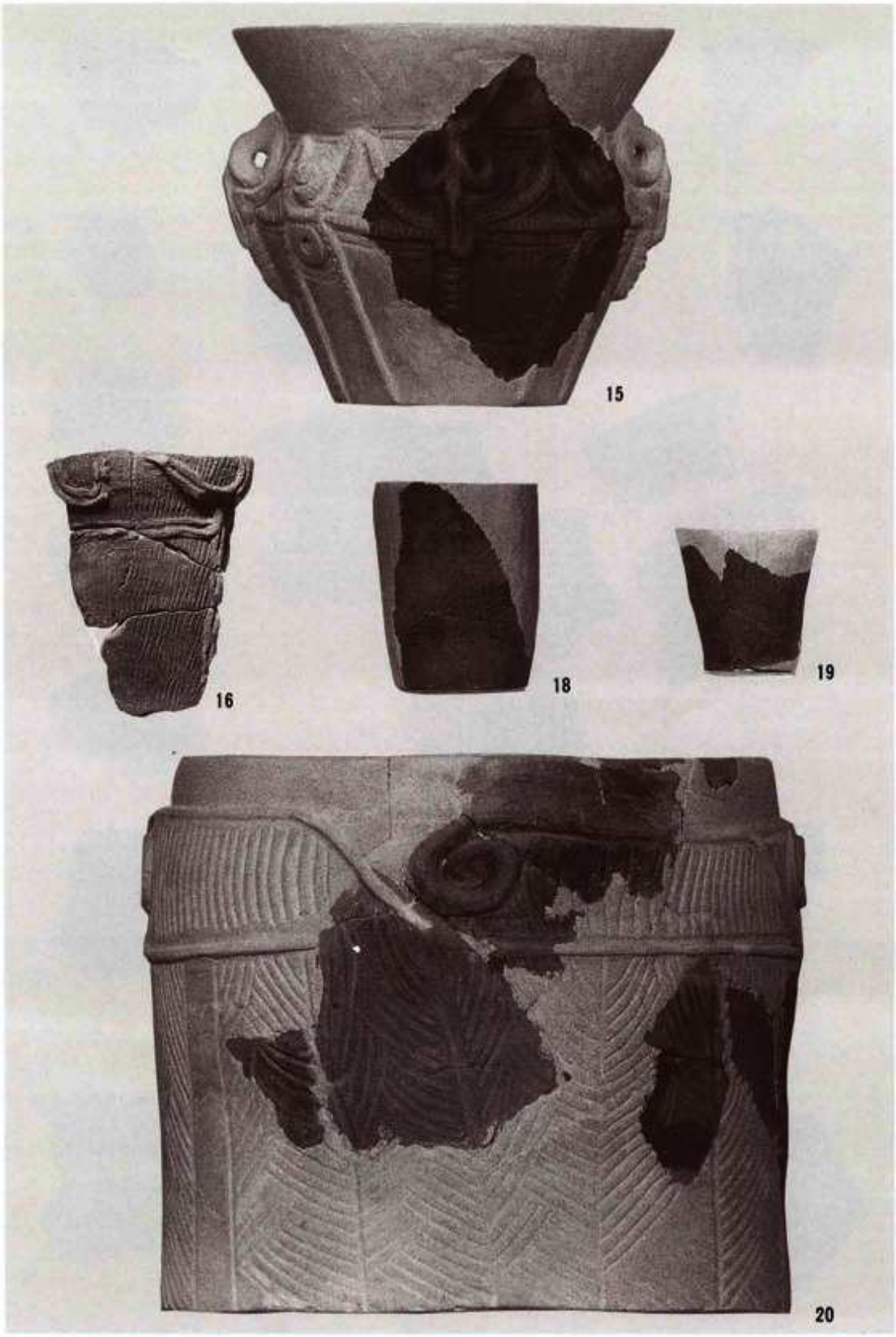
第530図　SYY 4 B　遺構外出土遺物（2）



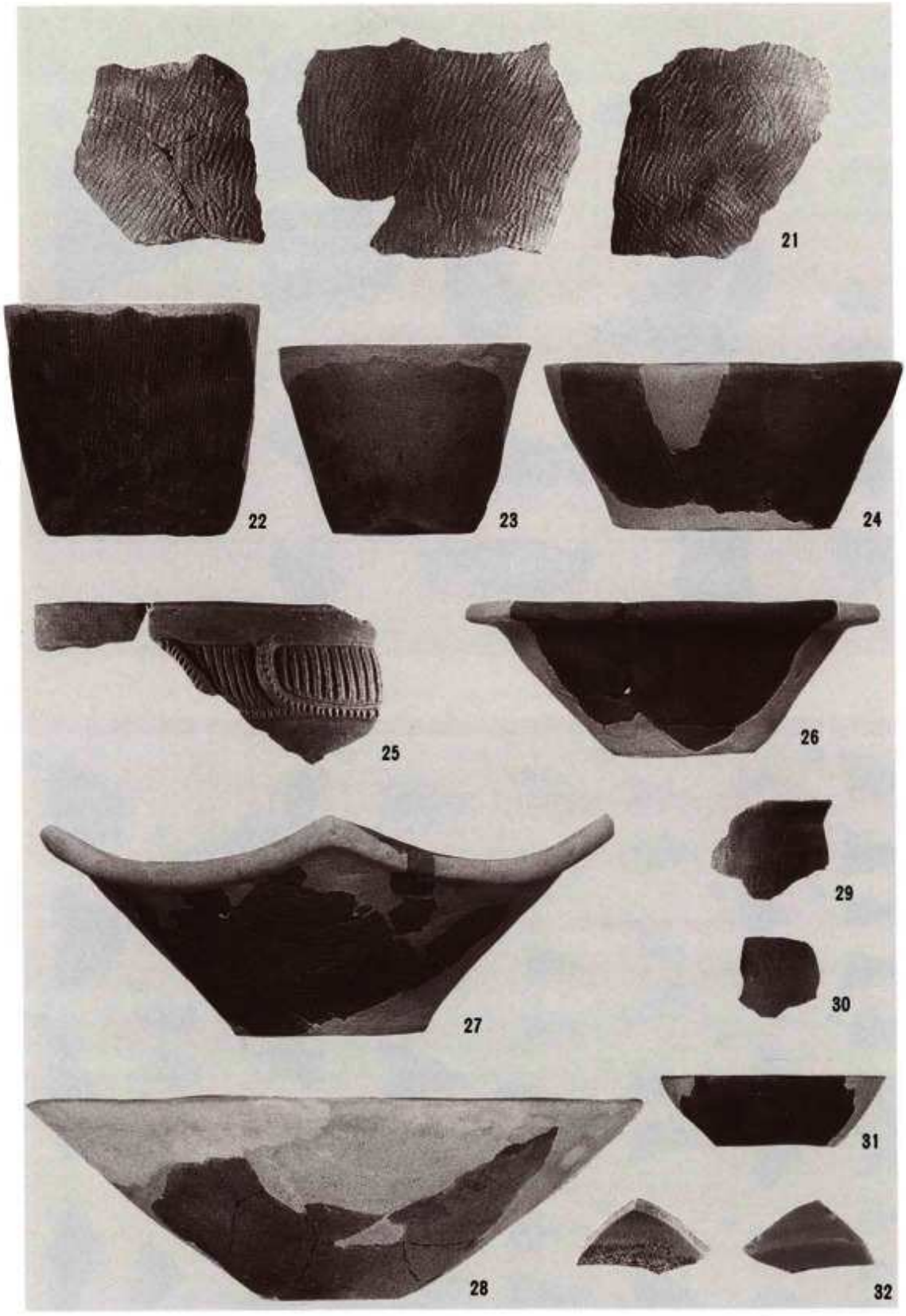
第531図　SYY 4 B　遺構外出土遺物（3）



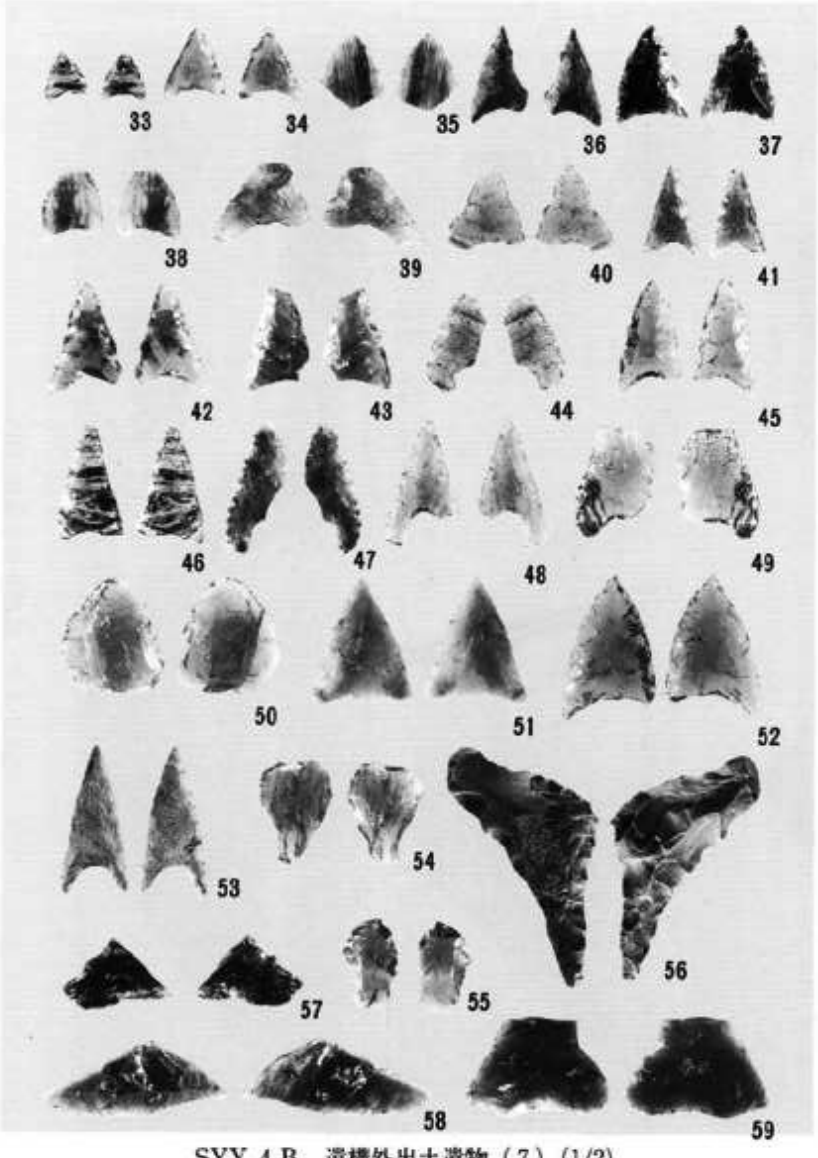
SYY 4 B　遺構外出土遺物（4）



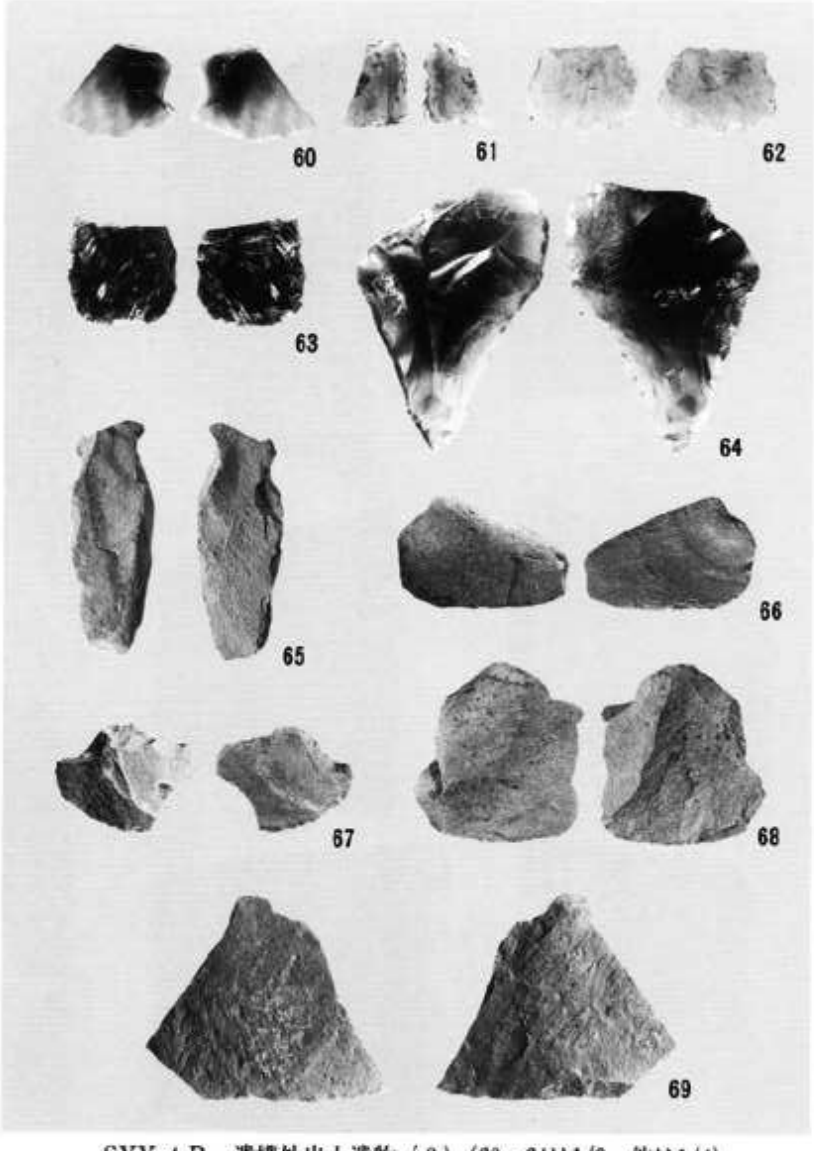
SYY 4 B　遺構外出土遺物（5）



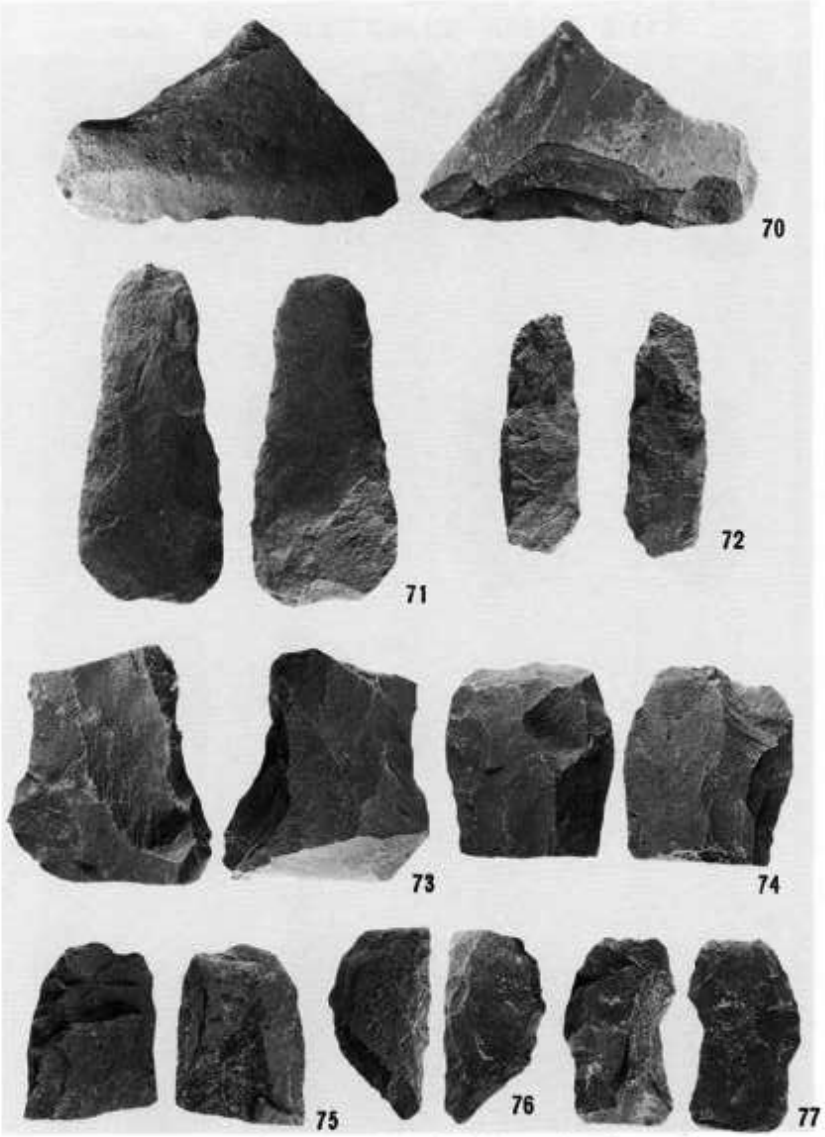
SYY 4 B　遺構外出土遺物（6）



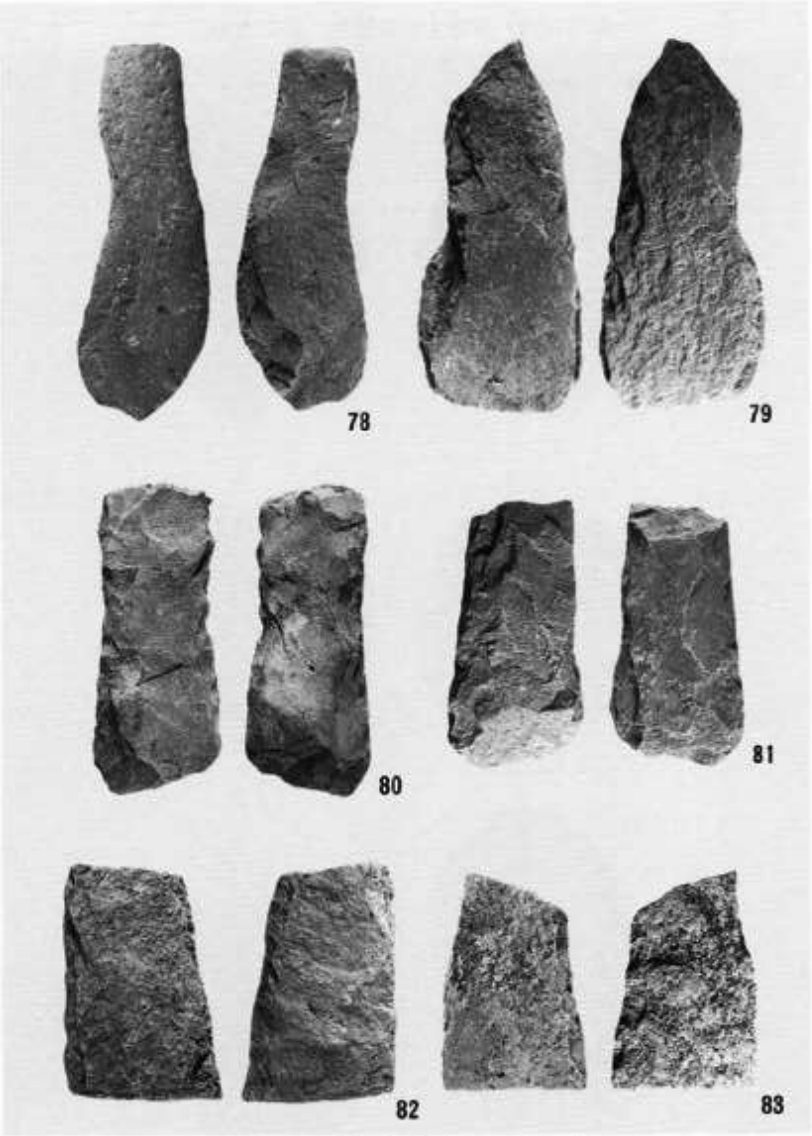
SYY 4 B　遺構外出土遺物（7）(1/2)



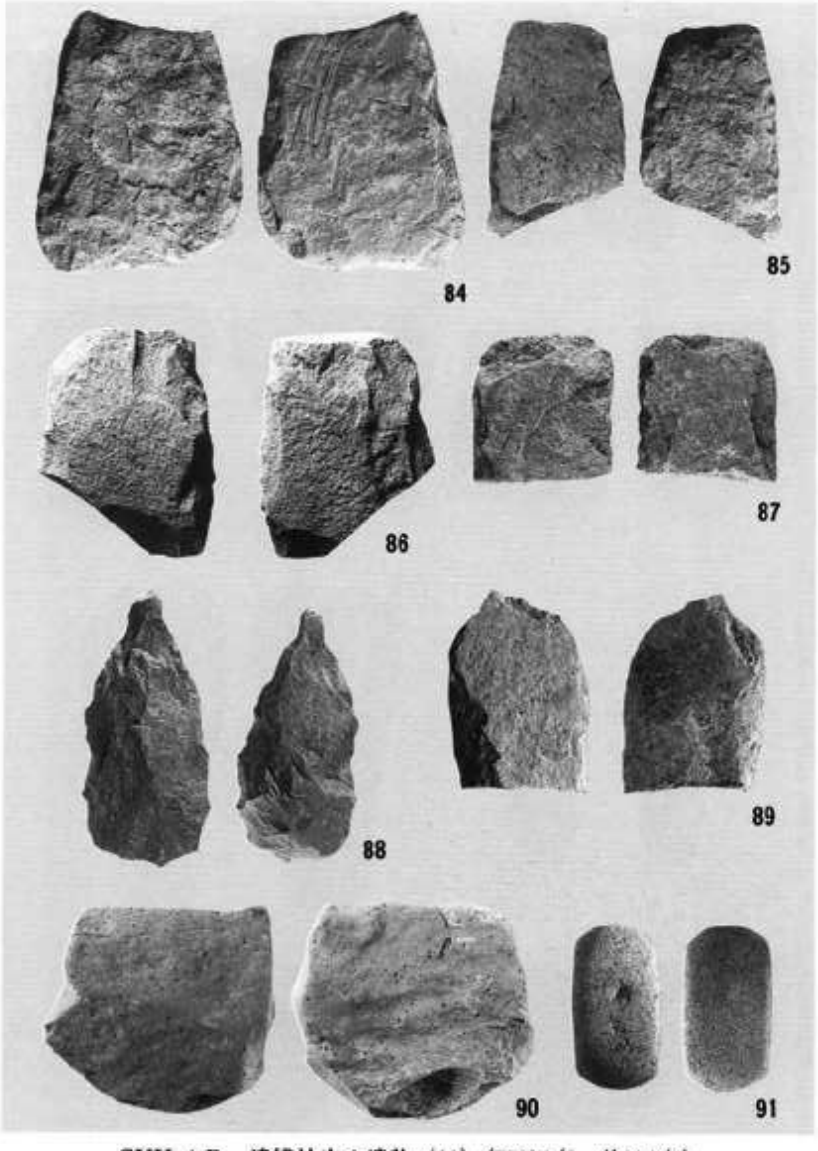
SYY 4 B　遺構外出土遺物（8）(60～64は1/2、他は1/4)



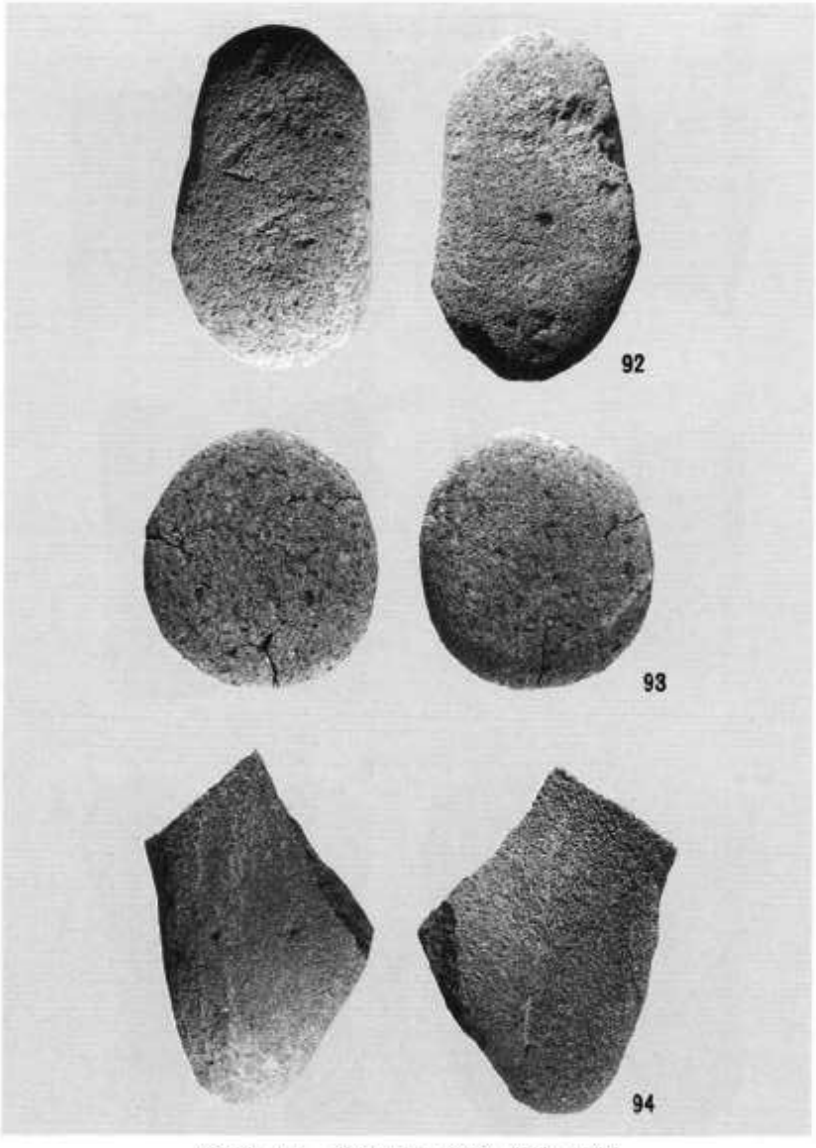
SYY 4 B　遺構外出土遺物（9）（72は1/8、他は1/4）



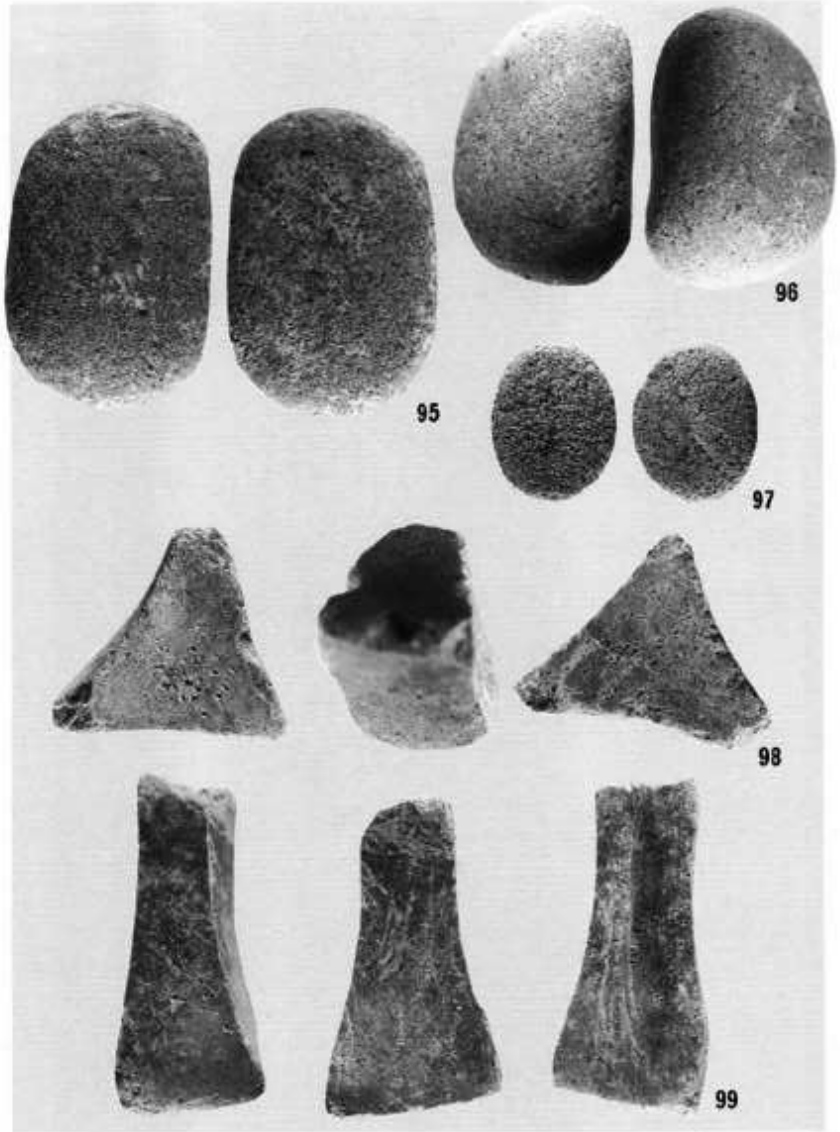
SYY 4 B　遺構外出土遺物（10）（1/4）



SYY 4 B　遺構外出土遺物（11）（71は1/8、他は1/4）



SYY 4 B　遺構外出土遺物（12）（1/4）



SYY 4 B　遺構外出土遺物（13）（97は1/8、他は1/4）

寄山古墳の調査

1　古墳の概要と現況

古くから周知されていた古墳である。ただし、県の登録では「塚の越古墳」と称されており、呼び名については県と市で齟齬をきたしている。

佐久平東縁の山麓部は、古墳時代後期後半から奈良時代前葉にかけ、主要な造墓活動の場として利用され、数多くの群集墳が形成されることになったが、その中にあり、本古墳は単独で築かれたものである。また、群構成をとるものの多くが平地部に接した谷中斜面を墓地に選んでいるのに対し、平野部を見下ろすという、いかにも前期古墳の立地を彷彿とさせるような尾根頂末端部近くに構築されている。付近では、和田上古墳・大日山古墳・後家山古墳などがこれに等しく、古墳時代終末期にありながらも、他を寄せつけない秀でた古墳のひとつとして数えられる。当然、当時の有力者層の墳墓と考えられるが、これまで注視されることはなかった。

聞き取りによれば、本古墳付近一帯の丘陵部は、まず高麗人参を栽培するために開墾されたらしい。その後、本古墳付近は桑畑として利用したようであり、近年にはそれもやめ、調査直前の段階には再び荒廃した山林と化していた。

よくあることだが、開削者にとって、斜面に突き出た古墳は邪魔な存在に過ぎないため、開削の折り墳丘の削平を試みている。しかし、重さ数トンもの石室天井石を退けることには諦めをおぼえたようであり、斜面上方側を天井石のレベルまで盛土し、逆に斜面下方側の墳丘下端を切土して畔境としていた。したがって現状では、玄室の天井部分が畑の角に露呈し、下方では墳丘の一部が抉り取られているといった悲惨な状況下にあった。

羨道部は完全に埋没していたが、玄室部は上端に空間を残し、また天井石が若干ずれ込んでいたことから、内部を窺い知ることができた。一見して規模の大きい、しかもしっかりした造りの横穴式石室とわかったが、内部にはビニール類を中心とした製品が多数残されており、現代においては農作業用の休憩場、あるいは貯蔵用の「室（ムロ）」として利用されていたようだ。

2　調査の経過と概要

事前の踏査では、玄室を除いてほとんど情報が得られなかったため、まず想定される玄室中心部を起点に、その主軸に対して直交方向のトレンチを入れた。その結果、斜面上方側では開削時の盛土下に葺石が良好に遺存し（後に外護列石上端部の崩落礫と判明）、斜面下方側でも古墳にまつわるものと思われる礫が群在していた。これによって墳丘の遺存状況・規模がおよそ判明した。

慎重度を増すために、さらに玄室奥壁外側の部分にも玄室主軸に沿ってトレンチを設定した。墳裾は同じような状況でつかまえられたが、墳丘の内部構造を知る手掛かりを得るため、次に両

トレンチ内に、削り残された墳丘を断ち割るようにしてサブトレンチを入れた。墳丘の版築構造、および石室裏込め石を保護する石積みを良好な状態で確認できたため、調査方法を確定し、表土剥ぎに臨んだ。

表土剥ぎには、墳端に広がる礫群が顔を出すまで重機を利用した。後に、墳裾に巡る外護列石を確認するが、表土剥ぎ以後の掘削はすべて手作業によるものである。

意外にも古墳の遺存状況が良好であったため、調査の主眼を古墳の築造方法を追うことに決めた。古墳築造過程をトレンチ調査で得られた結果をもとに想定し、逆の手順を踏んで古墳を解体していこうというものである。

グリッドは、古墳の規模・主軸を勘案した上で、実測の便を図るために石室主軸をY＝0とし、任意の8mグリッドを設定し、後に国家座標と整合させた。なお、実測はすべて手作業によるものである。

盗掘が予想されたため、玄室・羨道部の覆土は、すべて篩別・洗浄した。

そのほか、トレンチ調査中に縄文時代の遺物が多数採取されたため、該期遺構の存否を確認するために、広範囲に及ぶ表土剥ぎを行った。

3　調査の結果

(1)　占地

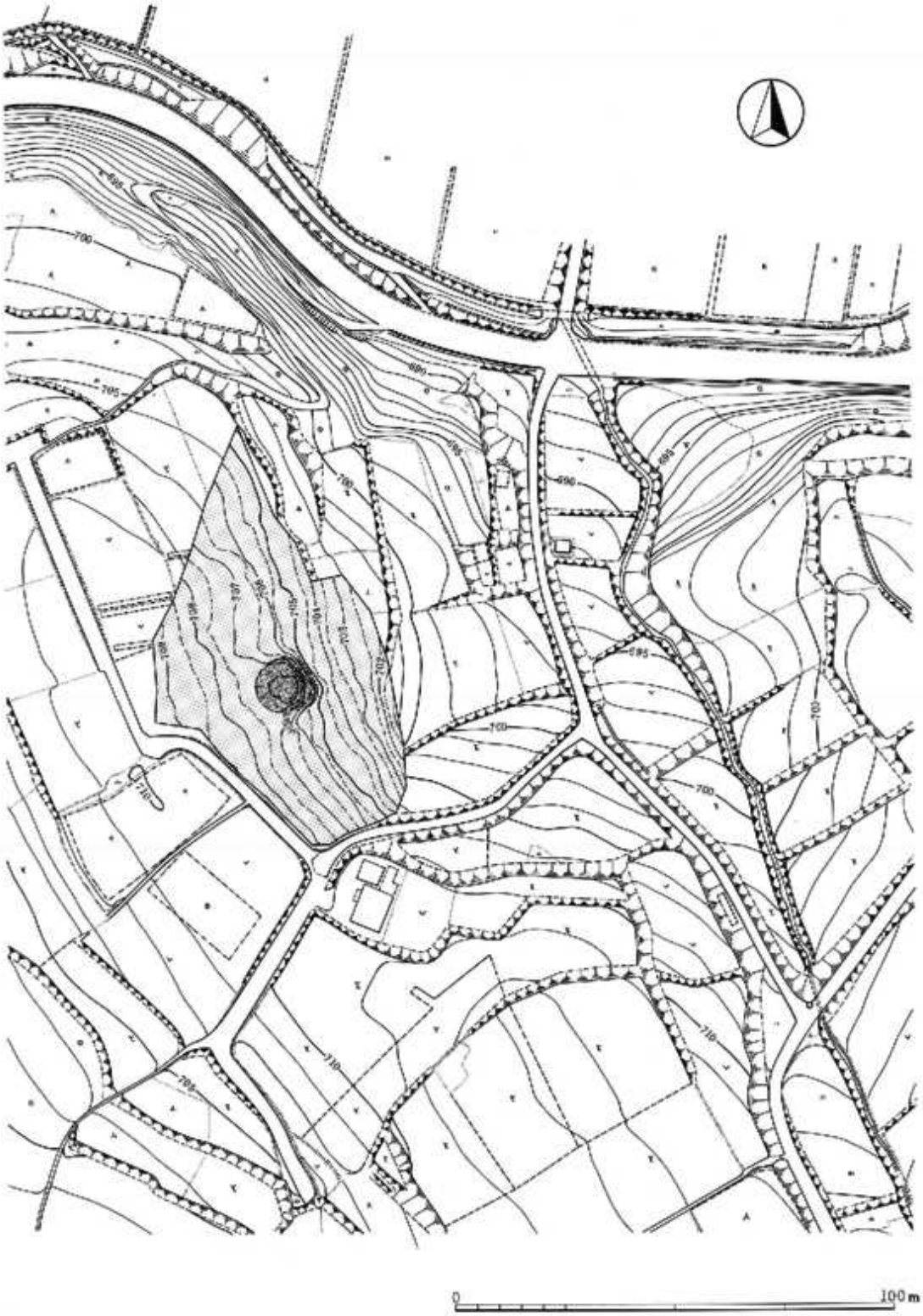
佐久東部山地のひとつである八風山・荒船山塊から、西に伸びる尾根末端部の北斜面に築かれている。丘陵内に形成された小さな谷状地形内の上段部分を構築場所に選んでおり、水田面との比高は27mほどを測る。古墳の三方はぐるりと取り囲まれているが、眼前の新子田・安原地区を初めとする佐久平の北東部を一望できる見晴らしの良い場所である。また、北に開く谷部といっても、嶺筋より高さ3mほど下った地点であるから、日当たりも良い。眼下には、西に流下する志賀川が臨めるが、当時は湖を形成していたらしい。

(2)　墳形および墳丘

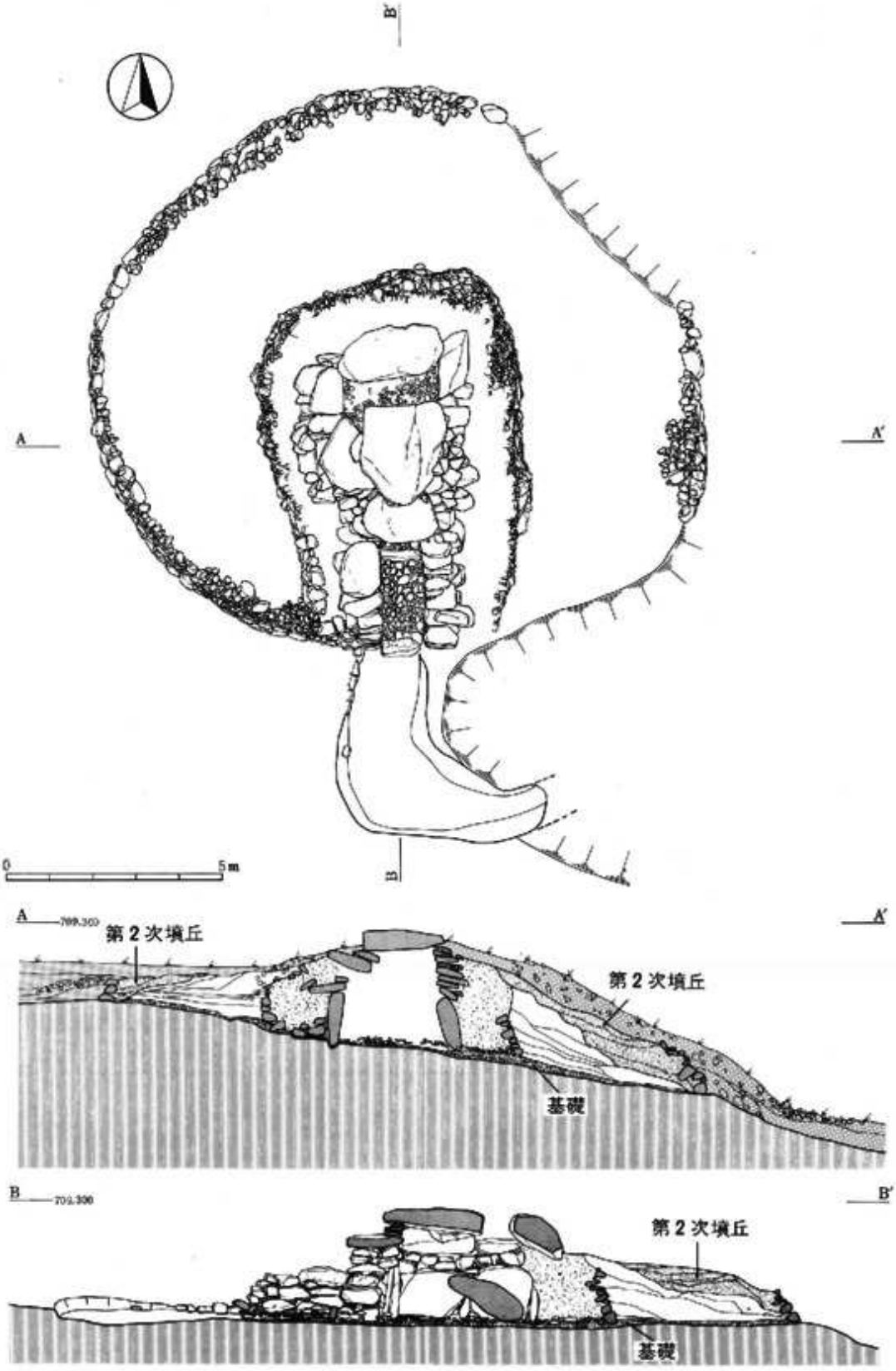
墳丘上部および北東と南東側の裾部が切り取られていたほかは、良好な状態で地中に遺存していた。

裾に外護列石を巡らす円墳である。規模は主軸（南北）長13.00m、副軸（東西）長14.20mを測り、かなりの誤差を有している。主軸側がほぼ水平に保たれているのに対し、副軸側では最大値で2.5mほどの高低差があるために正円形が描けなかったのだろうか。ただし、墳丘西半が比較的正円形を保っているのに対し、東側に残る外護列石は直線的な並びとなっているから、本来東端部が若干外に飛び出るような設計がなされていた可能性がある。また一方で、東端部は斜面下方側に当たり、もっとも荷重を受ける場所でもあるから、外護列石自体が築造当時の位置から

第1図　古墳の立地（1：1,500）



第2図　墳丘実測図（1：150）



東側にずれ込んだ可能性も考えられる。

墳丘の高さは不明だが、玄室天井石のレベルから判断すると、少なく見積もっても同位置で3.5m前後が見込まれる。しかしながら、斜面に構築された古墳であるから、尾根の嶺から見下ろすのでは小封にしか見えないし、逆に下から見上げれば高さ5mを越える威風堂々とした姿として映ったことだろう。

外護列石は、最高で約1mの高さまで残っていた。完成後間もなく、何らかの自然災害に遭遇したらしく、外護列石がまだ崩落を始める前に、この高さまで古墳が埋没したためである。このあとすぐに墳丘の崩壊が始まり、周囲に礫が散乱することになる（写真36）。

用いられた礫は、眼下の志賀川（当時は志賀湖　以下同じ）から運び込まれた円礫～亜円礫がほとんどだが、縄文時代の石器（多孔石・磨石類）も含まれることから、丘陵内の転石も一部利用したものと考えられる。

外護列石の根石は、長径50cm前後のものを横積みしたものが主体であった。より荷重を受ける東端部のそれは、横ずれを防ぐためか、ほかよりひとまわり大きい礫が使用されていた。根石より上は、根石に対して小振りのものを積み上げているが、西半部を見る限り、正面観の出来ばえの良さを意識したようで、南半には大きさの揃った小粒の礫を小口積みしているのに対し、裏側に回るとやや大きめとなり、乱雑に横積みするものが目立った。

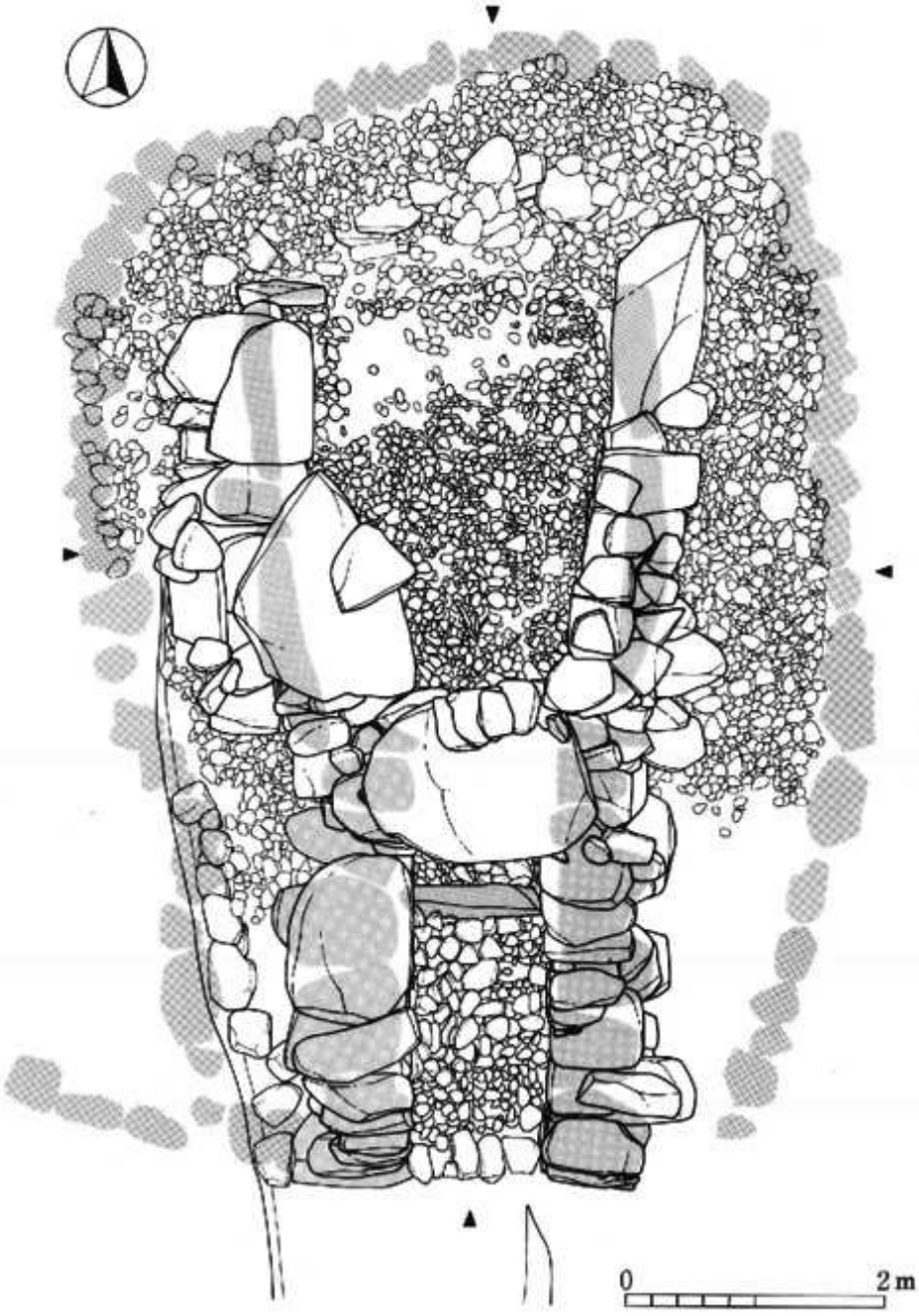
外護列石の立ち上がり角は70°前後と高いものの、東端部の遺存状況からすれば、70～80cmほど積んだところで急激に角度を和らげ、葺石に似た存在となったらしい。また調査途中、東半部に見られた崩落礫の状況からすると、角度変換点より上は、拳大ほどの円礫を張りつける程度であった公算が大きい。さらに、残された崩落礫の量に鑑みれば、礫の積み上げは墳丘途中で終えたものと思われる。

封土は、礫を一切含まない土壌からなっていた。縄文時代の遺物を多量に含んでおり、これについては「寄山遺跡」の内部で賄ったらしい。最初に黒色粘質土を敷設した後の、石室構築に伴った第1次墳丘と、以後の外護列石積み上げに伴う化粧仕上げともいうべき第2次墳丘とに分かれるが、ともに軟質かつ粘質の黒色土と硬質の黄褐色土を交互に突き固めた版築工法を取っている。ただし、墳丘の西側セクション部を除いては厳密性を欠き、また黄褐色土の占める割合が圧倒的に多い。なおこの黄褐色土は、移植ゴテやジョレンなどでは歯が立たないほど極めて硬質であった。

(3)　石室

石室の型式は、佐久地方でもっとも一般的な「玄門付両袖式横穴式石室」であった。巨石を用いたもので、「畿内型（系）横穴式石室」の範疇で捉えられる。羨道部まで含めた長さは6.7mを測り、当地方においては大形の部類に入る。ちなみに、かつて調査された「山寄せ古墳」の中では最大である。

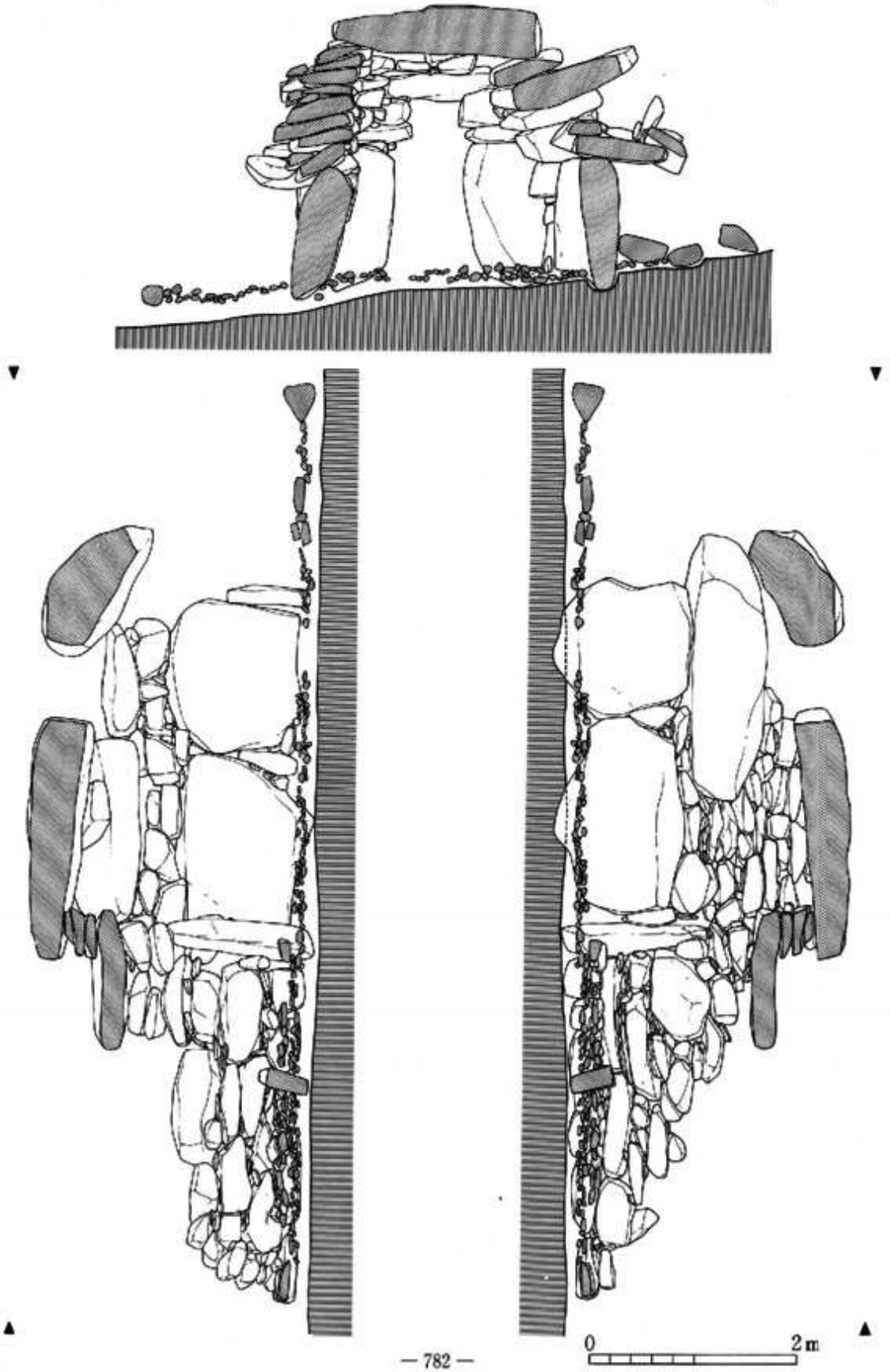
第3図　石室平面図（1：60）



石室は南に開口するが、その主軸は国家座標の南北と寸分の違いもなかった。等高線もほぼ同方向で走っているものの、偶然の結果とは考えがたい。古墳築造の際、緻密な方位確認を行った公算が大きい。

石室用材は、すべて溶結安山岩の自然礫からなる。これは一見、人為的な割石と見間違うほどに板状摂理しやすい性状をもつことから、用材としてはすこぶる適した存在といえる。佐久東部

第4図　石室展開図（1：60）



山地から豊富に産出するため、これに沿った「山寄せ古墳」は例外なくこれを構築材に用いている。しかし、本古墳周辺には見当たらないことから、上流域から延々運んできたものだろう。使用する礫の選択には極めて慎重であったらしく、全体に面が整い、かつ各目地も比較的均整が取れていた。

玄室は、奥壁側をより広くとる撥形を呈するものである。ただし、西側壁だけを広げた構造であるため、撥形といっても不整形であり、羨道部に対し軸も曲がっているかのように見える。詳しくは後述するが、設計段階の平面形は長方形であったらしい。天井部は、羨道部のそれより一段高く設定されているため、玄門上に前壁を有している。

玄室の規模は、幅が前壁側で2.10m、奥壁側で2.50mを測り、天井までは2.10mの高さを保持している。長さは、西側壁に接した状態で残る奥壁材の一部から、約3.2mと判断される。

側壁は、西側壁と東側壁奥壁寄りの最上段部を除いて良好な状態で遺存していた。構造は、極端に大きい面をもつ板状の腰石を2個平積みした上に、板状礫を持ち送り的に横積みないし小口積みするという2段構成をとるものである。したがって、石室の横断面形は「折り上げ」状を呈すことになる。天井石直下には、小さな板状礫を並べ、天井石や封土全体から受ける荷重を石室の壁全体にバランスよく配分している。また、腰石の用材は左右対称だが、それより上は基本的な横目地こそ等しいものの、左右で各々特徴がある。

奥壁は、隙間を埋める程度の大きさのものが、西側壁に接して一枚残るのみであった。奥壁本体は大きく石室内側へと倒れ込み、危険な状態であったため図化作業もままならなかった。発掘当時の様子からすれば、まず巨大な一枚岩を平積みして7割程度の高さまで埋め、さらに巨大な棒状の礫をひとつ足して奥壁を完成していたようだ。なお、この奥壁に用いられた礫幅は、玄室の奥壁幅にほぼ等しく、それが故に倒壊を導いたものと考えられるが、西側壁に対し東側壁の端部が北に張り出していることから、奥壁岩の東端は側壁の内側と接し、また西端は側壁内側の角と接するか、わずかに外から凭れ掛かるといった組み方をしていたものと思われる。こうした手法は、当地における該期巨石横穴式石室墳によく見られるものである。

玄門部は、1.55mほどの高さを有し、床面で約0.90mの幅をもつ。玄室側壁同様、左右対称の大きな板状礫を立石させ、以後内傾させながら礫を積み上げるものである。楣石の架構は認められず、玄室天井レベルより一段低い箇所に天井石を横架している。閉塞石は一切残っていなかった。

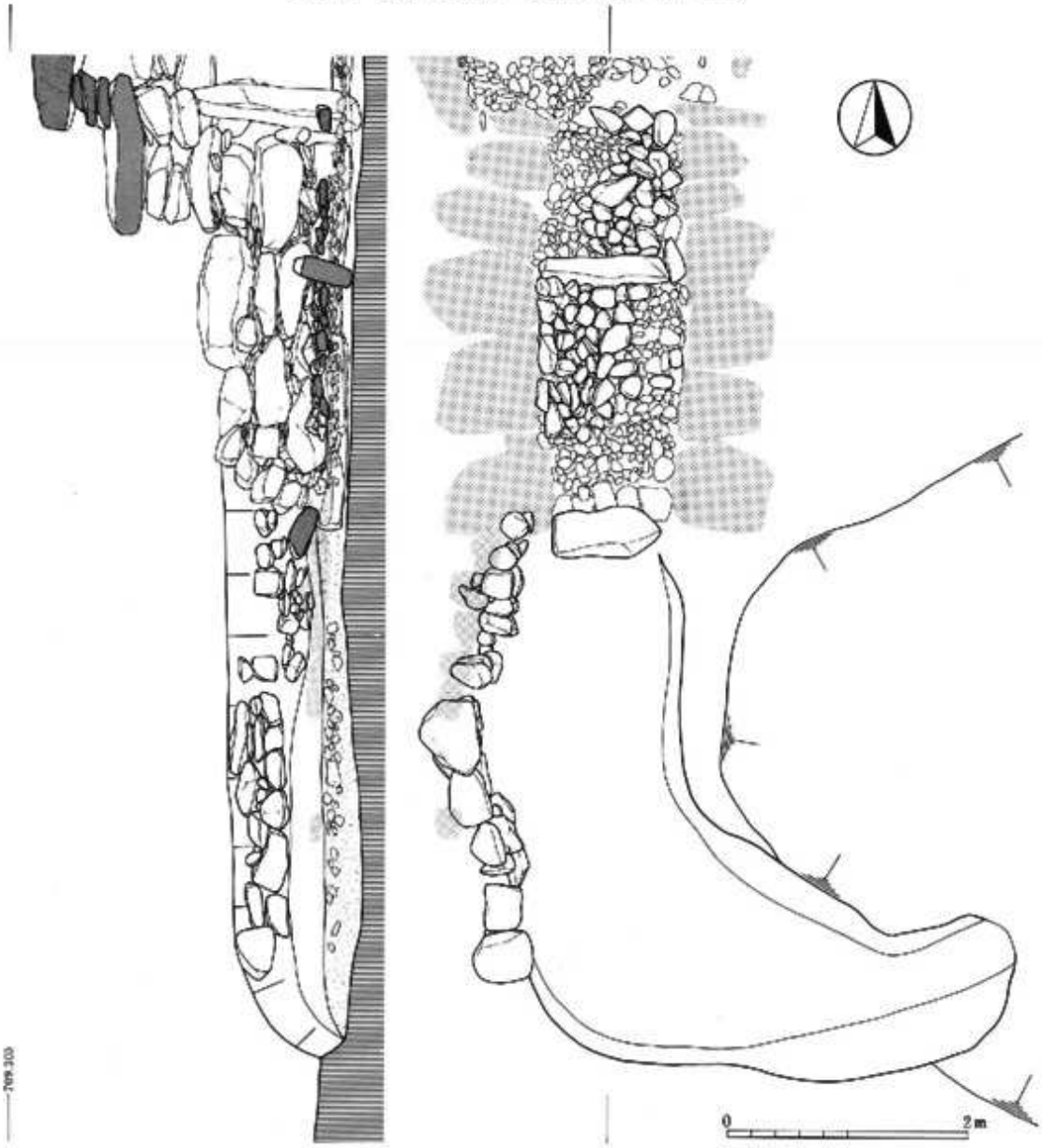
床は、拳大の円礫～亜円礫を敷き詰めたものである。粒形を意識的に揃えた様子はない。盗掘を受けているため、一部床石が剝ぎ取られていた。なお、裏込め石の範囲も含め、石室全体は、最初に敷設された黒色粘質土の上に散りばめられた礫床に乗っているが、この時のものがそのまま玄室の床石をも兼ねている。

天井石は、ふたつの巨礫からなる。玄室幅の変化に見合うよう、より幅の広いものを奥側に横架しているが、ともに天井幅をわずかに越える程度の礫幅しかない。なお、奥壁の倒壊に伴い、

北側の天井石もずり落ちていた。

羨道部は、東側壁の上部が若干崩れていた。長さは、玄門中央位置から先端部まで約3.5mを測る。幅は、根石部分で玄門側1.06m・中央部1.15m・先端部0.95mで、根石列だけを見れば胴張り状となっている。側壁は、腰石をもたない横積み、ないし小口積みからなり、垂直に立ち上がる壁体を形作っている。横目地がきれいに通り、また互目積みを意識している可能性もある。天井石は、玄室に接する部分にだけ、玄門天井も兼ねたものが架せられるだけである。羨門状の施設は見当たらないが、両先端部に限り、薄くて長さの揃った礫を整然と小口積みすることによって正面を飾っていた。

第5図　修復後の羨道・墓道実測図（1：60）



羨道部の床は２枚認められた。下面のものは、先端部に偏平な礫５枚を一列に敷設していること以外、玄室内の床の状況と変わるところがなく、高さもこれに等しいものであった。上段は、下面の礫床の上にやや大振りで偏平な円礫を直接敷き詰めたもので、さらに東側壁先端に積まれていた礫を取り外して先端部に横置きしている。上位床面の礫床は、本来羨道部全体に及ぶものと考えられるが、調査の不手際から、気がつかぬまま一部を取り外してしまった。

本来、羨道部と玄室を分かつための仕切り石は、玄門から1.3ｍほど離れた羨道部内に埋め込まれていた。長方体を呈する溶結安山岩を横置きしたもので、上位床面から20cm程度顔を出すよう埋設されたものである。極めて変則的な場所に置かれているが、これは上位床面をしつらえる際に移動させたものだろう。本来仕切り石は、玄門部を閉塞することによって隠れてしまうものだから、追葬しようと思い玄室を開口させたが、玄室内部の崩壊、すなわち奥壁の倒壊を眼の当たりにし、辛うじて天井の架かる羨道奥を止むなく葬所に選んだいう過程が想定できよう。羨道部にだけ認められる床面の二重構造は、こうしたことに由来するものと思われる。

(4) 石室の外部構造

石室の「裏込め石」には、志賀川から運び上げた砂礫を用いている。玄室付近では、根石の外側から約1.5ｍ離れた位置から砂礫の充塡が行われている。

裏込め石と墳丘盛土との混交を防ぐために、裏込めの外縁には、外側に面を揃えた石積みが施されている。外護列石と同質の礫を用いているが、それに比べるとやや乱雑であり、規則性も見られない。また上方へと進むにつれ、外に張り出す部分が目立つようになり、調査途中に崩壊してしまった箇所も少なくなかった。裏込め石の外壁が、盛土作業と併行して積まれていったことがよくわかる。なお石室開口部付近は、これ自体が外護列石の役割も兼ねることから、正面観を整えるために、石室用材であるべく溶結安山岩の板状礫を多用していた。

横積みないし小口積みされた玄室側壁上段の石積みには、「控え積み」が伴っている。主に、側壁用材としては不適な、薄く小さな溶結安山岩の板状礫をかませていた。羨道部の側壁も横積み・小口積みされているが、ここでは選り抜かれた長方体の礫が使用されているため、控え積みを必要としていない。

平積みした玄室の腰石周辺には、下部に人頭大かそれ以上の礫が多数寄せられていた。裏込め石が覆う以前に、立石状の腰石が倒れることを防ぐためであろうか。

(5) 墓道および墓道の修復行為からみた古墳の被災状況

羨道部に直接連結する溝状の墓道が確認できた。羨道部床面と同じレベルに掘り込んだもので、壁高のより高い西側には石積みを施し、壁の崩落を防いでいる。南に４ｍほど向かったところで、急激に東に折れて沢筋沿いに下るようだが、その先は残念ながら削平されていた。ただ、ここを訪れた集団が、古墳が臨む方向に居を構えていたことは確かなようだ。

羨道部同様、墓道も改修が行われている。初期のものは掘り込みが浅く、西側の石列も1段に留まる。後に、埋没してしまった墓道を羨道部上位床面の高さに合わせて再度掘削し、西壁には初期の列石を覆い隠すかのようにして2～3段の石積みを施していた。

後段のものが羨道部上位床面レベルに合わせて掘り込まれていることから、これは羨道部床面の修復および羨道部埋葬に伴う行為と考えられる。先でみた外護列石の埋没時期とその後の墳丘崩壊過程をも勘案すると、随所にみられた災害の爪痕が、実は一連のものであったという想定が成り立ちそうである。すなわち、何らかの理由で、古墳築造直後に古墳の一部を覆い隠してしまうほどの土砂災害に遭遇し、この時玄室奥壁が倒れ込み、もはや使用不可能となるも、羨道および墓道をなんとか改修して羨道部奥を葬所に変更したという想定である。「古墳築造直後」というのがどれほどの時を隔てたものか、それを判断する材料はないが、今の想定が妥当なら、なおも追葬を止めようとはしない段階であり、外護列石の崩落も始まってはいない。さらに、羨道部先端に新たに設けられた入口施設と墓道の西壁の石積みは初期のそれを踏襲するものであった。数十年と経過した後の出来事ではなかったらしい。

(6) 被葬者

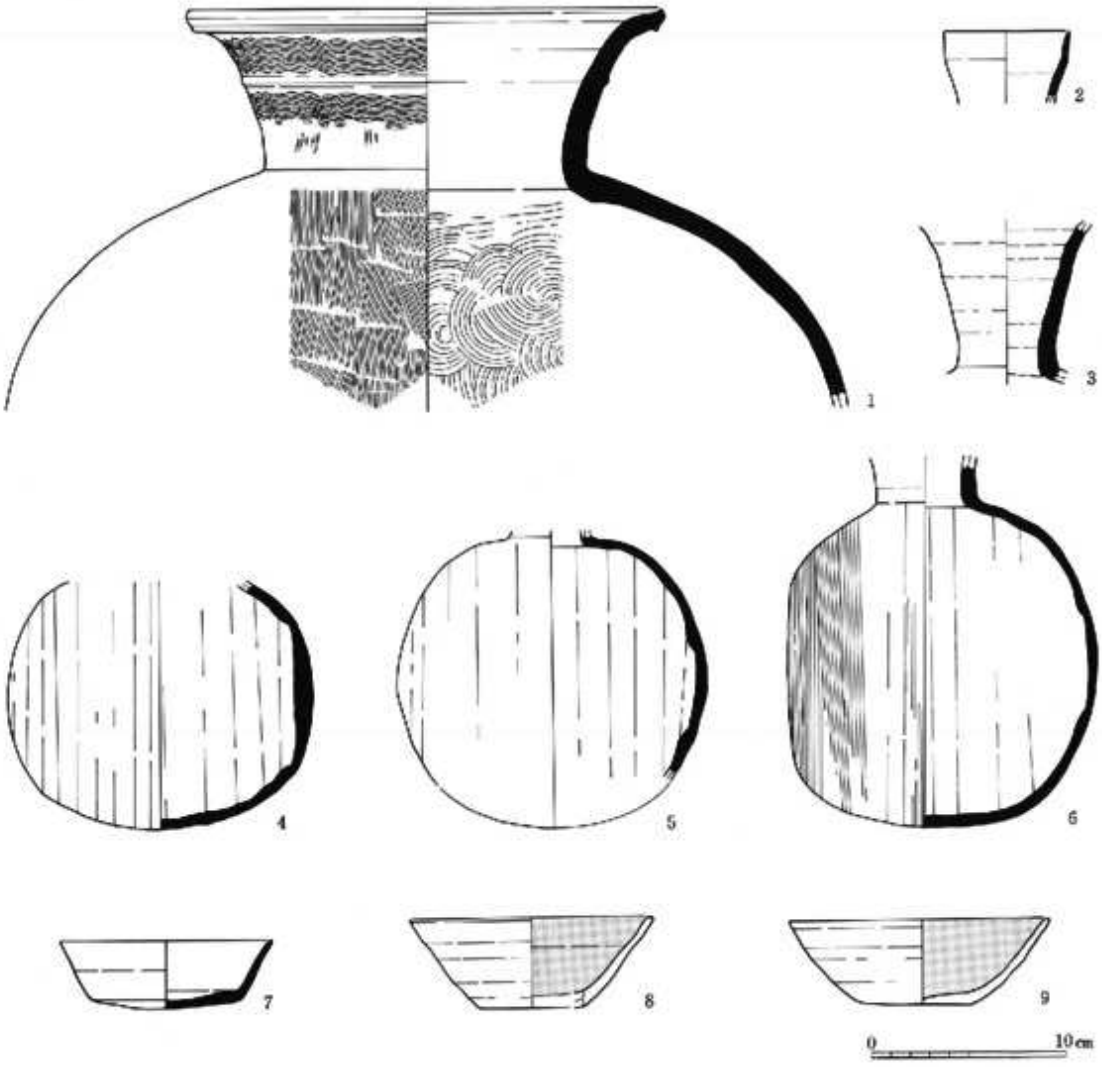
人骨については「付編 佐久市寄山古墳出土人骨について」に詳しく報告されているが、それを踏まえつつ調査時の状況を振り返りながら簡単に触れたい。

石室の調査に入って間もなく、盗掘による攪乱土層を掘り下げている最中に、羨道部の玄門に近い位置から、大腿骨と思われる骨片に交じって、素人でも一見して成人の頭骨とわかるものが突如3個出土した。ただし出土レベルにはばらつきがあり、内1体（後の報文中の3号頭骸）は東玄門石にもたれるような格好で床面に密着していた。当初は、いずれも盗掘者が玄室外へ放り出したものと判断したが、3号頭骸については、羨道部に埋葬された人物のものであった可能性もあろう。となると壮年期後半の男性がここに葬られたことになるが、覆土をすべて篩別・洗浄したにもかかわらず、これに伴う副葬品を見出すことができなかった。宝飾品を身に着けないまま薄葬された稀な例なのだろうか。あるいは最後に葬られた人物であるから、薄葬を当然とする時期、すなわち奈良時代に下ってから埋葬されたということも考えられる。

玄室内にも人骨が散乱していたが、限なく盗掘を受けているため、原位置を保っていそうなものはなかった。中央部近くに、大腿骨を中心とした人骨片が集中する箇所も認められたが（写真44）、これも床面から10cmほど浮いた位置からの出土である。

人骨鑑定分析からすると、上記した壮年期後半の男性のほかに、小児1体を含む5・6体の埋葬が考えられるという。中には壮年期前半の女性2体が含まれることから、家族墓であることは疑う余地もない。気になるのは、古墳の完成から玄室の崩壊までの時間に、先の見解ではあまり幅をもたせることを避けたが、にもかかわらずこれだけの人数が葬られたという点である。およその年齢の判明した成人骨はいずれも壮年期段階に死を迎えており、平均寿命が今に比べてかな

第6図　出土遺物実測図（1）

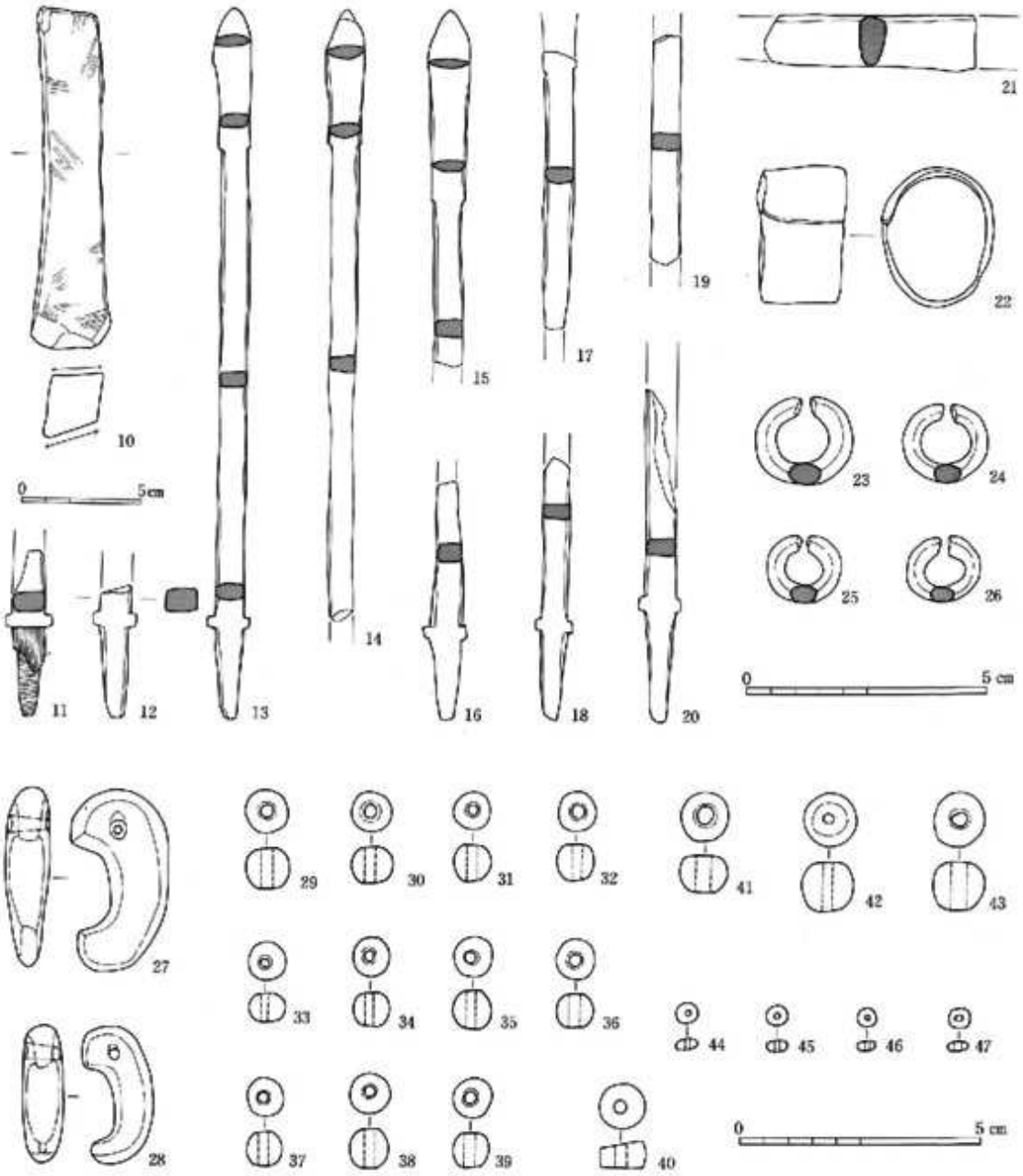


り短かったことを示しているが、それにしても多い。「家族墓」と判断するしかないものの、こうした呼び方を生かすとすれば、「家族」という言葉に、今の概念とは違った規定を必要とするかもしれない。

(7)　出土遺物

順次6・7体が埋葬されたというのに、残された遺物量は極めて少ない。盗掘を受けていることから、その折りに持ち去られたものもあろうが、到底持ち帰ることを拒むだろう貧相な鉄鏃でさえ、関部の数は6点を数えるのみであった。また、鉄器・鉄製品の組成も貧弱であり、篩にかけなければ拾うこともできない小さな玉類も、出土状態から1セットと捉えられるもので、ほかの被葬者については、さして着飾ることもなく黄泉の世界に旅立ったようだ。さらに、玄室内における該期の土器は皆無の状態に近く、玄室から掻き出されたものと思われる羨道部および墓道

第7図　出土遺物実測図（2）



に堆積した土中にも土器類の破片がわずかに散点する程度であった。

一方、墳丘南西部の裾からは、崩落した外護列石に混じって、甕・フラスコ形長頸瓶・平瓶などの須恵器片がやや集中して認められた。器種構成からして、飲食物を供献した容器と考えられ、出土位置からすれば、当然墳頂ないしは墳丘途中のある箇所に捧げられた供物と考えられよう。とすると、死者に捧げる飲食物供献の主な場は、玄室内から離れた場所に設定されたということになる。しかも盛大なものではなかったとみるほかない。

平安時代の遺物については、まだ説明がつかない状況下にあるが、律令の世が終焉を迎えよう

第1表　寄山古墳出土遺物観察表

挿図番号	器種	長さ(径)	幅(厚)	重量(g)	材質
7-10	砥　石	14.40	2.50	203.00	粘板岩
7-11	鉄　鏃	(3.60)		(2.51)	
7-12	〃	(2.90)		(1.97)	
7-13	〃	15.00		11.72	
7-14	〃	(12.00)		(11.80)	
7-15	〃	(7.60)		(5.65)	
7-16	〃	(5.10)		(3.81)	
7-17	〃	(5.80)		(4.29)	
7-18	〃	(5.60)		(4.14)	
7-19	〃	(4.80)		(3.85)	
7-20	〃	(7.10)		(4.61)	
7-21	刀子？	(4.30)		(6.29)	
7-22	鑓	2.90	1.80	12.98	
7-23	金　環	1.80		9.82	
7-24	〃	1.70		5.04	
7-25	〃	1.50		4.44	
7-26	〃	1.40		3.91	
7-27	勾　玉	3.85	0.95	10.25	メノウ
7-28	〃	2.90	0.85	4.48	〃
7-29	丸　玉	0.95	0.85	0.82	滑石
7-30	〃	0.85	0.85	0.62	〃
7-31	〃	0.80	0.75	0.72	〃
7-32	〃	0.85	0.70	0.61	〃
7-33	〃	0.85	0.60	0.63	〃
7-34	〃	0.90	0.75	0.65	〃
7-35	〃	0.85	0.75	0.73	〃
7-36	〃	0.80	0.70	0.69	〃
7-37	〃	0.85	0.70	0.64	〃
7-38	〃	0.85	0.90	0.79	〃
7-39	〃	0.85	0.70	0.65	〃
7-40	臼　玉	0.95	0.55	0.94	〃
7-41	丸　玉	1.00	0.70	1.74	ガラス
7-42	〃	1.15	1.25	3.49	〃
7-43	〃	1.20	1.05	3.03	〃
7-44	小　玉	0.45	0.25	0.06	〃
7-45	〃	0.40	0.25	0.02	〃
7-46	〃	0.40	0.20	0.03	〃
7-47	〃	0.40	0.20	0.03	〃

とする9世紀後葉からその直後の段階に、不思議と再び古墳に訪れる者が現れ出す傾向がある。しかも、ここでもそうであるように、玄室内に侵入する場合もままみられることから、単に先祖供養を目的としたものではなかったらしい。また、当然追葬の再開を示すものではない。今後の検討課題のひとつである。

提示した土器の内、1・2・4・5・7が墳裾の南西部から崩落した外護列石とともに出土したもので、そのほか3が墓道の攪乱層中、9が羨道部仕切り石直上、8が玄室内床面直上から出土している。このほかに、図化するまでには至らなかったが、墳裾から須恵器甕2・3個体、および羨道部から土師器坏1個体分の土器が出土している。

1は須恵器甕、2は同平瓶の口縁部、3～6が同フラスコ形長頸瓶・7が同坏、8・9が内面黒色処理された土師器坏である。3～6は、胎土の状態からそれぞれ別個体と考えられる。また、4・5の2点は、胎土緻密かつ白色・焼成良好・器面に鉄分の湧出が認められるという属性を具備していることから、上田薫氏が指摘するように東三河から遠江にかけての地域で生産されたものと推定される（上田1986）。

1は肩の張るタイプであるから大まかに7世紀代、2は時期不明、4・5も7世紀、3・6は口頸部が比較的短く頸部の径もやや大きいし、6は提瓶の胴部形態にちかいことから、ともに7世紀前半から中葉段階に比定される。7は8世紀前葉、8・9は9世紀末葉から10世紀初頭のも

のと考えられる。

10は、砥石。西側墳丘の整地面直上から出土したものである。

11～26が金属製品。18が墓道の攪乱層中、ほかは玄室から出土したものである。11～20は鉄鏃で、大きく長頸鏃の部類に入る。13・14・15の鏃身部は、長三角形を呈し刃部に続いて片逆刺状のものを造り出すもので、断面形は13が両丸、14・15が片丸造りにちかい。また、鏃身部関は角関、頸部関は棘状関である。21は刀子の一部とも考えられるが、それにしては明瞭な刃部を造り出しておらず用途不明品と言わざるをえない。22は刀の鍔であろうが、内径26mm程度のものであるから小刀に過ぎない。23～26は銅芯金張の耳環である。大きさからして、3種一対と考えられ、したがって耳環を身に付けて埋葬された人物は最低3人いたことになる。25・26が対になるものと思われ、また、ともに玉類とともに東玄門付近から出土している。

27～47は、玄室内に残された玉類である。すべての出土位置を押さえたわけではないが、東玄門付近の礫床の隙間から集中的に出土している。25・26の耳環とともに一人の被葬者が身に付けていたものだろう。29～39が褐色ないし緑黒色、40～43が緑色、44～47がコバルトブルーを呈している。

(8) 築造時期

時期を判断する材料は非常に乏しい。出土土器の内、もっとも古そうなのは3と6のフラスコ形長頸瓶であるが、ともに全容が窺い知れるものではないし、フラスコ形長頸瓶自体の編年研究も揺らいだ状態であるから積極的根拠にはならない。それ以前に、本来この類のものは、儀礼用の土器と考えられるため、長期に及ぶ使用が予想されるのである。したがって、土器が製造された時期と、古墳に供献された時期とに大きな開きがあることも考慮に入れる必要があろう。出土土器だけをみれば、7世紀前葉を遡ることがないとしか言えまい。

古墳本体が具備する属性からすると、まず、巨石を多用する畿内型横穴式石室墳でありながら、いわゆる「山寄せ古墳」であり、埴輪の樹立もみられないことから6世紀代に遡るはずはない。また、7世紀第4四半期以降は、急激に石室が小型化する方向に向かうため、それ以前の所産と考えられる。とすると、7世紀第1四半期から同第3四半期にかけての間のいずれかに築造されたということになる。

ところで、本古墳の石室構造で特徴的であった、腰石を平積みし、その上を折り上げて天井2段構成とする構築技術は、6世紀末葉から7世紀初頭に築造された群馬県最後の大型前方後円墳である高崎市八幡観音塚古墳に端を発している。埴輪の年代観から6世紀末葉の所産と考えられる佐久市常田の塚原古墳群家地頭1号墳（佐久市教委1976）・（松尾ほか1984）は、佐久平で巨石指向の畿内型横穴式石室構造を受け入れた最初の古墳と言えるが、すでにこの段階において不揃いながらも、石材の最大面を壁面とする腰石が認められる。埴輪の樹立を欠くことから、これに後続するものと思われる小諸市耳取の耳取大塚古墳にも認められるものの、ともに平積みの技術

は発展途上にあり、天井2段構成も成立していない。また墳丘の中腹に石室の床面を設定していることから、より古い様相を帯びている。耳取大塚古墳を7世紀初頭に置くとすれば、本古墳の年代はそれよりも後ということになろう。

こうした構築手法が確立するのは、今のところ佐久市三河田の三河田大塚古墳や同市岩村田の東一本柳古墳（佐久市教委1972）が出現する段階を待たなければならなかったものと思われる。三河田大塚古墳については、唐尺の使用が考えられるとし、7世紀でも新しい段階とする考えや（松尾ほか1984）、県内で最初に巨石指向の畿内型横穴式石室を採用したことで名を馳せる、6世紀後半の飯田市おかん塚古墳と結び付けて6世紀後葉にまで遡らせようという意見（矢島1990）がある。前者については、報告者も可能性を指摘しているだけで明言を避けているし、後者については、床面のレベルが墳丘下端に等しいこと・先の構築技術に発展が認められるという点から、耳取大塚古墳に後続するとしか思えず難がある。また、三河田大塚古墳の場合、羨門・玄門・楣石・前庭部などが認められ、また平滑に削られた石室内壁面を漆喰で飾るなど、佐久地方ではほかに例のない属性をもっている。ひとり群馬側の構築技術を厳密に採用した古墳と言えるが、当の群馬県でも、天井2段構成・巨石利用・前庭部の付帯・両袖・玄門・羨門といった属性をすべて完備するようになるのは、錐石切組積み石室成立以降のことだから、7世紀中葉以降と言える。したがって、三河田大塚古墳もまた、それを遡るものとは考えられないのである。

これまでみてきた古墳は、いずれも平野部に造られた単独墳であった。佐久地方で山寄せの群集墳が爆発的な勢いで形成される以前の築造なのだろう。とすると、寄山古墳は、単独墳でかつ巨石利用の大形石室をもち、しかも側壁の構築技術は三河田大塚古墳などにほぼ等しいのであるが、やはりそれらの古墳よりも新しい存在として認識せざるを得なくなる。本古墳の築造時期が7世紀第4四半期にまで下らないことは先に記したが、三河田大塚古墳築造以後で7世紀第3四半期以前とすると、本古墳の年代は、自と7世紀第3四半期を中心とした時期の所産という結論が導き出されることになる。併せて、時間的にも構造的にも、限り無く平野部の大型墳に近い山寄せ古墳ということとなり、おそらく佐久地方における山寄せ古墳の最初の姿を映し出しているものと思われる。

4　調査の成果と課題

(1)　築造工程

古墳といえば、現状での荒れ果てた姿から、単なる土饅頭的な構造物と捉えられがちだが、近年では土木工学の専門家も交えた構造研究の進展が目ざましく、当時既にかなり高度な技術をもって古墳が築造されていたことが判明している。これまでみてきたように、寄山古墳は墳丘上半部を削り取られている以外は、当地では珍しく遺存状況の良好なものであった。しかも、古墳文化の発達した群馬県側に系譜が求められる、巨石指向の畿内型横穴式石室が設けられていた。当

時の土木技術の水準をうかがう打って付けの材料と言える。ここでは、本古墳の築造過程を細かく観察して、土木工学的研究の一助としたい。

① 第1工程

斜面途中で口蓋垂状に迫り出た部分の先端をカットすることで、まず古墳を造ろうとする範囲の凹凸を整える段階である。

言わば整地作業であるが、墳丘の範囲内に限られるため、傾斜地という古墳を造りづらい環境を克服するものではない。しかし、石室の根石が収まる範囲は水平になるように掘削し、それによってできた段差部分には人頭大前後の礫を添えることによって壁の崩壊を防いでいる。また、裏込めの範囲も多少意識しており、わずかに掘り込んで水平に近い状態としている。

石室の範囲を取り囲む掘り込みは、南方に抜けてそのまま墓道へと通じている。上記の内容をも踏まえれば、最初から綿密な設計がなされた上で作業が着手されたものと考えられよう。

なお、次の工程に移る前に、砥石1点を整地した面に置き去っていた。荒廃した山林を開作する際、使用した鉄器を研ぐために持ち込みながらも、家に持ち帰ることを忘れてしまったのだろうか。しかしながら終末期古墳の副葬品の中には、しばしば砥石を見掛けることから、意図した埋設ないし埋納とも考えられる。いずれにしても、これで作業を止めたわけではないから、「置き忘れた」という消極的判断に頼るのは好ましくない。

② 第2工程

石室の構築が始まる一歩手前の基礎地業の段階である。

まず第1工程で地ならしした範囲の内側に、黒色の粘質土を一面に敷きならす。先の工程において、裏込めを含めた範囲に水平面を作り出そうとする行為が認められたが、よくある目の錯覚によるものか、完全には成し遂げることができなかった。この粘質土の敷設によって、極端に荷重を受ける裏込め石を含めた範囲はほぼ水平な面が保たれることになる。第1工程の手荒さを補正するものであるが、この時には水準測量が行われた公算が大きい。

粘質土敷設後、後に玄室およびそれを取り囲む裏込め石が積み上げられる範囲に限り、拳大前後の礫が一面に敷き詰められる。最初に敷設された粘質土は、排水性と柔軟性に富むが、重みに耐え兼ねて圧密変形や不同沈下を起こしやすいから、伸しかかる圧力を分散させるために、より荷重を受ける範囲に礫を散りばめたものと考えられる。

③ 第3工程

いよいよ石室の構築が始まる段階である。まず石室の根石が置かれ、併行して裏込めと第1次墳丘も徐々に築成されていく。

玄室部の根石は、玄門部も含め一際高く平積みされたものであるから、石室の構築には、ひとまずこの段階にポイントとなる節目を置いていたと考えるべきだろう。既にこの時点で、石室の下半分が出来上がり、羨道部に至っては天井石が架せられる部分を除いて完成していたらしい。裏を返せば、羨道部の高さまでをも考慮して、玄室側壁の腰石上端レベルを決定してい

たということになる。

玄室根石は、すべて石材の最大面を壁面に活用する平積みからなっている。側壁上端は羨道部高に合わせて均一の高さを保持しているが、玄門石はそれより一段高く、奥壁に至ってはさらに高レベルに上端部を設定していたらしい。玄門石の上端は左右とも等しい位置にあるため、それなりの意味があるものと思われるものの、想定される次なる工程の中位部分で止まっているため理解に苦しむ。一方、倒れてしまった奥壁の根石は、それを元の位置に戻したとすれば、ほぼ第4工程終了後の高さに匹敵し、ここでも工程を意識した用材の選択が認められる。

根石は、少しでも動いてしまえば石室全体のバランスを崩してしまうから、倒れやすい側壁および玄門のそれは、一端部が尖ったものを選び、その部分を地中に埋め込むことによって倒壊を防いでいる。またその外側には、奥壁部も含め、下部に比較的大きな礫を多数寄せて強度を増そうとしたらしい。羨道部根石も半分以上が地中に埋もれている。

石室用材の中でもっとも巨大な奥壁の根石は、側壁がそれほど損傷していないというのに玄室内に倒れ込んでいた。玄室の奥幅と奥壁の根石幅がほぼ等しかったことを物語っている。また、玄室東側壁北端部の位置が西側壁のそれよりかなり長く設定されていることから、耳取大塚古墳や三河田大塚古墳と同じように、東側壁は奥壁の側面にもたれ、一方奥壁の西端部は西側壁端面の角と組合うという三位一体の構造を呈していたものと思われる。

初期の盛土は、整地された範囲の縁辺から少し内側に入った位置に端部を有する。突き固めた黄褐色土と排水性に富む柔らかい黒色の粘質土を交互に重ねながら少しづつ盛り上げていくが、初期の盛土範囲を越えることはなく、したがって上部にいくほどその範囲は狭まる。また、内側をより厚く盛ることで、版築全体が次第に勾配を高めていく。排水性を良好に保つためだろう。逆傾斜をしていた墳丘西半部は、本工程終了時にようやく水平な面となる。

なお、石室の石積み・裏込め石の充填およびそれを外護する石積み・版築の各作業は、それぞれ単独で行われたものではなく、皆が相互に関わり合いながら、少しづつ高さを増していったものと考えられる。

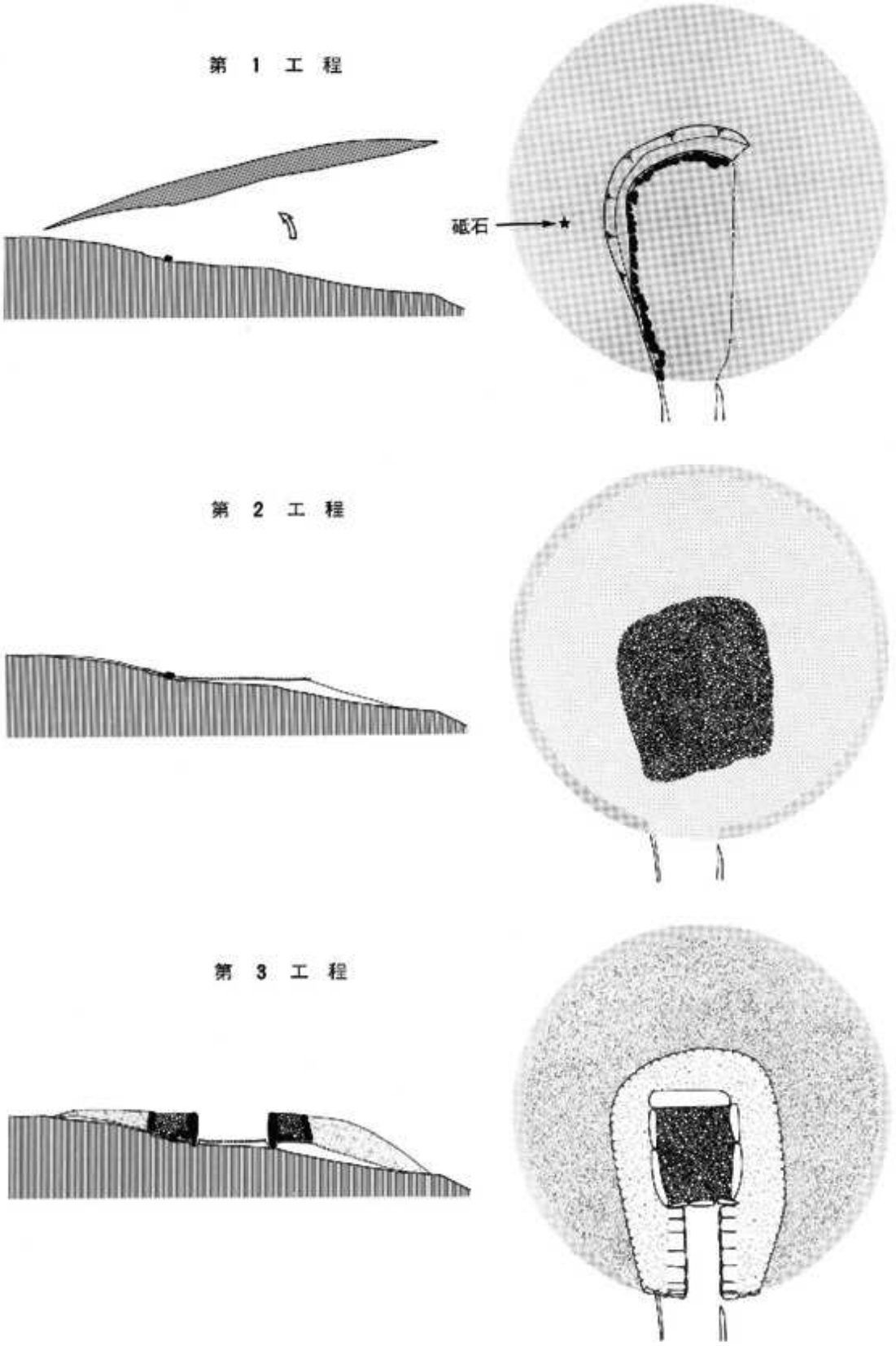
④　第4工程

玄門の上に天井石が架かるか、その直前までの工程である。

玄門東側壁の奥に巨石が積まれているが、この上端レベルで両側壁ともに横目地が通り、玄門西側壁においてはこれより上で石積み方法を一新していることから、ここにひとつの工程的区切りがあったものと思われる。

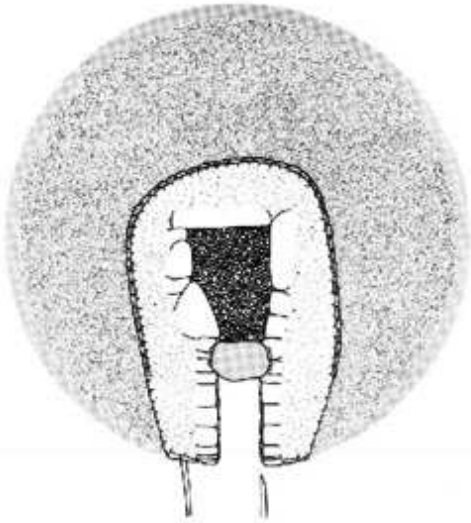
本工程から、玄室側壁石積みは持ち送りの方法が取られることになる。背面を腰石の外側に大きく飛び出させた小口積みがほとんどであり、一見不安定そうにみえるが、しかしこれは荷重を外に逃がして持ち送りに対してのバランスをとり、側壁の内側への倒れ込みを防ぐために用いられた手法である。逆に、側壁が外へ開かないように、背面には控積みを伴っている。

第8図　築造工程模式図（1）

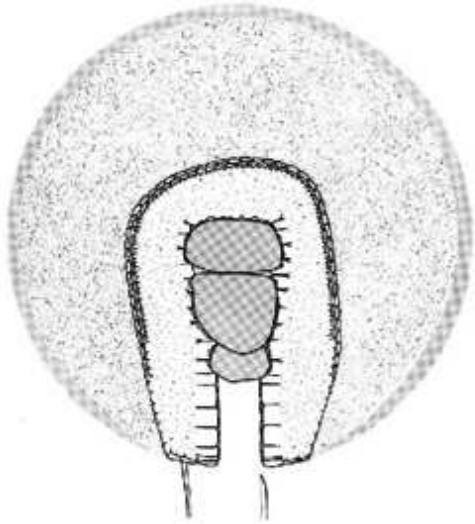


第9図　築造工程模式図（2）

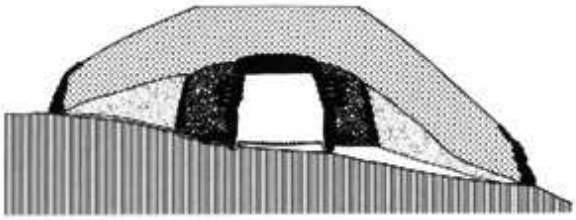
第　4　工　程

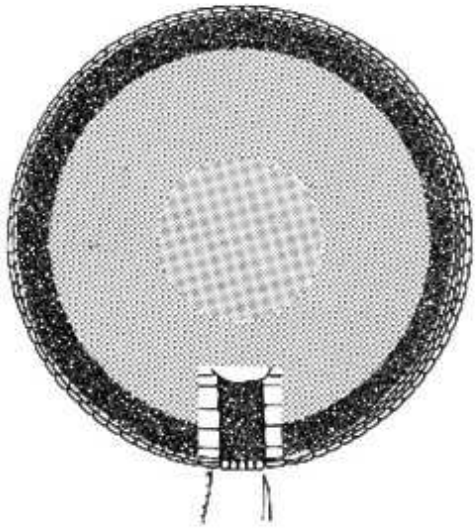


第　5　工　程



第　6　工　程





なお、玄門上に天井石が架せられた時点で、羨道部は完成の運びとなる。またこの天井石は、玄室前壁の根石としての役割も兼ねている。

⑤　第5工程

玄室に天井石が架かり、石室が完成する間までを一括した。

玄門側壁は、第4工程と同じ手法で積まれるが、西側壁はこの段にきて巨石を使用している。理由はわからない。石室の構築作業が終わりに近くなって、残った石材を見渡し、苦労して運び上げたものだからより大きなものを余すことを嫌ったのだろうか。いずれにしても、先の工程も含め、玄室側壁上段の姿が左右対称になるような用材選択を怠っており、この点に限っては周到さに欠けている。

側壁の最上段には、一際薄くしかも小さな板状礫を一列並べている。これは天井石を架構する直前の微妙なレベル調整と、天井石や封土から受ける荷重を方々に散らすことを目的とした言わば緩衝材であろう。小礫に過ぎないが、側壁が受ける何トンもの荷重をバランスよく壁に配分し、石室全体の損壊を防ぐ重要な役割を果たしているのである。

また、天井石が乗ることによって初めて石室が安定するような構築方法であるから、逆にその直前段階がもっとも不安定な状態にあったはずである。ならば、天井石の架構作業は極めて慎重に行わなければならず、少なくともむやみに引きずり込むようなことはまずしなかったはずだ。そうでなければ、せっかくの天井石直下の小礫も動いてしまうことになる。壁に触れることなく設置する場所まで天井石を移動する何らかの方策が取られたに違いない。調査時には、それを可能ならしめる構造物の跡を見つけようと試みたが、残念ながら検出するまでには至らなかった。

調査前から玄室天井石が露呈していたことから、詳細はわからないのだが、石室の完成とともに当然裏込め作業も終了したことだろうし、これに伴う第1次墳丘ともいうべき盛土作業も目的を果たしたはずだから一応の終了をみたことだろう。

⑥　第6工程

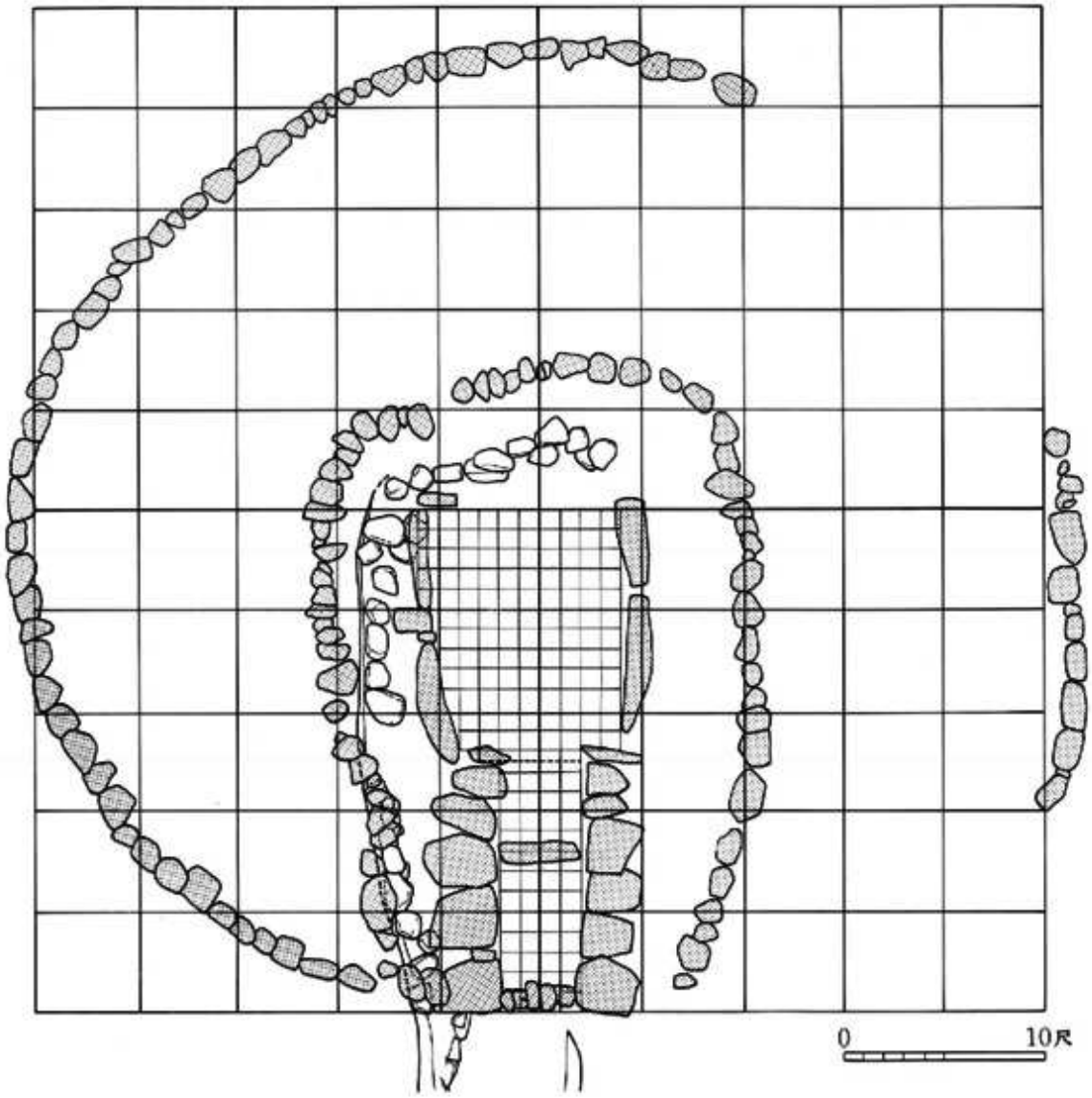
わからないところが多いため、古墳の完成までを一括した。

古墳の化粧仕上げの段階である。石室の構築と合わせて盛られた第1次墳丘を覆い隠すかのように新たな盛土作業が始まり、併せて最初の整地面の外周に外護列石が積まれる。この時の盛土は、第1次墳丘同様、版築構造となっている。

(2)　築造企画

上項で記したように、本古墳もまた当時の土木技術の粋を集めた立派な建造物であった。このように綿密な計算のもとで古墳が築造されるのが一般であるから、古墳研究においては古くから尺度論も展開されてきた。寄山古墳の場合は、尺度論を引き出せるような設計企画が認められるのだろうか。ここではこうしたことを考えてみたい。

第10図　26.8cm単位による割り付け（1：100）



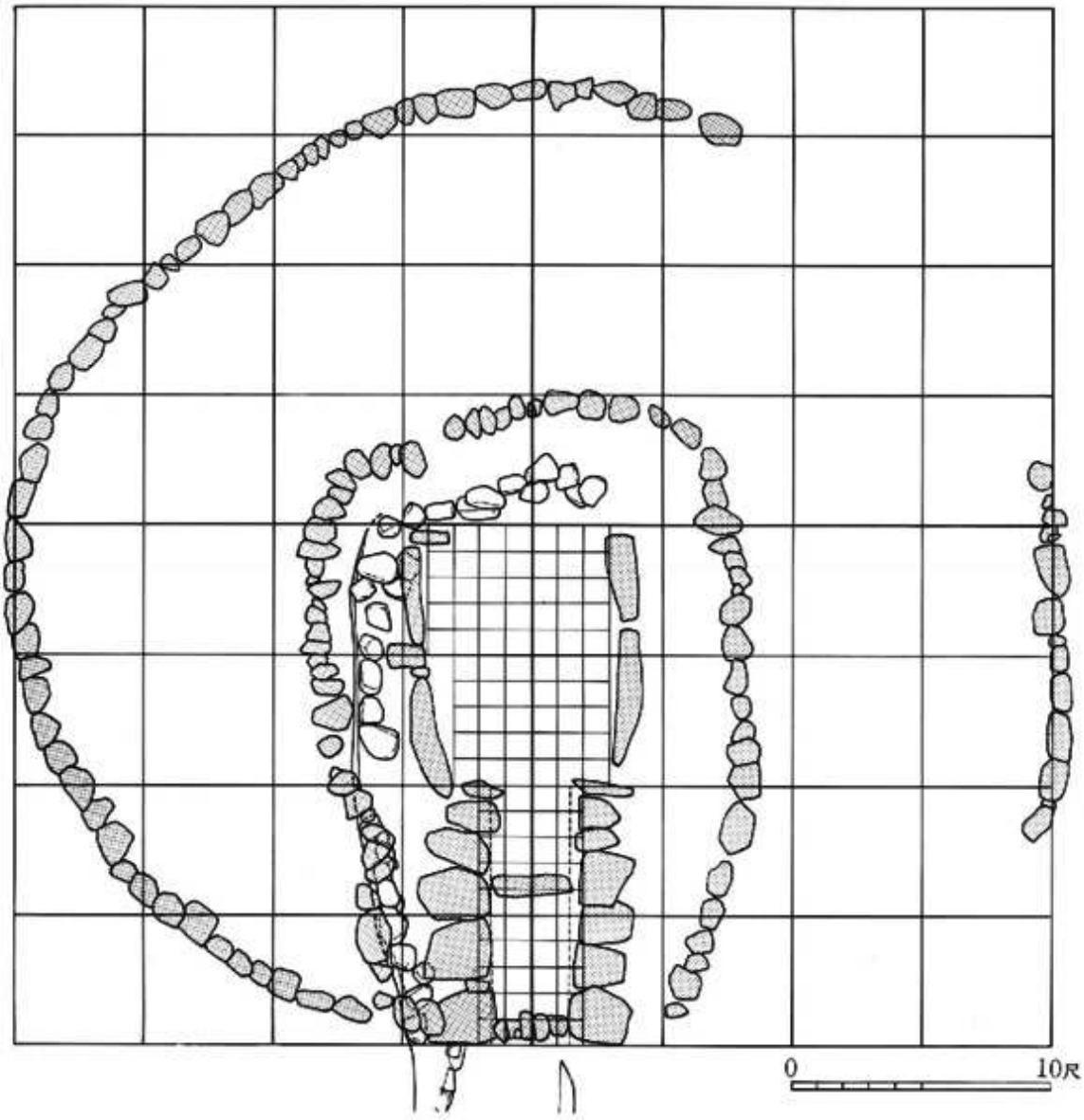
尺度論を持ち出すには、まず各構成寸法の間に簡単な整数比を探し出すことが先決となる。この「簡単な整数比」は、一般に「完数」と呼ばれている。導かれた完数で各計測値を除法することによって基準尺が導出されるわけである。

本古墳の場合、石室内法長が6.70mであるが、そのちょうど中間の位置が玄門中央部に相当している。ここで1：1の完数が得られたことになる。

墳丘規模は、主軸長が13.00m・副軸長が14.20mとなっており、設計誤差が生じている。しかし、単純に中間値をとれば13.6m、半径6.8mという数字が算出でき、この数値は石室全長にほぼ等しい。1：1：2という整数比が成立したことになる。

その他の数値は、どこからどこまでを測ればよいのか問題となるところだが、およそ次なる完数が考えられる。まず玄室前壁側の幅（床幅）と玄室高（礫床上端からの高さ）は2.1～2.2mと

第11図　高麗尺による割り付け（1：100）



ほぼ等しい。また、羨道部幅は根石部で玄門側1.06m・中央部1.15m・先端部0.95mであるから、平均すると1.1m弱となり、ちなみに仕切り石の幅は1.08mである。これはきれいに上端が揃えられた玄室根石高（礫床上端からの高さ）と同じである。羨道部幅・玄室根石高・玄室前壁幅・玄室高の順に1：1：2：2の整数比が導かれる。

以上の結果から、本古墳築造の際にも何らかの物差しが使用されたことは間違いないものとなった。しかしながら、これまで得られた最小単位の実数値1.1m弱は、石室全長（約6.7m）あるいはその2分の1の数値（約3.35m）と比例させることが難しい。基本設計に対する施工誤差、あるいは施工中の変更・施工後の変容があるとしても、あまり誤差のない整数比が2通り認められたのであるから、どこかに公約数的な数値が隠されているとみるほかない。

そこで、使われた尺度をもっとも正確に反映し、しかもそれを算出しやすい場所はどこかと考えると、まずひとつは誤差を生んでは命取りとなる箇所であり、もうひとつは誰もが考えるひとつの単位の中でもっとも距離が長い箇所とすることができる。前者については当然のことだが、後者に関しては、設計上切れのいい単位が予想されるし、大きな数値で除法することによって誤差の値がより小数値となると見込んだが故の判断である。

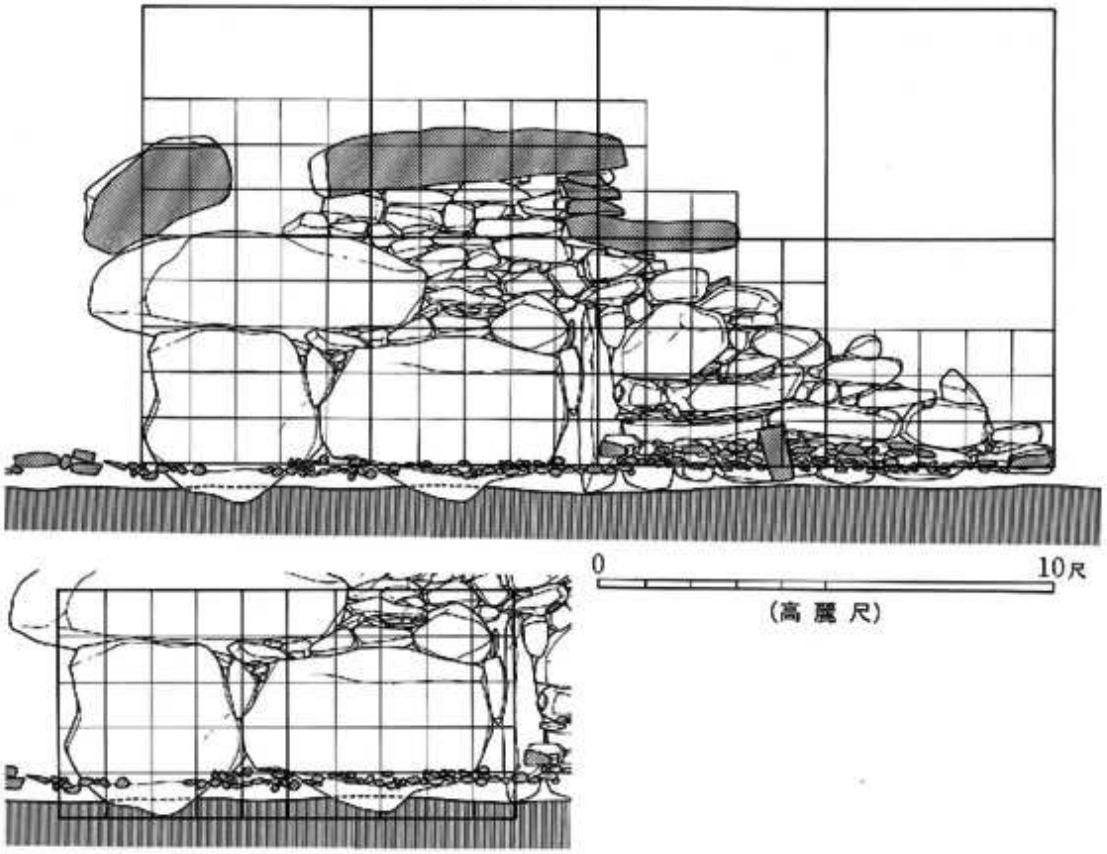
このふたつの条件をクリアするのは、やはり古墳の心臓部ともいうべき石室を除いてはない。事実、ひとつの単位の中でもっとも距離が長い箇所は、言うまでもなく墳丘の直径であるわけだが、主軸と副軸とでは1.2mもの差が生まれており、とても信用できる値を算出することはできない。それは1mであろうが2mであろうが、差が生じたとしても、見た目円形なら築造工程の上でも何ら困ることがないからである。一方石室は、まず野天に転ぶ石材の中から設計図に見合う用材を選択することから始まるわけだが、先でみたように綿密な計画のもとで順次構築が進行しているのだから、少々の狂いでもあれば命取りになりかねない。用材選択の段階から、既に尺定規が当てられていたはずで、特に玄室根石と天井石の選び出しにはことさら慎重であったはずだ。したがって根石の設置場所も予め決められた場所、すなわち厳密に尺度計算された場所に位置したものと考えられるのである。実際に、玄門根石が寸分違わず石室全長の中央に置かれていることがその証左となっている。とすると、石室全長6.70m、その半分の値の玄門部中央位置3.35mが基準尺を導き出すキーワードとなるはずだ。

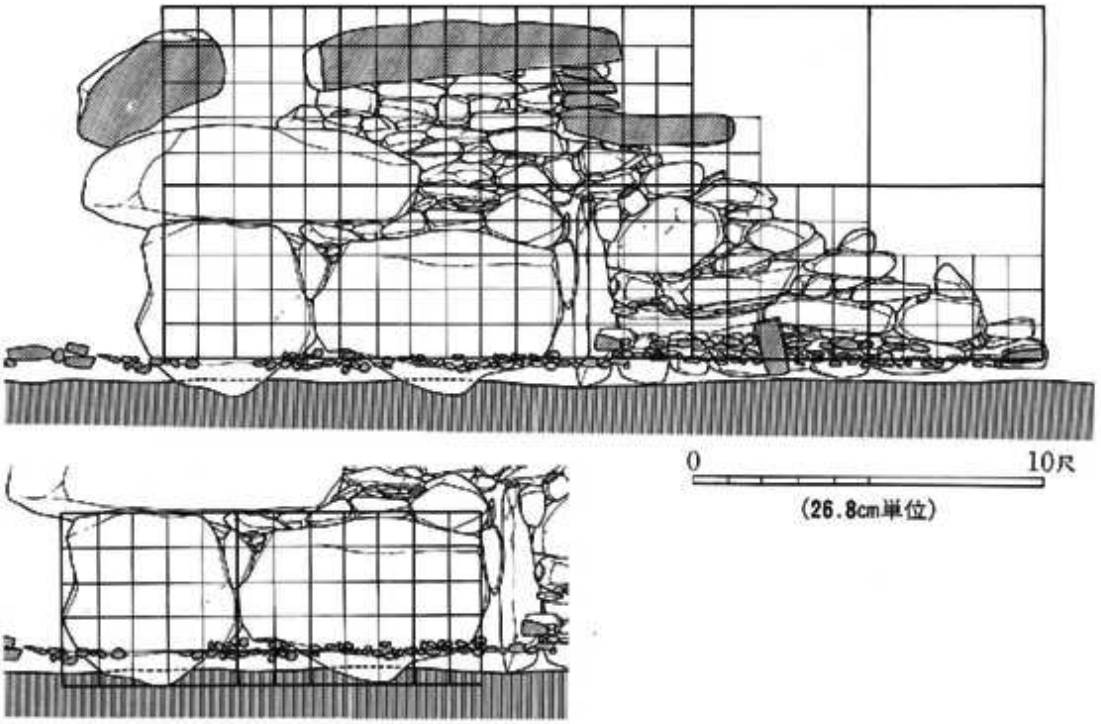
ところで6.70mという数値は、再三述べてきたようにその半分が玄門部中央位置であり、その倍が墳丘の直径であった。設計段階でもっとも基準となる単位であったに違いなく、したがって計算の便を図るためにも切れのいい整数値での設定がされているものと考えられる。そこで、まず6.70mを15・20・25・30で除法すると、順番に44.67・33.50・26.80・22.33cmという値が出てくるが、これらの中で44.67は常識的にみてあまりに大き過ぎるし、33.50は羨道部幅・玄室根石高・玄室前壁幅・玄室高の比率から導きだされた1.1m弱という数値を5寸単位で操作しても結び付けることができないことから、このふたつは除外される。また22.33は、やや小さいことに難があるのだが、その5倍は1.117mとなるから可能性としては考えられる。しかしながら、もっともよく適合するのは26.80であり、その4倍が1.072m、すなわち「1.1m弱」となるのである。

以上の結果から、26.80cmという長さを最小単位とする物差しの存在が想定可能となった。この単位を仮に1尺と呼ぶことにすると、石室全長が25尺・墳丘の直径が50尺・玄門位置が12尺5寸・玄室前壁幅と玄室高が8尺・羨道部幅と玄室根石高が4尺となる。

この26.80cmという単位は、あくまで先入観念を排除して、素直に本古墳が備える割合の整数比をもとに算出したものであるが、これは偶然にも新井宏氏が唱える「古韓尺」（新井1992）の1尺に等しいものとなってしまった。筆者の立場としては、こうした結果になったからといって、即古韓尺という一定の検定尺なるものの存在を肯定するつもりはさらさらなく、ひとまず特に肯定も否定もせずにおきたい。

第12図　石室の割り付け（1：60）





26.80cmという単位をわかりやすくするために、この単位で実測図にメッシュをかけてみた。

第10図をみると、墳端を除いてよく適合していることがわかる。5寸単位のところに玄門中央位を設けていることがやや釈然としないが、これによって玄室内法長と羨道長はともにちょうど12尺となり、かつ玄室前壁幅の2分の1・羨道部幅・玄室根石高の3倍となる。玄室東側壁の根石は中軸線から4尺の位置に揃えられるが、西側をみると前壁のそれがこれに等しいにもかかわらず、奥壁側は1尺強広がって不整形の撥形となってしまっている。先で考えた側壁と奥壁の組合い方に関連するものと思われ、わずかだが奥壁の用材選択に誤差が生じたために起きた結果と判断される。したがって、12尺×8尺の矩形が玄室の基本形態と考えられよう。

次に第12図下段でみると、上記した第3工程は床面から4尺・第4工程は7尺のレベルに設定されている。玄室側壁の北端は、5尺メッシュから外れているが、これは側壁が奥壁にもたれるためにわざと長く取ったものである。なお、用材選択に際して、ことに慎重であったはずの玄室側壁の根石にもメッシュを当てたところ、北側が5尺四方・南側が5尺×7尺四方にちょうど収まり、長さを足した値は玄室内法長の12尺となった。これは西側壁も同様である。とすると、用材選択の段階において、既に基準尺を用いていたということになろう。

これまで踏んできた過程とはまったく結びつかないのだが、該期古墳に尺度論をぶつけるとすれば、群馬の横穴式石室を徹底的に分析し、1尺＝35cmという「高麗尺」の存在を導いた尾崎喜左雄氏の業績（尾崎1966）を無視するわけにはいかない。ましてや本古墳の石室構造の系譜は群馬側に求められるのであるから、なおさらのことである。そこで、本古墳にも35cmメッシュを当てはめてみた（第11図・第12図上段）。するとどうしたことだろう、見方によってはこれまたぴたりと適合してしまうのである。古韓尺を提唱した新井宏氏も訴えるように、35.0の0.75倍が26.8に相当するからである。

これ以上数値を挙げると、自分に都合のいい数字遊びに繋がり兼ねないので、ここで尺度論を閉じたいと思う。

(3) 寄山古墳と律令体制

本古墳の築造年代が7世紀第3四半期を中心とした段階にあるとした。既に飛鳥の世である。しかも、672年には壬申の乱が勃発し、急激に律令体制は確立し、しかも地方へと浸透してくる。佐久地方においても、遅くとも7世紀末葉には平野部に郡司の氏寺が建立され（宇賀神1994）、畿内地方の土器が多数持ち込まれる大規模な居館も構築されているから（宇賀神1995）、既にこの時、「佐久郡（評）」は成立していたし、郡衙も存在していたはずだ。折しも寄山古墳は、まさしく最初の山寄せ古墳として築造されることになるのだが、こうした社会変状と関わりがあるのかどうか、関わりがあるとすれば、さらに一歩突き進めて佐久地方における律令の確立状況、それに伴う古墳の変化についていくつかの推察を図りたい。

さて、寄山古墳は巨石を多用した畿内型横穴式石室墳であったが、佐久平でのこうした古墳の

初現は、早くも6世紀末葉、先にも触れた家地頭1号墳にある。この古墳は、火山性の泥流丘の中腹部を掘り込んで石室を構築し、さらに盛土して古墳を築成したもので、見掛け上は中腹に石室が開口する直径40mほどの円墳を完成させている。佐久平の後期古墳としては比類なき規模を誇っているのと同時に、最初の横穴式石室墳のひとつに数えられる。ただし、実際には羨道部を失っているので畿内型横穴式石室とするための重要な要素である両袖式であったか否かは不明である。しかしながら、巨石3段積みという構築方法を取り、それは規模も含めて近くの耳取大塚古墳に近似しているから、まず間違いのないものと判断できる。

もっとも、巨石を使用すること自体がそれまでの該期古墳には見られなかったことで、その運搬から積み上げに至るまで、これを可能ならしめる技術的裏付けが必要なわけだから、すなわち巨石を取り扱える技術革新が起きたことになり、畿内型横穴式石室か否かを唱える以前に重視すべき変化と言えるのである。平積みの腰石の存在から、巨石指向、それを取り扱う技術および構築法は群馬側から学んだらしいが、地方における畿内的な巨石指向については、まず最初に有力古墳に取り入れられる傾向が強いことを理由に、東国に対する大和の働きかけの強化の結果とみる意見もある（右島1993）。いずれにしても家地頭1号墳は、佐久平における最初の横穴式石室墳でありながら最大級、そして巨石指向という点からすれば、やはり社会的に大きな変動が本古墳築造の契機となったとみるべきだろう。

この頃、集落にも大きな変化が認められる。7世紀に入ると、これまでけっして集落を営むことのなかった平野部北縁の高燥地や低位段丘面に、突如小規模な集落が出現する。栗毛坂遺跡群A地区（宇賀神ほか1991）はその代表例だが、この時期の、そしてこうした場所の竪穴式住居跡には北武蔵地方から群馬県におよぶ平地部で生産された土器が多数認められる点を重視しないわけにはいかない。家地頭1号墳の石室構築手法をも考慮に入れれば、変動の波は群馬側から押し寄せてきた公算が大きいと言えそうである。

平野部北縁の集落については、このような状態が7世紀中葉のある段階まで続くものと思われるが、7世紀後半ともなると、それまで点在していた新出集落の再編が始まったらしく、鋳師屋遺跡群を代表例とする大集落が何箇所かに形成されることになる。折しも、寄山古墳は最初の山寄せ古墳としてこれら集落を見下ろす平地部東縁の山間部に造られることになり、これを皮切りに付近の山沿いには爆発的な勢いで群集墳が形成を始めるのである。すなわち、佐久平における山寄せ古墳は、集落の動態と連動して出現し、さらに付け加えるなら、おそらく律令体制の確立という歴史的大事変が背後で関わっているに違いない。

ところで山寄せの意味は、百済中期熊津時代や伽耶の古墳のように、高燥の地を神聖な良地と考える埋葬観念から、平地を見下ろす丘陵上もしくは尾根の傾斜面を墓地に選ぶ（金1972）という観念上の変化がひとつに絡んでいるものと思われる。律令の浸透とともに、中国・朝鮮から持ち込まれた思想や技術も伝播したに違いなかろうが、それが地方の古墳造りにまで影響したとする根拠は、まず本古墳の石室の主軸が見事南北方向に取られていることにある。8世紀前葉の古

墳だが、風水思想を強く意識した佐久市下平尾の大星尻古墳（宇賀神1991）は厳密に南北を指し示すものであった。時期的に近い三河田大塚古墳もまたこれに等しい。偶然の結果とは考え難く、中国の古代宗教ともいうべき儒教の影響が予想されるのである。またもうひとつは、本古墳にも大星尻古墳にあるような風水の念がはたらいているという点にある。北斜面ということで厳密さに欠けるのだが、わざわざ平坦な尾根の嶺筋を外して、三方が閉ざされた窪地を構築場所に選んでいるのは風水の影響と言わざるを得ない。下方には東から西に水を運ぶ河川も用意されている。7世紀末あるいは8世紀初頭には、例えば佐久市内山の長峯古墳群（佐久市教委1988）や小諸市御影新田の野火付古墳（小諸市教委1982）にもありありと表れているから、一般化していることがわかるが、既に寄山古墳の段階から新来の思想が採用されていたということになろう。

それとは別に、律令国家の土地政策は、大化甲申詔にみられるように土地の公有化に関連して葬地の官的規制も行っているから、当地における山寄せ古墳はこのこととも深く関連しているはずである。鋳師屋遺跡群を初めとするいくつかの大規模集落の出現は、既存集落の強制移動も含めた大規模な土地利用の再編が行われたことを意味するが、この時、古墳築造の場を開発可能な平野部から追いやり、佐久平東縁の山麓部を最大の公葬地に選んだのだ。そしてこうした体制の下で造られた初めての古墳がこの寄山古墳と言えるのである。とすると、寄山古墳を築造した集団の長は、体制に下った有力官人層ということになろう。併せて、「佐久郡（評）」が実質的に機能し始めたのもこの頃からとみることができるのである。

寄山古墳築造を契機に、付近の山麓部にも爆発的な勢いで数多くの群集墳が形成を開始することは再三にわたって述べてきた。それは先の大星尻古墳が造られた8世紀前葉まで休むことなく続けられた。ほかの地域では衰退の途を辿っているというのに、なぜか佐久平においては古墳造りのピークに達しているのである。民衆を律令体制下に組み入れる公民化制度は、身分秩序の再編によって新たなる秩序を生み出したが、葬地でさえ細かな指定があるのだから、ある一定以上の階級の者たちだけが古墳構築を許可されたに違いない。それまで古墳を造れなかった民衆の中にも、組織の中で高く登用された者たちがいたことを物語っているのだろうか。

引用参考文献

相原　俊弘　1983　「構造工学からみた古墳の墳丘」『季刊考古学』3

新井　　宏　1992　『まぼろしの古代尺』吉川弘文館

石部正志・田中英夫・宮川徒・堀田啓一　1979　「畿内大形前方後円墳の築造企画について」『古代学研究』89

上田　　薫　1986　「相模出土のフラスコ形瓶」『神奈川考古同人会10周年記念論集』

宇賀神　誠司1991　「第11節5(3)大星尻古墳の諸相」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2』㈶長野県埋蔵文化財センター

〃　　1994　「佐久市長土呂出土の軒丸瓦」『佐久考古通信』No.61　佐久考古学会

〃　　1995　「5宮ノ反A遺跡群」『㈶長野県埋蔵文化財センター年報』10　㈶長野県埋蔵文化財センター

宇賀神誠司ほか1991　「第18節ⅰA地区」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2』㈶長野県埋蔵文化財センター

尾崎　喜左雄　1966　『横穴式古墳の研究』吉川弘文館

金　　基雄　1972　「三国時代古墳の変遷」『韓国の考古学』河出書房新社

小諸市教育委員会　1982　『野火付古墳』

佐久市教育委員会　1972　『佐久市岩村田東一本柳古墳緊急発掘調査報告書』

〃　　1976　『家地頭1号古墳発掘調査報告書』

〃　　1988　『長峯古墳群』

松尾昌彦・桜井達彦・常木晃　1984　「千曲川上流域における古墳の実測調査」『信濃』第36巻第11号

右島　和夫　1993　「横穴式石室の地域間動向」『季刊考古学』45

矢島　宏雄　1990　「中部高地」『古墳時代の研究』11　雄山閣

1　**古墳遠景**（西から）　志賀谷を見下ろす尾根の北側斜面に築かれている。写真左上方に見えるのが志賀川。

2　**古墳遠景**（南から）　プレハブの位置が尾根の頭部分。古墳が斜面の窪地に造られていることがよくわかる。こうした占地は、やはり風水思想の影響だろう。

3　古墳全景（上から）　古墳の主軸はぴたり南北方向を示す。中国の古代宗教である儒教の影響を受けているのだろうか。なお、南端（写真下側）の羨門部には墓道が連結されている。

4　古墳全景（南から）　墳丘上半を除いて遺存状況は良好であった。これは、皮肉にも古墳完成直後に、墳丘の一部が埋没してしまうという自然災害に遭遇しているためだ。

5　墳丘内に隠れた石室裏込め石の外壁（北から）　石室を保護する裏込め石と、それを包み込む盛土との混交を避けるためのものである。過去の調査例を省みると、佐久市内の古墳では珍しいかのように取れるが、実はごく一般的な工法だ。

6　版築工法による盛土（墳丘西側）　敷き固めるとよく締まる砂質土（黄褐色）だが、含水比が高くなると極端に強度が落ちる。それをカバーするために、不透水性の粘質土（黒色）を幾層にも折り混ぜ、さらに全体に勾配をもたせることによって排水性が保たれている。

7　玄室（奥壁側から）　一際大きな板状礫の腰石が直に平積みされ、その上には壁面が内傾するような横積みが施されている。一見不安定なようだが、こうすることによって、天井石や封土の荷重による内方への倒れ込みを防いでいるのである。

8　玄室東側壁（西から）　玄室腰石の形状・配置・設定レベルは、ほぼ左右対称である。またよく観察すると、腰石より上は、羨道部天井石のレベルで横目地が通っている。作業単位がよくわかる。

9　古墳築造の基礎地業（南から）　谷部に突き出た口蓋垂状の部分を斜めにカットし、さらに石室が収まる範囲に限って、底面が水平になるような掘り込みを設けている。掘り込みによってできた段差部分の崩壊を避けるためか、そこには人頭大かそれ以上の河原石があてがわれていた。

10　石室構築直前の状況（東から）　整地された支持層の上に黒色の粘質土が墳丘全域に敷設される。この時に裏込めを含む範囲は水平に保たれる。また、極端に荷重のかかる玄室およびその周縁の裏込め石の範囲には、拳大前後の河原石を隙間なく敷設する。不同沈下を防ぐ配慮だろう。

11　石室根石設置状態（南から）　平積みされた玄室と玄門部の腰石が、なぜこのように撮影できるのか疑問に思う人もいるかもしれない。しかし、石室を構築するときもこのような固定が必要だったはずだ。実は、基部が尖っており、その部分を地中に埋め込むことによって一時的な固定をしていたのだ。

12　同（南東から）　石室の根石だけを残したものだが、工程的にみると、既にこの時点で羨道部石積みはほぼ完成していたことだろう。

13　石室根石設置状態（北西から）　玄室根石に対してなぜ玄門部根石のレベルが一段高いのか？

14　玄室根石際の裏込め石（西から）　倒壊を防ぐため大きめの石をあてがっている。

15　羨道部石敷（南から）　礎床は初期のもの。仕切り石は改築後の位置である。

16　同（西から）

17　羨道部先端（東から）　偏平な河原石５個が一列に並べられていた（改築後は巨石１個）。

18　石室裏込め石の外壁（南西から）　この山で採れる亜円礫が主体である。一部には、河原石、あるいは石室用材であるべく溶結安山岩の板状礫が用いられていた。上方に行くに従い積み方は乱雑となり、外方へと飛び出すものが目立った。

19　同（南から）

20　同（北東から）

21　石室裏込め石の外壁（北から）　傾斜地に構築されながらも、裏込め石がほぼ水平なレベルから積み上げられていったことがよくわかる。第2工程によって、裏込めの範囲に限り、粘質土が水平に敷設されたためだ。

22　裏込め石断面（奥壁東側）　下を流れる志賀川（当時は志賀湖）から運び上げたものだろう、すべて河原から採取された砂礫からなる。石室の外側にかかる圧力を緩和するのとともに、排水性も良好となる。版築技術と同じく、現在に至るまで受け継がれている工法のひとつだ。

23　墳丘断面（南から）　版築工法を取る盛土の原材料は、土中に縄文時代の遺物を多分に含んでいることから、遺跡群内部で採取されたものだろう。当然、第1工程で生まれた残土も利用されたに違いない。

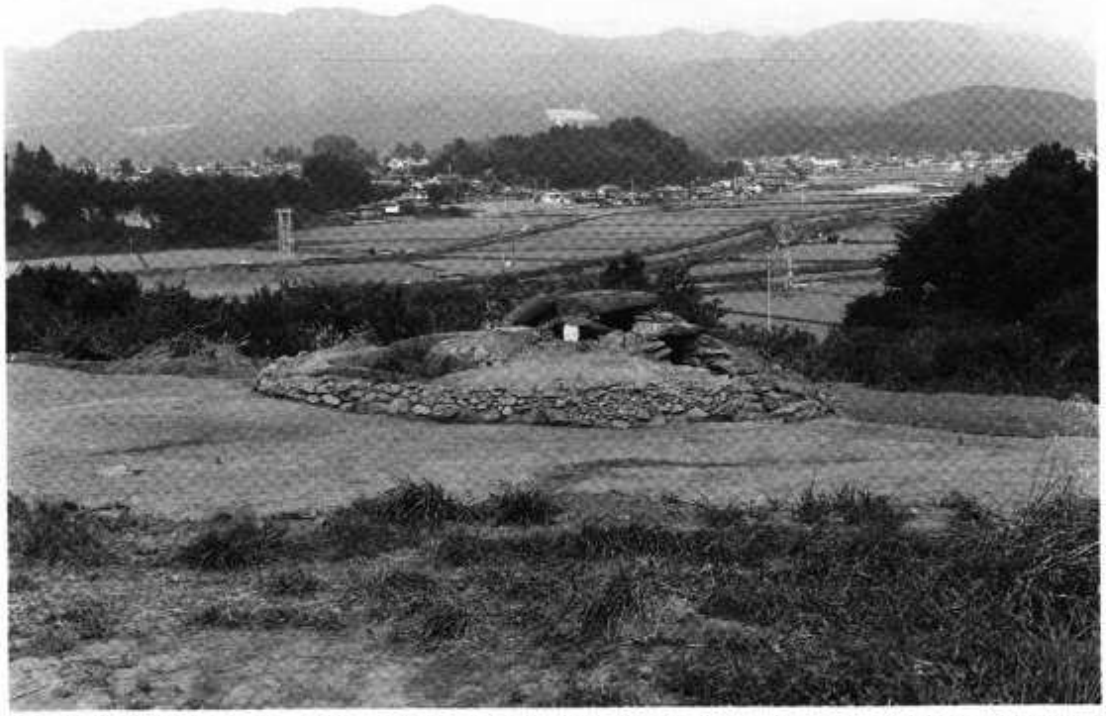
24　同（北から）

25　玄室東側壁（北西から）　石室用材にはすべて溶結安山岩を用いている。板状割理しやすい性状をもつことから、石室の構築材として多用されるが、この山では採取できない。対岸である、志賀川右岸の山地から運び上げたものか。

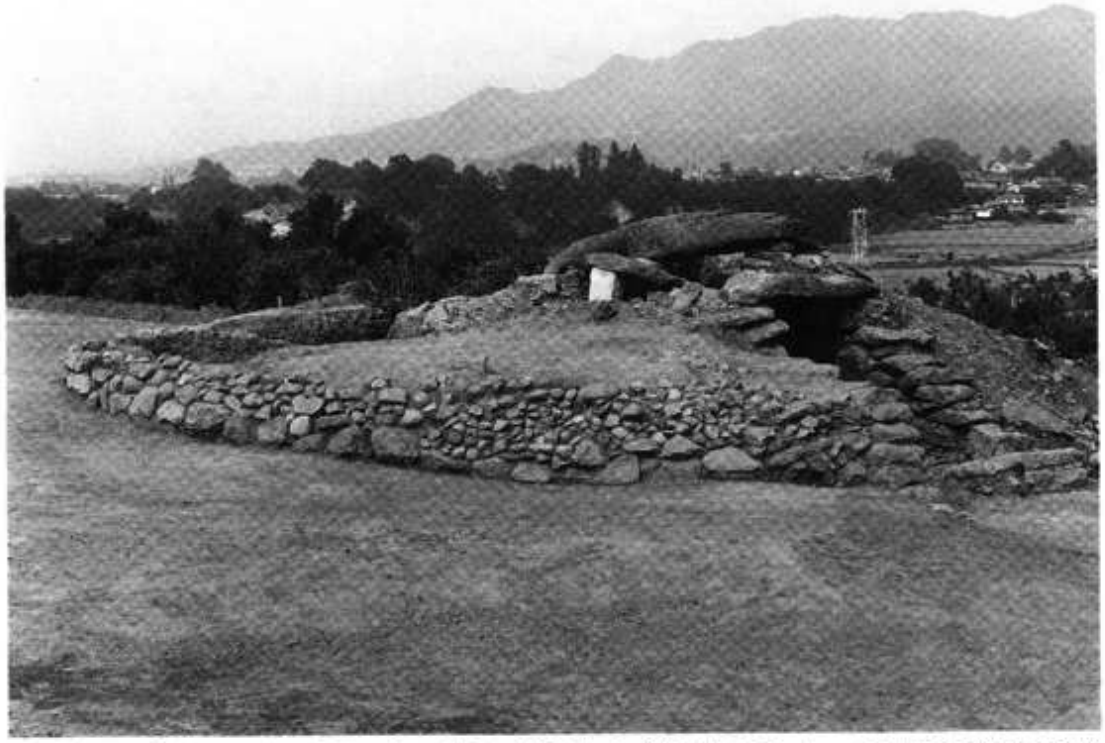
26　羨門（玄室から）　高さ約1.6m、幅0.85～0.45mほどの空間を有している。楣石は横架せず、薄手の腰石の上には折上げ状の横積みを施している。手前中央に見えるのが人骨の一部。

27　羨道部西側壁（東から）　比較的均整のとれた石材を横積みしている。横目地がよく通り、また互目積みも意識しているらしい。石材選びの周到さがうかがえる。

28　玄室天井石直下の緩衝材（東から）　写真手前に並ぶ小振りの板状礫がそれである。天井石や封土の荷重をバランスよく壁に伝える重要な役割を果たしている。ちょっとでも触れてしまえば動いてしまいそうな小さな石材が整然と遺存しているのであるから、自と天井石の架構方法が読み取れる。



29　古墳全景（南西から）　墳丘中央に見える白い物体は、今にも動いてしまいそうな石を固定するために流し込んだ発泡ウレタン樹脂である。接着度とそれ自身のもつ強度にたけており、安全かつ精密に石室を解体していくには必要不可欠な存在だ。



30　同アップ（南西から）　開墾の時か、墳丘の上部はすでに削り取られていた。一方、墳丘西半はある程度まで築造後すぐに埋没したため、外護列石が良好に残っている。外護列石は、横積みされた大きめの石を根石とし、その上に小口積みを主とした小振りのものを積んでいる。

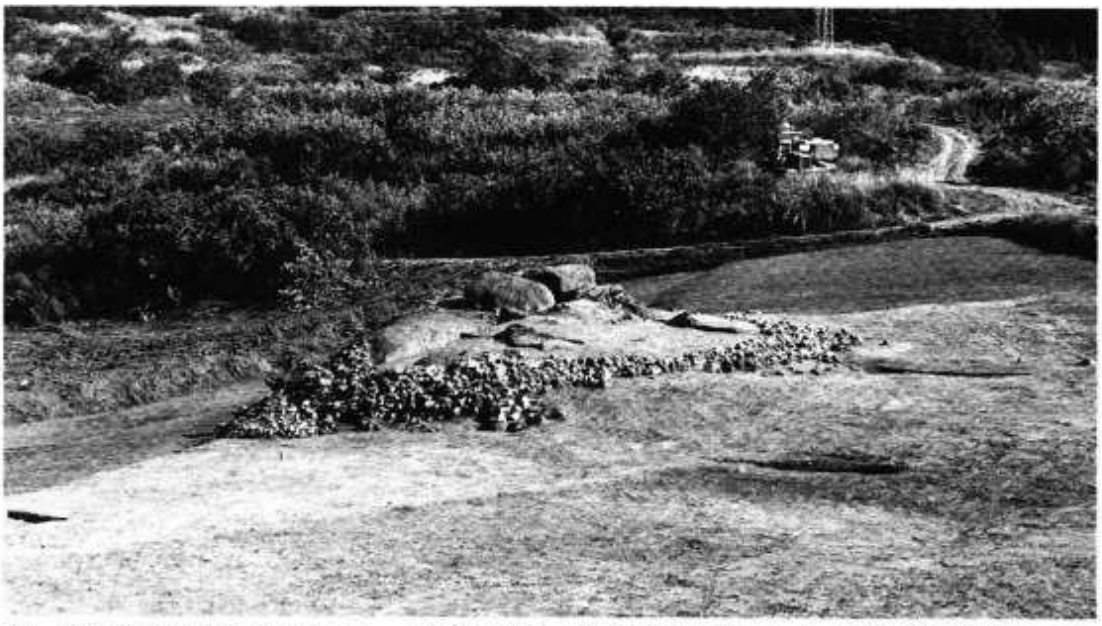
31　羨道部傍の外護列石（羨道部西側）　石室開口部から左にわずかいったところで、縦方向の目地が明瞭に認められ、それを境に石材・積み方も一変している。羨道部付近は、石室の構築、それと併せた裏込め構造と一体となって、いち早く外護列石が設けられたことを示している。

32　墳丘南西側の外護列石　根石の上には、拳大～小児頭大の小口面をもつ円礫を小口積みしている。

33　墳丘北西側の外護列石　墳丘の裏側に回ると、石材はより大きくなり積み方も乱雑である。姑息な手段だ。

34　墓道（南東から）　羨門部に連結する墓道を確認した。羨門に接する西側壁には、壁面を固定するために礫が用いられている。羨門をわずか出たところで、道は急激に斜面下方へと向かうことから、ここを訪れた人達はやはり北面する台地部分に居を構えていたのだろう。

35　被災後の古墳全景（南から）　余程の集中豪雨でもあったのか、古墳が完成して間もなく一部が埋没し、併せて崩壊も始まった。しかし、追葬はやめなかった。墓道を改築し、羨道部床面を再度しつらえ羨道奥を葬所としている。この時、律儀にも棺石の移動をも行っている。



36　被災後の古墳全景（北西から）　埋没後に崩落した外護列石が散乱している。拳大前後の円礫が多いことから、上部に行くに従い、礫の大きさを小さくし、また小口積みというよりはむしろ貼り付けるような格好で積まれていった公算が大きい。

37　同部分（墳丘北側）

38　同（墳丘西側）

39　改築後の墓道（南東から）　埋まってしまった墓道を途中まで掘り下げ、西側壁には旧状に似た石積みを再度施している。

40　同（北から）　写真手前中央の羨門部に置かれた石は、崩壊してしまった東側壁を入口施設として転用したものだろう。

41　調査前の状況（南東から）　石室天井石は露となっており、裏込め石の崩壊も著しい。墳丘東半（写真右側）の裾は、畑の坪境になっているため掘削されている。地中に埋まっている西半部に期待をかけた。

42　調査前の玄室部分（西から）　耕作者にとって、古墳は邪魔な存在でしかない。どうにか墳丘上半の削平には成功したらしいが、さすがに重さ数トンもある天井石には手を拱いたようだ。しかたなく農作業用の「室（むろ）」として利用していたらしい。

43　羨道部人骨出土状況　羨道部を掘り下げている最中に、玄門寄りの箇所から突然3体の頭骨が出土した。いつのことかわからないが、この墓を暴いた人間の悪行によるものだろう。なお、写真左の頭骨のみ床面に接している。これは古墳が被災した後に羨道部に葬られた人物の遺骨であろうか。

44　玄室内人骨出土状況　玄室内はくまなく盗掘されている。従って、これも原位置を示すものではない。

45　羨道部遺物出土状態　平安時代の坏である。こうした例は、ほかの古墳にもまま見られる。

付　　編

佐久市寄山古墳出土人骨について　　森本岩太郎

中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の石材産地分析

藁科　哲男、東村　武信
（京都大学原子炉実験所）

中条峯遺跡・寄山遺跡群出土土器の胎土分析

㈱第四紀地質の研究所　井上　巌

勝負沢遺跡　住居址構築材の木材利用

寄山遺跡　約1.3万年前の埋没林と縄文中期の植物化石

パリノ・サーヴェイ株式会社

佐久市寄山古墳出土人骨について

森本岩太郎

1．はじめに

佐久市大字志賀所在の寄山古墳から７世紀後半に属する古人骨が発見された。佐久市教育委員会からの委嘱により、この人骨を調べたので報告する。

2．人骨出土状態

寄山古墳は標高707ｍの丘陵斜面に位置している。人骨は古墳の玄室内および羨道部の攪乱層から散乱状態で出土した。玄室内から発見されたのは数個の歯だけである。羨道から発見された人骨については、比較的まとまって出土した頭蓋に対して、１号～３号の番号が便宜的に付けられている。羨道にあった人骨片は後世に石室内からかき出されたものと考えられるという。

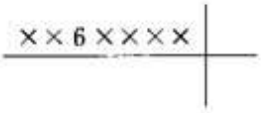
3．人骨所見

Ⅰ．玄室の歯について

成人男性１体と性別不詳の成人１体および小児１体、計３個体分の歯が出土している。いずれも遊離歯である。男性１個体の歯は次の３本である。

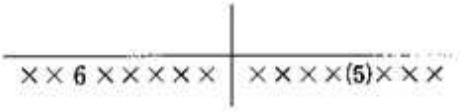
ただし、アラビア数字は残存する永久歯、×印は欠損のため所見の得られないこと、をそれぞれ示す(以下も同様)。歯の咬耗度は Broca の１度である。咬耗が進んでいないことから、年齢は壮年期と思われる。

性別不詳の成人の歯は次の１本である。



この歯の咬耗度も Broca 1度であるが、上述の男性よりは咬耗が進んでいる。この歯の頬側歯頸部には齲蝕が見られる。

小児の歯は次の２本の歯冠である。



ただし、( ) 内は未萌出の歯を示す。第1大臼歯は軽度に咬耗している。おそらく6～8歳前後の小児（性別不詳）と思われる。

II. 渋道の人骨について

渋道からは多くの人骨片が発掘されているが、重複する同一部位の人骨片で最大数を占めるのは、成人の左の側頭骨錐体片ならびに後頭鱗片の、それぞれ4個である。したがって発見された人骨片の個体数は、少なくとも成人4個体分であると思われる。これら各4個の錐体片ならびに後頭鱗片のうち、3個体分は比較的保存状態の良い頭蓋冠の構成にあずかっているので、それらの年齢・性別が推定できる。すなわち1．2号頭蓋は壮年期女性であるが、3号頭蓋は壮年期男性である。発掘時に気づかれていなかった4番目の個体の頭蓋片を4号頭蓋と呼ぶことにすれば、この頭蓋の年齢は壮年期であるが、性別は不詳である。人骨は焼けておらず、外傷も認められない。

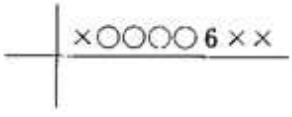
A. 頭蓋について

(a) 1号頭蓋（壮年期前半の女性、写真1．2）

比較的保存が良く、頭蓋冠と顔面のおよそ左半分とが残っている。下顎骨は無い。頭蓋冠の3主縫合は、内・外板とも骨結合化（閉鎖）していないので、年齢は壮年期前半と思われる。この頭蓋は乳様突起・外後頭隆起が小さく、前頭結節・頭頂結節が発達し、眉間から鼻背にかけての曲線がなだらかで、骨質が比較的薄いなどの女性頭蓋としての特徴をよく備えている。後頭鱗部がやや膨隆している。

この頭蓋は最大長が179mm、頭蓋最大幅が127mm、バジオン・ブレグマ高が132mmであり、その結果、長幅示数が70.9で長頭型、長高示数が73.7で中頭型、幅高示数が103.9で狭頭型に属する。舌下神経管・顆管欠如・鼓室骨裂孔は左右とも認められず、前頭縫合・インカ骨も見られない。副眼窩下孔・二分頬骨とも左側には認められないが、右側は観察できない。頭頂切痕骨は左右とも認められる。

歯および歯槽については、下記のよう残存する左上顎だけについての所見が得られた。



ただし、○印は歯槽開放を示す(以下も同様)。左上顎第1大臼歯の咬耗度はBroca 1度で、年齢の割に咬耗が進んでいる。

(b) 2号頭蓋（壮年期前半の女性、写真3）

頭蓋冠の大部分が残存しているが、頭蓋冠前半部の左右が欠けている。顔面部はほとんど残っていないが、右上顎骨歯槽部の一部と2本の遊離歯がある。下顎骨は無い。2号頭蓋も、1号頭蓋の項で述べたような女性頭蓋の特徴をもっている。頭蓋冠の主縫合は内・外板ともまだ閉鎖し

ていないので、年齢は壮年期前半と思われる。

頭蓋の最大長は179mm、バジオン・ブレグマ高は131mmであり、長幅示数が73.2を示して中頭型に属する。最大幅は欠損のため計測できない。左右とも顎管欠如が認められる。舌下神経管二分・鼓室骨裂孔は左側では認められないが、右側は欠損のため観察不能である。頭頂切痕骨は右側には無いが、左側は欠損のため観察できない。前頭縫合・インカ骨は認められない。

歯および歯槽の状況を次に示す。

××6543○×	1××4××××

ただし、左上顎の2本は遊離歯である。咬耗度は、左上顎切歯と右上顎第1小臼歯とがBroca 1度、その他の歯は同2度である。2号頭蓋の場合も、年齢に比べて歯の咬耗度が進んでいる。

(c) 3号頭蓋（壮年期後半の男性、写真4）

頭蓋冠の前部と顔面部の大部分とを欠いている。顔面部で残っている骨片は、左右の眼窩壁の一部と左右の上顎骨の一部の破片である。下顎骨は無い。頭蓋の乳様突起は大きいが、外後頭隆起は発達していない。後頭鱗がやや膨隆している。頭蓋冠の主縫合については、内板では部分的に縫合閉鎖が始まっており、1・2号頭蓋よりやや年齢が進んでいる。しかし外板ではまだ閉鎖が見られない。したがって、この頭蓋の年齢は壮年期後半と思われる。

頭蓋の最大幅が142mm、バジオン・ブレグマ高が137mmであり、幅高示数が96.5を示して中頭型に属する。頭蓋最大長は計測できない。両耳幅が127mmである。舌下神経管は左右とも見られないが、顎管欠如は左右とも認められる。鼓室骨裂孔は左側になく、右側に見られるが、頭頂切痕骨は右側になく、左側に存在する。前頭縫合・インカ骨は認められない。歯槽性突顎がある。弱い口蓋隆起が認められる。次に右上顎における歯および歯槽の状況を示す。

876○4○○○	

歯の咬耗度はBroca 1度である。

(d) 4号頭蓋（壮年期・性別不詳、写真5）

後頭鱗の右上半分・左の側頭骨錐体・右の頬骨前頭突起の各片と、部位不詳の小さな頭蓋冠片が3個ある。後頭鱗片に見られるラムダ縫合は、内・外板とも閉鎖していない。

(付) 以上の頭蓋片とは別に、年齢・性別不詳の成人下顎体の下縁部の小さな破片がある。正中線をまたいでいるが、左脚のほうが長いU字形を呈する長さ約5cmの骨片である。この下顎骨片が上記4体の頭蓋のどれに属するか、または属しないか、については不明である。

B. 上・下肢骨について

成人の上・下肢骨片が多数ある。これらのうち、同一部位で最大数を占めるのは、左の大腿骨体片の2個体分であるから、頭蓋片でみた4個体数に及ばない。これらの骨片は個体識別が難しいので、残存する主要骨片について単に部位別に記載する。特に示した場合以外、これらの骨片の年齢・性別は不明である。

(a) 上肢骨について（写真6の右半）

まず、左右1対の肩甲骨の破片がある。すなわち、右の肩甲骨外側角部の破片と、保存不良な右の肩甲棘の小片とである。ほかに、小さな右の肩甲棘片が1個ある。

上腕骨体下部の破片は1対ある。ほかに左右不詳の上腕骨体片が1個ある。

前腕骨については、右の尺骨体中央部の破片が1個認められるだけである。

(b) 下肢骨について（写真6の左半）

大腿骨体片は左が2本、右が1本ある。左の1本の骨体上部横断示数は66.7を示して、過広型に属する。この大腿骨体の中央横断示数は88.5を示して、ピラステルの形成は認められず、右の大腿骨体の同示数も85.2で、ピラステルの形成は見られない。このほかに、小さな大腿骨体片が数個と、右の大腿骨下端片が1個残っている。

脛骨体片は左が1個ある。この脛骨体は偏平ではない。

3．若干の考察

この古墳においては、玄室と羨道の両方から人骨が出土した。両者の関係を見てみると、玄室の性別不詳の成人と羨道の女性(b)および男性とは、右上顎第1大臼歯が重複するので明らかに別個体である。また、玄室の男性と羨道の男性は、大臼歯の大きさが相互に違うので、異個体である。玄室と羨道の性別不詳の成人については、羨道の個体に歯が無いので、両者が同一個体か異個体かは分からない。その結果、玄室と羨道の人骨を合わせて個体数を数えてみると、出土人骨の総個体数は、男性2体・女性2体・性別不詳1または2、小児1体、合計6または7体分となる。

発掘関係者によれば、羨道の人骨は後世に玄室から取り出して捨てられたものと考えられるという。玄室と羨道から発見された人骨がほぼ同時代に属するとすれば、人骨の個体数とその構成からみて、この古墳は家族墓であると推測される。

羨道から発見された成人骨はすべてが壮年期であった。その内訳は、男性1例が壮年期後半、女性2例が壮年期前半、性別不詳の1体が壮年期である。この年齢基準を玄室から出土した歯に当てはめると、咬耗度からみて成人男性の歯も性別不詳の成人の歯も、壮年期ということになる。成人骨がすべて壮年期に属するとすれば、このことから当時の平均寿命がかなり短かったことが窺い知れる。また、彼らは例外なく、現代人に比べて年齢の割に歯の咬耗が進んでいたが、これは恐らく現代よりも硬質の食物を摂取していたことによると思われる。なお、大臼歯の齲蝕が男性1例に認められた。

4．まとめ

寄山古墳の玄室・羨道から発見された人骨は、少なくとも男性２体・女性２体・性別不詳の成人１～２体・小児１体、計６または７個体分である。成人の年齢は全て壮年期に属し、平均寿命が短かったと推定される。年齢の割に歯の咬耗が進んでいた。出土人骨の構成を考えると、寄山古墳は家族墓であると思われる。

写真1． 渋道出土の1号頭蓋前面観。

写真2． 渋道出土の1号頭蓋左側面観。

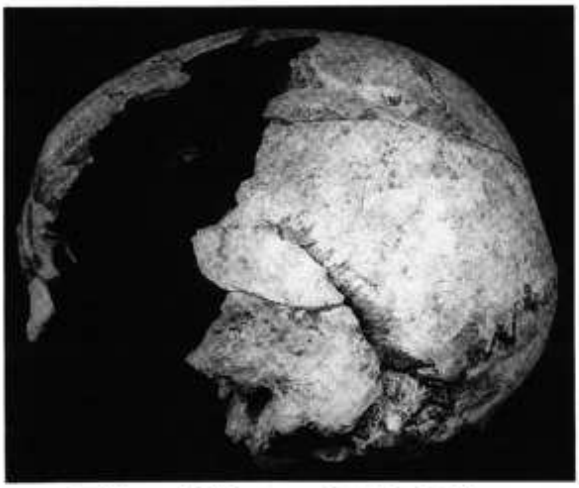


写真3． 渋道出土の2号頭蓋左側面観。

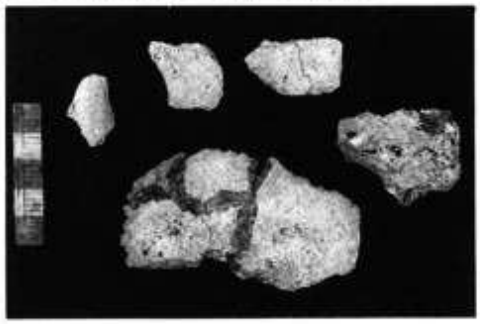


写真5． 渋道出土の4号頭蓋片。写真の中央下が後頭鱗片、右端が左の側頭骨錐体片。

写真4． 渋道出土の3号頭蓋右側面観と破片（写真右下の3個は顔面骨片）。

写真6． 渋道出土の上下肢骨片。写真の右半が上肢骨、左半が下肢骨の各破片。

中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の石材産地分析

藁科　哲男、東村　武信
（京都大学原子炉実験所）

はじめに

自然科学的な手法を用いて、石器石材の産地を客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探るという目的で、蛍光X線分析法により研究を行なっている。当初は手近に入手できるサヌカイトを中心に、分析方法と定量的な産地の判定法との確立を目標として研究したが、サヌカイトで一応の成果を得た後に、同じ方法を黒曜石にも拡張し、本格的に産地推定を行なっている[1,2,3]。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析を行なった試料は、長野県佐久市に位置する中条峯遺跡の縄文時代前期の住居址（花積下層式期）出土の24個の遺物、寄山遺跡群寄山遺跡の縄文時代中期中葉の住居址（勝坂式期）出土の24個および寄山遺跡群勝負沢遺跡の縄文時代中期後葉の住居址（加曽利Ｅ１式期）出土の22個で、これら合計70個について産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石、安山岩原石の分析

黒曜石、安山岩原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主にAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca／K、Ti／K、Mn／Zr、Fe／Zr、Rb／Zr、Sr／Zr、Y／Zr、Nb／Zrの比量を、サヌカイトでは、K／Ca、Ti／Ca、Mn／Sr、Fe／Sr、Rb／Sr、Y／Sr、Zr／Sr、Nb／Sr　をそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図１に示す。黒曜石原産地

のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると表1に示すように96個の原石群に分かれる。黒曜石の原産地は、北陸地方では、富山県の魚津、石川県の比那、福井県の三里山、安島の各原産地が調査されていて、比那、魚津産黒曜石が石器原材として使用されている。中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百メートルの範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かたれる。和田峠第一、第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまとまり組成は和田峠第五群に似る。鷹山、星糞峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数みられる。麦草峠群は大石川の上流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰、男女倉、麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笛塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏峠西の各地にあり、良質の石材は、畑宿、柏峠西で斑晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂糠崎、長浜、沢尻湾、恩馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の大窪沢の黒曜石は貝殻状剥離せず石器の原材料としては不適当ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため大窪沢群として遺物を比較した。

サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など合わせて31ヶ所の調査を終えている。図2にサヌカイトの原産地の地点を示す。サヌカイトおよびガラス質安山岩など元素組成で分類し39個の原石群を作り、その結果を表2に示した。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は、風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗いするだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。風化のため安山岩製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方、完全な非破壊で産地分析が行なえる黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca／K、Ti／Kの両軽元素比量を除いて産

地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行なった場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した遺物の結果を表3、4に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb／Zr の一変量だけを考えると、表2の試料番号37136番の遺物では Rb／Zr の値は1.091で、霧ヶ峰の〔平均値〕±〔標準偏差値〕は、1.076±0.047である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から0.3σ離れている。ところで霧ヶ峰原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.3σのずれより大きいものが27ヶある。すなわち、この遺物が、霧ヶ峰群の原石から作られていたと仮定しても、0.3σ以上離れる確率は27％であると言える。だから、霧ヶ峰群の平均値から0.3σしか離れていないときには、この遺物が霧ヶ峰群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を麦草峠群に比較すると、麦草峠群の平均値からの隔たりは約11σである。これを確率の言葉で表現すると、麦草峠産の原石を採ってきて分析したとき、平均値から11σ以上離れている確率は、千億分の一であると言える。このように、千億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、麦草峠産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は霧ヶ峰群に27％、麦草峠群に十億分の一％の確率でそれぞれ帰属される」。各遺物について、この判断を表1のすべの原石群について行ない、低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、霧ヶ峰産地だけとなり、霧ヶ峰産地の石材が使用されていると判定される。実際は Rb／Zr といった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca 元素と Rb 元素との間に相関があり、Ca の量を測れば Rb の量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca 量が一致すれば当然 Rb 量も一致するはずである。もし Rb 量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2検定である[4,5]。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する。表5に遺跡より出土した遺物の産地推定の結果を示す。原産地は確率の高い産地のものだけを選んで記した。原石群を作った原石試料は直径3㎝以上であるが、小さな遺物試料によって原石試料と同じ測定精度で元素含有量を求めるには、測定時間を長くしなければならない。しかし、多数の試料を処理するために、1個の遺物に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。また、検出された元素であっても、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1％に達しない確率を

示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に代えて、マハラノビスの距離D^2の値を記した。この遺物については、記入されたD^2の値が原石群の中で最も小さなD^2値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回分析を行なった試料は、長野県佐久市に位置する中条峯遺跡の縄文時代前期（花積下層式期）出土の24個の遺物の中で分析番号37137、37140、37141、37143、37146、37147、37148、37150、37151、37155番の10個は珪素の含有量が相対的に多くこれら遺物はフリント質の原石が使用されていると推測された。産地が同定された黒曜石遺物では５個に霧ヶ峰産、４個に麦草峠産および１個に和田峠産原石がそれぞれ使用されていることが明らかになった。また、安山岩製遺物では２個に八風山産、１個に荒船山産原石が使用されていると判定し、分析番号37181番の遺物は元素比組成から安山岩質と異なると推測した。寄山遺跡の縄文時代中期中葉（勝坂式期）出土の20個の黒曜石遺物の中で13個は霧ヶ峰産に、７個は和田峠産にそれぞれ同定され、安山岩製遺物では八風山産、荒船山産原石がそれぞれ１個使用され、分析番号37165、37166番の遺物は安山岩質と異なる。勝負沢遺跡の縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ１式期）出土の黒曜石製の20個には、16個が霧ヶ峰産で、４個が和田峠産と同定され、安山岩製遺物は八風山産及び不明がそれぞれ１個であった。これら遺跡における黒曜石製遺物を時代別に原産地毎の使用頻度を見ると、縄文時代前期には霧ヶ峰産が50％、麦草峠産が40％、和田峠産が10％で、縄文時代中期中葉では霧ヶ峰産が65％で、和田峠産が35％になり、縄文時代中期後葉では霧ヶ峰産が80％で和田峠産20％になった。各時代を通して使用された原石は霧ヶ峰産、和田峠産黒曜石で、時代が進むと相対的に霧ヶ峰産が多くなる。また、麦草峠産は縄文時代前期のみで他の時代では確認できなかった。時代によって伝播する黒曜石原石が産地毎に異なることが定量的に明らかになり原石産地と消費遺跡の関係を考究する貴重な結果が得られた。

参考文献

1）　藁科哲男・東村武信（1975）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）。考古学と自然科学、８：61－69

2）　藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977）、（1978）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）。（IV）。考古学と自然科学、10、11：53－81：33－47

3）　藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16：59－89

4）　東村武信（1976）、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、９：77－90

5）　東村武信（1980）、考古学と物理化学。学生社

表１－１　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値（$\bar{X}$）と標準偏差値（σ）

原産地	原石群名	分析個数	Ca/K $\bar{X}\pm\sigma$	Ti/K $\bar{X}\pm\sigma$	Mn/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Fe/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Rb/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Sr/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Y/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Nb/Zr $\bar{X}\pm\sigma$	Al/K $\bar{X}\pm\sigma$	Si/K $\bar{X}\pm\sigma$
北海道	名寄第一	114	0.476±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.811±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.431±0.030
	〃 第二	12	0.315±0.011	0.106−0.003	0.033±0.005	1.796±0.070	0.692±0.043	0.284±0.017	0.293±0.018	0.039±0.020	0.029±0.002	0.401±0.030
	白滝第一	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.380±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.030
	幌加沢	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.704±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369−0.007
	白滝第二	27	0.138±0.004	0.031±0.002	0.102±0.015	3.049±0.141	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.368±0.006
	置文台第一	30	0.119±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.684±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.070±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008
	〃 第二	107	0.317±0.013	0.099±0.003	0.067±0.009	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.412±0.009
	〃 第三	17	0.314±0.012	0.098±0.005	0.066−0.014	2.765−0.733	0.814±0.068	0.815±0.042	0.200±0.039	0.038±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011
	桜区第一	51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.905±0.037	0.456±0.023	0.235±0.021	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
	〃 第二	25	0.306±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.730±0.099	0.805±0.042	0.808±0.037	0.197±0.036	0.027±0.016	0.027±0.003	0.371±0.010
	隆川第一	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.615±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.378±0.023
	〃 第二	15	0.510±0.015	0.088±0.005	0.068±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031
	紫戸	63	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.417±0.010
	十勝三股	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
	美蓉第一	41	0.699±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.151	0.892±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015
	〃 第二	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.782±0.040	0.761±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
	赤井川	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.027	0.549−0.024	0.056±0.023	0.027±0.002	0.371±0.000
	豊泉	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.045	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.023±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
青森県	折腰内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.006	1.575±0.066	1.241±0.046	0.218±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.345±0.010
	赤崎	27	0.346±0.022	0.132−0.007	0.231±0.019	2.258±0.085	0.895±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.036±0.003	0.199±0.013
	深浦	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013−0.002	0.497−0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
	戸門第一	26	0.259±0.024	0.089±0.003	0.068±0.012	2.358−0.257	1.168±0.085	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015
	〃 第二	28	0.086±0.006	0.104±0.004	0.018±0.002	0.681±0.021	0.121±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.023±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
	鶴ケ坂	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.233±0.022	2.361±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037−0.002	0.496±0.018
秋田県	男鹿	63	0.293±0.007	0.087±0.004	0.221±0.015	1.637±0.072	1.512±0.082	0.920±0.054	0.287±0.042	0.125±0.031	0.027±0.002	0.362±0.006
栃木県	宇都	25	0.436±0.033	0.187±0.012	0.032±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.086	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594−0.034
	新潟	22	0.415±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421−0.051	0.228−0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055
	高原	30	0.246±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.214±0.019	0.420±0.025	0.229±0.016	0.044±0.012	0.041±0.003	0.586±0.039
石川県	湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.158±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.009
	塩屋	37	4.828±0.295	1.630±0.184	0.172±0.017	11.362±1.130	0.168±0.018	1.298±0.063	0.153±0.016	0.037±0.013	0.077±0.002	0.720±0.032
山形県	月山	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.139−0.033	0.033±0.002	0.443±0.014
新潟県	佐渡第一	34	0.238±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	〃 第二	12	0.263−0.032	0.097−0.018	0.020±0.006	1.591±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
	板山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178−0.170	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.350±0.009
	天白川	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.688±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.130±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
栃木県	高原山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.026	0.502±0.028	0.190±0.047	0.023±0.014	0.036±0.002	3.516±0.012
東京都	神津島第一	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.501±0.012
	〃 第二	23	0.317±0.016	0.120±0.006	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.203±0.034	0.107±0.026	0.032±0.002	0.471±0.009
神奈川県	箱根・笛塚	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.283±0.623	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.526±0.046
	〃・柳沢	41	2.056±0.061	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.041	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
	鍵沢峠	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.036±0.007	2.139±0.097	0.073−0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
静岡県	上多賀	31	1.325±0.078	0.294±0.018	0.047±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.561±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.039±0.004	0.956±0.018
	蛇峠山	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.963±0.020
富山県	魚津	17	0.378±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.664±0.095	0.906±0.057	0.641±0.046	0.194±0.034	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
石川県	出羽	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.490−0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172−0.078	0.052±0.018	0.037±0.002	0.396±0.017
福井県	冬・鼠	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.061	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
	三里山	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.061	0.608±0.031	0.798−0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.026±0.002	0.361±0.008

表１－２　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値（$\overline{X}$）と標準偏差値（σ）

原産地	原石群名	分析個数	Ca/K $\overline{X}\pm\sigma$	Ti/K $\overline{X}\pm\sigma$	Mn/Fe $\overline{X}\pm\sigma$	Fe/Zr $\overline{X}\pm\sigma$	Rb/Zr $\overline{X}\pm\sigma$	Sr/Zr $\overline{X}\pm\sigma$	Y/Zr $\overline{X}\pm\sigma$	Nb/Zr $\overline{X}\pm\sigma$	Al/K $\overline{X}\pm\sigma$	Si/K $\overline{X}\pm\sigma$
北海道	大　雄　沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.166±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.450±0.012
長野県	霧ヶ峰	171	0.138±0.009	0.066±0.003	0.104±0.011	1.339±0.057	1.076±0.047	0.360±0.023	0.275±0.030	0.117±0.003	0.026±0.002	0.301±0.013
	和田峠第一	143	0.167±0.026	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.653±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016
	〃　第二	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.175	0.056±0.012	0.547±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
	〃　第三	62	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.570±0.182	1.673±0.140	0.274±0.104	0.274±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017
	〃　第四	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.039	0.306±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.321±0.019
	〃　第五	47	0.176±0.019	0.073±0.010	0.073±0.011	1.382±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
	〃　第六	53	0.150±0.031	0.053±0.005	0.095±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.010±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
	鷹山・和田峠	53	0.138±0.094	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.380±0.010
	男　女　倉	110	0.223±0.026	0.102±0.010	0.039±0.008	1.169±0.081	0.781±0.109	0.480±0.052	0.128±0.024	0.053±0.017	0.028±0.002	0.354±0.008
	麦　草　峠	68	0.263±0.020	0.138±0.013	0.049±0.008	1.493±0.069	0.532±0.048	0.764±0.031	0.301±0.018	0.056±0.016	0.029±0.002	0.481±0.017
鳥根県	加　茂	20	0.154±0.008	0.092±0.009	0.018±0.003	0.942±0.029	0.289±0.016	0.066±0.003	0.047±0.010	0.144±0.019	0.022±0.001	0.269±0.017
	津　井	30	0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.919±0.033	0.305±0.010	0.013±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.022±0.001	0.258±0.006
	久　見	31	0.142±0.004	0.061±0.002	0.020±0.003	0.981±0.042	0.398±0.013	0.001±0.002	0.030±0.015	0.229±0.010	0.023±0.002	0.317±0.006
大分県	姫　島　産	41	0.236±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.806	1.829±0.320	1.572±0.180	0.325±0.086	0.022±0.089	0.035±0.002	0.418±0.011
	岡敷第一	35	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.468	1.947±0.194	1.660±0.173	0.355±0.037	0.069±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009
	＊〃第二	32	0.634±0.047	0.140±0.013	0.294±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.362±0.189	0.144±0.031	0.240±0.041	0.038±0.002	0.431±0.011
	＊〃第三	10	1.013±0.140	0.211±0.026	0.126±0.036	3.491±0.231	0.305±0.067	4.902±0.174	0.109±0.021	0.137±0.028	0.040±0.004	0.471±0.047
	＊オイ岬	29	1.074±0.110	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.288±0.048	4.910±0.197	0.101±0.022	0.133±0.055	0.040±0.003	0.469±0.014
	＊幡　地	25	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.020	4.398±0.425	0.605±0.098	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	0.446±0.013
	椒　海	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.031	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.029	0.038±0.002	0.371±0.009
佐賀県	腰　岳	26	0.214±0.015	0.089±0.001	0.076±0.012	2.694±0.110	1.686±0.065	0.441±0.030	0.293±0.028	0.257±0.029	0.027±0.002	0.356±0.008
長崎県	久　草　ノ　辻	37	0.165−0.012	0.066−0.002	0.034±0.003	1.197±0.030	0.403±0.012	0.065±0.004	0.134±0.012	0.336±0.008	0.024±0.002	0.294±0.008
	道　ケ　迫	28	0.161±0.011	0.064±0.002	0.034±0.003	1.209±0.032	0.405±0.008	0.065±0.004	0.119−0.016	0.322±0.010	0.025±0.002	0.294±0.006
	角　川	29	0.138±0.010	0.037±0.002	0.056±0.007	1.771±0.083	1.890±0.076	0.012±0.012	0.303±0.038	0.652±0.006	0.026±0.002	0.358±0.010
	松浦第一	22	0.218−0.010	0.029−0.002	0.085±0.013	2.692±0.125	1.674±0.064	0.639±0.027	0.284±0.047	0.266±0.028	0.027±0.002	0.359±0.012
	〃　第二	17	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	2.364±0.389	1.607±0.245	0.308±0.074	0.277±0.056	0.230±0.050	0.026±0.002	0.361±0.030
	〃　第三	16	0.246±0.019	0.060±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	0.878±0.499	0.421±0.061	0.130±0.030	0.145±0.023	0.026±0.002	0.358±0.013
	〃　第四	22	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906−0.146	0.763±0.074	0.684±0.081	0.115±0.023	0.117±0.038	0.028±0.001	0.367±0.007
	淀　瀬	44	0.329−0.014	0.080±0.005	0.042±0.007	1.804±0.065	0.539±0.022	0.504±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.025±0.002	0.374±0.009
	中江浜	25	0.248−0.017	0.058±0.008	0.057±0.007	1.884±0.085	0.832±0.092	0.481±0.026	0.112±0.021	0.152−0.037	0.026±0.002	0.263−0.007
	〃　第二	17	0.327±0.030	0.080±0.017	0.045±0.007	1.833±0.074	0.653±0.088	0.488±0.030	0.099±0.050	0.093±0.023	0.027±0.002	0.358±0.012
	白岳第一	40	0.192±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.699±0.215	1.780±0.164	0.413±0.065	0.212±0.056	0.259±0.050	0.027±0.002	0.358±0.008
	〃　第二	22	0.414−0.012	0.073±0.006	0.102±0.045	2.869±0.204	1.221±0.094	1.551±0.124	0.230±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.383±0.010
	〃　第三	16	0.257±0.035	0.062±0.009	0.054±0.009	1.939±0.131	0.812±0.113	0.436−0.052	0.101±0.029	0.145±0.037	0.028±0.002	0.364±0.011
	大　崎	25	0.161±0.013	0.051±0.002	0.037±0.006	1.718±0.056	0.948±0.030	0.179±0.038	0.191±0.026	0.137±0.029	0.024±0.001	0.340±0.006
熊本県	小　国	30	0.317−0.023	0.127±0.005	0.063−0.007	1.441±0.079	0.611±0.032	0.703±0.014	0.173±0.233	0.097±0.017	0.023−0.002	0.320±0.007
	南　関	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326−0.012	0.278±0.015	0.060±0.012	0.031±0.009	0.021±0.001	0.243±0.008
	麗	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	紀　ケ　丸	21	0.361±0.012	0.211±0.008	0.032−0.003	0.769±0.036	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	冂　匠	40	0.197±0.020	0.104±0.008	0.025±0.006	1.405±0.073	1.048±0.067	0.348±0.026	0.163−0.023	0.033±0.017	0.019±0.001	0.273±0.007
	姶ノ木浦第											
	第　一　群	47	0.207±0.015	0.091±0.006	0.070±0.009	1.321±0.073	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.029±0.003	0.314±0.011
	第　二　群	33	0.361±0.013	0.094±0.006	0.066±0.018	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.265±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
鹿児島県	池水(U)(E)	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.300±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.273−0.006
	石　女　木	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.403±0.021	0.308±0.015	0.026±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	上　牟　田	41	1.629±0.056	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.235	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	平　木　場	34	1.944±0.054	0.912±0.029	0.062±0.005	3.875±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021−0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	冠　ケ　水	28	0.514±0.032	0.167±0.008	0.063±0.009	1.524±0.079	0.619±0.038	0.719±0.054	0.115±0.019	0.082±0.016	0.037±0.003	0.523±0.009
	長　谷	30	0.533±0.032	0.137±0.008	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
	JG－1*	127	0.735±0.010	0.302±0.005	0.076±0.011	3.750±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.362±0.004

＊：ガラス質安山岩　a) Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974) 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol. 8, 175-192.

図１　黒曜石原産地

表2　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値($\overline{X}$)と標準偏差値(σ)

産地	原石群名	分析例数	K/Ca $\overline{X}\pm\sigma$	Ti/Ca $\overline{X}\pm\sigma$	Mn/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Fe/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Rb/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Y/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Zr/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Nb/Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Al/Ca $\overline{X}\pm\sigma$	Si/Ca $\overline{X}\pm\sigma$
北海道	旭山	80	0.264±0.01	0.286±0.030	0.209±0.065	3.064±0.140	0.174±0.011	0.094±0.009	0.903±0.259	0.015±0.012	0.095±0.002	0.41−0.005
群馬県	荒船山	43	0.254±0.070	0.360±0.022	0.129±0.014	9.286±1.153	0.085−0.004	0.085±0.024	0.828±0.082	0.009±0.008	0.013±0.021	0.125±0.032
長野県	八風山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.985±0.505	0.184±0.009	0.100±0.009	0.381±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.368±0.014
神奈川県	大石沢	40	0.092±0.065	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.073±0.006	0.112±0.008	0.485±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.412±0.001
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.237±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031−0.013	0.501±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.460±0.025
奈良県	二上山	51	0.288±0.010	0.215−0.006	0.071±0.006	4.628±0.270	0.207±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.015±0.001	0.144±0.005
大阪府	和泉	26	0.484±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.008±0.010	0.013±0.003	0.294±0.009
兵庫県	芝屋愚一	29	0.615±0.021	0.216±0.011	0.036±0.006	3.778±0.158	0.363±0.019	0.059±0.013	0.838±0.039	0.043±0.013	0.028±0.002	0.267±0.010
〃 第二		24	0.630±0.018	0.253±0.008	0.056±0.006	3.542±0.200	0.332±0.018	0.045±0.016	1.068±0.027	0.002±0.014	0.026±0.002	0.277±0.009
〃 第三		22	0.330±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.163	0.180±0.022	0.061±0.013	0.574±0.021	0.012±0.007	0.019±0.001	0.259±0.008
香川県	五色台	29	0.430±0.030	0.214±0.006	0.057±0.004	3.642±0.300	0.298−0.023	0.040±0.022	0.951±0.037	0.046±0.012	0.023±0.001	0.194±0.012
	鷲尾寺	18	0.435±0.011	0.244±0.004	0.057±0.003	3.782±0.136	0.286−0.018	0.045±0.015	0.969±0.026	0.008±0.008	0.023±0.002	0.196±0.007
	白峰	38	0.526±0.015	0.255±0.005	0.057±0.004	3.309±0.101	0.325±0.015	0.040±0.016	1.054−0.037	0.047±0.010	0.026±0.002	0.226±0.007
	法印谷	25	0.396±0.009	0.235±0.003	0.076±0.006	4.892±0.143	0.270±0.016	0.057±0.013	1.145±0.024	0.041±0.010	0.022±0.001	0.172±0.001
	金山	23	0.486±0.011	0.215±0.005	0.083±0.004	4.011±0.119	0.306±0.015	0.059±0.015	1.170±0.029	0.032±0.012	0.026±0.003	0.203±0.005
	〃 西	19	0.401±0.009	0.209±0.004	0.096±0.005	5.965±0.167	0.277±0.015	0.064±0.011	1.038±0.024	0.033±0.011	0.022±0.003	0.176±0.004
	★五色台	63	0.369±0.048	0.120±0.006	0.023±0.005	2.254±0.114	0.404±0.026	0.006±0.011	0.705±0.044	0.043±0.011	0.018±0.003	0.459±0.028
島根県	鳥ノ山	23	0.188±0.007	0.129±0.006	0.017±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
広島県	道面原	60	0.051±0.021	0.485−0.014	0.046−0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.039±0.009	0.892±0.017	0.125±0.010	0.025±0.002	0.321±0.008
	荻山東	29	0.323±0.019	0.363−0.031	0.019±0.002	1.997−0.060	0.059−0.009	0.003±0.006	0.399−0.043	0.035±0.009	0.021±0.001	0.278±0.006
	銀山	35	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.128±0.080	0.245−0.011	0.033−0.008	0.324±0.014	0.248−0.073	0.038±0.003	0.301±0.021
佐賀県	多久第一	35	0.454±0.050	0.385±0.010	0.060±0.008	5.075±0.244	0.507±0.036	0.060±0.017	0.853±0.036	0.237±0.049	0.030±0.002	0.307±0.019
	〃 第二	23	0.848±0.062	0.381±0.016	0.070±0.009	5.728±0.310	0.535±0.052	0.061±0.018	0.854±0.035	0.254±0.035	0.030±0.003	0.318±0.022
	〃 第三	8	1.108±0.250	0.335±0.029	0.066±0.009	4.751±0.981	0.702±0.091	0.082±0.024	0.817±0.030	0.260±0.025	0.036−0.006	0.401±0.063
	名尾山	62	0.718±0.028	0.304±0.020	0.074±0.007	5.790±0.241	0.539±0.036	0.068±0.009	0.893±0.033	0.271±0.020	0.025±0.002	0.263±0.020
	守山・岡本	30	0.633±0.045	0.296±0.011	0.019±0.005	6.119±0.295	0.429±0.030	0.071±0.016	0.638±0.033	0.192±0.013	0.023±0.002	0.257±0.014
	西有田	17	0.453±0.019	0.331±0.005	0.098±0.070	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.868±0.023	0.206±0.010	0.023±0.002	0.227±0.016
長崎県	大串	28	1.111±0.218	0.160±0.009	0.035±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.002±0.022	0.050±0.006	0.407±0.030
	亀谷	19	1.072−0.042	0.142±0.008	0.047±0.006	1.778±0.152	0.233±0.014	0.015±0.023	0.497±0.018	0.005±0.025	0.049±0.001	0.527±0.018
	竹王第一	30	0.794±0.064	0.235±0.024	0.072±0.009	4.936±0.251	0.372±0.132	0.223±0.026	0.720±0.013	0.303−0.041	0.036±0.001	0.354±0.025
	〃 第二	13	0.689±0.044	0.216±0.010	0.102±0.015	9.380±0.541	1.154−0.102	0.029±0.034	0.976±0.065	0.479±0.039	0.023±0.002	0.298±0.015
	川棚第一	59	0.589±0.022	0.294±0.008	0.072−0.006	4.539±0.137	0.211±0.016	0.072−0.015	0.823±0.016	0.041±0.010	0.022±0.002	0.501±0.009
	〃 第二	9	0.389±0.042	0.245±0.022	0.075±0.005	5.373±0.332	0.393±0.032	0.068±0.015	0.721±0.041	0.045±0.011	0.018−0.002	0.157±0.013
	橋井第一	15	0.639±0.053	0.317±0.006	0.098±0.009	8.284±0.312	1.242±0.050	0.352±0.032	1.021±0.032	0.503±0.033	0.022±0.002	0.230±0.007
	〃 第二	25	0.539±0.065	0.305±0.007	0.090±0.008	7.729±0.227	0.954±0.038	0.274±0.027	0.871±0.041	0.407±0.019	0.020±0.001	0.196±0.006
	崎刈城第一	71	0.388±0.029	0.242±0.019	0.067±0.005	4.371±0.238	0.350±0.019	0.055±0.009	0.450±0.020	0.002±0.008	0.017±0.001	0.181±0.012
	〃 第二	14	0.688±0.125	0.300±0.046	0.081±0.013	6.626±0.884	0.316±0.053	0.071±0.016	0.860±0.097	0.098±0.023	0.024±0.004	0.298±0.030
熊本県	阿蘇第一	15	2.096±0.258	0.646±0.052	0.064±0.011	2.605±0.329	0.481±0.068	0.106±0.026	1.647−0.197	0.063±0.022	0.057±0.010	0.957±0.099
	〃 第二	14	0.993±0.198	0.564±0.070	0.061±0.008	3.037±0.461	0.299−0.066	0.064±0.013	1.043±0.152	0.038±0.013	0.022±0.005	0.203±0.041
	南亀	42	0.678±0.057	0.456±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072−0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
JG − 1*		56	1.327±0.027	0.266±0.006	0.038−0.006	2.317−0.074	0.756±0.015	0.163−0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.036−0.003	0.48±0.011

★：ガラス質安山岩　a) Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974).1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG 1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol. 8, 175-192.

図2　サヌカイトの原産地

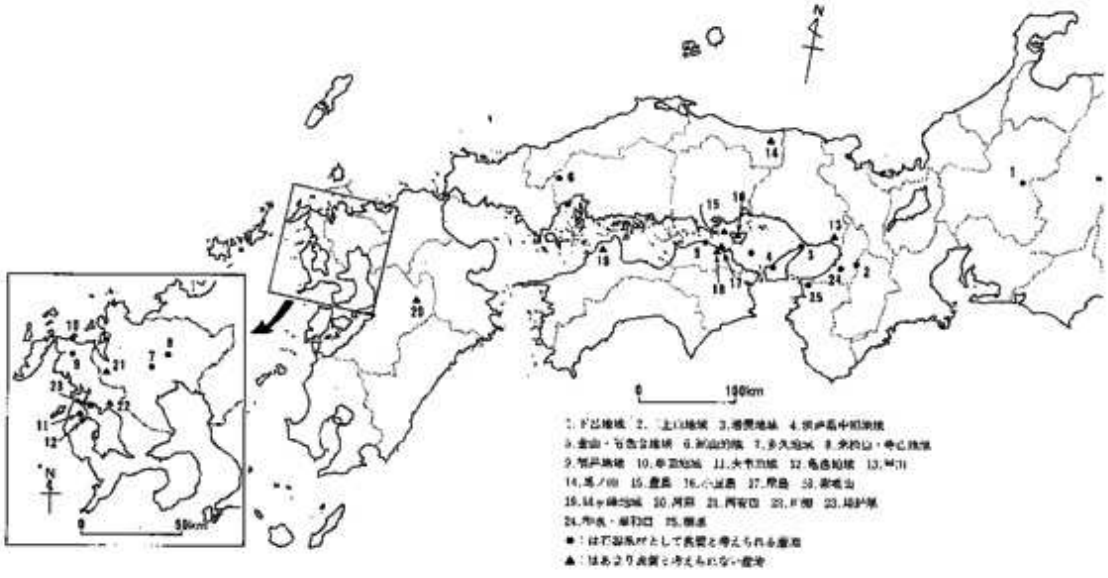


表3－1　中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の黒曜石製遺物分析結果

試料番号	元素比									
	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
37136	.132	.073	.107	1.337	1.091	.409	.318	.108	.020	.292
37137	.395	.455	.868	3.223	.123	8.910	.527	.716	.000	24.616
37138	.138	.066	.129	1.372	1.113	.364	.260	.102	.019	.291
37139	.292	.151	.050	1.342	.455	.763	.118	.035	.020	.321
37140	.315	.426	.352	2.999	.414	4.323	.345	.000	.000	8.364
37141	.228	.500	.447	2.478	.282	4.685	.508	.000	.000	12.050
37142	.158	.068	.098	1.338	.984	.313	.234	.091	.017	.280
37143	.214	.487	.396	6.027	.387	12.291	.636	.000	.000	21.741
37145	.148	.070	.112	1.275	1.099	.355	.307	.119	.000	.244
37146	.669	.399	.255	2.371	.444	5.753	.000	.701	.000	15.345
37147	.260	.402	.105	1.044	.306	4.992	.160	.000	.000	14.298
37148	.013	.509	.258	2.055	.228	4.034	.186	.000	.000	3.995
37149	.144	.041	.119	1.236	1.990	.056	.429	.096	.019	.285
37150	.326	.345	.333	4.326	1.016	11.392	.000	.000	.014	13.517
37151	.194	.320	.254	3.850	.524	4.989	.511	.000	.000	15.330
37152	.138	.065	.111	1.356	1.055	.346	.269	.075	.018	.279
37153	.253	.154	.048	1.588	.460	.692	.098	.038	.021	.323
37154	.276	.140	.047	1.357	.466	.771	.118	.045	.023	.323
37155	.262	.180	.288	4.604	.536	12.357	.000	.550	.000	11.740
37156	.349	.146	.044	1.259	.447	.980	.152	.050	.019	.318
37157	.129	.069	.091	1.367	1.141	.403	.289	.073	.016	.299
37158	.143	.067	.096	1.378	1.090	.393	.297	.068	.020	.295
37159	.140	.071	.102	1.281	1.050	.380	.239	.081	.016	.278
37170	.138	.071	.100	1.267	1.060	.389	.339	.124	.021	.267
37171	.099	.039	.107	1.295	1.040	.316	.228	.056	.013	.182
37172	.184	.084	.063	1.161	.770	.390	.129	.000	.016	.220
37173	.142	.068	.104	1.436	1.162	.407	.384	.084	.018	.277
37174	.129	.071	.106	1.290	1.038	.369	.280	.091	.021	.283
37175	.128	.064	.122	1.513	1.079	.378	.278	.027	.019	.280
37176	.148	.045	.111	1.417	1.838	.066	.342	.091	.017	.282
37177	.145	.069	.116	1.390	1.038	.356	.277	.043	.019	.288
37178	.139	.065	.107	1.300	1.065	.373	.253	.050	.020	.288
37179	.159	.048	.121	1.339	1.871	.073	.375	.085	.021	.289
37180	.131	.064	.103	1.323	1.069	.362	.269	.068	.020	.281
37181	.130	.069	.099	1.313	1.098	.376	.294	.099	.016	.270
37182	.149	.045	.139	1.335	1.976	.070	.464	.126	.018	.276
37183	.138	.072	.096	1.271	1.024	.341	.234	.086	.021	.277
37184	.155	.067	.097	1.404	1.110	.373	.245	.082	.019	.288
37186	.133	.071	.115	1.455	1.095	.359	.303	.141	.018	.288
37187	.155	.074	.107	1.281	1.035	.319	.279	.089	.020	.272
37188	.132	.071	.095	1.329	1.062	.376	.316	.040	.019	.272
37189	.133	.067	.134	1.410	1.104	.385	.314	.094	.021	.291
37190	.127	.041	.133	1.213	1.963	.048	.421	.064	.018	.271
37191	.162	.071	.115	1.414	1.124	.383	.275	.062	.020	.281
37192	.148	.070	.097	1.365	1.116	.342	.285	.106	.017	.271
37193	.151	.046	.127	1.251	1.848	.076	.393	.118	.017	.283
37194	.178	.072	.077	1.269	1.115	.274	.194	.044	.018	.271
37195	.139	.066	.112	1.328	1.093	.348	.269	.081	.019	.288
37196	.130	.068	.121	1.398	1.065	.357	.300	.030	.019	.292
37197	.133	.067	.139	1.649	1.145	.364	.215	.085	.020	.287

表3－2　中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の黒曜石製遺物分析結果

試料番号	元素比									
	Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
37198	.156	.074	.103	1.403	1.106	.363	.280	.076	.016	.277
37199	.131	.068	.124	1.339	1.135	.370	.322	.097	.020	.294
37200	.183	.070	.062	1.319	1.112	.243	.180	.090	.018	.268
37211	.160	.049	.121	1.362	2.007	.070	.446	.149	.019	.281
37212	.150	.076	.079	1.215	1.086	.376	.324	.086	.017	.275
37213	.136	.066	.108	1.397	1.077	.406	.276	.061	.020	.292
37214	.086	.029	.084	1.234	1.837	.082	.344	.086	.011	.149
37215	.133	.064	.120	1.480	1.061	.369	.293	.061	.021	.310
37216	.121	.032	.133	1.353	2.541	.028	.459	.152	.021	.269
37217	.131	.066	.107	1.441	1.143	.394	.314	.068	.019	.293

表4　中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の安山岩製遺物分析結果

試料番号	元素比									
	K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
37262	.322	.360	.092	4.359	.113	.113	.602	.010	.013	.151
37263	.176	.455	.192	11.335	.062	.089	.447	.018	.009	.106
37264	.319	.354	.094	4.732	.112	.108	.617	.000	.015	.151
37265	.933	.810	.069	6.483	.403	.105	1.129	.064	.031	.424
37266	3.257	4.037	.085	16.239	.618	.179	2.162	.054	.148	1.921
37267	.124	.291	.120	10.261	.060	.068	.399	.014	.008	.074
37268	.250	.340	.109	5.580	.099	.113	.553	.000	.012	.118
37280	.286	.349	.087	4.942	.109	.102	.578	.014	.014	.147
37281	28.022	1.705	.058	9.690	4.347	1.920	5.780	.537	.414	9.555
37282	.741	.868	.030	4.934	.175	.084	.758	.029	.027	.417

表5－1　中条塚遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原材産地推定結果（長野県佐久市）

分析番号	試料番号	遺物出土区	時代（伴出土器）	原石産地（確率）	判定	遺物品名（備考）
37136	1	SNM.1A-H1住 No.254	縄文時代前期（花積下層式）	霧ヶ峰（6％）	霧ヶ峰	剥片
37137	2	〃 〃 No.371	〃			フリント質？
37138	3	〃 〃 No.402	〃	霧ヶ峰（67％）	霧ヶ峰	剥片
37139	4	〃 〃 No.167	〃	麦草峠（75％）	麦草峠	〃
37140	5	〃 〃 No.268	〃			フリント質？
37141	6	〃 〃 No.455	〃			〃
37142	7	〃 〃 No.33	〃	霧ヶ峰（2％）	霧ヶ峰	剥片
37143	8	〃 〃 No.403	〃			フリント質？
37145	9	〃 〃 No.369	〃	霧ヶ峰（37％）	霧ヶ峰	剥片
37146	10	〃 〃 No.478	〃			フリント質？
37147	11	〃 〃 No.383	〃			〃
37148	12	〃 〃 No.340	〃			〃
37149	13	〃 〃 No.567	〃	和田峠第1群(31％)、和田・鷹山(33％)、和田峠第3群(16％)	和田峠	剥片
37150	14	〃 〃 No.590	〃			フリント質？
37151	15	〃 〃 No.127	〃			〃
37152	16	〃 〃 No.329	〃	霧ヶ峰（86％）	霧ヶ峰	剥片
37153	17	〃 〃 No.116	〃	麦草峠（0.01％）	麦草峠	〃
37154	18	〃 〃 No.594	〃	〃（84％）	〃	〃
37155	19	〃 〃 No.158	〃			フリント質？
37156	20	〃 〃 No.137	〃	麦草峠（D^2=86）	麦草峠	剥片
37262	21	〃 〃 No.345	〃	八風山（2％）	八風山	安山岩質剥片
37263	22	〃 〃 No.307	〃	荒船山（D^2=84）	荒船山	〃
37280	23	〃 〃 No.511	〃	八風山（4％）	八風山	〃
37281	24	〃 〃 No.109	〃			〃

表5－2　中条峯遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原材産地推定結果（長野県佐久市）

分析番号	試料番号	遺物出土区	時代（伴出土器）	原石産地（確率）	判定	遺物品名（備考）
37188	1 SYY. 4 B-H59住	No.1	縄文時代中期中葉（勝坂式）	霧ヶ峰（8％）	霧ヶ峰	剥片
37189	2 〃	〃 No.2	〃	〃 (22%)	〃	〃
37190	3 〃	〃 No.3	〃	和田峠第1群（2％）、和田峠第3群（1％）	和田峠	〃
37191	4 〃	〃 No.4	〃	霧ヶ峰（4％）	霧ヶ峰	〃
37192	5 〃	〃 No.5	〃	〃 (48%)	〃	〃
37193	6 〃	〃 No.6	〃	和田峠第1群（90%）、和田峠第3群（54%）	和田峠	〃
37194	7 〃	〃 No.7	〃	和田峠第5群（79%）	〃	〃
37195	8 〃	〃 No.8	〃	霧ヶ峰（86%）	霧ヶ峰	〃
37196	9 〃	〃 No.9	〃	〃 （4％）	〃	〃
37197	10 〃	〃 No.10	〃	〃 ($D^2=44$)	〃	〃
37198	11 〃	〃 No.11	〃	〃 （6％）	〃	〃
37199	12 〃	〃 No.12	〃	〃 (21%)	〃	〃
37200	13 〃	〃 No.13	〃	和田峠第5群（48%）	和田峠	〃
37211	14 〃	〃 No.14	〃	和田峠第1群（70%）、和田峠第3群（26%）	〃	〃
37212	15 〃	〃 No.15	〃	霧ヶ峰（1％）	霧ヶ峰	〃
37213	16 〃	〃 No.16	〃	〃 （8％）	〃	〃
37214	17 〃	〃 No.17	〃	和田峠第1群（0.01%）	和田峠	〃
37215	18 〃	〃 No.18	〃	霧ヶ峰（6％）	霧ヶ峰	〃
37216	19 〃	〃 No.19	〃	和田峠第1群（$D^2=64$）	和田峠	〃
37217	20 〃	〃 No.20	〃	霧ヶ峰（27%）	霧ヶ峰	〃
37267	21 〃	〃 N区 No.1	〃	荒船山（4％）	荒船山	安山岩質剥片
37264	22 〃	〃 No.2	〃	八風山（11%）	八風山	〃
37265	23 〃	〃 No.3	〃			〃
37266	24 〃	〃 No.4	〃			〃

表5－3　勝負沢遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原材産地推定結果（長野県佐久市）

分析番号	試料番号	遺物出土区	時代（伴出土器）	原石産地（確率）	判定	遺物品名（備考）
37157	1	SYS. 5 H11住-I No.1	縄文時代中期後葉（加曽利	霧ヶ峰（12%）	霧ヶ峰	剥片
37158	2	〃 〃 No.2	〃 E1式）	〃（52%）	〃	〃
37159	3	〃 〃 No.3	〃	〃（38%）	〃	〃
37170	4	〃 〃 No.4	〃	〃（17%）	〃	〃
37171	5	〃 〃 No.5	〃	〃（D^2=118）	〃	〃
37172	6	〃 5-H11住-II 1 No.1	〃	和田峠第5群（4%）	和田峠	〃
37173	7	〃 〃 No.2	〃	霧ヶ峰（1%）	霧ヶ峰	〃
37174	8	〃 〃 No.3	〃	〃（54%）	〃	〃
37175	9	〃 〃 No.4	〃	〃（0.1%）	〃	〃
37176	10	〃 〃 No.5	〃	和田峠第1群(15%)、和田峠第3群(6%)、和田峠第6群(7%)	和田峠	〃
37177	11	〃 5-H11住-III 1 No.1	〃	霧ヶ峰（11%）	霧ヶ峰	〃
37178	12	〃 〃 No.2	〃	〃（24%）	〃	〃
37179	13	〃 〃 No.3	〃	和田峠第1群（49%）、和田峠第3群（15%）	和田峠	〃
37180	14	〃 〃 No.4	〃	霧ヶ峰（72%）	霧ヶ峰	〃
37181	15	〃 〃 No.5	〃	〃（85%）	〃	〃
37182	16	〃 〃 No.1	〃	和田峠第1群（73%）、和田峠第3群（20%）	和田峠	〃
37183	17	〃 〃 No.2	〃	霧ヶ峰（51%）	霧ヶ峰	〃
37184	18	〃 〃 No.3	〃	〃（34%）	〃	〃
37186	19	〃 〃 No.4	〃	〃（10%）	〃	〃
37187	20	〃 〃 No.5	〃	〃（14%）	〃	〃
37282	21	〃 5-H11住-Pit2 No.1	〃			安山岩質剥片
37268	22	〃 〃 No.2	〃	八風山（4%）	八風山	〃

中条峯遺跡・寄山遺跡群出土土器の胎土分析

㈱第四紀 地質研究所　井上　巌

X線回折試験及び電子顕微鏡観察

1　実験条件

1－1　試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

電子顕微鏡観察に供する遺物試料は断面を観察できるように整形し、φ10m/m の試料台にシルバーペーストで固定し、イオンスパッタリング装置で定着した。

1－2　X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製 JDX－8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target：Cu，Filter：Ni，Voltage：40kV，Current：30mA，ステップ角度：0.02°
計数時間：0.5 SEC。

1－3　電子顕微鏡観察

土器胎土の組織、粘土鉱物及びガラス生成の度合についての観察は電子顕微鏡によって行った。

観察には日本電子製5300LV 型電子顕微鏡を用い、倍率は35、350、750、1500、5000の5段階で行い、写真を撮影した。

35～350倍は胎土の組織、750～5000倍は粘土鉱物及びガラスの生成状態を観察した。

2　実験結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト(Mullite)、クリスト

バーライト（Cristobalite）等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

2－1　組成分類

1）　Mo-Mi-Hb 三角ダイヤグラム

第1図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mo、Mi、IIb の3成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。

三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont）、雲母類（Mica）、角閃石（Hb）のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（%）で表示する。

モンモリロナイトは Mo/Mo+Mi+Hb・100でパーセントとして求め、同様に Mi,Hb も計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4は Mo,Mi,Hb の3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2）　Mo-Ch，Mi-Hb 菱形ダイヤグラム

第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。記載不能は次の条件でおこる、モンモリロナイト（Mont）、雲母類（Mica）、角閃石（Hb）、緑泥石（Ch）のうち、

a）3成分以上含まれない、b）Mont,Ch の2成分が含まれない、c）Mi,Hb の2成分が含まれないの3例がある。

菱形ダイヤグラムは Mont-Ch，Mica-Hb の組合せを表示するものである。

Mont-Ch,Mica-IIb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mo/Mo+Ch・100と計算し、Mi,Hb,Ch も各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある1～7の領域では Mo,Mi,Hb,Ch の4成分を含み、各辺は Mo,Mi,Hb,Ch のうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は第2図に示す通りである。

2－2　焼成ランク

焼成ランクの区分はX線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

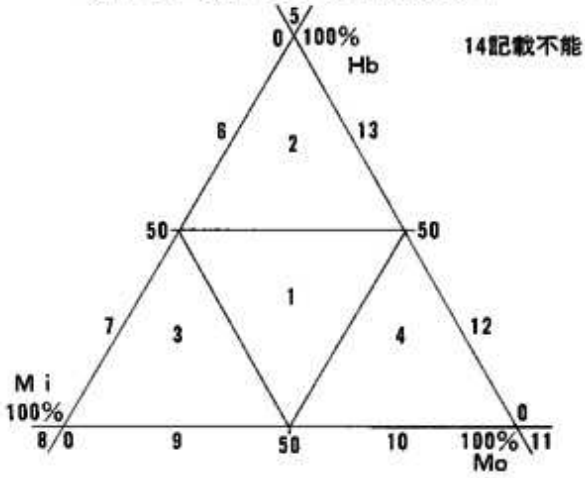
ムライト（Mullite）は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバーライト（Cristobalite）はムライトより低い温度、ガラスはクリストバーライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクをⅠ～Ⅴの5段階に区分した。

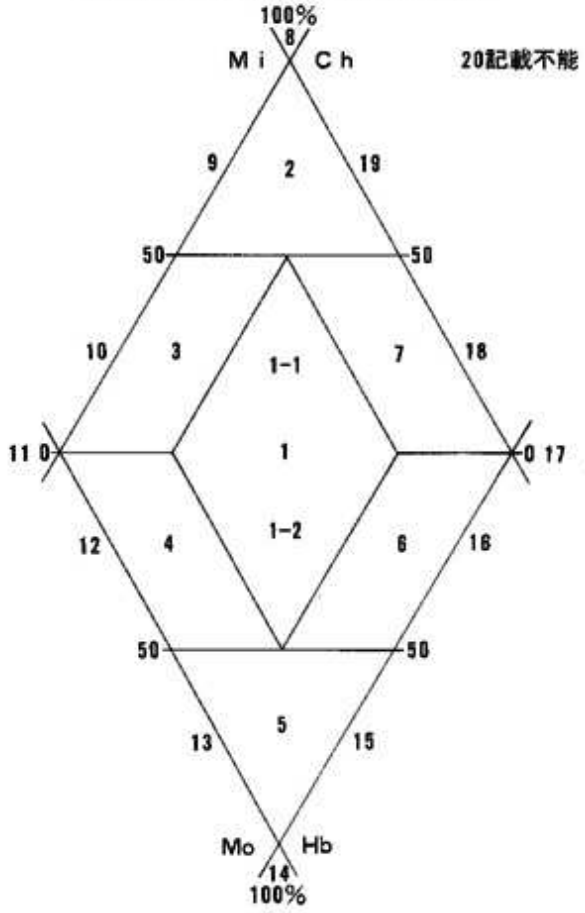
a）焼成ランクⅠ：ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発泡している。

b）焼成ランクⅡ：ムライトとクリストバーライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。

第1図　三角ダイヤグラム位置分類図



第2図　菱形ダイヤグラム位置分類図



c）焼成ランクⅢ：ガラスのなかにクリストバーライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。

d）焼成ランクⅣ：ガラスのみが生成し、原土（素地土）の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。

e）焼成ランクⅤ：原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のⅠ～Ⅴの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバーライトなどの組合せといくぶん異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第１表の右端の備考に理由を記した。

3　X線回折試験結果

3－1　タイプ分類

寄山遺跡出土土器は55個分析した。分析結果は第１表胎土性状表に示す通りである。胎土性状表には寄山遺跡の土器と時期的に同じ群馬県の三原田遺跡と房谷戸遺跡、埼玉県の北遺跡から出土した既分析の土器も記載してある。

第１表の中のタイプ分類は記載した４遺跡全体で行った。その結果は第２表タイプ分類一覧表に示す通りである。土器はA～Pの16タイプに分類された。最も多いタイプはⅠタイプで35個、次いで、Cタイプの31個、Fタイプの23個、Gタイプの22個、Pタイプの19個、Bタイプの12個となる。Cタイプ31個のうち16個は寄山遺跡の土器が占め、Ⅰタイプは寄山遺跡と北遺跡の土器、Fタイプは三原田、房谷戸、北遺跡の土器と寄山遺跡の土器、Gタイプは寄山と三原田遺跡の土器、Pタイプは寄山、三原田、北、房谷戸の土器で構成される。

第３表に示すように、寄山遺跡の土器はA～G、Ⅰ、N、Pの10タイプが検出された。寄山遺跡の土器はCタイプが最も多く、55個の分析に対して16個が該当し、全体の約30％を占めている。個体数の多いことから判断して、在地あるいは在地近傍の可能性が高いタイプである。

タイプ分類についての解説は寄山遺跡の土器についてのみ行う。

Aタイプ：Mont,Mica,Hb,Chの４成分を含む。個体数は１個。

Bタイプ：Mica,Hb,Chの３成分を含み、Mont １成分に欠ける。個体数は２個。

Cタイプ：Hb １成分を含み、Mont,Mica,Chの３成分に欠ける。
個体数は16個で、最も多く、在地あるいは在地近傍の可能性が高い。

Dタイプ：Mica,Hb,Chの３成分を含み、Mont １成分に欠ける。
個体数は２個。

Eタイプ：Mica,Hbの２成分を含み、Mont,Chの２成分に欠ける。
個体数は８個と多く、全体では11個しか検出されないうちの８個が該当し、個体数の多いことから推察して、在地あるいは在地近傍の可能性が高い。

Fタイプ：Mica, Hb, Ch の3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

個体数は3個。組成的にはDタイプと同じであるが、検出強度が異なる。

Gタイプ：Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Ch の2成分に欠ける。

個体数は8個と多い。組成的にはEタイプと同じであるが検出強度が異なる。

Iタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Ch の3成分に欠ける。

個体数は8個で、阿玉台式土器が該当する。

Nタイプ：Mont, Hb の2成分を含み、Mica, Ch の2成分に欠ける。

個体数は1個。

Pタイプ：Mont, Mica, Hb, Ch の4成分に欠ける。

主に、$nAl_2O_3 \cdot mSiO_2 \cdot lH_2O$（アルミナゲル）で構成される。

個体数は6個。

以上の結果から明らかな様に、C、Eタイプは寄山遺跡の土器で多く検出され、在地あるいは在地近傍の可能性が高い。Cタイプは焼町、勝坂、加曽利E、曽利、斜行沈線文、唐草文の土器で構成される。Eタイプは焼町を主体とし、勝坂、斜行沈線文、新巻類型が混在する。Iタイプは阿玉台が集中する。Pタイプは加曽利Eタイプが主体で、勝坂、唐草文、斜行沈線文が混在する。このように、胎土のタイプによって土器の形式が分かれるように見受けられる。

3－2　石英（Qt）－斜長石（Pl）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

この固有の比率を有する砂をどの程度粘土中に混入するかは各々の集団の有する固有の技術の一端と考えられる。

第3図 Qt－Pl 図～第8図 Qt－Pl 図を作成した。第3図は寄山遺跡の土器だけを記載した。寄山、北、三原田、房谷戸の各遺跡の土器のうち、第4図には阿玉台、第5図には勝坂、第6図には焼町－新巻類型、第7図と第8図には寄山、三原田、房谷戸の各遺跡の全土器を記載した。

「寄山遺跡の土器について」

第3図に示すように、土器はⅠ～Ⅶの7グループと“その他”に分類された。

Ⅰグループ：斜長石の強度が高く異質。Eタイプの胎土が主体で、焼町、新巻類型、斜行沈線文が共存する。

IIグループ：焼町の土器が集中し、Cタイプの胎土の加曽利Eタイプ、新巻類型、斜行沈線文の土器が共存する。このグループの土器の胎土はCタイプが主体である。

IIIグループ：Pタイプの胎土の加曽利Eタイプの土器が集中する。唐草文系、勝坂、曽利の土器が共存する。

IVグループ：勝坂の土器が集中し、唐草文系と焼町の土器が共存する。

Vグループ：阿玉台の土器と勝坂、斜行沈線文の土器が共存する。

VIグループ：Iタイプの胎土の阿玉台の土器が集中するグループで、勝坂の土器1個が混在する。

VIIグループ：勝坂の土器が主体で、阿玉台の土器が混在する。

"その他"：阿玉台の6、7、勝坂の19の各土器はどのグループにも属さず、異質である。

以上の結果から明らかな様に、各グループには特徴的な土器が集中し、明瞭に分かれる。"その他"の3個は各々が1つのグループを代表するもので、異質であり、搬入品の可能性がある。

斜行沈線文はIIグループに属し、焼町と新巻類型の土器と同じグループを形成し、胎土のタイプもCタイプと同じであり、親縁性が伺われる。

寄山－23はIVグループに属し、勝坂系、50はIIグループに属し、焼町、斜行沈線文系と考えられる。

加曽利Eタイプは胎土がCタイプとPタイプの2つに分れる。Cタイプの胎土の加曽利EはIIグループ、PタイプはIIIグループに分かれて分布する。IIグループの中には曽利の49、IIIグループの中には曽利の48が共存し、それぞれに関連する。唐草文系はIVグループに属し、加曽利Eと曽利とは明瞭に分かれる。

H79住出土の土器は14、15、20、32の4個である。14と20はIIIグループの勝坂グループに属し、15はVIIグループ、32はIIグループに属し、これらの土器は3タイプに分かれる。

20はIIIグループの勝坂、22はVグループの勝坂で、異なるグループに属し、22は胎土もAタイプで、組成的にも異質である。

「阿玉台式土器について」

寄山遺跡と群馬県三原田遺跡、房谷戸遺跡、埼玉県北遺跡から出土した阿玉台式土器を第4図に記載した。第4図に示すようにI～VIIの7グループと"その他"に分類された。

Iグループ：Fタイプの胎土の三原田と房谷戸の土器。

IIグループ：寄山、三原田、房谷戸の土器が混在。

IIIグループ：Iタイプの胎土の北の土器が集中し、IとOタイプの胎土の房谷戸とGタイプの胎土の寄山が混在。

IVグループ：Iタイプの胎土の北の土器が集中し、同じくIタイプの胎土の寄山と房谷戸の土器が混在。北の土器はG、H、Mの胎土の土器も混在する。

Vグループ：Ⅰタイプの胎土の北と寄山の土器が集中し、同じⅠタイプの胎土の房谷戸と三原田の土器が共存する。寄山と北のGタイプの胎土の土器も混在する。

VIグループ：北遺跡の土器。

VIIグループ：Ⅰタイプの胎土の北の土器が集中し、Ⅰタイプの胎土の三原田の土器が混在する。

“その他”：寄山－6、11はどのグループにも属さず、異質である。

以上の結果から明らかな様に、寄山遺跡の阿玉台式土器はVグループに集中し、房谷戸と三原田の土器と共存する。同様の傾向はⅠ～Ⅳの各グループでも認められ、土器の胎土のタイプもⅠタイプが多く、類似性が認められる。寄山、三原田、房谷戸の間にはなんらかの関連性が伺われるようである。

「勝坂式土器について」

勝坂式土器は第5図に記するように、Ⅰ～Vの5グループと“その他”に分類された。

Ⅰグループ：房谷戸と北の土器が共存し、寄山の土器が混在する。

Ⅱグループ：寄山の土器が集中し、三原田と房谷戸の土器が混在する。

Ⅲグループ：北の土器が集中し、房谷戸の土器が混在する。

Ⅳグループ：房谷戸の土器と寄山、北の土器が混在する。

Vグループ：北の土器が集中し、寄山の土器が混在する。

“その他”：寄山の15、19、22、房谷戸の17、北の42はどのグループにも属さず、異質。

以上の結果から明らかな様に、北遺跡の土器はⅢとVの2グループに集中し、寄山遺跡の土器はⅡグループに集中する。三原田遺跡の土器はⅡグループで寄山の土器と共存する。房谷戸の勝坂は全体に分散傾向にあり、多種にわたるようである。寄山遺跡の土器も一部は分散し、多種にわたる。

「焼町土器と新巻類型の土器について」

第6図に示すように、土器はⅠ～Ⅲと“その他”に分類された。

Ⅰグループ：寄山の焼町と新巻類型、房谷戸の新巻類型が共存する。

Ⅱグループ：寄山の焼町が集中するグループで、新巻類型もこのグループに集中する。房谷戸の焼町が1個混在する。

Ⅲグループ：三原田の焼町が集中する。寄山の焼町と房谷戸の焼町が共存する。

“その他”：寄山の37の焼町、房谷戸の6の焼町、22の新巻類型はどのグループにも属さず、異質である。

寄山遺跡の焼町と新巻類型はⅠグループに集中し、三原田の焼町はⅢグループに集中し、両者は明らかに異なるグループを形成する。三原田の焼町と共存して寄山の焼町と房谷戸の焼町があり、胎土もCタイプと共通性があり、これらは関連性が伺われる。

寄山の焼町と新巻類型は同じグループを形成し、関連性が高い。

「寄山遺跡と三原田、房谷戸遺跡の土器の関連性について」

第７図と第８図に示すように、３遺跡から出土した土器で分析したものを全部記載した。第７図は各遺跡の土器を器種毎に凡例を変えたもの、第８図は遺跡の凡例を統一して記載した。

第７図で明らかな様に、土器はⅠ～Ⅶの７グループと“その他”に分類された。石英の強度が1500以上の領域には阿玉台式土器が分布し、1500以下の領域には焼町、加曽利Ｅ、曽利、勝坂、斜行沈線文、新巻類型の土器が分布する。この傾向は３遺跡に共通するものである。

勝坂は全体に分散傾向が強く、1500以上の領域で阿玉台と共存する傾向があり、土器の中では異質である。

石英の強度が1500以下の領域では、斜長石の強度が750以上の領域に寄山遺跡の土器が集中し、Ⅰグループを形成し、750以下の領域には三原田遺跡の土器が集中し、Ⅱグループを形成する。寄山遺跡の土器と三原田遺跡の土器はⅠとⅡのそれぞれのグループで共有し、関連性が何われる。

房谷戸遺跡の土器は全体に分散傾向で、多種にわたることが予想される。房谷戸の土器はⅠグループで寄山の土器と共存する土器が多く、Ⅱグループには１個しか入らない。

Ⅰグループで代表されるように、寄山、三原田、房谷戸の土器は同じグループに属し、関連性が何われる。この傾向はⅢ～Ⅶでも見られる共通の現象である。

第１表　胎土性状表　No.１

試料No.	タイプ分類	焼成ランク	組成分類 No.KC	Hble	Ga	KC	粘土鉱物および高石鉱物 Monc	Mica	Ilm	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Cristo	Mullite	K.felt	Halloy	Kaol	Au	Py	ガラス	備考	形式
寄山-1	G	Ⅲ	7	20				727	152			1882	634	154								中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山 2	I	Ⅲ	8	20				349				2195	208			287						中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-3	I	Ⅲ	8	20				287				3865	110									中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山 4	I	Ⅲ	8	20				273				2849	229									中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-5	I	Ⅲ	8	20				534				1998	407				103					中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-6	I	Ⅲ	8	20				692				4719	357									中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-7	I	Ⅲ	8	20				517				2275	1308				69					中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-8	I	Ⅲ	8	20				704				2390	152			769						中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山 9	G	Ⅲ	7	20				378	113			2289	330									中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山 10	C	Ⅲ	5	20				316				2344	263	106								中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-11	G	Ⅲ	7	20				485	98			3142	735									中粒	深鉢－阿玉台	阿玉台
寄山-12	D	Ⅲ	6	10				131	137	209		1353	1103				70					中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山 13	P	Ⅲ	14	20								526	367				86					中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-14	C	Ⅲ	5	20					76			1088	443	140								中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-15	C	Ⅲ	5	20					109			3582	504									中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山 16	D	Ⅲ	6	18				136	180	193		3483	297									中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-17	B	Ⅲ	5	11					198	251	86	775	708									中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-18	C	Ⅲ	5	20					131			382	742	179			82					中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-19	G	Ⅲ	7	20				365	157			3815	1217									中粒	深鉢－勝坂(有孔鍔付土器)	勝坂
寄山-20	I	Ⅲ	8	20				101				1236	575	130								中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山-21	E	Ⅲ	6	20				126	371			2845	558									中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山 22	A	Ⅲ	1	1		234	190	116			152	1764	694									中粒	深鉢－勝坂	勝坂
寄山 23	B	Ⅲ	6	20				154	170			872	634	129								中粒	深鉢－勝坂？	勝坂
寄山-24	B	Ⅲ	6	20				196	198			1408	1408	219								中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山-25	G	Ⅲ	7	20				183	95			1298	1185									中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山 26	F	Ⅲ	7	9				119	80	129		1127	1125	146								中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山-27	C	Ⅲ	5	20					223			1928	538									中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山-28	C	Ⅲ	5	20					217			585	854									中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山-29	P	Ⅲ	14	20								545	1234	144								中粒	深鉢－斜行沈線文	斜行沈線文
寄山-30	F	Ⅲ	7	9				166	113	160	63	1377	1461									中粒	深鉢－新巻類型	新巻類型
寄山-31	G	Ⅲ	7	20				160	152			963	924									中粒	深鉢－新巻類型	新巻類型
寄山 32	H	Ⅲ	5	11					190	147		294	1036									中粒	深鉢－新巻類型	新巻類型
寄山-33	E	Ⅲ	6	20				126	197			354	1011									中粒	深鉢－新巻類型	新巻類型
寄山-34	E	Ⅲ	6	20				130	168			738	1062									中粒	深鉢－焼町土器	焼町
寄山-35	E	Ⅲ	6	20				118	121			740	663									中粒	深鉢－焼町土器	焼町
寄山 36	E	Ⅲ	6	20				113	234			371	1117	208								中粒	深鉢－焼町土器	焼町
寄山-37	E	Ⅲ	6	20				131	251			485	1648									中粒	深鉢－焼町土器	焼町

第1表　胎土性状表　No. 2

試料 No.	タイプ分類	焼成ランク	組成分類 Mo	Ve	Hb	Mo-Qz	海綿	粘土鉱物および造岩鉱物 Mont	Mica	Hb	Ch/Ox	Ch/Ma	Ch/Mg	Qz	Pl	Cristo	Mulite	K-felsp	Halloy	Kaol	Au	Py	ガラス	備考	形式
岩山-38	G	III	7	20			165	100					1324	1630									中位	深鉢　鬼町土器	鬼町
岩山-39	P	III	14	20									402	395	209								中位	深鉢－加曽利E 1	加曽利E
岩山-40	C	III	5	20				83					636	376	209								中位	深鉢－加曽利E 2	加曽利E
岩山-41	C	III	5	20				143					773	918									中位	深鉢－加曽利E 2	加曽利E
岩山-42	C	III	5	20				85					694	812									中位	深鉢－加曽利E 2	加曽利E
岩山-43	P	III	14	20					185				482	435	166								中位	深鉢－加曽利E 2	加曽利E
岩山-44	G	III	7	20			208	94					1050	854	236								中位	深鉢－加曽利E 3	加曽利E
岩山-45	P	III	14	20									709	695									中位	深鉢－磨耗文系上器II	磨耗文系
岩山-46	N	III	12	14	199			107					853	724	213								中位	深鉢－磨耗文系上器II	磨耗文系
岩山-47	C	III	5	20				78					833	535									中位	深鉢－磨耗文系上器II	磨耗文系
岩山-48	C	III	5	20				153					482	426	253			79					中位	深鉢－曽利II	曽利
岩山-49	C	III	5	20				162					796	1143									中位	深鉢－曽利	曽利
岩山-50	P	III	14	20									1380	1394									中位	深鉢－加曽利E？	加曽利E
岩山-51	C	III	5	20				143					1069	586									中位	深鉢　鬼町土器	鬼町
岩山-52	F	III	7	9			131	89	174				1092	999	177								中位	深鉢－鬼町土器	鬼町
岩山-53	C	III	5	20				216					445	907									中位	深鉢－鬼町土器	鬼町
岩山-54	C	III	5	20				226					1045	1072	132								中位	深鉢　鬼町土器	鬼町
岩山-55	C	III	5	20				135					697	961	148								中位	深鉢－鬼町土器	鬼町
北-1	G		7	20	241	212	118						2627	225	124									深鉢胴文－阿玉台	阿玉台
北-2	G		7	20		81	68						2668	271	74									深鉢波状口縁－阿玉台	阿玉台
北-3	K		10	17	259	216							2305	203	158					113				深鉢橋内区画－阿玉台	阿玉台
北-4	I		8	20		468							2142	276	169			80						浅鉢　阿玉台	阿玉台
北-5	K		10	17	285	222							2484	186	152					91				深鉢橋円区画－阿玉台	阿玉台
北-6	G		7	20		151	111						2415	245	193		266							深鉢押型縄文－阿玉台	阿玉台
北-7	I		8	20		115							2435	288	145									深鉢橋円区画－勝坂	勝坂
北-8	F		7	9		134	96	246					1889	446			236	100						深鉢２本対峙隆線－勝坂	勝坂
北-9	I		8	20		411							2042	844	190					114				深鉢沈線引き－阿玉台	阿玉台
北-10	I		8	20		123							3094	1009	196					120	135			大深鉢波状－阿玉台：勝坂	阿玉台：勝坂
北-11	E		6	20		102	187						1479	478	99									深鉢キャリパー型　勝坂	勝坂
北-12	H		8	8		247		224					4254	286	148									浅鉢口縁部無文	その他1
北-13	B		5	11				106	272				2351	392	282									縄文＋沈線	加曽利
北-14	B		5	11				235	364				1126	253	135			80						隆帯１刻み	勝坂
北-15	I		8	20		196							3325	166	122									隆帯	阿玉台
北-16	B		5	11			123	263					2337	412										無条文	加曽利
北-17	D		6	10		146	170	228					2782	397	124		303							隆帯	その他1
北-18	D		6	10		138	171	266					2205	312										隆帯＋２本対の刺突列	その他1
北-19	P		14	20									2738	241										隆帯＋爪形文	勝坂

第1表　胎土性状表　No. 3

試料 No.	タイプ分類	焼成ランク	組成分類 Mo	Ve	Hb	Mo-Qz	K-fl	粘土鉱物および造岩鉱物 Mont	Mica	Hb	Ch/Ox	Ch/Mg	Qz	Pl	Cristo	Mulite	K-felsp	Halloy	Kaol	Au	Py	ガラス	備考	形式
北-20	D		5	11						124	228		2016	250			197						縄文＋沈線	加曽利
北-21	C		5	20						145			1794	276	334								隆帯＋斜刻列	阿玉台
北-22	H		8	8			525		240				2220	499									隆帯	阿玉台
北-23	P		14	20									2006	242	530		220						隆帯＋刺突＋縄文	勝坂
北-24	I		8	20			254						2229	553						195			無文底部	阿玉台
北-25	P		7	9			147	126	215				2397	411	177								無条文	その他1
北-26	I		8	20			226						2537	392	124								爪形文	勝坂
北-27	K		10	17		226	126						2271	220									縄文	その他
北-28	P		14	20					242				1783	252	478								縄文	その他
北-29	H		8	8			383		261	106			1495	393						172			羽状磨手	阿玉台
北-30	B		5	11				100	236				2144	494			235						縄文＋刻み	その他1
北-31	I		8	20			161						1479	286									爪形文	その他1
北-32	B		5	11				438	832				251	488				121					波状沈線	その他1
北-33	B		5	11				110	221				2549	407	141								隆帯－爪形文＋１本沈線	勝坂
北-34	C		5	20				127					3349	241	112								隆帯－幅広爪形文	勝坂
北-35	C		5	20				89					3131	406									隆帯＋三角押文＋爪形文	勝坂
北-36	H		8	8			142		309	178			1846	530									隆帯＋幅広爪形文	勝坂
北-37	D		6	10			145	260	254				1321	1133							鉄		隆帯＋幅広爪形文	勝坂
北-38	P		14	20									3326	274			171						隆帯＋三角押文－爪形文	勝坂
北-39	F		7	9			277	121	398	74			1491	1352	90								隆帯上に刻み＋2列沈線，爪形文	勝坂
北-40	F		7	9			396	138	226				2991	396									三角押文＋爪形文	勝坂
北-41	D		6	10			157	167	275				1830	314									隆帯＋幅広爪形文	勝坂
北-42	F		7	9			364	111	439	349			1362	803							93		隆帯上に爪形文	勝坂
北-43	F		7	9			129	130	432				1668	375				116					隆帯－幅広爪形文	勝坂
北-44	B		5	11				246	320				2980	764	152								小波状口縁，口唇文＋爪形文	勝坂中期Ⅰ式
北-45	I		8	20			518						3706	215	132								一列刺突文，口上磨手	阿玉台（Ⅰb）
北-46	H		8	8			331		240				2738	293						196	鉄		一列刺突文，口上磨手	阿玉台（Ⅰb）
北-47	M		11	20		271							1736	318									一列刺突文，口上磨手	阿玉台
北-48	H		6	6			395		297	208			2899	1216									隆帯＋太刺突，沈線１列	阿玉台
北-49	I		8	20			422						3443	196									隆帯＋複列刺突	阿玉台
北-50	G		7	20			348	102					2377	387									隆帯　二列刺突，平行沈線	阿玉台
北-51	G		7	20			663	100					1732	329	156		229						隆帯＋二列刺突	阿玉台
北-52	H		8	8			271		247				2100	132			840			132	鉄		隆帯＋二列刺突	阿玉台
北-53	I		8	20			456						1569	474	119						鉄		隆帯＋二列刺突	阿玉台
北-54	I		8	20			767						2269	722	120								胴部隆帯－二列刺突，三角押文	阿玉台
北-55	L		10	18		235	258		235				2709	436	168					206			太隆帯＋幅広爪形モチーフ	阿玉台
北-56	I		8	20			802						2612	129						111			太い隆帯	阿玉台

第1表　胎土性状表　No. 4

試料 No.	タイプ分類	焼成ランク	組成分析 Mo-Mi-Hb	Hb-Cb	Mi-Hb	Mont	粘土鉱物および共存鉱物 Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Cristo	Mull	K-feld	Halloy	Kaol	Au	Py	ガラス	備考	形式
北-57	I		8	20			438				1602	736						123			刻み陽剤	阿玉台
北-58	I		8	20			366				1706	720	123		217						口縁部三角形文痕・1列刺突	阿玉台
北-59	J		9	17	241		270				2325	138	118			76		170			胴部爪形文	阿玉台
北-60	I		8	20			507				1931	302	96		186						胴部爪形文	阿玉台
北-61	I		8	20			183				3141	279	107								胴部爪形文	阿玉台
北-62	I		8	20			576				3436	527	600								波状口縁	阿玉台
三原田-1	C		5	20				100			618	298				162					胴部全面文様	勝坂
三原田 2	M		11	20	219						637	601	186								二文様帯	勝坂
三原田-3	C		5	20				161			1103	488				127					二文様帯	勝坂
三原田-4	F		7	9		140	112	180			913	617	149								口縁文様だけの機形	勝坂3
三原田-5	F		7	9		112	100	212			1363	413	205			71					縄文だけのキャリパー形	その他2
三原田 6	G		7	20		125	101				968	299	383								縄文だけの外反する器形	その他2
三原田-7	P		14	20				197			687	377	213								胴部のない胴部破片子口	その他2
三原田-8	D		6	10		130	152	180			848	337	177								二文様帯	勝坂
三原田-9	B		5	11			320	374			731	661				88					ずんぐりした典型的	勝坂3
三原田-10	C		5	20			116				848	516	328								キャリパー形勝坂的	三原田
三原田 11	P		14	20							891	2912	125								キャリパー形勝坂的	三原田
三原田-12	G		7	20		178	104				727	323				100					大柳のような器形	三原田
三原田-13	G		7	20		129	106				2287	709									大木8a式的	三原田
三原田-14	P		14	20							763	678	125								底部文	三原田
三原田 15	B		6	20		177	436				408	1178									たった1点だけ	その他-井戸尻
三原田-16	P		14	20							736	3422									典型的三原田	三原田
三原田-17	P		14	20							570	626	201								典型的三原田	三原田
三原田 18	I		8	20		117					633	373				92					胴部に文様	三原田
三原田-19	P		14	20							718	412	202								典型的三原田	三原田
三原田-20	C		5	20			137				748	392									典型的三原田	三原田
三原田 21	F		7	9		110	102	153			852	639	934			134					胴部に二角区画文	三原田
三原田-22	N		12	14	231		102				711	605									典型的三原田	三原田
三原田-23	F		7	9		219	140	249			1144	637									三原田式に伴う縄文の残滓	三原田
三原田-24	C		5	20			111				511	494	215								加曽利E1式的三原田	三原田
三原田 25	B		5	11			109	270			370	532									頸部クランク文	三原田
三原田-26	N		12	14	238		107				698	437	222								頸部クランク文	三原田
三原田-27	C		5	20			112				775	924									典型的三原田	三原田
三原田 28	F		7	9		211	140	258			1251	866	114								三原田式に伴う縄文の残滓	三原田
三原田-29	C		5	20			115				516	139	247								大木8a式的	三原田
三原田 30	C		5	20			229				920	657				124					典型的三原田	三原田
三原田-31	H		8	8		161		345			2602	299	197								典型的大木8a	大木8a

第1表　胎土性状表　No. 5

試料 No.	タイプ分類	焼成ランク	組成分析 Mo-Mi-Hb	Hb-Cb	Mi-Hb	Mont	粘土鉱物および共存鉱物 Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Cristo	Mullite	K-feld	Halloy	Kaol	Au	Py	ガラス	備考	形式
三原田 32	G		7	20			178	96			2165	641	472								大木8a系統	大木8a
三原田-33	I		8	20			108				1649	760									南関東的加曽利E1	加曽利E1
三原田-34	G		7	20			126	199			561	1209									胴部東的加曽利E1	加曽利E1
三原田 35	G		7	20			208	159			2541	453			227						口縁部文様帯	馬高
三原田-36	C		5	20				162			1162	334	232								波状口縁	その他2
三原田 37	D		6	10			133	166	208		732	616									波状口縁	その他2
三原田-38	F		7	9			132	104	190		703	410	263			96					頸部に文様	三原田
三原田-39	C		5	20				85			942	561									頸部中間文様	勝坂
三原田 40	G		7	20			415	130			1977	3199									胴部全面文様	勝坂
三原田-41	I		8	20			377				3515	361	144		585						角押文	阿玉台Ib
三原田-42	I		8	20			248				2223	322				97					爪形文	阿玉台Ia
三原田-43	F		7	9			273	105	176		2566	143									下段結節による波状と縄文	阿玉台
三原田 44	F		7	9			331	141	254	171	1749	1801									沈線結節文	阿玉台
三原田-45	F		7	9			253	173	253	140	1431	1052									波状口縁沈線	阿玉台
房谷戸-1	I		8	20			992				3617	350						106				阿玉台
房谷戸 2	I		8	20			240				2364	691										阿玉台
房谷戸-3	D		6	10			134	165	201		2675	799										勝坂
房谷戸-4	P		14	20							494	763										勝坂
房谷戸-5	F		7	9			193	115	224	120	1401	1239										勝坂
房谷戸-6	I		8	20			133				1406	920	436									勝坂
房谷戸-7	F		7	9			378	135	332	216	1539	1772										阿玉台
房谷戸 8	I		8	20			467				1797	356										阿玉台
房谷戸-9	O		13	14	205			786		79	1644	538										阿玉台
房谷戸-10	I		8	20			256			96	2336	277										阿玉台
房谷戸-11	C		5	20				203			1909	1603										阿玉台
房谷戸 12	C		5	20				252			1345	587										勝坂
房谷戸-13	P		14	20							382	1098	196									勝坂
房谷戸-14	B		6	20			176	332			2752	626										勝坂
房谷戸-15	D		6	10			101	253	260		1371	722										勝坂
房谷戸 16	K		10	17	147	105					1639	329	234			76						勝坂
房谷戸-17	F		7	9		387	133	272	213		2700	1213										勝坂
房谷戸-18	P		14	20							849	1233										勝坂
房谷戸-19	G		7	20			179	101			3071	399				226						大木
房谷戸-20	G		7	20			114	84			4787	682				63						大木
房谷戸-21	P		7	9			306	117	239		1442	1509										新保新型
房谷戸 22	F		7	9			296	131	230		1533	1184										新保新型

第2表　タイプ分類一覧表　No. 1

試料No.	タイプ分類	形式
寄山-22	A	勝坂
寄山-17	B	勝坂
寄山-32	B	新巻類型
北-13	B	加曽利
北-14	B	勝坂
北-16	B	加曽利
北-20	B	加曽利
北-30	B	その他1
北-32	B	その他1
北-33	B	勝坂
北-44	B	勝坂（井戸尻Ⅰ？）
三原田-9	B	勝坂3
三原田-25	B	三原田
寄山-10	C	阿玉台
寄山-14	C	勝坂
寄山-15	C	勝坂
寄山-18	C	勝坂
寄山-27	C	斜行沈線文
寄山-28	C	斜行沈線文
寄山-40	C	加曽利E
寄山-41	C	加曽利E
寄山-42	C	加曽利E
寄山-47	C	唐草文系
寄山-48	C	曽利
寄山-49	C	曽利
寄山-51	C	焼町
寄山-53	C	焼町
寄山-54	C	焼町
寄山-55	C	焼町
北-21	C	阿玉台
北-34	C	勝坂
北-35	C	勝坂

試料No.	タイプ分類	形式
三原田-1	C	焼町
三原田-3	C	焼町
三原田-10	C	三原田
三原田-20	C	三原田
三原田-24	C	三原田
三原田-27	C	三原田
三原田-29	C	三原田
三原田-30	C	三原田
三原田-36	C	その他2
三原田-39	C	焼町
勝谷戸-11	C	阿玉台
勝谷戸-12	C	焼町
寄山-12	D	勝坂
寄山-16	D	勝坂
北-17	D	その他1
北-18	D	その他1
北-37	D	勝坂
北-41	D	勝坂
三原田-8	D	焼町
三原田-37	D	その他2
勝谷戸-3	D	勝坂
勝谷戸-15	D	勝坂
寄山-21	E	勝坂
寄山-23	E	勝坂
寄山-24	E	斜行沈線文
寄山-33	E	新巻類型
寄山-34	E	焼町
寄山-35	E	焼町
寄山-36	E	焼町
寄山-37	E	焼町
北-11	E	勝坂
三原田-15	E	その他－井戸尻Ⅲ

試料No.	タイプ分類	形式
勝谷戸-14	E	勝坂
寄山-26	F	斜行沈線文
寄山-30	F	新巻類型
寄山-52	F	焼町
北-8	F	勝坂
北-25	F	その他1
北-39	F	勝坂
北-40	F	勝坂
北-42	F	勝坂
北-43	F	勝坂
三原田-4	F	勝坂3
三原田-5	F	その他2
三原田-21	F	三原田
三原田-23	F	三原田
三原田-28	F	三原田
三原田-38	F	三原田
三原田-43	F	阿玉台
三原田-44	F	阿玉台
三原田-45	F	阿玉台
勝谷戸-5	F	勝坂
勝谷戸-7	F	阿玉台
勝谷戸-17	F	勝坂
勝谷戸-21	F	新巻類型
勝谷戸-22	F	新巻類型
寄山-1	G	阿玉台
寄山-9	G	阿玉台
寄山-11	G	阿玉台
寄山-19	G	勝坂
寄山-25	G	斜行沈線文
寄山-31	G	新巻類型
寄山-38	G	焼町
寄山-44	G	加曽利E

第2表　タイプ分類一覧表　No. 2

試料No.	タイプ分類	形式
北－1	G	阿玉台
北－2	G	阿玉台
北－6	G	阿玉台
北－50	G	阿玉台
北－51	G	阿玉台
三原田－6	G	その他2
三原田－12	G	三原田
三原田－13	G	三原田
三原田－32	G	大木8a
三原田－34	G	加曽利E1
三原田－35	G	馬高
三原田－40	G	焼町
勝谷戸－19	G	大木
勝谷戸－20	G	大木
北－12	H	その他1
北－22	H	阿玉台
北－29	H	阿玉台
北－36	H	勝坂
北－46	H	阿玉台（Ⅰb）
北－48	H	阿玉台
北－52	H	阿玉台
三原田－31	H	大木8a
寄山－2	I	阿玉台
寄山－3	I	阿玉台
寄山－4	I	阿玉台
寄山－5	I	阿玉台
寄山－6	I	阿玉台
寄山－7	I	阿玉台
寄山－8	I	阿玉台
寄山－20	I	勝坂
北－4	I	阿玉台
北－7	I	勝坂

試料No.	タイプ分類	形式
北－9	I	阿玉台
北－10	I	阿玉台：勝坂
北－15	I	阿玉台
北－24	I	阿玉台
北－26	I	勝坂
北－31	I	その他1
北－45	I	阿玉台（Ⅰb）
北－49	I	阿玉台
北－53	I	阿玉台
北－54	I	阿玉台
北－56	I	阿玉台
北－57	I	阿玉台
北－58	I	阿玉台
北－60	I	阿玉台
北－61	I	阿玉台
北－62	I	阿玉台
三原田－18	I	三原田
三原田－33	I	加曽利E1
三原田－41	I	阿玉台Ⅰb
三原田－42	I	阿玉台Ⅱ
勝谷戸－1	I	阿玉台
勝谷戸－2	I	阿玉台
勝谷戸－6	I	焼町
勝谷戸－8	I	阿玉台
勝谷戸－10	I	阿玉台
北－59	J	阿玉台
北－3	K	阿玉台
北－5	K	阿玉台
北－27	K	その他
勝谷戸－16	K	勝坂
北－55	L	阿玉台
北－47	M	阿玉台

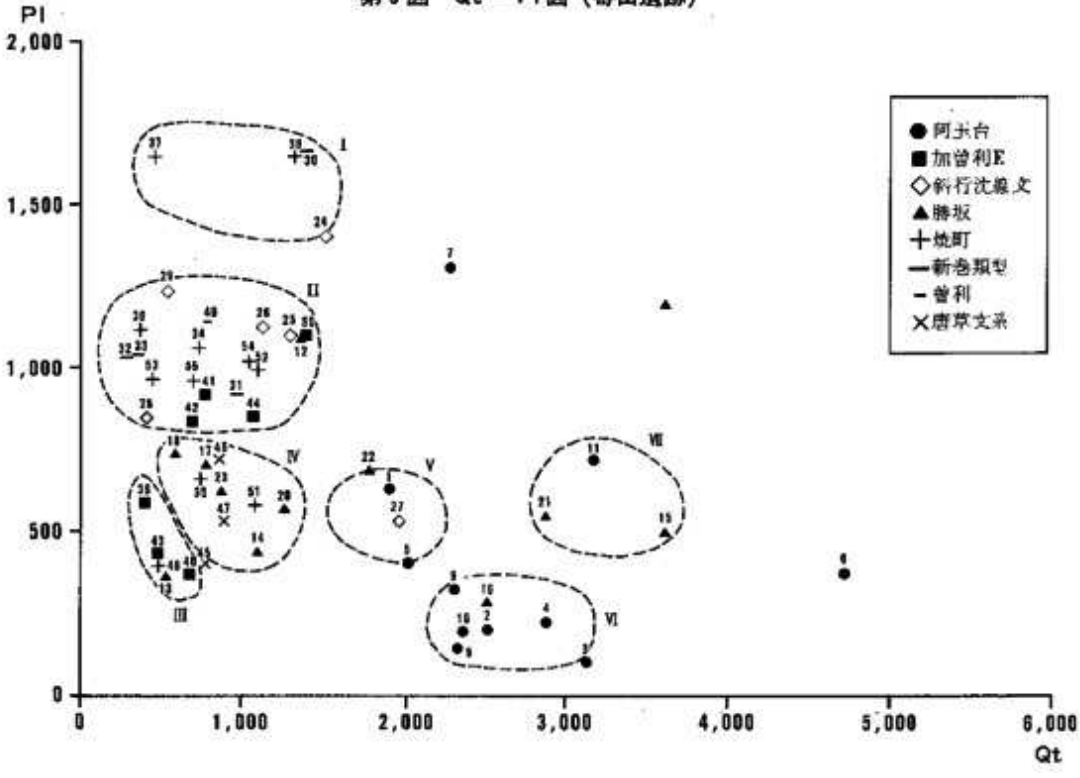
試料No.	タイプ分類	形式
三原田－2	M	焼町
寄山－46	N	唐草文系
三原田－22	N	三原田
三原田－26	N	三原田
勝谷戸－9	O	阿玉台
寄山－13	P	勝坂
寄山－29	P	斜行沈線文
寄山－39	P	加曽利E
寄山－43	P	加曽利E
寄山－45	P	唐草文系
寄山－50	P	加曽利E
北－19	P	勝坂
北－23	P	勝坂
北－28	P	その他
北－38	P	勝坂
三原田－7	P	その他2
三原田－11	P	三原田
三原田－14	P	三原田
三原田－16	P	三原田
三原田－17	P	三原田
三原田－19	P	三原田
勝谷戸－4	P	勝坂
勝谷戸－13	P	焼町
勝谷戸－18	P	勝坂

第3表　タイプ分類一覧表

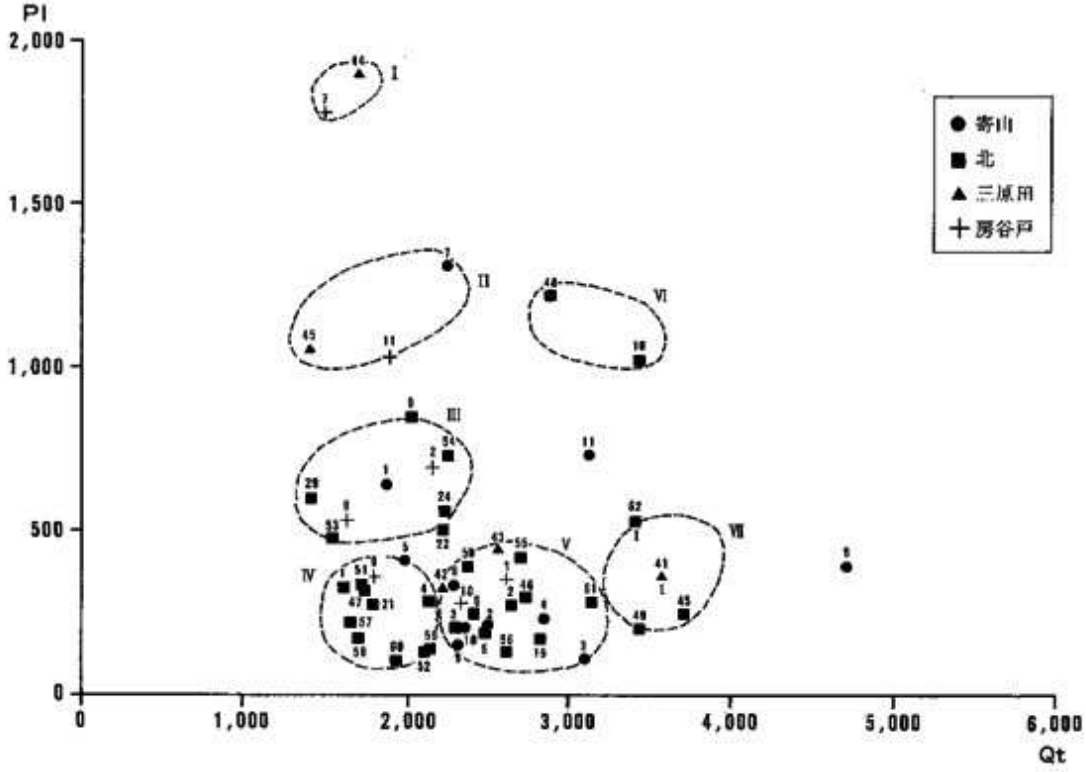
試料No.	タイプ分類	形式
寄山-22	A	勝坂
寄山-17	B	勝坂
寄山-32	B	新巻類型
寄山-10	C	阿玉台
寄山-14	C	勝坂
寄山-15	C	勝坂
寄山-18	C	勝坂
寄山-27	C	斜行沈線文
寄山-28	C	斜行沈線文
寄山-40	C	加曽利E
寄山-41	C	加曽利E
寄山-42	C	加曽利E
寄山-47	C	唐草文系
寄山-48	C	曽利
寄山-49	C	曽利
寄山-51	C	焼町
寄山-53	C	焼町
寄山-54	C	焼町
寄山-55	C	焼町
寄山-12	D	勝坂
寄山-16	D	勝坂
寄山-21	E	勝坂
寄山-23	E	勝坂
寄山-24	E	斜行沈線文
寄山-33	E	新巻類型
寄山-34	E	焼町
寄山-35	E	焼町
寄山-36	E	焼町
寄山-37	E	焼町
寄山-26	F	斜行沈線文
寄山-30	F	新巻類型
寄山-52	F	焼町
寄山-1	G	阿玉台
寄山-9	G	阿玉台
寄山-11	G	阿玉台
寄山-19	G	勝坂
寄山-25	G	斜行沈線文

試料No.	タイプ分類	形式
寄山-31	G	新巻類型
寄山-38	G	焼町
寄山-44	G	加曽利E
寄山-20	I	勝坂
寄山-2	I	阿玉台
寄山-3	I	阿玉台
寄山-4	I	阿玉台
寄山-5	I	阿玉台
寄山-6	I	阿玉台
寄山-7	I	阿玉台
寄山-8	J	阿玉台
寄山-46	N	唐草文系
寄山-13	P	勝坂
寄山-29	P	斜行沈線文
寄山-39	P	加曽利E
寄山-43	P	加曽利E
寄山-45	P	唐草文系
寄山-50	P	加曽利E

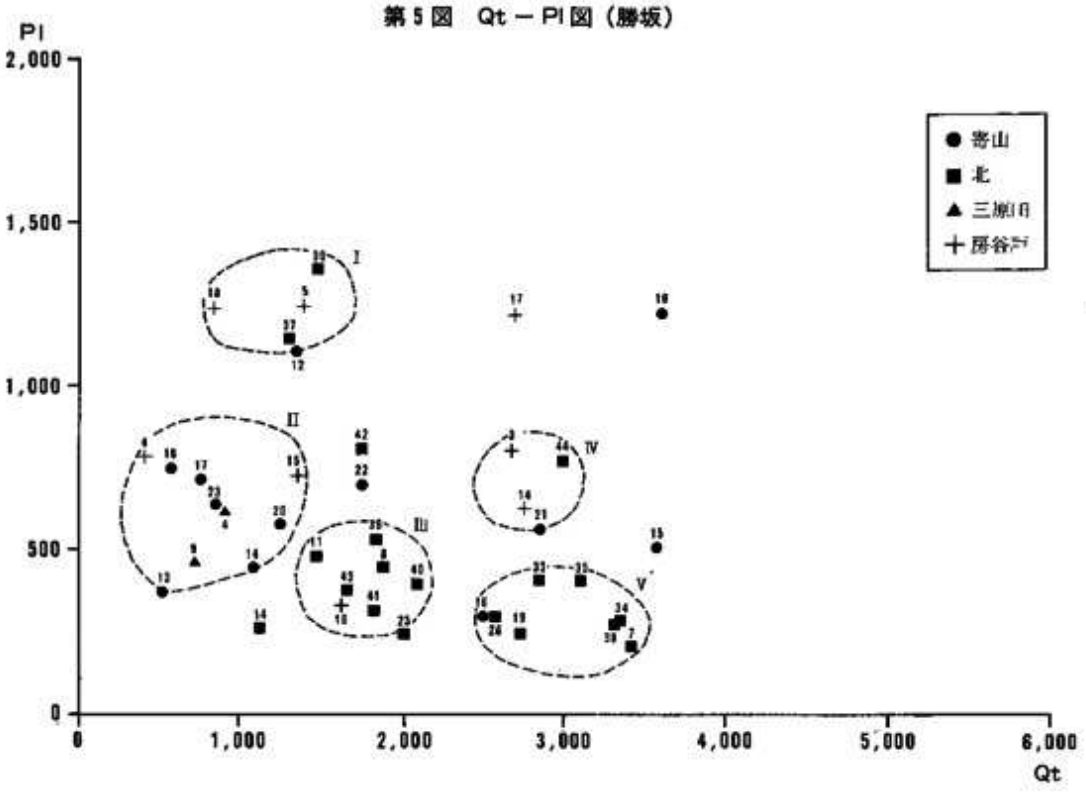
第3図　Qt－Pl図（寄山遺跡）



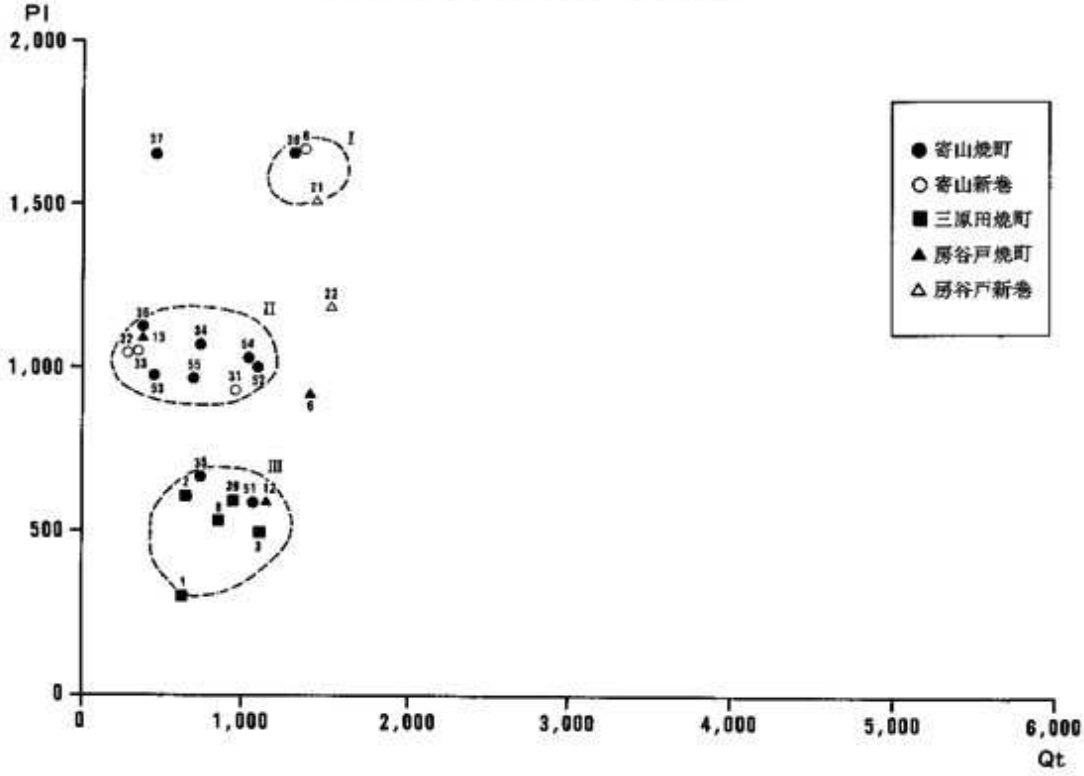
第4図　Qt－PI図（阿玉台）



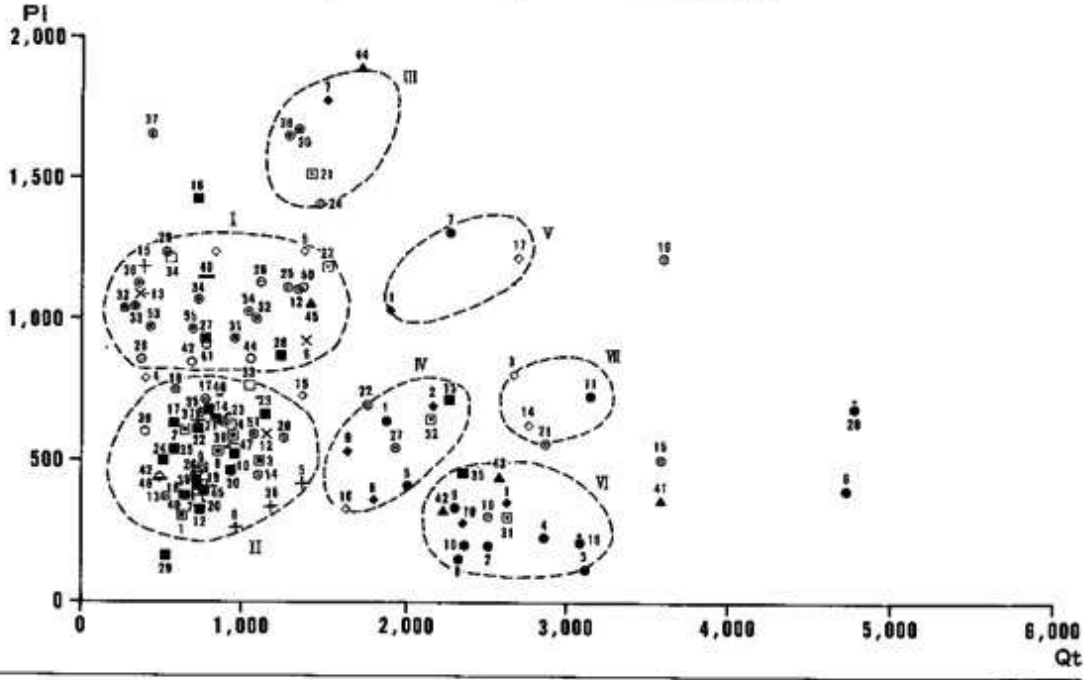
第5図　Qt－PI図（勝坂）



第6図　Qt－Pl図（焼町－新巻類型）

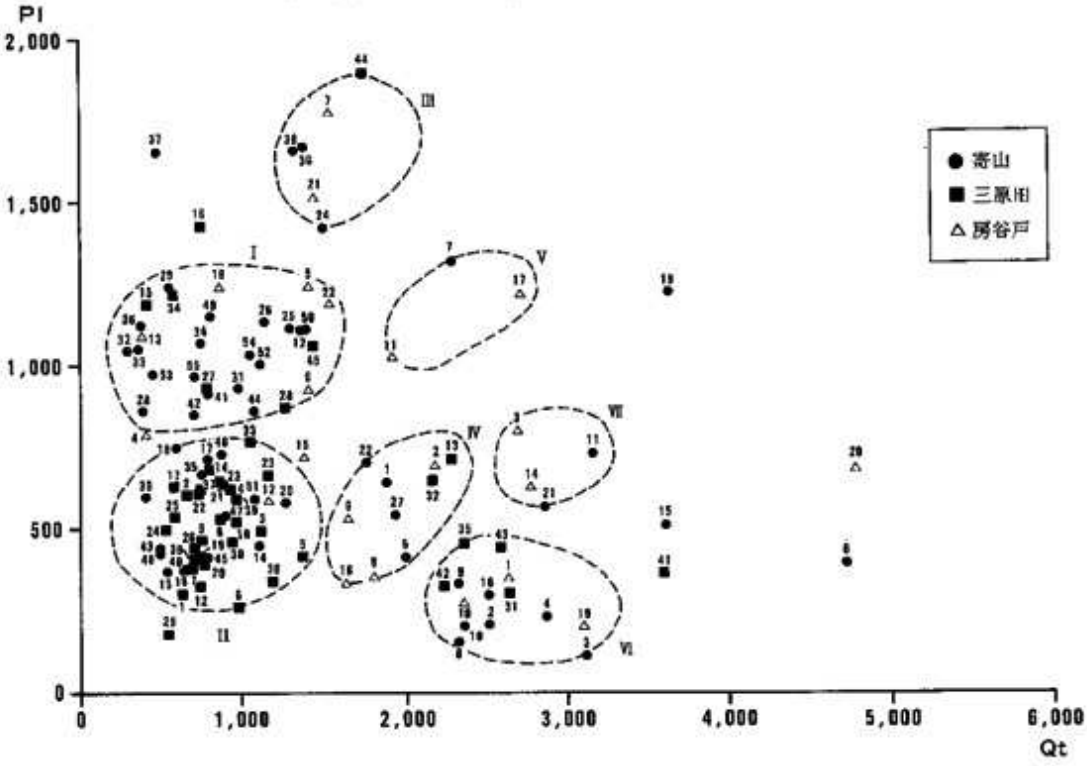


第7図　Qt－Pl図（寄山、三原田、房谷戸）



●Y阿玉台 ○Y加曽利E ⊙Y斜行沈線文 ◎Y勝坂 ⊙Y焼町 ●Y新巻類型 ―Y曽利 -Y鹿草文系 ＋Mその他2 ▲M阿玉台
□M加曽利E 1 ■M三原田 ⊡M勝坂 ⊡M焼町 ⊡Mその他1 ◆B阿玉台 ◇B勝坂 ×B焼町 ⊡B新巻類型 ●B大木

第8図　Qt－PI図（寄山、三原田、房谷戸）



勝負沢遺跡　住居構築材の木材利用

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

佐久盆地では、これまでに多くの遺跡で縄文時代から平安時代までの住居構築材の利用状況に関する検討が行われてきた（パリノ・サーヴェイ株式会社，1988、1989a、1989b、1989c、1991、1992、1993、1994a、1994b）。その結果、時代や立地環境などによって少しづつ樹種構成が異なる傾向が見られることが指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1994）。

本報告では、勝負沢遺跡において検出された平安時代の焼失住居（SYS 3　H 4）の住居構築材について樹種同定を行い、木材利用について検討する。

1．試料

試料は、平安時代の焼失住居（SYS 3　H 4）から検出された、住居構築材と考えられる炭化材31点（№1～30，南半）である。

2．方法

炭化材は、試料を乾燥させ、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作成し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）を用いて、木材組織の特徴を観察して種類を同定する。

3．結果

炭化材は、全てコナラ属コナラ亜属クヌギ節であった。クヌギ節の解剖学的特徴などを以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

4．考察

構築材は、全てクヌギ節であった。佐久盆地では、平安時代の住居構築材として、御代田町広畑遺跡および根岸遺跡の調査例が知られている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1989a、1989b）。根岸遺跡で今回と同様にクヌギ節が多い結果が得られているが、広畑遺跡ではコナラ節が多い結

果が得られている。また、両遺跡とも構成樹種は１種類ではなく複数である。

住居構築材について多くの調査例がある関東地方では、同時期であっても遺跡周辺の植生などによって住居構築材の樹種は異なっていることが指摘されている（高橋・植木、1994）。根岸遺跡と広畑遺跡の間に見られた樹種の違いも、両遺跡周辺の植生が多少異なっていたことを示唆する。今回の結果はこれまで得られてきた結果と調和的であり、遺跡周辺にクヌギ節を中心とした植生が見られた可能性がある。なお、これらの炭化材は、燃焼とその後の埋積過程を経て残存したものであり、実際にはその過程で消失した部材も多い。そのため、今回の結果から、直ちにSH４号住居址構築材全てがクヌギ節１種類であったとは断定できない。これまでの結果から、構築材として複数種類用いられたことが予想される。すなわち、取り上げられなかった炭化材や消失した部材中にクヌギ節以外の樹種も存在した可能性は充分にある。

５．今後の課題

本地域では、最近になって縄文時代の資料が蓄積されてきており（パリノ・サーヴェイ株式会社、1993、1994b）、時代毎の木材利用の実態が明らかになりつつある。今後は、時代別の遺跡分布やその立地環境なども考慮しながら、さらに資料を蓄積していくことが必要である。

<引用文献>

パリノ・サーヴェイ株式会社（1988a）鋳物師屋遺跡出土炭化材同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集「鋳師屋遺跡群　鋳物師屋　―長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書―」、p.116－117、小諸市教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1988b）十二遺跡出土炭化材の樹種同定。「鋳師屋遺跡群　十二遺跡　長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書―」、p.393－399、御代田町教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1989a）広畑遺跡出土炭化材の樹種同定。「広畑遺跡　―長野県北佐久郡御代田町広畑遺跡発掘調査報告書―」、p.35－40、御代田町教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1989b）根岸遺跡出土炭化材の樹種同定。「長野県北佐久郡御代田町大字御代田所在　鋳師屋遺跡群　根岸遺跡　発掘調査報告書」、p.291－293、御代田町教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1989c）和田原遺跡出土炭化材同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集「和田原遺跡群　和田原・中原遺跡群　鎌田原　―長野県小諸市和田原・鎌田原遺跡発掘調査報告書―」、p.83－88、小諸市教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1991）関口Ａ・Ｂ遺跡出土材の樹種同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集「関口Ａ・関口Ｂ（第二次）・柏原遺跡群下柏原　―長野県小諸市関口Ａ・関口Ｂ・下柏原遺跡発掘調査報告書―」、p.245－254、小諸市教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）下芝宮遺跡・下聖端遺跡炭化材同定報告。佐久市埋蔵文

化財調査報告書第９集「国道141号線関係遺跡　長野県佐久市長土呂国道141号線関係遺跡発掘調査報告書（本文編）」、p.355－391、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター。

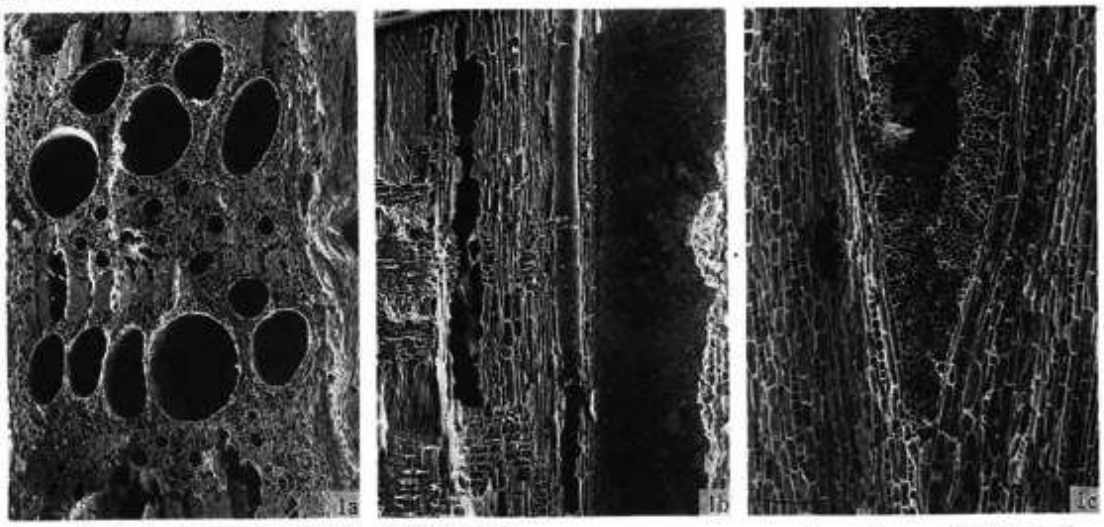
パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）郷土遺跡出土炭化材の同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集「郷土　―長野県小諸市郷土遺跡発掘調査報告書―」、p.52－57、小諸市教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1994a）Ⅱ－４号住居址から出土した炭化構築材の樹種。「塩野西遺跡群　塚田遺跡　―長野県北佐久郡御代田町塚田遺跡発掘調査報告書―」、p.344－353、長野県御代田町教育委員会。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1994ｂ）炭化材の樹種同定および放射性炭素年代測定報告。「下弥堂　―縄文前期初頭の集落遺跡調査―」、p.146－150、長野県御代田町教育委員会。

高橋　敦・槙木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択。PALYNO、２、p.５－18。

図版１　炭化材



１．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（試料番号15）
ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ、ｃ

寄山遺跡　約1.3万年前の埋没林と縄文時代中期の植物化石

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

浅間山は、約1.4万年前の活動期(軽石流期)に大規模な軽石噴火と軽石を多く含んだ火砕流(軽石流）を発生した。軽石流は２回発生しており、古い方より第１軽石流（約1.3～1.4万年前：嘉樫、1983)、第２軽石流（約1.1～1.2万年前：小林、1964）と呼ばれている（荒巻、1968)。第１軽石流堆積物は佐久地方に特に厚く分布しており、今回の調査地である寄山遺跡はこの軽石流堆積物の分布末端部に位置する。

寄山遺跡では、発掘調査により、縄文時代中期、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世に至る遺構・遺物が検出されている。このうち縄文時代中期の住居床面には、炭化材の濃集部が多数認められており、当初は柱穴が炭化していると考えられていた。ところが、その後のトレンチ調査により第１軽石流堆積物に覆われた埋没樹の先端部に相当することが明らかにされている。

ところで、この埋没林は第１軽石流が流下した約1.3～1.4万年前以前に成立していたことになり、本地域における先土器時代の古植生を捉える上で重要である。また、本時期の埋没林は全国的にみても例が少なく、最終氷期末期の古植生および環境変遷史を検討する上でも重要である。そこで、今回の調査では、埋没樹の樹種同定と、埋没樹の生育していた旧地表と推定される堆積物について花粉・種実分析を行い、当時の森林の復元を行う。また、縄文時代の住居床面より出土した炭化材および種実破片についても種類の検討を行い、当時の植物利用に関する情報を得る。

１．試料

埋没樹は縄文時代中期の住居床面およびその下位の第１軽石流中で確認されている。トレンチ幅が狭く、崩落の危険があったためトレンチ内での充分な調査はできず、トレンチ外からの観察と掘削機による試料採取が行われたのみである。

トレンチ調査が行われた地点における第１軽石流堆積物の層厚は最大約７ｍであり、その下位には埋没樹の生育していた旧地表面と考えられている暗褐色シルト層が堆積している。埋没樹は、軽石流に覆われた部分は炭化し、その下位は炭化せず生木の状態である。

試料は、樹種同定試料として、掘削時に採取された埋没樹の炭化部分１点と生木部分24点、縄文時代中期の住居床面などで確認された埋没樹の可能性が強い炭化材14点が採取された。また、花粉・種実分析試料として、軽石流直下の暗褐色シルト層より土壌試料が1点採取された。このほか、縄文時代中期の住居床面付近より出土した種実破片１点が採取されている。

2．方法

(1) 材同定

炭化材は試料を乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作成し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定する。生木状態の材は、剃刀を用いて木口・柾目・板目の3断面の切片を作成し、ガムクロラール（抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20mℓ、蒸留水50mℓの混合物）で封入しプレパラートを作成し、光学顕微鏡下で観察・同定する。

(2) 花粉分析

湿重約5gの試料について、水酸化カリウム（10% KOH）処理、重液分離（$ZnBr_2$：比重2.2）、フッ化水素（HF）処理、アセトリシス処理（濃硫酸1・無水酢酸9の混液）の順に物理・化学処理を施して、花粉・胞子化石を分離・濃集する。得られた残渣をグリセリンで封入し、プレパラート作成後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類の同定・計数を行う。

(3) 種実分析

約500gの試料について、0.5mmの篩を用いて水洗篩別し、篩上の種実を拾い出した後、肉眼および実体顕微鏡を用いて、その形態的特徴を観察し種類の同定を行う。また、出土種実についても同様な観察を行う。

3．結果

(1) 材化石

結果を表1に示す。縄文時代中期の住居出土の炭化材はケンポナシ属と種類不明の散孔材、埋没樹はトウヒ属に同定された。以下に同定された種類の解剖学的特徴を記す。

・トウヒ属（*Picea* sp.）　　マツ科

早材部から晩材部への移行は緩やかである。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射柔組織はじゅず状末端壁を有し、分野壁孔はトウヒ型で3～6個。放射仮道管の有縁壁孔はトウヒ型である。放射組織は単列、1～20細胞高のものと水平樹脂道を含む紡錘

表1　樹種同定結果

検出位置・遺構など	試料名	試料の質	樹種名
4B区H54	No.1	炭化材	広葉樹（散孔材）
4B区H79	P1	炭化材	トウヒ属
	P16	炭化材	トウヒ属
	炭サンプル	炭化材	ケンポナシ属
4B区H92	炭	炭化材	トウヒ属
	P5中のP1炭	炭化材	トウヒ属
4B区H97	P17	炭化材	トウヒ属
	P19	炭化材	トウヒ属
4B区H102	P5内	炭化材	トウヒ属
4B区D103	ピット	炭化材	トウヒ属
4B区D154	ピット中の炭a	炭化材	トウヒ属
	ピット中の炭b	炭化材	トウヒ属
	ピット中の炭c	炭化材	トウヒ属
4B区H191		炭化材	トウヒ属
軽石流中の埋没樹	A	生木	トウヒ属
	B	生木	トウヒ属
	C	生木	トウヒ属
	D	炭化材	トウヒ属
	E	生木	トウヒ属
	F	生木	トウヒ属
	G	生木	トウヒ属
	H	生木	トウヒ属
	I	生木	トウヒ属
	J	生木	トウヒ属
	K	生木	トウヒ属
	L	生木	トウヒ属
	M	生木	トウヒ属
	N	生木	トウヒ属
	O	生木	トウヒ属
	P	生木	トウヒ属
	Q	生木	トウヒ属
	R	生木	トウヒ属
	S	生木	トウヒ属
	T	生木	トウヒ属
	U	生木	トウヒ属
	V	生木	トウヒ属
	W	生木	トウヒ属
	X	生木	トウヒ属
	Y	生木	トウヒ属

型のものがある。以上の特徴よりヒメバラミ以外のトウヒ属と同定する。

・ケンポナシ属（*Hovenia* sp.）　　クロウメモドキ科

環孔材では孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性III～II型、1～5細胞幅、1～50細胞高。

(2) 花粉化石

結果を表2に示す。暗褐色シルト層からは花粉化石はほとんど検出されない。わずかに検出される花粉化石の保存状態は悪く、その外膜は溶けたり壊れたりしている。同定された種類は、木本花粉ではツガ属・トウヒ属・マツ属・カバノキ属、草本花粉ではヨモギ属であり、このほか種類が特定できないシダ類胞子が認められる。

表2　花粉分析結果

和名	学名	個数
木本花粉		
ツガ属	*Tsuga*	5
トウヒ属	*Picea*	8
マツ属	*Pinus*	3
カバノキ属	*Betula*	2
草本花粉		
ヨモギ属	*Artemisia*	1
不明花粉	unknown	3
シダ類胞子		
シダ類胞子	Pteridophyta	46
合計		
木本花粉	Arboreal pollen	18
草本花粉	Nonarboreal pollen	1
不明花粉	unknown	3
シダ類胞子	Spores	46
総花粉・胞子	Total Pollen·Spores	68

(3) 種実化石

縄文時代中期の住居出土の種実破片は保存状態が悪く種類同定は困難であった。また、軽石流堆積物直下の暗褐色シルト層からは、種実化石がほとんど検出されなかった。検出された種類は、草本植物のカヤツリグサ科の種子3個、キイチゴ属の核2個の2種類であり、このほか菌核と考えられるものが多数認められる。同定された種類の形態学的特徴を以下に記す。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae sp.）　種子

側面観は倒卵形、上面観は三角形。長さ2.0mm程度、幅1.0mm程度。表面には細かな網目模様が存在する。

・キイチゴ属（*Rubus*）　バラ科　核

側面観は腎形、上面観は楕円形。長さ2.4mm程度、幅1.4mm程度。表面には深い網目模様がある。

4．考察

約1.3万年前の埋没樹の樹種は全てヒメバラモミ以外のトウヒ属に同定された。トウヒ属の樹木は、現在では亜高山帯から冷温帯にかけて分布しており、北海道にエゾマツ（*Picea jezoensis*）とアカエゾマツ（*P. glehnii*）が、本州中部ではエゾマツの変種であるトウヒ（var. *hondoensis*）、ヒメマツハダ（*P. schirasawae*）、イラモミ（*P. bicolor*）、ハリモミ（*P. polita*）などがある。同定されたトウヒ属が単一種からなるか複数種からなるかは現段階で判断できないが、当時の調査地点には樹高7m以上のトウヒ属からなる林分が存在したことになる。また、花粉・種実化石の結果から、トウヒ属以外のマツ属・ツガ属といった針葉樹、落葉広葉樹のカバノキ属、草本植物のカヤツリグサ科などの植物も当時の周辺植生を構成する要素であった可能性がある。また、現在の本地域が冷温帯下部の気候下に属していることから、当時の気候が現在と比較して冷涼かつ乾燥

していたことが示唆される。

本地域では、今回と同時期の植物相および植生に関する情報はほとんど得られていないが、周辺地域では関東平野北部の前橋台地（辻ほか、1985）において、第1軽石流とほぼ同時期に浅間山から噴出した浅間－板鼻黄色軽石（As－YP）に覆われた木本質泥炭層の植物化石群が得られている。その植物化石群は、トウヒ属バラモミ節、カラマツ属、マツ属単維管束亜属の針葉樹を主とし、カバノキ・ハンノキ属を伴う比較的単調なものであり、今回の調査結果とも調和的である。ただし、地理的条件の異なる両地域の植物群を単純に比較することは問題があり今後の課題とされる。

縄文時代中期の住居床面などで確認された埋没樹の可能性がある炭化材は、4B区H54№1と4B区H79炭サンプル以外はトウヒ属に同定された。樹種からみても，これらの炭化材が埋没樹に相当する可能性が強い。また、4B区H54№1と4B区H79炭サンプルは、それぞれ散孔材とケンポナシ属に同定された。ケンポナシ属の樹木は、現在では暖帯に分布の中心があり、ケンポナシ（*Hoveniadulcis*）とケケンポナシ（*H. tomentella*）の2種がある。これら広葉樹の種類が埋没樹に由来するかどうかは現段階では判断がつかない。今回は調査過程で十分な検討ができなかったが、埋没林の植物相を検討する上で重要な課題である。

5．おわりに

本地域では最終氷期末期の約1.3万年前には、トウヒ属を主体とした針葉樹林が成立していたことが推定される。調査範囲が狭いこともあって埋没林の全容が明らかとなったわけではないが、その一端が明らかとなったことは埋没林の検出例がほとんどない本時期の古植生を検討する上で貴重な成果といえる。また、本地域には先土器時代の遺跡の分布も確認されており、今回の埋没林の調査は佐久盆地における当時の人間の活動を捉える上で示唆に富むものと思われる。今後は、本地域の古地理の変遷に関する検討、および広い範囲にわたる総合的な植物化石群の検討を行い、当時の植物相および植生について検討することが期待される。

<引用文献>

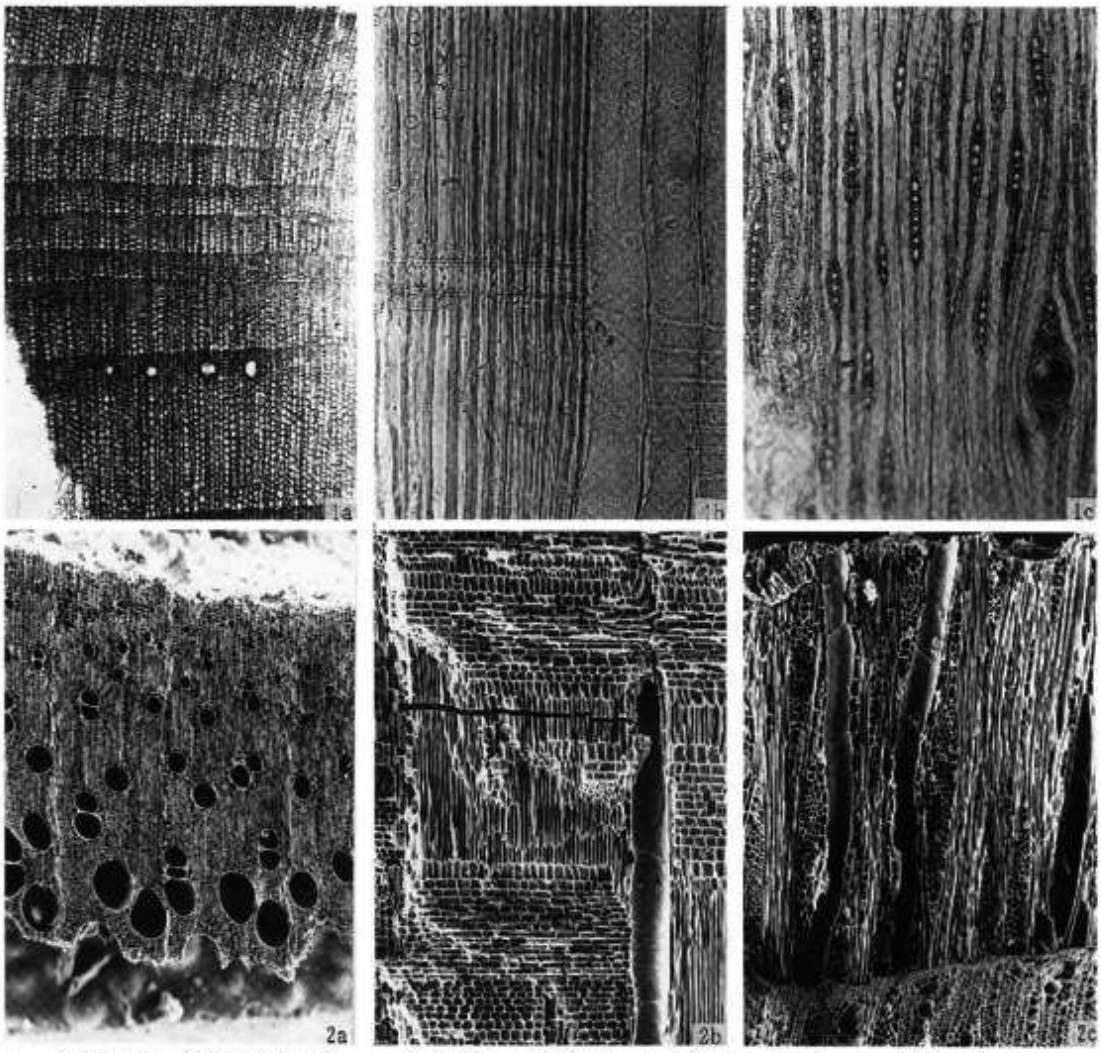
辻　誠一郎・吉川昌伸・吉川純子・能城修一（1985）前橋台地における更新世末期から完新世初期の植物化石群集と植生。第四紀研究、23、p.263－269。

荒巻重雄（1968）浅間火山の地質。地団研専報、14、p.45。

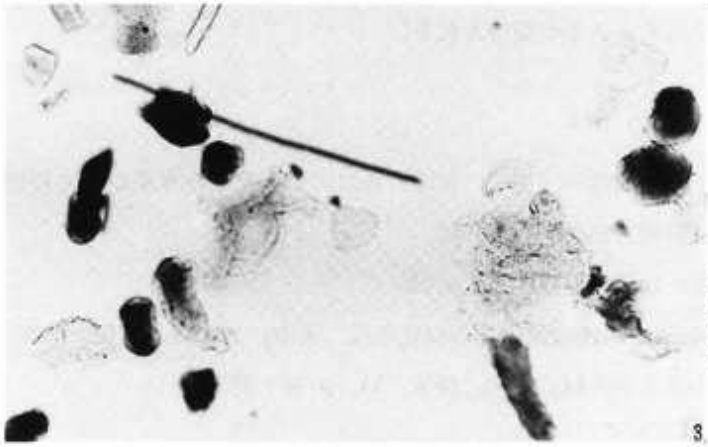
富樫茂子（1983）浅間火山第1軽石流堆積物の炭化木の14C年代。火山、2、28、p.163－165。

小林国男（1964）縄文文化と無土器文化の14C年代。科学、34、p.96－97。

図版１　植物化石



1．トウヒ属（試料番号F）材　　a：木口、b：柾目、c：板目　　200μm：a
2．ケンポナシ属（４Ｂ区H54No.1）炭化材　　200μm：b，c



200μm：3
2mm：4
2mm：5

3．花粉プレパラートの状況（暗褐色シルト）
4．カヤツリグサ科（暗褐色シルト）種子
5．キイチゴ属（暗褐色シルト）核

執筆者

寄山古墳の調査 ……宇賀神誠司

付編

中条峯、寄山、勝負沢遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の石材産地分析 …藁科哲男、東村武信

中条峯遺跡・寄山遺跡群出土土器の胎土分析 ……㈱第四紀地質研究所　井上　巌

勝負沢遺跡住居構築材の木材利用 ……パリノ・サーヴェイ株式会社

寄山遺跡約1.3万年前の埋没林と縄文時代中期の植物化石 ……パリノ・サーヴェイ株式会社

上記以外 ……小林眞寿

ありがとう

五十嵐勝吉
飯沢つや子
小幡　弘子
倉見　渡
小林　妙子
小林よしみ
斉藤　義男
堺　　益子
篠崎　清一
清水　六郎
関口　正
樋田　咲枝
成沢　冨子
橋詰　信子
堀籠　滋子
堀籠みさと
三石　和子
森泉　欽一
柳沢ちなみ
山崎　直
和久井義雄

感謝しています